2021年度
理工・生命科学部教養科目
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2021/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

英語科目【H3001】コミュニケーション・ストラテジー［余田　亜希］春学期授業/Spring 1
英語科目【H3002】コミュニケーション・ストラテジー［太田　美智子］春学期授業/Spring 2
英語科目【H3003】コミュニケーション・ストラテジー［大石　文雄］春学期授業/Spring 3
英語科目【H3005】コミュニケーション・ストラテジー［川島　るり子］春学期授業/Spring 5
英語科目【H3006】コミュニケーション・ストラテジー［NEIL CONWAY］春学期授業/Spring 6
英語科目【H3007】コミュニケーション・ストラテジー［北原　久嗣］秋学期授業/Fall 7
英語科目【H3010】コミュニケーション・ストラテジー［余田　亜希］秋学期授業/Fall 8
英語科目【H3011】コミュニケーション・ストラテジー［磯部　芳恵］春学期授業/Spring 9
英語科目【H3012】コミュニケーション・ストラテジー［磯部　芳恵］秋学期授業/Fall 10
英語科目【H3014】コミュニケーション・ストラテジー［ALDER　mark］春学期授業/Spring 11
英語科目【H3016】コミュニケーション・ストラテジー［ALDER　mark］秋学期授業/Fall 12
英語科目【H3017】コミュニケーション・ストラテジー［大石　文雄］秋学期授業/Fall 13
英語科目【H3018】コミュニケーション・ストラテジー［太田　美智子］秋学期授業/Fall 14
英語科目【H3020】コミュニケーション・ストラテジー［NEIL CONWAY］秋学期授業/Fall 15
英語科目【H3022】コミュニケーション・ストラテジー［久慈　美貴］春学期授業/Spring 16
英語科目【H3023】コミュニケーション・ストラテジー［KOPROWSKI MARK］春学期授業/Spring 17
英語科目【H3024】コミュニケーション・ストラテジー［花﨑　一夫］春学期授業/Spring 19
英語科目【H3026】コミュニケーション・ストラテジー［早舩　由紀見］春学期授業/Spring 20
英語科目【H3027】コミュニケーション・ストラテジー［小畑　美貴］春学期授業/Spring 21
英語科目【H3028】コミュニケーション・ストラテジー［小林　直樹］春学期授業/Spring 23
英語科目【H3029】コミュニケーション・ストラテジー［吉川　直澄］春学期授業/Spring 24
英語科目【H3030】コミュニケーション・ストラテジー［早舩　由紀見］秋学期授業/Fall 25
英語科目【H3031】コミュニケーション・ストラテジー［小畑　美貴］秋学期授業/Fall 26
英語科目【H3032】コミュニケーション・ストラテジー［小林　直樹］秋学期授業/Fall 27
英語科目【H3033】コミュニケーション・ストラテジー［吉川　直澄］秋学期授業/Fall 28
英語科目【H3035】コミュニケーション・ストラテジー［KOPROWSKI MARK］秋学期授業/Fall 29
英語科目【H3036】コミュニケーション・ストラテジー［鈴木　幸］秋学期授業/Fall 31
英語科目【H3037】コミュニケーション・ストラテジー［花﨑　一夫］秋学期授業/Fall 32
英語科目【H3039】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［久慈　美貴］春学期授業/Spring 33
英語科目【H3040】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［柏原　俊樹］春学期授業/Spring 34
英語科目【H3042】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［神　康介］春学期授業/Spring 35
英語科目【H3043】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［バリー　ヘイタ］春学期授業/Spring 36
英語科目【H3045】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［バリー　ヘイタ］春学期授業/Spring 37
英語科目【H3046】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［花﨑　一夫］春学期授業/Spring 38
英語科目【H3047】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［柏原　俊樹］春学期授業/Spring 39
英語科目【H3048】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［梨本　邦直］春学期授業/Spring 40
英語科目【H3050】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［小畑　美貴］春学期授業/Spring 41
英語科目【H3051】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［島田　顕］春学期授業/Spring 42
英語科目【H3052】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［小林　直樹］春学期授業/Spring 44
英語科目【H3053】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［中野　里美］春学期授業/Spring 45
英語科目【H3054】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［長谷川　秀子］春学期授業/Spring 46
英語科目【H3056】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［島田　顕］春学期授業/Spring 47
英語科目【H3057】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［小屋　多恵子］春学期授業/Spring 49
英語科目【H3058】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［井上　敏郎］春学期授業/Spring 50
英語科目【H3059】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［L　アイヴアニック］春学期授業/Spring 51
英語科目【H3060】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［KOPROWSKI MARK］春学期授業/Spring 52
英語科目【H3062】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［久慈　美貴］秋学期授業/Fall 53
英語科目【H3063】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［柏原　俊樹］秋学期授業/Fall 54
英語科目【H3065】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［神　康介］秋学期授業/Fall 55
英語科目【H3066】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［バリー　ヘイタ］秋学期授業/Fall 56
英語科目【H3068】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［バリー　ヘイタ］秋学期授業/Fall 57
英語科目【H3069】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［花﨑　一夫］秋学期授業/Fall 58
英語科目【H3070】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［柏原　俊樹］秋学期授業/Fall 59

英語科目【H3071】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［梨本　邦直］秋学期授業/Fall 60
英語科目【H3073】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［小畑　美貴］秋学期授業/Fall 61
英語科目【H3074】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［島田　顕］秋学期授業/Fall 62
英語科目【H3075】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［小林　直樹］秋学期授業/Fall 64
英語科目【H3076】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［中野　里美］秋学期授業/Fall 65
英語科目【H3077】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［長谷川　秀子］秋学期授業/Fall 66
英語科目【H3079】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［島田　顕］秋学期授業/Fall 67
英語科目【H3080】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［小屋　多恵子］秋学期授業/Fall 69
英語科目【H3081】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［井上　敏郎］秋学期授業/Fall 70
英語科目【H3082】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［Ｌ　アイヴアニック］秋学期授業/Fall 71
英語科目【H3083】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［KOPROWSKI MARK］秋学期授業/Fall 72
人文・社会・自然科学系【H3085】哲学入門［沖本　龍哉］秋学期授業/Fall 73
人文・社会・自然科学系【H3086】哲学入門［沖本　龍哉］春学期授業/Spring 74
人文・社会・自然科学系【H3087】哲学入門［美頭　千不美］春学期授業/Spring 75
人文・社会・自然科学系【H3088】言語学概論［小屋　多恵子］春学期授業/Spring 77
人文・社会・自然科学系【H3089】言語学概論［梨本　邦直］秋学期授業/Fall 78
人文・社会・自然科学系【H3090】日本文化論［横山　泰子］春学期授業/Spring 79
人文・社会・自然科学系【H3091】日本文化論［谷村　玲子］春学期授業/Spring 80
人文・社会・自然科学系【H3092】アジア文化論［呉　暁林］秋学期授業/Fall 82
人文・社会・自然科学系【H3093】ヨーロッパ・アメリカ文化論［川口　悠子］春学期授業/Spring 83
人文・社会・自然科学系【H3094】アフリカ文化論［元木　淳子］春学期授業/Spring 84
人文・社会・自然科学系【H3095】比較文化論［横山　泰子］秋学期授業/Fall 85
人文・社会・自然科学系【H3096】比較文化論［横山　泰子］秋学期授業/Fall 86
人文・社会・自然科学系【H3097】映像芸術［佐藤　正和］春学期授業/Spring 87
人文・社会・自然科学系【H3098】映像芸術［佐藤　正和］秋学期授業/Fall 88
人文・社会・自然科学系【H3099】音楽芸術［竹内　誠］秋学期授業/Fall 89
人文・社会・自然科学系【H3100】音楽芸術［竹内　誠］春学期授業/Spring 90
人文・社会・自然科学系【H3101】こころの働き［伊藤　隆一］秋学期授業/Fall 91
人文・社会・自然科学系【H3102】パーソナリティ［伊藤　ひろみ］春学期授業/Spring 92
人文・社会・自然科学系【H3103】知的所有権［武生　昌士、安田　和史］秋学期授業/Fall 93
人文・社会・自然科学系【H3104】知的所有権［武生　昌士、安田　和史］春学期授業/Spring 94
人文・社会・自然科学系【H3105】社会科学の方法論［福澤　レベッカ］春学期授業/Spring 95
人文・社会・自然科学系【H3106】国際関係論［元木　淳子］秋学期授業/Fall 96
人文・社会・自然科学系【H3107】基礎経済学［呉　暁林］春学期授業/Spring 97
人文・社会・自然科学系【H3108】応用経済学［明城　聡］秋学期授業/Fall 98
人文・社会・自然科学系【H3109】企業マネージメント［田名網　尚］春学期授業/Spring 99
人文・社会・自然科学系【H3110】現代政治学　［川口　悠子］秋学期授業/Fall 100
人文・社会・自然科学系【H3111】キャリアデザイン［斎藤　真一郎］秋学期授業/Fall 101
人文・社会・自然科学系【H3112】法学（日本国憲法）［浅野　毅彦］春学期授業/Spring 103
人文・社会・自然科学系【H3113】法学（日本国憲法）［浅野　毅彦］春学期授業/Spring 104
人文・社会・自然科学系【H3114】法と社会［浅野　毅彦］秋学期授業/Fall 105
人文・社会・自然科学系【H3115】法と社会［浅野　毅彦］秋学期授業/Fall 106
人文・社会・自然科学系【H3116】科学技術史［馬場　敏幸］春学期授業/Spring 107
人文・社会・自然科学系【H3117】科学技術史［馬場　敏幸］秋学期授業/Fall 108
人文・社会・自然科学系【H3119】先端技術・社会論［原　昌己］秋学期授業/Fall 109
人文・社会・自然科学系【H3120】先端技術・社会論［原　昌己］春学期授業/Spring 110
人文・社会・自然科学系【H3121】技術者倫理［詫間　直樹］秋学期授業/Fall 111
人文・社会・自然科学系【H3122】情報倫理［笹原　和織］秋学期授業/Fall 113
人文・社会・自然科学系【H3123】環境と資源［中嶋　吉弘］春学期授業/Spring 114
人文・社会・自然科学系【H3124】環境と資源［中嶋　吉弘］秋学期授業/Fall 116
人文・社会・自然科学系【H3125】環境と資源［片谷　教孝］春学期授業/Spring 118
人文・社会・自然科学系【H3126】宇宙と地球［石川　壮一］春学期授業/Spring 119
人文・社会・自然科学系【H3127】宇宙と地球［石川　壮一］秋学期授業/Fall 120
人文・社会・自然科学系【H3128】生命の起源と進化［田島　寛隆］秋学期授業/Fall 121
人文・社会・自然科学系【H3129】生命の起源と進化［石黒　亮］春学期授業/Spring 122
人文・社会・自然科学系【H3130】生命の起源と進化［田島　寛隆］春学期授業/Spring 123
人文・社会・自然科学系【H3131】生物の多様性［青木　誠志郎、柴尾　晴信］春学期授業/Spring 124

人文・社会・自然科学系【H3132】生物の多様性［村上　雄秀］秋学期授業/Fall 125
人文・社会・自然科学系【H3133】生物の多様性［村上　雄秀］春学期授業/Spring 126
人文・社会・自然科学系【H3134】物質科学と先端技術［尾池　秀章］春学期授業/Spring 127
選択語学系【H3175】英語中級コミュニケーション［L　アイヴアニック］秋学期授業/Fall 128
選択語学系【H3176】英語中級コミュニケーション［KOPROWSKI MARK］春学期授業/Spring 129
選択語学系【H3177】英語中級コミュニケーション［L　アイヴアニック］秋学期授業/Fall 131
選択語学系【H3178】英語中級コミュニケーション［KOPROWSKI MARK］秋学期授業/Fall 132
選択語学系【H3179】英語中級リーディング［L　アイヴアニック］春学期授業/Spring 134
選択語学系【H3180】英語中級リーディング［早舩　由紀見］秋学期授業/Fall 135
選択語学系【H3181】英語中級リーディング［柳川　浩三］秋学期授業/Fall 136
選択語学系【H3182】英語中級リーディング［北原　久嗣］春学期授業/Spring 137
選択語学系【H3185】ビジネス英語［NEIL CONWAY］秋学期授業/Fall 138
選択語学系【H3186】ビジネス英語［小林　直樹］秋学期授業/Fall 139
選択語学系【H3189】基礎英語［小林　直樹］春学期授業/Spring 140
選択語学系【H3190】基礎英語［川島　多加子］春学期授業/Spring 141
選択語学系【H3191】基礎英語［島田　顕］春学期授業/Spring 142
選択語学系【H3193】基礎英語［川口　悠子］春学期授業/Spring 143
選択語学系【H3194】基礎英語［川島　多加子］秋学期授業/Fall 144
選択語学系【H3195】英語資格試験準備講座［島田　顕］秋学期授業/Fall 145
選択語学系【H3196】英語資格試験準備講座［井上　敏郎］春学期授業/Spring 146
選択語学系【H3198】基礎ドイツ語Ⅰ［鈴木　淳子］春学期授業/Spring 147
選択語学系【H3199】基礎ドイツ語Ⅰ［鈴木　淳子］春学期授業/Spring 148
選択語学系【H3200】基礎ドイツ語Ⅰ［鈴木　淳子］春学期授業/Spring 149
選択語学系【H3204】ドイツ語表現［高橋　完治］春学期授業/Spring 150
選択語学系【H3205】ドイツ語表現［浦田　智］春学期授業/Spring 151
選択語学系【H3206】ドイツ語中級［高橋　完治］秋学期授業/Fall 152
選択語学系【H3207】ドイツ語中級［浦田　智］秋学期授業/Fall 153
選択語学系【H3208】基礎フランス語Ⅰ［瀬戸　和子］春学期授業/Spring 154
選択語学系【H3209】基礎フランス語Ⅰ［瀬戸　和子］春学期授業/Spring 155
選択語学系【H3211】基礎フランス語ⅠⅠ［瀬戸　和子］秋学期授業/Fall 156
選択語学系【H3212】基礎フランス語ⅠⅠ［瀬戸　和子］秋学期授業/Fall 157
選択語学系【H3214】フランス語表現［荻野　イザベル］春学期授業/Spring 158
選択語学系【H3215】フランス語表現［佐藤　正和］春学期授業/Spring 159
選択語学系【H3216】フランス語中級［佐藤　正和］秋学期授業/Fall 160
選択語学系【H3217】フランス語中級［元木　淳子］秋学期授業/Fall 161
選択語学系【H3218】基礎スペイン語Ⅰ［渡辺　雅哉］春学期授業/Spring 162
選択語学系【H3219】基礎スペイン語Ⅰ［渡辺　雅哉］春学期授業/Spring 163
選択語学系【H3220】基礎スペイン語ⅠⅠ［渡辺　雅哉］秋学期授業/Fall 164
選択語学系【H3221】基礎スペイン語ⅠⅠ［渡辺　雅哉］秋学期授業/Fall 165
選択語学系【H3222】スペイン語表現［日高　憲三］春学期授業/Spring 166
選択語学系【H3223】スペイン語表現［日高　憲三］春学期授業/Spring 167
選択語学系【H3224】スペイン語中級［日高　憲三］秋学期授業/Fall 168
選択語学系【H3228】基礎中国語Ⅰ［渡辺　浩司］春学期授業/Spring 169
選択語学系【H3231】基礎中国語ⅠⅠ［渡辺　浩司］秋学期授業/Fall 170
選択語学系【H3232】中国語表現［平井　新］春学期授業/Spring 171
選択語学系【H3233】中国語表現［杉本　公子］春学期授業/Spring 172
選択語学系【H3236】基礎朝鮮語Ⅰ［松本　ジュン］春学期授業/Spring 173
選択語学系【H3237】基礎朝鮮語Ⅰ［松本　ジュン］春学期授業/Spring 174
選択語学系【H3238】基礎朝鮮語ⅠⅠ［松本　ジュン］秋学期授業/Fall 175
選択語学系【H3239】基礎朝鮮語ⅠⅠ［松本　ジュン］秋学期授業/Fall 176
選択語学系【H3240】朝鮮語表現［魏　聖銓］春学期授業/Spring 177
選択語学系【H3241】朝鮮語表現［魏　聖銓］秋学期授業/Fall 178
選択語学系【H3242】朝鮮語中級［魏　聖銓］秋学期授業/Fall 179
リテラシー系【H3244】文章作法［堀井　一摩］秋学期授業/Fall 180
リテラシー系【H3245】情報リテラシーと表現技術［三牧　宏彬］春学期授業/Spring 181
リテラシー系【H3246】情報リテラシーと表現技術春学期授業/Spring 182
リテラシー系【H3247】情報リテラシーと表現技術［若林　哲］春学期授業/Spring 183

リテラシー系【H3249】情報リテラシーと表現技術［三牧　宏彬］春学期授業/Spring 184
リテラシー系【H3250】情報リテラシーと表現技術［小鍋　哲］春学期授業/Spring 185
リテラシー系【H3251】情報処理技法［東原　正智］秋学期授業/Fall 186
リテラシー系【H3252】情報処理技法［陸名　雄一］秋学期授業/Fall 187
リテラシー系【H3253】情報処理技法［三橋　秀生］秋学期授業/Fall 188
リテラシー系【H3254】情報処理技法［三橋　秀生］秋学期授業/Fall 189
リテラシー系【H3255】情報処理技法［須河　光弘］秋学期授業/Fall 190
リテラシー系【H3256】情報リテラシーと表現技術［三牧　宏彬］春学期授業/Spring 191
理系教養科目（数学系）【H3258】線形代数学及び演習ＩＩ［佐藤　巖］秋学期授業/Fall 192
理系教養科目（数学系）【H3263】線形代数学及び演習Ｉ［礒島　伸］春学期授業/Spring 193
理系教養科目（数学系）【H3264】線形代数学及び演習Ｉ［礒島　伸］春学期授業/Spring 194
理系教養科目（数学系）【H3265】線形代数学及び演習Ｉ［伊藤　賢太郎］春学期授業/Spring 195
理系教養科目（数学系）【H3267】線形代数学及び演習Ｉ［本多　恭子］春学期授業/Spring 196
理系教養科目（数学系）【H3268】線形代数学及び演習Ｉ［本多　恭子］春学期授業/Spring 197
理系教養科目（数学系）【H3269】線形代数学及び演習ＩＩ［佐藤　巖］秋学期授業/Fall 198
理系教養科目（数学系）【H3271】線形代数学及び演習ＩＩ［間下　克哉］秋学期授業/Fall 199
理系教養科目（数学系）【H3272】線形代数学及び演習ＩＩ［加田　修］秋学期授業/Fall 200
理系教養科目（数学系）【H3273】線形代数学及び演習ＩＩ［間下　克哉］秋学期授業/Fall 201
理系教養科目（数学系）【H3274】線形代数学及び演習ＩＩ［三橋　秀生］秋学期授業/Fall 202
理系教養科目（数学系）【H3275】線形代数学及び演習ＩＩ［三橋　秀生］秋学期授業/Fall 203
理系教養科目（数学系）【H3276】線形代数学及び演習ＩＩ［礒島　伸］秋学期授業/Fall 204
理系教養科目（数学系）【H3277】線形代数学及び演習ＩＩ［礒島　伸］秋学期授業/Fall 205
理系教養科目（数学系）【H3278】線形代数学及び演習ＩＩ［伊藤　賢太郎］秋学期授業/Fall 206
理系教養科目（数学系）【H3280】線形代数学及び演習ＩＩ［本多　恭子］秋学期授業/Fall 207
理系教養科目（数学系）【H3281】線形代数学及び演習ＩＩ［本多　恭子］秋学期授業/Fall 208
理系教養科目（数学系）【H3284】微分積分学及び演習Ｉ［加田　修］春学期授業/Spring 209
理系教養科目（数学系）【H3290】微分積分学及び演習Ｉ［寺杣　友秀］春学期授業/Spring 210
理系教養科目（数学系）【H3291】微分積分学及び演習Ｉ［寺杣　友秀］春学期授業/Spring 211
理系教養科目（数学系）【H3292】微分積分学及び演習Ｉ［伊藤　賢太郎］春学期授業/Spring 212
理系教養科目（数学系）【H3293】微分積分学及び演習Ｉ［伊藤　賢太郎］春学期授業/Spring 213
理系教養科目（数学系）【H3294】微分積分学及び演習Ｉ［伊藤　賢太郎］春学期授業/Spring 214
理系教養科目（数学系）【H3296】微分積分学及び演習ＩＩ［清田　正夫］秋学期授業/Fall 215
理系教養科目（数学系）【H3297】微分積分学及び演習ＩＩ［加田　修］秋学期授業/Fall 216
理系教養科目（数学系）【H3298】微分積分学及び演習ＩＩ［森田　純］秋学期授業/Fall 217
理系教養科目（数学系）【H3299】微分積分学及び演習ＩＩ［森田　純］秋学期授業/Fall 218
理系教養科目（数学系）【H3300】微分積分学及び演習ＩＩ［塚田　和美］秋学期授業/Fall 219
理系教養科目（数学系）【H3301】微分積分学及び演習ＩＩ［陸名　雄一］秋学期授業/Fall 220
理系教養科目（数学系）【H3302】微分積分学及び演習ＩＩ［清田　正夫］秋学期授業/Fall 221
理系教養科目（数学系）【H3303】微分積分学及び演習ＩＩ［髙澤　兼二郎］秋学期授業/Fall 222
理系教養科目（数学系）【H3304】微分積分学及び演習ＩＩ［髙澤　兼二郎］秋学期授業/Fall 223
理系教養科目（数学系）【H3305】微分積分学及び演習ＩＩ［伊藤　賢太郎］秋学期授業/Fall 224
理系教養科目（数学系）【H3306】微分積分学及び演習ＩＩ［伊藤　賢太郎］秋学期授業/Fall 225
理系教養科目（数学系）【H3307】微分積分学及び演習ＩＩ［伊藤　賢太郎］秋学期授業/Fall 226
理系教養科目（理科系）【H3308】物理学基礎Ｉ［篠原　俊二郎］春学期授業/Spring 227
理系教養科目（理科系）【H3309】物理学基礎Ｉ［篠原　俊二郎］春学期授業/Spring 228
理系教養科目（理科系）【H3310】物理学基礎Ｉ［小鍋　哲］春学期授業/Spring 229
理系教養科目（理科系）【H3311】物理学基礎Ｉ［西村　征也］春学期授業/Spring 230
理系教養科目（理科系）【H3312】物理学基礎Ｉ［池田　浩治］春学期授業/Spring 231
理系教養科目（理科系）【H3313】物理学基礎Ｉ［赤松　茂］春学期授業/Spring 233
理系教養科目（理科系）【H3314】物理学基礎Ｉ［池田　浩治］春学期授業/Spring 234
理系教養科目（理科系）【H3315】物理学基礎Ｉ［西村　征也］春学期授業/Spring 236
理系教養科目（理科系）【H3316】物理学基礎Ｉ［小鍋　哲］春学期授業/Spring 237
理系教養科目（理科系）【H3317】物理学基礎Ｉ［小鍋　哲］春学期授業/Spring 238
理系教養科目（理科系）【H3318】物理学基礎ＩＩ［篠原　俊二郎］秋学期授業/Fall 239
理系教養科目（理科系）【H3319】物理学基礎ＩＩ［篠原　俊二郎］秋学期授業/Fall 240
理系教養科目（理科系）【H3320】物理学基礎ＩＩ［小鍋　哲］秋学期授業/Fall 241
理系教養科目（理科系）【H3321】物理学基礎ＩＩ［西村　征也］秋学期授業/Fall 242

理系教養科目（理科系）【H3322】物理学基礎ＩＩ［池田　浩治］秋学期授業/Fall 243
理系教養科目（理科系）【H3323】物理学基礎ＩＩ［赤松　茂］秋学期授業/Fall 245
理系教養科目（理科系）【H3324】物理学基礎ＩＩ［池田　浩治］秋学期授業/Fall 246
理系教養科目（理科系）【H3325】物理学基礎ＩＩ［西村　征也］秋学期授業/Fall 248
理系教養科目（理科系）【H3326】物理学基礎ＩＩ［小鍋　哲］秋学期授業/Fall 249
理系教養科目（理科系）【H3327】物理学基礎ＩＩ［小鍋　哲］秋学期授業/Fall 250
理系教養科目（理科系）【H3328】化学基礎Ｉ［落合　剛］春学期授業/Spring 251
理系教養科目（理科系）【H3329】化学基礎Ｉ［落合　剛］春学期授業/Spring 253
理系教養科目（理科系）【H3330】化学基礎Ｉ［普神　敬悟］春学期授業/Spring 255
理系教養科目（理科系）【H3331】化学基礎Ｉ［尾池　秀章］春学期授業/Spring 256
理系教養科目（理科系）【H3332】化学基礎Ｉ［加藤　尚之］春学期授業/Spring 257
理系教養科目（理科系）【H3333】化学基礎Ｉ［普神　敬悟］春学期授業/Spring 258
理系教養科目（理科系）【H3334】化学基礎Ｉ［島田　恵理子］春学期授業/Spring 259
理系教養科目（理科系）【H3335】化学基礎Ｉ［大波　英幸］春学期授業/Spring 260
理系教養科目（理科系）【H3336】化学基礎Ｉ［島田　恵理子］春学期授業/Spring 261
理系教養科目（理科系）【H3338】化学基礎ＩＩ［落合　剛］秋学期授業/Fall 262
理系教養科目（理科系）【H3339】化学基礎ＩＩ［落合　剛］秋学期授業/Fall 264
理系教養科目（理科系）【H3340】化学基礎ＩＩ［普神　敬悟］秋学期授業/Fall 266
理系教養科目（理科系）【H3341】化学基礎ＩＩ［尾池　秀章］秋学期授業/Fall 267
理系教養科目（理科系）【H3342】化学基礎ＩＩ［加藤　尚之］秋学期授業/Fall 268
理系教養科目（理科系）【H3343】化学基礎ＩＩ［普神　敬悟］秋学期授業/Fall 269
理系教養科目（理科系）【H3344】化学基礎ＩＩ［島田　恵理子］秋学期授業/Fall 270
理系教養科目（理科系）【H3345】化学基礎ＩＩ［大波　英幸］秋学期授業/Fall 271
理系教養科目（理科系）【H3346】化学基礎ＩＩ［島田　恵理子］秋学期授業/Fall 272
理系教養科目（理科系）【H3348】科学実験Ｉ［三牧　宏彬］春学期授業/Spring 273
理系教養科目（理科系）【H3349】科学実験Ｉ［小鍋　哲、西村　征也］春学期授業/Spring 274
理系教養科目（理科系）【H3350】科学実験Ｉ［西村　征也、小鍋　哲］秋学期授業/Fall 275
理系教養科目（理科系）【H3351】科学実験Ｉ［三牧　宏彬］秋学期授業/Fall 276
理系教養科目（理科系）【H3352】物理学実験［吉野　理貴］秋学期授業/Fall 277
理系教養科目（理科系）【H3353】科学実験Ｉ［吉野　理貴］春学期授業/Spring 278
理系教養科目（理科系）【H3354】科学実験ＩＩ［尾池　秀章］春学期授業/Spring 279
理系教養科目（理科系）【H3355】科学実験ＩＩ［大波　英幸］春学期授業/Spring 280
理系教養科目（理科系）【H3356】科学実験ＩＩ［尾池　秀章］秋学期授業/Fall 281
理系教養科目（理科系）【H3357】科学実験ＩＩ［尾池　秀章］秋学期授業/Fall 282
理系教養科目（理科系）【H3358】化学実験［大波　英幸］秋学期授業/Fall 283
理系教養科目（理科系）【H3359】科学実験ＩＩ［尾池　秀章］春学期授業/Spring 284
理系教養科目（理科系）【H3360】科学実験ＩＩＩ［田島　寛隆］春学期授業/Spring 285
理系教養科目（理科系）【H3361】科学実験ＩＩＩ［細谷　茂生］秋学期授業/Fall 286
理系教養科目（理科系）【H3362】科学実験ＩＩＩ［細谷　茂生］春学期授業/Spring 287
理系教養科目（理科系）【H3363】生物学実験［田島　寛隆］秋学期授業/Fall 288
理系教養科目（理科系）【H3364】科学実験ＩＩＩ［水澤　直樹］秋学期授業/Fall 289
理系教養科目（理科系）【H3365】科学実験ＩＩＩ［水澤　直樹］春学期授業/Spring 290
理系教養科目（理科系）【H3380】生物学基礎Ｉ［石黒　亮］春学期授業/Spring 291
理系教養科目（理科系）【H3381】生物学基礎Ｉ［水澤　直樹］春学期授業/Spring 292
理系教養科目（理科系）【H3382】生物学基礎Ｉ［細谷　茂生］春学期授業/Spring 293
理系教養科目（理科系）【H3383】生物学基礎Ｉ［細谷　茂生］春学期授業/Spring 294
理系教養科目（理科系）【H3384】生物学基礎ＩＩ［田島　寛隆］秋学期授業/Fall 295
理系教養科目（理科系）【H3385】生物学基礎ＩＩ［水澤　直樹］秋学期授業/Fall 296
理系教養科目（理科系）【H3386】生物学基礎ＩＩ［細谷　茂生］秋学期授業/Fall 297
理系教養科目（理科系）【H3387】生物学基礎ＩＩ［細谷　茂生］秋学期授業/Fall 298
理系教養科目（数学系）【H3396】線形代数学及び演習Ｉ［加田　修］春学期授業/Spring 299
英語科目【H3439】アカデミック・リーディングＩ［村上　弥生］春学期授業/Spring 300
英語科目【H3440】アカデミック・リーディングＩ［藤野　輝雄］春学期授業/Spring 301
英語科目【H3441】アカデミック・リーディングＩ［吉川　直澄］春学期授業/Spring 302
英語科目【H3442】アカデミック・リーディングＩ［ALAN D MORGAN］春学期授業/Spring 303
英語科目【H3443】アカデミック・リーディングＩ［中野　里美］春学期授業/Spring 304
英語科目【H3444】アカデミック・リーディングＩ［荒木　友嗣］春学期授業/Spring 305

英語科目【H3445】アカデミック・リーディングⅠ［長谷川　秀子］春学期授業/Spring 307
英語科目【H3446】アカデミック・リーディングⅠ［余田　亜希］春学期授業/Spring 308
英語科目【H3447】アカデミック・リーディングⅠ［川口　悠子］春学期授業/Spring 309
英語科目【H3448】アカデミック・リーディングⅠ［吉川　直澄］春学期授業/Spring 310
英語科目【H3449】アカデミック・リーディングⅠ［梨本　邦直］春学期授業/Spring 311
英語科目【H3450】アカデミック・リーディングⅠ［大石　文雄］春学期授業/Spring 312
英語科目【H3451】アカデミック・リーディングⅠ［尾関　裕子］春学期授業/Spring 313
英語科目【H3452】アカデミック・リーディングⅠ［安田　孝子］春学期授業/Spring 314
英語科目【H3453】アカデミック・リーディングⅠ［磯部　芳恵］春学期授業/Spring 315
英語科目【H3454】アカデミック・リーディングⅠ［安田　孝子］春学期授業/Spring 316
英語科目【H3455】アカデミック・リーディングⅠ［ALAN D MORGAN］春学期授業/Spring 318
英語科目【H3457】アカデミック・リーディングⅠ［久慈　美貴］春学期授業/Spring 319
英語科目【H3458】アカデミック・リーディングⅠ［花崎　一夫］春学期授業/Spring 320
英語科目【H3459】アカデミック・リーディングⅡ［村上　弥生］秋学期授業/Fall 321
英語科目【H3460】アカデミック・リーディングⅡ［藤野　輝雄］秋学期授業/Fall 322
英語科目【H3461】アカデミック・リーディングⅡ［吉川　直澄］秋学期授業/Fall 323
英語科目【H3462】アカデミック・リーディングⅡ［ALAN D MORGAN］秋学期授業/Fall 324
英語科目【H3463】アカデミック・リーディングⅡ［中野　里美］秋学期授業/Fall 325
英語科目【H3464】アカデミック・リーディングⅡ［荒木　友嗣］秋学期授業/Fall 326
英語科目【H3465】アカデミック・リーディングⅡ［長谷川　秀子］秋学期授業/Fall 328
英語科目【H3466】アカデミック・リーディングⅡ［余田　亜希］秋学期授業/Fall 329
英語科目【H3467】アカデミック・リーディングⅡ［川口　悠子］秋学期授業/Fall 330
英語科目【H3468】アカデミック・リーディングⅡ［吉川　直澄］秋学期授業/Fall 331
英語科目【H3469】アカデミック・リーディングⅡ［梨本　邦直］秋学期授業/Fall 332
英語科目【H3470】アカデミック・リーディングⅡ［大石　文雄］秋学期授業/Fall 333
英語科目【H3471】アカデミック・リーディングⅡ［尾関　裕子］秋学期授業/Fall 334
英語科目【H3472】アカデミック・リーディングⅡ［安田　孝子］秋学期授業/Fall 335
英語科目【H3473】アカデミック・リーディングⅡ［磯部　芳恵］秋学期授業/Fall 337
英語科目【H3474】アカデミック・リーディングⅡ［安田　孝子］秋学期授業/Fall 338
英語科目【H3475】アカデミック・リーディングⅡ［ALAN D MORGAN］秋学期授業/Fall 340
英語科目【H3477】アカデミック・リーディングⅡ［久慈　美貴］秋学期授業/Fall 341
英語科目【H3478】アカデミック・リーディングⅡ［花崎　一夫］秋学期授業/Fall 342
英語科目【H3479】アカデミック・ライティング［小林　直樹］春学期授業/Spring 343
英語科目【H3480】アカデミック・ライティング［長谷川　秀子］春学期授業/Spring 344
英語科目【H3481】アカデミック・ライティング［荒木　友嗣］春学期授業/Spring 345
英語科目【H3482】アカデミック・ライティング［中野　里美］春学期授業/Spring 346
英語科目【H3483】アカデミック・ライティング［長谷川　秀子］秋学期授業/Fall 347
英語科目【H3484】アカデミック・ライティング［中野　里美］秋学期授業/Fall 348
英語科目【H3485】アカデミック・ライティング［荒木　友嗣］秋学期授業/Fall 349
英語科目【H3487】アカデミック・ライティング［NEIL CONWAY］春学期授業/Spring 350
英語科目【H3488】アカデミック・ライティング［川島　るり子］秋学期授業/Fall 351
英語科目【H3490】アカデミック・ライティング［太田　美智子］春学期授業/Spring 352
英語科目【H3492】アカデミック・ライティング［尾関　裕子］春学期授業/Spring 353
英語科目【H3493】アカデミック・ライティング［ALDER　mark］秋学期授業/Fall 354
英語科目【H3494】アカデミック・ライティング［川島　るり子］秋学期授業/Fall 355
英語科目【H3496】アカデミック・ライティング［太田　美智子］秋学期授業/Fall 356
英語科目【H3497】アカデミック・ライティング［谷　智子］春学期授業/Spring 357
英語科目【H3498】アカデミック・ライティング［尾関　裕子］秋学期授業/Fall 358
英語科目【H3499】アカデミック・ライティング［磯部　芳恵］春学期授業/Spring 359
英語科目【H3500】アカデミック・ライティング［藤野　輝雄］春学期授業/Spring 360
英語科目【H3501】アカデミック・ライティング［村上　弥生］春学期授業/Spring 361
英語科目【H3502】アカデミック・ライティング［L　アイヴアニック］春学期授業/Spring 363
英語科目【H3504】アカデミック・ライティング［川口　悠子］秋学期授業/Fall 364
英語科目【H3505】アカデミック・ライティング［ALDER　mark］秋学期授業/Fall 365
英語科目【H3506】アカデミック・ライティング［尾関　裕子］秋学期授業/Fall 366
英語科目【H3508】アカデミック・ライティング［早舩　由紀見］春学期授業/Spring 367
英語科目【H3509】アカデミック・ライティング［ALDER　mark］春学期授業/Spring 368

英語科目【H3510】アカデミック・ライティング［尾関　裕子］春学期授業/Spring 369
英語科目【H3511】アカデミック・ライティング［早舩　由紀見］秋学期授業/Fall 370
英語科目【H3512】アカデミック・ライティング［磯部　芳恵］秋学期授業/Fall 371
英語科目【H3514】アカデミック・ライティング［村上　弥生］秋学期授業/Fall 372
英語科目【H3517】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［小畑　美貴］春学期授業/Spring 373
英語科目【H3518】コミュニケーション・ストラテジー［鈴木　幸］春学期授業/Spring 374
英語科目【H3519】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［小畑　美貴］秋学期授業/Fall 375
英語科目【H3520】コミュニケーション・ストラテジー［鈴木　幸］秋学期授業/Fall 376
英語科目【H3523】コミュニケーション・ストラテジー［川口　悠子］秋学期授業/Fall 377
英語科目【H3524】コミュニケーション・ストラテジー［鈴木　幸］春学期授業/Spring 378
英語科目【H3525】コミュニケーション・ストラテジー［久慈　美貴］秋学期授業/Fall 379
英語科目【H3526】コミュニケーション・ストラテジー［川口　悠子］春学期授業/Spring 380
英語科目【H3527】コミュニケーション・ストラテジー［川口　悠子］秋学期授業/Fall 381
英語科目【H3529】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［渡邊　晶子］春学期授業/Spring 382
英語科目【H3530】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［渡邊　晶子］春学期授業/Spring 383
英語科目【H3531】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［渡邊　晶子］秋学期授業/Fall 384
英語科目【H3532】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［渡邊　晶子］秋学期授業/Fall 385
英語科目【H3533】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［バリー　ヘイタ］春学期授業/Spring 386
英語科目【H3534】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［バリー　ヘイタ］秋学期授業/Fall 387
英語科目【H3535】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［井上　敏郎］春学期授業/Spring 388
英語科目【H3536】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［井上　敏郎］秋学期授業/Fall 389
英語科目【H3537】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ［小畑　美貴］春学期授業/Spring 390
英語科目【H3538】コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅡ［小畑　美貴］秋学期授業/Fall 391
選択語学系【H3541】基礎ドイツ語Ⅱ［鈴木　淳子］秋学期授業/Fall 392
選択語学系【H3542】基礎ドイツ語Ⅱ［鈴木　淳子］秋学期授業/Fall 393
選択語学系【H3543】基礎ドイツ語Ⅱ［鈴木　淳子］秋学期授業/Fall 394
選択語学系【H3544】基礎フランス語Ⅰ［荻野　文隆］春学期授業/Spring 395
選択語学系【H3545】基礎フランス語Ⅱ［荻野　文隆］秋学期授業/Fall 396
選択語学系【H3546】基礎中国語Ⅰ［平井　新］春学期授業/Spring 397
選択語学系【H3547】基礎中国語Ⅰ［渡辺　浩司］春学期授業/Spring 398
選択語学系【H3548】基礎中国語Ⅱ［平井　新］秋学期授業/Fall 399
選択語学系【H3549】基礎中国語Ⅱ［渡辺　浩司］秋学期授業/Fall 400
選択語学系【H3550】ドイツ語表現［高橋　完治］春学期授業/Spring 401
選択語学系【H3552】中国語表現［杉本　公子］春学期授業/Spring 402
選択語学系【H3553】中国語中級［杉本　公子］秋学期授業/Fall 403
選択語学系【H3554】中国語中級［杉本　公子］秋学期授業/Fall 404
選択語学系【H3555】中国語中級［平井　新］秋学期授業/Fall 405
人文・社会・自然科学系【H3556】パーソナリティ［伊藤　隆一］春学期授業/Spring 406
人文・社会・自然科学系【H3557】こころの働き［伊藤　ひろみ］秋学期授業/Fall 407
人文・社会・自然科学系【H3558】パーソナリティ［伊藤　ひろみ］春学期授業/Spring 408
人文・社会・自然科学系【H3559】こころの働き［伊藤　ひろみ］秋学期授業/Fall 409
人文・社会・自然科学系【H3560】パーソナリティ［伊藤　隆一］春学期授業/Spring 410
人文・社会・自然科学系【H3561】こころの働き［伊藤　ひろみ］秋学期授業/Fall 411
人文・社会・自然科学系【H3562】日本文化論［横山　泰子］春学期授業/Spring 412
人文・社会・自然科学系【H3563】比較文化論［横山　泰子］秋学期授業/Fall 413
人文・社会・自然科学系【H3564】日本文化論［谷村　玲子］春学期授業/Spring 414
人文・社会・自然科学系【H3565】比較文化論［谷村　玲子］秋学期授業/Fall 416
人文・社会・自然科学系【H3566】日本文化論［谷村　玲子］春学期授業/Spring 418
人文・社会・自然科学系【H3567】比較文化論［谷村　玲子］秋学期授業/Fall 420
選択語学系【H3569】フランス語表現［元木　淳子］春学期授業/Spring 422
選択語学系【H3570】フランス語中級［元木　淳子］秋学期授業/Fall 423
リテラシー系【H3573】文章作法［堀井　一摩］春学期授業/Spring 424
英語科目【H3574】アカデミック・ライティング［川島　るり子］春学期授業/Spring 425
英語科目【H3576】アカデミック・ライティング［早舩　由紀見］春学期授業/Spring 426
英語科目【H3577】アカデミック・ライティング［早舩　由紀見］秋学期授業/Fall 427
英語科目【H3580】アカデミック・リーディングⅠ［余田　亜希］春学期授業/Spring 428
英語科目【H3581】アカデミック・リーディングⅡ［余田　亜希］秋学期授業/Fall 429

英語科目【H3582】アカデミック・リーディングＩ［吉川　直澄］春学期授業/Spring 430
英語科目【H3583】アカデミック・リーディングＩＩ［吉川　直澄］秋学期授業/Fall 431
英語科目【H3584】アカデミック・ライティング［太田　美智子］春学期授業/Spring 432
英語科目【H3585】アカデミック・ライティング［太田　美智子］秋学期授業/Fall 433
選択語学系【H3586】英語資格試験準備講座［川島　多加子］春学期授業/Spring 434
選択語学系【H3587】英語資格試験準備講座［バリー　ヘイタ］秋学期授業/Fall 435
選択語学系【H3588】基礎中国語Ｉ［呉　暁林］春学期授業/Spring 436
選択語学系【H3589】基礎中国語ＩＩ［呉　暁林］秋学期授業/Fall 437
選択語学系【H3590】英語資格試験準備講座［井上　敏郎］秋学期授業/Fall 438
英語科目【H3592】コミュニケーション・ストラテジー［NEIL CONWAY］春学期授業/Spring 439
英語科目【H3593】コミュニケーション・ストラテジー［ALDER　mark］春学期授業/Spring 440
英語科目【H3594】コミュニケーション・ストラテジー［川島　るり子］秋学期授業/Fall 441
英語科目【H3595】コミュニケーション・ストラテジー［NEIL CONWAY］秋学期授業/Fall 442
英語科目【H3596】コミュニケーション・ストラテジー［ALDER　mark］秋学期授業/Fall 443
英語科目【H3597】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［小屋　多恵子］春学期授業/Spring 444
英語科目【H3598】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［村上　弥生］春学期授業/Spring 445
英語科目【H3599】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［藤野　輝雄］春学期授業/Spring 446
英語科目【H3600】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩ［神　康介］春学期授業/Spring 447
英語科目【H3601】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［小屋　多恵子］秋学期授業/Fall 448
英語科目【H3602】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［村上　弥生］秋学期授業/Fall 449
英語科目【H3603】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［藤野　輝雄］秋学期授業/Fall 450
英語科目【H3604】コンプリヘンシヴ・イングリッシュＩＩ［神　康介］秋学期授業/Fall 451
理系教養科目（数学系）【H3605】線形代数学及び演習Ｉ［塩谷　勇］春学期授業/Spring 452
理系教養科目（数学系）【H3606】線形代数学及び演習Ｉ［塩谷　勇］春学期授業/Spring 453
理系教養科目（数学系）【H3607】線形代数学及び演習ＩＩ［塩谷　勇］秋学期授業/Fall 454
理系教養科目（数学系）【H3608】線形代数学及び演習ＩＩ［塩谷　勇］秋学期授業/Fall 455
理系教養科目（数学系）【H3609】微分積分学及び演習Ｉ［金沢　誠］春学期授業/Spring 456
理系教養科目（数学系）【H3610】微分積分学及び演習Ｉ［金沢　誠］春学期授業/Spring 457
理系教養科目（数学系）【H3611】微分積分学及び演習ＩＩ［金沢　誠］秋学期授業/Fall 458
理系教養科目（数学系）【H3612】微分積分学及び演習ＩＩ［金沢　誠］秋学期授業/Fall 459
理系教養科目（理科系）【H3613】物理学基礎Ｉ［佐藤　修一］春学期授業/Spring 460
理系教養科目（理科系）【H3614】物理学基礎Ｉ［佐藤　修一］春学期授業/Spring 461
理系教養科目（理科系）【H3615】物理学基礎ＩＩ［佐藤　修一］秋学期授業/Fall 462
理系教養科目（理科系）【H3616】物理学基礎ＩＩ［佐藤　修一］秋学期授業/Fall 463
選択語学系【H3617】基礎ドイツ語Ｉ［外山　知子］春学期授業/Spring 464
選択語学系【H3618】基礎ドイツ語ＩＩ［外山　知子］秋学期授業/Fall 465
選択語学系【H3620】基礎フランス語Ｉ［平岡　敦］春学期授業/Spring 466
選択語学系【H3622】基礎フランス語ＩＩ［平岡　敦］秋学期授業/Fall 467
選択語学系【H3625】基礎中国語Ｉ［平井　新］春学期授業/Spring 468
選択語学系【H3626】基礎中国語Ｉ［新田　龍希］春学期授業/Spring 469
選択語学系【H3627】基礎中国語ＩＩ［平井　新］秋学期授業/Fall 470
選択語学系【H3628】基礎中国語ＩＩ［新田　龍希］秋学期授業/Fall 471
リテラシー系【H3631】文章作法［矢口　貢大］秋学期授業/Fall 472
選択語学系【H3681】ドイツ語中級［高橋　完治］春学期授業/Spring 473
選択語学系【H3682】フランス語中級［荻野　文隆］春学期授業/Spring 474
選択語学系【H3683】ドイツ語表現［高橋　完治］秋学期授業/Fall 475
選択語学系【H3684】フランス語表現［荻野　文隆］秋学期授業/Fall 476
選択語学系【H3685】中国語中級［新田　龍希］春学期授業/Spring 477
選択語学系【H3686】中国語中級［杉本　公子］春学期授業/Spring 478
選択語学系【H3687】中国語表現［新田　龍希］秋学期授業/Fall 479
選択語学系【H3688】中国語表現［杉本　公子］秋学期授業/Fall 480
選択語学系【H3689】基礎中国語Ｉ［杉本　公子］春学期授業/Spring 481
選択語学系【H3690】基礎中国語 II［杉本　公子］秋学期授業/Fall 482
選択語学系【H3691】朝鮮語中級［魏　聖銓］春学期授業/Spring 483
選択語学系【H3692】朝鮮語表現［魏　聖銓］秋学期授業/Fall 484
選択語学系【H3693】スペイン語中級［日高　憲三］春学期授業/Spring 485
選択語学系【H3694】スペイン語表現［日高　憲三］秋学期授業/Fall 486

英語科目【H3711】アカデミック・ライティング［藤野　輝雄］秋学期授業/Fall 487
英語科目【H3712】アカデミック・リーディングＩ［井上　敏郎］春学期授業/Spring 488
英語科目【H3713】アカデミック・リーディングＩＩ［井上　敏郎］秋学期授業/Fall 489
英語科目【H3714】アカデミック・リーディングＩ［大石　文雄］春学期授業/Spring 490
英語科目【H3715】アカデミック・リーディングＩＩ［大石　文雄］秋学期授業/Fall 491
英語科目【H3716】アカデミック・リーディングＩ［柳川　浩三］春学期授業/Spring 492
英語科目【H3717】アカデミック・リーディングＩＩ［柳川　浩三］秋学期授業/Fall 493
選択語学系【H3718】基礎英語［谷　智子］春学期授業/Spring 494
英語科目【H3719】アカデミック・リーディングＩ［NEIL CONWAY］春学期授業/Spring 495
英語科目【H3720】アカデミック・リーディングＩＩ［NEIL CONWAY］秋学期授業/Fall 496
選択語学系【H3721】基礎英語［小林　直樹］秋学期授業/Fall 497
選択語学系【H3723】英語中級ライティング［鈴木　幸］春学期授業/Spring 498
選択語学系【H3724】英語中級ライティング［鈴木　幸］秋学期授業/Fall 499
英語科目【H3725】アカデミック・ライティング［KOPROWSKI MARK］秋学期授業/Fall 500
英語科目【H3726】アカデミック・ライティング［KOPROWSKI MARK］春学期授業/Spring 501
英語科目【H3727】アカデミック・ライティング［梨本　邦直］秋学期授業/Fall 502
英語科目【H3729】アカデミック・ライティング［福澤　レベッカ］春学期授業/Spring 503
英語科目【H3730】アカデミック・ライティング［福澤　レベッカ］秋学期授業/Fall 504
英語科目【H3731】アカデミック・ライティング［村上　弥生］秋学期授業/Fall 505
英語科目【H3732】アカデミック・ライティング［北原　久嗣］春学期授業/Spring 506
選択語学系【H3734】英語資格試験準備講座［柳川　浩三］春学期授業/Spring 507
英語科目【H3735】アカデミック・ライティング［川口　悠子］春学期授業/Spring 508
選択語学系【H3741】英語中級コミュニケーション［北原　久嗣］春学期授業/Spring 509
選択語学系【H3742】英語中級コミュニケーション［柳川　浩三］秋学期授業/Fall 510
選択語学系【H3743】英語中級コミュニケーション［北原　久嗣］秋学期授業/Fall 511
選択語学系【H3745】英語中級リーディング［村上　弥生］春学期授業/Spring 512
選択語学系【H3746】英語中級リーディング［村上　弥生］秋学期授業/Fall 513
選択語学系【H3747】英語中級リーディング［福澤　レベッカ］春学期授業/Spring 514
選択語学系【H3749】英語中級ライティング［L　アイヴアニック］春学期授業/Spring 515
選択語学系【H3750】英語中級ライティング［KOPROWSKI MARK］春学期授業/Spring 516
選択語学系【H3751】英語中級ライティング［バリー　ヘイタ］春学期授業/Spring 517
選択語学系【H3752】英語中級ライティング［福澤　レベッカ］春学期授業/Spring 518
選択語学系【H3761】フランス語中級リーディング［元木　淳子］春学期授業/Spring 519
選択語学系【H3762】フランス語中級ライティング［佐藤　正和］春学期授業/Spring 520
選択語学系【H3763】フランス語中級コミュニケーションと文化［荻野　イザベル］秋学期授業/Fall 521
選択語学系【H3765】上級英語［ALDER　mark］春学期授業/Spring 522
選択語学系【H3766】上級スペイン語［日高　憲三］春学期授業/Spring 523
選択語学系【H3767】上級ドイツ語［高橋　完治］春学期授業/Spring 524
選択語学系【H3768】上級フランス語［元木　淳子］春学期授業/Spring 525
選択語学系【H3769】上級中国語［呉　暁林］春学期授業/Spring 526
選択語学系【H3770】上級朝鮮語［魏　聖銓］春学期授業/Spring 527
選択語学系【H3771】中国語中級リーディング［東　会娟］春学期授業/Spring 528
選択語学系【H3772】中国語中級ライティング［呉　暁林］春学期授業/Spring 529
選択語学系【H3773】中国語中級コミュニケーションと文化［東　会娟］秋学期授業/Fall 530
選択語学系【H3775】中国語中級［渡辺　浩司］春学期授業/Spring 531
選択語学系【H3776】中国語表現［渡辺　浩司］秋学期授業/Fall 532
選択語学系【H3778】ビジネス英語［早舩　由紀見］春学期授業/Spring 533
選択語学系【H3779】英語資格試験準備講座［北原　久嗣］秋学期授業/Fall 534
理系教養科目（理科系）【H3781】生命機能学基礎実験　Ｉ［金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、常重　アントニオ、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔］春学期授業/Spring 535
英語科目【H3782】生命機能学基礎英語　Ｉ［金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、常重　アントニオ、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔］秋学期授業/Fall 536
英語科目【H3783】生命機能学基礎英語　ＩＩ［金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、常重　アントニオ、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔］春学期授業/Spring 537
理系教養科目（理科系）【H3784】生命機能学基礎実験　ＩＩ［金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、常重　アントニオ、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔］春学期授業/Spring 538

英語科目【H3785】生命機能学英語　Ⅰ［金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔］秋学期授業/Fall 539
選択語学系【H3786】生命機能学英語　ＩＩ［金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔］春学期授業/Spring 540
選択語学系【H3787】生命機能学英語　ＩＩＩ［金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔］秋学期授業/Fall 541
理系教養科目（数学系）【H3789】線形代数学演習Ⅰ［佐藤　巖］春学期授業/Spring 542
理系教養科目（数学系）【H3790】線形代数学演習Ⅰ［佐藤　巖］春学期授業/Spring 543
理系教養科目（数学系）【H3791】線形代数学演習Ⅰ［間下　克哉］春学期授業/Spring 544
理系教養科目（数学系）【H3792】線形代数学演習Ⅰ［間下　克哉］春学期授業/Spring 545
理系教養科目（数学系）【H3793】線形代数学演習Ⅰ［三橋　秀生］春学期授業/Spring 546
理系教養科目（数学系）【H3794】線形代数学演習Ⅰ［三橋　秀生］春学期授業/Spring 547
理系教養科目（数学系）【H3796】線形代数学演習Ⅰ［大野　修一］秋学期授業/Fall 548
理系教養科目（数学系）【H3797】線形代数学及び演習Ⅰ［神谷　亮］秋学期授業/Fall 549
理系教養科目（数学系）【H3798】微分積分学演習Ⅰ［清田　正夫］春学期授業/Spring 550
理系教養科目（数学系）【H3799】微分積分学演習Ⅰ［清田　正夫］春学期授業/Spring 551
理系教養科目（数学系）【H3800】微分積分学演習Ⅰ［森田　純］春学期授業/Spring 552
理系教養科目（数学系）【H3801】微分積分学演習Ⅰ［森田　純］春学期授業/Spring 553
理系教養科目（数学系）【H3802】微分積分学演習Ⅰ［塚田　和美］春学期授業/Spring 554
理系教養科目（数学系）【H3803】微分積分学演習Ⅰ［陸名　雄一］春学期授業/Spring 555
理系教養科目（数学系）【H3805】微分積分学演習Ⅰ［大野　修一］秋学期授業/Fall 556
理系教養科目（数学系）【H3806】微分積分学及び演習Ⅰ［神谷　亮］秋学期授業/Fall 557
理系教養科目（数学系）【H3807】入門数学［大野　修一］春学期授業/Spring 558
理系教養科目（数学系）【H3808】入門物理学［湯口　秀敏］春学期授業/Spring 559
スポーツ健康科学系【H3810】スポーツ健康科学実習Ⅰ［高橋　正則］春学期授業/Spring 560
スポーツ健康科学系【H3811】スポーツ健康科学実習Ⅰ［高橋　正則］春学期授業/Spring 561
スポーツ健康科学系【H3812】スポーツ健康科学実習Ⅰ［竹内　洋輔］春学期授業/Spring 562
スポーツ健康科学系【H3813】スポーツ健康科学実習Ⅰ［竹内　洋輔］春学期授業/Spring 563
スポーツ健康科学系【H3814】スポーツ健康科学実習Ⅰ［植村　直己］春学期授業/Spring 564
スポーツ健康科学系【H3815】スポーツ健康科学実習Ⅰ［高橋　正則］秋学期授業/Fall 565
スポーツ健康科学系【H3816】スポーツ健康科学実習Ⅰ［高橋　正則］秋学期授業/Fall 566
スポーツ健康科学系【H3817】スポーツ健康科学実習Ⅰ［竹内　洋輔］秋学期授業/Fall 567
スポーツ健康科学系【H3818】スポーツ健康科学実習Ⅰ［竹内　洋輔］秋学期授業/Fall 568
スポーツ健康科学系【H3819】スポーツ健康科学実習Ⅰ［植村　直己］秋学期授業/Fall 569
スポーツ健康科学系【H3820】スポーツ健康科学実習Ⅱ［金光　興二］春学期授業/Spring 570
スポーツ健康科学系【H3821】スポーツ健康科学実習Ⅱ［金光　興二］春学期授業/Spring 571
スポーツ健康科学系【H3822】スポーツ健康科学実習Ⅱ［金光　興二］春学期授業/Spring 572
スポーツ健康科学系【H3823】スポーツ健康科学実習Ⅱ［金光　興二］春学期授業/Spring 573
スポーツ健康科学系【H3824】スポーツ健康科学実習Ⅱ［金光　興二］春学期授業/Spring 574
スポーツ健康科学系【H3825】スポーツ健康科学実習Ⅱ［金光　興二］秋学期授業/Fall 575
スポーツ健康科学系【H3826】スポーツ健康科学実習Ⅱ［金光　興二］秋学期授業/Fall 576
スポーツ健康科学系【H3827】スポーツ健康科学実習Ⅱ［金光　興二］秋学期授業/Fall 577
スポーツ健康科学系【H3828】スポーツ健康科学実習Ⅱ［金光　興二］秋学期授業/Fall 578
スポーツ健康科学系【H3829】スポーツ健康科学実習Ⅱ［金光　興二］秋学期授業/Fall 579
スポーツ健康科学系【H3830】スポーツ健康科学実習Ⅲ［越智　英輔］春学期授業/Spring 580
スポーツ健康科学系【H3831】スポーツ健康科学実習Ⅲ［植田　央］春学期授業/Spring 581
スポーツ健康科学系【H3832】スポーツ健康科学実習Ⅲ［越智　英輔］春学期授業/Spring 582
スポーツ健康科学系【H3833】スポーツ健康科学実習Ⅲ［高田　佑輔］春学期授業/Spring 583
スポーツ健康科学系【H3834】スポーツ健康科学実習Ⅲ［越智　英輔］春学期授業/Spring 584
スポーツ健康科学系【H3835】スポーツ健康科学実習Ⅲ［越智　英輔］秋学期授業/Fall 585
スポーツ健康科学系【H3836】スポーツ健康科学実習Ⅲ［植田　央］秋学期授業/Fall 586
スポーツ健康科学系【H3837】スポーツ健康科学実習Ⅲ［越智　英輔］秋学期授業/Fall 587
スポーツ健康科学系【H3838】スポーツ健康科学実習Ⅲ［高田　佑輔］秋学期授業/Fall 588
スポーツ健康科学系【H3839】スポーツ健康科学実習Ⅲ［越智　英輔］秋学期授業/Fall 589
スポーツ健康科学系【H3840】スポーツ健康科学実習Ⅳ［植田　央］春学期授業/Spring 590
スポーツ健康科学系【H3841】スポーツ健康科学実習Ⅳ［越智　英輔］春学期授業/Spring 591
スポーツ健康科学系【H3842】スポーツ健康科学実習Ⅳ［植村　直己］春学期授業/Spring 592

スポーツ健康科学系【H3843】スポーツ健康科学実習Ⅳ［植村　直己］春学期授業/Spring 593
スポーツ健康科学系【H3844】スポーツ健康科学実習Ⅳ［高田　佑輔］春学期授業/Spring 594
スポーツ健康科学系【H3845】スポーツ健康科学実習Ⅳ［植田　央］秋学期授業/Fall 595
スポーツ健康科学系【H3846】スポーツ健康科学実習Ⅳ［街　勝憲］秋学期授業/Fall 596
スポーツ健康科学系【H3847】スポーツ健康科学実習Ⅳ［植村　直己］秋学期授業/Fall 597
スポーツ健康科学系【H3848】スポーツ健康科学実習Ⅳ［植村　直己］秋学期授業/Fall 598
スポーツ健康科学系【H3849】スポーツ健康科学実習Ⅳ［高田　佑輔］秋学期授業/Fall 599
スポーツ健康科学系【H3850】スポーツ健康科学講義Ⅰ［街　勝憲］春学期授業/Spring 600
スポーツ健康科学系【H3851】スポーツ健康科学講義Ⅰ［街　勝憲］秋学期授業/Fall 601
スポーツ健康科学系【H3852】スポーツ健康科学講義Ⅱ［高田　佑輔］春学期授業/Spring 602
スポーツ健康科学系【H3853】スポーツ健康科学講義Ⅱ［高田　佑輔］秋学期授業/Fall 603
英語科目【H3854】アカデミック・ライティング［L　アイヴアニック］秋学期授業/Fall 604
理系教養科目（理科系）【H7559】フロンティアバイオサイエンス入門［金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔、矢野　幸子、伊藤　賢太郎］秋学期授業/Fall 605

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

余田　亜希

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
英語の語彙を増やし、定型表現を習得する。文法的に正しい表現を用いて英語でコミュニケーションがとれるようにする。原稿を読むのではなく、考えて話す能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1 回の授業で教科書の 1 ユニット分進める。教科書の本文と文法を確認したあと、学生同士でペアワークやグループディスカッションを行う。授業の最後にはまとめとして教科書の内容について簡単な口頭発表を実施することもある。なお提出された課題のフィードバックは原則として授業時に行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 自己紹介	授業の進め方、成績評価基準についての説明 学生による自己紹介
2	Unit 1　入国審査	予定を尋ねる 別れ際の挨拶
3	Unit 2　税関検査	指示する 依頼する
4	Unit 3　空港での出迎え	自己紹介する 感謝する
5	Unit 4　ホームステイ 1	提案する 許可を求める
6	Unit 5　語学研修	予定を述べる 詳細を尋ねる
7	Unit 6　ホームステイ 2	様子を尋ねる あいづちを打つ
8	Unit 7　レストラン	注文する 希望を尋ねる
9	Unit 8　病院	期間を尋ねる 症状を述べる
10	Unit 9　道案内	援助を求める 道順を示す
11	Unit 10　観光地	援助を求める 確認を求める
12	Unit 11　遺失物取扱所	問題を述べる 確信を示す
13	口頭試問	授業で扱ったトピックについて個別に 5 分程度のインタビューを行う
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
事前に教科書に指定された URL にアクセスして音声をダウンロードし、予習してから出席すること。テキストのわからない単語は辞書で調べること。その際、類義語と反意語に注目すること。授業で耳にした修辞法や定型の言い回しは徹底して練習すること。

【テキスト（教科書）】
『Let's Read Aloud & Learn English: Going Abroad 音読で学ぶ基礎英語《海外生活編》』成美堂　￥2,200（税別）

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時の指名に対する応答と課題の提出　25 %
口頭試問　25 %
期末試験　50 %
欠席回数が 5 回となった時点で単位取得の資格を失う。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回と見なす。
30 分以上の遅刻・早退は欠席として取り扱う。
教科書を所持していない場合は欠席扱いとなることがある。

【学生の意見等からの気づき】
個別のフィードバックを増やしていきたい。

【その他の重要事項】
教室での対面授業では、スマートフォンやタブレットなどの通信機器の使用を禁止する。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

太田　美智子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的としている。日常生活に関わる会話になれることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の修得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるようにする。

【到達目標】
The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.
At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of Class Rules. Get to know each other.
2	Unit 1	The woman in the Picture
3	Unit 2	Back to Titanic
4	Unit 3	Leaving Port
5	Unit 4	Don’t do it!
6	quiz	Quiz
7	Unit 5	Do you love him?
8	Unit 6	I can’t see you
9	Unit 7	I’m flying!
10	Unit 8	Iceberg right ahead!
11	quiz	quiz
12	Unit 9	An Honest Thief
13	Unit 10	Goodbye, mother
14	quiz	quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】You are expeceted to preview each lesson.

【テキスト（教科書）】
Learn English with TITANIC, Teruhiko Kadoyama, Simon Capper, Sebido, 2016, 2300yen

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Class work and participation 30%
Short reports 20%
Examinations 50%

【学生の意見等からの気づき】
Learning English through movies are effective. Let’s study English together.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develope the communicative competence necesary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broard ability to commnicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students’ own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

大石　文雄

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。基本的な英語の発音の習得から、日常会話表現に慣れるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。

【到達目標】
1) 英語の音声に慣れ，リスニング能力を高める。
2) 初歩的な日常会話表現を使えるようになる。
3) 簡単なスピーチ (自己紹介)，プレゼンテーションができるようなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に４つのパートで構成される。最初に「Listening Test」を行い，次にテキスト『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS』を使い英語発音の基礎を学ぶ。次にプリントを使い「日常会話表現」を学び，最後に「挨拶・相づちの表現／スピーチ (自己紹介) の基本表現／プレゼンテーションの基本表現」を学ぶ。授業はペアワーク，個人発表を取り入れながら進めるので，受講者の積極的な姿勢が望まれる。
授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。
最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけではなく，授業内で毎回実施した「Listening Test」に対する講評や解説を行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容の説明
第 2 回	発音練習・日常会話表現・挨拶の英語表現	① Listening Test 1 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 3』 ③日常会話表現： Could I ～ ? / Let me ～ ④挨拶の英語表現
第 3 回	発音練習・日常会話表現・相づちの英語表現	① Listening Test 2 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 4』 ③日常会話表現： I need to ～ / I hope you ～ ④相づちの英語表現
第 4 回	発音練習・日常会話表現・自己紹介の英語	① Listening Test 3 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 5』 ③日常会話表現： If possible, I'd like to ～ / Do you mind if we ～ ? ④自己紹介の英語：基本表現の確認
第 5 回	発音練習・日常会話表現・自己紹介の英語（発表）	① Listening Test 4 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 6』 ③日常会話表現： Would you like to ～ ? / Why don't we ～ ? ④自己紹介の英語：発表
第 6 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 5 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 7』 ③日常会話表現： Maybe we should ～ / How about ～ing ? ④プレゼンテーションの英語：Basics of Oral Presentation
第 7 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 6 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 8』 ③日常会話表現： Could you ～ ? / Would you mind ～ing ? ④プレゼンテーションの英語：Informative Presentation（Time）
第 8 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 7 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 9』 ③日常会話表現： I don't mind ～ing / I think I'd rather ～ ④プレゼンテーションの英語：Informative Presentation（Place）
第 9 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 8 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 10』 ③日常会話表現： I'm not sure, but I think SV / I'm pretty sure that SV ④プレゼンテーションの英語：Informative Presentation（Topical pattern）
第 10 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 9 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 11』 ③日常会話表現： I'm sorry, but I ～ / I'm afraid I can't ～ ④プレゼンテーションの英語：Informative Presentation（Classification pattern）
第 11 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 10 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 12』 ③日常会話表現： I used to ～ / I'm going to ～ ④プレゼンテーションの英語：Informative Presentation（Concepts）
第 12 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 11 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 13』 ③日常会話表現： There's something I ～/ I'm looking forward to ～ing ④プレゼンテーションの英語：Informative Presentation（Advantages & Disadvantages）
第 13 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 12 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 14』 ③日常会話表現：総復習 ④プレゼンテーションの英語：Persuasive Presentations（Questions of Value）
第 14 回	End-of-term test（学期末試験）	学習内容の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・「音声教材」をダウンロードし，予習及び復習で活用すること。
・「授業中の指示」に従って，発表のための課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ：金星堂

【参考書】
必要に応じて，授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席 2/3 以上，学期末試験 60%、平常点 40%（毎時実施する「Listening Test」の成績を含む）として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
英語の発音について，基本的なところから教え，また，Listening の力の伸びを測定すべく毎時「Listening Test」を実施する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
辞書を毎回必ず持参すること（電子辞書も可）。遅刻・早退は３回をもって欠席１回とみなす。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from acquiring basic knowledge of English pronunciation to getting used to daily conversational expressions, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

川島　るり子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
実用的な英語文法を軸におきつつ、具体例を通して様々なコンテクストにおける英語の表現を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。毎回の講義の理解度を測る課題を提出してもらいます。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。授業形態は対面授業（状況によりハイブリッド型、オンデマンド型）を予定しています。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	時制のはなし（1）	現在と過去、現在時制
第 3 回	時制のはなし（2）	過去時制、時制の一致
第 4 回	完了形・進行形のはなし（1）	現在完了、過去完了、動態動詞の進行形
第 5 回	完了形・進行形のはなし（2）	状態動詞と進行形、完了進行形
第 6 回	法助動詞のはなし（1）	法助動詞、根源的用法、推量的用法
第 7 回	法助動詞のはなし（2）	擬似法助動詞、未来に言及する色々な表現、縮約形
第 8 回	命令・依頼・懇願など	文の種類とその用途、遠慮のない命令・要請、要請・依頼・懇願、許可の求め方、依頼その他のイントネーション
第 9 回	助言・批判・警告など	助言・忠告、勧誘、助力の申し出、文句の付け方、警告・脅かし
第 10 回	依頼・助言・警告などへの対応	居丈高な命令への対応、依頼・許可要請などに対する応諾、拒絶・謝絶・反発等
第 11 回	知的情報交換	確認、意見・知見の訊ね方・述べ方、賛成・反対、反論・批判の回避術
第 12 回	潤滑油としてのことば	交換的言語使用、同情・悔やみなど、come と go、bring と take など、謝辞・賛辞・世辞・祝辞など、格好の付け方
第 13 回	イントネーション	イントネーションの重要性、どこを強く、どこを弱く発音するか、上昇と下降
第 14 回	まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする
当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容を復習し課題に取り組みます（各2時間）。

【テキスト（教科書）】
今井邦彦著『英語の使い方』大修館書店 1,600 円＋税 978-4-469-14138-2

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加と毎週の課題への取り組み）　１００％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

NEIL CONWAY

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
• choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrange of media
• write an effective summary paragraph
• write an analytical book report
• make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
• carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form. During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be ccovered.	Students will recieve guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.
Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】
No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】
Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_
and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
A good dictionary is required. One example is:
Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Homework: 30%
Class performance (effort, participation, presentations): 30%
Project Work: 40%

【学生の意見等からの気づき】
Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice with MLA.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx format: not PDF, Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the “Announcements” section of the course site.* Students will also be instructed to regularly visit the “Forums” section in order to communicate with other students, give and receive support etc.
Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.
Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes
an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not. *You may not use a smartphone for this purpose*

【その他の重要事項】
This class has a strict “NO Smartphones” policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students’ own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

北原　久嗣

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
具体例に取り組むなか、文脈レベルの英語の文体（スタイル）を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式に加え、ディスカッションを行います。学生の積極的な参加を期待します。また、授業内テストを適宜行い、テキスト・配布資料に対する学生の理解度を確認します。フィードバックは、授業内、学習支援システム、メール（hisatsugu.kitahara.87@hosei.ac.jp）で行う予定です。授業形態は対面授業（状況によってはハイブリッド型、オンデマンド型）を予定しています。詳しくは授業開始時に指示しますが、毎週課題に取り組み、その総合点を成績評価の基準とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	時制のはなし（1）	現在と過去、現在時制
第 3 回	時制のはなし（2）	過去時制、時制の一致
第 4 回	完了形・進行形のはなし（1）	現在完了、過去完了、動態動詞の進行形
第 5 回	完了形・進行形のはなし（2）	状態動詞と進行形、完了進行形
第 6 回	法助動詞のはなし（1）	法助動詞、根源的用法、推量的用法
第 7 回	法助動詞のはなし（2）	擬似法助動詞、未来に言及する色々な表現、縮約形
第 8 回	命令・依頼・懇願など	文の種類とその用途、遠慮のない命令・要請、要請・依頼・懇願、許可の求め方、依頼その他のイントネーション
第 9 回	助言・批判・警告など	助言・忠告、勧誘、助力の申し出、文句の付け方、警告・脅かし
第 10 回	依頼・助言・警告などへの対応	居丈高な命令への対応、依頼・許可要請などに対する応諾、拒絶・謝絶・反発等
第 11 回	知的情報交換	確認、意見・知見の訊ね方・述べ方、賛成・反対、反論・批判の回避術
第 12 回	潤滑油としてのことば	交換的言語使用、同情・悔やみなど、come と go、bring と take など、謝辞・賛辞・世辞・祝辞など、格好の付け方
第 13 回	イントネーション	イントネーションの重要性、どこを強く、どこを弱く発音するか、上昇と下降
第 14 回	理解度の確認・まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テキスト・配布資料の予習（当該授業で扱う章を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと）と復習（当該授業で扱った内容を復習し、例文を身につけ毎週の課題に取り組むこと）は不可欠です。

【テキスト（教科書）】
今井邦彦著『英語の使い方』大修館書店 1,600 円＋税 978-4-469-14138-2

【参考書】
中村駿夫著『発音記号の正しい読み方』SHORYUDO 291 円＋税 978-4-399-03099-2
その他、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加と毎週の課題への取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎週の課題への取り組みを重視します。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることもあります。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

余田　亜希

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
英語の語彙を増やし、定型表現を習得する。文法的に正しい表現を用いて英語でコミュニケーションがとれるようにする。原稿を読むのではなく、考えて話す能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1 回の授業で教科書の 1 ユニット分進める。教科書の本文と文法を確認したあと、学生同士でペアワークやグループディスカッションを行う。授業の最後にはまとめとして教科書の内容について簡単な口頭発表を実施することもある。なお提出された課題のフィードバックは原則として授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 自己紹介	授業の進め方、成績評価基準についての説明 学生による自己紹介
2	Unit 1　入国審査	予定を尋ねる 別れ際の挨拶
3	Unit 2　税関検査	指示する 依頼する
4	Unit 3　空港での出迎え	自己紹介する 感謝する
5	Unit 4　ホームステイ 1	提案する 許可を求める
6	Unit 5　語学研修	予定を述べる 詳細を尋ねる
7	Unit 6　ホームステイ 2	様子を尋ねる あいづちを打つ
8	Unit 7　レストラン	注文する 希望を尋ねる
9	Unit 8　病院	期間を尋ねる 症状を述べる
10	Unit 9　道案内	援助を求める 道順を示す
11	Unit 10　観光地	援助を求める 確認を求める
12	Unit 11　遺失物取扱所	問題を述べる 確信を示す
13	口頭試問	授業で扱ったトピックについて個別に 5 分程度のインタビューを行う
14	期末試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
事前に教科書に指定された URL にアクセスして音声をダウンロードし、予習してから出席すること。テキストのわからない単語は辞書で調べること。その際、類義語と反意語に注目すること。授業で耳にした修辞法や定型の言い回しは徹底して練習すること。

【テキスト（教科書）】
『Let's Read Aloud & Learn English: Going Abroad 音読で学ぶ基礎英語《海外生活編》』成美堂　￥2,200（税別）

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時の指名に対する応答と課題の提出　25 %
口頭試問　25 %
期末試験　50 %
欠席回数が 5 回となった時点で単位取得の資格を失う。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回と見なす。
30 分以上の遅刻・早退は欠席として取り扱う。
教科書を所持していない場合は欠席扱いとなることがある。

【学生の意見等からの気づき】
個別のフィードバックを増やしていきたい。

【その他の重要事項】
教室での対面授業では、スマートフォンやタブレットなどの通信機器の使用を禁止する。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens.　Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

磯部　芳恵

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
TOEIC 教材でリスニング力を増強しながら、DVD 教材で日常英会話でよく使われる表現を学び、自分の意見を表現できるコミュニケーション力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
今年度はスケジュール通りに開講する。TOEIC 教材でリスニングのあと、メインテキストで演習する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	授業の進め方、評価方法について説明する。
第 2 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	単語、リスニング。
第 3 回	Unit 1	内容理解問題、ディスカッション。
第 4 回	Unit　2 Andy's First Day at Runway	単語、リスニング。
第 5 回	Unit 2	リスニング。
第 6 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	内容理解問題、ディスカッション。
第 7 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	内容理解問題。
第 8 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	単語、リスニング。
第 9 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	内容理解問題。
第 10 回	Unit　5 Andy Performs a Miracle	単語、リスニング。
第 11 回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	内容理解問題。
第 12 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	単語、リスニング。
第 13 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	内容理解問題。
第 14 回	Review	Unit 1-5 の復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】読解、単語、英作文は予習する。

【テキスト（教科書）】
The Devil Wears Prada(松柏社）2,200 円。
『TOEIC TEST リスニング スピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円。

【参考書】
必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時の指名に対する応答　25 %
口頭試問　25 %
期末試験　50 %
欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回と見なす。
30 分以上の遅刻・早退は欠席として取り扱う。
教科書を所持していない場合は欠席扱いとなることがある。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間を多くする。

【その他の重要事項】
・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・３０分以内の遅刻、早退は３回で１回とみなします。
・３０分以上の遅刻、早退は欠席１回として扱います。
・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血でき、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

磯部　芳恵

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
TOEIC 教材でリスニング力を増強しながら、DVD 教材で日常生活でよく使われる表現を学び、自分の意見を表現できるコミュニケーション力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初の 20 分間は TOEIC 教材を使う。メインのテキストは、前半は単語、リスニング中心で、後半は内容理解、ディスカッション中心に行う。今年度はスケジュール通りに開講します。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	授業の進め方、評価方法について説明する。
第 2 回	Unit 1 Meeting Truman	単語、リスニング。
第 3 回	Unit 1 Meeting Truman	内容理解問題。
第 4 回	Unit　2 Fear of the Ocean	単語、リスニング。
第 5 回	Unit 2 Fear of the Ocean	内容理解問題。
第 6 回	Unit 3 Lauren & Sylvia	単語、リスニング。
第 7 回	Unit 3 Lauren & Sylvia	内容理解問題。
第 8 回	Unit 4 Something Strange Is Going On	単語、リスニング。
第 9 回	Unit 4 Something Strange Is Going On	内容理解問題。
第 10 回	Unit　5 Truman Tries to Leave	単語、リスニング。
第 11 回	Unit 5 Truman Tries to Leave	内容理解問題。
第 12 回	Unit 6 Truman and Meryl Go for a Ride	単語、リスニング。
第 13 回	Unit 6 Truman and Meryl Go for a Ride	内容理解問題。
第 14 回	Review	Unit 1-5 の復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】読解、単語、英作文は予習して提出。

【テキスト（教科書）】
The Truman Show(松柏社）2,100 円。
『TOEIC TEST リスニング　スピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円。

【参考書】
必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業時の指名に対する応答　25 %
口頭試問　25 %
期末試験　50 %
欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回と見なす。
30 分以上の遅刻・早退は欠席として取り扱う。
教科書を所持していない場合は欠席扱いとなることがある。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間を多くする。

【その他の重要事項】
・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・３０分以内の遅刻、早退は３回で１回とみなします。
・３０分以上の遅刻、早退は欠席１回として扱います。
・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血でき、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens.　Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

ALDER　mark

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This class will be student centred, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.
Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Personality	Talking about lifestyle choices
3	Family	Students will have the opportunity to talk about some of their favorite things.
4	Advice	Students will have the opportunity to talk about problems and brainstorm solutions to these problems.
5	Technology	Discussing possessions and tech features
6	Bullying	DVD listening and storytelling
7	Sports and Hobbies	Explaining favourite games to others in small groups.
8	First conversation	Partner work to show consolidation of the first six chapters of the course.
9	Smart cities	Students will discuss a variety of scenarios about our future world
10	Survival	Talk about different kinds of natural disasters that have happened recently.
11	Work	Students will discuss work, bosses and interesting coworkers.
12	DVD strange stories	Students will discuss Practice listening and storytelling
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique.
14	Final conversation	Partner based conversation to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
Most of the work done outside class will be listening tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】
Evolve Student book 3B.
Cambridge University Press

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
mid-term assessment 30%
Final assessment 30%
Homework and weekly class assignments40%

【学生の意見等からの気づき】
There will be more emphasis on talking about small everyday aspects of student life.

【学生が準備すべき機器他】
CD player, Blackboard

【None】
None

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

ALDER　mark

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This class will be student centred, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.
Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Personality	Talking about lifestyle choices
3	Family	Students will have the opportunity to talk about some of their favorite things.
4	Advice	Students will have the opportunity to talk about problems and brainstorm solutions to these problems.
5	Technology	Discussing possessions and tech features
6	Bullying	DVD listening and storytelling
7	Sports and Hobbies	Explaining favourite games to others in small groups.
8	First conversation	Conversation work to show consolidation of the first six chapters of the course.
9	smart cities	Students will discuss a variety of scenarios about our future world
10	Survival	Talk about different kinds of natural disasters that have happened recently.
11	Work	Students will discuss work, bosses and interesting coworkers.
12	DVD strange stories	Students will practice listening and storytelling
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique.
14	Final conversation	Partner based conversation/storytelling to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】All of the work done outside class will be listening tasks and text work assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】
Evolve Student book 3B
Cambridge University Press. 2019

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Mid term assessment 30%
Final assessment 30%
Homework and weekly class assignments 40%

【学生の意見等からの気づき】
There will be more emphasis on talking about small everyday aspects of student life.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionary

【None】
None

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

大石　文雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。基本的な英語の発音の習得から、日常会話表現に慣れるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。

【到達目標】
1) 英語の音声に慣れ，リスニング能力を高める。
2) 初歩的な日常会話表現を使えるようになる。
3) 簡単なスピーチ (自己紹介)，プレゼンテーションができるようなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に４つのパートで構成される。最初に「Listening Test」を行い，次にテキスト『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS』を使い英語発音の基礎を学ぶ。次にプリントを使い「日常会話表現」を学び，最後に「挨拶・相づちの表現／スピーチ (自己紹介) の基本表現／プレゼンテーションの基本表現」を学ぶ。授業はペアワーク，個人発表を取り入れながら進めるので，受講者の積極的な姿勢が望まれる。
授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。
最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけではなく，授業内で毎回実施した「Listening Test」に対する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容の説明
第 2 回	発音練習・日常会話表現・挨拶の英語表現	① Listening Test 1 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 3』 ③日常会話表現： Could I ～ ? / Let me ～ ④挨拶の英語表現
第 3 回	発音練習・日常会話表現・相づちの英語表現	① Listening Test 2 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 4』 ③日常会話表現： I need to ～ / I hope you ～ ④相づちの英語表現
第 4 回	発音練習・日常会話表現・自己紹介の英語	① Listening Test 3 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 5』 ③日常会話表現： If possible, I'd like to ～ / Do you mind if we ～ ? ④自己紹介の英語：基本表現の確認
第 5 回	発音練習・日常会話表現・自己紹介の英語（発表）	① Listening Test 4 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 6』 ③日常会話表現： Would you like to ～ ? / Why don't we ～ ? ④自己紹介の英語：発表
第 6 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 5 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 7』 ③日常会話表現： Maybe we should ～ / How about ～ing ? ④プレゼンテーションの英語：Basics of Oral Presentation
第 7 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 6 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 8』 ③日常会話表現： Could you ～? / Would you mind ～ing ? ④プレゼンテーションの英語：Informative Presentation（Time）
第 8 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 7 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 9』 ③日常会話表現： I don't mind ～ing / I think I'd rather ～ ④プレゼンテーションの英語：Informative Presentation（Place）
第 9 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 8 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 10』 ③日常会話表現： I'm not sure, but I think SV / I'm pretty sure that SV ④プレゼンテーションの英語：Informative Presentation（Topical pattern）
第 10 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 9 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 11』 ③日常会話表現： I'm sorry, but I ～ / I'm afraid I can't ～ ④プレゼンテーションの英語：Informative Presentation（Classification pattern）
第 11 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 10 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 12』 ③日常会話表現： I used to ～ / I'm going to ～ ④プレゼンテーションの英語：Informative Presentation（Concepts）
第 12 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 11 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 13』 ③日常会話表現： There's something I ～/ I'm looking forward to ～ing ④プレゼンテーションの英語：Informative Presentation（Advantages & Disadvantages）
第 13 回	発音練習・日常会話表現・プレゼンテーションの英語	① Listening Test 12 ②発音練習：『ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ： Unit 14』 ③日常会話表現：総復習 ④プレゼンテーションの英語：Persuasive Presentations（Questions of Value）
第 14 回	End-of-term test（学期末試験）	学習内容の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・「音声教材」をダウンロードし，予習及び復習で活用する。
・「授業中の指示」に従って，発表のための課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
ENGLISH SOUNDS, ENGLISH MINDS ：金星堂

【参考書】
必要に応じて，授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席 2/3 以上，学期末試験 60%，平常点 40%（毎時実施する「Listening Test」の成績を含む）として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
英語の発音について，基本的なところから教え，また，Listening の力の伸びを測定すべく毎時「Listening Test」を実施する。

【その他の重要事項】
辞書を毎回必ず持参すること（電子辞書も可）。遅刻・早退は３回をもって欠席１回とみなす。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from acquiring basic knowledge of English pronunciation to getting used to daily conversational expressions, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

太田　美智子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的としている。日常生活に関わる会話になれることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の修得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるようにする。

【到達目標】
The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.
At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of Class Rules. Get to know each other.
2	Unit 1	The woman in the Picture
3	Unit 2	Back to Titanic
4	Unit 3	Leaving Port
5	Unit 4	Don't do it!
6	quiz	Quiz
7	Unit 5	Do you love him?
8	Unit 6	I can't see you
9	Unit 7	I'm flying!
10	Unit 8	Iceberg right ahead!
11	quiz	quiz
12	Unit 9	An Honest Thief
13	Unit 10	Goodbye, mother
14	quiz	quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】You are expeceted to preview each lesson.

【テキスト（教科書）】
Learn English with TITANIC, Teruhiko Kadoyama, Simon Capper, Sebido, 2016, 2300yen

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Class work and participation 30%
Short reports 20%
Examinations 50%

【学生の意見等からの気づき】
Learning English through movies are effective.　Let's study English together.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develope the communicative competence necesary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broard ability to commnicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens.　Based on a firm foundation of basic sklls, the class focuses on the future needs and interests of students.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

NEIL CONWAY

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
• choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrange of media
• write an effective summary paragraph
• write an analytical book report
• make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
• carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form. During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be ccovered.	Students will recieve guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.
Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】
No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】
Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_
and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
A good dictionary is required. One example is:
Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Homework: 30%
Class performance (effort, participation, presentations): 30%
Project Work: 40%

【学生の意見等からの気づき】
Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice with MLA.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx format: not PDF, Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the “Announcements” section of the course site.* Students will also be instructed to regularly visit the “Forums” section in order to communicate with other students, give and receive support etc.
Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.
Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes
an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not. *You may not use a smartphone for this purpose*

【その他の重要事項】
This class has a strict “NO Smartphones” policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students’ own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

久慈　美貴

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語を実社会で使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活にかかわる会話に慣れ、身の回りのことを英語で説明する練習をする。幅広いコミュニケーション力の習得と、異文化に対する理解を深めることを目標とする。

【到達目標】
日常的に使用する基礎語彙を使い、基礎的な文法に沿って平明な説明を口頭でできる。対話を深め、より多くの情報を取得するために、多面的な質問を多く発することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
配布プリントのスキットを参考に語彙を増やし、表現練習をする。プリントを配布し、ペア・ワークやグループ・ワークで、トピックに関するインタビュー＆レポートを作成したり、ロールプレイをする。また、翌週のテーマに関連したボキャブラリーシートを配布するので、あらかじめ発音や用法を調べておいてほしい。提出課題は授業時に返却し、質問を受け付ける。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Getting to Know Your Group(Speculating)	かんたんな ice-breaking game とインタヴューを通じて、グループ内またはペアワークのパートナーを描写してみよう。
2	Getting to Know Your Group(Role-playing)	4 人程度のグループに分かれ、配布プリントの役割指定にしたがって、会話スキットを作成し、演じてもらいます
3	Annual event	日常会話のスキットを使って、日本の慣習を説明してみましょう。
4	Presentation: Annual event	グループで構成した Annual event の説明会話スキットを演じてみましょう。
5	Lifestyle Survey I（on food)	Interview of your lifestyle（より詳しい情報を得るための follow-up question を考える）
6	Lifestyle Survey II (on expense)	Interview of your lifestyle
7	Transportation	日常会話のスキットを使って、時間・場所・方向などを表す前置詞を練習します。
8	Making up a scene	日常会話のスキットを使って、グループごとにシーンを構成し、演じて見ましょう。
9	Situations from dialogue	一連のインタヴューを完成させ、シチュエーションを明確にするために必要な表現を考えてみましょう。
10	Guess What?(Making Questions)	Yes/No Question & Wh-Question
11	Speculation from the appearnce of people	詳細情報を得るために有効な質問をできるだけたくさん考えてみましょう。
12	Explaining the Scene	Making explanation on a short movie
13	Review and preparation for the final interview	詳細情報を得るために必要な質問を考えてみましょう。
14	Final Interview	Interview and Report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本受業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
会話スキットのプリントやボキャブラリーシートを配布するので、発音・語彙をチェックしてください。グループ指定してインタヴューや会話スキットの作成をしますので、事前にどんな表現ができるか、考えてみましょう。より多くの情報を盛り込むために、自分で Further Questions を設定し、それに答えるなどのステップを踏んで、十分な説明を行う練習をしましょう。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布

【参考書】
随時プリントを配布します。授業時はかならず辞書を携行してください。

【成績評価の方法と基準】
Interview session のレポート 20 %、授業時の発表（レポート、スピーチ）およびボキャブラリークイズなどの提出物 80 %として評価する。3 回以上欠席した場合、評価の対象としない。遅刻も回数に応じて減点されるので、注意のこと。スピーチやグループワークでのインタヴューなど平常点の評価割合が大きいので、欠席しないようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
When you have any question on what you have to do during the class, please don't hesitate to ask. Try to make sure what you should do to complete the task. Asking questions to get information is important part of this class.

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない。

【その他の重要事項】
授業時は必ず辞書を携行してください。
ペアワークやグループワークの際、相手から情報を引き出すために、どんどん follow-up question を考えて、使ってみましょう。とにかく口に出してみる、そして修正する、という練習の繰り返しです。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. Let's try to accustomed to the expressions of everyday-English and try to explain what you do or think of in English. Our goal is to get good communication skills and to have better understanding of foreign culture.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

KOPROWSKI MARK

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.
Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.
Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and explanation	The teacher and students will have an opportunity to introduce and talk about themselves
第 2 回	Unit 1 Good to Meet You	Key Vocabulary: Meeting someone for the first time Speaking/Listening: Meeting someone new Conversation Strategy 1: Meeting people Conversation Strategy 2: Bouncing
第 3 回	Unit 2 It Runs in the Family	Key Vocabulary: Physical and personality adjectives Speaking/Listening: Family Conversation Strategy 1: Getting time to think Conversation Strategy 2: Asking for More information
第 4 回	Unit 3 School Daze	Key vocabulary: School Speaking/Listening: School life Conversation Strategy 1: Agreeing Conversation Strategy 2: Disagreeing
第 5 回	Unit 4 You Are What You Eat	Key Vocabulary: Food Speaking/Listening: Food and exercise Conversation Strategy 1: Getting more information Conversation Strategy 2: Getting more details
第 6 回	Unit 5 Shop Till You Drop Unit 6 TGIF (Review 1)	Key Vocabulary: Shopping Speaking/Listening: Going shopping Conversation Strategy 1: Explaining Conversation Strategy 2: Body language
第 7 回	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	5 to 6-minute speaking test (in pairs)
第 8 回	Unit 7 Friends	Key vocabulary: Friends Speaking/Listening: Friends Conversation Strategy 1: Using tag questions Conversation Strategy 2: Giving compliments
第 9 回	Unit 8 Road Trip	Key Vocabulary: Travel Speaking/Listening:: Travel Conversation Strategy 1: Making suggestions Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
第 10 回	Unit 9 Blind Date	Key vocabulary: Dating Speaking/Listening: Dating Conversation Strategy 1: Checking for understanding Conversation Strategy 2: Summarizing
第 11 回	Unit 10 Job Hunting	Key vocabulary: Work Speaking/Listening: Work Conversation Strategy 1: Changing direction Conversation Strategy 2: Changing the topic
第 12 回	Unit 11 Let's Catch a Flick	Key vocabulary: Movies Speaking/Listening: Movies Conversation Strategy 1: Sharing news Conversation Strategy 2: Reacting to news
第 13 回	FINAL EXAMINATION: Part 1 (paper test)	Practice for final speaking examination
第 14 回	FINAL EXAMINATION: Part 2 (speaking)	5 to 6-minute speaking test (in pairs)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】
By the Way... : Strategies for Successful Conversation
Authors: Michael Hensley & Bill Burns
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

【参考書】
An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:
http://www.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments: 20%
Mid-term examination (paper test):20%
Final examination (paper test):20%
Final examination (speaking test): 20%

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

花﨑　一夫

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
大学生にとって興味深いテーマのアカデミック・プレゼンテーションの視聴・内容理解を通して、英語プレゼンテーションに必要な論理展開方法と、英語プレゼンテーションでよく使われる英語表現を学ぶことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、内容理解のためのキーワードの意味をチェックします。その後で、プレゼンテーションのビデオ全体を通して観て、概要の把握をします。次に、パート毎にビデオを見て詳しい内容を理解します。その後、プレゼンテーションや論理的な英文でよく使われる英語表現の整序問題を行い、重要表現を覚えます。それに続き、プレゼンテーションで使われているスライドを参考に、プレゼンテーション全体の流れを意識しながら、英文要約の空所補充問題を行います。最後に、重要表現を音声で聞き、ディクテーションで表現を確認した後で、本テキスト独自のシャドーイングを応用した学習活動を行います。演習の中で出来が悪かったところを中心に、翌週、語彙をもう一度解説するなどして定着を図ることでフィードバックします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容の説明
第 2 回	Unit 1	Argumentation in Essays
第 3 回	Unit　2	The Mystery of the Declining Bee Population in Japan
第 4 回	Unit　3	Sports in Which Being Small is an Advantage
第 5 回	Unit　4	Stargazing and Its Enthusiasts
第 6 回	Unit　5	Dendrochronology and the Kiso Hinoki Cypress
第 7 回	Unit　6	The Seasonal Adaptation of Animals
第 8 回	テキスト Unit 7	Percival Lowell: Pluto, Martians, and the Japanese
第 9 回	Unit　8	Informal Science Education
第 10 回	Unit　9	Sympathy and Empathy Among Groups: US Government and Native Americans
第 11 回	Unit 10	Is Fear of Snakes Innate?
第 12 回	Unit 11	Emotion of University Students in Daily Life
第 13 回	Unit 12	The Role of Criminal Jurisprudence
第 14 回	まとめ	期末テストを実施する予定です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
プレゼンテーションの映像を何度も見ることによってその中で使われている語句を自分のものにし、自分でも実際に使えるようにする。

【テキスト（教科書）】
College Presentation 金星堂　２５００円（税別）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
小テストを含む課題　５０％
定期試験　５０％

【学生の意見等からの気づき】
ことし初めて担当するので特にありません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens.　Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

早舩　由紀見

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
1）英語の正しい発音を身に付ける。
2）英語でコミュニケーションするための表現を身につける。
3）クラスメートと英語でコミュニケーションを取る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めるが、ペアワーク、グループワークで、習った発音を実際に使って確認する。
また、発音が正しく行われているかどうかを一人一人確認し、行われていない場合は適切なフィードバックを行う。
リスニングは課題を行った後、回答とスクリプトを配布し、どこが聞き取れていなかったのかを確認できるようにする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lesson 1 Let Me Introduce My Hometown	数字：大きい数、小さい数／情報伝達のためのスピーチ
2	Lesson 2 And Here Is Today's News	数字：年月日／ニュースと天気予報
3	Lesson 3 Support Us!	数字：お金／説得のためのスピーチ
4	Lesson 4 I'm Honored to Be Here	数字：年齢／祝いの場のスピーチ
5	Lesson 5 Thank You for Flying with Us Today	数字：時間／機内アナウンス
6	Lesson 6 Thank You for Calling	数字：慣用表現／電話での音声案内
7	Lesson 7 Enjoy the Rhythm and Rhyme	音のつながり：連結／詩と歌
8	Lesson 8 Swing with the Music!	音のつながり：脱落／チャンツとラップ
9	Lesson 9 Stay Tuned!	音のつながり：同化／ラジオＤＪ
10	Lesson 10 You'll Love It	音のつながり：まとめ／コマーシャル
11	Lesson 11 Nice Meeting You	上昇イントネーション／パーティでの会話初対面の人と話す
12	Lesson 12 Customer Service. How Can I Help You?	下降イントネーション／クレームを伝える
13	Lesson 13 Oh, No!	イントネーション：感嘆文／予想外の出来事について話す
14	Lesson 14 Let's Do Something Together	イントネーション：列挙、選択／楽しいプランを立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で習った表現の復習
・新しい語や表現を調べる
・発音練習

【テキスト（教科書）】
「English Sound Box」
Asami Otsuka, Yoko Ueda, Kathy Maruyama, Yumiko Imai 著
金星堂

【参考書】
必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度（課題への取り組み度合い、提出物）　50%
小テスト　20%
期末試験　30%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

小畑　美貴

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とします。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックについて英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深めます。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図ります。

【到達目標】
・日常生活でやりとりされる英語を聞いて理解できる。
・自分の身近なことについて、英語で意見が述べられる
・会話の内容に応じて、適切に単語や表現などを選択し使用出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウィルス感染拡大防止の為に、どのような形態での授業になるかは現時点では未定です。決定次第、適宜、授業スケジュールに変更が出ることも考えられますが、その際は事前に告知します。細かな連絡は Hoppii より行います。
この授業では「自分の意見を英語で述べる」ことが出来るようになることを目指します。授業で使用するテキストでは、日常生活においてよく接する話題が取り上げられており、各テーマに関して賛成・反対を議論する形式になっています。授業内では、賛成反対に分かれて議論をしたり、自分の意見を発表してもらったりします。また、その際に必要となる単語や表現、文法なども学習し、翌週の授業で小テストを行うことで、学習内容の定着を目指します。更に、「話す」為には「聞く」力も必要不可欠なので、リスニング力の強化も目指します。特に、長めの内容から、重要な情報を抜き取りメモを取る練習を行います。また課題等へのフィードバックは授業内で行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	テキスト、授業の進め方、課題の提出の仕方、評価方法などについての解説をする。
2	Unit2: Dubbing or Subtitling?	聞き手の反応を促す表現を習得する
3	Unit3: Traveling on Your Own or in a Group Tour?	小テスト① 意見を考える為に時間を稼ぐ表現を習得する
4	Unit4: Paper Bags or Plastic Bags?	小テスト② 意見を整理して述べる表現を習得する
5	Unit5: Do We Need TV Broadcasting or Not?	小テスト③ 例を示す表現を習得する
6	Unit6: Age-based or Performance-based?	小テスト④ 自分の意見を切り出すための表現を習得する
7	Unit7: Buying Music Online or Buying CDs?	小テスト⑤ 同意を示す表現を習得する
8	Unit8: Living with Family or Living Alone?	小テスト⑥ 反対を示す表現を習得する
9	Unit9: Team Sports or Individual Sports?	小テスト⑦ 反論するための表現を習得する
10	Unit10: Online Shopping or In-store Shopping?	小テスト⑧ 議論を深めるための表現を習得する
11	Unit11: Professional Training or Liberal Arts?	小テスト⑨ 因果関係を述べる表現を習得する
12	Unit12: Self-driving Cars or Human-driven Cars?	小テスト⑩ 誤解を解くための表現を習得する
13	Unit15: More Foreign Workers or Not?	小テスト⑪ まとめ・結論を述べる表現を習得する
14	授業内期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。
・次週の小テストに備えて、前回の授業で学習した単語、表現、文法を確認する。
・返却された小テストをもう一度見直し、最終試験へ備える。
・前回の授業で学習した Unit の音声を各自で聞き直す。
・次週の授業のテーマを確認し、自分の意見・立場を考え、必要な情報を事前に調べておく。

【テキスト（教科書）】
Iino, Atsushi et al. (2018) "In My Opinion", Kinseido. (￥1,900)

【参考書】
英和・和英辞書を毎回必ず持参して下さい。（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
【オンラインのみの場合】
課題提出　85 %
ZOOM 授業への積極的な参加姿勢　15 %
【対面のみの場合】
小テスト　45 %
学期末テスト　40 %
授業への積極的な参加姿勢　15 %
ただし、学期途中で授業形態が変更になる可能性もあり、その際は再度評価方法を変更せざるを得なくなります。変更する際は、事前に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
今学期、オンラインか対面か未定ではありますが、オンラインでも zoom 等を使用し、可能な限り、英語で話す機会を設けたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に、授業履修に関しての注意事項を説明します。必ず参加すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業に忘れずに持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

小林　直樹

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、実社会において英語を有効に使用して仕事をするために必要な、英語のコミュニケーション能力を養成する事を目的とする。日常会話になれることから、自分の興味のある事柄、専門領域に関することまで、英語で表現できるようになることを目指す。併せて、会話を楽しみ、異文化への理解を深める授業とする。

【到達目標】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初はリスニングを中心に授業を進めます。授業が進むにつれ、英語で表現することを求めていきます。hoppii に課題を提出してもらうこともありますが、出席重視、課題の提出の有無を重視します。学期末には、英文での自己紹介文を提出してもらい, フィードバックを行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法の説明。
第 2 回	Unit 1	基礎文法の確認など。
第 3 回	Unit 2	基礎文法の確認など。
第 4 回	Unit 3	リスニングの練習など。
第 5 回	Unit 4	リスニングの練習など。
第 6 回	Unit 5	日常会話に必要な表現を覚えるなど。
第 7 回	Unit 6	日常会話に必要な表現を覚えるなど。
第 8 回	Unit 7	英会話の練習など。
第 9 回	Unit 8	英会話の練習など。
第 10 回	Unit 9	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第 11 回	Unit 10	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第 12 回	Unit 11	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第 13 回	Unit 12	英文タイプの練習など。
第 14 回	Unit 13	自己紹介文の作成など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】必ず復習をすること。
また指示された場合には、予習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
On Air (金星堂)

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】学期末のレポート (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
土曜一限の授業ですが、頑張っていきましょう。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

吉川　直澄

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
日常生活において出会うコミュニケーション場面の中で、短い会話を構成する基礎的レベルの表現・語彙が習得できる。大抵の英語圏の映画なら字幕に頼らずなんとか聞き取れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回映像を題材に文法、リスニング、スピーキングの基礎を学ぶ。春学期がオンラインでの開講となった場合、それにともなう各回の授業計画の変更については、「学習支援システム」で提示する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance and Self-Introduction	ガイダンスと自己紹介
第 2 回	Job Interview	Grammar in Focus 過去完了 Language in Focus 別れ際の挨拶
第 3 回	First Day on the Job	Grammar in Focus 助動詞 1 Language in Focus 依頼する
第 4 回	Hurricane on the Weekend	Grammar in Focus 関係代名詞 1 Language in Focus 反論する
第 5 回	Andy's Makeover	Grammar in Focus 現在進行形 Language in Focus 困惑を示す
第 6 回	Andy Meets Christian	Grammar in Focus 助動詞 2 Language in Focus 聞き返す
第 7 回	Miranda's Request	Grammar in Focus 分詞 Language in Focus 希望を伝える
第 8 回	Nate's Birthday	Grammar in Focus 仮定法 Language in Focus 驚きを示す
第 9 回	Andy's Decision	Grammar in Focus 現在完了形 Language in Focus 確認する
第 10 回	Breakup with Nate	Grammar in Focus 動名詞 Language in Focus 提案する
第 11 回	The Dream Job	Grammar in Focus 受動態 Language in Focus 意思・予定を述べる
第 12 回	Announcement at the Party	Grammar in Focus 関係代名詞 2 Language in Focus 称賛する
第 13 回	Andy's Final Choice	Grammar in Focus 使役動詞 Language in Focus 丁寧に依頼する
第 14 回	試験・まとめと解説	学期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。英語のリスニングは、可能な限り、毎日続けてください。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、音読をするように。

【テキスト（教科書）】
『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語、松柏社、２２００円, ISBN978-4-88198-712-4

【参考書】
NHK のテレビ・ラジオ英語講座テキストなど、書籍ではないが、BBC Learning English のサイト、特に 6 Minute English を視聴することをお勧めする。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション・宿題・平常点等（５０％）、期末試験（５０％）を総合的に検討して評価する。全体の６０％以上の得点をもって可とする。４回以上欠席した場合、原則として、単位は認定されない。春学期がオンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は授業開始日以降に「学習支援システム」で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
これまでの良好状態を継続する。

【学生が準備すべき機器他】
CD.VHS.DVD などの再生機（自宅学習用）

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreigh cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

早舩　由紀見

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
1）英語の正しい発音を身に付ける。
2）英語でコミュニケーションするための表現を身につける。
3）クラスメートと英語でコミュニケーションを取る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めるが、ペアワーク、グループワークで、習った発音を実際に使って確認する。
また、発音が正しく行われているかどうかを一人一人確認し、行われていない場合は適切なフィードバックを行う。
リスニングは課題を行った後、回答とスクリプトを配布し、どこが聞き取れていなかったのかを確認できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Lesson 1 Let Me Introduce My Hometown	数字：大きい数、小さい数／情報伝達のためのスピーチ
2	Lesson 2 And Here Is Today's News	数字：年月日／ニュースと天気予報
3	Lesson 3 Support Us!	数字：お金／説得のためのスピーチ
4	Lesson 4 I'm Honored to Be Here	数字：年齢／祝いの場のスピーチ
5	Lesson 5 Thank You for Flying with Us Today	数字：時間／機内アナウンス
6	Lesson 6 Thank You for Calling	数字：慣用表現／電話での音声案内
7	Lesson 7 Enjoy the Rhythm and Rhyme	音のつながり：連結／詩と歌
8	Lesson 8 Swing with the Music!	音のつながり：脱落／チャンツとラップ
9	Lesson 9 Stay Tuned!	音のつながり：同化／ラジオＤＪ
10	Lesson 10 You'll Love It	音のつながり：まとめ／コマーシャル
11	Lesson 11 Nice Meeting You	上昇イントネーション／パーティでの会話初対面の人と話す
12	Lesson 12 Customer Service. How Can I Help You?	下降イントネーション／クレームを伝える
13	Lesson 13 Oh, No!	イントネーション：感嘆文／予想外の出来事について話す
14	Lesson 14 Let's Do Something Together	イントネーション：列挙、選択／楽しいプランを立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で習った表現の復習
・新しい語や表現を調べる
・発音練習

【テキスト（教科書）】
「English Sound Box」
Asami Otsuka, Yoko Ueda, Kathy Maruyama, Yumiko Imai 著
金星堂

【参考書】
必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度（課題への取り組み度合い、提出物）　50%
小テスト　20%
期末試験　30%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

小畑　美貴

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とします。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックについて英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深めます。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図ります。

【到達目標】
・日常生活でやりとりされる英語を聞いて理解できる。
・自分の身近なことについて、英語で意見が述べられる
・会話の内容に応じて、適切に単語や表現などを選択し使用出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウィルス感染拡大防止の為に、どのような形態での授業になるかは現時点では未定です。決定次第、適宜、授業スケジュールに変更が出ることも考えられますが、その際は事前に告知します。細かな連絡は Hoppii より行います。
この授業では「自分の意見を英語で述べる」ことが出来るようになることを目指します。授業で使用するテキストでは、日常生活においてよく接する話題が取り上げられており、各テーマに関して賛成・反対を議論する形式になっています。授業内では、賛成反対に分かれて議論をしたり、自分の意見を発表してもらったりします。また、その際に必要となる単語や表現、文法なども学習し、翌週の授業で小テストを行うことで、学習内容の定着を目指します。更に、「話す」為には「聞く」力も必要不可欠なので、リスニング力の強化も目指します。特に、長めの内容から、重要な情報を抜き取りメモを取る練習を行います。また課題等へのフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	テキスト、授業の進め方、課題の提出の仕方、評価方法などについての解説をする。
2	Unit2: Dubbing or Subtitling?	聞き手の反応を促す表現を習得する
3	Unit3: Traveling on Your Own or in a Group Tour?	小テスト① 意見を考える為に時間を稼ぐ表現を習得する
4	Unit4: Paper Bags or Plastic Bags?	小テスト② 意見を整理して述べる表現を習得する
5	Unit5: Do We Need TV Broadcasting or Not?	小テスト③ 例を示す表現を習得する
6	Unit6: Age-based or Performance-based?	小テスト④ 自分の意見を切り出すための表現を習得する
7	Unit7: Buying Music Online or Buying CDs?	小テスト⑤ 同意を示す表現を習得する
8	Unit8: Living with Family or Living Alone?	小テスト⑥ 反対を示す表現を習得する
9	Unit9: Team Sports or Individual Sports?	小テスト⑦ 反論するための表現を習得する
10	Unit10: Online Shopping or In-store Shopping?	小テスト⑧ 議論を深めるための表現を習得する
11	Unit11: Professional Training or Liberal Arts?	小テスト⑨ 因果関係を述べる表現を習得する
12	Unit12: Self-driving Cars or Human-driven Cars?	小テスト⑩ 誤解を解くための表現を習得する
13	Unit15: More Foreign Workers or Not?	小テスト⑪ まとめ・結論を述べる表現を習得する
14	授業内期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。
・次週の小テストに備えて、前回の授業で学習した単語、表現、文法を確認する。
・返却された小テストをもう一度見直し、最終試験へ備える。
・前回の授業で学習した Unit の音声を各自で聞き直す。
・次週の授業のテーマを確認し、自分の意見・立場を考え、必要な情報を事前に調べておく。

【テキスト（教科書）】
Iino, Atsushi et al. (2018) "In My Opinion", Kinseido. (￥1,900)

【参考書】
英和・和英辞書を毎回必ず持参して下さい。（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
【オンラインのみの場合】
課題提出　85 %
ZOOM 授業への積極的な参加姿勢　15 %
【対面のみの場合】
小テスト　45 %
学期末テスト　40 %
授業への積極的な参加姿勢　15 %
ただし、学期途中で授業形態が変更になる可能性もあり、その際は再度評価方法を変更せざるを得なくなります。変更する際は、事前に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
今学期、オンラインか対面か未定ではありますが、オンラインでも zoom 等を使用し、可能な限り、英語で話す機会を設けたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に、授業履修に関しての注意事項を説明します。必ず参加すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業に忘れずに持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

小林　直樹

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、実社会において英語を有効に使用して仕事をするために必要な、英語のコミュニケーション能力を養成する事を目的とする。日常会話になれることから、自分の興味のある事柄、専門領域に関することまで、英語で表現できるようになることを目指す。併せて、会話を楽しみ、異文化への理解を深める授業とする。

【到達目標】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
当初はリスニングを中心に、授業を進めます。授業が進むにつれ英語で表現することを求めていきます。hoppii に課題を提出してもらうこともありますが、出席重視、課題の提出の有無を重視します。学期末には、英文での自己紹介文を提出してもらい、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法の説明。
第 2 回	Unit 1	基礎文法の確認など。
第 3 回	Unit 2	基礎文法の確認など。
第 4 回	Unit 3	リスニングの練習など。
第 5 回	Unit 4	リスニングの練習など。
第 6 回	Unit 5	日常会話に必要な表現を覚えるなど。
第 7 回	Unit 6	日常会話に必要な表現を覚えるなど。
第 8 回	Unit 7	英会話の練習など。
第 9 回	Unit 8	英会話の練習など。
第 10 回	Unit 9	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第 11 回	Unit 10	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第 12 回	Unit 11	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第 13 回	Unit 12	英文タイプの練習など。
第 14 回	Unit 13	自己紹介文の作成など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】必ず復習をすること。
また指示された場合には、予習を行うこと。

【テキスト（教科書）】
On Air (金星堂)

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】学期末のレポート (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
土曜一限の授業ですが、頑張っていきましょう。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

吉川　直澄

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
日常生活において出会うコミュニケーション場面の中で、短い会話を構成する基礎的レベルの表現・語彙が習得できる。大抵の英語圏の映画なら字幕に頼らずなんとか聞き取れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回映像を題材に文法、リスニング、スピーキングの基礎を学ぶ。本学期がオンラインでの開講となった場合、それにともなう各回の授業計画の変更については、「学習支援システム」で提示する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance and Self-Introduction	ガイダンスと自己紹介
第 2 回	Job Interview	Grammar in Focus 過去完了 Language in Focus 別れ際の挨拶
第 3 回	First Day on the Job	Grammar in Focus 助動詞 1 Language in Focus 依頼する
第 4 回	Hurricane on the Weekend	Grammar in Focus 関係代名詞 1 Language in Focus 反論する
第 5 回	Andy's Makeover	Grammar in Focus 現在進行形 Language in Focus 困惑を示す
第 6 回	Andy Meets Christian	Grammar in Focus 助動詞 2 Language in Focus 聞き返す
第 7 回	Miranda's Request	Grammar in Focus 分詞 Language in Focus 希望を伝える
第 8 回	Nate's Birthday	Grammar in Focus 仮定法 Language in Focus 驚きを示す
第 9 回	Andy's Decision	Grammar in Focus 現在完了形 Language in Focus 確認する
第 10 回	Breakup with Nate	Grammar in Focus 動名詞 Language in Focus 提案する
第 11 回	The Dream Job	Grammar in Focus 受動態 Language in Focus 意思・予定を述べる
第 12 回	Announcement at the Party	Grammar in Focus 関係代名詞 2 Language in Focus 称賛する
第 13 回	Andy's Final Choice	Grammar in Focus 使役動詞 Language in Focus 丁寧に依頼する
第 14 回	試験・まとめと解説	学期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。英語のリスニングは、可能な限り、毎日続けてください。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、音読をするように。

【テキスト（教科書）】
『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語、松柏社、２２００円, ISBN978-4-88198-712-4

【参考書】
NHK のテレビ・ラジオ英語講座テキストなど、書籍ではないが、BBC Learning English のサイト、特に 6 Minute English を視聴することをお勧めする。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション・宿題・平常点等（５０％）、期末試験（５０％）を総合的に検討して評価する。全体の６０％以上の得点をもって可とする。４回以上欠席した場合、原則として、単位は認定されない。本学期がオンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は授業開始日以降に「学習支援システム」で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
これまでの良好状態を継続する。

【学生が準備すべき機器他】
CD.VHS.DVD などの再生機（自宅学習用）

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreigh cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

KOPROWSKI MARK

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.
Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.
Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and explanation	The teacher and students will have an opportunity to introduce and talk about themselves
第 2 回	Unit 1 Good to Meet You	Key Vocabulary: Meeting someone for the first time Speaking/Listening: Meeting someone new Conversation Strategy 1: Meeting people Conversation Strategy 2: Bouncing
第 3 回	Unit 2 It Runs in the Family	Key Vocabulary: Physical and personality adjectives Speaking/Listening: Family Conversation Strategy 1: Getting time to think Conversation Strategy 2: Asking for More information
第 4 回	Unit 3 School Daze	Key vocabulary: School Speaking/Listening: School life Conversation Strategy 1: Agreeing Conversation Strategy 2: Disagreeing
第 5 回	Unit 4 You Are What You Eat	Key Vocabulary: Food Speaking/Listening: Food and exercise Conversation Strategy 1: Getting more information Conversation Strategy 2: Getting more details
第 6 回	Unit 5 Shop Till You Drop Unit 6 TGIF (Review 1)	Key Vocabulary: Shopping Speaking/Listening: Going shopping Conversation Strategy 1: Explaining Conversation Strategy 2: Body language
第 7 回	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	5 to 6-minute speaking test (in pairs)
第 8 回	Unit 7 Friends	Key vocabulary: Friends Speaking/Listening: Friends Conversation Strategy 1: Using tag questions Conversation Strategy 2: Giving compliments
第 9 回	Unit 8 Road Trip	Key Vocabulary: Travel Speaking/Listening:: Travel Conversation Strategy 1: Making suggestions Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
第 10 回	Unit 9 Blind Date	Key vocabulary: Dating Speaking/Listening: Dating Conversation Strategy 1: Checking for understanding Conversation Strategy 2: Summarizing
第 11 回	Unit 10 Job Hunting	Key vocabulary: Work Speaking/Listening: Work Conversation Strategy 1: Changing direction Conversation Strategy 2: Changing the topic
第 12 回	Unit 11 Let's Catch a Flick	Key vocabulary: Movies Speaking/Listening: Movies Conversation Strategy 1: Sharing news Conversation Strategy 2: Reacting to news
第 13 回	FINAL EXAMINATION: Part 1 (paper test)	Practice for final speaking examination
第 14 回	FINAL EXAMINATION: Part 2 (speaking)	5 to 6-minute speaking test (in pairs)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】
By the Way... : Strategies for Successful Conversation
Authors: Michael Hensley & Bill Burns
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

【参考書】
An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:
http://www.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments: 20%
Mid-term examination (paper test):20%
Final examination (paper test):20%
Final examination (speaking test): 20%

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

鈴木　幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
Goals to be achieved:
1. To be able to discuss familiar/social issues in English.
2. To be able to express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This class will be carried out following the textbook: 2 lessons (DAY) per week basically. Students will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q & A, group/pair work. Students must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance DAY 1 Wish You Were Here	・Introduction ・Let's talk about "holidays"!
2	DAY 2 Get Well Soon DAY 3 Money Makes the World Go Round	・Speaking Quiz ・Let's talk about "illness" & "bank"!
3	DAY 4 May the Force Be with You! DAY 5 Bon Voyage	・Writing Quiz ・Let's talk about "movies" & "travel"!
4	DAY 6 For Here or to Go? DAY 7 What's Your E-mail Address?	・Speaking Quiz ・Let's talk about "fast food" & computer"!
5	DAY 8 Taking Care of Business DAY 9 Shop 'Til You Drop	・Writing Quiz ・Let's talk about "business" & "shopping"!
6	DAY 10 You Can't Miss It DAY 11 Go Team Go	・Speaking Quiz ・Let's talk about "direction" & "sports"!
7	DAY 12 Talk to the Animals DAY 13 Up, Up and Away	・Writing Quiz ・Let's talk about "pets" & "flight"!
8	DAY 14 On the Sunny Side of the Street DAY 15 Family Fun	・Speaking Quiz ・Let's talk about "weather" & "family"!
9	DAY 16 Do the Clothe Make the Man? DAY 17 You're Getting on My Nerves!	・Writing Quiz ・Let's talk about "clothes" & "quarrel"!
10	DAY 18 What's Cooking? DAY 19 Stop! Thief!	・Speaking Quiz ・Let's talk about "cooking" & "police"!
11	DAY 20 Putting a Square Peg in a Round Hole DAY 21 Money Talks	・Writing Quiz ・Let's talk about "shapes" & "money"!
12	DAY 22 The Daily Grind DAY 23 What Do You Do?	・Let's talk about "daily life" & "job"! ・Presentation 1
13	DAY 24 It's a Sign of the Times	・Let's talk about "sign"! ・Presentation 2
14	Final Examination	・Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

【テキスト（教科書）】
Shari J. Berman, et al., Topic by Topic TOEIC Listening, SEIBIDO, 2000/2020.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Contribution to the class: 30%
Assignment: 20% (including presentation)
Quiz: 20%
Exam: 30%
There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】
I hope students enjoy studying English.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

花﨑　一夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
大学生にとって興味深いテーマのアカデミック・プレゼンテーションの視聴・内容理解を通して、英語プレゼンテーションに必要な論理展開方法と、英語プレゼンテーションでよく使われる英語表現を学ぶことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、内容理解のためのキーワードの意味をチェックします。その後で、プレゼンテーションのビデオ全体を通して観て、概要の把握をします。次に、パート毎にビデオを見て詳しい内容を理解します。その後、プレゼンテーションや論理的な英文でよく使われる英語表現の整序問題を行い、重要表現を覚えます。それに続き、プレゼンテーションで使われているスライドを参考に、プレゼンテーション全体の流れを意識しながら、英文要約の空所補充問題を行います。最後に、重要表現を音声で聞き、ディクテーションで表現を確認した後で、本テキスト独自のシャドーイングを応用した学習活動を行います。演習の中で出来が悪かったところを中心に、翌週、語彙をもう一度解説するなどして定着を図ることでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容の説明
第 2 回	Unit 1	Argumentation in Essays
第 3 回	Unit　2	The Mystery of the Declining Bee Population in Japan
第 4 回	Unit　3	Sports in Which Being Small is an Advantage
第 5 回	Unit　4	Stargazing and Its Enthusiasts
第 6 回	Unit　5	Dendrochronology and the Kiso Hinoki Cypress
第 7 回	Unit　6	The Seasonal Adaptation of Animals
第 8 回	テキスト Unit 7	Percival Lowell: Pluto, Martians, and the Japanese
第 9 回	Unit　8	Informal Science Education
第 10 回	Unit　9	Sympathy and Empathy Among Groups: US Government and Native Americans
第 11 回	Unit 10	Is Fear of Snakes Innate?
第 12 回	Unit 11	Emotion of University Students in Daily Life
第 13 回	Unit 12	The Role of Criminal Jurisprudence
第 14 回	まとめ	期末テストを実施する予定です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
プレゼンテーションの映像を何度も見ることによってその中で使われている語句を自分のものにし、自分でも実際に使えるようにする。

【テキスト（教科書）】
College Presentation 金星堂　２５００円（税別）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
小テストを含む課題　５０％
定期試験　５０％

【学生の意見等からの気づき】
今年初めて担当するので特にありません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens.　Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

久慈　美貴

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
豊かな語彙力と正確な文法力の定着をはかり、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの総合的な向上をめざす。専門知識を英語で受発信するための基礎力・総合力・応用力をつけることを目標とする。第一歩として、基礎的な文法の復習と比較的短い文の内容チェックを通して、日常目に触れる英文を読みこなす力をつけ、また、テキストのスキットを参考にして、ペアやグループワークによる会話・説明・インタヴューを行う。

【到達目標】
基本的な文法を土台として、日常的な英語を読み、書き、聞き、話すことができる。
テキストや DVD で扱われるトピックの大意をつかみ、自分の言葉でまとめ、英語で説明を書く、または話すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は，基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に，それに支えられたリスニング力，リーディング力，ライティング力を向上させることを目的とする。総合的な英語力向上を目指す。テキストのほか、随時プリントを配布して関連の文章を読み、まとめの練習をする。
提出課題は授業時に返却し、質問を受け付ける。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1 Meeting People	Exchanging personal information
2	U.1 Express Yourself	Review of the expression in U.1 and listening practice.
3	Unit 2 Family and Friends	Describing and talking about people
4	U.2 Express YOurself	Review of the expressions in U.2 and listening practice.
5	Unit 3 Lifestyles	Describing a typical day, talking about lifestyle
6	U.3 Express Yourself	Review of the expressions in U.3 and listening practice.
7	Unit 4 Work, work, work	Talking about a job or college
8	U.4 Express Yourself	Review of the expressions in U.4 and listening practice.
9	Unit 5 Having fun	Talking about free time activities
10	U.4 Express Yourslf	Review of the expression in U.4 and listening practice.
11	Unit 6 Review	Review of U.1-5.
12	Reading session 1	Read a short article and make a summary. Grammar review 1
13	Reading session 2	Read a short article and make a summary. Grammar review 2
14	学期のまとめ	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本受業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
語彙力をつけるには、まめに辞書をひくことが肝要です。単語の意味だけ引いて終わりにせず、熟語・成句・共に使われる前置詞や副詞もチェックしましょう。Listening & Speaking のテキストをしっかりチェックして、じぶんだったらどんな情報交換（コミュニケーション）ができるか、考えてみてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。資料を配布する。

【参考書】
特に指定しない

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%、授業時の提出物および授業時の発表 70%として評価する。4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。
遅刻も回数に応じて欠席にカウントされるので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
毎回ペアワークでのインタビューを行いますが、より多くの情報を得るために、どんな質問を持ち出すとよいか考えてみましょう。一つの質問から派生的に出てくる質問 (follow-up question) を数多く考えることで、表現もひろがっていくでしょう。
Writing 課題で、Topic + Support の形を作り、十分な説明を付け加える練習が必要かと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
とくに使用しない。

【その他の重要事項】
授業には必ず辞書を携行してください。
毎回の提出物が平常点となりますので、欠席しないよう気をつけてください。遅刻も回数に応じて減点の対象になります。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge. As technicians or scientists, you will need the ability to comprehend and communicate in English. For the beginning, let's check up basic grammar of English, try to get accutomed to the expressions of everyday-English, and try to explain what you do or think of in English.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

柏原　俊樹

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主に 3 つの切り口から学んでいく。1 つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう 1 つには、随時実践的な [やや難しい] リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞について、いずれもまだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。
ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれません。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが 2 つあります。日本語のネイティブ も国語のテストで必ず 100 点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないことと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいともいえる、理論の領域に踏み込まざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいと思います。春学期の授業は, 原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 1: CHARLES'S BEDROOM
2	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 1: SCARLETT'S CAR
3	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 1: COUNTRY CHURCH
4	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 2: COUNTRY HOUSE
5	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 2: MARQUEE
6	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 2: COUNTRY HOUSE
7	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 3: MARQUEE
8	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 3: TOWN
9	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 4: CHARLES'S BEDROOM
10	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 4: CATHOLIC CHURCH
11	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 5: HOLBEIN HOTEL
12	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 5: LONDON STREET
13	総復習	総復習
14	まとめと理解度確認試験	まとめと理解度確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　教科書の予習は必須。
リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

【テキスト（教科書）】
教科書:『映画総合教材「フォー・ウェディング」』（松柏社）

【参考書】
できれば語源欄のある辞書を使ってください。また、語学習得のかなり発展した段階に至るまでは、紙の辞書のほうが学習効果が高いと思われます。

【成績評価の方法と基準】
学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（80 %）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】
辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】
積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

神　康介

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Yuzuru Hanyu	授業の進め方の説明。 オリンピックについて学ぶ。
2	Kei Nishikori Christel Takigawa	スポーツ文化について学ぶ。
3	Kyary Pamyu Pamyu	日本の新しいタイプの文化について学ぶ。
4	World Cultural Heritage Site Mount Fuji	世界文化遺産について学習する。
5	World Intangible Cultural Heritage Washoku	世界無形文化遺産について学習する。
6	Spiber	新しい産業について学習する。
7	Abenomics	経済について学習する。
8	Maglev Train	工業技術について学習する。
9	Pokémon Go	エンターテイメントについて学習する。
10	My Number	マイナンバーについて学習する。
11	Net TV	インターネットについて学習する。
12	Epsilon Rocket	人工知能について学習する。
13	Olive Oil Medicinal Plants	食品産業について学習する。 薬草について学習する。
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

【テキスト（教科書）】
Ｃｏｏｌ　Ｊａｐａｎ　南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 %で評価する。60 パーセント以上で単位習得となる。原則として 半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚機器をもっと活用する。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

バリー　ヘイタ

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。
i)Increasing general proficiency in understanding English texts.
ii)Heightening comprehension skills for listening to and reciting from English texts

【到達目標】
Development of grammatical,logical,and lexical expression in English through completing classroom tasks, homework assignments, and module tests.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Practical problem solving through pair work for familiarization with the main grammar and vocabulary of a study unit; blackboard and oral presentations of cooperative results; indiivdual assignments for greater understanding and overall comprehension of a unit text; individual instruction through direct in- class consultation.　Feedback will be provided over the university Hoppii system on the Announcement and Assignment Submission pages. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction, Culture and Differerence	Class operation and materials; Language Focus: noun/verb/adjective
Class 2	Culture and Difference	Reading Practice: difference/similarity/agreement
Class 3	Culture and Difference	TOEIC Extension: Listening,Part 1 (listening while looking)
Class 4	Objects and Items	Language Focus: size/shape/material
Class 5	Objects and Items	Reading Practice: description/usage
Class 6	Objects and Items	TOEIC Extension: Listening,Part 2 (matching responses to statements and questions)
Class 7	Process and Progress	Language Focus: verbs/adverbs
Class 8	Process and Progress	Reading Practice: actions/instructions
Class 9	Process and Progress	TOEIC Extension: Listening, Part 3 (scanning choices while listening to talks)
Class 10	Characteristics and Definitions	Language Focus: general classes/ specific examples
Class 11	Characteristics and Definitions	Reading Practice: information analysis/ classification/charts
Class 12	Characteristicsand Definitions	TOEIC Extension: Listening,Part 4 (scanning choices while following presentations)
Class 13	Directions and Locations	Language Focus: compound verbs/nouns/ prepositions
Class 14	Directions and Locations	Reading Practice: navigation/environs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Tasks not completed in classroom time will be assigned as homework for presentation at the next class. Therefore, absence from any class will not excuse a student from completing all of such tasks for the next class.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor in class.

【参考書】
Topics in English 1@Longman Asia Limited,1994
Practice Tests for new format of TOEIC(ELS) TOEIC　運営委員会

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%; Assignments 20%; Mid and Final Tests 30%/30%

【学生の意見等からの気づき】
More practice of both oral(pronunciation/intonation) and aural skills relating to textual understanding.

【学生が準備すべき機器他】
Tape Cassette or CD Player

【その他の重要事項】
Forgotten or lost materials will be replaced only once at the start of each class by the instructor. In all other cases, students must supply their own replacements before class begins. Furthermore,photocopies of completed assignments will not be accepted

【Caution】
Changes to the schedule may be made in accordance to the proficiency level of the class.

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency and to increase general proficiency in understanding written and spoken English as well as to improve particular skills for presenting information in English.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

バリー　ヘイタ

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。
i)Increasing general proficiency in understanding English texts
ii)Heightening comprehension skills for listening to and reading from English texts

【到達目標】
Development of grammatical,logical,and lexical expression in English though completing classroom tasks, homework assignments, and module tests.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Practical problem solving in pairs for familiarization with the grammar and vocabulary of each unit text; blackboard presentations of cooperative results; individual assignments and recitations; in class personal consultations. Feedback will be provided over the university Hoppii system on the Announcement and Assignment Submission pages. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction; Culture and Differerence	Class operation and materials; Language Focus: noun/verb/adjective
Class 2	Culture and Difference	Reading Practice: difference/similarity/agreement
Class 3	Culture and Difference	TOEIC Extension: Listening,Part 1 (listening while looking)
Class 4	Objects and Items	Language Focus: size/shape/material
Class 5	Objects and Items	Reading Practice: description/usage
Class 6	Objects and Items	TOEIC Extension: Listening,Part 2 (matching responses to questions and statements)
Class 7	Process and Progress	Language Focus: verbs/adverbs
Class 8	Process and Progress	Reading Practice: actions/instructions
Class 9	Process and Progress	TOEIC Extension: Listening, Part 3 (scanning choices while listening to talks)
Class 10	Characteristics and Definitions	Language Focus: general classes/ specific examples
Class 11	Characteristics and Definitions	Reading Practice: information analysis/ classification/charts
Class 12	Characteristics and Definitions	TOEIC Extension: Listening,Part 4 (scanning choices while following presentations)
Class 13	Directions and Locations	Language Focus: compound verbs/nouns/ prepositions
Class 14	Directions and Locations	Reading Practice: navigation/environs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Tasks not completed in classroom time will be assigned as homework for presentation at the next class. Therefore, absence from any class will not excuse any student from completing all of such tasks for the next class.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor in class.

【参考書】
Topics in English 1@Longman Asia Limited,1994
Practice Tests for the new format of TOEIC(ELS) TOEIC　運営委員会

【成績評価の方法と基準】
Participation 20%; Assignments 20%; Mid and Final tests 30%/30%

【学生の意見等からの気づき】
Increased practice in oral skills of pronunciation and intonation through recitation practice.

【学生が準備すべき機器他】
Tape Cassette or CD Player

【その他の重要事項】
Forgotten or lost materials will be replaced only once at the start of each class by the instructor. In all other cases,students must supply their own replacements before class begins. Furthermore,photocopies of completed assignments will not be accepted.

【Caution】
Changes to the schedule may be made in accordance to the proficiency level of the class.

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency and to increase general proficiency in understanding written and spoken English as well as to improve particular skills for presenting information in English.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

花﨑　一夫

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学のグローバル化が求められている現在、英語力は異文化間コミュニケーションを円滑に進めるための重要なツールとなっているため、大学生にとって英語力の伸長が重要な課題になっている。本授業では、アカデミックな英文を読むことを通して英語の読解力を養成することを目的とする。また、英語の基本的な発音をマスターすることを目指す。

【到達目標】
リーディングでは、様々なリーディングスキルを活用しながら内容を効率よく把握する力を養成する。
リスニングでは、英語の音声の特徴を踏まえた上で、要点を把握・整理しながら聴くことが出来るようになる。
各種資格試験においても求められる実践的な英語力の土台を固める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業計画におよその学習範囲を提示してありますが、授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。必要に応じて TOEIC などの資格試験対策のための問題演習や音声学に基づいた英語の発音演習も取り入れます。
またこの授業では、学習する部分の内容に関連する課題を各自やって提出してもらうことがあります。それに対するフィードバックは、基本的に次の時間に行います。具体的には、皆さんが提出してくれた答案の中から良いものを取り上げて共有したり、理解が不十分な場合にはどこを修正すべきなのかについてコメントします。そうすることで英文の内容に関する理解を深めます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Chapter1	Concepts We Live By
2.	Chapter2	The Systematicity of Metaphorical Concepts
3.	Chapter3	Metaphorical Systematicity: Highlighting and Hiding
4.	Chapter4	Orientational Metaphors
5.	Chapter5	Metaphor and Cultural Coherence
6.	Chapter6	Ontological Metaphors
7.	Chapter7	Personification
8.	Chapter8	Metonymy
9.	Chapter9	How is Our Conceptual System Grounded?
10.	Chapter10	How Metaphor Can Give Meaning to Form
11.	Chapter11	New Meaning
12.	Chapter12	TBA
13.	Chapter13	TBA
14.	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業中に学習した内容を定着させるために、音読などの演習を自宅などで行う。

【テキスト（教科書）】
１ Metaphors We Live By
メタファーに満ちた日常世界　１７００円（税抜き）
２　５分間英語発音
南雲堂　７００円（税抜き）

【参考書】
授業中などに適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題５０パーセントと期末テスト５０パーセントを基準とする。変更がある場合には、Hoppii などで事前にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業で実施した TOEIC 対策演習がとてもためになったと学生から言われたこともあり、今年度の授業でも TOEIC 対策演習も取り入れる予定である。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

柏原　俊樹

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主に 3 つの切り口から学んでいく。1 つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう 1 つには、随時実践的な
[やや難しい] リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞について、いずれもまだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。
原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。
ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれません。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが 2 つあります。
日本語
のネイティブも国語のテストで必ず 100 点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないことと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいともいえる、理論の領域に踏み込まざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいと思います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: HEATHROW ARRIVALS GATE
2	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: FAIRTRADE OFFICE
3	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: Unit 1: JAMIE'S HOUSE
4	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: Unit 2: CHURCH
5	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: RADIO STATION
6	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: TONY'S STREET
7	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 3: FAIRTRADE OFFICE
8	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 3: GALLERY
9	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 3: WHITEHALL
10	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 4: PM'S OFFICE
11	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 4: MARK'S FLAT
12	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 5: DANIEL'S HOUSE
13	総復習	総復習
14	まとめと理解度確認試験	まとめと理解度確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　教科書の予習は必須。
リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

【テキスト（教科書）】
教科書: 『映画総合教材「ラブ・アクチュアリー」』（松柏社）

【参考書】
できれば語源欄のある辞書を使ってください。また、語学習得のかなり発展した段階に至るまでは、紙の辞書のほうが学習効果が高いと思われます。

【成績評価の方法と基準】
学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（80 %）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】
辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】
積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

梨本　邦直

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
英語の論理構成を学ぶとともに語彙力の増強とと言い換え表現を豊かにする。TED によるプレゼンを視聴して、論理構成を理解する。語彙力を高めるにあたって難度の高い語句について文脈に則した言い換え表現を考える。また、ニュース英語で TOEIC テストのためのリスニング力を養い、時事表現に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
社会情勢の変化に伴い、授業計画の変更がありうる。変更については本授業の開始日以降に学習支援システムでその都度提示する。
TED Talks については、教科書の問題量が多いので事前に予習すべきところを指定する。予習は課題として授業で確認を行い、その場でフィードバックを行う。
TOEIC 対策として ABC ニュースシャワーを見る。アメリカ英語の口語に慣れ、リスニング力の向上とともに、語彙の増強を図る。時事表現を中心とする語彙の小テストを行い、翌週にフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	ABC ニュースシャワー 1
2 回目	Unit 1, Inspired Leadership	Lesson A, Reading skills ABC ニュースシャワー 2
3 回目	Unit 1, How to Start a Movement	Lesson B, TED TALK comprehension
4 回目	Unit 2, Trouble for the Air Plants	Lesson A, Reading skills ABC ニュースシャワー 3
5 回目	Unit 2, Conserving the Canopy	Lesson B, TED TALK comprehension
6 回目	Unit 3, Big Problems, Simple Solutions	Lesson A, Reading skills ABC ニュースシャワー 4
7 回目	Unit 3, A Warm Embrace that Saves Lives	Lesson B, TED TALK comprehension
8 回目	授業内中間テスト	ニュース英語復習テスト (1) を含む ABC ニュースシャワー 5
9 回目	Unit 4, Is Gaming Good for You?	Lesson A, Reading skills ABC ニュースシャワー 6
10 回目	Unit 4, Gaming Can make a Better World	Lesson B, TED TALK comprehension
11 回目	Unit 5, Engaging Learners	Lesson A, Reading skills ABC ニュースシャワー 7
12 回目	Unit 5, The Key to Success? Grit	Lesson B, TED TALK comprehension
13 回目	Review of Units 4-5	Rephrasing Keywords ABC ニュースシャワー 8
14 回目	授業内期末試験	ニュース英語復習テスト (2) を含む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Lesson A の Pre-Reading と Developing Reading Skills は予習して授業に臨む。テクスト部分は音読する。Lesson B については、冒頭にある背景説明の序文を読み、Part 1 と Part 2 を予習する。p.148 以降にある Video Transcripts を参照してもよい。TED のプレゼンは、https://www.ted.com/ でタイトルを検索して見る。英語のスクリプト全文、その日本語訳（正しいとは限らない）もある。ただし、プレゼンによっては教科書の抜粋よりかなり長い。予習に時間をかけてプレゼンの全体を理解しておくことが望ましい。授業の進み方（特に Lesson B）についていくのが難しいと感じた場合は、予習を充分にする。

【テキスト（教科書）】
Laurie Blass et al. (2016) 21st Century Reading. National Geographic learning/Cengage Learning

【参考書】
https://www.ted.com/talks

【成績評価の方法と基準】
社会情勢の変化に伴って以下の成績評価の方法と基準を変更する場合、授業開始日以降に学習支援システムで提示する。
中間テスト： 40%（復習範囲 Units 1-3）
期末試験： 40 %（復習範囲 Units 4-5）
ニュース英語テスト（２回）・その他提出物： 20 %

【学生の意見等からの気づき】
言い換え表現が分かりやすく習得できるようにスライドを工夫した。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小畑　美貴

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウィルス感染拡大防止の為、現時点では授業形態が未定です。決定次第授業支援システムより皆さんにご連絡致します。場合によっては、授業予定は変更の可能性もあります。
テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。初回授業時に各ユニットの担当者を決め、各学期１回は授業内で発表をしてもらいます。また、前回の授業で学習した内容が定着しているか確認する為に、毎回の授業で小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業内に行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit1: Welcome to a World within a Pair of Glasses (1)	仮想現実の世界に関する文章を読み解く
3	Unit1: Welcome to a World within a Pair of Glasses (2)	小テスト① 仮想現実の世界に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
4	Unit2: The Secret of the Stradivarius (1)	小テスト② ストラディバリウスの音色に関する文章を読み解く
5	Unit2: The Secret of the Stradivarius (2)	小テスト③ ストラディバリウスの音色に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
6	Unit3: Getting Rid of Plastic in the Ocean (1)	小テスト④ 海からプラスティックの廃棄物をなくす方法に関する文章を読み解く
7	Unit3: Getting Rid of Plastic in the Ocean (2)	小テスト⑤ 海からプラスティックの廃棄物をなくす方法に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
8	Unit4: Preventing the World's Increasing Allergies (1)	小テスト⑥ アレルギーとその予防・対応策に関する文章を読み解く
9	Unit4: Preventing the World's Increasing Allergies (2)	小テスト⑦ アレルギーとその予防・対応策に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
10	Unit5: Journey to the Lonely Outer World (1)	小テスト⑧ 冥王星への旅に関する文章を読み解く
11	Unit5: Journey to the Lonely Outer World (2)	小テスト⑨ 冥王星への旅に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
12	Unit6: Archaeoiogists, Aliens and Earth (1)	小テスト⑩ 考古学で探る古代のミステリーに関する文章を読み解く
13	Unit6: Archaeoiogists, Aliens and Earth (2)	小テスト⑪ 考古学で探る古代のミステリーに関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
14	授業内学期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・前回の授業内容を復習し、次週の小テストに備える。
・返却された小テストを見直し、最終試験へ備える。
・発表担当のユニットに関しては、発表の準備を入念に行う。

【テキスト（教科書）】
Faudree, Michael C. "Science Adventures", Kitihara Shoten. (￥1,900)

【参考書】
英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
【オンラインのみの場合】
課題提出　100 %
【対面のみの場合】
小テスト　45 %
学期末テスト　40 %
授業への積極的な参加姿勢　15 %
ただし、学期途中で授業形態が変更になる可能性もあり、その際は再度評価方法を変更せざるを得なくなります。変更する際は、事前に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
今学期の授業形態は未定ですが、オンラインでも対面でも、それぞれの特性を生かして、教科書の内容を学生が確実に理解し、学ぶことが出来るように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

島田　顕

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかりと身につける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。
We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低 2 回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意訳ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにすること（英作文問題も含めて）。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Lesson　1	Lesson　1 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Lesson　2	Lesson　2 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Lesson　3	Lesson　3 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 5 回	Lesson　4	Lesson　4 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 6 回	Lesson　5	Lesson　5 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第 8 回	Lesson　6	Lesson　6 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 9 回	Lesson　7	Lesson　7 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 10 回	Lesson　8	Lesson　8 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 11 回	Chapter　9	Chapter　9 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 12 回	Lesson　10	Lesson　10 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 13 回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第 14 回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　テキストの本文の訳、EXERCISES 等の問題は全員にあてる。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくること。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期 4 回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

【テキスト（教科書）】
テキスト：『Spotlight on Britain イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】
豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %
※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進み方を速くし，小テスト・提出物の回数を多くする。

【学生が準備すべき機器他】
辞書、電子辞書。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小林　直樹

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力正確な文法力の定着を図り、それに支えられた４技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な英語力の向上を目的とする。また、理工・生命系の分野においては、英語が世界の共通語となっていることを受け、将来の技術者・研究者に求められる、英語での理解力・発信力を培うための授業とする。併せて、英文を楽しんで読む機会を設ける。

【到達目標】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。また、英文を楽しんで読む能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
英文の読解を中心にするが、リスニングや英作文の練習も行う。オンラインで授業を進めますが、リスニング、長文読解を問う課題を提出してもらい、フィードバックを行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業と評価方法に付いての説明。
第 2 回	教科書以外の英文	使用するテクストの説明、英和辞典のひき方。
第 3 回	Unit 1	テクストを読む。
第 4 回	Unit 1	テクストを読む、品詞の違いなど。
第 5 回	Unit 2	テクストを読む、自動詞、他動詞の違いなど。
第 6 回	Unit 2	テクストを読む。
第 7 回	Unit 3	テクストを読む。
第 8 回	Unit 3	リスニングの練習、TOEIC のための語彙。
第 9 回	TOEIC 対策	テクストを読む。
第 10 回	Unit 4	テクストを読む。
第 11 回	Unit 5	テクストを読む。
第 12 回	Unit 6	英作文の練習。
第 13 回	Unit 7	テスト前に質問を受け付ける。
第 14 回	期末テスト	英文和訳を中心に試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
Reading Wonders　（金星堂）

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】学期末の試験の点数 (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
TOEIC への対策も多く行っていきたいと思います。
また、英文を読むばかりでなく、書くこと、聞き取ることも授業で多く行っていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). Technicians and scientists in the future will need the ability to comprehend and communicate in English, so this class emphasizes the development of such ability.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

中野　里美

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
At the end of the course, students are expected to improve their English comprehensive skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
By listening to recorded materials about social issues and reading some other news reports, participants will be able to understand, think about or discuss the matters in the world. To begin with, you will be given warm-up handout and then engage in some tasks. Feedback will be conducted in each class. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction and guidance	Students will be known about this course
第 2 回	Knowing about the technology	Civilian Drones
第 3 回	Knowing about the technology	Civilian Drones
第 4 回	Reading skills	Reading while young
第 5 回	Reading skills	Reading while young
第 6 回	Thinking about the future	Intelligent assistance
第 7 回	Thinking about the future	Intelligent assistance
第 8 回	Thinking about ecology	Keeping it clean
第 9 回	Thinking about ecology	Keeping it clean
第 10 回	Let Japan be known	Manners in public
第 11 回	Let Japan be known	Manners in public
第 12 回	Knowing about media Literacy	Which news is fake?
第 13 回	Knowing about media Literacy	Which news is fake?
第 14 回	Review	Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Students will be asked to prepare for texts before class.

【テキスト（教科書）】
Listening to dialogues on social issues by James M. Vardaman (Tsurumi Shoten)
￥1800

【参考書】
Participants will be given some information in the class.

【成績評価の方法と基準】
理由のない半期の欠席４回以上（４回を含む）で授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書、日付とフルネーム入りの病院の領収書など）などは証明できるものを持参すること。遅刻は授業開始１５分以降の入室から。３回目の遅刻を１回欠席に換算します。こちらも遅延証明書があれば、当授業内に、持参した場合のみ有効とします。期末テスト 80%, 平常点 10%(TOEIC など）他のタスク 10%。

【学生の意見等からの気づき】
If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【学生が準備すべき機器他】
特にありません

【その他の重要事項】
復習を行うこと。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

長谷川　秀子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、語彙力・文法力、構文などを確認しながら 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目指す。グローバル社会における英語の役割も考え、将来の技術者・研究者に必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、高度な英語運用能力の習得を目指していく。学生の積極的な参加が大事となる。

【到達目標】
科学とその恩恵を受ける現代社会に私達は身をおいている。国内外の科学技術、社会生活、医学、動物学、生命倫理と宇宙という様々なトピックに関する英語を読みながら、読解力や知識を高め、考える力を伸ばし、自分の考えを英語で表現することを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけではなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1 つのユニットを大体 1 回で終わるように授業を行う。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
　COVID－１９による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	授業の進めかた、テキストの使い方、予習等の説明。
第 2 回	Unit 1 Mini Presentation	Phone Dirt Reveals Personal Data
第 3 回	Unit 2	Driverless Buses
第 4 回	Unit 3 Mini presentation	Stealth Keys
第 5 回	Unit 4	Unfamiliar Sources of Energy
第 6 回	Unit 5 Mini Presentation	Delivery by Drone
第 7 回	Unit 6	Uber and its Future
第 8 回	Unit 7 Mini Presentation	Convenience Stores in Japan
第 9 回	Unit 8	Learn English with a Robot
第 10 回	Unit 9 Mini Presentation	Noise Level and Disease
第 11 回	Unit 10	Reading Faces
第 12 回	Review(1) Mini presentation Newspaper article	Current issue
第 13 回	Review(2) Newspaper article	Current issue
第 14 回	Term Exam	試験範囲　Unit 1-10

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
授業の前にテキストの本文を読んで簡単な要約ができるようにしておく。新しい語句の確認をしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】
科学の恩恵と私たちの暮らし
Science in Our Daily Life　SEIBIDO
By Toshihiko Kobayashi, Bill Benfield (2018)
ISBN978-4-7919-3416-4 1900 円（税別）

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介の予定。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】ミニプレゼンテーション、小テスト、課題など　50%
　　期末試験　50%
【評価基準】全体の 60 %の得点をもって可とする。
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

島田　顕

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかりと身につける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。
We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低 2 回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意訳ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにすること（英作文問題も含めて）。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Lesson　1	Lesson　1 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Lesson　2	Lesson　2 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Lesson　3	Lesson　3 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 5 回	Lesson　4	Lesson　4 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 6 回	Lesson　5	Lesson　5 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第 8 回	Lesson　6	Lesson　6 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 9 回	Lesson　7	Lesson　7 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 10 回	Lesson　8	Lesson　8 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 11 回	Lesson　9	Lesson　9 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 12 回	Lesson　10	Lesson　10 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 13 回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第 14 回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　テキストの本文の訳、ＥＸＥＲＣＩＳＥＳ等の問題は全員にあてる。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくること。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期 4 回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

【テキスト（教科書）】
テキスト：『Spotlight on Britain イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】
豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %
※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進み方を速くし，小テスト，提出物の回数を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
辞書、電子辞書。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小屋　多恵子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、基礎的な文法力と語彙力の定着を図ると同時に、それに支えられたライティング力の向上を目的とする。ライティングは高校までの授業で最も学習する機会が少ないにも関わらず、大学以降ますます要求される重要な技能である。基礎的な文法知識を復習し、語彙の中でも語法とコロケーションに焦点を当て、日本人学習者のエラーに留意したテキストを使用して正確で自然なライティング力養成を目指す。

【到達目標】
1) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認し、正しい文法と語法・コロケーションに支えられた自然な英文を習得できる。
2) 自然な英文を文字だけでなく音声も合わせて身に着けられる。
3) 日本語的な表現を、日英発想の違いを念頭に置いて、直訳ではなく、効果的に英語で表現することができる。
4)2 年次に履修するアカデミック・ライティングの準備として、まとまりのある文章が書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の 6 つである。
1)warming-up activity: 先週の復習をする。
2) 文法・基本例文をおさらいする。
3) 音読・リスニングにより学習ポイントを確認する。
4) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認する。
5) 日本人英語学習者のエラー項目に注意して英文を書く。
6) 正確な文法に支えられた文をもとに、英語でまとまった文章を書く。
・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な参加が求められる。
・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深めることに努めたい。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	授業の進め方、学習の仕方、評価などの説明。英語力チェック。
2 回目	Introduction	英語力チェック。
3 回目	Unit 1 主語の選択	Unusual Weather
4 回目	Unit 2 名詞 (1)	Terrorism
5 回目	Unit 4 代名詞	Fame and Fortune
6 回目	Unit 5 冠詞	Hosting the Olympics
7 回目	Review	中間試験
8 回目	エッセイを書いてみよう (1)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。
9 回目	Unit 6 形容詞 (1)	Convenient Gadgets and Sustainable Lifestyles
10 回目	Unit 8 副詞	Still Addicted to Junk Food
11 回目	Unit 9 比較	A Graying Society
12 回目	Unit 10 動詞 (1)	Waiting for "Mr. Right"
13 回目	Review	期末試験
14 回目	エッセイを書いてみよう (2)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。
・教科書の一部指定した箇所を予習し、補足プリントをやってみる。

【テキスト（教科書）】
Writing Updates
A Grammar-based Approach to English Writing
『今を表現する英文ライティング入門』
木塚　晴夫/ノースリッジ ロジャー著
金星堂　1944 円
プリント課題を適宜配布

【参考書】
必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題・小テスト・中間テスト 50%
学期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】
次の 4 点に留意する。
1) 一つ一つの活動には明確な目的や意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
2) 学生の興味や学習の理解度に応じて、シラバスに書いた計画を柔軟に修正し授業を行う。
3) わかりやすく見やすい板書を心がける。
4) 質問しやすい環境と時間を作る。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使用する際は前もって連絡する。

【その他の重要事項】
・５回欠席した者に対しては学期末試験を受けることなく単位取得不可となる。
・遅刻・早退は２回を持って欠席１回とみなす。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

井上　敏郎

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
本授業では英語のスキルアップのため、読む、聞く、書く、話すを練習する。特に、読むについて、日本語に訳さず理解する方法を学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
読む、聞くを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	授業説明と英語力の確認	小テストを行う。
2	英語力の確認	100 字程度の英文を読む。
3	英語力の確認	内容理解のための練習を行う。
4	ＤＶＤを使ってのリスニング。	簡潔な英文を聞いて、内容を理解する。
5	ＤＶＤを使ってのリスニング。	簡潔な英文を聞いて、内容を理解する。
6	ＤＶＤを使ってのリスニングとスピーキング。	使われた英文を使ってみる。
7	ＤＶＤを使ってのリスニングとスピーキング。	使われた英文を使ってみる。
8	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
9	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
10	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
11	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
12	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
13	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
	前期の授業内容の確認	前期試験に向けての説明
14	前期試験	学力の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】易しい英語の本を 1 冊読む。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%) 重視。試験 (40%) を実施する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
前回の確認をしっかり行い、授業の流れが円滑に進むように気をつける。少し早口になる場合があるようなので、ゆっくり喋ることを心掛けます。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

L　アイヴアニック

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施。

【到達目標】
Learning new vocabulary and reviewing basic structures so that students may use English more correctly and confidently both in speaking and writing. Students will learn to focus on important words when listening. Getting rid of katakana pronunciation will be a priority.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
All four skills in English will be covered in this course. Students will learn to say what they want to say in English about the topics listed in the syllabus. Homework will be reviewed and students will work in pairs or groups to practice dialogs, interview each other and discuss topics suggested in the textbook. Students can expect homework every week, in order to keep in touch with English outside of class. The instructor will also provide some cultural background about English-speaking countries and help students explain some aspects of Japanese culture in English. The instructor will let the students know what their current grade is for the course at the same time as each of two quizzes are returned with corrections. Students may ask how they are doing at any time. The instructor will also help each student correct English errors he/she has made in class. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Getting to know someone; greeting and goodbyes; Names in English	Unit 1, Lesson A and B
第 2 回	Typical conversations in class; The verb "to be" in Q's and A's.	Unit 1, Lesson B and C
第 3 回	Exchanging tel. numbers & email addresses;meeting and making small talk.	Unit 1, Lesson C and D; Vocabulary Review
第 4 回	Further work on "to be"; classroom vocab.; articles, plurals	Unit 2, Lesson A and B
第 5 回	Describe the classroom; asking for help; expressing location; possessive nouns	Unit 2, Lesson C & D Vocabulary Review
第 6 回	Responses to "thank you" and "I'm sorry"; understanding instructions	Finish Unit 2; Quiz on Units 1 and 2 and all classwork to this point (exact date announced in class)
第 7 回	Possessive pronouns; talking about your favorites	Unit 3, Lesson A
第 8 回	Describing people; members of the family; linking; Yes/No questions.	Unit 3, Lesson B and C
第 9 回	Wh-questions; showing interest and surprise	Unit 3, Lesson C and D
第 10 回	Home life; affirmative and negative statements; pronouncing plurals correctly	Unit 1-3 review. Quiz on vocabulary from page 1 to 32. (exact date to be announced in class); Unit 4, Lesson A
第 11 回	Your daily routine; time expressions; short answers to Yes/No questions	Unit 4, Lesson B
第 12 回	Adding info to Yes/No answers; using "well..."as a hesitation utterance	Unit 4, Lesson C
第 13 回	Reading about "average" Americans; your average week	Unit 4, Lesson D
第 14 回	Preparation for final exam.	Review of all material from Units 1-4 and all material added in class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Students will have exercises to prepare in the textbook every week, some written and some oral. Completion of these exercises as homework will enable them to perform better and with more confidence in class and will reduce the need to cram for tests.

【テキスト（教科書）】
McCarthy, Michael, et al, Touchstone 1, Student's Book, 2nd ed. (Cambridge: ISBN 978-1107679870)

【参考書】
A good English-English electronic or paperback dictionary. There are many good ones available. Every student should bring such a dictionary to class every session.

【成績評価の方法と基準】
There will be two quizzes with a maximum score of 50 points (16.7% of the total) each and a final exam of 100 points (33.3% of the total). Students will receive grades and corrections the next week in class. In addition, classwork and homework will be evaluated each week. In total, this factor will count 100 points (33.3%) for the whole term. Maximum number of points that can be earned: Quizzes 100 pts, Final exam, 100 pts, Class participation/homework, 100 pts = 300 points total. Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work. Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

【学生の意見等からの気づき】
Students have been well satisfied, with most exceeding performance expectations in past years. The only difference is that the same amount of material has been covered in fewer, but longer sessions since 2018, and, of course, in 2020 via Zoom online.

【学生が準備すべき機器他】
Students must bring their textbook and English-English dictionary to class.They can use a dictionary on their smartphones if they wish.

【その他の重要事項】
Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it, unless specifically instructed not to.

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

KOPROWSKI MARK

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
Students will develop and practice speaking, listening, reading and writing English communication skills through a variety of everyday topics. By the end of the course, students will feel more comfortable using general English and be able to express themselves more fluently and confidently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The development and practice of useful grammar, vocabulary, pronunciation and functional language will be a regular feature of the course. Pair work and small group work will be emphasized. English will be used as the medium for instruction at all times.
Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.
Students will also receive individual written feedback and error correction on writing assignments.
Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction & Explanation	Students will receive a self-introduction by the teacher. Students will have a chance to ask questions and introduce themselves to their classmates.
2	Unit 1A My interests	Vocabulary: Interests Speaking: Ask and talk about interests Grammar: Present of 'be'
3	Unit 1B My interests	Speaking: Ask for repetition; ask for someone to speak more slowly Listening: About a party Pronunciation: Intonation of yes/no and Wh-questions
4	Unit 1C My interests	Vocabulary: Sports and exercise Grammar: Simple present Speaking: Ask and talk about sports and exercise habits
5	Unit 1D My interests	Reading: a blog post Speaking: Talk about free-time activities Writing: Write about your interests
6	Unit 2A Descriptions	UNIT 1 QUIZ Vocabulary: Personality adjectives Grammar: What... like? Speaking: Ask and talk about people's personalities
7	Unit 2B Descriptions	Speaking: Say you think something is or isn't true Listening: People's personalities Pronunciation: 'Is he' or 'Is she'
8	Unit 2C Descriptions Unit 2D Descriptions	Vocabulary: Appearance Grammar: What...look like? Speaking: Ask and talk about people's appearance Reading: Online profiles Listening: An online profile Writing: Write a description of yourself
9	Unit 3A Rain or shine	UNIT 2 QUIZ Vocabulary: Weather Grammar: adverbs of intensity; quantifiers with verbs Listening: The weather in different cities Speaking: Talk about the weather and seasons
10	Unit 3B Rain or shine	Speaking: Ask for and give an opinion Listening: A good time to visit places
11	Unit 3C Rain or shine	Vocabulary: Indoor activities Grammar: would like + infinitive Pronunciation: Reduction of 'would you' Speaking: Talk about what you would like to do
12	Unit 3D Review for final examination	Reading: Where would you like to go? Speaking: A Place I'd Like to Visit UNIT 3 QUIZ
13	FINAL EXAMINATION (paper test)	Final paper examination: UNITS 1, 2, 3
14	FINAL EXAMINATION (speaking test)	5 to 6-minute speaking test in pairs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students are responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time. Late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】
Four Corners Level 2A (2nd Edition) by Jack C. Richards and David Bohlke (Published by Cambridge)
ISBN: 9781108575867

【参考書】
Four Corners Level 2A Online Workbook Level 2A (2nd Edition) http://fourcornersowbs.cambridge.org/product_groups/landing
An English-Japanese dictionary will be useful.
A good online English-Japanese dictionary can be found here: http://www.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Class participation (speaking English, taking notes) 20%
Homework assignments (online workbook) 20%
Quizzes (Units 1, 2, 3) 20%
Final examination (paper) (Units 1, 2, 3) 20%
Final examination (speaking) (Units 1, 2, 3) 20%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

久慈　美貴

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
豊かな語彙力と正確な文法力の定着をはかり、リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの総合的な向上を目的とする。専門知識を英語で受発信するための、基礎力・総合力・応用力をつけることを目標に、ペアワークやグループワークを通して、様々な表現に触れ、表現の幅を広げていきたい。

【到達目標】
基本的な文法を土台として、日常的な英語を読み、書き、聞き、話すことができる。
テキストや配布プリントで扱われるトピックを英語でまとめ、ペアワークやグループワークで、情報を交換し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は，豊かな語彙力・正確な文法力を養成し，リスニング力，リーディング力，ライティング力を更に向上させることを目的とする。授業は，学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で効果的な教授方法を取り入れるが，最終的には総合的な英語力向上を目指す。基本は正確な読み取りとまとめの練習。ひきつづきテキストおよび補助プリントに即して練習していく。授業のはじめに前回の提出課題のなかからいくつかを取り上げて紹介し、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7 Spend, spend, spend!	Talking about buying habit, comparing goods
2	U.7 Express Yourself	Review of the expression in U.7 and listening practice.
3	Unit 8 Looking back	Talking about vacation and trips
4	U.8 Express Yourself	Review of the expressions in U.8 and listening practice,
5	Unit 9 Life's experiences	Talking about experiences, talking about health
6	U.9 Express Yourself	Review of the expressions in U.9 and listening practice.
7	Unit 10 Around town	Describing location, giving directions
8	U.10 Express Yourself	Review of the expressions in U.10 and listening practice.
9	Unit 11 Looking ahead	Talking about future plan
10	U.11 Express Yourself	Review of the expressions in U.11 and listening practice.
11	Unit 12 Review	Review U. 7-11
12	Reading session 1	Read a short article and make a summary. Grammar review.
13	Reading session 2	Read a short article and make a summary. Grammar review.
14	学期のまとめ	Review for U.7-12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各 2 時間を標準とする】テキストの会話文をくりかえし音読して、どのような抑揚で発話すれば意味が伝わりやすくなるか、考えてみましょう。強調すべき単語はどこか？ と考えることで、トピック抜き出しの練習にもなるはずです。
Reading session では、要点の抜き出しとまとめの練習を重ねてゆきましょう。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。資料を配布する。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%、授業時の提出物および授業時の発表 70%として評価する。4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。
遅刻も回数によって減点の対象となるので、注意してください。
提出物は、授業時のインタビューレポート、長文からのまとめレポートなどです。
文法事項に注意して、簡潔で分かりやすいまとめを作ってみましょう。

【学生の意見等からの気づき】
毎回 Interview & report として作文を提出していただきます。返却されたレポートは必ずチェックされた部分を確認して、訂正箇所など見直してください。疑問点があれば授業後に対応します。ご質問をお待ちしております。
Writing 課題で、結論を急ぎすぎて途中の説明が不十分に終わる例が多くあります。ライティングプランを作る際に、自分で Topic に関する質問を設定し，それに答える形で説明を展開するようにすれば、他者が読んだとき分かりやすい説明文を作っていけると思います。

【学生が準備すべき機器他】
とくに使用しない。

【その他の重要事項】
授業時はかならず辞書を携行してください。
毎回の提出物が平常点になりますので、欠席しないよう気をつけてください。
遅刻も回数に応じて減点の対象になります。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge and aims at the comprehensive development of the reading, writing, listening and speaking skills. Our goal is to get the ability to comprehend and communicate in English in the science and engineering fields. Let's try to widen your English expression through pair- or group work in the class.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

柏原　俊樹

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主に 3 つの切り口から学んでいく。1 つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう 1 つには、随時実践的な
[やや難しい] リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞について、いずれもまだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。
原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。
ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれません。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが 2 つあります。
日本語
のネイティブも国語のテストで必ず 100 点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないことと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいともいえる、理論の領域に踏み込まざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 6: CHARLES'S BEDROOM
2	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 6: CAFE
3	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 6: NATIONAL FILM THEATRE
4	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 7: SCOTTISH CHURCH
5	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 7: SCOTTISH MANOR HOUSE
6	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 8: GARETH'S PARENTS' HOUSE
7	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 8: CHAPEL
8	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 9: CHARLES'S BEDROOM
9	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 9: CHURCH
10	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 10: CHURCH
11	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 10: CHARLES & SCARLETTE'S KITCHEN
12	文法・語法に基づいた内容の理解	WEEK 10: CHARLES & SCARLETTE'S HOUSE
13	総復習	総復習
14	まとめと理解度確認試験	まとめと理解度確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　教科書の予習は必須。
リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

【テキスト（教科書）】
教科書:『映画総合教材「フォー・ウェディング」』（松柏社）

【参考書】
できれば語源欄のある辞書を使ってください。また、語学習得のかなり発展した段階に至るまでは、紙の辞書のほうが学習効果が高いと思われます。

【成績評価の方法と基準】
学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（80 %）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】
辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】
積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

神　康介

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	No More Shakespeare? Privacy Matters	英文学 プライバシー
2	Pet Peeves Truth in dvertising	ペット 広告
3	The Race to Work	通勤
4	Unsafe at Any Speed	交通
5	Up in Smoke	喫煙
6	Keeping Up Appearances	外見を飾る
7	Painful Cuts	支出削減
8	The Future of Cinema?	映画
9	Separate Ways	離婚
10	Power to the People	環境問題
11	Behind Bars	獄中からの叫び
12	O City of Broken Dreams	貧困
13	Changing Times	変遷
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては, 大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句, 専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

【テキスト（教科書）】
U.K. Update いま、イギリスを読む　南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 %で評価する。半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

バリー　ヘイタ

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。
Increasing general English proficiency and particular skills in understanding texts.

【到達目標】
i)Development of lexical, logical, and grammatical expression in English
ii)Refinement of the strategies and analytical methods employed in Comprehensive English 1 through completing classroom tasks, homework assignments, and module tests.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This course incorporates collaborative learning through practical problem solving. Students study in pairs, give blackboard presentations, recite individually, and complete assignments for submission. Feedback will be provided over the university Hoppii system on the Announcement and Assignment Submission pages.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Climate Change	Language Focus: prepositions/ propositions/ predictions
Class 2	Climate change	Reading Practice: certain/probable/ possible
Class 3	Climate Change	TOEIC Extension: Reading,Part 5 (grammar,meaning, logic)
Class 4	Previews and Reviews	Language Focus: adjectives/verbs/nouns
Class 5	Previews and Reviews	Reading Practice: paraphrase/restatement
Class 6	Previews and Reviews	TOEIC Extension: Reading,Part 5 (grammar,meaning, logic)
Class 7	Conditions and States	Language Focus: nouns/verbs/adjectives
Class 8	Conditions and States	Reading Practice: conditions/predictions
Class 9	Conditions and States	TOEIC Extension: Reading,Part 6 (reference,paragraph structure)
Class 10	Distance and Space	Language Focus: synonyms/paraphrases
Class 11	Distance and Space	Reading Practice: past events/present states/future outcomes
Class 12	Distance and Space	TOEIC Extension: Reading,Part 7 (scanning,alignment, content,paragraph)
Class 13	Judgements and Opinions	Language Focus: adverbs/adjectives/ verbs/nouns
Class 14	Judgements and Opinions	Reading Practice: fact/opinion/theory

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Work not finished in class time will be given for completion as homework. Absence from a class does not excuse a student from doing assignments or covering class work missed.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor in class.

【参考書】
Topics in English 1 @ Longman Asia Limited,1994
Practice Tests in the TOEIC(ELS),TOEIC 運営委員会：
Volumes 1~4

【成績評価の方法と基準】
Students are expected both to study sincerely and to make a positive contribution to the class.　Accordingly, students who are disinclined,asleep, chattering,or otherwise engaged will be considered disruptive. Grades are based on module tests(65%),assignments(20%)and class contribution(15%)

【学生の意見等からの気づき】
Greater practice in oral skills(intonation/pronunciation)relating to the recitation of unit texts.

【学生が準備すべき機器他】
Cassette Tape or CD Player.

【その他の重要事項】
Forgotten or lost materials will be replaced by the instructor only once for each student at the start of any class.In all other cases students are required to supply their own replacements before a class begins. Furthermore, photocopies of assignments will not be accepted as the original work of the student offering such.

【Caution】
Changes to the schedule may be made in accordance with the proficiency level of the class.

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.　In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them.　Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency and to increase general proficiency in understanding written and spoken English as well as to improve particular skills for presenting information in English

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

バリー　ヘイタ

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。
Increasing general English proficiency and specific skills in understanding English texts.

【到達目標】
i)Development of lexical,logical,and grammatical expression in English
ii)Refinement of the strategies and analytical methods employed in Comprehensive English 1 though completing classroom tasks, homework assignments, and module tests.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This course incorporates collaborative learning through practical problem solving. Students study in pairs,give cooperative blackboard presentations,present individual recitations, complete class assignments and receive personalin-class consultations. Feedback will be provided over the university Hoppii system on the Announcement and Assignment Submission pages.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Climate Change	Language Focus: prepositions/ propositions/ predictions
Class 2	Climate change	Reading Practice: certain/probable/ possible
Class 3	Climate Change	TOEIC Extension: Reading,Part 5 (grammar,meaning, logic)
Class 4	Previews and Reviews	Language Focus: adjectives/verbs/nouns
Class 5	Previews and Reviews	Reading Practice: paraphrase/restatement
Class 6	Previews and Reviews	TOEIC Extension: Reading,Part 5 (grammar,meaning, logic)
Class 7	Conditions and States	Language Focus: nouns/verbs/adjectives
Class 8	Conditions and States	Reading Practice: conditions/predictions
Class 9	Conditions and States	TOEIC Extension: Reading,Part 6 (reference,paragraph structure)
Class 10	Distance and Space	Language Focus: synonyms/paraphrases
Class 11	Distance and Space	Reading Practice: past events/present states/future outcomes
Class 12	Distance and Space	TOEIC Extension: Reading,Part 7 (scanning,alignment, content,paragraph)
Class 13	Judgements and Opinions	Language Focus: adverbs/adjectives/ verbs/nouns
Class 14	Judgements and Opinions	Reading Practice: fact/opinion/theory

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Work not finished in class time will be given for completion as homework. Absence from a class does not excuse a student from doing assignments or covering class work missed.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor in class.

【参考書】
Topics in English 1 @ Longman Asia Limited,1994
Practice Tests in the TOEIC(ELS),TOEIC 運営委員会：
Volumes 1~4

【成績評価の方法と基準】
Students are expected both to study sincerely and to make a valuable and positive contribution to the class. Accordingly,students disinclined,asleep,chattering,or otherwise engaged will be considered disruptive. Grades are based on module tests(65%), assignments(20%), class contribution 15%)

【学生の意見等からの気づき】
Further practice in oral skills of intonation and pronunciation through intensive recitation of unit texts.

【学生が準備すべき機器他】
Cassette Tape or CD Player.

【その他の重要事項】
Forgotten or lost materials will be replaced by the instructor only once for each student at the start of any class.In all other cases students are required to supply their own replacements. Furthermore, photocopies of assignments will not be accepted.

【Caution】
Changes to the schedule may be made in accordance with the proficiency level of the class.

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.
To increase general proficiency in understanding written and spoken English as well as to improve particular skills for presenting information in English.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

花﨑　一夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学のグローバル化が求められている現在、英語力は異文化間コミュニケーションを円滑に進めるために必要な重要なツールとなっている。そこでより高度な英語力を養成するために本授業では、パラグラフレベルでの読解力を養成し、アカデミックな内容の文章を読みこなせるようになることを目的に、様々な演習を行う。

【到達目標】
アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的にはテキストに沿って学習をすすめる。１回の授業でどのくらい進むかについては、学習支援システムを通して事前にお知らせする予定です。
毎回、授業の内容が理解できているかを確認するための小テストを実施する予定です。皆さんの小テストの出来具合を見て、翌週に必要に応じてコメント・解説をしてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction	授業の説明
2.	Chapter1	Going Viral
3.	Chapter2	Tourist Traps
4.	Chapter4	Full Contact
5.	Chapter5	Fake News
6.	Chapter6	Dead as a Dodo
7.	Chapter7	It's a Dry Heat
8.	Chapter10	Man versus Beast
9.	Chapter11	A Perfect World
10.	Chapter12	Modern Frankenstein
11.	Chapter13	Tinted Lenses
12.	Chapter11	リーディング演習
13.	Chapter14	Get Well Soon
14.	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の内容に関連する予習用課題を授業前に学習する。授業後は、もう一度その課題に取り組み、授業で学習した内容を定着させる。

【テキスト（教科書）】
Getting Ready to Change the World
-New Challenges, New Opportunities-
グローバル時代を生き抜く変革への視点
成美堂　１９００円（税別）

【参考書】
授業中などに適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題など：５０％
期末テスト：５０％

【学生の意見等からの気づき】
小テストを多く実施することで、学生の理解度を確認することができたので、今年度も小テストを多く実施し、その結果を授業にフィードバックしたいと考えている。

【その他の重要事項】
①授業には必ず辞書を持参すること（電子辞書可）
②初回授業で履修上の注意点を詳細に説明するので、必ず参加すること。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

柏原　俊樹

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主に 3 つの切り口から学んでいく。1 つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう 1 つには、随時実践的な
[やや難しい] リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞について、いずれもまだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。
原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。
ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれません。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが 2 つあります。
日本語
のネイティブも国語のテストで必ず 100 点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないことと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいともいえる、理論の領域に踏み込まざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 5:10 DOWNING STREET
2	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 6: SARAH'S FLAT
3	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 6: FAIRTRADE OFFICE
4	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 6: TONY'S FLAT
5	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 7: AIRPORT
6	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 7: MIA'S BEDROOM
7	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 8: JOE'S FLAT
8	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 8: HARRIS STREET
9	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 8: SCHOOL CAR PARK
10	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 9: SCHOOL HALL
11	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 9: SCHOOL YARD
12	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 9: RESTAURANT
13	総復習	総復習
14	まとめと理解度確認試験	まとめと理解度確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　教科書の予習は必須。
リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

【テキスト（教科書）】
教科書: 『映画総合教材「ラブ・アクチュアリー」』（松柏社）

【参考書】
できれば語源欄のある辞書を使ってください。また、語学習得のかなり発展した段階に至るまでは、紙の辞書のほうが学習効果が高いと思われます。

【成績評価の方法と基準】
学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（80 %）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（20 %）。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】
辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】
辞書必携。積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

梨本　邦直

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
英語の論理構成を学ぶとともに語彙力の増強とと言い換え表現を豊かにする。TED によるプレゼンを視聴して、論理構成を理解する。語彙力を高めるにあたって難度の高い語句について文脈に則した言い換え表現を考える。また、ニュース英語で TOEIC テストのためのリスニング力を養い、時事表現に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
社会情勢の変化に伴い、授業計画の変更がありうる。変更については本授業の開始日以降に学習支援システムでその都度提示する。
TED Talks については、教科書の問題量が多いので事前に予習すべきところを指定する。予習は課題として授業で確認を行い、その場でフィードバックを行う。
TOEIC 対策として ABC ニュースシャワーを見る。アメリカ英語の口語に慣れ、リスニング力の向上とともに、語彙の増強を図る。時事表現を中心とする語彙の小テストを行い、翌週にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Unit 6, Food Revolution	ABC ニュースシャワー 1 Lesson A, Reading skills
2 回目	Unit 6, Teach Every Child about Food	Lesson B, TED TALK comprehension
3 回目	Unit 7, Power Poses	Lesson A, Reading skills ABC ニュースシャワー 2
4 回目	Unit 7, Your Body Language Shapes Who You Are	Lesson B, TED TALK comprehension
5 回目	Unit 8, Kite Power	Lesson A, Reading skills ABC ニュースシャワー 3
6 回目	Unit 8, How I harnessed the Wind	Lesson B, TED TALK comprehension
7 回目	授業内中間テスト	ニュース英語復習テスト (1) を含む ABC ニュースシャワー 5
8 回目	Unit 9, Thinking in Pictures	Lesson A, Reading skills ABC ニュースシャワー 6
9 回目	Unit 9, Deep Sea Diving in a Wheelchair	Lesson B, TED TALK comprehension
10 回目	Review of Unit 9	Rephrasing Keywords ABC ニュースシャワー 7
11 回目	Unit 10, Information is Beautiful	Lesson A, Reading skills ABC ニュースシャワー 8
12 回目	Unit 10, The Beauty of Data Visualization	Lesson B, TED TALK comprehension
13 回目	Review of Unit 10	Rephrasing Keywords ABC ニュースシャワー 9
14 回目	授業内期末試験	ニュース英語復習テスト (2) を含む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Lesson A の Pre-Reading と Developing Reading Skills は予習して授業に臨む。テクスト部分は音読する。Lesson B については、冒頭にある背景説明の序文を読み、Part 1 と Part 2 を予習する。p.148 以降にある Video Transcripts を参照してもよい。TED のプレゼンは、https://www.ted.com/ でタイトルを検索して見る。英語のスクリプト全文、その日本語訳（正しいとは限らない）もある。ただし、プレゼンによっては教科書の抜粋よりかなり長い。予習に時間をかけてプレゼンの全体を理解しておくことが望ましい。授業の進み方（特に Lesson B）についていくのが難しいと感じた場合は、予習を充分にする。

【テキスト（教科書）】
Laurie Blass et al. (2016) 21st Century Reading. National Geographic learning/Cengage Learning

【参考書】
https://www.ted.com/talks

【成績評価の方法と基準】
社会情勢の変化に伴って以下の成績評価の方法と基準を変更する場合、授業開始日以降に学習支援システムで提示する。
中間テスト： 40%（復習範囲 Units 6-7）
期末試験： 40 %（復習範囲 Units 9-10）
ニュース英語テスト（2 回）・その他提出物： 20 %

【学生の意見等からの気づき】
言い換え表現が分かりやすく習得できるようにスライドを工夫した。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

小畑　美貴

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウィルス感染拡大防止の為、現時点では授業形態が未定です。決定次第授業支援システムより皆さんにご連絡致します。場合によっては、授業予定は変更の可能性もあります。
テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。初回授業時に各ユニットの担当者を決め、各学期１回は授業内で発表をしてもらいます。また、前回の授業で学習した内容が定着しているか確認する為に、毎回の授業で小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit7: Dinosaur and Human Co-Existence (1)	恐竜と人類の共存に関する文章を読み解く
3	Unit7: Dinosaur and Human Co-Existence (2)	小テスト① 恐竜と人類の共存に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
4	Unit8: Face Recognition Systems All Around Us (1)	小テスト② 顔認識システムに関する文章を読み解く
5	Unit8: Face Recognition Systems All Around Us (2)	小テスト③ 顔認識システムに関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
6	Unit9: Miracle Drink: Green Tea and Action of Catechin (1)	小テスト④ 緑茶とカテキンの効能に関する文章を読み解く
7	Unit9: Miracle Drink: Green Tea and Action of Catechin (2)	小テスト⑤ 緑茶とカテキンの効能に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
8	Unit10: Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop Global Warming? (1)	小テスト⑥ 海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化に関する文章を読み解く
9	Unit10: Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop Global Warming? (2)	小テスト⑦ 海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
10	Unit11: Time Warp: Taking a Journey to Black Holes in Space (1)	小テスト⑧ ブラックホールとタイムワープの関係性に関する文章を読み解く
11	Unit11: Time Warp: Taking a Journey to Black Holes in Space (1)(2)	小テスト⑨ ブラックホールとタイムワープの関係性に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
12	Unit12: Plastic Surgery (1)	小テスト⑩ 美容整形手術に関する文章を読み解く
13	Unit12: Plastic Surgery (2)	小テスト⑪ 美容整形手術に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
14	授業内学期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・前回の授業内容を復習し、次週の小テストに備える。
・返却された小テストを見直し、最終試験へ備える。
・発表担当のユニットに関しては、発表の準備を入念に行う。

【テキスト（教科書）】
Faudree, Michael C. "Science Adventures", Kitihara Shoten. (￥1,900)

【参考書】
英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
【オンラインのみの場合】
課題提出　100 %
【対面のみの場合】
小テスト　45 %
学期末テスト　40 %
授業への積極的な参加姿勢　15 %
ただし、学期途中で授業形態が変更になる可能性もあり、その際は再度評価方法を変更せざるを得なくなります。変更する際は、事前に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
現時点では、授業形態が未定ではありますが、オンラインでも対面でも、それぞれの特性をうまく生かすことで、学生の皆さんが、教科書の内容を正確に理解し、学習することが出来るように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

島田　顕

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかりと身につける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。
We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低 2 回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意訳ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにすること（英作文問題も含めて）。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Lesson　11	Lesson　11 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Lesson　12	Lesson　12 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Lesson　13	Lesson　13 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 5 回	Lesson　14	Lesson　14 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 6 回	Lesson　15	Lesson　15 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第 8 回	Lesson　16	Lesson　16 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 9 回	Lesson　17	Lesson　17 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 10 回	Lesson　18	Lesson　18 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 11 回	Lesson　19	Lesson　19 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 12 回	Lesson　20	Lesson　20 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 13 回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第 14 回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　テキストの本文の訳、ＥＸＥＲＣＩＳＥＳ等の問題は全員にあてる。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくること。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期 4 回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。
　後期は授業の進度を速くすることになるので、予習も２・３課分することが要求される。

【テキスト（教科書）】
　テキスト：『Spotlight on Britain　イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】
　豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。
　その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
　評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
　評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %
　※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進み方を速くし，小テスト，提出物の回数を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
辞書、電子辞書。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

小林　直樹

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力正確な文法力の定着を図り、それに支えられた４技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な英語力の向上を目的とする。また、理工・生命系の分野においては、英語が世界の共通語となっていることを受け、将来の技術者・研究者に求められる、英語での理解力・発信力を培うための授業とする。併せて、英文を楽しんで読む機会を設ける。

【到達目標】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。また、英文を楽しんで読む能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
英文の読解を中心にするが、リスニングや英作文の練習も行う。オンラインで授業を進めますが、リスニング、長文読解を問う課題を提出してもらい、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	教科書以外の英文を読む。	テクストを読む。
第 2 回	Unit 8	テクストを読む。
第 3 回	Unit 9	テクストを読む。
第 4 回	Unit 10	テクストを読む。
第 5 回	教科書以外の英文を読む。	テクストを読む。
第 6 回	Unit 11	長文を聞き取る練習。
第 7 回	Unit 12	リスニングの練習など。
第 8 回	TOEIC 対策	テクストを読む。
第 9 回	Unit 13	テクストを読む。
第 10 回	教科書以外の英文	英文を読む楽しみを経験する。
第 11 回	Unit 14	テクストを読む。
第 12 回	TOEIC 対策	リスニングの練習など。
第 13 回	Unit 15	試験前に質問を受け付ける。
第 14 回	期末テスト	英文和訳を中心に試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
Reading Wonders　（金星堂）

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】学期末の試験の点数 (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
英語に関して、多様な経験を出来るような授業に出来れば、と思っています。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). Technicians and scientists in the future will need the ability to comprehend and communicate in English, so this class emphasizes the development of such ability.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

中野　里美

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
To become familiar with and practice a range of listening and reading skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This course will consist of some materials based on topics from the textbook to some handouts. Feedback about the classes will be carried out on the last week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Knowing about the world issues	Food self-sufficient
第 2 回	Knowing about the world issues	Food self-sufficient
第 3 回	Learning how to be better off	Whose fish?
第 4 回	Learning how to be better off	Whose fish?
第 5 回	Thinking about yourself	English: necessary or not?
第 6 回	Thinking about yourself	English: necessary or not?
第 7 回	Thinking about yourself	Career education
第 8 回	Thinking about yourself	Career education
第 9 回	Expressing opinions	Hours worked
第 10 回	Expressing opinions	Hours worked
第 11 回	Developing a critical awareness	Gender equality
第 12 回	Developing a critical awareness	Where does the stress come from?
第 13 回	Developing a critical awareness	The age of childlessness
第 14 回	Review	term-end exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Outside class, you will need to be prepare the contents of the text before class,and review the materials given in the class.

【テキスト（教科書）】
Listening to dialogues on social issues by James M. Vardaman (Tsurumi Shoten)
￥1800

【参考書】
Students will be given some information in the class.

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】出席重視。出席の条件（下記の評価基準）を満たした学生を対象にテストを行う。
【評価基準】半期で 4 回以上の欠席をもって評価の対象外とする。遅刻は開始 15 分以降の入室からとし、3 回目の遅刻で 1 回欠席と換算する。早退も遅刻と同じ扱い。期末テスト 80%, 平常点 10%(TOEIC など）その他タスクなど 10%＝１００％となります。

【学生の意見等からの気づき】
If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
復習を行うこと

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

長谷川　秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、語彙力・文法力、構文などを確認しなが 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目指す。グローバル社会における英語の役割も考え、将来の技術者・研究者に必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、高度な英語運用能力の習得を目指していく。学生の積極的な参加が大事となる。

【到達目標】
科学とその恩恵を受ける現代社会に私たちは身をおいている。国内外の科学技術、社会生活、医学、動物学、生命倫理と宇宙という様々なトピックに関する英語を読みながら、読解力や知識を高め、考える力を伸ばし、自分の考えを英語で表現することを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけではなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1 つのユニットを大体 1 回で終わるように授業を行う。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
COVID－１９による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation Mini presetation	後期の授業の説明
第 2 回	Unit 11 Mini Presentation	Meditation and Sports
第 3 回	Unit 12	Digital Disabilities
第 4 回	Unit 13 Mini Presentation	Euglena Dietary Supplements
第 5 回	Unit 14	Facts about Koalas
第 6 回	Unit 15 Mini Presentation	Ants
第 7 回	Unit 16	Exotic Pets
第 8 回	Unit 17 Mini Presentation	Culling Feral Cats
第 9 回	Unit 18	When Do We Become "Old"?
第 10 回	Unit 19 Mini Presentation	Protecting Earth from Collisions
第 11 回	Unit 20	Migration to Mars
第 12 回	Review (1) Mini Presentation Newspaper article	Current issue
第 13 回	Review (2) Newspaper article	Current issue
第 14 回	Term Exam	試験範囲 Unit 11-20

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】
科学の恩恵と私たちの暮らし
Science in Our Daily Life　SEIBIDO
By Toshihiko Kobayashi, Bill Benfield (2018)
ISBN978-4-7919-3416-4 1900 円（税別）

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】ミニプレゼンテーション、小テスト、課題　50%
期末試験　50%
【評価基準】全体の 60 %の得点をもって可とする。
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。
教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

島田　顕

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかりと身につける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。
We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低 2 回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意訳ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにすること（英作文問題も含めて）。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Lesson　11	Lesson　11 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Lesson　12	Lesson　12 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Lesson　13	Lesson　13 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 5 回	Lesson　14	Lesson　14 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 6 回	Lesson　15	Lesson　15 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第 8 回	Lesson　16	Lesson　16 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 9 回	Lesson　17	Lesson　17 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 10 回	Lesson　18	Lesson　18 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 11 回	Lesson　19	Lesson　19 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 12 回	Lesson　20	Lesson　20 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 13 回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第 14 回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　テキストの本文の訳、ＥＸＥＲＣＩＳＥＳ等の問題は全員にあてる。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくること。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期 4 回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。
　後期は授業の進度を速くすることになるので、予習も２・３課分することが要求される。

【テキスト（教科書）】
　テキスト：『Spotlight on Britain　イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】
　豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。
　その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
　評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
　評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %
　※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進み方を速くし，小テスト，提出物の回数を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
辞書、電子辞書。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

小屋　多恵子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、基礎的な文法力と語彙力の定着を図ると同時に、それに支えられた更なるライティング力の向上を目的とする。基礎的な文法知識を復習し、語彙の中でも語法とコロケーションに焦点を当て、学生のエラーに留意したテキストを使用して正確で自然なライティング力養成を目指す。また、秋学期は特に次年度アカデミック・ライティングの準備も兼ねて、まとまりのある文章を書く練習を行う。

【到達目標】
1) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認し、正しい文法と語法・コロケーションに支えられた自然な英文を習得できる。
2) 自然な英文を文字だけでなく音声も合わせて身に着ける。
3) 日本語的な表現を、日英発想の違いを念頭に置いて、直訳ではなく、効果的に英語で表現することができる。
4) 正確な文法に支えられた文から文章へと発展させ、まとまりのある文章の書き方を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の 6 つである。
1)warming-up activity: 先週の復習をする。
2) 文法・基本例文をおさらいする。
3) 音読・リスニングにより学習ポイントを確認する。
4) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認する。
5) 日本人英語学習者のエラー項目に注意して英文を書く。
6) トピックに合った文章を書く。
・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な授業への参加が基本となる。
・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深めることに努めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction エッセイを書いてみよう (3)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。
2 回目	Unit 12 時制	Seeing What Isn't There
3 回目	Unit 13 態	Cybercrime
4 回目	Unit 14 動名詞	Looking for a Job
5 回目	Unit 15 不定詞	To Smoke or Not to Smoke
6 回目	Review	中間試験
7 回目	エッセイを書いてみよう (4)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。
8 回目	Unit 16 接続詞	Cats and Dogs
9 回目	Unit 17 前置詞	World Heritage Sites
10 回目	Unit 18 関係詞	Keeping the Peace
11 回目	Unit 19 仮定法	But for the Distance
12 回目	Unit 20 語順	Clean, Green Cities
13 回目	Review	期末試験
14 回目	エッセイを書いてみよう (5)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。
・教科書の一部指定した箇所を予習し、補足プリントをやってみる。

【テキスト（教科書）】
Writing Updates
A Grammar-based Approach to English Writing
『今を表現する英文ライティング入門』
木塚　晴夫/ノースリッジ ロジャー著
金星堂　1944 円
プリント課題を適宜配布

【参考書】
必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題・小テスト・中間テスト 50%
学期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】
次の 4 点に留意する。
1) 一つ一つの活動には明確な目的・意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
2) 学生の興味や学習の理解度に応じて、シラバスに書いた計画を柔軟に修正し授業を行う。
3) わかりやすく見やすい板書を心がける。
4) 質問しやすい環境と時間を作る。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使用することがあるが、その際は前もって連絡する。

【その他の重要事項】
・5 回欠席した者に対しては学期末試験を受けることなく単位取得不可となる。
・遅刻・早退は 2 回を持って欠席 1 回とみなす。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

井上　敏郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
本授業では英語のスキルアップのため、読む、聞く、書く、話すを練習する。特に、読むについて、日本語に訳さず理解する方法を学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
読む、聞くを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期試験の確認。リスニングによる応答。	リスニングの質問に答える。
2	リスニングによる応答。	リスニングの質問に答える。パートナーとの応答。
3	500 字程度の文章を読む。	訳さずに理解する練習を行う。
4	500 字程度の文章を読む。	パラグラフリーディングと英語によるまとめを行う。
5	1 分ほどのリスニング。	内容理解とまとめを行う。
6	1 分ほどのリスニング。	内容理解と英語によるまとめを行う。
7	1000 字程度の科学英文を読む。	内容理解とまとめ。
8	1000 字程度の科学英文を読む。	内容理解と英語によるまとめ。
9	一日のルー ティンのリスニング。	自分の一日を英語で書く。
10	TOEIC によるリスニング。	TOEIC 英語の特徴を掴む。
11	TOEIC によるリーディング。	文法の確認と TOEIC 英語の特徴を掴む。
12	授業のまとめ。	読む、聞く、話す、書くの確認。
13	授業のまとめ。	読む、聞く、話す、書くの確認。
14	秋学期試験。	英語力の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業内で説明するが、日々英語に触れる時間を作ることを望む。

【テキスト（教科書）】
授業で配布する。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%) 重視。試験 (40%) を実施する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
タスクの解答をしっかり提示することに気をつける。時々早口になるので、それも気をつける。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

L　アイヴアニック

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施。

【到達目標】
Learning new vocabulary and reviewing basic structures so that students may use English more correctly and confidently both in speaking and writing. Students will learn to focus on important words when listening. Getting rid of katakana pronunciation will be a priority.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
All four skills in English will be covered in this course. Students will learn to say what they want to say in English about the topics listed in the syllabus. Homework will be reviewed and students will work in pairs or groups to practice dialogs, interview each other and discuss topics suggested in the textbook. Students can expect homework every week, in order to keep in touch with English outside of class. The instructor will also provide some cultural background about English-speaking countries and help students explain some aspects of Japanese culture in English. The instructor will let the students know what their current grade is for the course at the same time as each of two quizzes are returned with corrections. Students may ask how they are doing at any time. The instructor will also help each student correct English errors he/she has made in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Wh- and Yes/No Questions about free time	Unit 5, Lesson A
第 2 回	Frequency adverbs; talking about TV shows	Unit 5, Lesson B
第 3 回	Restating questions another way; expanding on answers; reading about the Internet	Unit 5, Lesson C and D
第 4 回	Describing places; using there's/there're	Unit 6, Lesson A
第 5 回	Time expressions; making appointments; using "Let's".	Unit 6, Lesson B
第 6 回	Quiz (exact date announced in class); answering with "me too", "me neither".	Quiz on Unit 5 and first half of Unit 6 and all material added in class; Unit 6, Lesson C
第 7 回	Advertising in the media; reading classified ads	Unit 6, Lesson C
第 8 回	Review	Review of Units 4-6
第 9 回	Describing vacations; present continuous	Unit 7, Lesson A
第 10 回	Vocabulary Quiz (exact date announced in class); talking about sports and exercise	Quiz on all vocabulary in Units 4-6; Unit 7, Lesson B
第 11 回	Review of previous week's quiz; follow-up wh-questions	Unit 7, Lesson C
第 12 回	More on sports and exercise: reading and listening	Unit 7, Lesson D
第 13 回	Review of the present continuous; things you like, want, need to do	Unit 7, Vocab Notebook; Unit 8, Lesson A
第 14 回	Shopping	Unit 8, Lesson B

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Students will have exercises to prepare in the textbook every week, some written and some oral. Completion of these exercises as homework will enable them to perform better and with more confidence in class and will reduce the need to cram for tests.

【テキスト（教科書）】
McCarthy, Michael, et al, Touchstone 1, Student's Book, 2nd ed. (Cambridge: ISBN 978-1107679870)

【参考書】
A good English-English electronic or paperback dictionary. There are many good ones available. Every student should bring such a dictionary to class every session.

【成績評価の方法と基準】
There will be two quizzes with a maximum score of 50 points (16.7% of the total) each and a final exam of 100 points (33.3% of the total). Students will receive grades and corrections the next week in class. In addition, classwork and homework will be evaluated each week. In total, this factor will count 100 points (33.3%) for the whole term. Maximum number of points that can be earned: Quizzes 100 pts, Final exam, 100 pts, Class participation/homework, 100 pts = 300 points total. Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work. Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

【学生の意見等からの気づき】
Students have been well satisfied, with most exceeding performance expectations in past years. The only difference is that the same amount of material has been covered in fewer, but longer sessions since 2018 and class was conducted vias Zoom online in 2020.

【学生が準備すべき機器他】
Students need only their textbooks and dictionaries.Smartphone dictionaries are acceptable.

【その他の重要事項】
Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it, unless specifically directed not to. Students who accumulate five or more unexcused absences during a term may fail. Students who know they must be absent on a quiz/test day should tell the instructor ahead of time and present certification for the absence. The instructor will reschedule the quiz/test. Students who miss the final exam for good reason should immediately contact the office to explain the reason. If the reason is acceptable (illness, death or serious illness in the family, for example) the instructor and student will then come to an agreement on how to handle the situation. It is up to the student to attend and know when quizzes and tests are being given, as the dates will be announced multiple times in class.

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

KOPROWSKI MARK

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
Students will continue to build and practice speaking, listening, reading and writing English communication skills through a number of everyday topics. By the end of the course, students will feel more comfortable using general English, and they will be able to express themselves more fluently and confidently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The development and practice of useful grammar, vocabulary, pronunciation and functional language will be a regular feature of the course. Pair work and small group work will be emphasized. English will be used as the medium for instruction at all times.
Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.
Students will also receive individual written feedback and error correction on writing assignments.
Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction & explanation	Speaking: Talk about your summer break Check summer homework
2	Unit 4A Life at home	Vocabulary: Things in a home Grammar: How many/much Speaking: Ask and answer questions about your home
3	Unit 4B Life at home	Speaking: Make and agree to requests Pronunciation: Intonation of questions Listening: Friendly requests
4	Unit 4C Life at home	Vocabulary: Household chores Grammar: Separable two-word phrasal verbs Speaking: Talk about household chores
5	Unit 4D Life at home	Reading: "Unusual houses from around the world" Listening: A tour of Graceland Writing: Dream home
6	Unit 5A Health	UNIT 4 QUIZ Vocabulary: Parts of the Body Grammar: Imperatives; adverbs of manner Pronunciation: Reduction of 'and' Speaking: Give and follow instructions
7	Unit 5B Health	Vocabulary: Health problems Listening: What's wrong? Speaking: Say how you feel; wish someone well
8	Unit 5C Health	Vocabulary: Healthy habits Grammar: 'How' questions Speaking: Ask and talk about healthy habits
9	Unit 5D Health	Reading: "Feeling stressed?" Listening: Creative ways to manage stress Writing: Managing stress Speaking: Discuss ways to manage stress
10	Unit 6A What's on TV?	UNIT 5 QUIZ Vocabulary: Types of TV shows Grammar: Verb + infinitive or gerund Speaking: Talk about types of TV shows you like
11	Unit 6B What's on TV?	Speaking: Agree and disagree with an opinion Listening: What to watch on TV
12	Unit 6C What's on TV? Unit 6D What's on TV?	Vocabulary: Television Grammar: Present continuous for future plans Pronunciation: Sentence stress Speaking: Describe future plans Reading: Reality Shows Listening: Favorite Shows Back Home
13	FINAL EXAMINATION (paper test)	UNIT 4, 5 6
14	FINAL EXAMINATION (speaking test)	Final paper examination: UNITS 4, 5, 6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students are responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time. Late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】
Four Corners Level 2A (2nd Edition) by Jack C. Richards and David Bohlke (Published by Cambridge) ISBN: 9781108575867

【参考書】
Four Corners Level 2A Online Workbook Level 2A http://fourcornersowbs.cambridge.org/product_groups/landing
An English-Japanese dictionary will be useful.
A good online English-Japanese dictionary can be found here: http://www.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Class participation (speaking English, taking notes) 20%
Homework assignments (online workbook & writing) 20%
Quizzes (Units 4, 5) 20%
Final examination (paper) (Units 4, 5, 6) 20%
Final examination (speaking) (Units 4, 5, 6) 20%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

PHL100LC

哲学入門

沖本　龍哉

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
17 世紀フランスの思想家ブレーズ・パスカル（1623-1662）の主著『パンセ』を読み、彼の描く哲学的な人間観や世界観について学ぶ。また、こうした哲学的な問いについて、知識として理論的に学ぶだけでなく、私たち自身の人生に役立つような、生きるための知恵として、実践的に学びたい。

【到達目標】
①パスカルはどのような人物であったか（生き方）
②パスカルはどのようなことを考えたか（考え方）
③パスカルの考えたことが、現代を生きる私たちにどのように役立つか（先人の知恵）
以上の三つの観点から、パスカルという人物と彼の思想について読み解き、各講義の哲学的なテーマについて、受講生が自分なりの意見を述べられるようになり、その意見を他の人にもわかりやすく正確に伝えられるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の講義では、その前半（50 分）において、前回の講義の復習（リアクションペーパーの紹介を含む）と当日の講義の解説を行い、後半（50 分）において、その日解説した内容について、受講生の意見をいくつか聞いて分かち合った後、最後にリアクションペーパーを作成してもらう。（次回の講義のはじめに、前回記入してもらったリアクションペーパーをいくつか紹介する）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜパスカルについて学ぶのか
第 2 回 パスカルの人間観①	人間はどのような存在か	惨めさと死
第 3 回 パスカルの人間観②	根本的な本性	習慣について
第 4 回 パスカルの人間観③	気を紛らわすこと	気晴らしについて
第 5 回 パスカルの人間観④	心と理性の違い	繊細の精神と幾何学の精神
第 6 回 パスカルの人間観⑤	私とは何か	自我と自己愛
第 7 回 パスカルの人間観⑥	精神と身体のあいだ	中間にある存在
第 8 回 パスカルの世界観①	人間はいかに生きるべきか	人間観から世界観へ
第 9 回 パスカルの世界観②	すべては流れ去っていく	時間と空間
第 10 回 パスカルの世界観③	支配的な力	想像力について
第 11 回 パスカルの世界観④	善いことは何か、悪いことは何か	独断論と懐疑論
第 12 回 パスカルの世界観⑤	神はいるかいないか	賭けについて
第 13 回 パスカルの世界観⑥	神とともにある幸せ	信仰と理性
第 14 回	まとめ	パスカルから何を学んだか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で配布する資料にまとめた内容を把握した上で、『パンセ』を手元に置いて、個人的に読み進め、さらなる理解を深めることにより、期末レポートに備えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しないが、毎回の講義でその日の内容に関する『パンセ』の文章をまとめた資料を配布する。

【参考書】
・パスカル『パンセ』前田陽一・由木康〔訳〕中公新書、1973 年。
・パスカル『パンセ』塩川徹也〔訳〕、岩波文庫（全３巻）、2015 年。
・『哲学の歴史　第 5 巻　デカルト革命』小林道夫〔編〕中央公論新社、2007 年。
・その他、必要に応じて、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）と期末レポート（40 %）の結果を踏まえ、上記の目標にどの程度到達できているかを総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすく解説できるように努めます。

【その他の重要事項】
本講義では、一方的な講義内容の解説だけでなく、それについての受講生の意見も重要視したい。したがって、必要に応じて、自分の意見を率直に述べられる発言力があることが望ましい。

【Outline and objectives】
This course gives the basic knowledge of philosophical thinking by reading the text Pensées of Blaise Pascal (1623- 1662). The objective is to help the students acquire the "wisdom" for their own lives by means of Pascal's philosophical view of humanity and of the world.

PHL100LC

哲学入門

沖本　龍哉

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
17 世紀フランスの思想家ブレーズ・パスカル（1623-1662）の主著『パンセ』を読み、彼の描く哲学的な人間観や世界観について学ぶ。また、こうした哲学的な問いについて、知識として理論的に学ぶだけでなく、私たち自身の人生に役立つような、生きるための知恵として、実践的に学びたい。

【到達目標】
①パスカルはどのような人物であったか（生き方）
②パスカルはどのようなことを考えたか（考え方）
③パスカルの考えたことが、現代を生きる私たちにどのように役立つか（先人の知恵）
以上の三つの観点から、パスカルという人物と彼の思想について読み解き、各講義の哲学的なテーマについて、受講生が自分なりの意見を述べられるようになり、その意見を他の人にもわかりやすく正確に伝えられるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の講義では、その前半（50 分）において、前回の講義の復習（リアクションペーパーの紹介を含む）と当日の講義の解説を行い、後半（50 分）において、その日解説した内容について、受講生の意見をいくつか聞いて分かち合った後、最後にリアクションペーパーを作成してもらう。（次回の講義のはじめに、前回記入してもらったリアクションペーパーをいくつか紹介する）春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜパスカルについて学ぶのか
第 2 回	人間はどのような存在か　パスカルの人間観①	惨めさと死
第 3 回	根本的な本性　パスカルの人間観②	習慣について
第 4 回	気を紛らわすこと　パスカルの人間観③	気晴らしについて
第 5 回	心と理性の違い　パスカルの人間観④	繊細の精神と幾何学の精神
第 6 回	私とは何か　パスカルの人間観⑤	自我と自己愛
第 7 回	精神と身体のあいだ　パスカルの人間観⑥	中間にある存在
第 8 回	人間はいかに生きるべきか　パスカルの世界観①	人間観から世界観へ
第 9 回	すべては流れ去っていく　パスカルの世界観②	時間と空間
第 10 回	支配的な力　パスカルの世界観③	想像力について
第 11 回	善いことは何か、悪いことは何か　パスカルの世界観④	独断論と懐疑論
第 12 回	神はいるかいないか　パスカルの世界観⑤	賭けについて
第 13 回	神とともにある幸せ　パスカルの世界観⑥	信仰と理性
第 14 回	まとめ	パスカルから何を学んだか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で配布する資料にまとめた内容を把握した上で、『パンセ』を手元に置いて、個人的に読み進め、さらなる理解を深めることにより、期末レポートに備えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しないが、毎回の講義でその日の内容に関する『パンセ』の文章をまとめた資料を配布する。

【参考書】
・パスカル『パンセ』前田陽一・由木康〔訳〕中公新書、1973 年。
・パスカル『パンセ』塩川徹也〔訳〕、岩波文庫（全３巻）、2015 年。
・『哲学の歴史　第 5 巻　デカルト革命』小林道夫〔編〕中央公論新社、2007 年。
・その他、必要に応じて、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）と期末レポート（40 %）の結果を踏まえ、上記の目標にどの程度到達できているかを総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすく解説できるように努めます。

【その他の重要事項】
本講義では、一方的な講義内容の解説だけでなく、それについての受講生の意見も重要視したい。したがって、必要に応じて、自分の意見を率直に述べられる発言力があることが望ましい。

【Outline and objectives】
This course gives the basic knowledge of philosophical thinking by reading the text Pensées of Blaise Pascal (1623- 1662). The objective is to help the students acquire the "wisdom" for their own lives by means of Pascal's philosophical view of humanity and of the world.

PHL100LC

哲学入門

美頭　千不美

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋の学問の伝統において、哲学は諸学の基礎に位置づけられる。ではなぜ諸学問の基礎に哲学が位置づけられるのか。哲学とは何をする学問的営為であるのか。ここでは、哲学にこれまで触れたことのない受講生を対象に、学としての哲学の本質を初級者向けに解説しながら、哲学史の流れに沿って哲学の概論を講ずる。併せて、哲学用語の基礎的な理解を目指す。

【到達目標】
西洋哲学以外の学問分野（たとえば宗教学、芸術学、社会学、歴史学等）との関連づけもはかりながら、古代ギリシア以来の哲学思想を西洋哲学史の流れに沿って近代の入り口まで紹介するので、自分が既に習得しているさまざまな知識とうまく関係づけながら、基礎レヴェルでの哲学の歴史と基本用語を習得することが学習到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
＊　本授業は講義（教師が義と思うところを講ずる）であるため、プレゼンテーション等の演習は一切なく、毎回の授業を通じて受講生に求められるのは、大事なことをひたすら聴き取り学び取る力である。
＊　しかしその一方で、授業は、教師と受講生とが時間と場を共有し、互いに学び高め合って成果を得るべき場でもあるため、毎回の授業を通じて当然生じる受講生の自由な思いや意見・質問を、積極的に受け付ける。したがって、従来の教場での授業である場合は、毎回配布する出席カードの裏に、授業の感想や質問・意見などを自由に書き込めるようにする。そして、次の回の最初に時間を設け、受講生全員と共有できる内容にまとめて受講生の意見・質問を一つのトピックとして取り上げ、授業内容に活かして次の展開へとつなげる。
＊　また、授業後をオフィス・アワーとし、意見・質問など用のある学生が直接私に口頭でそれを伝えられるよう取り計らう。

＊　いずれにせよ、詳しくは初回のガイダンスおよび第１回の授業の折に説明する。
＊　なお、2020 年度同様のオンライン授業実施の場合は、基本的に Zoom による授業は行なわず、資料配信型のオンデマンド授業になるかと思う。その場合、毎回の平常点・出席点と期末テストは学習支援システムを活用して行ない、お喋りや質問・意見交換などは Gmail などを通じて行なうことになろうかと思う。いずれにせよ、詳細については初回のガイダンスおよび第１回の授業で知らせることになる。学習支援システム内の「お知らせ」欄に告知することもあるので、特に最初のうちは留意されたし。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	ガイダンス：講義内容概観、評価方法	西洋の学問的伝統において諸学の基礎と目される「哲学」の特性について。また、古代ギリシアから中世、ルネサンス、近代に至る西洋哲学思想の流れを大まかに辿る。なお、この初回ガイダンスの折に、評価方法の概略を受講生に伝える。
第 02 回	哲学とは何か：理性をよりどころとする真理の探究、近代日本における「哲学」の導入	哲学において重視される「理性」とは何でありうるかについて、「ロゴス」を参照しながらその重要な意味について解説する。また、「ピロソピアー」に「哲学」の訳語を与えた西周（にし　あまね）についても触れる。
第 03 回	古代ギリシア（1）：ソクラテス以前①：自然哲学	自然哲学。タレス。アナクシマンドロス。ヘラクレイトス。ピュタゴラス。デモクリトス。
第 04 回	古代ギリシア（2）：ソクラテス以前②：ソフィスト	ソフィスト。プロタゴラス。
第 05 回	古代ギリシア（3）：ソクラテス	ソクラテス概説。無知の知。己の魂の世話。
第 06 回	古代ギリシア (4)：プラトン①	プラトン概説。イデア論。
第 07 回	古代ギリシア (5)：プラトン②	プラトンの世界観。想起説。政治思想。
第 08 回	古代ギリシア (6)：アリストテレス①	アリストテレス概説。形相と質料の形而上学。
第 09 回	古代ギリシア (7)：アリストテレス②	アリストテレスの倫理・政治思想。
第 10 回	ヘレニズム期：ストア派とエピクロス派	ヘレニズム期概説。ストア派の世界観と倫理思想。エピクロスの快楽主義。
第 11 回	西洋中世とルネサンス：スコラ哲学、ルネサンス期の思想家	中世：スコラ哲学、トマス・アクィナス。 ルネサンス：古代ギリシア・ローマの文芸復興、ヒューマニズム、ピコ・デラ・ミランドラ。
第 12 回	ルネサンスから近代へ：宗教改革、モラリスト	宗教改革：ルター、信仰義認、聖書中心主義。カルヴァン、予定説、職業召命観、マックス・ヴェーバー。 モラリスト：モンテーニュ、パスカル、デカルト。カントの倫理思想。
第 13 回	西洋近代の思想：ベーコン、デカルト、ホッブズ、ロック	フランシス・ベーコン：「知は力なり」、イドラ説、帰納法。 デカルト：良識、方法的懐疑、「我思うゆえに我あり」、演繹法。精神と物体の二元論。 ホッブズ：自然状態、「万人の万人に対する戦い」、「自然権」、社会契約。 ロック：経験論、「タブラ・ラサ」、信託。
第 14 回	授業時間内期末試験	習得度を確認するための筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2 時間を標準とする】
高等学校で「倫理」を履修した者は、「高校倫理」の復習をする。授業開始以前に特にしておかなければならない準備学習は特にない。但し、授業開始後は、毎回の授業の復習を各自きちんとこなし、質問があれば質問をし、授業中に適宜紹介される参考文献に当たるなどして授業内容の理解に積極的に努めること。そうしないと、哲学・思想の歴史的流れを踏まえながら、その基本用語の意味を理解し、実際にそれを使いこなせるようにはならない。

【テキスト（教科書）】
教科書の指定はなし。教材・参考資料は随時プリント配布する。

【参考書】
教場にて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30～50 点程度）と期末試験（70 点～50 点程度）とにより総合的に評価する（100 点満点）。
詳しくは初回のガイダンスの折に説明するので、受講希望者は初回のガイダンスに出席されたし。
なお、平常点に関しては、毎回配布する出席カードに記名して提出することで得られる最低限の出席点の他に、遅刻・早退、授業参加の態度等を問う。
また、期末試験で一定の点数に満たないと、全回出席カードを提出していても不可とするなど、独自の評価基準を定めているため、注意が必要である。

【学生の意見等からの気づき】
①講義後半の近代の内容をもう少し充実させる。
②あまり早口でまくしたてないよう、話し方に注意をする。
③書画カメラ上での画面の見せ方、板書の仕方をもう少し工夫する。
④講義内容全体の展開を各回吟味し直し、講義の完成度を高める。

【Outline and objectives】
In the Western academic tradition, philosophy is positioned as the foundation of various studies. So why is philosophy positioned as the foundation of academics? What is an academic act of doing philosophy? Here, we will explain the essence of philosophy as academic for elementary students for students who have never mentioned before in philosophy, and will give an overview of philosophy along the trend of philosophical history. At the same time, we aim at the fundamental understanding of philosophical terms.

LNG100LC

言語学概論

小屋　多恵子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コーパスとは「電子化された言語資料」であり、コンピュータの発達により 1960 年代に世界初のコーパス（ブラウンコーパス）が登場して以来様々なコーパスが世界中で編纂されている。その結果、コーパスを用いて、英語の様々な特徴を極めて短時間で科学的・客観的に調査することが可能になった。
本授業では、コーパスに関する基本的知識（定義、歴史、種類）やコーパスの具体的な使用方法を学習した上で、各研究領域にどのようにコーパスを活用できるか議論し、実際に分析調査を行うことを目的とする。

【到達目標】
1) コーパスに関する基礎知識（定義、歴史、種類、問題点）を理解できる。
2) コンコーダンサーを使用したコーパスの基本的な分析・処理方法を理解できる。
3) オリジナルパイロットスタディを実施できる。
4) ワードやエクセルの使い方・レポートの書き方を理解し、最終レポートを完成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式ではなく、実際に各自で調査・実践する授業形式でをとる。１回の授業は次の手順で行う。
1) 復習クイズ
2) 前回の課題に対するフィードバック
3) 今日のポイント解説
4) 実践
2) のフィードバックは、学生が行った課題の良い例や修正すべき例、間違えやすい例を提示し、解説することによって、さらなる理解を深める。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	言語を科学するとは？
2	コーパス言語学とは何か コーパス言語学の歴史概観	コーパス言語学とは？ コーパスの種類とは？ コーパスの問題点とは？ 1960 年代からの４つの代表的なコーパスとは？ 1990 年代以降からのコーパスとは？
3	コーパスに関する実践・研究例 (1)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう
4	コーパスに関する実践・研究例 (2)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう
5	コーパスに関する実践・研究例 (3)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう
6	コーパスに関する実践・研究例 (4)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう
7	コーパスに関する実践・研究例 (5)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう。レポートにまとめてみよう。
8	コーパスに関する実践・研究例 (6)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう。レポートにまとめてみよう。
9	コーパス作成 (1)	自作のコーパスを作ってみよう
10	コーパス作成 (2) コーパスを利用したパイロットスタディ (1)	作成した自作のコーパスを使ってオリジナルな視点から分析してみよう
11	コーパスを利用したパイロットスタディ (2)	オリジナルな視点からコーパスを使って分析してみよう
12	コーパスを利用したパイロットスタディ (3)	オリジナルな視点からコーパスを使って分析してみよう
13	コーパスを利用したパイロットスタディ (4)	オリジナルな視点からコーパスを使って分析してみよう
14	まとめと評価	レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
前の授業でわからなかった個所を明確にしておく。
授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリント配布

【参考書】
石川慎一郎 (2012)『ベーシックコーパス言語学』東京：ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題　40%
最終レポート　60%

【学生の意見等からの気づき】
次の点に留意する。
1) 一つ一つの活動には明確な目的・意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
2) 学生の興味や学習の理解度に応じて、シラバスに書いた計画を柔軟に修正し授業を行う。
3) コンピュータの使い方が苦手な受講者にサポートする。

【学生が準備すべき機器他】
マルチメディア教室のパソコンを使用しての授業

【Outline and objectives】
This course introduces students to language corpora as a resource for linguistic analysis. Students will learn the central concepts of corpus linguistics and some basic skills necessary in conducting a corpus investigation, find out how corpora are influencing recent trends in linguistic research, and have opportunity to apply corpus-based methods in their own work.

LNG100LC

言語学概論

梨本　邦直

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人は言語という直線的な音・記号の連続によって世界を理解し、考えを表現する。連続する音や記号で伝えたい意味を伝達するとはどういうシステムなのだろうか。この最も基本的な疑問に答えていくのが言語学概論の目的である。

【到達目標】
上記の目的に向けて、音声学、音韻論、形態論、統語論の基本形式を理解する。意味論においては語の意味だけでなく、文法機能と構文の意味について階層構造を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主として講義形式であるが、理解を助けるために簡単な演習を授業中に行う。毎週の課題は提出する。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	言語研究とは	言語学の領域
2	音声学	調音音声学 母音、子音 国際音声字母 IPA
3	音声学	音響音声学 スペクトラム分析
4	音韻論	音素とその数
5	音韻論	モーラ、音節、アクセント
6	構造言語学	ソシュールの考えと構造主義
7	統語論	構成素分析
8	統語論	チョムスキーの生成文法
9	統語論	文法機能と意味 1
10	統語論	文法機能と意味 2
11	構文意味論	英語の統語構造
12	構文意味論	SVOO の文型と There is 構文
13	構文意味論	日本語の文構造
14	まとめ	主語優勢言語と主題優勢言語

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の該当箇所をスライドを参考に復習する。オンラインで毎回復習課題を提出する。

【テキスト（教科書）】
風間喜代三、上野善道、松村一登、町田健『言語学 第 2 版』東京大学出版（2004 年) 他に必要があれば授業中に適宜紹介する。

【参考書】
Crystal, David. (2010) The Cambridge Encyclopedia of Language, CUP

【成績評価の方法と基準】
社会情勢の変化に伴って以下の成績評価の方法と基準を変更する場合、授業開始日以降に学習支援システムで提示する。
中間レポート 30%（音声学・音韻論）
期末試験 70 %（統語論・意味論）
試験は参照不可。教科書・ノート・ハンドアウトなどすべて持込不可。定期試験期間中に 60 分で行う。

【学生の意見等からの気づき】
これまでは言語学の基礎知識習得を目指したが、今季からテーマを絞った。後半は新たに文法と意味の関係を扱う。

【Outline and objectives】
Humans understand phenomena and express ideas by means of language which is a linear representation of sounds and words. What is the system of communication by which a meaning is conveyed in a series of sounds and language signs? The aim of this class is to answer this fundamental question by learning basic theories of phonetics, phonology, syntax, and semantics.

HIS100LC

日本文化論

横山　泰子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文化の特徴や歴史性を考える一つの手がかりとして、妖怪文化をとりあげます。自国の文化を知るために、様々な文献やマンガ、絵画資料などにふれ、現代の文化が過去とつながっていること、海外の文化とも関係していることを知ります。

【到達目標】
世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的です。
文章だけではなく、映像や絵画、マンガなども文化研究の資料です。娯楽としてそれらを楽しむだけではなく、資料として扱う方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査
2	現代日本の妖怪文化の特徴 「鬼滅の刃」について	現代の日本の妖怪文化を代表する作品を鑑賞し、その特徴を考える
3	娯楽の対象としての妖怪 鬼について	怖いはずのものが楽しみ＝娯楽になることに注目し、妖怪文化の遊びの面をとらえる
4	信仰の対象としての妖怪 アマビエの正体	神秘的な存在は、恐怖されるのみならず、崇拝され信仰されることがある。そのメカニズムを考える
5	地域に根ざす妖怪文化	日本には、地域に根ざした多様な妖怪伝承がある。その地域性について考える
6	地域を超える妖怪文化	近年、日本の妖怪文化は諸外国から注目・評価されている。どの点がユニークとされ、興味を持たれているかをとらえる
7	欧米の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
8	欧米の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
9	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
10	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
11	妖怪を表現する技術	歴史的な絵画技術などに学びながら、自分たちで妖怪を創造してみる
12	日本の妖怪文化を世界で説明するために	日本文化を世界で説明することが求められる昨今、妖怪について自分なりに説明してみる
13	近代科学と妖怪 寺田寅彦について	近代科学の発展にともない、過去に妖怪のしわざとされていた現象は科学的に説明可能となった面がある。科学と怪異現象との関係について考える
14	まとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】その都度指示します

【テキスト（教科書）】
教科書を使用する予定はありません。

【参考書】
参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
【成績評価基準】
平常点３０％　授業時の提出物ならびに小テスト７０％

【学生の意見等からの気づき】
毎年教室で映像を見る時間をもうけていますが、毎年アンケートで「もっと長い時間見せてほしい」という声があります。作品の情報を提供しますので、興味をひかれた作品については自宅で個人で視聴して下さい。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
月曜日４時限目をオフィスアワーとします。研究室は W1004 です。
また、いそぎの質問等は
yyoko@hosei.ac.jp
にメールで御願いします。

【Outline and objectives】
This course will help you to understand yokai in Japan as cultural concepts and cultural products. The word yokai means creatures, presences, or phenomena that could be described as mysterious or eerie and are seen in every society.In recent years, interest in yokai culture has continued to build in Japan.After taking this course, you will be able to explain how yokai culture has built in Japan.

HIS100LC

日本文化論

谷村　玲子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
江戸時代は “Pax Tokugawa” とも呼ばれる、平和で豊かな時代である。本来は戦闘者である「武士」は平和を維持する為政者として、二六〇年という長い時をいかに生きたのであろうか。本授業においては、武家思想のみならず武士の具体的な衣食住から、江戸時代の武士の在り方を学ぶ。武士を核とした授業であるが、おのずから江戸時代における武士と町人との違いも明らかとなる。ある程度具体的な知識を得た後、学期の後半では赤穂事件（「忠臣蔵」）を取り上げる。この授業を通じて、学生一人一人が江戸時代に興味を持つと共に、日本人の精神性について考えてもらいたい。

【到達目標】
明治以降の日本人に期待される行動様式は、しばしば「サムライ」と表現される。江戸時代の武士の文化と精神性を知り、その上で、現代の我々にとって「日本人の理想像とは何か」を考える。思想的な問題にとどまらず、授業中の視覚資料から、江戸時代の生活・文化を広く知ることができ、また日本の伝統文化に触れることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業方法：コロナ感染の状況により、授業方法は大学の判断に従うものとする。対面授業が出来ない場合は、オンライン（zoom）による授業とする。毎回授業内で資料を手渡すが、後者の形式の場合は事前に送信する。授業内で簡単なアンケートや感想文を課す。提出物から学生の理解が難しかった内容が分かれば、次回で取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また感想文などでの良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
授業内容：授業内では江戸時代の武士の精神性を配布資料で説明すると共に、豊富な画像や映像を用いて、石高や屋敷、教育、衣食住といった具体的な内容も紹介する。そして武士との対比という形で、江戸時代の町人文化にも言及する。授業の半ばを過ぎた頃、赤穂事件（「忠臣蔵」）を取り上げ、日本人にとってなぜこの事件が魅力的なのかを考えたい。最後に映画『武士の一分』を観て、映像を通して授業で学んだことを確認する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバスの内容の確認と、授業で扱うテーマについてのアンケート調査。
2	武士道とは	明治に書かれた新渡戸稲造の「武士道」と、江戸時代の武士道の在り方との相違を考える。
3	戦闘者から為政者へ。	慶長二〇年（１６１５「武家諸法度」に見る戦闘者からの脱皮。徳川政権における政治思想＝儒学とは。
4	参勤交代と武士の生活	幕藩体制の中の武士。江戸城の中の大名。さらに大名に仕える武士の知行と扶持。
5	江戸時代の経済	知行と扶持とは。現実の武士の生活をその石高から考える。
6	大火後の江戸の町	江戸の華（大火）と街並みの変化。江戸の居住空間を知る。
7	武家と町人	井原西鶴「日本永代蔵」を読み、江戸時代の武士と町人の精神性の違いを考える。
8	無事の世の教養	戦国武将に流行した茶の湯は下剋上の芸能である。江戸時代に入り、武士の教養はどのように変化したか。特に参勤交代で江戸に集まった大名、藩士の生活を芸能から考える。
9	赤穂事件「忠臣蔵」元禄 14 年（1701）の事件。	「赤穂事件」には、五代将軍綱吉から七石二人扶持の最下位の武士までが関係している。どんな事件だったかを時系列で解説する。
10	元禄 15 年（1702）の吉良邸への討ち入り。その後の赤穂事件の評価。	討ち入りの夜から朝にかけて、何があったのか。さらに討ち入り直後からの様々な評価から、江戸時代の人々にとって「赤穂事件」とは何だったかを考察する。
11	江戸の教育：藩校と寺子屋	江戸時代の武士と町人の教育の違いを考える。武士（藩士）の通った藩校、また庶民の教育を支えた寺子屋を、俳句や絵から考える。
12	江戸の教育：湯島聖堂と昌平坂学問所。私塾とは。そして江戸時代の女子教育。	幕府の教育機関であった昌平坂学問所。さらに日本特有の「私塾」とは何か。そして江戸時代の女子教育の高さを同時代のイギリスと比べて考察する。
13	「武士の一分」	映画「武士の一分」から、これまでの授業の内容を復習すると共に、日本人にとっての「武士」を考える。
14	江戸の美意識「粋」について。 本授業のまとめ。	江戸の美意識「粋」を、武士の有り様と対比する形で考える。 その上で本講義のまとめを通して、江戸時代から明治東京への連続性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中でその日のテーマに沿った具体的な事項を取り上げ、それに対して学生が気楽にクラス内で発言できる機会を設けたい。また学期中に数回、簡単なアンケート、または感想文を授業中に提出させ、学生の興味を刺激したい。
毎回授業ではその日の内容を記したレジュメと配布資料を配るので、授業の後にも読み返してもらいたい。また参考文献の紹介を通じて、学生の自主的な参加を促したい。例えば第七回、第八回の授業では、武士（武家）をテーマとした江戸時代の文芸作品にも言及したい。現代文を前もって配布するので、予習として読んできて欲しい。
その日の授業内容に応じた参考文献を紹介するので、学生の自主的な参加を促したい。zoom 授業を余儀なくされた場合は、前もって学習支援システムで配信する。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布するので、特にテキストを準備する必要はない。

【参考書】
参考書については、随時授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
【成績評価基準】
対面授業の場合は、試験期間中に期末テストを行う。原則として大学の評価基準により、テストの点数で評価する。
☆完全オンライン授業となった場合は、学期中の小課題二回、小テスト三回の総合点で評価する。

☆学期内に授業方法の変更があった場合の評価方法は、時間的な余裕を持って（学期半ばには）学生と話し合い、学生側の合意を得た上で評価方法を決定したい。

【学生の意見等からの気づき】
江戸時代を様々な面から紹介したいが、情報が広範になりすぎると、学生が理解しにくいことがわかった。その上で視覚教材を大事にしたいと思う。また対面授業中の学生の雑談は、他の学生が大変迷惑に思うことから、厳しく注意していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
The Tokugawa regime maintained peace for 260 years. This is called "Pax Tokugawa". The warrior class (samurai) worked as politicians and bureaucrats in this period within a rigid social structure. Bushido was understood as the discipline of samurai's life. This course aims to examine the samurai of the Edo period from the cultural point of view. We will look at the norms of the samurai class including the protocol of high ranked samurai at Edo castle and also the real life of middle and lower ranked samurai, for example food, clothing and so on. We will examine the famous incident known as "Chūshingura", or "the 47 Ronin", in the second half of the class.

ARSe100LC

アジア文化論

呉　暁林

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は学生と共に世界文化遺産、名所旧跡などの映像資料を題材とし、学生と共にアジア地域の文化交流における人・物の往来・伝播のルートをたどりながら、異なる国と地域の生活習慣、衣食住、宗教と文字の共通性と異質性を再認識、再発見できることを目的とします。
　特に漢字文化圏に属する中国、日本、朝鮮半島の交流について考察を行います。

【到達目標】
　学生がシルクロード、ブックロード、仏教ロードを通して広がった古代中国の宮廷儀式、漢字語彙の形成、仏教（仏像、仏殿など）、人的交流（鑑真和上と空海）、戦争と文化の保護（故宮物語）、また文化の地理的つながり、漢字文化圏のつながりに対する把握と理解を深めることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は Zoom によるオンライン講義、学習支援システムによるオンデマンド（授業資料（PPT）を教材にアップする）、映像資料（zoom クラウトのリンクと視聴）で構成されます。
NHK スペシャル番組などの映像を題材として種々の文化現象を簡潔に解説します。異文化との交流と文化摩擦の問題について考えます。
　授業資料（PPT）の閲読、映像資料を視聴してメモを取り、期限内に内容の要約と感想をワード形式のレポートとして提出してもらいます。
　感想文などでの良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：映像・世界遺産・文明交流	文化とは？ 異文化交流とは？ 考えるポイントを提示します。映像『縄文奇跡の巨大集落』、『弥生人 DNA で迫る日本人の起源
第 2 回	世界遺産と文明	映像と解説 ＮＨＫスペシャル『中国文明の謎』：中華の源流
第 3 回	世界遺産と文明	映像と解説 ＮＨＫスペシャル『中国文明の謎』：漢字に秘められた力- 殷・周
第 4 回	世界遺産と文明	映像と解説 ＮＨＫスペシャル『中国文明の謎』：始皇帝と中国の統一
第 5 回	壮大な文化交流	映像と解説 シルクロードと文化の伝来と融合 ビデオ『未来への遺産』
第 6 回	壮大な文化交流	映像と解説 海上のシルクロード道ー陶磁器の道
第 7 回	壮大な文化交流	映像と解説 仏教の誕生とアジアの伝播：インド・中国・大韓民国
第 8 回	壮大な文化交流	映像と解説 仏教伝来の道
第 9 回	日中文化交流	ドキュメンタリー 唐招提寺と鑑真和尚、正倉院
第 10 回	日中文化交流	ドキュメンタリー 唐招提寺と鑑真和尚、正倉院
第 11 回	NHK スペシャル空海-至宝と人生 仏像革命	映像と解説 仏像を生み出した空海の人間観と宗教観
第 12 回	故宮博物館コレクションから文化の継承の現代的意義	二つの故宮ー北京と台北
第 13 回	漢字（中国と日本）	講義 漢字、音読、訓読、文字改革 大衆文化の交流 日中韓共通漢字の模索
第 14 回	期末試験	試験時間は 60 分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回、授業資料（PPT）の閲読、映像資料を視聴してメモを取り、期限内に内容の要約と感想をワード形式のレポートとして提出してもらいます。
自分のアジア文化論年表（エクセル形式フォーマット）に毎回の内容を追加して更新してもらいます。

【テキスト（教科書）】
NHK 取材班『中国文明の謎－中国 4 千年の始まりを旅する』NHK 出版 2012 年
鈴木薫著（2018）『文字と組織の世界史：新しい「比較文明史」のスケッチ』山川出版社，2160 円
特に購入することを要求しません。

【参考書】
NHK 取材班（2012）『中夏文明の誕生ー持続する中国の源を探る』講談社

【成績評価の方法と基準】
聴講レポートなどの平常点（50 %）、期末レポート（50 %）を合計総合して評価します。
①授業各回のレポート
②振り返レポート（各回のレポートを添削して自分の感想や発見を加え、アジア文化交流の特徴や成果について記述したもの）
③完成したアジア文化論年表
注意：②と③は期末レポートです。

【学生の意見等からの気づき】
シラバスと授業支援システムの情報をよくチェックし、レポートの提出期限を守ること。

【学生が準備すべき機器他】
授業中、また視聴学習の際にメモを取り、授業終了後にレポートを提出してもらいます。

【その他の重要事項】
プロジェクター、ＤＶＤを使用する。

【Outline and objectives】
This course will discuss the development of World Cultural Heritage sites and the Silk Road in Asian countries as well as discuss cross-cultural exchange within Asia.

ARSk100LC

ヨーロッパ・アメリカ文化論

川口　悠子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
移民や奴隷貿易などの人の移動の結果、米国（アメリカ合衆国）には、世界中の様々な土地にルーツをもつ人々が暮らしています。文化の多様性や多文化性は米国社会の根幹をなし、そのような社会で人々が互いに、また国家とどのような関係を取り結んできたかは、米国の歴史に一貫するテーマのひとつです。この授業では、米国社会のそのような側面に光をあてて学びます。その際、人種・民族による不平等や差別と、それに対して自由と権利を求める抵抗とのせめぎ合いに着目します。これらは米国の歴史を知るために重要であるだけでなく、私たちが生きている社会について、また世界のあり方について、考える手がかりともなることでしょう。

【到達目標】
・多様な人々が暮らす米国の歴史と現状を理解する。
・人種、民族／エスニシティ、また権利や自由についての理解を深める。
・統計データや史料の読み方を練習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義が中心ですが、資料を読んだり、映像資料を見たりする時間も取ります。毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらい、次の授業でいくつか取り上げてフィードバックをします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全般についての説明
2	ヨーロッパ系アメリカ人の歴史と現在（1）	ヨーロッパ系アメリカ人の歴史について学ぶ
3	ヨーロッパ系アメリカ人の歴史と現在（2）	ヨーロッパ系アメリカ人の現在の状況について学ぶ
4	先住民の歴史と現在（1）	先住民の歴史について学ぶ
5	先住民の歴史と現在（2）	先住民の現在の状況について学ぶ
6	アフリカ系アメリカ人の歴史と現在（1）	アフリカ系アメリカ人の歴史について学ぶ
7	アフリカ系アメリカ人の歴史と現在（2）	アフリカ系アメリカ人の現在の状況について学ぶ
8	DVD 鑑賞	授業内容に関連した DVD を鑑賞し、理解を深める
9	ラティーノ／ラティーナの歴史と現在（1）	ラティーノ／ラティーナの歴史について学ぶ
10	ラティーノ／ラティーナの歴史と現在（2）	ラティーノ／ラティーナの現在の状況について学ぶ
11	アジア系アメリカ人の歴史と現在（1）	アジア系アメリカ人の歴史について学ぶ
12	アジア系アメリカ人の歴史と現在（2）	アジア系アメリカ人の現在の状況について学ぶ
13	多文化社会と統合	これまでの授業を、社会統合という観点から総括する
14	まとめと期末試験	これまでの授業を振り返り、期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に毎回、書籍の一部や新聞記事などを予習教材として配付します。指示されたとおり読んできてください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
有賀夏紀・油井大三郎『アメリカの歴史―テーマで読む多文化社会の夢と現実』（有斐閣、2002 年）
明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ―多文化社会における共生の模索　第 3 版』（有斐閣、2011 年）
ほか、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　70 %
毎回のリアクション・ペーパー　30 %

【学生の意見等からの気づき】
聞き取りやすい話し方ができるよう留意します。

【その他の重要事項】
授業の進み具合や受講生の皆さんからの要望により、シラバスの内容に変更を加えることがあります。

【Outline and objectives】
This course introduces the experiences of people with diverse backgrounds in the U.S., with a particular focus on race and ethnicity.

ARSi100LC

アフリカ文化論

元木　淳子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サブサハラ・アフリカの文化や歴史について認識を深める。

【到達目標】
植民地期以降のサブサハラ・アフリカの文学を中心に、映画、音楽等にも触れながら、サブサハラ・アフリカの歴史や文化について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　学習支援システムを用いた双方向授業。宗教、歴史などのテーマを設定し，これに対応した文学作品等を検討する。受講者は、掲示板上に提示されたさまざまな話題に対して発言し、議論に参加する。受講者の注目すべき発言については授業内で適宜紹介し、さらなる議論に活かす。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介、アフリカ、カリブそして日本	アフリカについて学校教育で学んだことをふり返る
第 2 回	ウォーレ・ショインカと演劇	ショインカの演劇を通して、神話について考える
第 3 回	詩の文学運動：ネグリチュード	エメ・セゼールとサンゴールの詩を比較する
第 4 回	自伝的小説：カマラ・ライの『アフリカの子』	植民地期におけるギニアの日常を知る
第 5 回	民話の想像力：エイモス・チュチュオラの『ヤシ酒飲み』	植民地時代のナイジェリアが民話の枠組みの中でどのように表現されているのかを考える
第 6 回	歴史の証言：チヌア・アチェベの『崩れゆく絆』	ナイジェリアにおけるキリスト教布教と植民地支配の関係について考える
第 7 回	独立の光と影：グギ・ワ・ジオンゴの『一粒の麦』	ケニアの独立運動について考える
第 8 回	アパルトヘイト下の文学：ミリアム・トラーディの『二つの世界のはざまで』	アパルトヘイト社会におけるアフリカ人女性の立場について学ぶ
第 9 回	亡命と文学：ベッシー・ヘッドの『マル』	ボツワナを舞台にしたラブストーリーの成立について考える
第 10 回	女性の語り：マリアマ・バーの『かくも長き手紙』	セネガルの結婚制度について考える
第 11 回	移民の文学：カリクスト・ベヤラの『涙、乾くまで』	カメルーンの女性移民の生き方について考える
第 12 回	内戦の語り：アマドゥ・クルマの『アラーの神にもいわれはない』	内戦と少年兵の問題を考える
第 13 回	作家と政治：ケン・サロウィワの『ナイジェリアの獄中から』	民族・環境問題と作家の社会的使命について考える
第 14 回	映像と文学：センベーヌ・ウスマンの『モーラーデ』	総合討論 映像作品をもとに、西アフリカの女性の伝統と健康について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
授業支援システムの掲示板に示された議題に対して、書き込みをして応答して下さい。

【テキスト（教科書）】
プリント他配布。

【参考書】
授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %　期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業中に受講者がテキストを十分吟味できるよう、時間の配分を工夫します。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is for students to acquire better understanding of Modern African literature　and cultures.

HIS100LC

比較文化論

横山　泰子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新型コロナウイルスの感染拡大は、日本および日本文化のさまざまな面をあらわにしています。変化を受け入れざるをえない今、自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしながら考えるという姿勢を身につけます。

【到達目標】
日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について１	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について２	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について３	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化１	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化２	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性１	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性２	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】その都度指示します

【テキスト（教科書）】
鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書　２０１９年　８２０円

【参考書】
ヤマザキマリ『たちどまって考える』中公新書ラクレ　２０２０年

【成績評価の方法と基準】
平常点３０％　授業時の提出物ならびに小テスト７０％

【学生の意見等からの気づき】
２０２０年度に教科書として指定した『「空気」を読んでも従わない』が好評だったので、今回はより時間をかけて読み、別の視点からの説明も加えることにしました。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
オフィスアワーは月曜４時限です。研究室は W1004 です。
急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jp
に御願いします。

【Outline and objectives】
This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese peolple think are very Japanese are really Japanese.

HIS100LC

比較文化論

横山　泰子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新型コロナウイルスの感染拡大は、日本および日本文化のさまざまな面をあらわにしています。変化を受け入れざるをえない今、自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしながら考えるという姿勢を身につけます。

【到達目標】
日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について１	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について２	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について３	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化１	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化２	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性１	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性２	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】その都度指示します

【テキスト（教科書）】
鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書　２０１９年　８２０円

【参考書】
ヤマザキマリ『たちどまって考える』中公新書ラクレ　２０２０年

【成績評価の方法と基準】
平常点３０％　授業時の提出物ならびに小テスト７０％

【学生の意見等からの気づき】
２０２０年度に教科書として指定した『「空気」を読んでも従わない』が好評だったので、今回はより時間をかけて読み、別の視点からの説明も加えることにしました。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
オフィスアワーは月曜４時限です。研究室は W1004 です。
急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jp
に御願いします。

【Outline and objectives】
This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese peolple think are very Japanese are really Japanese.

ART100LC

映像芸術

佐藤　正和

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなものが織り込まれているテキストとしての映画作品は、多様なレクチュール（読み）が可能である。いくつかのレクチュールの方法論を学び、映像芸術としての映画への知識を深めると同時に、理解力を高める。

【到達目標】
映画を見て、内容が面白かった・つまらなかったという「楽しみ」方ばかりでなく、さまざまな基礎知識を学ぶことで、映画的「楽しみ」も味わえるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
一作品をとりあげ、テクストして映画の歴史・撮影・編集技術などさまざまな角度から、他の監督の作品を参考にしながら、読み解いていく。（今回は、マーティン・スコセッシ監督『ヒューゴの不思議な発明』。ジョルジュ・メリエスを扱った作品であり、また初期映画史を知るのに格好の映画である。とはいえ、じっくり見ていくと列車のテーマ、さまざまな「引用」「モンタージュ」なども多く、映画的に「楽しめる」作品となっている。）授業内に質問し、ブログに投稿してもらい、次週までに回答と解説を行う春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について （必ず出席のこと）
2	スコセッシ監督について	オタッキーなマーティン・スコセッシ監督と『ヒューゴの不思議な発明』
3	映像の誕生	はじめに光（リュミエール）ありき
4	映画の黎明期	ジョルジュ・メリエスの再評価
5	映像技術の進歩	フィルムからデジタルそして３ D へ
6	ストーリーの成立	最後にバキュ〜ン！ エドウィン・S・ポーター監督『大列車強盗』
7	映画と「おいかけ」	⑦「おいかけ」ロイド、チャプリン、バスター・キートン（『キートンの大列車強盗』『探偵学入門』）
8	モンタージュ	「高速モンタージュ」は疲れます（アベル・ガンス監督『鉄路の白薔薇』『ナポレオン』ほか）
9	引用	「引用」大好き！ デ・パルマ監督（コンチャロフスキー監督『暴走機関車』と『ミッション・インポシブルⅠ』）
10	引用とモンタージュ	引用とモンタージュといえばゴダール（『映画史』『さらば、愛の言葉よ』）
11	映画における列車	今でもやっぱり列車映画（トニー・スコット監督『アンストッパブル』）
12	ボリウッド	今映画といえばボリウッド！（シャンカール監督『ロボット』）
13	テスト	映像を見ながらテストを行います
14	テストの答え合わせ	テストの答え合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】映画館・レンタルショップ・WEB・TV などで多くの作品に接してください

【テキスト（教科書）】
特定のテキストはありません。

【参考書】
特にありません

【成績評価の方法と基準】
期末試験６０％
レポート２０％
授業送付２０％により評価。

【学生の意見等からの気づき】
ありません

【Outline and objectives】
By learning many views for the movie as texture,to have deeper understanding of the movie

ART100LC

映像芸術

佐藤　正和

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなものが織り込まれているテキストとしての映画作品は、多様なレクチュール（読み）が可能である。いくつかのレクチュールの方法論を学び、映像芸術としての映画への知識を深めると同時に、理解力を高める。

【到達目標】
映画を見て、内容が面白かった・つまらなかったという「楽しみ」方ばかりでなく、さまざまな基礎知識を学ぶことで、映画的「楽しみ」も味わえるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
一作品をとりあげ、テクストして映画の歴史・撮影・編集技術などさまざまな角度から、他の監督の作品を参考にしながら、読み解いていく。（今回は、マーティン・スコセッシ監督『ヒューゴの不思議な発明』。ジョルジュ・メリエスを扱った作品であり、また初期映画史を知るのに格好の映画である。とはいえ、じっくり見ていくと列車のテーマ、さまざまな「引用」「モンタージュ」なども多く、映画的に「楽しめる」作品となっている。）授業内に質問し、ブログに投稿してもらい、次週までに回答と解説を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について （必ず出席のこと）
2	スコセッシ監督について	オタッキーなマーティン・スコセッシ監督と『ヒューゴの不思議な発明』
3	映像の誕生	はじめに光（リュミエール）ありき
4	映画の黎明期	ジョルジュ・メリエスの再評価
5	映像技術の進歩	フィルムからデジタルそして３ D へ
6	ストーリーの成立	最後にバキュ～ン！ エドウィン・S・ポーター監督『大列車強盗』
7	映画と「おいかけ」	⑦「おいかけ」ロイド、チャプリン、バスター・キートン（『キートンの大列車強盗』『探偵学入門』）
8	モンタージュ	「高速モンタージュ」は疲れます（アベル・ガンス監督『鉄路の白薔薇』『ナポレオン』ほか）
9	引用	「引用」大好き！ デ・パルマ監督（コンチャロフスキー監督『暴走機関車』と『ミッション・インポシブルⅠ』）
10	引用とモンタージュ	引用とモンタージュといえばゴダール（『映画史』『さらば、愛の言葉よ』）
11	映画における列車１	今でもやっぱり列車映画（トニー・スコット監督『アンストッパブル』）
12	ボリウッド	今映画といえばボリウッド！（シャンカール監督『ロボット』）
13	テスト	映像を見ながらテストを行います
14	テストの答え合わせ	テストの答え合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】映画館・レンタルショップ・WEB・TV などで多くの作品に接してください

【テキスト（教科書）】
特定のテキストはありません。

【参考書】
特にありません

【成績評価の方法と基準】
期末試験６０％
レポート２０％
授業送付２０％により評価。

【学生の意見等からの気づき】
ありません

【Outline and objectives】
By learning many views for the movie as texture,to have deeper understanding of the movie

ART100LC

音楽芸術

竹内　誠

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人はなぜ、音楽を好むのでしょうか？
多くの人に好まれる音楽は、どのような特徴があるのでしょうか？
音楽の芸術性は、どのように判断されるのでしょうか？
音楽を好きな人ならば、１度は疑問に思ったことがあるはずです。
これらの疑問を解き明かすことが、この授業のテーマです。

【到達目標】
西洋の音楽史を一言で言うと、音楽を複雑にした歴史と言えます。これは西洋音楽が、常に新しい表現を求め続けたためです。そして２０世紀初頭には、無調音楽を生み出して、表現の限界までに至りました。
音楽の芸術性に関しても、複雑な手法で作られた音楽ほど、芸術性が高いと評価される傾向があります。しかし芸術性の評価は、人それぞれです。
音楽を作る手法、文化的背景、楽器の歴史と進化などを知ることによって、音楽の芸術性を考えられるようになることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回キーワードに基づいたレクチャーを行い、レクチャーに関連する音楽と映像を鑑賞しますが、オンライン授業を余儀なくされた場合は適時対応します。
質問などへの対応は、個人的なもの以外は授業中に行います。
またオンライン授業になった場合は、授業内掲示板で質問などに対応を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス 西洋音楽史の概要	授業の進め方と成績評価方法などと、古代ギリシャから始まったとされる西洋音楽史の概要を、授業前の基礎知識として説明します。
2	音楽と記憶	人が音楽を好む理由を、記憶の面から考察します。
3	音階と和音	西洋音楽における音階と和音の変遷と、音楽に与えた影響を考察します。
4	繰り返しの手法	音楽の作られる形式にある、音楽の構成的な周期を解き明かします。
5	クラシック音楽の行き詰まり	複雑化した音楽と無調音楽の特徴と、それが生まれた背景を考察します。
6	黒人音楽の影響	ブルーノートとアフタービートなど、黒人文化が音楽へ与えた影響と、それが生まれた背景を考察します。
7	中南米の音楽	多民族社会から生まれた中南米諸国の音楽的特徴と、それが生まれた背景を考察します。
8	楽器の起源と分類	バイオリン、トランペットなど、現在使われている楽器の起源と発展を学び、人と音楽の関わりを考察します。
9	楽器の発音原理と表現	管楽器、弦楽器、打楽器の仕組みと表現を知り、音楽におけるそれぞれの役割を解き明かします。
10	衰退した楽器とその復刻	リュート、リコーダーなど衰退した楽器と、衰退した楽器が復刻した訳を考察します。
11	電気楽器と電子楽器の発展	電気楽器と電子楽器の発展と、音楽に与えた影響を考察します。
12	音楽とメディア	レコード、映画、放送など、メディアが音楽に与えた影響を考察します。
13	音楽の効果と表現	オペラ、ミュージカルなどの劇音楽の歴史から、音楽の効果と表現を考察します。
14	生活環境と音楽 音楽の芸術性	生活環境の変化による、音楽の聴き方と使われ方の変化を知り、人と音楽の関わりを考察して、音楽の芸術性を探ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】　現在の私たちの生活は、音楽で満ちあふれています。
その音楽を聞き流すのではなく、表現上の特徴、その場所で使われている理由などを考えてみてください。
また、好きな音楽を聴く時には、自分がなぜその音楽を好むようになったのかを考えてみてください。
授業への理解と興味が、必ず増すはずです。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しません。

【参考書】
必要に応じて、授業内で指示をします。

【成績評価の方法と基準】
評価はレポートのみで行います。
レポートのタイトルとフォーマットは、授業内で指示をします。
レポートの評価基準は、授業内容と主旨を理解しているかがポイントです。
また、授業内で取り上げたキーワードが、レポートに織り込まれていることが重要です。
キーワードが使われていないレポートは、内容に関わらず失格とします。
平常評価は、レポートの内容から授業に参加しているかを判断して行います。
オンライン授業となっても、成績評価の方法に変更はありません。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使用したパワーポイントのファイルが欲しいとの要望がありますが、パワーポイントは要点のみに絞ってありますので、配布はいたしません。
出席をしているかどうかは、レポートの内容から授業に参加したかどうかを判断しますので、パワーポイントからの情報ではなく、私の話を聞くことが重要です。

【学生が準備すべき機器他】
学生が授業で準備をする機器などはありませんが、授業支援システムで配布する MuseScore のファイルを使用するためには、PC が必要となります。
レポート課題は授業内で説明を行い、レポート作成要旨を授業支援システムで配布します。最終授業でレポートを提出できない場合は、授業支援システムで提出が可能です。

【その他の重要事項】
授業内では、必要に応じて映像や音楽を流します。
この間の教室からの出入りは、他の学生の迷惑となりますので、控えるようにお願いをします。

【音楽的な知識と能力に関して】
この授業の受講には、音楽の専門的な知識も能力も必要はありません。
楽譜の読めない人や、楽器を演奏したことのない人でも、大部分は理解できる授業内容です。
ある程度、音楽の専門的な話をすることもありますが、専門的な内容が理解できなくても、成績評価には全く影響しませんので、安心をして受講してください。

【Outline and objectives】
Why do people like music?
What characteristics do those pieces of music loved by many people have?
How can we judge the value of musical arts?
You may have had such questions once in your lives.
The purpose of this class is to discover the answers to those questions.

ART100LC

音楽芸術

竹内　誠

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人はなぜ、音楽を好むのでしょうか？
多くの人に好まれる音楽は、どのような特徴があるのでしょうか？
音楽の芸術性は、どのように判断されるのでしょうか？
音楽を好きな人ならば、１度は疑問に思ったことがあるはずです。
これらの疑問を解き明かすことが、この授業のテーマです。

【到達目標】
西洋の音楽史を一言で言うと、音楽を複雑にした歴史と言えます。これは西洋音楽が、常に新しい表現を求め続けたためです。そして２０世紀初頭には、無調音楽を生み出して、表現の限界までに至りました。
音楽の芸術性に関しても、複雑な手法で作られた音楽ほど、芸術性が高いと評価される傾向があります。しかし芸術性の評価は、人それぞれです。
音楽を作る手法、文化的背景、楽器の歴史と進化などを知ることによって、音楽の芸術性を考えられるようになることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回キーワードに基づいたレクチャーを行い、レクチャーに関連する音楽と映像を鑑賞しますが、オンライン授業を余儀なくされた場合は適時対応します。
質問などへの対応は、個人的なもの以外は授業中に行います。
またオンライン授業になった場合は、授業内掲示板で質問などに対応を行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス 西洋音楽史の概要	授業の進め方と成績評価方法などと、古代ギリシャから始まったとされる西洋音楽史の概要を、授業前の基礎知識として説明します。
2	音楽と記憶	人が音楽を好む理由を、記憶の面から考察します。
3	音階と和音	西洋音楽における音階と和音の変遷と、音楽に与えた影響を考察します。
4	繰り返しの手法	音楽の作られる形式にある、音楽の構成的な周期を解き明かします。
5	クラシック音楽の行き詰まり	複雑化した音楽と無調音楽の特徴と、それが生まれた背景を考察します。
6	黒人音楽の影響	ブルーノートとアフタービートなど、黒人文化が音楽へ与えた影響と、それが生まれた背景を考察します。
7	中南米の音楽	多民族社会から生まれた中南米諸国の音楽的特徴と、それが生まれた背景を考察します。
8	楽器の起源と分類	バイオリン、トランペットなど、現在使われている楽器の起源と発展を学び、人と音楽の関わりを考察します。
9	楽器の発音原理と表現	管楽器、弦楽器、打楽器の仕組みと表現を知り、音楽におけるそれぞれの役割を解き明かします。
10	衰退した楽器とその復刻	リュート、リコーダーなど衰退した楽器と、衰退した楽器が復刻した訳を考察します。
11	電気楽器と電子楽器の発展	電気楽器と電子楽器の発展と、音楽に与えた影響を考察します。
12	音楽とメディア	レコード、映画、放送など、メディアが音楽に与えた影響を考察します。
13	音楽の効果と表現	オペラ、ミュージカルなどの劇音楽の歴史から、音楽の効果と表現を考察します。
14	生活環境と音楽 音楽の芸術性	生活環境の変化による、音楽の聴き方と使われ方の変化を知り、人と音楽の関わりを考察して、音楽の芸術性を探ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】　現在の私たちの生活は、音楽で満ちあふれています。
その音楽を聞き流すのではなく、表現上の特徴、その場所で使われている理由などを考えてみてください。
また、好きな音楽を聴く時には、自分がなぜその音楽を好むようになったのかを考えてみてください。
授業への理解と興味が、必ず増すはずです。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しません。

【参考書】
必要に応じて、授業内で指示をします。

【成績評価の方法と基準】
評価はレポートのみで行います。
レポートのタイトルとフォーマットは、授業内で指示をします。
レポートの評価基準は、授業内容と主旨を理解しているかがポイントです。
また、授業内で取り上げたキーワードが、レポートに織り込まれていることが重要です。
キーワードが使われていないレポートは、内容に関わらず失格とします。
平常評価は、レポートの内容から授業に参加しているかを判断して行います。
オンライン授業となっても、成績評価の方法に変更はありません。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使用したパワーポイントのファイルが欲しいとの要望がありますが、パワーポイントは要点のみに絞ってありますので、配布はいたしません。
出席をしているかどうかは、レポートの内容から授業に参加したかどうかを判断しますので、パワーポイントからの情報ではなく、私の話を聞くことが重要です。

【学生が準備すべき機器他】
学生が授業で準備をする機器などはありませんが、授業支援システムで配布する MuseScore のファイルを使用するためには、PC が必要となります。
レポート課題は授業内で説明を行い、レポート作成要旨を授業支援システムで配布します。最終授業でレポートを提出できない場合は、授業支援システムで提出が可能です。

【その他の重要事項】
授業内では、必要に応じて映像や音楽を流します。
この間の教室からの出入りは、他の学生の迷惑となりますので、控えるようにお願いをします。

【音楽的な知識と能力に関して】
この授業の受講には、音楽の専門的な知識も能力も必要はありません。
楽譜の読めない人や、楽器を演奏したことのない人でも、大部分は理解できる授業内容です。
ある程度、音楽の専門的な話をすることもありますが、専門的な内容が理解できなくても、成績評価には全く影響しませんので、安心をして受講してください。

【Outline and objectives】
Why do people like music?
What characteristics do those pieces of music loved by many people have?
How can we judge the value of musical arts?
You may have had such questions once in your lives.
The purpose of this class is to discover the answers to those questions.

PSY100LC

こころの働き

伊藤　隆一

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。
○　この授業は抽選登録科目です。抽選に登録して、抽選の結果登録できたかどうか、必ず、確認してください。
★ 2021 年度は特別態勢を取るので、詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★
○　教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
○　成績は、従来の定期試験を中心とする方法ではなく、授業中５回程度課すレポートの内容をもとに、授業への積極的な参加度で ± ３０％の加点または減点を行って、算出します。
○　伊藤隆一のメールアドレスは、　momokawa@hosei.ac.jp です。
○　状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせいたします。

【到達目標】
さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。
授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限１週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第 2 回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第 3 回	感覚の種類（1）	８つの感覚について説明する
第 4 回	感覚の種類（2）	〃　　（２）
第 5 回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第 6 回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第 7 回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第 8 回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第 9 回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第 10 回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第 11 回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第 12 回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第 13 回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第 14 回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

【テキスト（教科書）】
伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦　『現代の心理学』　金子書房　2003 年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の記述式試験の成績をベース (75%) に、授業内レポートの成績、授業中の態度なども加味して (25%)、最終成績とする。授業内評価によって、期末試験の成績を ±25 点の範囲で変動させることがある。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、さらに実践的な授業をめざしたい。

【学生が準備すべき機器他】
心理学に関するビデオ・DVD を見せることがある。

【その他の重要事項】
受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。
「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".

PSY100LC

パーソナリティ

伊藤　ひろみ

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。
○　この授業は、抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果登録できたか確認してください。
★２０２１年度は特別体制を取るので、詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★
○　教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
○　成績は、従来の定期試験を中心とする方法ではなく、授業中５回程度課すレポートの内容をもとに、授業への積極的な参加度で ± ３０％の加点または減点を行って、算出します。
○　伊藤ひろみのメールアドレスは、　hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp です。
○　状況が変化し、授業の内容と成績の査定方法を変更するときには、改めて、お知らせいたします。

【到達目標】
「パーソナリティ」「こころの働き」という２つの授業を通じて、人間のこころのメカニズムについて知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。また，課題を数回提出してもらうが，その場合はその次の週以降に正解・解説を述べる。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第 2 回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第 3 回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第 4 回	心理学の研究方法と周辺諸科学	心理学が用いる研究方法と、他の学問領域との関連について説明する
第 5 回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第 6 回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第 7 回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第 8 回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第 9 回	知能と実際的知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第 10 回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第 11 回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第 12 回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第 13 回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる
第 14 回	人間関係	他者との人間関係とパーソナリティとの関連性について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】
伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦　『現代の心理学』　金子書房　2003 年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。心理学に関するビデオ・ＤＶＤを見せることがある。

【成績評価の方法と基準】
原則として、学期末の記述式試験の成績をベースに (75%)、授業内レポートと、授業中の態度や授業への積極的な参加度などの平常点を加味して (25%)、最終成績とする。授業内評価によって、期末試験の成績を ±20 点の範囲で変動させることがある。

【学生の意見等からの気づき】
今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行って行きたい。

【その他の重要事項】
受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests to students taking this course.　The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind"

LAW100LC

知的所有権

武生　昌士、安田　和史

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は，知的財産法の全体像を把握することを目的とする。特に，エンジニアにとって不可欠な，特許法・著作権法・営業秘密の保護等に関する基礎的な理解を獲得することを目指す。

【到達目標】
知的財産法について，制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより，今後知的財産法に関する問題に直面した際に，自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。
より具体的には，特許法・著作権法・不正競争防止法等における特定の論点について，関係する条文や概念を十分に理解し，その内容を正確に説明することができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では，知的財産法の全体像について，重要な論点をピックアップしながら，講義形式で一通り説明していく。音声付きのパワーポイントをオンデマンドで視聴していただく形式のほか，Zoom を用いたリアルタイムオンライン授業も実施する予定である。詳細は学習支援システムを通じて期中に改めて告知することとしたい（なお，初回のガイダンスは Zoom にて実施する可能性が高いので，学習支援システムを必ず確認するようにしてほしい）。
下記授業計画に示した形での講義を予定しているが，順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。
質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け，個別に，あるいは次回授業を通じてフィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明，知的財産法の全体像
第 2 回	特許法概説（1）	特許要件など
第 3 回	特許法概説（2）	出願・審査手続，職務発明など
第 4 回	特許出願における特許事務所の役割	発明の創出から権利化までの具体的説明
第 5 回	意匠法概説	意匠法の全体像
第 6 回	意匠出願と製品デザインの保護	意匠法活用の具体例
第 7 回	標識法概説	商標法などの標識法の全体像
第 8 回	商標出願とブランド・製品名等の保護	標識法活用の具体例
第 9 回	不正競争防止法概説	不正競争防止法の全体像
第 10 回	営業秘密保護の概説	不正競争防止法による営業秘密の保護の全体像
第 11 回	不正競争防止法・実務編	企業活動における不正競争防止法の意義とその実相
第 12 回	著作権法概説	著作権法の全体像
第 13 回	著作権法・実務編	企業実務における著作権法上の諸問題
第 14 回	全体の総括・仮想事例の検討	仮想事例の検討を通じて，講義全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の終了時に，次回までに予習すべき資料を指定する場合があるので，一読した上で授業に臨むこと。
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。なお，六法を用意する・インターネットで検索するなどして，知的財産法の条文を常に確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】
茶園成樹編『知的財産法入門〔第 3 版〕』（有斐閣，2020），前田健ほか編『図録知的財産法』（弘文堂，2021）。このほか，授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末のレポート課題によって評価する（100 %）。レポート課題は複数課す予定であるが，詳細は学習支援システムを通じて改めて提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の受講が可能な環境の整備。Zoom を用いる場合に備え，マイクを用意していることが望ましい。

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
The purpose of this lecture is grasp the entire structure of Intellectual Property Law.

LAW100LC

知的所有権

武生　昌士、安田　和史

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は，知的財産法の全体像を把握することを目的とする。特に，エンジニアにとって不可欠な，特許法・著作権法・営業秘密の保護等に関する基礎的な理解を獲得することを目指す。

【到達目標】
知的財産法について，制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより，今後知的財産法に関する問題に直面した際に，自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。
より具体的には，特許法・著作権法・不正競争防止法等における特定の論点について，関係する条文や概念を十分に理解し，その内容を正確に説明することができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では，知的財産法の全体像について，重要な論点をピックアップしながら，講義形式で一通り説明していく。音声付きのパワーポイントをオンデマンドで視聴していただく形式のほか，Zoom を用いたリアルタイムオンライン授業も実施する予定である。詳細は学習支援システムを通じて期中に改めて告知することとしたい（なお，初回のガイダンスは Zoom にて実施する可能性が高いので，学習支援システムを必ず確認するようにしてほしい）。
下記授業計画に示した形での講義を予定しているが，順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。
質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け，個別に，あるいは次回授業を通じてフィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明，知的財産法の全体像
第 2 回	特許法概説（1）	特許要件など
第 3 回	特許法概説（2）	出願・審査手続，職務発明など
第 4 回	特許出願における特許事務所の役割	発明の創出から権利化までの具体的説明
第 5 回	意匠法概説	意匠法の全体像
第 6 回	意匠出願と製品デザインの保護	意匠法活用の具体例
第 7 回	標識法概説	商標法などの標識法の全体像
第 8 回	商標出願とブランド・製品名等の保護	標識法活用の具体例
第 9 回	不正競争防止法概説	不正競争防止法の全体像
第 10 回	営業秘密保護の概説	不正競争防止法による営業秘密の保護の全体像
第 11 回	不正競争防止法・実務編	企業活動における不正競争防止法の意義とその実相
第 12 回	著作権法概説	著作権法の全体像
第 13 回	著作権法・実務編	企業実務における著作権法上の諸問題
第 14 回	全体の総括・仮想事例の検討	仮想事例の検討を通じて，講義全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の終了時に，次回までに予習すべき資料を指定する場合があるので，一読した上で授業に臨むこと。
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。なお，六法を用意する・インターネットで検索するなどして，知的財産法の条文を常に確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】
茶園成樹編『知的財産法入門〔第 3 版〕』（有斐閣，2020），前田健ほか編『図録知的財産法』（弘文堂，2021）。このほか，授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末のレポート課題によって評価する（100 %）。レポート課題は複数課す予定であるが，詳細は学習支援システムを通じて改めて提示する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の受講が可能な環境の整備。Zoom を用いる場合に備え，マイクを用意していることが望ましい。

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
The purpose of this lecture is grasp the entire structure of Intellectual Property Law.

CUA100LC

社会科学の方法論

福澤　レベッカ

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会科学は日常生活における人間の相互作用のパターンを明らかするものである。しかし，社会科学者はいかにして日常的な文脈から得た情報を社会科学データに変換するのであろうか？ 本コースでは，実際のデータ収集活動や授業内活動を通して，文化人類学における質的研究の基礎について学ぶ。さらに、研究に基づく議論を学び、メディア等で取り上げられる研究を理解し批判的な目で評価するための「調査リテラシー」を身につける。

【到達目標】
社会科学における議論の構造理解と調査法を見につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義も含まれているが、アクティブラーニングを基礎とする授業である。授業において主に、ディスカッション、グループワーク、授業内フィールドワーク体験、映像分析、および論理的議論作業などの活動を行う。提出された課題については採点のうえ、返却されます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	社会科学とは何か？ ―― 調査方法の紹介	1）本授業へのオリンテーション 2）フィルードワークの特徴と方法。データ収集の困難点。 3）フィールドでのマナーと倫理
2 回	社会科学とは何か？ ―― 調査方法の紹介	1）質的なデータと量的なデータ 2）データの意味付け問題 3）言葉と文化の結合
3 回	調査方法――観察とは何か？	観察する前の「注意事項」 A. 知覚的バイアス (先入観) B. 文化的なバイアス C. 観察のガイドライン
4 回	調査方法――観察方法（実践練習１）	写真と一コマ漫画を見て、観察練習をする。
5 回	調査方法――観察方法（実践練習２）議	フィールドノートを取りながら、未開民族のビデオを見て観察練習する。
6 回	調査方法――インタービューの方法	A. インタービューの的 B. インタビューのタプ C. 言語とフィールドワーク D. 一般的な質問の仕方議論の応用問題
7 回	調査方法――インタービュー（実践練習）	パートナーをインタビューして、図形式にまとめる。
8 回	調査方法――ビジュアルデータ収集法１（写真、ビデオ、など）	カメラ/ビデオが拡げる可能性。メディアの利点と欠点。
9 回	調査方法――ビジュアルデータ収集法　２（実践練習	間接的なデータ（メディア）の利用
10 回	論証と社会科学のデータ 議論のレッスン＃１	1）議論モデルと社会科学の研究を比較る。 2）議論＝論証とは？ 主張と根拠の理解、論証を主張と根拠に分ける。論拠の意味、論拠を推定する。
11 回	議論のレッスン＃２	論拠の意味、論拠を推定する。トウールミンの議論モデル: Data (根拠) + Warrant (論拠) = Claim (主張) を紹介する。
12 回	議論のレッスン＃３	議論の応用問題：様々なデータを分析し、トウールミンの議論モデルを基にして、議論の準備をする。
13 回	議論と調査方法ーー議論のウソを読み解く	少年犯罪の新聞記事を議論モデルの視点から分析する。
14 回	議論と調査方法ーー議論のウソを読み解く	ゆとり教育の社会問題を議論モデルの視点から分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
特にフィールドワークのインタビューと観察の課題

【テキスト（教科書）】
プリント、と必要に応じて講義中に紹介する

【参考書】
福澤一吉、2002「議論のレッスン」NHK 出版生活人新書
小笠原喜康、2005「議論のウソ」講談社現代新書
佐藤郁也、2006「フィルドワーク増訂版:書を持って街へでよう」新曜社

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）、フィールドワーク課題（30 %）、期末試験 (30%)*
*春学期がオンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する可能性がある．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する．

【学生の意見等からの気づき】
穴埋めシートを簡単にするか無くす。

【学生が準備すべき機器他】
授業によってノートパソコンを持参する必要がある。

【その他の重要事項】
以前に行っていた政府機関のＰＲ部での仕事の経験は、現在の授業のフィールドワークがビズネスに以下に応用できるかという視点を提供している。

【Outline and objectives】
Social science research illuminates patterns within daily human behavior. Yet how do social scientists extract data from the context of daily life to generate insights, hypotheses and generalizations ? This course introduces the basics of anthropological, qualitative research through class activities and actual data collection. In addition, it introduces the basic foundations of research in argumentation and develops the research literacy necessary for understanding and critiquing research in the media.

ARSl100LC

国際関係論

元木　淳子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際関係論の枠組みをふまえて、サブサハラ・アフリカ諸国成立の歴史と現在について考える。

【到達目標】
国際関係論の枠組みを理解し、サブサハラ・アフリカ諸国の歴史と実情について調べ、議論し、認識を深める。また、アジアとアフリカの国際関係について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
マルチメディア教室で授業支援システムを用いての双方向授業。
サブサハラ・アフリカ諸国の歴史と現状について調べ、掲示板上で発表し、議論する。
注目すべき発表などについて授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介	授業の紹介。 国際関係論について、受講者の認識を相互に確認する。
第 2 回	ヨーロッパ主権国家	ヨーロッパ主権国家成立の歴史を概観する。
第 3 回	主権国家システムとアフリカ	主権国家システムを定義する。 アフリカ大陸と三角貿易について調べ、議論する。
第 4 回	近代国際システムにおけるアフリカ	ヨーロッパによるアフリカ大陸の植民地化について調べ、議論する。
第 5 回	両大戦とアフリカ大陸	両大戦とアフリカ大陸との関係について調べ、議論する
第 6 回	第二次世界大戦後のアフリカ	冷戦体制下のアフリカで、どのように植民地からの解放が目指されたのかを調べ、議論する。
第 7 回	アフリカ独立の年	1960 年のアフリカの年について調べ、議論する。
第 8 回	アフリカ新興独立諸国家の特質	アフリカ独立国家の特質について調べ、議論する。
第 9 回	1980 年代のアフリカ	アフリカ諸国の経済と構造調整政策について調べ、議論する。
第 10 回	冷戦後のアフリカ	冷戦の終結がアフリカ大陸にもたらした変化について調べ、議論する。
第 11 回	1990 年代アフリカの武力紛争	ルワンダ内戦の事例を検討する。
第 12 回	1990 年代南アフリカ	南アフリカの人種隔離政策について調べ、議論する。
第 13 回	地球化時代のアフリカ	今日の国際社会における諸問題（テロリズム、環境、人の移動など）とアフリカ大陸の関係について調べ、議論する
第 14 回	アフリカとアジア	グローバル化時代におけるアフリカとアジアの国際関係を認識し、将来を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
授業支援システムの掲示板に示された議題に対して、書き込みをして応答して下さい。

【テキスト（教科書）】
プリント適宜配布

【参考書】
適宜指示

【成績評価の方法と基準】
レポート課題５０％
平常点５０％として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
できる限り、音楽・映像資料などに触れる機会をもうけます。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is for students to understand african nation building in the contexte of International Relations.

ECN100LC

基礎経済学

呉　暁林

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生として日常生活・家計の管理，また近い将来の就職，仕事などにおいて，経済学的教養と知識は不可欠であります。経済学を勉強したい，または経済や経営のことを知りたいと思っている学生を対象とする入門の授業です。
受講者が講義と読書を通して，限られた資源の効率的配置を考えるミクロ経済学の基本的な命題、一国の経済全体の機能を考えるマクロ経済学の基本的な枠組みを学び、経済学的な物事の考え方を理解できるように進めます。

【到達目標】
受講者が経済学の基本的概念と考え方を習得し、世の中の経済問題や、日ごろの経済記事と経済ニュースを理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義と読書を二本柱とします。
講義では経済学の基本原理，ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な概念と考え方を解説し，それを応用して日常生活のなかの経済現象を共に考えていきます。
読書は基礎知識の理解を深めるのに不可欠です。受講者が負担にならないように世界的に読まれている標準的な教科書－マンキュー入門経済学を使用します。毎回、一つのテーマについて前半は講義で基本的な概念と考え方を解説し、後半は選択肢問題、応用問題を解いてもらい、理解を深めるように取り組んでいきます。マンキュークラウドキャンパス　（イーラーニングサービス）を利用して問題を解いて学習の理解度の向上を図ります。マンキュークラウドキャンパスはすべて自動採点テストです。受講はＰＣだけでなく、スマホやタブレットでも可能で、いつでもどこでも学生はテストを受けることができます。
原則として対面授業（分散登校を含む) を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性があります。
感想文などでの良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ経済学が必要なのか? ＤＶＤ　経済学のセンス－「サンクス」「機会費用」「比較優位」
第 2 回	経済学の十大原理	経済の根本原理－やる気 ＤＶＤ「インセンティブ」「モラルハザード」「逆選択」
第 3 回	経済学の十大原理	人と企業を動かす価格の影響力について ＤＶＤ「価格差別」「裁定」「囚人のジレンマ」
第 4 回	市場における需要と供給	市場と競争、需要曲線、供給曲線、均衡価格
第 5 回	需要、供給、および政府の政策	価格規制、税金、弾力性
第 6 回	消費者、生産者、市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性 市場の失敗 税と効率・公平
第 7 回	外部性	外部性と市場の非効率性 外部性に対する公共政策 外部性に対する当事者間による解決方法
第 8 回	Ⅱマクロ経済学 国民所得の測定	経済の所得と支出 国内総生産の測定 GDP の構成要素 実質 GDP と名目 GDP GDP は経済厚生の良い尺度
第 9 回	生計費の測定	消費者物価指数 インフレーション 物価スライド制 実質金利と名目金利
第 10 回	生産と成長	世界各国の経済成長 生産性：その役割と決定要因 経済成長と公共政策 長期的成長の重要性
第 11 回	貯蓄、投資と金融システム	アメリカ経済における金融機関 国民所得勘定における貯蓄と投資 貸付資金市場 貨幣システム
第 12 回	総需要と総供給	経済変動とその現象 短期経済変動の説明 総需要曲線と総供給曲線 経済変動の原因
第 13 回	開放マクロ経済学	財と資本の国際フロー 実質為替相場と名義為替相場 購買力平価
第 14 回	期末試験	60 分筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書を通読することを薦めます。日本経済新聞、ビジネス雑誌を自分の関心のある話題、テーマについて読み、世の中の変化を考えてほしい。

【テキスト（教科書）】
N．グレゴリ・マンキュー／足立英之ほか訳『マンキュー経済学入門第 2 版』（東洋経済新報社（2015 年）
書籍代が少し高いですが、非常に良質な本です。キーワードは日本語と英語が併記しており、十分に購入する価値があります。

【参考書】
井堀利宏著『大学 4 年間の経済学が 10 時間でざっと学べる』KADOKAWA（2016）
伊藤元重著『入門経済学第３版』日本評論社（2009 年）
小塩隆士著『高校生のための経済学入門』ちくま新書、筑摩書房 (2002 年)
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社（2014 年）
飯田泰之著『経済学思考の技術－理論・経済理論・データを使って考える』ダイヤモンド社（2008 年第 10 刷）

【成績評価の方法と基準】
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
通常の場合は授業中の演習課題など (60 %)、期末レポート (40 %）を合点して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムで案内するレポートの提出期限をきちんと守って、レポートを提出しましょう。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクター、パワーポイント、ＤＶＤ

【その他の重要事項】
授業中の私語、またスマートフォンによるゲーム遊びなどを禁止

【Outline and objectives】
Basic economics
This lecture course uses N. Gregory Mankiw's textbook to provide the basic knowledge of microeconomics and macroeconomics.

ECN100LC

応用経済学

明城　聡

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計学や計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。また、EXCEL による基本的なデータ処理の方法も学ぶ。
※本年度は Zoom によるオンラインでの遠隔形式で授業を行います。各自で PC 環境を用意してもらうので、詳しくは学習支援システムのお知らせを参照してください。

【到達目標】
統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、パソコン上で EXCEL を使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使って EXCEL を用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとします。レポートの採点結果を授業にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excel と統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定 (1)	・仮説検定と有意水準 ・1 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定 (2)	・2 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較 (1)	・分散分析 ・1 元配置法
12	平均に関する群間比較 (2)	・2 元配置法 ・相互効果
13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワトソン統計量
14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数 ・その他の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
PC を使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。
講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準 4 時間）

【テキスト（教科書）】
必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】
計量経済学の参考書として以下をオススメします。
・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015
統計学の参考書には以下をあげます。
・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】
宿題 (30%) と課題レポート (70%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
EXCEL を使った演習を行うので、各自で PC 環境 (Windows もしくは Mac) とネット接続環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in the exercise using PC and statistical software (MS EXCEL).

MAN100LC

企業マネージメント

田名網　尚

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会は多くの企業の様々な活動によって支えられている。
この授業の目的は，現代社会における企業の役割と企業活動におけるマネジメントの重要性について理解を深めることにある。
なお，企業におけるマネジメントの研究は経営学の分野であるが，経営学だけでなく経済学や法学（特に会社法）などの分野からもアプローチすることにより，社会人になっても役立つような幅広い知識を習得を目指したい。

【到達目標】
企業とは何か，企業活動とは何か，企業を動かすということはどういうことか，など企業について様々な方面から考察し，そこで行われるマネージメント活動を理解するすることを到達目標とする。具体的には，企業におけるマネージメントの重要性，企業における経営の意思決定，経営組織，人々の働き方やモティベーションなどについての理解を深めたい。
なお、講師は上場企業の現役の役員でもあるので，企業経営における意思決定プロセスや，企業経営に関するより具体的・今日的なテーマを取り上げ，特に最近議論が高まっているコーポレートガバナンス，企業の社会的責任（ＣＳＲ），「環境・社会・ガバナンス」（ＥＳＧ）など、今日企業が取組むべき経営課題などについても理解を深めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で，授業計画に従って進めていく。授業時にはテーマに関連する資料を配布する。具体的なテーマは，経営学とマネージメント，企業活動と経済，会社の仕組み（会社法），企業が取組むべき課題（コーポレートガバナンス・企業の社会的な責任（ＣＳＲ）），企業会計，マネージメント・リーダーシップ，経営組織論，人的資源管理論，ワークモティベーション・キャリアデザイン，経営戦略論などである。
また，理解度を確認するため課題レポートを課したり，授業内で小テスト等を実施する。課題レポートについては次回講義時にレポート作成ののポイントを解説し，小テスト等については模範解答を配布する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経営学とマネージメント	本授業を概観するとともに，本授業のテーマである企業におけるマネージメントについて解説する。
第 2 回	企業の定義と経済の基礎知識	企業とはどのような存在なのかを理解するとともに，企業活動と経済の関係について解説する。
第 3 回	わが国の企業風土と日本的経営	日本企業の経営の特色，特に「日本的経営」の特徴について解説する。
第 4 回	株式会社の仕組み ①株式会社の概要 ②機関と取締役等	企業の代表的形態である株式会社と株式会社における機関，取締役等の役員が果たすべき義務とその責任について理解する。
第 5 回	株式会社の仕組み ③企業が取組むべき課題	現代企業の課題（コーポレートガバナンス，内部統制，企業の社会的責任（ＣＳＲ）ＥＳＧ等）について概観する。
第 6 回	株式会社の仕組み ④計算	企業活動の成果（経営者の定量的成績評価）である企業業績について理解する。
第 7 回	企業経営とマネージメント・リーダーシップ	企業活動におけるマネージメントの重要性・リーダーシップの重要性を解説する。
第 8 回	組織構造のマネージメント	経営学の重要なテーマである経営組織論及び企業の具体的な経営組織を紹介する。
第 9 回	日本の雇用制度の仕組み ～企業と人との関係～	日本企業の人事制度や企業と人との関係について解説する。
第 10 回	ワークモティベーションとキャリアデザイン	マネージメントの重要な課題であるワークモティベーションと自らキャリアをデザインすることの重要性を認識する。
第 11 回	企業戦略のマネージメント①　～成長戦略～	企業戦略について概観するとともに，成長戦略の理論を紹介する。
第 12 回	企業戦略のマネージメント②　～Ｍ＆Ａ戦略～	企業戦略の中でも，特に近年，活発に行われているＭ＆Ａ戦略について紹介する。
第 13 回	起業からＩＰＯへ	我が国の起業の実態や起業の実務等を確認するとともに，成長戦略の一つであるＩＰＯ（Intial Pblic Offering）について紹介する。
第 14 回	これからの企業経営	企業のこれからの課題とそれに対応した経営戦略について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
授業は授業計画に従って進めるが，授業終了時には次回の授業のテーマ・範囲を紹介し，資料を配布するので，理解を深めるために必ず資料を熟読して授業に臨んで欲しい。
また，理解度を確認するために，課題レポートの提出を求めたり，小テスト等を行うことを予定している。
なお，授業中には，具体例として日々のニュースで取り上げられるような企業活動に関するテーマを紹介するので，より理解を深めるためにも，新聞，TV のニュース番組，インターネットの情報など日頃より企業等に関する報道等にも関心を持ち，授業に臨んで欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。授業の進捗に合わせて教員作成の資料を適宜配布する。

【参考書】
◆授業全体の基本書として，十川廣國「経営学入門 [第 2 版]」（中央経済社）を薦める。なお，授業の概要を理解するのであれば遠藤功「ざっくりわかる企業経営のしくみ」（日経文庫）が良い。
◆また，授業のテーマに応じた参考書を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は期末試験の結果をベースに，平常点，課題レポートや小テスト等の状況も踏まえて最終評価とする。
配分は，期末試験＝７０％，平常点＝１０％，課題レポート・小テスト等＝２０％とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が多いため教員からの一方的な講義になりがちであるが，そうならないよう，授業中に簡単なアンケートや小テストを行ったり、授業テーマに関連した課題レポートを課すこと等によって，学生が考える時間をとることで授業への積極的な参加を促していきたい。

【Outline and objectives】
Modern society is supported by various activities of many companies. The purpose of this lecture is to deepen the understanding of the role of companies in modern society and the importance of management in corporate activities.
Research on management in companies is in the field of business administration, but by approaching not only business administration but also economics and company law, you can acquire a wide range of knowledge that will be useful even if you become a member of society.

POL100LC

現代政治学

川口　悠子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
移民から考える「日本」
近代の日本社会はさまざまな地域に多くの移民を送り出し、また多くの人々が移り住んできました。日本への移民は今後ますます増えていくと予想されています。過去も、現在も、「日本は日本人の国」ではないのです。この授業では、明治時代から現在にかけての、日本からの／日本への人の出入りを通じて、日本社会について考えます。

【到達目標】
・日本から移民した人々、日本に移民してきた人々の歴史と現状を理解し、日本社会を構成する人々の多様性を知る。
・批判的な思考力を身につける。
・統計データや歴史的史料の読み方を練習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義が中心ですが、資料を読んだり、映像資料を見たりする時間も取ります。毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらい、次の授業でいくつか取り上げてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業全般について説明する。
2	人の移動と社会・制度	人の移動をめぐる社会のあり方や制度について考える。
3	ハワイ・北米への移民（1）：近代日本と国際移民の始まり	明治時代に始まるハワイ・北米への移民の歴史について考える。
4	ハワイ・北米への移民（2）：戦争、国家、移民	第二次世界大戦中の強制収容とその後を中心に、ハワイ・北米に移民した人々の、移民先での生活について考える。
5	中南米への移民：戦後日本社会と移民	中南米への移民がなぜ、どのようになされたのか考える。
6	在日コリアン（1）：植民地帝国日本と人の移動	朝鮮半島の人びとが日本社会で暮らすようになった経緯を考える。
7	在日コリアン（2）：戦後日本社会における外国人差別	アジア太平洋戦争後、在日コリアンがどのように暮らしてきたのか考える。
8	DVD 鑑賞	授業に関連する DVD を鑑賞し、理解を深める
9	日系人の「デカセギ」：「外国人労働者受け入れ」の始まり	日系人ブラジル人らの来日・就労の背景を検討する。
10	技能実習制度と「特定技能」制度：外国人「労働者」政策の現在（1）	日本で働く外国人がどのような状況にあるのか、考える。
11	留学生：外国人「労働者」政策の現在（2）	日本の留学生制度の現状を検討し、来日留学生が置かれている状況について考える。
12	難民と日本社会	日本社会での難民受け入れ状況について考える。
13	多文化共生社会	多文化共生社会を模索するための理念について考える。
14	まとめと期末試験	これまでの講義を振り返り、期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に毎回、書籍の一部や新聞記事などを予習教材として配付します。指示されたとおり読んできてください。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて配布します。

【参考書】
随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　70 %
毎回のリアクション・ペーパー　30 %

【学生の意見等からの気づき】
聞き取りやすい話し方ができるよう留意します。

【その他の重要事項】
授業の進み具合や受講生の皆さんからの要望により、シラバスの内容に変更を加えることがあります。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of modern Japan with a particular focus on human migration.

CAR100LC

キャリアデザイン

斎藤　真一郎

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザインとは，「まず自分自身を理解し，自分の生き方・働き方について、職業のみならず、人生の様々な場面、機会にとらえ直し、今後の方向性を検討したり、自らをデザインしていくこと」である。キャリアデザインを実感、体感をするため、ディスカッションを多く取り入れる。これまでの授業アンケートでは、次のようなコメントが寄せられている。①普段、関わることのない人と話すことができるので、自分の視野を広められる。他の授業ではあまり意見の交換ができないがこの授業では意見交換ができる点が嬉しい。自分のことを見つめ直すきっかけが作れる。将来のことについて、今何をすべきかを考えるようになれる、②自分が求められている意見、率直に感じたことを相手に伝わるように発言する練習ができる、③コミュニケーションが不得手にオススメ、④他人の価値観や考え方について触れるので、物事のとらえ方や視野が広がる点。以上のようなことを期待する学生の履修を望む。特に１，２，３年生の履修を期待する。

【到達目標】
キャリアデザインを考える上で、次の３つの視点、1）「自分を知る」、2）「発達課題を考える」、3）「キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る」を通じて、学生自身の考えを構築し、自ら実践できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【対面授業の場合】：授業では講師が作成した資料を配布し、授業を行う。講義はあるが、グループ・ディスカッションが主体の授業になる。グループ・ディスカッション後の「気づき」を大切にする。受講者は働く人への「キャリアインタビュー」（第４回に実施要領を説明）を行い、第 10 回、第 11 回がその発表となる。受講者数により発表時間は相違し、第 12 回もキャリアインタビュー（課題）の発表になる場合がある。※毎回の授業後の振り返りとして、「今日の気づきシート」の作成（100 字以上 250 字以内）がある。「学習支援システム」の課題フォルダに「今日の気づきシート」のワード形式のファイルを講師がアップロードし、このファイルを受講者がダウンロード後に記入し、課題フォルダにアップロードする。提出された「今日の気づきシート」には各個人へフィードバック・コメントを課題への返信として送付する。気づきの多様性や質問等で授業で紹介したほうがよいものは適宜、授業内で紹介する。【オンライン授業の場合（ZOOM 使用）】：講師が次回の資料を事前にアップロードし、その資料を受講者が毎回の授業前にダウンロードして準備することが必要である（第１回の授業も事前に資料をアップロードするので、ダウンロードが必要）。グループ・ディスカッションは ZOOM のブレイクアウトルーム機能を使用する。「今日の気づきシート」の作成、フィードバックは、対面授業と同様となる。その他は対面授業と同じ進め方となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに　～キャリアデザインとは～ 自分を知る　その１	・キャリアデザインとは何かを解説する ・「３つの問い」を考える
第 2 回	自分を知る　その２	・仕事の価値観とライフスタイルの明確化
第 3 回	自分を知る　その３	・ストレングス・ファインダーのデータから自分を知る
第 4 回	自分を知る　その４ キャリアインタビュー（課題）準備	・キャリアシュミレーション・プログラム（ゲーム）から自分を知る ・第 10 回の発表に向けて
第 5 回	キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える　その１	・社会的自立のための課題を考える
第 6 回	キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える　その２	・情緒的自立のための課題を考える
第 7 回	キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える　その３	・経済的自立のための課題を考える
第 8 回	キャリアデザインの準備として、発達課題（両性の在り方）を考える　その１	・男女の考えの違いを考える
第 9 回	キャリアデザインの準備として、発達課題（両性の在り方）を考える　その２	・仕事を持つ男女の生き方、働き方を考える
第 10 回	キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る その１	・キャリアインタビュー（課題）の発表（プレゼン） ・インタビューから見えてくるキャリアの節目、転機に対する処し方
第 11 回	キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る その２	・キャリアインタビュー（課題）の発表（プレゼン） ・インタビューから見えてくるキャリアの節目、転機に対する処し方
第 12 回	キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る その３	・シュロスバーグの転機に対するアプローチ、ブリッジズのトランジション論、ハンセンの統合的生涯設計
第 13 回	キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る その４	・クルンボルツの「計画された偶発性理論」
第 14 回	評価を行う。	授業を通して自らが考えたものを表現したり、学んだものを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、２時間を標準とする】毎回の講義で気づく自分自身の考え方を自分なりに整理することが必要である。キャリアインタビューが課題となる。キャリアインタビューは自分の身近な働く人（社会人経験 10 年以上の方が望ましい。オンラインでのインタビューも可）をインタビューする。第４回の授業でその詳細を説明する。このインタビューを通じて得られるものが多かったというコメントが多くの受講者から寄せられている。

【テキスト（教科書）】
１．「さあ、才能（自分）に目覚めよう 新版」（トム・ラス著、古屋博子訳／日本経済新聞社／ 2017 年４月刊行の新版の書籍を購入のこと）
　・上記書籍を購入すると、インターネットでアクセスし、「自分の強みを探索」することができる。尚、古本ではこのアクセスコードが既に使用されているため、新しい書籍の購入が必要。第３回講義でそのデータを使用するため、第３回講義前に購入し、データを把握しておくことが必要（第１回、第２回講義で詳細を説明）。

【参考書】
「新版キャリアの心理学　第２版」（渡辺三枝子著／ナカニシヤ出版）
　・キャリアを考えるための様々なアプローチが紹介されており、これらを知ることで、人生を歩んでいく上での参考となる。

【成績評価の方法と基準】
平常点（35 %）
課題評価（キャリアインタビュー：対面もしくはオンラインインタビュー）（35 %）
期末試験成績（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
・グループディスカッションをスムーズにさせるため、初めに自分の意見をまとめる時間を取り、その後のにグループディスカッションをしてもらうことにする。
・「この授業を他の人に勧めるとしたら、どんな点か？」という質問に対して多かったコメントは以下の通りである。①自分について知ることができる。②視野が広がる。③グループディスカッションを通じて、他人の色々な意見を知ることができる。

【その他の重要事項】
※毎回のグループ・ディスカッションに参加し、様々な意見があることを実感し、自分の意見を考えることが重要である。これらのことがしっかりできた受講者にとっては期末試験は簡単なものになる。逆に言えば、参加回数が少ない受講者にとって、期末試験は難しいものになる。

【Outline and objectives】
Career design means "First of all, You will understand yourself, reconsider your way of life and how to work, various occasions including life in various occasions, opportunities, consider future direction, design yourself ". To realize and feel the career design, incorporate many discussions. In the class questionnaire so far, the following comments have been received. 1. Because I can usually speak with a person not involved, I can spread my vision. I am pleased that I can exchange opinions not much in other lessons. You can make a chance to look back on yourself. I will be able to think about what I should do now about the future, 2. I can practice saying what I am asked to do, to express my feelings frankly to others, 3. ecommended for poor communication, 4. It is about touching other people's values and ways of thinking, so that how to capture things and broaden their horizons. I would like students who expect such things to take courses. I especially expect to take classes for 1st, 2nd and 3rd graders.

LAW100LC

法学（日本国憲法）

浅野　毅彦

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法と国家・社会との関係、法の役割及び目的について、憲法（日本国憲法）を軸に学んでいく。憲法の目的や理念等を正確に把握し、憲法を中心とした法の基本的枠組みを理解する。

【到達目標】
日本国憲法を中心に、法についての基本的な理解を得ることとともに、社会に起きている問題を、法的に考え、解決する視点を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な事項の確認から授業をはじめ、法に関する基本的理解を正確に得られるようにすすめる。今日的な具体的な事件等を取り上げ、社会に起こっている問題に対する法による解決とは何か、問題点はないかを探っていく。授業においてはその都度質問をするので、積極的に答えてもらいたい。また、積極的に質問をしてもらいたい。それらを授業の展開に活かしていく。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	①法を学ぶ意義及び受講上の注意 ②法とは何か	①「法学」を履修する意義及び受講上の注意点等についての概要 ②　法とは何か、なぜ、法は必要なのか、社会生活における法の意味、法の機能を考える。
2	法と国家との関係について	法と強制、法と国家との関係、法の限界について考える。
3	法と「それ以外のルール」との関係について	法とその他の社会規範（道徳・慣習・宗教規範等）との関係、相違点を探る。
4	法の構造、法の機能の多元化について	法の構造と法の機能の多元化について、社会の変化と法との関係を探りながら考える。
5	「法の支配」と「立憲主義」について	「法の支配」とは何か、「立憲主義」との関係とは、憲法の基本的理念について歴史的に考える。
6	憲法の基本理念・原則について	「立憲主義」、「個人の尊重」を基にした憲法の基本原則を考える。
7	「国民主権」について	国の政治のあり方と主権者としての国民について考える－国民の意思を政治に反映させるには。
8	「権力分立」について	国家統治の基本原理としての「権力分立」について考える。
9	「個人の尊重」と「法の下の平等」について	人権保障の基にある「個人の尊重」の意義を考える。平等を実現するために必要なことは何かを探る。
10	「基本的人権」について（1）	人権の歴史的展開のなかで日本国憲法の基本的人権規定の意義をさぐる。人権と「公共の福祉」との関係について考える。
11	「基本的人権」について（2）	自由権をめぐる訴訟を検討し、人権の意義と現状の問題点を探る。
12	「基本的人権」について（3）	労働者の権利を中心に、社会権の意味と現状をさぐる。人権の発展についても考える。
13	「平和主義」について	憲法第 9 条の趣旨および意義をさぐり、平和をめぐる諸問題について考える。
14	まとめと憲法改正問題について	「立憲主義」「個人の尊重」について再考し、憲法改正問題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
①授業後に、講述内容を思い出しながら、テキスト（「講義レジュメ」）や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧めるが、授業において提示した問題について事前に予習してもらえれば、より効果的だろう。
②大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないでほしい。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを〝批判的に〟ながめ、かつ考察するということで、そのための〝訓練の場〟として本授業に臨んでほしいと思う。

【テキスト（教科書）】
「講義レジュメ（プリント）」および適宜配布する資料を使用。

【参考書】
上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①定期試験のみにより、レポートは課さない。その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点とする。
②定期試験前に「試験についての注意」文を「授業試験システム Hoppii」に載せるか、場合によっては、プリントにして配布するので、必ず目を通してほしい (授業中に事前に知らせる)。

【学生の意見等からの気づき】
「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【その他の重要事項】
授業中の私語は、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害 (聴講権の侵害)」となるゆえ。本科目は「教職課程」も兼ねているので、教師を目指す者はなおのこと講義に集中することは「基本のキ」と心得てほしい。

【Outline and objectives】
In each lecture we will learn the basic point of view about the relations between the law (especially the Constitution) and the state or society. So we will get the correct and basic understanding and also make sense of the Constitution and other laws.

LAW100LC

法学（日本国憲法）

浅野　毅彦

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法と国家・社会との関係、法の役割及び目的について、憲法（日本国憲法）を軸に学んでいく。憲法の目的や理念等を正確に把握し、憲法を中心とした法の基本的枠組みを理解する。

【到達目標】
日本国憲法を中心に、法についての基本的な理解を得ることとともに、社会に起きている問題を、法的に考え、解決する視点を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な事項の確認から授業をはじめ、法に関する基本的理解を正確に得られるようにすすめる。今日的な具体的な事件等を取り上げ、社会に起こっている問題に対する法による解決とは何か、問題点はないかを探っていく。授業においてはその都度質問をするので、積極的に答えてもらいたい。また、積極的に質問をしてもらいたい。それらを授業の展開に活かしていく。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	①法を学ぶ意義及び受講上の注意 ②法とは何か	①「法学」を履修する意義及び受講上の注意点等についての概要 ②　法とは何か、なぜ、法は必要なのか、社会生活における法の意味、法の機能を考える。
2	法と国家との関係について	法と強制、法と国家との関係、法の限界について考える。
3	法と「それ以外のルール」との関係について	法とその他の社会規範（道徳・慣習・宗教規範等）との関係、相違点を探る。
4	法の構造、法の機能の多元化について	法の構造と法の機能の多元化について、社会の変化と法との関係を探りながら考える。
5	「法の支配」と「立憲主義」について	「法の支配」とは何か、「立憲主義」との関係とは、憲法の基本的理念について歴史的に考える。
6	憲法の基本理念・原則について	「立憲主義」、「個人の尊重」を基にした憲法の基本原則を考える。
7	「国民主権」について	国の政治のあり方と主権者としての国民について考える－国民の意思を政治に反映させるには。
8	「権力分立」について	国家統治の基本原理としての「権力分立」について考える。
9	「個人の尊重」と「法の下の平等」について	人権保障の基にある「個人の尊重」の意義を考える。平等を実現するために必要なことは何かを探る。
10	「基本的人権」について（１）	人権の歴史的展開のなかで日本国憲法の基本的人権規定の意義をさぐる。人権と「公共の福祉」との関係について考える。
11	「基本的人権」について（２）	自由権をめぐる訴訟を検討し、人権の意義と現状の問題点を探る。
12	「基本的人権」について（３）	労働者の権利を中心に、社会権の意味と現状をさぐる。人権の発展についても考える。
13	「平和主義」について	憲法第 9 条の趣旨および意義をさぐり、平和をめぐる諸問題について考える。
14	まとめと憲法改正問題について	「立憲主義」「個人の尊重」について再考し、憲法改正問題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
①授業後に、講述内容を思い出しながら、テキスト（「講義レジュメ」）や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧めるが、授業において提示した問題について事前に予習してもらえれば、より効果的だろう。
②大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないでほしい。たしかに「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを〝批判的に〟ながめ、かつ考察するということで、そのための〝訓練の場〟として本授業に臨んでほしいと思う。

【テキスト（教科書）】
「講義レジュメ（プリント）」および適宜配布する資料を使用。

【参考書】
上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①定期試験のみにより、レポートは課さない。その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点とする。
②定期試験前に「試験についての注意」文を「授業試験システム Hoppii」に載せるか、場合によっては、プリントにして配布するので、必ず目を通してほしい (授業中に事前に知らせる)。

【学生の意見等からの気づき】
「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【その他の重要事項】
授業中の私語は、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害 (聴講権の侵害)」となるゆえ。本科目は「教職課程」も兼ねているので、教師を目指す者はなおのこと講義に集中することは「基本のキ」と心得てほしい。

【Outline and objectives】
In each lecture we will learn the basic point of view about the relations between the law (especially the Constitution) and the state or society. So we will get the correct and basic understanding and also make sense of the Constitution and other laws.

LAW100LC

法と社会

浅野　毅彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは、社会生活においてつねに法との関わりもっており、法的な意味を持たないものはないといえるほど、「法的な社会」に生きている。授業においては、法の意義、目的、社会と法との関係を確認しつつ、今日的な諸問題を素材として、社会に生起しているさまざまな問題に対する法的な視点からの分析、法による解決とその限界を探っていく。そのなかで、法に対する基本的理解と法的なものの考え方を身につける。

【到達目標】
社会における法の意義や役割、法の基本的な仕組みを理解する。具体的な問題に対する法的な解決を見ていく中で、多角的に問題点を探り、妥当な解決を図ることのできるリーガルマインド（法的思考力）を身につけることを目標とする。さらに、法に対する批判的視点を含め「法を見る目を養う」ことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業においては、法についての基礎的な事項を確認しつつ、今日的な問題を取り上げ、その問題の社会的背景を探りつつ、法的にどう考えるか、妥当な法的解決は何かを考えていく。毎回の授業の最後に、次回までに考えておくべき課題を提示する。毎回、課題についての意見を求めるので、積極的に発言をしてもらいたい。それを授業の展開に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	①法学を学ぶ意義、受講上の注意点 ②法 (または「ルール」) とは何か	①履修の意義、受講上の注意点について ②法 (ルール) はなぜあるのか、社会生活における法の意義・機能を考える
2	「校則」について	身近にあったルールである校則をめぐる問題について考える。校則問題を学校の現状や「子どもの権利」から考えてみる。
3	法とその他の「ルール」の関係と相違点	狭義の法 (法律) とその他の「ルール」（道徳、慣習等）との関係、相違を探る。その中で法の特質を考える。
4	「権利」と「義務」、日本人の法に対する態度	権利・義務関係（法関係）が成立するための前提を考える。日本人の法に対する考え方・対応を探る。
5	日本人の「法意識」	前回に続き、訴訟が少ない、権利主張をしないなど従来から指摘されている日本人の法への関わり方（権利意識・法意識・法行動）について考える。
6	「法の支配」と憲法の原点について	「法の支配」と憲法の意義、その特質を考える。
7	法的な紛争解決と裁判制度	法的な争いは、どのように解決されるのかを探る。
8	犯罪と法	罪刑法定主義の意義、死刑制度の存否について考える。「えん罪」事件について考える。
9	契約と法	契約はいつ成立するのか、どんな契約でも結べるのか、契約を守らなかったらどうなるのか等々、契約について考える。
10	労働・働き方と法	労働者は、法においてどう保護されているか、それはなぜか、労働者の権利と労働契約について考える。ブラックバイトを取り上げる。
11	社会保障と法	生活保護問題を中心に、社会保障に対する国の責務と国民の権利について考える。
12	家族と法	選択的夫婦別姓の問題などから、家族と法のあり方を考える。
13	情報社会と法	情報化の進展により様々な問題が起こってきているが、それに対してどのような法的対応がされているかを探る。
14	①情報社会と法（２） ②まとめ	①前回に続き、情報社会における問題点に関する法的対応とそこにおける課題について考える。 ②まとめとして、法を学ぶことの意味、リーガル・マインド (法的思考) について再考する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①「講義レジュメ」や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧める。また、毎回の授業の最後に提示する問題について自分なりに考えをまとめておくことを勧める。なお、予習・復習に要する時間はおおむね各 2 時間を標準としたい。
②「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを〝批判的に〟ながめ、かつ考察するということで、そのための〝訓練の場〟として本科目に臨んでほしい。

【テキスト（教科書）】
「講義レジュメ」および適宜上げる資料を使用。

【参考書】
上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、別途関連資料を上げる場合もある。

【成績評価の方法と基準】
①定期試験のみにより、レポートは課さない。その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。基本知識や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点対象とする。
②定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム Hoppii」に載せるか、場合によってはプリントにして配布するので、必ず目を通してほしい (授業中に事前に知らせる)

【学生の意見等からの気づき】
「本年度授業担当者変更により、フィードバックできません」

【その他の重要事項】
授業中の「私語」は認めない。他の聴講生にたいする「権利侵害 (聴講権侵害)」となるゆえ、「法学」の授業での権利侵害は断じて認められない。

【Outline and objectives】
Today we live in ‘the legal society’. Because law is everywhere around us.
And so many legal problems do concern each of us. In each lecture we will learn the fundamental way of thinking about the various ideas and concepts that underlie legal issues. And we will pursue how to solve the social problems by law.

LAW100LC

法と社会

浅野　毅彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは、社会生活においてつねに法との関わりもっており、法的な意味を持たないものはないといえるほど、「法的な社会」に生きている。授業においては、法の意義、目的、社会と法との関係を確認しつつ、今日的な諸問題を素材として、社会に生起しているさまざまな問題に対する法的な視点からの分析、法による解決とその限界を探っていく。そのなかで、法に対する基本的理解と法的なものの考え方を身につける。

【到達目標】
社会における法の意義や役割、法の基本的な仕組みを理解する。具体的な問題に対する法的な解決を見ていく中で、多角的に問題点を探り、妥当な解決を図ることのできるリーガルマインド（法的思考力）を身につけることを目標とする。さらに、法に対する批判的視点を含め「法を見る目を養う」ことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業においては、法についての基礎的な事項を確認しつつ、今日的な問題を取り上げ、その問題の社会的背景を探りつつ、法的にどう考えるか、妥当な法的解決は何かを考えていく。毎回の授業の最後に、次回までに考えておくべき課題を提示する。毎回、課題についての意見を求めるので、積極的に発言をしてもらいたい。それを授業の展開に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	①法学を学ぶ意義、受講上の注意点 ②法 (または「ルール」) とは何か	①履修の意義、受講上の注意点について ②法 (ルール) はなぜあるのか、社会生活における法の意義・機能を考える
2	「校則」について	身近にあったルールである校則をめぐる問題について考える。校則問題を学校の現状や「子どもの権利」から考えてみる。
3	法とその他の「ルール」の関係と相違点	狭義の法 (法律) とその他の「ルール」（道徳、慣習等）との関係、相違を探る。その中で法の特質を考える。
4	「権利」と「義務」、日本人の法に対する態度	権利・義務関係（法関係）が成立するための前提を考える。日本人の法に対する考え方・対応を探る。
5	日本人の「法意識」	前回に続き、訴訟が少ない、権利主張をしないなど従来から指摘されている日本人の法への関わり方（権利意識・法意識・法行動）について考える。
6	「法の支配」と憲法の原点について	「法の支配」と憲法の意義、その特質を考える。
7	法的な紛争解決と裁判制度	法的な争いは、どのように解決されるのかを探る。
8	犯罪と法	罪刑法定主義の意義、死刑制度の存否について考える。「えん罪」事件について考える。
9	契約と法	契約はいつ成立するのか、どんな契約でも結べるのか、契約を守らなかったらどうなるのか等々、契約について考える。
10	労働・働き方と法	労働者は、法においてどう保護されているか、それはなぜか、労働者の権利と労働契約について考える。ブラックバイトを取り上げる。
11	社会保障と法	生活保護問題を中心に、社会保障に対する国の責務と国民の権利について考える。
12	家族と法	選択的夫婦別姓の問題などから、家族と法のあり方を考える。
13	情報社会と法	情報化の進展により様々な問題が起こってきているが、それに対してどのような法的対応がされているかを探る。
14	①情報社会と法（２） ②まとめ	①前回に続き、情報社会における問題点に関する法的対応とそこにおける課題について考える。 ②まとめとして、法を学ぶことの意味、リーガル・マインド (法的思考) について再考する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①「講義レジュメ」や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧める。また、毎回の授業の最後に提示する問題について自分なりに考えをまとめておくことを勧める。なお、予習・復習に要する時間はおおむね各 2 時間を標準としたい。
②「覚えるべき基本知識」はあるが、強調したいのは、むしろ法というものを〝批判的に〟ながめ、かつ考察するということで、そのための〝訓練の場〟として本科目に臨んでほしい。

【テキスト（教科書）】
「講義レジュメ」および適宜上げる資料を使用。

【参考書】
上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、別途関連資料を上げる場合もある。

【成績評価の方法と基準】
①定期試験のみにより、レポートは課さない。その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。基本知識や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点対象とする。
②定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム Hoppii」に載せるか、場合によってはプリントにして配布するので、必ず目を通してほしい (授業中に事前に知らせる)

【学生の意見等からの気づき】
「本年度授業担当者変更により、フィードバックできません」

【その他の重要事項】
授業中の「私語」は認めない。他の聴講生にたいする「権利侵害 (聴講権侵害)」となるゆえ、「法学」の授業での権利侵害は断じて認められない。

【Outline and objectives】
Today we live in ‘the legal society’. Because law is everywhere around us.
And so many legal problems do concern each of us. In each lecture we will learn the fundamental way of thinking about the various ideas and concepts that underlie legal issues. And we will pursue how to solve the social problems by law.

BSP100LC

科学技術史

馬場　敏幸

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の到達目標及びテーマ 本講義では科学技術の歴史について、西洋近代科学の発祥・発展を主に学ぶ。受講者は科学技術がどのように誕生し、受け継がれ、近代に至ってきたのかについての大きな流れを理解してほしい。

【到達目標】
本講義では、紀元前から近代までの科学技術の変遷を学ぶ。科学技術はあるきっかけで誕生し、変遷、転用、融合を経て進化し、受け継がれる。そうした経緯について、西洋の事例を中心に、古代、中世、近代の例を題材に学ぶ。科学技術のさまざまな着想と発明・発見の背景、そして「常識」の危うさ、もろさ。疑問を持つことの重要性についても知見を深めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
コロナの影響を鑑み、現状の所、基本的にオンデマンド開催の可能性がある。必要に応じ Zoom による講義も行う予定である。また、課題で提出されたレポートのうち幾つかを取り上げ、オンデマンド講義や Zoom 講義で紹介、説明、補足、ディスカッションなどを行うことを考えている。
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方　序論
2	はじまり	道具の使用と農業の開始
3	古代	古代都市国家の形成と技術の芽生え
4	ギリシア１	科学思想の芽生え
5	ギリシア２	科学思想体系の確立
6	アレクサンドリア１	エラトステネス・アルキメデスら
7	アレクサンドリア２	三大機械技師
8	ローマ	建築技術の発展など
9	中世ヨーロッパ１	古代科学技術の衰退と復古
10	中世ヨーロッパ２	スコラ学形成と大学の誕生
11	ルネッサンス	ダビンチによる様々な発明
12	科学革命１	コペルニクスによる地動説仮説
13	科学革命２	ブラーエとケプラーによる惑星運動理論
14	科学革命３	ガリレイ、ニュートン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業の復習、関連するニュースに興味を持つ。

【テキスト（教科書）】
提示参考書のうち主に次の二冊の内容に準拠して講義を行う。村上陽一郎『西欧近代科学』新曜社、中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社

【参考書】
村上陽一郎『西欧近代科学』新曜社、中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社、フォーブス『古代の技術史』朝倉書店、小山慶太『科学史年表』中公新書、クーン（中山訳）『科学革命の構造』、ランデルズ（宮城訳）『古代のエンジニアリング』地人書館、荒井ら編『産業革命の技術』有斐閣、加茂儀一編『技術の歴史』毎日ライブラリ、学研図鑑『発明・発見』、その他

【成績評価の方法と基準】
コロナによりオンデマンド講義になった場合は、オンデマンドの中で課題を課し、その課題の提出状況、および課題の内容に基づき成績評価（100 %）を行うことを考えている。コロナがおさまり、通学が基本となった場合は定期試験による評価もあり得る。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容や授業の進め方などについて質問・連絡方法に戸惑う学生がいた。教員・受講生双方向のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。他方、個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

【学生が準備すべき機器他】
オンデマンド開催の場合 PC を強く推奨するが、スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】
Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつかってください。

【Outline and objectives】
In this class, you learn the history of a science and a technology. You should understand the main current of how a science and a technology was born, inherited and changed from an ancient age until a modern age.

BSP100LC

科学技術史

馬場　敏幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業の到達目標及びテーマ 本講義では科学技術の歴史について、西洋近代科学の発祥・発展を主に学ぶ。受講者は科学技術がどのように誕生し、受け継がれ、近代に至ってきたのかについての大きな流れを理解してほしい。

【到達目標】
本講義では、紀元前から近代までの科学技術の変遷を学ぶ。科学技術はあるきっかけで誕生し、変遷、転用、融合を経て進化し、受け継がれる。そうした経緯について、西洋の事例を中心に、古代、中世、近代の例を題材に学ぶ。科学技術のさまざまな着想と発明・発見の背景、そして「常識」の危うさ、もろさ。疑問を持つことの重要性についても知見を深めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
コロナの影響を鑑み、現状の所、基本的にオンデマンド開催の可能性がある。必要に応じ Zoom による講義も行う予定である。また、課題で提出されたレポートのうち幾つかを取り上げ、オンデマンド講義や Zoom 講義で紹介、説明、補足、ディスカッションなどを行うことを考えている。
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方　序論
2	はじまり	道具の使用と農業の開始
3	古代	古代都市国家の形成と技術の芽生え
4	ギリシア１	科学思想の芽生え
5	ギリシア２	科学思想体系の確立
6	アレクサンドリア１	エラトステネス・アルキメデスら
7	アレクサンドリア２	三大機械技師
8	ローマ	建築技術の発展など
9	中世ヨーロッパ１	古代科学技術の衰退と復古
10	中世ヨーロッパ２	スコラ学形成と大学の誕生
11	ルネッサンス	ダビンチ
12	科学革命１	コペルニクス
13	科学革命２	ブラーエとケプラー
14	科学革命３	ガリレイ・ニュートン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業の復習、関連するニュースに興味を持つ。

【テキスト（教科書）】
提示参考書のうち主に次の二冊の内容に準拠して講義を行う。村上陽一郎『西欧近代科学』新曜社、中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社

【参考書】
村上陽一郎『西欧近代科学』新曜社、中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社、フォーブス『古代の技術史』朝倉書店、小山慶太『科学史年表』中公新書、クーン（中山訳）『科学革命の構造』、ランデルズ（宮城訳）『古代のエンジニアリング』地人書館、荒井ら編『産業革命の技術』有斐閣、加茂儀一編『技術の歴史』毎日ライブラリ、学研図鑑『発明・発見』、その他

【成績評価の方法と基準】
コロナによりオンデマンド講義になった場合は、オンデマンドの中で課題を課し、その課題の提出状況、および課題の内容に基づき成績評価（100 %）を行うことを考えている。コロナがおさまり、通学が基本となった場合は定期試験による評価もあり得る。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容や授業の進め方などについて質問・連絡方法に戸惑う学生がいた。教員・受講生双方向のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。他方、個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行う可能性が高いので、PC の使用を強く薦める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】
Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつかってください。

【Outline and objectives】
In this class, you learn the history of a science and a technology. You should understand the main current of how a science and a technology was born, inherited and changed from an ancient age until a modern age.

BSP100LC

先端技術・社会論

原　昌己

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会から強く求められる「イノベーションを起こす人材」の要件を学ぶ。
「先端技術、技術革新とそれによる社会の変革」（イノベーション）は、どのような過程を通じて生み出され社会に広がっていくのか、そのために必要となる力はどのようなものなのか。
イノベーションの面白さを知り、誰もがイノベータになれる可能性があることに気づくとともに、演習を通じて「新たなモノ」を生みだすための方法を学ぶ。

【到達目標】
(1) イノベーションのプロセスと、そのために必要となる力を知る。
(2) イノベーションを起こす人材に必要となる力、習慣、その基本を知る。
(3) 各人の専門の力（今後学ぶことも含む）を使って、将来何を実現したいのかを考え、整理し、まとめる。
(4) 新たな製品や仕組みを「企画」する方法を知る。
(5) グループでの「企画」作りの演習を通じて、チームで成果を出すための方法、そのためのコミュニケーション、ディスカッションの方法、プレゼンテーションの方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。
・随時、簡易な課題を設け、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

前半は映像資料による事例紹介。
イノベーションが起こる場面、その発展の事例を通して、そのプロセス、要件、そしてその面白さを知る。
全学部、全学年の学生が興味・関心を持てる事例をピックアップ。
過年度は以下など、様々な分野に渡るテーマを取り上げた。
・電話からトランジスタ、そしてパソコンへ
（米国ベル研究所、黎明期の Apple 社など）
・量子コンピュータの可能性
・DNA シーケンサ
・カーボンナノチューブ
・iPS 細胞　他

中盤では「イノベーションに必要となる力」の要点を解説。
ＰＤＣＡ、思考力・発想力、コミュニケーション力、他。
演習を通じて体感するとともに、簡易な診断テストで各自の強み・弱みを考える機会を設ける。
「社会で求められる人材要件」とも共通する内容であり、１，２年生にとっては大学で学ぶための基本的な姿勢作り、３，４年生にとっては就職に向けた準備としても有効。

後半はグループワークにより、チームでの「新たなモノ」の企画に取り組む。
さまざまな専門分野のメンバーでのディスカッションを通じて「新たなモノ」を考案、アイデアを結集し「企画」としてまとめるための方法を学ぶ。
過年度では以下などの斬新な企画、イノベーション案が考案された。
・外国人旅行者をサポートする交通・IT インフラ
・ATP（アデノシン３リン酸）を活用した新エネルギー自動車
・地域を活性化する食物工場
・人工知能による痴呆防止システム

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーションの必要性	イノベーションとは何か、その必要性、プロセス、そのために必要となる力など、本授業を通じて学ぶことの概要を知る。
第 2 回	イノベーション事例１	イノベーションの事例１～４では、過去の事例の映像資料を視聴。 事例１として、電話の発明と普及（予定） 米国・ベル研究所等
第 3 回	イノベーション事例２ 近年のイノベーション	パソコンの発明と普及（予定） Apple 社・Steve Jobs vs Microsoft 社・Bill Gates
第 4 回	イノベーション事例３ 現代のイノベーション	近年の事例、研究途上の事例。 量子コンピュータ、等（予定）
第 5 回	イノベーション事例４ 日本の現状と課題	日本発のイノベーション。 光触媒、カーボンナノチューブ、DNA シーケンサ等（予定）
第 6 回	イノベーションに必要となる力	イノベーションを起こす人材になるために必要となる力、習慣、心構えを学ぶ。
第 7 回	PDCA （plan,do,check,act)	社会での活動の基本となる行動様式、「PDCA」を学ぶ。
第 8 回	思考法	代表的な思考方法として、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ラテラルシンキングを学ぶ。
第 9 回	コミュニケーション/グループでの思考法	コミュニケーションの方法、グループでの思考方法、ディスカッションの方法を学ぶ。
第 10 回	グループワーク１	第 10 回～第 12 回を通じて、「新たな商品・サービス」(予定）をテーマとして、グループで企画を立案する。
第 11 回	グループワーク２	課題を設定し、課題に対する解決策を検討する。
第 12 回	グループワーク３	まとめ、ならびにプレゼンテーションの準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーション	チームごとにプレゼンテーションを行い、相互に評価する。
第 14 回	試験・まとめと解説	学習した成果に基づき、新たな製品・サービスの企画を小論文としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・新たな商品やサービス、社会の動きに対する関心を高め、さまざまな情報収集に努めること。その上で、各自が将来、社会で何をやりたいのか、何を実現したいのか考えること。
・上記などを含めた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、全体で２時間程度を見込む。

【テキスト（教科書）】
なし。各回で資料を配布。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
１）期末、小論文。（50%）
２）グループでのプレゼンテーション。（25%）
３）平常点。（25%）

【学生の意見等からの気づき】
演習を随所に取り入れ、体感的な学びを重視。

【Outline and objectives】
In this course, students learn the requirements of 'human resources who bring innovation' strongly demanded by society.
What process will innovation be created and spread to society? What kind of ability is necessary for that?
Students learn about the fun of innovation, realize that everyone is likely to become an innovator, and learn and practice to create "new things" through exercises.

BSP100LC

先端技術・社会論

原　昌己

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会から強く求められる「イノベーションを起こす人材」の要件を学ぶ。
「先端技術、技術革新とそれによる社会の変革」（イノベーション）は、どのような過程を通じて生み出され社会に広がっていくのか、そのために必要となる力はどのようなものなのか。
イノベーションの面白さを知り、誰もがイノベータになれる可能性があることに気づくとともに、演習を通じて「新たなモノ」を生みだすための方法を学ぶ。

【到達目標】
(1) イノベーションのプロセスと、そのために必要となる力を知る。
(2) イノベーションを起こす人材に必要となる力、習慣、その基本を知る。
(3) 各人の専門の力（今後学ぶことも含む）を使って、将来何を実現したいのかを考え、整理し、まとめる。
(4) 新たな製品や仕組みを「企画」する方法を知る。
(5) グループでの「企画」作りの演習を通じて、チームで成果を出すための方法、そのためのコミュニケーション、ディスカッションの方法、プレゼンテーションの方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。
・随時、簡易な課題を設け、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

前半は映像資料による事例紹介。
イノベーションが起こる場面、その発展の事例を通して、そのプロセス、要件、そしてその面白さを知る。
全学部、全学年の学生が興味・関心を持てる事例をピックアップ。
過年度は以下など、様々な分野に渡るテーマを取り上げた。
・電話からトランジスタ、そしてパソコンへ
（米国ベル研究所、黎明期の Apple 社など）
・量子コンピュータの可能性
・DNA シーケンサ
・カーボンナノチューブ
・iPS 細胞　他

中盤では「イノベーションに必要となる力」の要点を解説。
ＰＤＣＡ、思考力・発想力、コミュニケーション力、他。
演習を通じて体感するとともに、簡易な診断テストで各自の強み・弱みを考える機会を設ける。
「社会で求められる人材要件」とも共通する内容であり、１，２年生にとっては大学で学ぶための基本的な姿勢作り、３，４年生にとっては就職に向けた準備としても有効。

後半はグループワークにより、チームでの「新たなモノ」の企画に取り組む。
さまざまな専門分野のメンバーでのディスカッションを通じて「新たなモノ」を考案、アイデアを結集し「企画」としてまとめるための方法を学ぶ。
過年度では以下などの斬新な企画、イノベーション案が考案された。
・外国人旅行者をサポートする交通・IT インフラ
・ATP（アデノシン３リン酸）を活用した新エネルギー自動車
・地域を活性化する食物工場
・人工知能による痴呆防止システム
春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーションの必要性	イノベーションとは何か、その必要性、プロセス、そのために必要となる力など、本授業を通じて学ぶことの概要を知る。
第 2 回	イノベーション事例１	イノベーションの事例１～４では、過去の事例の映像資料を視聴。 事例１として、電話の発明と普及（予定） 米国・ベル研究所等
第 3 回	イノベーション事例２ 近年のイノベーション	パソコンの発明と普及（予定） Apple 社・Steve Jobs vs Microsoft 社・Bill Gates
第 4 回	イノベーション事例３ 現代のイノベーション	近年の事例、研究途上の事例。 量子コンピュータ、等（予定）
第 5 回	イノベーション事例４ 日本の現状と課題	日本発のイノベーション。 光触媒、カーボンナノチューブ、DNA シーケンサ等（予定）
第 6 回	イノベーションに必要となる力	イノベーションを起こす人材になるために必要となる力、習慣、心構えを学ぶ。
第 7 回	PDCA （plan,do,check,act）	社会での活動の基本となる行動様式、「PDCA」を学ぶ。
第 8 回	思考法	代表的な思考方法として、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ラテラルシンキングを学ぶ。
第 9 回	コミュニケーション/グループでの思考法	コミュニケーション、グループでの思考方法、ディスカッションの方法を学ぶ。
第 10 回	グループワーク１	第 10 回～第 12 回を通じて、「新たな商品・サービス」(予定）をテーマとして、グループで企画を立案する。
第 11 回	グループワーク２	課題を設定し、課題に対する解決策を検討する。
第 12 回	グループワーク３	まとめ、ならびにプレゼンテーションの準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーション	チームごとにプレゼンテーションを行い、相互に評価する。
第 14 回	試験・まとめと解説	学習した成果に基づき、新たな製品・サービスの企画を小論文としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・新たな商品やサービス、社会の動きに対する関心を高め、さまざまな情報収集に努めること。
その上で、各自が将来、社会で何をやりたいのか、何を実現したいのか考えること。
・上記などを含めて、本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、全体で２時間程度を見込む。

【テキスト（教科書）】
なし。各回で資料を配布。

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
以下を予定しているが、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
期末、小論文。(50%)
グループでのプレゼンテーション。(予定）(25%)
平常点 (随時のレポート等)。(25%)

【学生の意見等からの気づき】
演習を随所に取り入れ、体感的な学びを重視。

【Outline and objectives】
In this course, students learn the requirements of 'human resources who bring innovation' strongly demanded by society.
What process will innovation be created and spread to society? What kind of ability is necessary for that?
Students learn about the fun of innovation, realize that everyone is likely to become an innovator, and learn and practice to create "new things" through exercises.

BSP100LC

技術者倫理

詫間　直樹

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本キャンパスの学生は将来、技術者として或るいは技術に関連する人材として、様々な倫理的問題に直面することが予想される。本授業は、さまざまな状況において発生する倫理的問題に取り組む能力を涵養するため、重要概念と事例に接し、理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
(1) 技術にまつわる倫理的問題にどのようなものがあるかを知る。
(2) 上記の倫理的諸問題に取り組むにあたって有用な概念や考え方について学ぶ。
(3) 上記の概念や考え方を用いて様々な事例を理解し論じる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講師が準備したオリジナル・コンテンツ（スライドや配付資料）を用いて授業を行う。適宜、ビデオや動画を観てもらう。
また、毎回の授業の終わりに、リアクションペーパーに感想・意見・質問を記入し提出してもらう。重要なコメントや質問に対しては翌週に回答するなどして、双方向性を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	ガイダンスおよびイントロダクション	授業の進め方、授業の目的・到達目標、成績評価方法などについて説明する。 また、イントロダクションとして、「倫理学とはどのようなものか」「なぜ技術 (者) 倫理なのか」といった基本事項について解説する。
第 2 週	スペースシャトル・チャレンジャー号事故とその教訓（1）	スペースシャトル・チャレンジャー号事故に関する社会学者 D. Vaughan による分析をベースとし、技術的・倫理的な教訓を学ぶ。
第 3 週	スペースシャトル・チャレンジャー号事故とその教訓（2）	「例外的状況」における権力関係の顕在化と、その対策としての専門職倫理規定および高信頼性組織について解説する。
第 4 週	立証責任と事前警戒原則 — 水俣病を例に —	事故や災害が起こるかメカニズムがよく分かっていない場合、事故・災害が発生する可能性を指摘することと、証拠を十分に揃えて立証するのとでは、費やす労力が全然違う。不確実な状況下における立証責任について、水俣病を例に引きつつ解説する。
第 5 週	ユニバーサル・デザイン — 倫理を予めデザインに埋め込む —	「ユニバーサル・デザイン」は、障害者にとっての障壁を撤廃するという倫理的・政治的意図を予めデザインに組み込むことを提案している。ユニバーサル・デザインの 7 原則と倫理性、ユニバーサル・デザインの事例、米国のユニバーサル・デザインと日本のバリアフリーデザインの違い、などについて学ぶ。
第 6 週	アーキテクチャーの権力	ユニバーサル・デザインと関連したトピックとして、「アーキテクチャの権力」について学ぶ。人工物のアーキテクチャに、人種差別などの政治的意図が埋め込まれていることがある。そのような事例を紹介しつつ、倫理的側面を考察する。
第 7 週	内部告発の指針	ある調査では、過去 5 年間に不正を知ったことがあったかという問いに対して、約 20%の人が「あった」と答えている。つまり、学生諸君が将来就職して不正に遭遇する確率は思いのほか高い。そんなときのために、不正を告発するための指針や関連する制度や法令を学ぶ。
第 8 週	情報倫理（1）情報技術と著作権	情報技術は、最も変化の早い技術であり、それに対応する倫理学がまだ構築できていないのが現状である。従って、個々の問題ごとに倫理を考えていくしかない。今回は著作権の問題を扱い、瞬時に大量の情報を複製・伝達する技術の発達に対して、倫理 (学) がどう対処できるかを検討する。
第 9 週	情報倫理（2）「ウィキリークス」の教訓、表現の自由、情報公開	インターネットの発達は、表現の自由といった基本理念にも再検討を迫りつつある。ウィキリークスの事件を例にとり、情報化時代の倫理について考える。併せて、情報公開のあり方についても考察する。
第 10 週	生命倫理	iPS 細胞や遺伝子治療技術の出現によって、生命科学は人間観を変えてしまう程の影響力を持つに至った。この分野でも、やはり、倫理学の構築は科学技術の発達に追いついていない。そうした現状について解説する。
第 11 週	環境倫理（1）	地球全体主義（地球有限主義）について学ぶ。すなわち、地球のリソースが有限であることと、環境負荷の影響関係がグローバル化していることについて学ぶ。
第 12 週	環境倫理（2）	世代間倫理（100 年後・1 万年後の環境に責任を持つか）、自然に生存権を認めるか、レオポルドの土地倫理、ほか。

第 13 週	環境倫理（３） 事例学習：「気候変動問題に関する科学的根拠、政治的事情および技術者倫理の観点からの吟味」	2015 年 12 月、国連気候変動枠組条約の締約国がパリ協定を締結し、各国が温室効果ガス排出量の大胆な削減に取り組むことになった。気候変動の問題には、科学的根拠の信頼性、技術的実現可能性、政治的な事情、ESG 投資等の倫理的制度といった諸要因が絡み合っており、環境倫理と技術者倫理の事例として興味深い。できるだけ正確かつ分かりやすく解説する。
第 14 週	技術者倫理教育の由来	そもそもなぜ「技術者倫理」のような科目が大学で講義されるようになったのか、本科目のルーツを解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】すでに説明したことは理解している前提で講義を進めていくので、授業が一回終わるたびに、次の授業回までによく復習をしておくこと。授業中に、さらに進んで学習するための参考文献やウェブサイトを紹介する。学生の皆さんには、授業で興味をもったことや疑問に思ったことについて、自分で調べることを強く推奨する。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
参考書はとくに指定しないが、必要に応じて参考になる文献やウェブサイトを授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30%）：毎回の授業の終了後に hoppii に提出してもらうリアクションペーパーをもとに評価する。
中間レポート（20%）：身の周りにある、ユニバーサル・デザインとアーキテクチャの権力の事例を探し、レポートしてもらう。
期末試験（50%）：今学期講義した内容全般について筆記試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】
アーキテクチャーの権力に関する授業で、事例の範囲を広げた（Web デザインやお店における展示の仕方など）が、中間レポートでそれらの事例を報告してくれた学生も複数おり、授業中に採り上げた甲斐があった。

【Outline and objectives】
Many of the students of Faculty of Science and Engineering will face various ethical problems as an engineer or as a staff related to engineering. This course aims at nurturing students' capability to cope with such ethical problems, by providing typical examples in engineering ethics, together with conceptual frameworks to understand and tackle them.

BSP100LC

情報倫理

笹原　和織

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では現代の「情報社会」を成立させている「インターネット」とそれを利用する我々の行動全般を視野に入れ、君たちが当たり前に感じているそれらの「光」の部分と共に、その「影」の部分を十分に理解し、まず何が「問題」であるのかを抽出し、その「問題」に対処する方法を共に考えてみたい。

【到達目標】
現状を肯定するだけでなく「問題を発見」すると同時に、その解決に向けた諸状況を理解し、整理すること。さらにはより良い「社会的な解決方法」を見出し、それが何故かを説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
昨年度は新型コロナ感染対策のため Web 講義主体となりました。見通しの取れない中ですが、この講義も当面リモートでの講義となります。
事前に課題を配信し、それをめぐってのレポートなどのやりとりが中心になります。
当初内容は情報環境をめぐる倫理的な諸課題についての講義が中心になりますが、後半の個々の事例／具体的な問題に関しては、共に考えていきたい。「何故？ どうして？ どうすれば？」を徹底的に考えてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報倫理序論 I	まずはこの講義の目的と進行方向などを「講義ガイダンス（この資料）」として説明。 「情報」とは何か? 「倫理」とは何か? について考えてみよう。 倫理学の中での「情報倫理」の位置づけ、「ネチケット」と「情報倫理」の関係など。
第 2 回	情報倫理序論 II	「情報倫理」とは何か。どんなものがそうであり、その必要性と位置付けについて。
第 3 回	情報社会の規制要因 I ルールについて	行為規範の意味やそれをあつかう際の注意点など。
第 4 回	情報社会の規制要因 II 規範の種別	様々にある規範・ルールの種別を分別してみる。
第 5 回	情報社会の規制要因 III レッシグの社会規制図式	情報環境を規制するものを整理して理解する。
第 6 回	法的規制の重要性	様々な規制要素の検討から「法」の持つ役割や重要性を確認する。
第 7 回	法的規制 I 前提：刑罰と損害賠償請求	「法的問題になる」とはどういうことか。特に「刑罰」と「損害賠償請求」の違いについて。
第 8 回	法的規制 II 刑罰的規制について	刑罰的規制について、利用者と管理者の違いを視野に入れつつ考える。
第 9 回	法的規制 III 民法的な規制について	民法的な規制について、使用者と管理者の立場を意識しつつ考える。
第 10 回	法的規制 IV 「著作権」と「プライバシー」問題	インターネット利用環境での著作権とプライバシーのあり方および、今までに整理した法的枠組みの関係性を理解する。
第 11 回	「倫理学」の基礎理論 I	コミュニケーションにおける根本的な問題が何かを考えてみる。
第 12 回	「倫理学」の基礎理論 II	倫理学的な基礎概念の紹介と、現代への応用の可能性を検討する。
第 13 回	事例研究・発表	みなさんに具体的問題を挙げてもらい、共に考えてみたい。
第 14 回	ブログや Facebook、Line などの SNS	ブログや SNS を利用して、他者批判・企業業批判や社会批判を行うことの重み、代償を身近な事例で考えてみたい。特にその中毒性の問題など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で取り扱うテーマ、個人情報保護、機密情報保護、著作権、先端的情報技術等に関する倫理問題や情報技術にまつわる時事問題に関して、日ごろからの新聞、ネット報道に注意すること。
興味のある課題から、レポートのテーマを選択させる。

【テキスト（教科書）】
講義用資料は、講義時に随時提供する。
使用環境については、大学の提供する Web システムを利用する予定。

【参考書】
ローレンス・レッシグ『コード』
近藤勲編著『情報と職業』(丸善)
水谷雅彦、越智貢、土屋俊編著『情報倫理の構築』（新世社）
デボラ・ジョンソン著、水谷他監訳『コンピュータ倫理学』(オーム社)

【成績評価の方法と基準】
講義の各回の終了後に課題を設定し、その評価をもって成績評価としたい。課題提出には一定の期間を設け、期間外の提出は認めないことで計画的な学習の補助としたい。
講義の出席率は課題の提出割合とする。
講義内発表やレポート提出のある場合は、出席率を前提としてその評価を課題提出に伴う評価に加え、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生と共に、現代的課題について考えていきたい。特定の解答を要求してはいない。そこに至るまでの思考過程と、どれだけ広く深く考え抜くのかが大切。積極的な発言を求めたい。

【Outline and objectives】
In this lecture, we analyze the behavior in the Internet which constitutes the information society. And we must understand deeply the merits and demerits that are now commonplace, and think about how we deal with that problems.

BSP100LC

環境と資源

中嶋　吉弘

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球で大繁栄している人類が今後も生存するには資源、エネルギー、環境保全などに対するルールが必要になって来ている。なぜ循環型社会の構築が必要なのか地球の成り立ち、太陽光を唯一のエネルギー源とした自然環境を説明しながら理解を深めたい。

【到達目標】
地球環境は閉鎖系で原則として元素の増減は無く、物質も出入りしない事の理解を得る。限り有る資源の活用にはルールが必要でフェアーでなければならない。太陽光を原点とした自然エネルギーの有効利用は環境保全や永続性の観点からも必須である事を確認します。研究開発がどのように我々の生活に結びつくのか？　環境化学（科学）に興味を持てる様にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
環境問題や資源枯渇の問題が注目されているが、これらの問題が必ずしも一般の人々に正しく理解されているとは言えないのが現実である。この講義では環境問題やエネルギー、資源等の問題について、理科系の学部学生として最低限知っておく事が望ましい知識を伝えるとともに、これらの社会的な問題に対して問題意識を持つきっかけとなる様な機会を作る事をねらいとします。課題などに対しては学習支援システムなどを用いてフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当講師の自己紹介と本講義の概要、これまでの研究内容と成果の紹介などを話ながら、今後の授業方針を告知します。
第 2 回	地球科学の基礎	我々人類は地球上で誕生し、進化を経て地球環境の恩恵と受ける一方で、様々な問題を引き起こしています。第２回では原始地球の誕生から生物の進化、人類の誕生に至る現在の地球を取り巻く環境を、『大気』・『水域』・『土壌』の観点から講義します。
第 3 回	生態系と物質循環	第２回に引き続き、第３回では地球環境の現状について、『生態系』と『物質循環』の観点を加えて、生物と物質の交換を講義します。
第 4 回	環境保護と環境基準	科学技術の発展は人類の生活を豊かにする一方で、多くの環境および資源に関する問題を生み出しています。第４回では環境問題の歴史を振り返りながら、人類と環境汚染・環境保護・健康影響について講義します。
第 5 回	温室効果気体と気候変動	現在最も解決すべき環境問題として、温室効果気体の増加とそれに伴う気候変動が挙げられます。第５回では温室効果気体に関します基本的な科学的知見と気候変動に関します状況について講義します。
第 6 回	オゾン層破壊とオゾンホール	オゾン層破壊は国際的な枠組みが定められた大気環境学のモデルケースです。第６回ではオゾン層破壊のメカニズムとオゾンホールの発生過程、国際的な枠組みである『モントリオール議定書』とオゾン層の現状について講義します。
第 7 回	大気汚染と生態系への影響	『光化学オキシダント』や『PM2.5 問題』、『酸性雨』などの大気汚染は我々が最も身近に接してきた環境問題です。第７回ではこれら大気汚染問題の基礎と現状、生態系への影響（第３－４回と一部重複）を講義します。
第 8 回	マイクロプラスチック汚染と POP	最近マイクロプラスチック汚染が最近の環境問題として警鐘を鳴らし、これを受けてプラスチックの削減運動が進められています。第８回では『マイクロプラスチック』とは何か、なぜ発生しますのか、何が問題なのか、そしてマイクロプラスチック削減運動の現状を講義します。
第 9 回	資源の有効利用	人類は地球上の様々な資源を活用することで発展を遂げ、一方で環境問題を引き起こしています。第９回では人類の歴史を振り返りながら、人類が活用している、または今後活用が期待されている様々な資源について講義します。
第 10 回	化石燃料の今昔と新規燃料	２１世紀においても人類は多くの石油や石炭を使用し、さらに『シェールガス』や『メタンハイドレート』などの新規の化石燃料の利用を模索しています。第１０回では従来の石油石炭に加え、シェールガスやメタンハイドレートなどの化石燃料の基礎と問題点、そして近年盛んに利用されているバイオ燃料、木質バイオマス発電や水素の利用について講義します。
第 11 回	非化石燃料によるエネルギー獲得の現状	オイルショック以来、わが国ではエネルギー資源に関する議論が現在も続けられています。また世界に目を向けると、温室効果気体の増加に伴う脱炭素社会の行動が要求されています。第１１回では太陽光や風力、地熱などの発電および、燃料電池、原子力発電の仕組みと問題点を考えていきます。

第12回　ゴミ問題とリサイクル　『ゴミ問題』は特に大都市における最も身近な環境問題であり、その解決としてのゴミの『リサイクル』が大きな課題になっています。第１２回ではゴミ処理とリサイクルに関する基礎と現状について講義します。

第13回　バイオマスの有用性　マイクロプラスチック問題の解決策の一つとして、『紙製品』の有効利用が模索されています。また化石燃料使用による温室効果気体の増加に対する解決策の一つとして、木質資源によるバイオ燃料獲得が議論されています。本講義では環境と資源の問題の解決策として有望視されている紙や木材などの『バイオマス』や、微生物の有効利用について講義する。

第14回　『環境と資源』まとめ　第２～１３回にかけて、環境と資源に関する現状と問題点および解決策について講義してきた。第１４回では総仕上げとして、人類をとりまく環境および資源に関する諸問題について振り返り、現状で議論されている解決策についてその有用性と今後起きる可能性がある問題点などを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
特に興味あるテーマに関しては授業の参考になるレベルまで学習し、授業時間内または終了後に質問する事。さらに、授業終了後自由に担当教員に議論を持ちかけるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

『環境化学（科学）』や『地球科学（化学）』に関する教科書であれば参考になります。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績に平常点を考慮して評価します。
具体的には試験の成績が基本であるが平常点も参考にする場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学部／学科の学生が参加する講義です。多人数の時は教員の声が聞きにくい、黒板の字が見えにくい等有りますが積極的に前方で講義を受ける事をお勧めします。最新のニュースや物理および化学に関する基礎知識などで（一見すると）本題から外れる事が有りますが、可能な限り簡潔にまとめるようにします。

【Outline and objectives】

This course will introduce basic knowledge of the changes in the natural environment. It will also introduce natural resources that are on the earth which humans use.

BSP100LC

環境と資源

中嶋　吉弘

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球で大繁栄している人類が今後も生存するには資源、エネルギー、環境保全などに対するルールが必要になって来ている。なぜ循環型社会の構築が必要なのか地球の成り立ち、太陽光を唯一のエネルギー源とした自然環境を説明しながら理解を深めたい。

【到達目標】
地球環境は閉鎖系で原則として元素の増減は無く、物質も出入りしない事の理解を得る。限り有る資源の活用にはルールが必要でフェアーでなければならない。太陽光を原点とした自然エネルギーの有効利用は環境保全や永続性の観点からも必須である事を確認します。研究開発がどのように我々の生活に結びつくのか？　環境化学（科学）に興味を持てる様にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
環境問題や資源枯渇の問題が注目されているが、これらの問題が必ずしも一般の人々に正しく理解されているとは言えないのが現実である。この講義では環境問題やエネルギー、資源等の問題について、理科系の学部学生として最低限知っておく事が望ましい知識を伝えるとともに、これらの社会的な問題に対して問題意識を持つきっかけとなる様な機会を作る事をねらいとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当講師の自己紹介と本講義の概要、これまでの研究内容と成果の紹介などを話ながら、今後の授業方針を告知します。
第 2 回	地球科学の基礎	我々人類は地球上で誕生し、進化を経て地球環境の恩恵と受ける一方で、様々な問題を引き起こしています。第２回では原始地球の誕生から生物の進化、人類の誕生に至る現在の地球を取り巻く環境を、『大気』・『水域』・『土壌』の観点から講義します。
第 3 回	生態系と物質循環	第２回に引き続き、第３回では地球環境の現状について、『生態系』と『物質循環』の観点を加えて、生物と物質の交換を講義します。
第 4 回	環境保護と環境基準	科学技術の発展は人類の生活を豊かにする一方で、多くの環境および資源に関する問題を生み出しています。第４回では環境問題の歴史を振り返りながら、人類と環境汚染・環境保護・健康影響について講義します。
第 5 回	温室効果気体と気候変動	現在最も解決すべき環境問題として、温室効果気体の増加とそれに伴う気候変動が挙げられます。第５回では温室効果気体に関します基本的な科学的知見と気候変動に関します状況について講義します。
第 6 回	オゾン層破壊とオゾンホール	オゾン層破壊は国際的な枠組みが定められた大気環境学のモデルケースです。第６回ではオゾン層破壊のメカニズムとオゾンホールの発生過程、国際的な枠組みである『モントリオール議定書』とオゾン層の現状について講義します。
第 7 回	大気汚染と生態系への影響	『光化学オキシダント』や『PM2.5 問題』、『酸性雨』などの大気汚染は我々が最も身近に接してきた環境問題です。第７回ではこれら大気汚染問題の基礎と現状、生態系への影響（第３－４回と一部重複）を講義します。
第 8 回	マイクロプラスチック汚染と POP	最近マイクロプラスチック汚染が最近の環境問題として警鐘を鳴らし、これを受けてプラスチックの削減運動が進められています。第８回では『マイクロプラスチック』とは何か、なぜ発生しますのか、何が問題なのか、そしてマイクロプラスチック削減運動の現状を講義します。
第 9 回	資源の有効利用	人類は地球上の様々な資源を活用することで発展を遂げ、一方で環境問題を引き起こしています。第９回では人類の歴史を振り返りながら、人類が活用している、または今後活用が期待されている様々な資源について講義します。
第 10 回	化石燃料の今昔と新規燃料	２１世紀においても人類は多くの石油や石炭を使用し、さらに『シェールガス』や『メタンハイドレート』などの新規の化石燃料の利用を模索しています。第１０回では従来の石油石炭に加え、シェールガスやメタンハイドレートなどの化石燃料の基礎と問題点、そして近年盛んに利用されているバイオ燃料、木質バイオマス発電や水素の利用について講義します。
第 11 回	非化石燃料によるエネルギー獲得の現状	オイルショック以来、わが国ではエネルギー資源に関する議論が現在も続けられています。また世界に目を向けると、温室効果気体の増加に伴う脱炭素社会の行動が要求されています。第１１回では太陽光や風力、地熱などの発電および、燃料電池、原子力発電の仕組みと問題点を考えていきます。
第 12 回	ゴミ問題とリサイクル	『ゴミ問題』は特に大都市における最も身近な環境問題であり、その解決としてのゴミの『リサイクル』が大きな課題になっています。第１２回ではゴミ処理とリサイクルに関する基礎と現状について講義します。

第13回　バイオマスの有用性	マイクロプラスチック問題の解決策の一つとして、『紙製品』の有効利用が模索されています。また化石燃料使用による温室効果気体の増加に対する解決策の一つとして、木質資源によるバイオ燃料獲得が議論されています。本講義では環境と資源の問題の解決策として有望視されている紙や木材などの『バイオマス』や、微生物の有効利用について講義する。
第14回 『環境と資源』まとめ	第２～１３回にかけて、環境と資源に関する現状と問題点および解決策について講義してきた。第１４回では総仕上げとして、人類をとりまく環境および資源に関する諸問題について振り返り、現状で議論されている解決策についてその有用性と今後起きる可能性がある問題点などを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
特に興味あるテーマに関しては授業の参考になるレベルまで学習し、授業時間内または終了後に質問する事。さらに、授業終了後自由に担当教員に議論を持ちかけるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
『環境化学（科学）』や『地球科学（化学）』に関する教科書であれば参考になります。

【成績評価の方法と基準】
試験の成績に平常点を考慮して評価します。
具体的には試験の成績が基本であるが平常点も参考にする場合があります。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学部／学科の学生が参加する講義です。多人数の時は教員の声が聞きにくい、黒板の字が見えにくい等有りますが積極的に前方で講義を受ける事をお勧めします。最新のニュースや物理および化学に関する基礎知識などで（一見すると）本題から外れる事が有りますが、可能な限り簡潔にまとめるようにします。

【Outline and objectives】
This course will introduce basic knowledge of the changes in the natural environment. It will also introduce natural resources that are on the earth which humans use.

BSP100LC

環境と資源

片谷　教孝

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題や資源枯渇の問題が注目されるようになって久しい。1980 年代以降はかつての四大公害事件のような激甚な公害の新たな発生はないが、地球環境問題や有害化学物質の問題など、多くの問題が現在も存在している。また 2011 年 3 月の東日本大震災に伴う原発事故以降、放射線の問題が注目を集めるようになった。しかし、これらの問題が必ずしも市民に正しく理解されているとはいえないのが現実である。一方で、近年は SDGs(持続可能な開発目標) が国際社会に共通の理念とされ、すべての国民が必要な知識を持って取り組むことが求められるようになってきた。この授業では、SDGs の概念とともに、放射線を含む環境問題や、資源・エネルギー問題の全般を広く扱い、環境問題を直接の専門分野としない学生でも最低限知っておくべき知識を身につけることを目的とする。

【到達目標】
この授業では、SDGs の概念と、環境問題（放射線を含む）や資源・エネルギーの問題について、理工系学部の学生として最低限知っておくことが望ましい知識を身につける。また、これらの社会的な問題に対して、十分な問題意識を持てるような動機づけを行うことも目標の 1 つとする。特に、環境問題が学際的な領域であることから、理系に限定せず、文系の視点からも問題をとらえることができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
まず環境問題とは何かを理解するため、環境問題の歴史的経緯やその本質的な部分について解説する。その中で、近年なぜ SDGs という考え方が出てきたのか、その目標は何であるのかを学ぶ。次いで環境問題を自然科学のみならず人文社会科学的な観点から理解し、さらに環境問題にどう取り組んでいく必要があるのかを各自で考えてもらう。また資源、エネルギーの問題は、環境問題と不可分な関係にあることから、世界や日本の地下資源やエネルギー資源の現状を解説し、資源の有効利用と保全をいかにして両立させるかを考える。また、通常の授業形式に戻った後については、比較的多人数が履修する科目であることから、双方向的な方法はとりにくいため、基本は講義形式で進める。ただし毎回最後に短い練習問題（記述式）を課し、翌週それに対するコメントを返すことによって、最低限の双方向性を確保する。この練習問題の提出は、平常点に反映される。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・環境問題とは何か	講義の目的、講義の進め方、成績評価方法を説明する。後半では、環境とは何か、環境問題とは何か、という基本的な点を解説する。
第 2 回	環境問題の歴史的経緯と SDGs	人類が地球上に誕生してから現在に至るまでの、環境問題（公害問題）の歴史的な流れを解説する。また近年なぜ SDGs の考え方が出てきたのかを解説する。
第 3 回	SDGs が目指すもの	現在提示されている SDGs の 17 の目標について解説し、我々がそれにどう貢献できるかについて考える。
第 4 回	環境問題を自然科学の立場から理解する	地球の自然科学的なしくみを理解し、そこから環境問題が発生する根源的なしくみを理解する。
第 5 回	環境と生物	地球上に生命が誕生してから現在にいたる生物学的な歴史と、環境問題の関連性について考える。
第 6 回	近年の環境問題のトピックス（1）地球環境問題	地球環境問題の全容を解説する。また国際的な取り組みの状況や見通しについても概説する。
第 7 回	近年の環境問題のトピックス（2）化学物質問題	ダイオキシンや環境ホルモンに代表される、化学物質由来の環境問題の全容を解説する。
第 8 回	近年の環境問題のトピックス（3）放射線問題	放射線、放射能、放射性物質とは何かを解説し、原子力発電のしくみを学ぶ。次いで福島第一原発事故の影響の現状や、将来見通しについても解説する。
第 9 回	世界と日本の資源・エネルギーの現状と将来	世界全体や日本国内での資源採掘および利用の現状と、今後の需給見通しについて学ぶ。
第 10 回	日本の省エネルギーの現状と再生可能エネルギー	エネルギー消費を削減するための省エネの取り組みと、再生可能エネルギーの技術開発および導入状況について、日本の現状を中心に解説する。
第 11 回	環境問題と社会科学	環境問題を経済学、法学、社会学の切り口からとらえる考え方を学ぶ。
第 12 回	環境問題に取り組むために（1）（技術的取り組み）	環境問題を抑制するために、さまざまな技術的手法が適用されている。ここでは、環境問題に対する技術的な取り組みを歴史的にみて、その主要な手法を解説する。
第 13 回	環境問題に取り組むために（2）（社会的取り組み）	環境問題を抑制するための、経済学的、法学的、社会学的な取り組みについて解説する。
第 14 回	環境問題に取り組むために (3)　（環境リスク論）、全体の総括	環境問題によって人体にもたらされる負の影響は、環境リスクとしてとらえることができる。この環境リスク定量化の考え方と、そのリスクを提言するためのリスク管理の考え方を学ぶ。最後に学期全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】環境問題に関連する情報源は、マスコミ報道を中心に、我々の周囲に多数存在する。この科目では、そういう一般向けの情報源からいかに自主的に情報収集を行っているかが問われる。

【テキスト（教科書）】
片谷教孝・鈴木嘉彦「循環型社会入門」オーム社（2001 年刊、1900 円＋税、2020 年度より電子出版に移行）を必須のテキストとする。毎週必ず使用するとは限らないが、毎回携行すること。このテキストは初版から 20 年以上経過しているが、主要なデータは 2012 年の増刷時に改訂されている。このほかの最新データについては、プリントによって補う。なおこの教科書は、早い時期に通読（斜め読みでよい）しておくこと。履修者は教科書に目を通してあるという前提で授業を進める。また、授業の要点を記載したプリントは、毎回配布する。ただしこのプリントは、教科書を補足するためのものであり、教科書の代用となるものではない。

【参考書】
授業中に随時紹介する。環境問題に関する出版物は、非常に多く出版されている。それらの中には、科学的に正しくないものや、一部の情報を極端に強調したものなど、誤った理解を増幅するようなものも含まれている。正しい知識を得るために有益な参考書を授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業の終了前 10 分程度の時間で、個々の学生の見解を問うための簡単な練習問題を課し、その解答提出をもって平常点とする。チェックの基準は解答内容の正誤ではなく、授業内容に基づいて自ら考えた解答であるかによって判定される。「特になし」などの解答や、白紙解答の場合は、平常点を与えられない。この平常点を 50 %、期末試験の得点を 50 %の割合で合算し、評価を行う。なお、練習問題の解答用紙は、講義開始から 30 分以上経過した場合には配布しない。ただしこの 30 分の余裕は、交通機関の乱れ等による影響を吸収するためのものであり、30 分遅刻してよいという意味ではないので、注意されたい。

【学生の意見等からの気づき】
画像・映像情報の使用を増やす要望が毎年出ているので、今年度もなるべく多くの Powerpoint スライドや映像情報を使用するように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
授業では映像情報や Powerpoint のようなプレゼンテーションソフト上の情報を時折使用する。ただし学生に情報機器の使用を課すことはしない。

【その他の重要事項】
担当教員は非常勤であるので、質問がある場合には毎回の最後の練習問題の解答用紙の余白に記載することを推奨する。質問に対しては次週回答する。またメールでの質問も受け付ける。アドレスは katatani @ obirin.ac.jp（@を半角文字にして送信のこと）。

【Outline and objectives】
Environmental issues are very important social problems. It is necessary for every people to understand the mechanism of these issues, but at present, the necessity has not been performed yet. In addition, the concept of SDGs(Sustainable Development Goals) has become a internationally common sense. This lecture aims to study fundamental understandings of SDGs concept and environmental issues including global environmental issues, local issues, radioactive species, and so on.

BSP100LC

宇宙と地球

石川　壮一

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
太陽系外惑星、ダークマター、オーロラなど、宇宙や地球に関する最近の研究成果を題材として、それぞれの現象の理解、地球と宇宙との関係や歴史について講義する。

【到達目標】
・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	運動の法則	ニュートンの運動法則と万有引力の法則について
第 3 回	星の運動	重力に基づく運動の例として、惑星の運動や、銀河内部の恒星の運動について
第 4 回	地球上での運動	空気抵抗や自転による慣性力等地球上における運動について
第 5 回	電磁気の法則	電磁気現象の基本的法則について
第 6 回	物の色と光 (1)	光の現象の例として、地上の風景、物の温度と色との関係等について
第 7 回	物の色と光 (2)	光の干渉や屈折による現象、原子スペクトル等について
第 8 回	オーロラと地磁気	オーロラの発光機構、オーロラと太陽、オーロラと地磁気等、オーロラ現象の物理学について
第 9 回	宇宙の歴史	宇宙の歴史を知るための方法や、宇宙の始まりについて
第 10 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生と死について
第 11 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星内部で起こっている元素合成と、星の一生との関係について
第 12 回	太陽系の形成	我々の太陽系の形成過程について
第 13 回	地球の物理	地球の表面のプレート運動や地球の内部構造に関する最近の話題について
第 14 回	系外惑星	太陽系外惑星の探査の方法とその最近の成果について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。　また、別途提示する演習問題を解いておくこと。
・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】
・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J.T.Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」 アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）
「基礎物理学」　第３版　原　康夫　著（学術図書出版社、2006）
（その他必要に応じて、授業内で紹介する）

【成績評価の方法と基準】
期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。
配分は、期末試験の結果を６割程度とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】
In this class, students will learn recent research results of various phenomena in the universe and the earth such as the aurora, the existence of extrasolar planets, dark matter, etc. Students will deepen the understanding of the universe and the earth: history and their relations.

BSP100LC

宇宙と地球

石川　壮一

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
太陽系外惑星、ダークマター、オーロラなど、宇宙や地球に関する最近の研究成果を題材として、それぞれの現象の理解、地球と宇宙との関係や歴史について講義する。

【到達目標】
・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	運動の法則	ニュートンの運動法則と万有引力の法則について
第 3 回	星の運動	重力に基づく運動の例として、惑星の運動や、銀河内部の恒星の運動について
第 4 回	地球上での運動	空気抵抗や自転による慣性力等地球上における運動について
第 5 回	電磁気の法則	電磁気現象の基本的法則について
第 6 回	物の色と光 (1)	光の現象の例として、地上の風景、物の温度と色との関係等について
第 7 回	物の色と光 (2)	光の干渉や屈折による現象、原子スペクトル等について
第 8 回	オーロラと地磁気	オーロラの発光機構、オーロラと太陽、オーロラと地磁気等、オーロラ現象の物理学について
第 9 回	宇宙の歴史	宇宙の歴史を知るための方法や、宇宙の始まりについて
第 10 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生と死について
第 11 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星内部で起こっている元素合成と、星の一生との関係について
第 12 回	太陽系の形成	我々の太陽系の形成過程について
第 13 回	地球の物理	地球の表面のプレート運動や地球の内部構造に関する最近の話題について
第 14 回	系外惑星	太陽系外惑星の探査の方法とその最近の成果について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。　また、別途提示する演習問題を解いておくこと。
・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】
・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J.T.Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」 アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）
「基礎物理学」　第3版　原　康夫　著（学術図書出版社、2006）
（その他必要に応じて、授業内で紹介する）

【成績評価の方法と基準】
期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。
配分は、期末試験の結果を６割程度とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline and objectives】
In this class, students will learn recent research results of various phenomena in the universe and the earth such as the aurora, the existence of extrasolar planets, dark matter, etc. Students will deepen the understanding of the universe and the earth: history and their relations.

BSP100LC

生命の起源と進化

田島　寛隆

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命はどのように誕生し，進化してきたのか？
最新の知見を元にその道筋を概説する．

【到達目標】
始原生命の発生から人類の誕生に至るまでの生物進化の経緯について，受講学生が十分な根拠を示しつつ科学的に説明できるようになることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初の数回で，授業内容を理解するための必要最小限の知識について説明し，その後に生命の誕生と進化について概説する．高校で生物を選択しなかった学生にも分かりやすいように平易・簡潔な講義を行う．またトピックスに関連した回覧資料・視覚教材を適宜提供する．
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	進化とは何か	生物進化の歴史の概略と進化論
2	生体高分子	生命を構成する生体高分子の構造と機能，セントラルドグマ
3	生物の分類法	生物の分類法と五界説・三ドメイン説
4	生命の起源	最初期の生体高分子及び始原生物
5	原核生物の時代	原核生物の概略及び代謝／光合成による大気成分の変化
6	真核生物の誕生	オルガネラの起源と共生説
7	多細胞生物の誕生	多細胞生物の起源と細胞の分化
8	カンブリア紀の進化大爆発	カンブリア紀に起きた生物の爆発的多様化
9	オルドビス紀～シルル紀	魚類と植物の進化
10	デボン紀～石炭紀	脊椎動物の地上進出
11	ペルム紀	単弓類の台頭と末期の大絶滅
12	三畳紀～ジュラ紀	恐竜の誕生と繁栄
13	白亜紀	気候変化と植物相交代に伴う恐竜の勢力変化，そして絶滅
14	哺乳類の台頭と人類の起源	哺乳類の時代を経て私たちへと至る進化の過程

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】配付資料と授業ノートをよく読み返し，内容を十分に理解すること．生物の起源と進化に関連する参考書籍（講義で紹介する）を読み，理解をより深めるのが望ましい．

【テキスト（教科書）】
特に指定しない．適宜プリントを配布する．

【参考書】
初回の講義で紹介する．

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞ 期末試験 70%，レポート 30%とする．
＜評価基準＞ 講義内容の基本項目を理解しているかを評価基準とする．
授業の実施状況に伴って、上記の評価方法は適宜変更することがある．この場合，初回授業時に説明する．

【学生の意見等からの気づき】
板書が読みにくい旨の指摘が多かったので改善する。

【その他の重要事項】
講義内容に関する質問・感想・要望は随時受け付ける．

【Outline and objectives】
How is life born and how did the first life evolve to the lives of today?
I will outline the process of evolution of life in this lecture.

BSP100LC

生命の起源と進化

石黒　亮

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命はどのように誕生し、現在の我々に至るまで進化してきたのか？
生命の誕生からヒトの誕生に至るまでのその道筋を時系列順に概説する。

【到達目標】
受講生が、『生物の進化』の概念を理解し、生命の誕生から人類の誕生に至るまでの歴史を把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
高校で生物学を履修しなかった学生もフォローできるように、視覚的資料を多数用意し平易な表現を用いて生命の誕生と進化について概説する。
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	講義内容の概説と現代の地球上の生物の多様性について。
第 2 回	細胞・生体高分子	生物の構成単位である細胞とそこに含まれる生体内高分子の働きについて。
第 3 回	進化論	自然発生説と進化論。
第 4 回	生命の起源	始原地球の環境と生命の誕生。
第 5 回	光合成細菌の誕生	光合成について。
第 6 回	好気呼吸の発明	酸素を利用したエネルギー獲得方法の誕生。
第 7 回	真核生物の誕生	真核生物の誕生と細胞分化による役割分担。
第 8 回	多様な生物の出現	先カンブリア時代及びカンブリア大爆発と無脊椎動物の進化。
第 9 回	海洋生物の繁栄と陸上進出	脊椎動物の誕生および動植物の上陸戦略。
第 10 回	両生類と爬虫類の進化	肺を得た動物の適応放散と形態変化。地球規模で起こった大量絶滅。
第 11 回	恐竜の時代	恐竜や大型ハチュウ類の進化と繁栄、その絶滅
第 12 回	鳥類と哺乳類の進化	鳥類と哺乳類の環境適応と恒常性および繁殖。
第 13 回	現世人類の登場	類人猿の進化と現世人類の誕生。
第 14 回	病原体と進化	ウイルス、寄生生物の起源と進化、RNA ワールド仮説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布した資料や授業支援システムにアップロードされたファイルを参照し、内容を予習・復習すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
特に指定しないが、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価はレポートの提出により行う。加えて、講義内容を確認する為の小テストを講義時間中に実施する場合がある。具体的な方法と基準は、講義の中で伝える。

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムを活用する。

【Outline and objectives】
How has life occurred and has evolved to the present? Outlines the path from the origin of life to the emergence of humans.

BSP100LC

生命の起源と進化

田島　寛隆

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命はどのように誕生し，進化してきたのか？
最新の知見を元にその道筋を概説する．

【到達目標】
始原生命の発生から人類の誕生に至るまでの生物進化の経緯について，受講学生が十分な根拠を示しつつ科学的に説明できるようになることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初の数回で，授業内容を理解するための必要最小限の知識について説明し，その後に生命の誕生と進化について概説する．高校で生物を選択しなかった学生にも分かりやすいように平易・簡潔な講義を行う．またトピックスに関連した回覧資料・視覚教材を適宜提供する．
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	進化とは何か	生物進化の歴史の概略と進化論
2	生体高分子	生命を構成する生体高分子の構造と機能，セントラルドグマ
3	生物の分類法	生物の分類法と五界説・三ドメイン説
4	生命の起源	最初期の生体高分子及び始原生物
5	原核生物の時代	原核生物の概略及び代謝／光合成による大気成分の変化
6	真核生物の誕生	オルガネラの起源と共生説
7	多細胞生物の誕生	多細胞生物の起源と細胞の分化
8	カンブリア紀の進化大爆発	カンブリア紀に起きた生物の爆発的多様化
9	オルドビス紀～シルル紀	魚類と植物の進化
10	デボン紀～石炭紀	脊椎動物の地上進出
11	ペルム紀	単弓類の台頭と末期の大絶滅
12	三畳紀～ジュラ紀	恐竜の誕生と繁栄
13	白亜紀	気候変化と植物相交代に伴う恐竜の勢力変化，そして絶滅
14	哺乳類の台頭と人類の起源	哺乳類の時代を経て私たちへと至る進化の過程

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】配付資料と授業ノートをよく読み返し，内容を十分に理解すること．生物の起源と進化に関連する参考書籍（講義で紹介する）を読み，理解をより深めるのが望ましい．

【テキスト（教科書）】
特に指定しない．適宜プリントを配布する．

【参考書】
初回の講義で紹介する．

【成績評価の方法と基準】
< 評価方法> 期末試験 70%，レポート 30%とする．
< 評価基準> 講義内容の基本項目を理解しているかを評価基準とする．
授業の実施状況に伴って、上記の評価方法は適宜変更することがある．この場合，初回授業時に説明する．

【学生の意見等からの気づき】
板書が読みにくい旨の指摘が多かったので改善する。

【その他の重要事項】
講義内容に関する質問・感想・要望は随時受け付ける．

【Outline and objectives】
How is life born and how did the first life evolve to the lives of today?
I will outline the process of evolution of life in this lecture.

BSP100LC

生物の多様性

青木　誠志郎、柴尾　晴信

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球上の生物はその誕生以来約 40 億年という歴史の中、さまざまな環境に適応し多様化を遂げてきました。多様な生物が示す性質の中には、現在の科学で解明にようやく近づきつつある謎がたくさんあります。例えば、アリやハチにはなぜ社会的な行動が見受けられるのでしょうか？ メスとオスの形の違いは、なぜ存在するのでしょうか？ 果たして DNA や遺伝子の研究で、生物の形や性質の多様性は、すべて説明できるのでしょうか？ 本講義では第一に、これらの謎の不思議やその面白さについて、具体的な紹介から始めます。そして、生物の特徴が世代と共に変化し環境に適応する基本的な仕組みの解明の学問である、進化学や生態学を理解することで、そのような謎に迫る研究とその方法について解説します。さらに進化が生み出した生物多様化の結果とその歴史、そして生物同士の関わり合いを学び、ヒトを含めた生物の多様性と自然環境全体との関係を考えることを、全体の目的とします。

【到達目標】
生物同士あるいは生物と環境（生物も環境の一部であることに注意）の関わりについて興味と関心をもち、生物の階層としての遺伝子-個体-集団の理解を背景に、生物の多様性と進化についての普遍的な考え方と、それら原理の理解を深めることを第一の目標とします。さらに、生物多様性の減少が将来の地球環境に及ぼす影響を理解し、生態系の保全方法について科学的な視点から捉えて評価・提案できる応用的な能力を養成することを第二の目標とします。具体的には、以下のようなことがらの理解を目指します。
・進化の概念について社会通念と科学的考え方の違いを説明できる。
・「そもそも生物にとって環境とは何か？」の問いを元に、生物が環境に適応する機構を説明できる。
・生物個体は他の生物と関わりながら、お互いに支えあって生きていることを説明できる。
・生物と自然環境の関わりを推論できる。
・生物個体にとって自分以外の周りのものはすべて環境であること、（そして環境の一部である生物も進化するので）生物的環境は一定ではないことを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は２名の教員（柴尾晴信、青木誠志郎）が分担して授業をおこないます。現在のところ、初回～第７回の講義は柴尾が行い、第８回～第 14 回の講義を青木が担当する予定ですが、講義の順序、内容は教員の都合により変更する場合があります（昨年度は２人が交互に行いました）。講義はパワーポイントと配布プリントを用いておこないます。また、毎回の授業で、リアクションペーパー（講義を受けて感じたこと・質問・要望）あるいは簡単な宿題（質問欄付き）を出し、後の講義で回収・回答する予定です。（オンラインでの開講となった場合には、後日具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。）春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	柴尾 1: 性の進化と多様性	性の起源と役割、生殖多様性
第 2 回	柴尾 2: 性の進化と多様性	雄と雌はなぜ姿が異なるのか? 性的二型と性淘汰
第 3 回	柴尾 3: 生活史の多様性	自然淘汰、適応、トレードオフ
第 4 回	柴尾 4: 生物間相互作用	生物環境に対する適応：共進化と軍拡競争
第 5 回	柴尾 5: 信号・コミュニケーション	種内・種間コミュニケーションの多様性、信号の発信者と受信者の共進化
第 6 回	柴尾 6: 社会性・協力行動	社会性進化と血縁淘汰、包括適応度
第 7 回	柴尾 7: 社会性昆虫はなぜ進化したのか？	社会性進化の生態的条件、昆虫社会内の遺伝的多様性と利害対立
第 8 回	青木 1: 社会性・協力行動をもう一歩深める	協力行動とゲーム理論
第 9 回	青木 2: 性の進化をもう一歩深める	性比の計算
第 10 回	青木 3: 生物の多様性の調べ方	系統学
第 11 回	青木 4: 生物の多様性の歴史	分子系統学
第 12 回	青木 5: ウィルスから多様性を考える 1	突然変異
第 13 回	青木 6: ウィルスから多様性を考える 2	進化学
第 14 回	生物の集団の考え方	集団遺伝学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とします。レポート課題あるいは宿題、リアクションペーパーなどを活用してください。また授業の配布資料を読んで準備学習や復習をして欲しいと考えています。

【テキスト（教科書）】
特定のものは指定しません。講義の理解に必要な内容は、全て配布しますので、ご安心ください。授業中あるいは Web 上で、随時プリントとして配ります。

【参考書】
C. ジンマー著「進化-生命のたどる道」岩波書店
ニコラス・H. バートンら著「進化―分子・個体・生態系」メディカルサイエンスインターナショナル
D. サダヴァ他著「カラー図解アメリカ版大学生物学の教科書第 4 巻　進化生物学」講談社 (ブルーバックス)
日本生態学会編「生態学入門」第 2 版、東京化学同人
日本生態学会編「行動生態学」共立出版
デイビス・クレブス・ウェスト著「行動生態学」原著第 4 版、共立出版
Jon C. Herron 他著「Evolutionary Analysis」Pearson
木村資生著「生物進化を考える」岩波新書
スティーヴン・ジェイグールド著「ダーウィン以来―進化論への招待」早川書房
　その他、参考書は授業時間内に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーや宿題を含めた平常点とレポートで 50%、期末試験 50%程度で評価します。質問など授業への積極的な参加を平常点として評価に含めます。（オンラインでの開講となった場合には、後日具体的な評価法を、学習支援システムで提示します。）

【学生の意見等からの気づき】
質問や要望をいつでも応募しています。早急に授業に反映させたいと考えています。分かりやすい授業への対応を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
講義の順序や内容は、大学あるいは教員の都合により変更する場合があります。

【Outline and objectives】
This course introduces biodiversity science to students. Biodiversity science is an emerging and highly integrative field of research dealing with all aspects of biological diversity and the relationship among the living organisms. It also deals with the history of life in the world and the cause of why various organisms and their relationships have been originated and maintained on earth. This course will incorporate ecological and evolutionary perspectives to understand the various subjects such as tree of life, taxonomy of organisms, biological interaction, animal communication, social behavior, sexual reproduction, and sexual dimorphism. We will also address approaches and techniques for the analyses of ecology, ethology, phylogeny, and evolutionary biology. Students who successfully complete this course will be able to:
i) Understand the sources of genetic variation, evolutionary process, and consequent biodiversity.
ii) Explain the importance of the biological interactions and signals for the social behavior.
iii) Show the methods how to draw a timeline of the history of life on earth.
iv) Explain why sexual reproduction and dimorphism are present in many organisms.

BSP100LC

生物の多様性

村上　雄秀

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物多様性は「豊かな生物的自然」を意味し、人類の生存・文化の根源として、また環境の指標としてその保全・再生が地球規模での課題とされている。本講義では「生物多様性とその保全への生態学的アプローチ」をテーマに、主に群集生態学の視点から、生物多様性の３レベルの中のマクロな２レベル；種の多様性、生態系の多様性を中心とし、生物多様性の具体的な内容とその成り立ちなどを学ぶ。

【到達目標】
生態学的な観点に立った生物多様性の内容を理解する。
地球上の生物多様性の発展と進化、共存のメカニズムなどについて理解する。
日本の生態系レベル（植生）の多様性について学びその特性を考察する。
生物多様性の概念を理解し、その保全の目的と社会的背景を理解する。
生物多様性の評価の手法を理解し、保全手法の立案を提案できる基礎を構築する。
秋学期は概念的な内容に重きを置いた講義とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式
対面講義：パワーポイントを用いた講義形式。
オンライン講義：教材配布＋課題提出の形で進める。
　　課題は数回で野外観察・記録を含む
課題等に対しては次回の教材、課題など学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・生態学的視点とは	講義全般のガイダンス．生態学的視点．学名と和名
第 2 回	植物の形態的多様性Ⅰ－生活形とは－	生活形概論；系統分類との視点の違い
第 3 回	植物の形態的多様性Ⅱ－休眠形－	ラウンケアの休眠形はなぜ未だに使われるか
第 4 回	植物の形態的多様性Ⅲ－生育形－	生育形の種類と競争に勝つ戦略
第 5 回	植物の形態的多様性Ⅳ－種子散布形－	種子散布形；如何に子孫を増やすか
第 6 回	多様性の分化機構Ⅰ－生態的最適域－	生物社会の中の競争と共存
第 7 回	多様性の分化機構Ⅱ－ニッチとすみわけ－	ニッチ・すみわけ；生き残るための「空間」
第 8 回	多様性の分化機構Ⅲ－適応戦略－	適応戦略；どのような戦略で生き残るか
第 9 回	生物のマクロ多様性Ⅰ－植生の類型化－	植生の類型化；植生と生態系の分類学
第 10 回	生物のマクロ多様性Ⅱ－日本の植生Ⅰ－	日本の照葉樹林
第 11 回	生物のマクロ多様性Ⅲ－日本の植生Ⅱ－	日本の夏緑広葉樹林／常緑針葉樹林
第 12 回	生物のメソ多様性－群落のすみわけ－	植物群落のすみか；様々な植物集団と環境との結びつき
第 13 回	生物多様性概論Ⅰ－生物多様性とは何か－	生物多様性の概念とその現状
第 14 回	生物多様性概論Ⅱ－生物多様性の評価と保全－	生物多様性保全の為の指標と評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
生物、特に植物の和名、学名を多数用いる。
オンライン講義の場合、課題には野外観察も含むので図鑑などによる自習が必要。

【テキスト（教科書）】
特定のものは無い。

【参考書】
初回講義時および講義中に提示する。

【成績評価の方法と基準】
評価方法は期末の試験（記述式、ノートなどの持ち込み不可）による。
オンライン講義の場合は課題提出物の評価と期末の試験による成績評価を予定。
試験の方法や配点などは配布教材などとともに提示する。

【学生の意見等からの気づき】
・講義内容を「知る」だけでなく自分なりに理解する。
・疑問があったら講義時、課題提出時などに質問し解決しておく。
＜対面講義の場合＞
・プリントなどの配布は予定していない
・授業中のスライドの写真撮影などは禁止
・講義の進行スピードに関してはその都度調整する
以上を承知の上で受講されたい。

【学生が準備すべき機器他】
＜オンライン講義の場合＞
課題提出に当たっては写真撮影機器（スマートフォンでも可）が必要。
提出課題の作成には Word および PDF ファイルの作成が必須

【その他の重要事項】
対面講義はパワーポイントを用いたスライド映写形式で行う。
講義内容、順序は進捗状況の変化などにより適宜変更する場合がある。

【Outline and objectives】
In this lecture, the theme is “Ecological Approach to Biodiversity and its Conservation”, and we will mainly learn from the perspective of community ecology. Topics include two macro levels out of three levels of biodiversity; species diversity and ecosystem diversity. Learn the various elements of biodiversity and how they are formed.

BSP100LC

生物の多様性

村上　雄秀

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物多様性は「豊かな生物的自然」を意味し、人類の生存・文化の根源として、また環境の指標としてその保全・再生が地球規模での課題とされている。本講義では「生物多様性とその保全への生態学的アプローチ」をテーマに、主に群集生態学の視点から、生物多様性の３レベルの中のマクロな２レベル；種の多様性、生態系の多様性を中心とし、生物多様性の具体的な内容とその成り立ちなどを学ぶ。

【到達目標】
生態学的な観点に立った生物多様性の内容を理解する。
地球上の生物多様性の発展と進化、共存のメカニズムなどについて理解する。
日本の生態系レベル（植生）の多様性について学びその特性を考察する。
生物多様性の概念を理解し、その保全の目的と社会的背景を理解する。
生物多様性の評価の手法を理解し、保全手法の立案を提案できる基礎を構築する。
春学期は各論的な内容に重きを置いた講義とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式
対面講義：パワーポイントを用いた講義形式。
オンライン講義：教材配布＋課題提出の形で進める。
　　課題は数回で野外観察・記録を含む
課題等に対しては次回の教材、課題など学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。
春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・生態学的視点とは	講義全般のガイダンス．生態学的視点
第 2 回	植物の形態的多様性Ⅰ－生活形とは－	生活形分類の意義、系統分類との違い
第 3 回	植物の形態的多様性Ⅱ－休眠形－	ラウンケアの休眠形の持つ意味
第 4 回	植物の形態的多様性Ⅲ－生育形－	地上部の形態。生き残るための戦略
第 5 回	植物の形態的多様性Ⅳ－種子散布形－	種子散布形；植物はどのように「移動」するか
第 6 回	植生の空間的多様性Ⅰ－植生の類型化－	生態系の多様性の解析のための植生の類型化
第 7 回	植生の空間的多様性Ⅱ－日本の植生とその位置づけ－	世界の植生・日本の植生；日本の自然の特異性
第 8 回	植生の空間的多様性Ⅲ－照葉樹林－	日本の植生；ヤブツバキクラス
第 9 回	植生の空間的多様性Ⅳ－夏緑広葉樹林－	日本の植生；ブナクラス
第 10 回	植生の空間的多様性Ⅴ－常緑針葉樹林－	日本の植生；コケモモ－トウヒクラス
第 11 回	植生の空間的多様性Ⅵ－植物群落のすみわけ－	植物群落のすみか；環境と植物の結びつき
第 12 回	植生の時間的多様性－遷移－	植生の遷移；植生の動的な多様性とその機構
第 13 回	生物多様性概論Ⅰ－生物多様性とは何か－	生物多様性の概念と提唱された目的
第 14 回	生物多様性概論Ⅱ－生物多様性の評価と保全－	多様性の評価方法と保全に用いる指標

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
生物、特に植物の和名、学名を多数用いる。
オンライン講義の場合、課題には野外観察も含むので図鑑などによる自習が必要。

【テキスト（教科書）】
特定のものは無い。

【参考書】
初回講義時および講義中に提示する。

【成績評価の方法と基準】
評価方法は期末の試験（記述式、ノートなどの持ち込み不可）による。
オンライン講義の場合は課題提出物の評価と期末の試験による成績評価を予定。
試験の方法や配点などは配布教材などとともに提示する。

【学生の意見等からの気づき】
・講義内容を「知る」だけでなく自分なりに理解する。
・疑問があったら講義時、課題提出時などに質問し解決しておく。
＜対面講義の場合＞
・プリントなどの配布は予定していない
・授業中のスライドの写真撮影などは禁止
・講義の進行スピードに関してはその都度調整する
以上を承知の上で受講されたい。

【学生が準備すべき機器他】
＜オンライン講義の場合＞
課題提出に当たっては写真撮影機器（スマートフォンでも可）が必要。
提出課題の作成には Word および PDF ファイルの作成が必須

【その他の重要事項】
講義はパワーポイントを用いたスライド映写形式で行う。
講義内容、順序は進捗状況の変化などにより適宜変更する場合がある。

【Outline and objectives】
Biodiversity means "rich biological nature." Biodiversity is a root of human existence and culture, and is also an indicator of a good environment. Its conservation and restoration are important issues on a global scale.
In this lecture, the theme is “Ecological Approach to Biodiversity and its Conservation”, and we will mainly learn from the perspective of community ecology. Topics include two macro levels out of three levels of biodiversity; species diversity and ecosystem diversity. Learn the various elements of biodiversity and how they are formed.

BSP100LC

物質科学と先端技術

尾池　秀章

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物質科学は自然現象を明らかにするだけでなく，先端技術の開発基盤となる学問である。身のまわりの物質が，環境問題，エネルギー問題，社会生活にどのように関わっているかを意識しながら，その性質について概説する。理系学生の一般教養レベルとして知っておくべき事項および考え方を身につける。

【到達目標】
物質の構成要素を理解する。物質の様々な機能の発現機構を理解する。社会生活に物質科学がどのように応用されているかを理解する。また環境問題，エネルギー問題に対して，物質科学の観点から自身の考えをもてるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的なテーマとして「空気」「オゾン層」「温暖化」「エネルギー」「水」「酸性雨」「原子力」「次世代エネルギー」「高分子材料」をとりあげ，配布するプリントに沿って概説する。またテーマごとに内容の理解度をはかり自身の考えを問う小テストを行う。なお，基本的には授業計画に沿って進めるが，授業進度等により適宜変更することがある。また課題等に対しては学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション，および 空気と物質科学	最初に授業の進め方について説明する。「空気と物質科学」では，空気の組成などを例にとりながら，物質のもととなる，元素，化合物に対する理解を深める。
第 2 回	空気と物質科学	第 1 回に引き続き，「空気と物質科学」をテーマに，大気汚染物質とはどのようなものかについても概説する。
第 3 回	オゾン層における物質科学	オゾンによる紫外線の遮蔽などを考えることによって，光のエネルギーが物質に与える影響について理解を深める。またオゾンの破壊にどのような物質が関わっているかについても考える。
第 4 回	地球温暖化に関わる物質	二酸化炭素の増大は地球を温暖化させると言われている。二酸化炭素のもつ温室効果ガスとしての働きを通して，分子の基底状態と励起状態を知る。また炭素の循環を考え，質量や物質量の概念についても概説する。
第 5 回	エネルギーと物質	人間社会の営みは，エネルギーの生産と消費という視点でもとらえることができる。エネルギーの変換を熱力学的な観点および分子レベルでの変化で考える。また石炭，石油といったエネルギー源について概説する。
第 6 回	水と物質科学	水は地球上で最も重要な物質であると言える。水は様々な物質を溶かすが，この溶解という事象を物質科学的な観点から理解する。また飲料水として利用するための浄水技術，海水の淡水化技術などについて概説する。
第 7 回	酸性雨に関わる物質	酸性雨の原因，影響を考えることで，酸・塩基について再確認する。また大気汚染物質とそれらの浄化に向けた技術，あるいは施策などについて概説する。
第 8 回	原子力と物質科学 1	核分裂で電力が生まれる仕組みについて理解することは重要である。ここでは原子力発電で生成する放射性廃棄物の取り扱いも含めて概説する。
第 9 回	原子力と物質科学 2	原子力については社会的な課題と絡まった複雑な部分もある。ここでは，科学者としての立場から問題をどうとらえるかについて考える。
第 10 回	次世代エネルギーと物質科学 1	燃料の燃焼によるエネルギー生産は，資源的，環境的課題を含んでいる。一方，化学的エネルギーを電気的エネルギーに変換するシステムである電池は次世代エネルギーとして発展する可能性をもつ。ここでは電池一般について概説する。
第 11 回	次世代エネルギーと物質科学 2	次世代エネルギーとして期待されている燃料電池，太陽電池について概説する。
第 12 回	高分子材料の構造と機能 1	プラスチックスに代表される高分子材料は，人類の生活に欠かせないものとなっている。ここでは，プラスチックスやゴム，繊維といった身近にある高分子材料について概説する。
第 13 回	高分子材料の構造と機能 2	高分子は，小さな分子が多数連結してできているものであるが，その合成法の分類や特徴について概説する。
第 14 回	高分子材料の構造と機能 3	分子が自発的に集まる性質を利用して，秩序ある構造の組織体を形成する手法が近年注目されている。この超分子化学と呼ばれる分野について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業において各テーマに関するプリントを配布するので，それについて個人で調べたり考えたりしておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。プリントを配付する。

【参考書】
実感する化学（上下巻）：廣瀬千秋（翻訳），エヌ・ティー・エス
また，必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（25 %）
内容の理解度をはかり自身の考え方を問う小テスト（テーマごとに 9 回，授業時間内に行う）（75 %）

【学生の意見等からの気づき】
資料の見やすさについて引き続き改善する。

【Outline and objectives】
Material science is powerful tool to develop advanced technologies as well as to understand the nature of life. In this lecture, how materials play a critical role in a human life including the world's environmental and energy matters is discussed. Not only for the students in chemistry course but also for the students who are not major in chemistry, the series of lectures show the typical topics of material science.

LANe100LC

英語中級コミュニケーション

L　アイヴアニック

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is intended for students who already feel fairly comfortable talking about everyday situations in English and want to be able to express themselves with more depth and precision.

【到達目標】
Students will learn to discuss topics of general interest with an emphasis on expressing themselves. They will become more comfortable making short individual or group presentations in class. They will learn vocabulary related to the topics covered.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
There will be many pair and group activities in class to practice conversing and discussing in English. Students will also make short presentations after the activity to report their own opinions or those of their group or to explain a decision their group made about the question at hand.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Gathering information – Meeting people; guessing about new friends	"Getting to Know You" ice-breaking exercise; level check listening test
第 2 回	Exchanging information – What do you know about sports and games? Which sports or games do you like?	Sports quiz handout; discussion activity on favorite sports and games
第 3 回	Group project and presentation: Creating a new sport or game	Create a new sport or game handout; group presentations to class
第 4 回	Discussing the past: things you did or used to do	Handout: When we were young
第 5 回	Group brainstorming: Describing things you don't know the English word for	"What's Wrong Here?" handout. Group discussion; individual reporting
第 6 回	Inference – Solving a murder mystery from clues	Clues to a murder handout; group discussion and problem solutions with reasons
第 7 回	Quiz (exact date announced in class); may be on paper or an oral interview depending on the size of the class	Quiz on material covered in first half of course or individual interviews of students if class is small enough.
第 8 回	Discussing food	Food preferences and recipe handout.
第 9 回	Planning a new restaurant	Group discussion preparing for presentation
第 10 回	Planning a new restaurant	Group presentations
第 11 回	Describing a process from beginning to end; individual oral report	Handout on how to do something step by step
第 12 回	Imagining what you would do if...; discussion.	Handout on second conditional
第 13 回	Group project and presentation: Telling a story using (a) photograph(s), preparation	Preparation for final group presentations
第 14 回	Group project and presentation: Telling a story using (a) photograph(s), presentation	Final group presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Students should expect to do homework every week to prepare for the activities in class. Most often this will consist of making notes for group discussions or presentations so that every student is ready to participate.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide handouts each week to the students. There is no textbook.

【参考書】
Students should bring a good English-English electronic dictionary to class every week.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be calculated based on a midterm (50 points) and final exam (50 points)and the very important factors of preparing the homework and class performance (100 points). The midterm and final exam may be in the form of an oral interview (if possible) or on paper, depending on the size of the class.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Students who wish to attain a high grade and be more successful in expressing themselves in English should come to class every week. Students who have five or more unexcused absences will probably fail the course. Students who miss the scheduled midterm evaluation should have a good excuse for their absence. The evaluation will be rescheduled. Students who miss the final exam must present a certified excuse to the office as quickly as possible. In that case, the instructor and student will agree to reschedule or another alternative manner of evaluating the student's progress in the course.

【Outline and objectives】
This course is intended for students who already feel fairly comfortable talking about everyday situations in English and want to be able to express themselves with more depth and precision.

LANe100LC

英語中級コミュニケーション

KOPROWSKI MARK

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
This one-semester course will focus on developing vocabulary, listening and conversation skills in English.By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Developing pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and functional language in order to have more natural and fluent conversations. Pair work and group work will emphasized.
Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.
Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction and explanation	Get to know your teacher and each other. Learn what is expected of you in class.
2	Unit 1 Good to Meet You	Key Vocabulary: Meeting someone for the first time Speaking/Listening: Meeting someone new Conversation Strategy 1: Meeting people Conversation Strategy 2: Bouncing
3	Unit 2 It Runs in the Family	Key Vocabulary: Physical and personality adjectives Speaking/Listening: Family Conversation Strategy 1: Getting time to think Conversation Strategy 2: Asking for More information
4	Unit 3 School Daze	Key vocabulary: School Speaking/Listening: School life Conversation Strategy 1: Agreeing Conversation Strategy 2: Disagreeing
5	Unit 4 You Are What You Eat	Free talk Key Vocabulary: Food Speaking/Listening: Food and exercise Conversation Strategy 1: Getting more information Conversation Strategy 2: Getting more details
6	Unit 5 Shop Till You Drop Unit 6 TGIF (Review 1)	Key Vocabulary: Shopping Speaking/Listening: Going shopping Conversation Strategy 1: Explaining Conversation Strategy 2: Body language
7	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	UNITS 1-5 7 to 8-minute speaking test (in pairs)
8	Unit 7 Friends	Key vocabulary: Friends Speaking/Listening: Friends Conversation Strategy 1: Using tag questions Conversation Strategy 2: Giving compliments
9	Unit 8 Road Trip	Key Vocabulary: Travel Speaking/Listening:: Travel Conversation Strategy 1: Making suggestions Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
10	Unit 9 Blind Date	Key vocabulary: Dating Speaking/Listening: Dating Conversation Strategy 1: Checking for understanding Conversation Strategy 2: Summarizing
11	Unit 10 Job Hunting	Key vocabulary: Work Speaking/Listening: Work Conversation Strategy 1: Changing direction Conversation Strategy 2: Changing the topic
12	Unit 11 Let's Catch a Flick	Key vocabulary: Movies Speaking/Listening: Movies Conversation Strategy 1: Sharing news Conversation Strategy 2: Reacting to news
13	FINAL EXAMINATION Part 1 (paper test)	Practice for final speaking examination
14	FINAL EXAMINATION: Part 2 (speaking test)	UNITS 7-11 7 to 8-minute speaking test (in pairs)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】
By the Way... : Strategies for Successful Conversation
Authors: Michael Hensley & Bill Burns
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

【参考書】
An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:
http://www.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments: 20%
Mid-term examination (speaking test): 20%
Final examination (paper test): 20%
Final examination (speaking test): 20%

【学生の意見等からの気づき】
None.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

英語中級コミュニケーション

L　アイヴアニック

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is intended for students who already feel fairly comfortable talking about everyday situations in English and want to be able to express themselves with more depth and precision.

【到達目標】
Students will learn to discuss topics of general interest with an emphasis on expressing themselves. They will become more comfortable making short individual or group presentations in class. They will learn vocabulary related to the topics covered.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
There will be many pair and group activities in class to practice conversing and discussing in English. Students will also make short presentations after the activity to report their own opinions or those of their group or to explain a decision their group made about the question at hand.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Gathering information – Meeting people; guessing about new friends	"Getting to Know You" ice-breaking exercise; level check listening test
第 2 回	Exchanging information – What do you know about sports and games? Which sports or games do you like?	Sports quiz handout; discussion activity on favorite sports and games
第 3 回	Group project and presentation: Creating a new sport or game	Create a new sport or game handout; group presentations to class
第 4 回	Discussing the past: things you did or used to do	Handout: When we were young
第 5 回	Group brainstorming: Describing things you don't know the English word for	"What's Wrong Here?" handout. Group discussion; individual reporting
第 6 回	Inference – Solving a murder mystery from clues	Clues to a murder handout; group discussion and problem solutions with reasons
第 7 回	Quiz (exact date announced in class); may be on paper or an oral interview depending on the size of the class	Quiz on material covered in first half of course or individual interviews of students if class is small enough.
第 8 回	Discussing food	Food preferences and recipe handout.
第 9 回	Planning a new restaurant	Group discussion preparing for presentation
第 10 回	Planning a new restaurant	Group presentations
第 11 回	Describing a process from beginning to end; individual oral report	Handout on how to do something step by step
第 12 回	Imagining what you would do if...; discussion.	Handout on second conditional
第 13 回	Group project and presentation: Telling a story using (a) photograph(s), preparation	Preparation for final group presentations
第 14 回	Group project and presentation: Telling a story using (a) photograph(s), presentation	Final group presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Students should expect to do homework every week to prepare for the activities in class. Most often this will consist of making notes for group discussions or presentations so that every student is ready to participate.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide handouts each week to the students. There is no textbook.

【参考書】
Students should bring a good English-English electronic dictionary to class every week.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be calculated based on a midterm (50 points) and final exam (50 points)and the very important factors of preparing the homework and class performance (100 points). The midterm and final exam may be in the form of an oral interview (if possible) or on paper, depending on the size of the class.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Students may want to use their smartphone in class to get information they need. The instructor will tell them when this is allowed.

【その他の重要事項】
Students who wish to attain a high grade and be more successful in expressing themselves in English should come to class every week. Students who have five or more unexcused absences will probably fail the course. Students who miss the scheduled midterm evaluation should have a good excuse for their absence. The evaluation will be rescheduled. Students who miss the final exam must present a certified excuse to the instructor or the office. In that case, the instructor and student will agree to reschedule or another alternative manner of evaluating the student's progress in the course.

【Outline and objectives】
This course is intended for students who already feel fairly comfortable talking about everyday situations in English and want to be able to express themselves with more depth and precision.

LANe100LC

英語中級コミュニケーション

KOPROWSKI MARK

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
This one-semester course will focus on developing vocabulary, listening and conversation skills in English.By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Developing pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and functional language in order to have more natural and fluent conversations. Pair work and group work will emphasized.
Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.
Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction and explanation	Get to know your teacher and each other. Learn what is expected of you in class.
2	Unit 1 Good to Meet You	Key Vocabulary: Meeting someone for the first time Speaking/Listening: Meeting someone new Conversation Strategy 1: Meeting people Conversation Strategy 2: Bouncing
3	Unit 2 It Runs in the Family	Key Vocabulary: Physical and personality adjectives Speaking/Listening: Family Conversation Strategy 1: Getting time to think Conversation Strategy 2: Asking for More information
4	Unit 3 School Daze	Key vocabulary: School Speaking/Listening: School life Conversation Strategy 1: Agreeing Conversation Strategy 2: Disagreeing
5	Unit 4 You Are What You Eat	Key Vocabulary: Food Speaking/Listening: Food and exercise Conversation Strategy 1: Getting more information Conversation Strategy 2: Getting more details
6	Unit 5 Shop Till You Drop Unit 6 TGIF (Review 1)	Key Vocabulary: Shopping Speaking/Listening: Going shopping Conversation Strategy 1: Explaining Conversation Strategy 2: Body language
7	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	UNITS 1-5 7 to 8-minute speaking test (in pairs)
8	Unit 7 Friends	Key vocabulary: Friends Speaking/Listening: Friends Conversation Strategy 1: Using tag questions Conversation Strategy 2: Giving compliments
9	Unit 8 Road Trip	Key Vocabulary: Travel Speaking/Listening:: Travel Conversation Strategy 1: Making suggestions Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
10	Unit 9 Blind Date	Key vocabulary: Dating Speaking/Listening: Dating Conversation Strategy 1: Checking for understanding Conversation Strategy 2: Summarizing
11	Unit 10 Job Hunting	Key vocabulary: Work Speaking/Listening: Work Conversation Strategy 1: Changing direction Conversation Strategy 2: Changing the topic
12	Unit 11 Let's Catch a Flick	Key vocabulary: Movies Speaking/Listening: Movies Conversation Strategy 1: Sharing news Conversation Strategy 2: Reacting to news
13	FINAL EXAMINATION Part 1 (paper test)	Practice for final speaking examination
14	FINAL EXAMINATION Part 2 (speaking test)	UNITS 7-11 7 to 8-minute speaking test (in pairs)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】
By the Way... : Strategies for Successful Conversation
Authors: Michael Hensley & Bill Burns
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

【参考書】
An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:
http://www.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments: 20%
Mid-term examination (speaking test):20%
Final examination (paper test):20%
Final examination (speaking test): 20%

【学生の意見等からの気づき】
None.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

英語中級リーディング

L　アイヴアニック

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
By the end of this course, students should feel they have learned to read articles in English more naturally, at a faster pace, and with greater comprehension of their contents. This should make English reading for them more interesting and less of a chore.

【到達目標】
Our goal will be to deal with eleven short articles on a variety of scientific subjects that should interest students. The development of vocabulary related to these topics is essential to read with greater speed and will be a high priority. Reading in phrases and clauses instead of word by word will be stressed. In addition, students will be expected to demonstrate a good degree of comprehension both of the reading materials in the textbook and the visual aids that accompany and clarify them.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
PLEASE READ EVERYTHING THAT FOLLOWS. We will typically cover one unit in the textbook per 100 minutes of class time. Students will work on vocabulary in the class with the aid of the instructor.In addition, the importance of the structures used in each article in understanding the meaning will be explained. In class, students will typically work in small groups to confirm their understanding of the main points of the article. Breakout rooms will be used for small-group work if the class is taught via Zoom online. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1 - Bioprinting	Bioprinting technology Grammar point: adjective clauses
2	Unit 2 - Driverless Cars	Pros and cons of driverless vehicles Grammar point: participles
3	Unit 4 - Big Data	How do businesses use computers to manage huge amounts of data? Grammar point: Noun clauses
4	Unit 5 - Rethinking Animal Intelligence	How to measure and evaluate animal intelligence Grammar point:gerunds vs infinitives
5	Unit 6 - Getting Chipped	Using microchips in the human body Grammar point: coordinating conjunctions
6	Review and comprehension quiz	The lessons covered the first five class sessions will be reviewed and a half-period quiz focussing on comprehension will be administered.
7	Unit 8 - Making Science Popular: The Brilliance of Carl Sagan	Describing science to the layman Grammar point: passive voice
8	Unit 9 - Extreme Weather and Climate Change	Effects of climate change Grammar point: subordinating conjunctions
9	Unit 10 - Virtual Reality in Medicine	The many uses of VR in medicine Grammar point; parallelism
10	Review and Vocabulary Quiz	A review of the vocabulary, roots, prefixes & suffixes covered since the first class meeting and half-period vocabulary quiz
11	Unit 11 - Should we Fear Intelligent Machines?	The pros and cons of turning over tasks to machines Grammar point: modal verbs
12	Unit 14 - Muon Imaging: Using Physics to see the Unseen	Examples of mapping using subatomic particles Grammar point: comparatives/superlatives
13	Unit 15 - Our Clean Future	Cleaning up the earth Grammar point: Various forms of words
14	Review and Final Exam	Review of the course and general final exam with emphasis on the last six units of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Students will read the 400-word articles outside of class and do a few exercises.(Other exercises will be done in class.)In addition, they should write down questions they have if they don't understand part of the reading and prepare some notes each week for their responses to the discussion questions in the textbook.

【テキスト（教科書）】
Bennett, Andrew E.: Science and Tech Sense, Tokyo: Nan'un-do, 2019. ISBN 978-4-523-17884-2

【参考書】
Students should have an English-English/English-Japanese dictionary, preferably electronic, or access to one on the internet both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】
A maximum of 300 points can be earned by students, consisting of 50 points (16.7%) on each quiz, 100 points (33.3%) on the final exam and 100 points (33.3%) for class participation and homework.NEW INFORMATION!春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。Due to the movement of classes online, the grading policy for this class will be modified. More specific information will be posted on the learning management system (LMS)before the day class begins. If we have class online, the first quiz will have a maximum score of 70 points, the second, 50 points and the final project 80 points.

【学生の意見等からの気づき】
The in-class tests were a bit too challenging two years ago. I adjusted the format and length of them this year. If the class is again taught online via Zoom the final exam will become a final project that students will do outside of class and be due a few days after the last class meeting on line.

【学生が準備すべき機器他】
Nothing

【その他の重要事項】
Class participation means volunteering, contributing to pair/group work. Students should attend every class if possible. The homework and official dates for the two quizzes and final exam will be announced in class, multiple times for the final exam. Students who miss five class sessions or more without approved excuses are likely to fail. Students who miss a quiz should inform the instructor of the reason why and then it will be rescheduled for that student. Students who miss the final exam (final project) should contact the office with reasons for their absence. Students with acceptable excuses (illness, death or serious illness in the family, for example) will be able to discuss the situation and reach an agreement about the exam or project with the instructor.

【Outline and objectives】
By the end of this course, students should feel they have learned to read articles in English more naturally, at a faster pace, and with greater comprehension of their contents. This should make English reading for them more interesting and less of a chore.

LANe100LC

英語中級リーディング

早舩　由紀見

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前半では、さまざまなジャンルの英文を読み、文の内容を正確に読み取る訓練を行う。
後半では、燃料電池車を組み立てるサイエンスキットのマニュアルをテキストに用い、サイエンスを英語で学ぶ。マニュアルの内容を理解した後で、実際にキットを組み立て、自分の理解が正しいことを確認する。

【到達目標】
中級レベルの英語長文を読み、内容を完全に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業中、限られた時間内で 600 語程度の英文を読み、関連する質問に答える。内容を把握した後で、グループを作り内容について英語で話し合う。
キットマニュアルの読解では、読んだ内容をその場で理解し、すぐに実践できるよう、速読の技術を身につける。
積極的な授業参加が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の概要説明と、長文読解 (1)「数学の確率問題」	約 400～600 ワードの英文を初見で読み、理解する。
2	長文読解 (2)「ウミガメの生態」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
3	長文読解 (3)「モーションアシストロボット」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
4	長文読解 (4)「捕鯨問題」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
5	長文読解 (5)「フェアトレード」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
6	長文読解 (6)「障害物レース」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
7	長文読解 (7)「AI の脅威」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
8	長文読解 (8)「オンラインゲーム」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
9	長文読解 (9)「お金と人間の心理状態」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
10	Solar Cell Car (1)	太陽電池に関する説明文を読み、内容を理解する。太陽電池の発電量を測定する。
11	Solar Cell Car (2)	電気分解に関する説明文を読み、内容を理解する。
12	Fuel Cell Car (3)	燃料電池に関する説明文を読み、内容を理解する。
13	Fuel Cell Car を走らせる。	マニュアルを読みながら、燃料電池者を組み立て、燃料電池による発電で車を走らせる。
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】リーディングの宿題。

【テキスト（教科書）】
プリント教材

【参考書】
特に必要なし。（電子）辞書は毎週持参すること。

【成績評価の方法と基準】
授業中に行う課題、プレゼン、宿題の提出状況等 (70%)、期末試験 (30%) の総合評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii を使用して課題提出等を行っていただきます。

【Outline and objectives】
In the first half of the semester, students read text of about 200 to 400 words of a variety of jenre and learn how to read an English text correctly.
In the last half of the semester, students read texts for specific purposes. After understanding the text, students actually assemble a fuel cell car.

LANe100LC

英語中級リーディング

柳川　浩三

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際問題についての幅広い理解を滋養し、それについての自分なりの考えを平易な英語で表現できるようにする。

【到達目標】
1. 国際問題について議論ができる。
2. 国際問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読およびペア・グループ学習
授業中の言語使用は、日本語７割、英語３割の予定である。受講者の志向にもよる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	授業の方針説明
2	Ice breaking	クラス間のラポートづくり
3	Show and Tell	写真を見ながら関心のある国際問題について英語でプレゼン（１分）
4	The world is waiting for your help.	ペアでトーク
5	Factfulness 1	輪読
6	Factfulness 2	輪読
7	Factfulness 3	輪読
8	Human migration	reading, writing, speaking
9	Factfulness 4	輪読
10	Presumptions	再話・語り
11	Gender equality and roles Factfulness 5	４技能を取り入れた授業
12	Universal language of Humor	再話・語り
13	Examination	筆記試験
14	Another story	個人発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】reading assignment が毎週出される。

【テキスト（教科書）】
Kozo YANAGAWA and Simon Johnson (2021).Global issues in Action: Tasks that Work 東京：三修社
Rose Hansling (2018). Factfulness. Scepter.

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
1. 試験 (45%)
2. 発表 (Group and Solo 25%)
3. 貢献と姿勢 (10%)
4. 課題 (20%)

【学生の意見等からの気づき】
精読の重要性を再認識した。

【その他の重要事項】
事前に予習が求められる。

【Outline and objectives】
ベストセラー「ファクトフルネス」を原書で読みインプットを鍛えると同時に、もう一冊のテキスト「Global Issues in Action」で、平易な英語で国際問題について議論できるアウトプットの力を磨く。

LANe100LC

英語中級リーディング

北原　久嗣

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語学の研究対象とは何か。現代言語学の父と称されるノーム・チョムスキー（Noam Chomsky）教授のプリンストン大学での講演を手掛かりにこの問いに迫ります。授業では DVD "Noam Chomsky: Language and Mind" を視聴し、その英文 transcripts を読み進めていきます。

【到達目標】
言語研究が取り組む課題を通して、英語による議論の組み立て方、効果的な展開について学び、仮説群から演繹的に説明する議論を読み取る力を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式に加え、ディスカッションを行います。学生の積極的な参加を期待します。また、授業内テストを適宜行い、テキスト・配布資料に対する学生の理解度を確認します。フィードバックは、授業内、学習支援システム、メール（hisatsugu.kitahara.87@hosei.ac.jp）で行う予定です。授業形態は対面授業（状況によってはハイブリッド型、オンデマンド型）を予定しています。詳しくは授業開始時に指示しますが、毎週課題に取り組み、その総合点を成績評価の基準にします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	Language and Mind	内容把握・ディスカッション・課題
第 3 回	The Object of Inquiry	内容把握・ディスカッション・課題
第 4 回	Properties of Language	内容把握・ディスカッション・課題
第 5 回	The Language Organ	内容把握・ディスカッション・課題
第 6 回	Universal Grammar	内容把握・ディスカッション・課題
第 7 回	まとめ：言語普遍性について	内容把握・ディスカッション・課題
第 8 回	Domain Specific Cognitive Faculties	内容把握・ディスカッション・課題
第 9 回	Langauge and Grammar	内容把握・ディスカッション・課題
第 10 回	The Cognitive Revolution	内容把握・ディスカッション・課題
第 11 回	Principles and Parameters	内容把握・ディスカッション・課題
第 12 回	The Continuing Inquiry	内容把握・ディスカッション・課題
第 13 回	まとめ：言語の多様性について	内容把握・ディスカッション・課題
第 14 回	理解度の確認・まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキスト・配布資料の予習と復習は不可欠です。

【テキスト（教科書）】
視聴する DVD の英文 transcript を配布します。

【参考書】
中村駿夫著『発音記号の正しい読み方』SHORYUDO 291 円＋税 978-4-399-03099-2
その他、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加と毎週の課題への取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎週の課題への取り組みを重視します。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることもあります。

【Outline and objectives】
What is the real object of inquiry in the study of language today? We will read and discuss Chomsky's work concerned with this question. We will watch and discuss Chomsky's Princeton Lecture on Language and Mind.

LANe100LC

ビジネス英語

NEIL CONWAY

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course will give students experience with a range of business topics, and develop their ability to communicate their ideas on these topics both in written and spoken form.

【到達目標】
Students will practice gathering, engaging with and responding to information about current topics in business. By the end of the course, they will be able to:
- undertake short research tasks, and report on their findings
- analyze multiple writings from appropriate business professions
- conduct primary and secondary research relevant to topic; integrate appropriate sources using MLA style
- explain analytical /technical data in the form of charts, graphs, etc.
- provide and apply constructive peer criticism
- design accurate and visually appealing presentations
- develop strategies to facilitate communication on a number of business topics
- appreciate the impact of cultural and national differences on international business

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Each class meeting will include a review of key points in the week's topic using short reading and writing tasks, along with pair- and groupwork designed for Active Learning. The in-class topic and tasks will prepare for small-scale project-based research, and there will be opportunities for students to give short follow-up presentations to the class. Feedback will be delivered in-class each alternate week. Students will be asked to consider how these tasks relate to the topic at large. For the main assessed course components, students will be expected to do some research on a given topic and to produce a report in verbal and / or written form.
The class schedule will be flexible so that students' interests in particular business-related topics can be incorporated into the course. Within the first few weeks of the course, students will be invited to suggest topics for inclusion in the course depending on their university major or their own personal interests.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction & Orientation Case Study: Careers	Introduction to the contents and method of the class Discussion
第 2 回	Topic: Companies	Case Study Language work Group Pre-Writing
第 3 回	Case Study: Companies	Classwork & Discussion
第 4 回	Topic: Product Design	Case Study Language work Group Pre-Writing
第 5 回	Case Study: Product Design	Classwork & Discussion
第 6 回	Topic: Human Resources	Case Study Language work Group Pre-Writing
第 7 回	Case Study: Human Resources	Classwork & Discussion
第 8 回	Topic: Connecting	Case Study Language work Group Pre-Writing
第 9 回	Case Study: Connecting	Classwork & Discussion
第 10 回	Topic: Setting Up	Case Study Language work Group Pre-Writing
第 11 回	Case Study: Setting Up	Classwork & Discussion
第 12 回	Topic: Marketing	Case Study Language work Group Pre-Writing
第 13 回	Case Study: Marketing	Classwork & Discussion
第 14 回	Presentations	Wrap-up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Students will have regular homework (research, reading and writing) assignments. Students are expected to review the course materials and their own class notes regularly: this is important for progress with the language and course content.

【テキスト（教科書）】
No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer (students should have their A4 pocket folders each week to organize these handouts), or will be available online.
Library access is required for students to research their chosen research topics, and sometimes students will be expected to research and bring materials to class.

【参考書】
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_
and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to home research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Homework: 30%
Classwork (effort, participation): 30%
Project work: 40%

【学生の意見等からの気づき】
Student feedback will be sought at the end of the semester.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx: not PDF, not Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.*
Students will also be instructed to regularly visit the "Forums" section in order to communicate with other students, give and receive support etc.
Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.
Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

【Outline and objectives】
The course will give students experience with a range of business topics, and develop their ability to communicate their ideas on these topics both in written and spoken form.

LANe100LC

ビジネス英語

小林　直樹

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ビジネスの現場における英語の会話を練習し、コミュニケーション能力を高める授業とする。また、経済、社会に関する英文を読む機会を設け、ビジネスに関する理解を深める。

【到達目標】
英語での会話に堪能になり、経済、社会に関する英文を自由に読みこなすことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初はリスニングを通じて、様々な局面での英語の表現を覚える。後に受講生自らが、英語で表現をする授業とする。また新聞、雑誌などの記事を通じて経済、社会についての英文に親しむ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法の説明。
第 2 回	Unit 1: Writing a Resume	リスニングの練習。
第 3 回	Unit 2: Writing an Applicaton Letter	リスニングの練習。
第 4 回	Unit 3: Arranging an Interview Unit 4: A Job Interview	リスニングの練習。
第 5 回	Unit 5: Job Offer Unit 6: The First Dat Work	リスニングの練習。
第 6 回	Unit 7: Preparing to Work Unit 8: Telephonong	会話の練習。
第 7 回	Unit 9: Taking a Message Unit 10: Making an Appointment	会話の練習。
第 8 回	Unit 11: Visiting a Client Unit 12: Receiving a Visitor	会話の練習。
第 9 回	Unit 13: Meeting at Narita Airport Unit 14: A Business Lunch	会話の練習。
第 10 回	Unit 15: Visiting a Factory Unit 16: Sightseeing in Kyoto	会話の練習、英文タイプの練習など。
第 11 回	Unit 17: Preparing for the First Overseas Business Trip uni18: The First Overseas Business Trip	会話の練習、英文の手紙を読む。
第 12 回	所定教科書以外の英文	経済、社会についての英文を読む。
第 13 回	所定教科書以外の英文	経済、社会についての英文を読む。
第 14 回	所定教科書以外の英文	経済、社会についての英文を読む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】必ず復習をすること。また、リスニングを意欲的に行うこと。

【テキスト（教科書）】
Business Talk　やさしいオフィス英語　（城由紀子ほか著　成美堂）

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】学期末のレポート (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リスニング、会話の練習を頑張っていきましょう。

【その他の重要事項】
授業計画はあくまでも予定です。受講生の理解度に応じて、授業内容が変わることもあります。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the ability of business English.　The students will learn English conversation in business scenes, and read English sentences on the economy to improve their knowledge of business world.

LANe100LC

基礎英語

小林　直樹

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TOEIC での高得点を目指す学習を通じて、基礎的な英語力を身につけることを目標とする。また、受講生の理解力を養うため、様々な英文を、リスニングによって理解する機会を多く設ける。

【到達目標】
簡単な英語の文章なら、すべて音声を聞いて書き取ることが出来る英語力を身につけること。また、読解用の英文の音声を聞いて、ある程度の内容を理解できる英語力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、TOEIC での高得点を目指すための授業を通じて、基礎的な文法を確認し、日常会話の中で使われる語彙を身につけ、リスニング能力を高めるための授業とする。また、読解向けの英文の音声を聞いて、音声のみで内容を理解する練習を行う。オンラインで授業を進めまる場合、リスニングの課題の提出を課し、フィードバックを行うこともあります。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、評価方法の説明
第 2 回	Unit 1: Travel	TOEIC の概要
第 3 回	Unit 2: Dining Out	リスニングの練習など。
第 4 回	Unit 3: Media	リスニングの練習など。
第 5 回	Unit 4: Entertainment	語彙の習得など。
第 6 回	Unit 5: Purchasing	語彙の習得など。
第 7 回	Unit 6: Clients	文法の確認など。
第 8 回	Unit 7: Recruiting	リスニングの練習など。
第 9 回	Unit 8: Personnel	リスニングの練習など。
第 10 回	Unit 9: Advertising	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 11 回	Unit 10: Meetings	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 12 回	Unit 11: Finance	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 13 回	Unit 12: Offices	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 14 回	期末テスト	英文の書き取り、長文の聞き取り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】復習を欠かさないこと。また、リスニングを意欲的に行うこと。

【テキスト（教科書）】
THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING（金星堂）

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】点数 (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。学期末の試験の春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングを中心に授業を進めます。併せて総合的な英語力を身につけるよう頑張っていきましょう。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire basic English ability by practicing the listening section of TOEIC. The students are expected to improve their ability of comprehension by listening to various English sentences.

LANe100LC

基礎英語

川島　多加子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語をコミュニケーションの手段として用いることができるように、総合的な学習を通して基礎固めを行います。
授業では、学生は主体性をもってタスクに取り組み、英語コミュニケーションに必要な 4 技能（話す、聴く、書く、読む）を使いながら、初級～中級レベルの基本的な語彙や文法、英語の基礎力習得を到達目標とします。

【到達目標】
・学生は 100 ワードレベルの英文のおよその内容が理解できる。
・学生は理解したものを簡潔に英語で説明できる。
・学生は各単元で扱った文法・語彙を使って表現できる。
・学生はグラフ、図、表などを理解し英語で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業計画に従い、対面でもオンラインでも、グループワークやグループディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施します。具体的には、語彙の意味、英文の和訳、リスニング、スピーキング、文法問題や演習を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深めます。
授業内で行う試験、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
試験や課題の講評や学生全体に共通する問題点などは授業内で解説します。また、課題についてはピアフィードバックや振り返りを行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation How to improve English skills	・自己紹介 ・英語の 4 技能 ・目標設定 ・ディスカッション
第 2 回	Unit 1 Weather Unit 2 The Internet	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話演習 ・ディスカッション
第 3 回	Unit 3 Animals Unit 4 Friends	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話演習 ・ディスカッション
第 4 回	Unit 5 Helping Others Unit 6 Traveling	・Quiz (リスニング、語彙) ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 5 回	Unit 7 Collections and Gifts Unit 8 Careers	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 6 回	Unit 9 European Cultures Unit 10 Gifted Children	・Quiz (文法、語彙) ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 7 回	Review: Units 1-10 Midterm Exam	・前半で学習した重要ポイントのまとめと解説 ・中間試験
第 8 回	Unit 11 Restaurants Unit 12 Transportation	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 9 回	Unit 13 Homes Unit 14 Space	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 10 回	Unit 13 Homes Unit 14 Space	・Quiz (リスニング、語彙) ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 11 回	Individual/Group Presentations	・発表課題 ・講師からの講評 ・ピアフィードバック
第 12 回	Unit 17 Asian Cultures Unit 18 Modern Life	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 13 回	Unit 19 Growing Things Unit 20 Language	・Quiz (文法、語彙) ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 14 回	Review: Units 11-20 Final Exam Reflection	・後半で学習した重要ポイントのまとめと解説 ・期末試験 ・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・予習として、指定された教科書等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味を確認すること。
・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
・課題や関連リーディング教材を期日までに済ませておくこと。
・教科書の英語の本文については、必ず、音読すること。

【テキスト（教科書）】
Andrew E. Bennett, Reading Links 2, Nan'Un-Do, 2021. (￥2,100+tax)

【参考書】
必要に応じて授業時に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
・授業参加度　20 %
・小テスト　20 %
・提出課題　20 %
・中間・期末試験　40 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
・講師はグローバルに展開する大手企業でのグローバル人財育成の実務経験を生かし、学生が実社会にでて最低限必要な英語力を習得できるように支援します。

【Outline and objectives】
This course aims to develop students' English skills in the areas of reading, writing, listening, and speaking.
The thematic, integrated curriculum provides the students with a balanced approach to learning English through authentic literature, informational texts, vocabulary development, and systematic skill and grammar instruction.
The students will improve their communication skills through group activities and various tasks.

LANe100LC

基礎英語

島田　顕

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の基礎力をあげることを目標とする。

【到達目標】
英語の基礎力をあげることを目標とする。基礎力をあげるためにはまず、英語の文献によく触れ、読みこなさなければならない。本授業では、テキストを読み、訳し、内容を把握し、使われる表現から基礎語彙と熟語の復習を行う。基礎英文法を徹底的に復習し、練習問題で文法上の問題点を解消する。サブテキスト（リーディング）テキストを用いる（プリントで配布する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は，中学校・高等学校で学んだ英語の基礎固めをすることを目的とする。具体的には，基礎文法・語法の確認と定着，基礎語彙・熟語の復習と正確な綴りの確認，発音の向上と文強勢リズムの体得，ひとつの意味の塊で句切ることによって音読しながら意味を同時に掌握する練習などを行う。また，今までの学習の中での疑問
点，不確かな事項を解消させる。さらに異文化及び自国の文化の理解を深め，自主的な英語学習の動機につなげていく。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Unit 1 be 動詞	Unit 1 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Unit 2 現在形	Unit 2 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Unit 3 過去形	Unit 3 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 5 回	Unit 4 代名詞	Unit 4 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 6 回	Unit 5 前置詞	Unit 5 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	Unit 6 進行形	Unit 6 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 8 回	Unit 7 名詞と冠詞	Unit 7 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 9 回	Unit 8 助動詞	Unit 8 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 10 回	Unit 9 提案と命令	Unit 9 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 11 回	Unit 10 未来系	Unit 10 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 12 回	Unit 11 疑問文と付加疑問文	Unit 11 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 13 回	まとめｏｒ予備日	まとめ その他
第 14 回	試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　テキストの本文の訳、EXERCISES 等の問題は全員にあてる。予習は訳をノートに書いてくることが望ましい。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。

【テキスト（教科書）】
テキスト：『Ｇｒａｍｍａｒ　Ｐｌｕｓ』（南雲堂）。
サブ・テキスト：プリント配布テキスト。

【参考書】
文法参考書：豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %
※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルにより，授業の進み方を速くし，小テスト，提出物の回数を増やす。尚、各回の Unit は受講生のレベルにより、事前に告知したうえでその他の Unit（形容詞、比較、副詞、不定詞、動名詞、接続詞、受動態、語形、形容詞節、副詞節、条件節、名詞節、現在完了形）に変更する。

【学生が準備すべき機器他】
辞書、電子辞書。

【Outline and objectives】
We aim to raise the basic strength of English.　In order to raise fundamental skills, we must read, translate, grasp contents of texts and review the basic vocabulary and idioms from the expression used in the text. We also have to review the basic English grammar thoroughly and eliminate grammatical problems in by practice questions.

LANe100LC

基礎英語

川口　悠子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、いわゆる 4 技能（リーディング・ライティング・リスニング・スピーキング）全体について、英語の基礎力を高めることを目標とする。

【到達目標】
・基本的な語彙・文法事項の把握を通じて、英語をより正確に読解できるようになる。
・学んだ文法事項を用いて作文をすることで、短い英文をより正確に書けるようになる。
・音読やペアワーク、暗唱を通じて、英語の発音を改善し、スピーキング能力を高める。
・単語の発音の確認やディクテーションを通じて、リスニング能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1 回の授業で教科書の 1 ユニット分を進める。事前に予習していることを前提として進めるので、演習問題を解く時間は設けない。テキストを音読し、内容と設問の答えを確認したあと、作文やリスニング、ペアワークなどのアクティビティをおこなう。また授業 2 回ごとに、復習を目的とした小テストをおこなう。
小テストの解答で誤りが多かった問題は解説し、フィードバックとする。また授業内外での質問は積極的に授業に反映させる。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や成績評価の方法についての説明
2	Unit 1 A Real-life Superhumans	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
3	Unit 2 The 10,000 Hour Rules	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
4	Unit 3 Why Are Human Brains So Big?	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
5	Unit 4 The Advances of Sports Science	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
6	Unit 5 The End of Modern Medicine?	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
7	Unit 6 Can You Get Smarter in Your Sleep?	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
8	Unit 7 The Hidden Benefits of Boredom	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
9	Unit 8 Fighting the Menace of Mosquitoes	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
10	Unit 9 Growing Food in the Desert	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
11	Unit 10 Learning from Nature	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
12	Unit 11 Living at the Bottom of the World	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
13	Unit 12 The Great Pacific Garbage Patch	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
14	まとめと期末試験	授業内容の振り返りと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】・語学では予習が決定的に重要です。辞書を引きながら丁寧に読み、設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。
・各ユニットの復習を目的として小テストをおこないますので、準備をして臨んでください。
・基礎をきちんと築くためには、充分な量の勉強が必要です。相応の課題を出しますので、そのつもりで履修してください。

【テキスト（教科書）】
Dave Ritter『Science Arena 最新科学の探究』（成美堂、2021 年）

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト　20%
期末試験　70%
授業参加　10%
＊交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき 3 回を上限とします。かならず遅延証明を受け取ってくること。
＊正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊ 30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
＊教科書を持参していない場合、予習が不充分な場合など、出席とはみなさないこともあります。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発言について、できるだけ個別にフィードバックできるようにする。

【Outline and objectives】
This basic English course is designed to improve the basic skills in reading, writing, listening, speaking, through various activities such as reading the textbook, composition of short sentences, listening comprehension and dictation, and conversation exercise in pairs.

LANe100LC

基礎英語

川島　多加子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語をコミュニケーションの手段として用いることができるように、総合的な学習を通して基礎固めを行います。
授業では、学生は主体性をもってタスクに取り組み、英語コミュニケーションに必要な 4 技能（話す、聴く、書く、読む）を使いながら、初級～中級レベルの基本的な語彙や文法、英語の基礎力習得を到達目標とします。

【到達目標】
・学生は 100 ワードレベルの英文のおよその内容が理解できる。
・学生は理解したものを簡潔に英語で説明できる。
・学生は各単元で扱った文法・語彙を使って表現できる。
・学生はグラフ、図、表などを理解し英語で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業計画に従い、対面でもオンラインでも、グループワークやグループディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施します。具体的には、語彙の意味、英文の和訳、リスニング、スピーキング、文法問題や演習を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深めます。
授業内で行う試験、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
試験や課題の講評や学生全体に共通する問題点などは授業内で解説します。また、課題についてはピアフィードバックや振り返りを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation How to improve English skills	・自己紹介 ・英語の 4 技能 ・目標設定 ・ディスカッション
第 2 回	Unit 1 Weather Unit 2 The Internet	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話演習 ・ディスカッション
第 3 回	Unit 3 Animals Unit 4 Friends	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話演習 ・ディスカッション
第 4 回	Unit 5 Helping Others Unit 6 Traveling	・Quiz (リスニング、語彙） ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 5 回	Unit 7 Collections and Gifts Unit 8 Careers	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 6 回	Unit 9 European Cultures Unit 10 Gifted Children	・Quiz (文法、語彙） ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 7 回	Review: Units 1-10 Midterm Exam	・前半で学習した重要ポイントのまとめと解説 ・中間試験
第 8 回	Unit 11 Restaurants Unit 12 Transportation	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 9 回	Unit 13 Homes Unit 14 Space	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 10 回	Unit 13 Homes Unit 14 Space	・Quiz (リスニング、語彙） ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 11 回	Individual/Group Presentations	・発表課題 ・講師からの講評 ・ピアフィードバック
第 12 回	Unit 17 Asian Cultures Unit 18 Modern Life	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 13 回	Unit 19 Growing Things Unit 20 Language	・Quiz (文法、語彙） ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 14 回	Review: Units 11-20 Final Exam Reflection	・後半で学習した重要ポイントのまとめと解説 ・期末試験 ・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・予習として、指定された教科書等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味を確認すること。
・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
・課題や関連リーディング教材を期日までに済ませておくこと。
・教科書の英語の本文については、必ず、音読すること。

【テキスト（教科書）】
Andrew E. Bennett, Reading Links 2, Nan'Un-Do, 2021. (￥2,100+tax)

【参考書】
必要に応じて授業時に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
・授業参加度　20 %
・小テスト　20 %
・提出課題　20 %
・中間・期末試験　40 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
・講師はグローバルに展開する大手企業でのグローバル人財育成の実務経験を生かし、学生が実社会にでて最低限必要な英語力を習得できるように支援します。

【Outline and objectives】
This course aims to develop students' English skills in the areas of reading, writing, listening, and speaking.
The thematic, integrated curriculum provides the students with a balanced approach to learning English through authentic literature, informational texts, vocabulary development, and systematic skill and grammar instruction.
The students will improve their communication skills through group activities and various tasks.

LANe100LC

英語資格試験準備講座

島田　顕

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TOEIC500 点を目標にし、５０点から１００点のアップを目指し、試験対策に重点をおく。

【到達目標】
メイン・テキストでは、語彙力，文法力，リーディング力、リスニング力などの総合的な基礎英語力を養いながら、サブ・テキストでは、文法などの重点的な試験対策も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では，学生の英語目標レベル TOEIC400/500/600/700 点に応じたクラスを提供し，そこで TOEIC の問題傾向や特徴，効果的な解答のストラテジーやコツをつかみ，問題に慣れ，実践することによって５０点から１００点のスコアアップを目的とする。効果的にレベルアップを図るために，TOEIC 対策だけでなく，基本となる英語力（語彙力，文法力，リーディング力，リスニング力等）を総合的に習得できるように授業を行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Lesson 1,2 Outdoor Sports 前置詞、接続詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Lesson 3,4 Job Hunting 関係詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Lesson 5,6 At the Office 名詞、冠詞、否定その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 5 回	Lesson 7,8 Working Conditions 過去時制、完了時制その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 6 回	Lesson 9,10 Being Transferred 分祠、助動詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	Lesson 11,12 Travel and Package Tours 現在時制、未来時制その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 8 回	Lesson 13,14 Films 動詞、態その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 9 回	Lesson 15,16 Computers and Internet 不定詞、動名詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 10 回	Lesson 17,18 Advertisements 数詞、形容詞、副詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 11 回	Lesson 19,20 The Economy and Banking 比較その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 12 回	Lesson 21,22 Nature and Environment 代名詞、仮定法その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 13 回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第 14 回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　テキストの本文の訳、EXERCISES 等の問題は全員にあてる。予習は訳をノートに書いてくることが望ましい。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。

【テキスト（教科書）】
メイン・テキスト『ＴＯＥＩＣ　Ｔｅｓｔ：Ｔｏ　ｔｈｅ　Ｐｏｉｎｔ　新ＴＯＥＩＣテスト：ポイント攻略』（南雲堂）
サブ・テキスト：『グラマー・プラス　ＧＲＡＭＭＡＲ　ＰＬＵＳ』（南雲堂）、プリント配布テキスト。

【参考書】
文法参考書：豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %
※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルにより，授業の進み方を速くし，小テスト，提出物の回数を増やす。尚、各回の Lesson、Text は受講生のレベルにより、事前に告知したうえでその他の Lesson（分子構文、接続詞、語形、形容詞節、副詞節、条件節、名詞節その他）、Text に変更する。

【学生が準備すべき機器他】
辞書、電子辞書。

【Outline and objectives】
We aim for 500 points from TOEIC test, aim for 100 points up from 50 points, focus on exam preparation.
In this class, we have to cultivate overall comprehensive basic English ability such as vocabulary skills, grammatical skills, reading ability, listening skills, etc.　We also must carry out emphasis examination measures on grammar and other important measures.

LANe100LC

英語資格試験準備講座

井上　敏郎

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TOEIC テストの成績向上と共に、英語の実力も向上することを目指す。TOEIC テストの 7 種類のパターンについて、それぞれその特徴とポイントを、実践的に行っていくつもりです。

【到達目標】
学生諸君の得意な分野と苦手な分野はそれぞれ違うでしょうが、今回はリスニングと文法を確実に向上させることを目的とするつもりです。具体的には、１００点のアップを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回 TOEIC の問題を使って、実際に問題に取り組みながら、その特徴や解くポイントを説明する。また、幾つかの問題は課題とする。次週に回収した解答を使って、具体的にフィードバックを行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	授業説明	聴きづらい音の確認、リスニングの要
	リスニング　パート１	点の確認
	リーディング　パート５	語感の説明
2 回目	リスニング　パート１	問題の傾向の説明
	リーディング　パート５	語彙の傾向の説明
3 回目	リスニング　パート１	選択肢の傾向の説明
	リーディング　パート５	
4 回目	リスニング　パート２	話の流れを掴む練習を積む
	リーディング　パート６	
5 回目	リスニング　パート２	わからない文章を前後から理解する練
	リーディング　パート６	習を積む
6 回目	リスニング　パート２	語彙の確認
	リーディング　パート６	
7 回目	リスニング　パート３	ポイントとなる単語やフレーズの把握
	リーディング　パート７	の練習を積む
	（１つの文書）	
8 回目	リスニング　パート３	理解の強弱をつける練習を積む
	リーディング　パート７	
	（１つの文書）	
9 回目	リスニング　パート３	リスニングのスピードに慣れる、
	リーディング　パート７	読むスピードを上げる練習を積む
	（１つの文書）	
10 回目	リスニング　パート４	何度か聞いたり、時間をかけて読み、
	リーディング　パート７	文章の長さに慣れる練習を積む
	（２つの文書）	
11 回目	リスニング　パート４	スピードを上げて、話の流れを掴む練
	リーディング　パート７	習を積む
	（２つの文書）	
12 回目	リスニング　パート４	実際のテストと同様のシステムでどの
	リーディング　パート７	くらい理解できるかを確認する
	（２つの文書）	
13 回目	リスニング　パート４	上と同様だが、それによって自分の長
	リーディング　パート７	所、弱点を確認する
	（２つの文書）	
14 回目	実際のテストに当たる	現在の自分の実力を確認する
	（リスニング）	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】TOEIC テストに限らず、結局は問題への慣れが重要です。毎日とは言いませんが、出来るだけ多く自宅学習をやること。一番良いのは、TOEIC 公式問題集です。図書館にあると思うので、借りてやってみてください。とにかく本一冊をやりきれば、どんな本でも意味があります。

【テキスト（教科書）】
授業で配布します。

【参考書】
授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】
毎回、問題を解きながらの授業なので、一応諸君の答案を集めて確認します。この授業の性格から、平常点重視にするつもりです。真面目な授業態度を特に重要視します（６０％）。最後に行う模擬テスト（４０％）と合わせて評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
ちょっと喋るテンポが速くなったり、またたまに正解の説明を忘れたりすることがあるようなので、今回はそうならないように気をつけます。

【その他の重要事項】
辞書は必ず持参して下さい。

【Outline and objectives】
I'll show you about the characteristics of TOEIC and how to solve the questions so that you can acquire the higher scores.

LANd100LC

基礎ドイツ語 I

鈴木　淳子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の基本文法を習得する。

【到達目標】
ドイツ語の基本文法をしっかり身につけたうえで、簡単な読み書き、聞き取り、会話などができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ドイツ語の基本文法をポイントをおさえて体系的に学びながら、練習等をとおして実践力もつける。
オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。
授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	アルファベート、発音	テキスト P.1-3 補助プリント
2 回目	挨拶表現、主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化	テキスト P.4,6(第 1 課)
3 回目	数詞 (1)、不規則動詞の現在人称変化 (1)	テキスト P.5-8(第 1 課)
4 回目	名詞の性、語順、数詞 (2)	テキスト P.9-12(第 2 課)
5 回目	疑問文、否定文	テキスト P.9-12(第 2 課)
6 回目	定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形	テキスト P.13-16(第 3 課)
7 回目	並列の接続詞、数詞 (3)	テキスト P.13-16(第 3 課)
8 回目	不定冠詞、所有冠詞	テキスト P.17-20(第 4 課)
9 回目	所有冠詞（続き）、否定冠詞	テキスト P.17-20(第 4 課)
10 回目	不規則動詞の現在人称変化 (2)、名詞の 3 格、疑問代名詞	テキスト P.21-24(第 5 課)
11 回目	不規則動詞の現在人称変化 (3)	テキスト P.21-24(第 5 課)
12 回目	人称代名詞 1 格・3 格・4 格	テキスト P.25-28(第 6 課)
13 回目	非人称主語・非人称動詞	テキスト P.25-28(第 6 課)
14 回目	総復習	テキスト P.1-28(第 1-6 課)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】繰り返し復習し、音読することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
秋田静男・江口陽子他著『イン・ドイチュラント』朝日出版社

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】
前期試験 (70%)、平常点及び授業態度等 (30%) を総合して評価。
オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多くがドイツ及びドイツ語に強い関心を持っていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline and objectives】
This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills.

LANd100LC

基礎ドイツ語 I

鈴木　淳子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の基本文法を習得する。

【到達目標】
ドイツ語の基本文法をしっかり身につけたうえで、簡単な読み書き、聞き取り、会話などができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ドイツ語の基本文法をポイントをおさえて体系的に学びながら、練習等をとおして実践力もつける。
オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。
授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	アルファベート、発音	テキスト P.1-3 補助プリント
2 回目	挨拶表現、主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化	テキスト P.4,6(第 1 課)
3 回目	数詞 (1)、不規則動詞の現在人称変化 (1)	テキスト P.5-8(第 1 課)
4 回目	名詞の性、語順、数詞 (2)	テキスト P.9-12(第 2 課)
5 回目	疑問文、否定文	テキスト P.9-12(第 2 課)
6 回目	定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形	テキスト P.13-16(第 3 課)
7 回目	並列の接続詞、数詞 (3)	テキスト P.13-16(第 3 課)
8 回目	不定冠詞、所有冠詞	テキスト P.17-20(第 4 課)
9 回目	所有冠詞（続き）、否定冠詞	テキスト P.17-20(第 4 課)
10 回目	不規則動詞の現在人称変化 (2)、名詞の 3 格、疑問代名詞	テキスト P.21-24(第 5 課)
11 回目	不規則動詞の現在人称変化 (3)	テキスト P.21-24(第 5 課)
12 回目	人称代名詞 1 格・3 格・4 格	テキスト P.25-28(第 6 課)
13 回目	非人称主語・非人称動詞	テキスト P.25-28(第 6 課)
14 回目	総復習	テキスト P.1-28(第 1-6 課)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】繰り返し復習し、音読することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
秋田静男・江口陽子他著『イン・ドイチュラント』朝日出版社

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】
前期試験 (70%)、平常点及び授業態度等 (30%) を総合して評価。
オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多くがドイツ及びドイツ語に強い関心を持っていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline and objectives】
This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills.

LANd100LC

基礎ドイツ語 I

鈴木　淳子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の基本文法を習得する。

【到達目標】
ドイツ語の基本文法をしっかり身につけたうえで、簡単な読み書き、聞き取り、会話などができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ドイツ語の基本文法をポイントをおさえて体系的に学びながら、練習等をとおして実践力もつける。
オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。
授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	アルファベート、発音	テキスト P.1-3 補助プリント
2 回目	挨拶表現、主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化	テキスト P.4,6(第 1 課)
3 回目	数詞 (1)、不規則動詞の現在人称変化 (1)	テキスト P.5-8(第 1 課)
4 回目	名詞の性、語順、数詞 (2)	テキスト P.9-12(第 2 課)
5 回目	疑問文、否定文	テキスト P.9-12(第 2 課)
6 回目	定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形	テキスト P.13-16(第 3 課)
7 回目	並列の接続詞、数詞 (3)	テキスト P.13-16(第 3 課)
8 回目	不定冠詞、所有冠詞	テキスト P.17-20(第 4 課)
9 回目	所有冠詞（続き）、否定冠詞	テキスト P.17-20(第 4 課)
10 回目	不規則動詞の現在人称変化 (2)、名詞の 3 格、疑問代名詞	テキスト P.21-24(第 5 課)
11 回目	不規則動詞の現在人称変化 (3)	テキスト P.21-24(第 5 課)
12 回目	人称代名詞 1 格・3 格・4 格	テキスト P.25-28(第 6 課)
13 回目	非人称主語・非人称動詞	テキスト P.25-28(第 6 課)
14 回目	総復習	テキスト P.1-28(第 1-6 課)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】繰り返し復習し、音読することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
秋田静男・江口陽子他著『イン・ドイチュラント』朝日出版社

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】
前期試験 (70%)、平常点及び授業態度等 (30%) を総合して評価。
オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多くがドイツ及びドイツ語に強い関心を持っていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline and objectives】
This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills.

LANd100LC

ドイツ語表現

高橋　完治

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語に初めて触れる学生諸君を対象とし，身近なテーマについて話す・聞く・読む・書く練習をする．ドイツ語コミュニケーション能力の基礎を身につけることが目的である．

【到達目標】
日常生活のなかでよく使われる平易な表現や言い回しを理解し，運用できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
どのテーマも，写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める．ビデオを観て，これをテーマへの導きとする場合もある．この導入部の後，手本となる会話を多角的に理解し，これをもとに，互いにインタビューをしたり紹介文を書いたり，班同士で情報を交換して隠れた事柄を見つけ出したりなど，さまざまな内容のペア作業やグループ作業を展開する．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Kontakte (1)	あいさつを交わす／名前を訊く・答える
2	Kontakte (2)	出身地を訊く・答える／ペアで簡単な Dialog を作る
3	Kontakte (3)	国名に親しむ／ du と Sie の使い分けに慣れる
4	Kontakte (4)	「お元気ですか」の表現を使う／人を紹介する
5	Personalien (1)	名前のつづりを伝える／職業を訊く・答える
6	Personalien (2)	配偶関係・子供の有無について話す
7	Personalien (3)	居住地と年齢を訊き合う／人物の紹介文を書く
8	Familie (1)	家族のことを尋ねる・答える
9	Familie (2)	家族について簡単な記事を書く
10	Einkaufen, Möbel (1)	買い物をする時の表現を学ぶ／家具の値段を訊く・答える
11	Einkaufen, Möbel (2)	「すてきだ，モダンだ」など家具を評価する
12	Gegenstände, Produkte	身の回りの物の名を訊く／物を形容する言葉（色・形・素材）に親しむ
13	Wie viele ...?	物をいくつ持っているか，物がいくつ必要かを表現する
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】自宅でも音声教材やビデオ教材に繰り返し接し，発音の質や聞き取り能力の向上に努める．

【テキスト（教科書）】
Franz Specht u. a.: Menschen A1/1, Kursbuch. Hueber

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する．

【学生の意見等からの気づき】
学生諸君はドイツ語でやりとりすることを大いに楽しんだようだ．

【Outline and objectives】
This course is designed for students without any knowledge of the German language. By developing the four skills of speaking, listening, reading and writing, it aims at equipping the students with basic communicative abilities needed in simple everyday situations.

LANd100LC

ドイツ語表現

浦田　智

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の基礎を修得する。ドイツ語とはどんな言葉なのかを理解する。

【到達目標】
文法の初歩とそれに関連したドイツ語の文を学習し、基本的な表現を口頭で練習し簡単な内容の事柄をドイツ語で表現できるように目指します。ドイツ語を正しく発音し、基本表現を身につけ、また辞書を使いドイツ文の内容が理解できるように総合的なドイツ語の基礎力を修得することを目標とする、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ドイツ語を始めて学ぶ者を対象とする授業である。ドイツ語を正しく発音し、ドイツ語を用いての日常の表現力を養う。各課の文法の説明をまず行ない、本文のドイツ語を読み、解釈し、聞き取ったりする練習を行う。各課の練習問題の答えなどは履修者に発表してもらい、各自で内容を確認し疑問点などは質問するようにする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ドイツ語およびドイツ語圏の紹介・授業の進め方や評価の基準などの説明とテキストや辞書の説明を行う。
2	アルファベットと単語の発音	アルファベットの読み方と口頭練習・発音の原則を元に、注意すべき母音や子音の読み方を学ぶ。
3	単語の発音と簡単な挨拶	いろいろな単語を実際にどのように読むのかの確認と簡単な挨拶の表現を覚える。
4	自己紹介 (1)	現在人称変化：規則動詞・sein・haben・疑問詞のある疑問文やJa/Nein で答える疑問文の口頭練習。
5	自己紹介 (2)	現在人称変化：不規則動詞・否定詞の位置・否定疑問文の用法
6	持ち物 (1)	名詞の性と複数形を使った表現練習・冠詞 (類）の１格と４格を含んだ文のチェック。
7	持ち物 (2)	格変化のまとめ・人称代名詞の３格と４格の形と語順
8	家族 (1)	動詞の現在人称変化 (2)・非人称の es 及び自国の表現。
9	家族・好きなこと (2) 前半のまとめと演習	命令文の作り方と用法。これまでに学んだことの復習と問題練習。
10	食事	定冠詞類 (dieser など) と不定冠詞類 (所有冠詞など) の形と用法について。人称代名詞の 3 格と 4 格。
11	街にて (1)	２格支配、３格支配、４格支配）を表す前置詞を用いた表現練習。
12	街にて (2)	場所と方向（3，4 格支配）を表す前置詞を用いた表現練習。定冠詞との融合形。
13	キーセンテンスのまとめ及び補足事項の確認	会話の練習と数詞や曜日や日付を訪ねるなどの表現を学ぶ。
14	試験・まとめと解説	これまでに学習した文法事項やいろいろな場面における表現を復習確認し、試験を行ない、解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
前もって「授業テーマ」や「授業内容」を読み、教科書の該当箇所の項目についての知識を得た上で、これに目を通して疑問点を明確にしておく。また独和辞典を引き意味を確認し、付属の CD で読み方を確認する。。

【テキスト（教科書）】
「ドイツ語エコー」－スマート版ドイツ語スパイラルー　　高橋秀彰・著　　朝日出版

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。〔推薦辞書〕「新アクセス独和辞典」（三修社)、「アポロン独和辞典」（同学社）「クラウン独和辞典」(三省堂)、「独和辞典」（郁文堂)、「現代独和辞典」（三修社）など。

【成績評価の方法と基準】
中間・期末のまとめのテストの他に、毎回の授業への取り組み方、課題の提出などの点も加味して到達目標に達しているかを考慮して総合的に評価する。中間・期末
テストが 70 %、授業への取り組み方や課題の提出などが 30 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
普段から学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心がける。基本的なことはすべて板書し、学生にノートを取らせ、そのための時間が十分確保されるように気をつける。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn the basic German and to understand what the German language is like.

LANd100LC

ドイツ語中級

高橋　完治

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語技能検定試験も視野に入れながら，下記のテーマについて話す・聞く・読む・書く練習をする．ドイツ語コミュニケーション能力の向上が目的である．

【到達目標】
日常生活に必要な表現や言い回しを理解し，運用できる．ドイツ語技能検定試験 5 級レベル以上の力が身についている．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
どのテーマも，写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める．ビデオを観て，これをテーマへの導きとする場合もある．この導入部の後，手本となる会話を多角的に理解し，これをもとに，互いにインタビューをしたりメールを書いたり，班同士で情報を交換して隠れた事柄を見つけ出したりなど，さまざまな内容のペア作業やグループ作業を展開する．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Freizeit (1)	「スキーは得意」「料理は苦手」など得手不得手を話す
2	Freizeit (2)	余暇活動について話す
3	Uhrzeiten	時刻を訊く・答える
4	Verabredungen	誘い・受諾・断りの表現を学ぶ
5	Ein Tag in Berlin	ベルリン見物の日程を組む
6	Essen und Trinken (1)	食料品の名前に親しむ
7	Essen und Trinken (2)	食習慣について話す
8	Essen und Trinken (3)	「おいしく召し上がれ」「コーヒーはいかが」など食卓で使う表現を学ぶ
9	Reisen, Verkehrsmittel (1)	交通機関の名称，乗車・降車の表現，駅や車内のアナウンスに親しむ
10	Reisen, Verkehrsmittel (2)	交通機関を利用する際に必要となる情報をやり取りする
11	Vergangenes (1)	過去の行動について話す
12	Feste	ドイツの祭りやイベントについて知る／地元の祭りについてドイツ語で質疑応答する
13	Vergangenes (2)	人物の行動を描写する／経験の有無を訊き合う
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】自宅でも音声教材やビデオ教材に繰り返し接し，発音の質や聞き取り能力の向上に努める．

【テキスト（教科書）】
Franz Specht u. a.: Menschen A1/1, Kursbuch. Hueber

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する．ドイツ語技能検定試験に合格した場合は加点する．

【学生の意見等からの気づき】
ドイツ語学習は楽しい経験となったようだ．

【Outline and objectives】
This German course aims at improving students' speaking, listening, reading and writing skills in order that they can achieve communicative competence at an intermediate level. This course is also willing to assist students in preparing for the DDJ (Diplom Deutsch in Japan) tests.

LANd100LC

ドイツ語中級

浦田　智

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の基礎を確認し修得する。さらなる文法項目の学習とドイツ語への理解を深める。ドイツ語検定試験にも対応した力をつけ、５級・４級合格を目指す。

【到達目標】
ドイツ語表現に引き続きドイツ語の「読み、書き、聞き、話す」の基礎力を身につけることをまず目標とする。授業時の練習や予習・復習を通じ、着実にドイツ語の基礎力を養成する。そしてステップアップした文法事項とそれに関連したドイツ語の文章を学習しある程度の内容の事柄をドイツ語で表現でき、さらに難しい文章でも内容が理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ごく基本的なドイツ語を理解している学生が、さらにしっかりした語学力を身につけるために全般的基礎固めを行う中級入門クラスです。前期の基本文法を一通り復習し、その国で日常生活をしていくために必要な最低限の語彙と表現力を身につけるだけでなく、平易な文章を読み、書くことのできる総合的なコミュニケーション力を育成します。一連の学習を通じ、外国語への理解を深め、既定の目標レベルに到達するための成し遂げ力を養っていきます。授業の初めに、前回課題とした問題を各自に解いてもらい、それに対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	ドイツ語及びドイツ語圏に関する知識の確認。授業の進め方、評価の基準などの説明と授業で用いるプリントや辞書の説明などを行う。
2 回	単語の読み方のチェック	単語の発音の原則を基にして、注意すべき母音や子音を含む語の読み方を復習し、声に出してチェックする。
3 回	動詞の現在形（１）のチェック	単語の発音の復習と発音練習を兼ねて、数・月・曜日を覚える。主語として用いる人称代名詞と動詞の現在人称変化（１）（人称語尾に注意すべき動詞など）
4 回	語順のチェック	語順（定動詞の位置）の説明と練習。定動詞正置（S+V）と定動詞倒置（V+S）、疑問文の作り方など。
5 回	名詞と定冠詞の格のチェック	名詞と定冠詞 der の変化――名詞の数と性（男性、女性、中性）、および定冠詞 der の格の形と変化形（１格、２格、３格、４格）の解説と練習
6 回	複数形と定冠詞類のチェック	名詞の複数形と定冠詞類――名詞の複数形の種類と定冠詞 der とほぼ同じ格変化をする定冠詞類（dieser など）の使い方
7 回	不定冠詞 (類）のチェック	不定冠詞 ein と不定冠詞類――不定冠詞 ein の格変化および不定冠詞と同じ格変化をする語句（所有冠詞・否定冠詞）の使い方。否定文の作り方。
8 回	人称代名詞と動詞の現在形（２）のチェック	人称代名詞３格と４格の形態と文中におけるその語順。つづりや語尾の変化がある語幹の母音が変音する動詞の現在人称変化（２）
9 回	命令文と非人称表現、前置詞のチェック	相手によって形が変わる命令形の作り方。非人称 es の用法の説明。特定の格形（２格・３格・４格）と結びつく前置詞の意味と用法。
10 回	博物館へ：前置詞と関連した表現のチェック	３格または４格と結びつく前置詞の用法。前置詞と他の品詞との融合形（前置詞と定冠詞・「da?＋前置詞」）の用法および前置詞を含む動詞句の解説。
11 回	休暇・活動 (1)	英語の can などに相当する話法の助動詞の種類と現在人称変化形および用法上の注意点の説明と演習。未来形の形態と用法。
12 回	休暇・活動 (2)	複合動詞――基本となる動詞の前に前つずりといわれる語句がついた動詞（分離するものと分離しないものがある）の用法の説明。
13 回	天候と統計	形容詞の格語尾変化の種類と用法・比較変化の形と意味。
14 回	試験・まとめと解説	今までに学んだ項目に関連した表現を中心にチェックし、確認する。期末試験を行ない、解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
事前に「授業テーマ」や「授業内容」を読み、教科書の該当箇所の事項についての情報を得た上で、これに目を通して疑問点を明確にしておく。また、その日に学んだチェックポイントを再度確認する。

【テキスト（教科書）】
春学期使用テキスト＋プリント使用（ドイツ語検定試験問題等）、授業内に配布する。

【参考書】
〔推薦辞書〕「新アクセス独和辞典」（三修社）、「アポロン独和辞典」（同学社）「クラウン独和辞典」(三省堂)、「独和辞典」（郁文堂）、「現代独和辞典」（三修社）など。

【成績評価の方法と基準】
中間・期末のまとめのテストの他に、毎回の授業への取り組み方、課題の提出などの点も加味して到達目標に達しているかを考慮して総合的に評価する。中間・期末
テストが 70 %、授業への取り組み方や課題の提出などが 30 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】
普段から学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心がける。できるだけ説明事項は板書し、学生にノートを取らせ、そのための時間が十分確保されるように気をつける。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn the basic German and to understand what the German language is like. Moreover, the students who take part in this class read the German sentences and can understand the country "Germany" and its culture.

LAN ｆ 100LC

基礎フランス語Ⅰ

瀬戸　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級（基本）文法を学び、読み・書き・聞く・話すの総合的な語学力を養う

【到達目標】
英語とは異なるフランス語の文字の読み方と文法体系の基礎をマスターする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
フランス語の初級文法と簡単な会話表現を学ぶ。今期は対面授業を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性があります。課題の正誤は「学習支援システム」を通じてその都度個々人に通知、総合的な解説・講評は最終回にまとめて行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、アルファベ	英語との相違と共通点
②	発音の基礎	母音の発音といくつかの子音の発音
③	つづり字の読み方	つづり字の読み方の規則と発音の復習
④	簡単な挨拶表現	名刺の姓・数 旅の基本表現と数字
⑤	パリに親しむ	簡単なフランス語表現、パリの名所
⑥	be 動詞、国籍・職業を言う	形容詞と姓・数の一致，主語と動詞の活用
⑦	have 動詞、許可を求める	よく使う表現、形容詞（続き）
⑧	Cafe で注文　数字表現	人に物を頼む表現
⑨	プチ・ホテルを取る	値段を尋ねる、フランスホテル事情
⑩	場所を尋ねる	不規則動詞（１）
⑪	否定表現	許可を求める表現（２）と命令文
⑫	季節と天候表現 身体の不調を訴える	不規則動詞（２）
⑬	筆記テストと会話テスト	フランス文化理解と文法理解の確認
⑭	復習とまとめ	主な動詞の活用と簡単な会話表現の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】小テスト（会話・文法）の為の学習

【テキスト（教科書）】
「街かどのフランス語ー三訂版ー」　朝日出版
テキストは必ず「三訂版」を購入すること。アマゾンなどネット通販で間違って「新訂版」など購入すると、これは旧版で音声ダウンロードもなく、内容も違うので注意！

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（２つの会話練習含む）４０パーセント、期末テスト５０パーセント、平常点（授業参加度１０パーセント）も考慮する
上記記載の評価方法は通常の対面式授業の時のもので、オンライン授業になるとこの基準は変更となる。その場合は
毎回の小さな課題提出５０％、やや大きなレポート形式の課題３０％、簡単な小テスト２０％、を考えている。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけゆっくり丁寧に説明する

【学生が準備すべき機器他】
CD プレイヤー、ビデオ、DVD

【その他の重要事項】
極力、遅刻及び 2 回続けて休まないこと。毎回前回の学習を時間の始めにする。また新しく習う文法項目は時間の最初に説明するので。

【Outline and objectives】
This French class aims at teaching students beginners'grammar,and cultivating their comprehensive language ability in areas including reading,writing,listening,and speaking.

LAN ｆ 100LC

基礎フランス語Ⅰ

瀬戸　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級（基本）文法を学び、読み・書き・聞く・話すの総合的な語学力を養う

【到達目標】
英語とは異なるフランス語の文字の読み方と文法体系の基礎をマスターする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
フランス語の初級文法と簡単な会話表現を学ぶ。
今学期は対面授業を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性があります。課題の正誤は「学習支援システム」を通じてその都度個々人に通知、総合的な解説・講評は最終回にまとめて行う。
春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、アルファベ	英語との相違と共通点
②	発音の基礎	母音の発音といくつかの子音の発音
③	つづり字の読み方	つづり字の読み方の規則と発音の復習
④	簡単な挨拶表現	名刺の姓・数 旅の基本表現と数字
⑤	パリに親しむ	簡単なフランス語表現、パリの名所
⑥	be 動詞、国籍・職業を言う	形容詞と姓・数の一致，主語と動詞の活用
⑦	have 動詞、許可を求める	よく使う表現、形容詞（続き）
⑧	Cafe で注文　数字表現	人に物を頼む表現
⑨	プチ・ホテルを取る	値段を尋ねる、フランスホテル事情
⑩	場所を尋ねる	不規則動詞（１）
⑪	否定表現	許可を求める表現（２）と命令文
⑫	季節と天候表現 身体の不調を訴える	不規則動詞（２）
⑬	筆記テストと会話テスト	フランス文化理解と文法理解の確認
⑭	復習とまとめ	主な動詞の活用と簡単な会話表現の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】小テスト（会話・文法）の為の学習

【テキスト（教科書）】
「街かどのフランス語ー三訂版ー」　朝日出版
テキストは必ず「三訂版」を購入すること。アマゾンなどのネット通販で間違って「新訂版」などを購入すると、これは旧版で音声ダウンロードもなく、内容も違うので注意！

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（２つの会話練習含む）４０パーセント、期末テスト５０パーセント、平常点（授業参加度１０パーセント）も考慮する
上記記載の評価方法は通常の対面式授業の場合で、オンライン授業になるとこの基準は変更となる。
その場合は、
毎回の小さな課題提出５０％、レポート形式のやや大きな課題３０％、簡単な小テスト２０％、を考えている。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけゆっくり丁寧に説明する

【学生が準備すべき機器他】
CD プレイヤー、ビデオ、DVD

【その他の重要事項】
極力、遅刻及び 2 回続けて休まないこと。毎回前回の学習を時間の始めにする。また新しく習う文法項目は時間の最初に説明するので。

【Outline and objectives】
This French class aims at teaching students beginners'grammar,and cultivating their comprehensive language ability in areas including reading,writing,listening,and speaking.

LAN ｆ 100LC

基礎フランス語ＩＩ

瀬戸　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級文法の基礎力と読み・書き・聞く・話すの総合力を養う。
今学期は対面式授業を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用可能性がある。

【到達目標】
英語とは異なるフランス語の文字の読み方と基礎文法をマスターする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
フランス語初級文法の理解と簡単な会話表現を積極的・能動的に学習。今学期は対面授業を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性がある。　課題の正誤は「学習支援システム」を通じてその都度個々人に通知、総合的な解説・講評は最終回にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	前期の復習　基本動詞	基本動詞の復習、とくに発音
②	電話をかける	前期に学んだ数字表現の復習と丁寧表現
③	時刻表現、様々な疑問文	レストラン予約
④	自己紹介	疑問文の総合学習、質疑応答表現
⑤	ブティックで買い物	比較級と人称代名詞の目的格
⑥	色彩と比較表現　愛の表現	ブッティックでの買い物、試着をする
⑦	メトロに乗る	代名動詞
⑧	非人称表現、最上級	疑問文、命令文の復習
⑨	過去の表現　旅のトラブル会話	複合過去（１）
⑩	レストランで注文　フランス料理	第二の規則動詞
⑪	パリ・ディズニーランドに行く	複合過去（２）
⑫	近い未来と過去	様々なカードを書く 絵葉書を書く
⑬	まとめとテスト	現在、未来、過去の表現
⑭	初級文法の総復習	基礎的な文法項目と簡単な会話表現の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業内小テストのための事前学習

【テキスト（教科書）】
「街かどのフランス語ー三訂版ー」続き

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
２つの大きな会話課題（自己紹介とレストランでの会話）と小テスト４０パーセント、書き込み式文法練習と読解２０パーセント（授業参加度の評価）期末テスト４０パーセント
以上は対面式授業が実施された場合で、オンライン授業になった場合は、前期同様、課題５０％、やや大きなレポート課題３０％、小テスト２０％の予定。なお対面式とオンラインとの併用にになった場合は、その割合で上記 2 つの方法の組み合わせとする。

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけゆっくり丁寧に説明する

【学生が準備すべき機器他】
CD プレイヤー、ビデオ、DVD

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
This French class aims at teaching students beginners'grammar, and cultivaiting their comprehensive language ability in areas including reading,writing,listening,and speaking.

LAN ｆ 100LC

基礎フランス語ＩＩ

瀬戸　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語初級文法の基礎力と読み・書き・聞く・話すの総合力を養う。

【到達目標】
英語とは異なるフランス語の文字の読み方と基礎文法をマスターする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
フランス語初級文法の理解と簡単な会話表現を積極的・能動的に学習
今学期は対面授業を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性がある。課題の正誤は「学習支援システム」を通じてその都度個々人に通知、総合的な解説・講評は最終回にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	前期の復習　基本動詞	基本動詞の復習、とくに発音
②	電話をかける	前期に学んだ数字表現の復習と丁寧表現
③	時刻表現、様々な疑問文	レストラン予約
④	自己紹介	疑問文の総合学習、質疑応答表現
⑤	ブティックで買い物	比較級と人称代名詞の目的格
⑥	色彩と比較表現　愛の表現	ブッティックでの買い物、試着をする
⑦	メトロに乗る	代名動詞
⑧	非人称表現、最上級	疑問文、命令文の復習
⑨	過去の表現　旅のトラブル会話	複合過去（１）
⑩	レストランで注文　フランス料理	第二の規則動詞
⑪	パリ・ディズニーランドに行く	複合過去（２）
⑫	近い未来と過去	様々なカードを書く 絵葉書ををを書く
⑬	まとめとテスト	現在、未来、過去の表現
⑭	総復習	初級文法の基礎項目と簡単な会話表現の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、１時間を標準とする】授業内小テストのための事前学習

【テキスト（教科書）】
「街かどのフランス語ー三訂版ー」続き

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
２つの大きな会話課題（自己紹介とレストランでの会話）小テスト４０パーセント、書き込み式文法練習と読解２０パーセント（授業参加度の評価）期末テスト４０パーセント
上記評価方法は対面式授業時のもので、オンライン授業になる場合は変更となる。
その場合は毎回の課題５０％、やや大きなレポート課題３０％、、小テスト２０％を予定。
なお対面式とオンラインとの併用になった場合は、その割合で上記２つの方法の組み合わせとする。

【学生の意見等からの気づき】
出来るだけゆっくり丁寧に説明する

【学生が準備すべき機器他】
CD プレイヤー、ビデオ、DVD

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
This French class aims at teaching students beginners'grammar and cultivating their comprehensive language ability in areas including reading,writing,listening,and speaking.

LAN f 100LC

フランス語表現

荻野　イザベル

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語は、フランスを含めたヨーロッパ、そしてアフリカ諸国でも使用される言語である。フランス語を学びながら世界へのイメージを広げていきましょう！
この授業で、楽しくフランス語を話してみましょう！

【到達目標】
フランス語の発音になれ、簡単な話し方を学びます。
またフランスの生活、料理、文化、シャンソンにも触れたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
日常生活で便利な表現を身につける練習をやります。
ビデオ教材にそって、フランスの文化と生活のさまざまな場面を紹介します。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	présentation du cours
②	挨拶	salutations
	フランス語のうた	chansons françaises
③	この人はだれですか？	qui est-ce?
④	家族の紹介	ma famille
⑤	好き。嫌い	aimer / détester
⑥	別人になる	changer d'identité
⑦	趣味	les loisirs
⑧	買い物する	faire les courses
⑨	ヴァカンスに行く	partir en vacances
⑩	フランスの地方	villes et régions de France
⑪	過ぎた夏の歌	chanson : Colchiques dans les prés
⑫	レストランで	au restaurant
⑬	晴れのち雨	la météo
⑭	フランスの映画、YTube などの紹介	voir des vidéos en français

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
簡単な予習と復習を出します。

【テキスト（教科書）】
音声ペンで学ぶフランス語入門　パリの街角で
A Paris... avec un stylo magique
Fumitaka Ogino / Isabelle Ogino
両風堂、2015 年　　２８００¥H

【参考書】
地球の歩き方フランス　ダイヤモンド・ビッグ社
最初の授業で教科書と参考書について説明します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と平常点。
厳しい学ぶ環境ですので、総合的に判断します。
フランスとフランス語への関心を深めてください。

【学生の意見等からの気づき】
HOPPII に自然なフランス語の発音に馴染めるように新しい「教材」の URL をアップしました。
例えば、次のうたがあります：
~À La Volonté Du Peuple
- Les Misérables
https://m.youtube.com/watch?v=_G95vcrzAGk

【Outline and objectives】
This is a French language communication course for beginners.
Let's enjoy speaking French together!
And thus enlarge your vision of the world....

LAN f 100LC

フランス語表現

佐藤　正和

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「大学で、英語以外どんな言語を学びました？」こんな質問が最近就職の面接でされるようになりました。日本企業の英語圏以外の進出はめざましく、英語以外のさまざまな言語が必要な時代になっているからです。フランス語は、フランスを含めたユーロ圏、そしてアフリカ諸国でも使用される重要な言語です。大学で身につけておくべきスキルの一つだと思います。
フランス語は、初めて学ぶことになるかもしれませんが、英語を学ぶ時より簡単に身につきます。というのも、二つの言語は体系的に似かよっているからです。
この講座では、実際にフランス語

【到達目標】
確実に綴りが読めるのと自己紹介ができる程度のフランス語を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストにしたがって、ビデオなどいろいろな方法でフランス語の表現の体得をおこないます。スキットなどを、家で暗記してもらい、教室で担当を決め再現してもらいます。詳細については、オリエンテーションの時に説明します。「基礎フランス語（文法）」の履修は、相乗効果を生むので好ましい。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	授業の進め方など説明します
②	綴りと読み方	フランス語の読み方
③	綴りと読み方	フランス語の読み方
④	L1 の解説	自己紹介
⑤	L1 の解説	自己紹介
⑥	L2 の解説	ホテルにて
⑦	L2 の解説	ホテルにて
⑧	L3 の解説	他人の紹介
⑨	L3 の解説	他人の紹介
⑩	L4 の解説	カフェにて
⑪	L4 の解説	カフェにて
⑫	L5 の解説	電話をかける
⑬	L5 の解説	電話をかける
⑭	試験とまとめと解説	試験とまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】毎回いろいろな形で宿題が出ます。しっかりやってきてください！

【テキスト（教科書）】
『新彼女は食いしん坊 1』（朝日出版社）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業への積極性（40 %）
確認試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
「楽しく学べた」など毎回アンケートは好評です

【Outline and objectives】
The acquisition of the ability of speaking and reading French

LAN ｆ 100LC

フランス語中級

佐藤　正和

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「大学で、英語以外どんな言語を学びました？」こんな質問が最近就職の面接でされるようになりました。日本企業の英語圏以外の世界へ進出はめざましく、英語ともにさまざまな言語が必要な時代になっているからです。フランス語は、フランスを含めたユーロ圏、そしてアフリカ諸国でも使用される重要な言語です。大学で身につけておくべきスキルの一つだと思います。
　また身につけた証明として、英検と似た仏検 (フランス語検定) があります。4・5 級の合格をめざすために、中級フランス語では、基礎フランス語で学んだ文法・表現のスキル・アップ

【到達目標】
仏検（４，５級）合格！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
仏検（４・５級）の合格をめざし，文法・リスンニングの強化をめざします．４級の文法の範囲まで説明し，演習形式で授業を進めます．試験まで短い期間なので、宿題なども出し、提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	オリエンテーリング（必ず出席のこと）	授業の進め方について話します
②	L6（道を尋ねる）	文法の説明そして練習問題
③	L6（道を尋ねる）	ビデオそして文章の訳読・リスニング
④	L7（買い物）	文法の説明そして練習問題
⑤	L7（買い物）	ビデオそして文章の訳読・リスニング
⑥	仏検対策	過去の問題を解きながら解説していきます
⑦	仏検対策	過去の問題を解きながら解説していきます
⑧	仏検対策	過去の問題を解きながら解説していきます
⑨	L8（サッカー観戦）	文法の説明そして練習問題
⑩	L8（サッカー観戦）	ビデオそして文章の訳読・リスニング
⑪	L9（デパートで）	文法の説明そして練習問題
⑫	L9（デパートで）	ビデオそして文章の訳読・リスニング
⑬	L10（実家で）	文法の説明そして練習問題
⑭	L10（実家で）	ビデオそして文章の訳読・リスニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】合格できるかどうかは，最後には個人の努力による．授業以外でも，自分で計画を立て取り組んでもらいたい．

【テキスト（教科書）】
「彼女は食いしん坊 1」　（朝日出版社）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
総合的に判断します

【学生の意見等からの気づき】
やってよかった！ 仏検５級はちょろかった。どうせなら、４級狙えばよかった。試験の後の「打ち上げパーティ」いいすね〜。

【Outline and objectives】
The acquisition of the ability of speaking and reading French

LAN f 100LC

フランス語中級

元木　淳子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語運用能力を高める。
フランス・フランス語圏事情について認識を深める。

【到達目標】
実用フランス語技能検定資格の取得を目指す。
フランス語のインターネットサイトで情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
全学年全学科の「フランス語基礎 1」程度既習者を対象とする授業。基礎文法の理解を深め、聞き取り能力の向上を図ってフランス語運用能力を総合的に高め，実用フランス語技能検定資格 5 級以上の取得を目指す。
フランス・フランス語圏の最新事情について情報交換する場を設ける。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーについて講評し、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介 直説法複合過去	授業の紹介、 直説法複合過去の文を作る。
第 2 回	代名動詞	代名動詞で文を作る。
第 3 回	関係代名詞・指示代名詞	関係代名詞と指示代名詞を用いて文を作る。
第 4 回	直説法半過去	直説法半過去形を用いて、文を作る。
第 5 回	直説法大過去	直説法大過去形と他の過去時制とを比較する。
第 6 回	受動態	受動態の文を作る。
第 7 回	現在分詞	現在分詞を用いた文を理解する。
第 8 回	ジェロンディフ	ジェロンディフを用いて文を作る。
第 9 回	直説法単純未来	直説法単純未来を用いて文を作る。
第 10 回	直説法前未来	直説法前未来を用いた文を理解する。
第 11 回	中性代名詞	中性代名詞を用いた文を理解する。
第 12 回	条件法現在	条件法現在を用いて文を作る。
第 13 回	接続法現在 フランス語の情報を理解する。	接続法現在を用いて文を作る。 フランス語のインターネットサイトで必要な情報を得る。
第 14 回	総復習	フランス語の基礎文法と表現を総復習する。 フランス・フランス語圏について調べ、フランス語で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
フランス語の基礎文法と表現の定着をはかるため、練習問題を中心とした課題をこなします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
授業中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
平常点　５０％
実用フランス語技能検定資格への取り組み　２０％
期末試験　３０％

【学生の意見等からの気づき】
シャンソンや映画などを用いて、フランス・フランス語圏文化に親しむ。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is for students to develop communication skills in French.

LANs100LC

基礎スペイン語 I

渡辺　雅哉

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の手ほどき。文法・作文・会話の初歩的な能力を身につけることにより、広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口としたい。

【到達目標】
辞書を引きながら、簡単なスペイン文が読めたり書いたりできるようにする。また、日常的な会話能力の向上も図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。授業中に何度か課題を出し、次の授業でその回答に関する講評を行なう。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方や試験の実施方法についての説明。
教科書 1 課	アルファベットと発音	スペイン語の読み方。アクセントの位置。「私は」その他、主語になる代名詞の扱い。
教科書 2 課	名詞	名詞の性と数。
教科書 2 課	定冠詞と不定冠詞。動詞 hay。基数（0～100）	定冠詞と不定冠詞の区別。存在を示す動詞 hay の使い方。数の数え方。
教科書 3 課	主語人称代名詞。2 つの be 動詞 (ser と estar)	ser と estar の活用と使い方、使い分け。
教科書 3 課	疑問文と否定文	疑問文と否定文の作り方。
教科書 4 課	規則動詞	3 つの規則動詞の活用と使い方。
教科書 4 課	指示詞。ser de ＋名詞	指示形容詞と指示代名詞の使い方。ser de ＋名詞の 3 種類の使い方。
教科書 5 課	形容詞	形容詞の扱い。ser ＋　形容詞と estar ＋　形容詞の使い分け。
教科書 5 課	所有形容詞（前置形）。hay que　＋　不定詞（動詞の原形）	「私の」その他、所有形容詞 (前置形) の扱い。hay que ＋　不定詞の使い方。
教科書 6 課	最も単純な不規則動詞	hacer その他、最も単純な不規則動詞の活用と用い方。
教科書 6 課	時刻	時刻の表現（「何時ですか」「何時に～をしますか」「何時間～をしますか)。
教科書 1 ～6 課	復習	特に重要な事項についての確認。
春学期試験	試験・まとめと解説	基礎的な文法の知識や作文の能力を問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　事前に教科書に目を通しておく。また、特に動詞の扱いに関しては、復習にも相応の時間を割く。

【テキスト（教科書）】
西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同学社、2017 年、2500 円（税別）

【参考書】
授業中に指示する。なお、早めに辞書を用意すること（辞書については、初日のガイダンスの折に何冊か紹介する)。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、定期試験 70 %の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、課題への回答をも含めて、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

【学生の意見等からの気づき】
堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

【その他の重要事項】
わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

【Outline and objectives】
An introduction to the Spanish language to get elementary knowledge of its grammer, writing and conversation, that will make it possible to approch the varied cultures of the Spanish-speaking countries (I).

LANs100LC

基礎スペイン語 I

渡辺　雅哉

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の手ほどき。文法・作文・会話の初歩的な能力を身につけることにより、広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口としたい。

【到達目標】
辞書を引きながら、簡単なスペイン文が読めたり書いたりできるようにする。また、日常的な会話能力の向上も図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。授業中に何度か課題を出し、次の授業でその回答に関する講評を行なう。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方や試験の実施方法についての説明。
教科書 1 課	アルファベットと発音	スペイン語の読み方。アクセントの位置。「私は」その他、主語になる代名詞の扱い。
教科書 2 課	名詞	名詞の性と数。
教科書 2 課	定冠詞と不定冠詞。動詞 hay。基数（0～100）	定冠詞と不定冠詞の区別。存在を示す動詞 hay の使い方。数の数え方。
教科書 3 課	主語人称代名詞。2 つの be 動詞 (ser と estar)	ser と estar の活用と使い方、使い分け。
教科書 3 課	疑問文と否定文	疑問文と否定文の作り方。
教科書 4 課	規則動詞	3 つの規則動詞の活用と使い方。
教科書 4 課	指示詞。ser de ＋名詞	指示形容詞と指示代名詞の使い方。ser de ＋名詞の 3 種類の使い方。
教科書 5 課	形容詞	形容詞の扱い。ser ＋　形容詞と estar ＋　形容詞の使い分け。
教科書 5 課	所有形容詞（前置形）。hay que　＋　不定詞（動詞の原形）	「私の」その他、所有形容詞 (前置形) の扱い。hay que ＋　不定詞の使い方。
教科書 6 課	最も単純な不規則動詞	hacer その他、最も単純な不規則動詞の活用と用い方。
教科書 6 課	時刻	時刻の表現（「何時ですか」「何時に～をしますか」「何時間～をしますか)。
教科書 1 ～6 課	復習	特に重要な事項についての確認。
春学期試験	試験・まとめと解説	基礎的な文法の知識や作文の能力を問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　事前に教科書に目を通しておく。また、特に動詞の扱いに関しては、復習にも相応の時間を割く。

【テキスト（教科書）】
西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同学社、2017 年、2500 円（税別）

【参考書】
授業中に指示する。なお、早めに辞書を用意すること（辞書については、初日のガイダンスの折に何冊か紹介する)。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、期末試験 70 %の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、課題への回答をも含めて、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

【学生の意見等からの気づき】
堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

【その他の重要事項】
わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

【Outline and objectives】
An introduction to the Spanish language to get elementary knowledge of its grammer, writing and conversation, that will make it possible to approch the varied cultures of the Spanish-speaking countries (I).

LANs100LC

基礎スペイン語ＩＩ

渡辺　雅哉

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎スペイン語Ｉに引き続いて、スペイン語の手ほどき。広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口としたい。

【到達目標】
辞書を引きながら、さまざまなレベルのスペイン文が読めるようにする。また、いろいろな動詞を用いながら、簡単な自己紹介ができる程度の表現能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎スペイン語Ｉと同様、概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。授業中に何度か課題を出し、次の授業でその回答に関する講評を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
前期の復習	前期試験の見直し	前期試験の見直しを通じての、各人の課題の発見。
教科書 5 課	2 つの不規則動詞（ir と venir）	かなり複雑な 2 つの不規則動詞の活用と用い方。
教科書 7 課	初歩的な不規則動詞（saber と conocer）	ともに「知る」を意味する 2 つの不規則動詞の活用と使い分け。
教科書 7 課	不規則動詞（tener と decir）	２つの不規則動詞の活用と使い方。
教科書 7 課	曜日と日付その他	曜日と日付、月や季節その他の表現のまとめ。
教科書 8 課	初歩的な不規則動詞（dar と ver）。感嘆文	２つの不規則動詞の扱い。感嘆文の作り方。
教科書 8 課	目的格人称代名詞	間接（〜に）と直接（〜を）の目的格人称代名詞の扱い。
教科書 9 課	語幹母音変化動詞（pensar と querer と poder）	重要な 3 つの語幹母音変化動詞の活用と使い方。
教科書 9 課	動詞 gustar。所有形容詞（後置形）	好んで用いられる動詞 gustar の扱い。所有形容詞の、前置形よりもやや複雑な後置形の扱い。
教科書 10 課	過去分詞と現在完了	過去分詞の作り方と使い方。現在完了の扱い。
教科書 10 課	疑問詞	qué その他、疑問詞のまとめ。
教科書 11 課	再帰動詞	再帰動詞の基本的な使い方。
まとめ	総復習	動詞の扱いのまとめ。その他の文法事項の確認。
秋学期試験	試験・まとめと解説	4 月からの学習の成果を問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　事前に教科書に目を通しておく。また、特に動詞の扱いに関しては、復習にも相応の時間を割く。

【テキスト（教科書）】
西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同学社、2017 年、2500 円（税別）

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、期末試験 70 %の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、課題への回答をも含めて、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

【学生の意見等からの気づき】
堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

【その他の重要事項】
わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

【Outline and objectives】
An introduction of the Spanish langage to get elementary knowledge of its grammer, writing and conversation, that will make it possible to approach the varied cultures of the Spanish-speaking countries (II).

LANs100LC

基礎スペイン語ＩＩ

渡辺　雅哉

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎スペイン語Ｉに引き続いて、スペイン語の手ほどき。広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口としたい。

【到達目標】
辞書を引きながら、さまざまなレベルのスペイン文が読めるようにする。また、いろいろな動詞を用いながら、簡単な自己紹介ができる程度の表現能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎スペイン語Ｉと同様、概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。授業中に何度か課題を出し、次の授業でその回答に関する講評を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
前期の復習	前期試験の見直し	前期試験の見直しを通じての、各人の課題の発見。
教科書 5 課	2 つの不規則動詞（ir と venir）	かなり複雑な 2 つの不規則動詞の活用と用い方。
教科書 7 課	初歩的な不規則動詞（saber と conocer）	ともに「知る」を意味する 2 つの不規則動詞の活用と使い分け。
教科書 7 課	不規則動詞（tener と decir）	２つの不規則動詞の活用と使い方。
教科書 7 課	曜日と日付その他	曜日と日付、月や季節その他の表現のまとめ。
教科書 8 課	初歩的な不規則動詞（dar と ver）。感嘆文	２つの不規則動詞の扱い。感嘆文の作り方。
教科書 8 課	目的格人称代名詞	間接（〜に）と直接（〜を）の目的格人称代名詞の扱い。
教科書 9 課	語幹母音変化動詞（pensar と querer と poder）	重要な 3 つの語幹母音変化動詞の活用と使い方。
教科書 9 課	動詞 gustar。所有形容詞（後置形）	好んで用いられる動詞 gustar の扱い。所有形容詞の、前置形よりもやや複雑な後置形の扱い。
教科書 10 課	過去分詞と現在完了	過去分詞の作り方と使い方。現在完了の扱い。
教科書 10 課	疑問詞	qué その他、疑問詞のまとめ。
教科書 11 課	再帰動詞	再帰動詞の基本的な使い方。
まとめ	総復習	動詞の扱いのまとめ。その他の文法事項の確認。
秋学期試験	試験・まとめと解説	4 月からの学習の成果を問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】　事前に教科書に目を通しておく。また、特に動詞の扱いに関しては、復習にも相応の時間を割く。

【テキスト（教科書）】
西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同学社、2017 年、2500 円（税別）

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、期末試験 70 %の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、課題への回答をも含めて、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

【学生の意見等からの気づき】
堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

【その他の重要事項】
わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

【Outline and objectives】
An introduction of the Spanish langage to get elementary knowledge of its grammer, writing and conversation, that will make it possible to approach the varied cultures of the Spanish-speaking countries (II).

LANs100LC

スペイン語表現

日高　憲三

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は４億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。世界遺産人気ナンバーワンのマチュピチュ（ペルー）や奇跡の絶景と言われている天空の鏡ウユニ塩湖（ボリビア）が決して「遠い世界」ではなくなるでしょう。

【到達目標】
スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが...。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて○○国に行ってみたい、○○をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。
尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。５級、６級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを繰り返しながらゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力とは？	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第 2 回	教科書第１課	アファベット、母音、子音
第 3 回	教科書第１課	音節の分け方、アクセントのルール
第 4 回	教科書第２課	名詞の性、名詞の数
第 5 回	教科書第２課	冠詞、形容詞
第 6 回	教科書第３課	主格人称代名詞、ser 動詞
第 7 回	教科書第３課	文の構造、指示語
第 8 回	教科書第４課	estar 動詞、所有形容詞
第 9 回	教科書第４課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第 10 回	教科書第５課	直説法現在形・規則動詞
第 11 回	教科書第５課	直説法現在形・規則動詞
第 12 回	教科書第６課	現在形不規則動詞１
第 13 回	教科書第６課	直接目的格人称代名詞
第 14 回	教科書第７課	現在形不規則動詞２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
昨年度はオンライン授業の一環として NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用し、大きな学習効果が確認できました。今年は対面授業を行いつつも、NHK の「旅するためのスペイン語」も教材として利用したいと思います。当スペイン語クラスの受講を希望する人は、４月の第１回目の放送（４月７日、午前０時）から視聴するように準備してください（可能であれば３月の前年度の番組から視聴するのもおすすめです）。

【テキスト（教科書）】
「エスピギータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（２０１７年）２３００円

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験１００％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度のオンライン授業では NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用しつつ、独自の課題を出して調べ学習をしてもらいました。これまでの対面授業の時よりも積極的に、また主体的にスペイン語に取り組むケースが多く見受けられ、私自身びっくりしました。「英語は苦手で好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思います。

【Outline and objectives】
This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and English in not a common language.Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs100LC

スペイン語表現

日高　憲三

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は４億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。世界遺産人気ナンバーワンのマチュピチュ（ペルー）や奇跡の絶景と言われている天空の鏡ウユニ塩湖（ボリビア）が決して「遠い世界」ではなくなるでしょう。

【到達目標】
スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが...。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて○○国に行ってみたい、○○をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。
尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。５級、６級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを繰り返しながらゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力とは？	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第２回	教科書第１課	アファベット、母音、子音
第３回	教科書第１課	音節の分け方、アクセントのルール
第４回	教科書第２課	名詞の性、名詞の数
第５回	教科書第２課	冠詞、形容詞
第６回	教科書第３課	主格人称代名詞、ser 動詞
第７回	教科書第３課	文の構造、指示語
第８回	教科書第４課	estar 動詞、所有形容詞
第９回	教科書第４課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第 10 回	教科書第５課	直説法現在形・規則動詞
第 11 回	教科書第５課	直説法現在形・規則動詞
第 12 回	教科書第６課	現在形不規則動詞１
第 13 回	教科書第６課	直接目的格人称代名詞
第 14 回	教科書第７課	現在形不規則動詞２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
昨年度はオンライン授業の一環として NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用し、大きな学習効果が確認できました。今年は対面授業を行いつつも、NHK の「旅するためのスペイン語」も教材として利用したいと思います。当スペイン語クラスの受講を希望する人は、４月の第１回目の放送（４月７日、午前０時）から視聴するように準備してください（可能であれば３月の前年度の番組から視聴するのもおすすめです）。

【テキスト（教科書）】
「エスピギータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（２０１７年）２３００円

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験１００％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度のオンライン授業では NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用しつつ、独自の課題を出して調べ学習をしてもらいました。これまでの対面授業の時よりも積極的に、また主体的にスペイン語に取り組むケースが多く見受けられ、私自身びっくりしました。「英語は苦手で好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思います。

【Outline and objectives】
This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and English in not a common language.Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs100LC

スペイン語中級

日高　憲三

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は４億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】
スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが...。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて○○国に行ってみたい、○○をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。
尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。５級、６級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前期に引き続き基礎的な文法事項や会話表現などを復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。またスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解をさらに深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	教科書第８課	gustar 動詞
第 2 回	教科書第８課	前置詞格人称代名詞
第 3 回	教科書第９課	再帰動詞
第 4 回	教科書第９課	無人称文、接続詞
第 5 回	教科書第１０課	点過去１（規則動詞）
第 6 回	教科書第１０課	点過去２（規則動詞）
第 7 回	教科書第１１課	点過去（不規則動詞）
第 8 回	教科書第１１課	関係代名詞 所有形容詞
第 9 回	教科書第１２課	現在分詞
第 10 回	教科書第１２課	不定語、否定語
第 11 回	教科書第１３課	過去分詞、現在完了
第 12 回	教科書第１３課	受動態
第 13 回	教科書第１４課	比較級
第 14 回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前期に引き続き NHK の「旅するためのスペイン語」も教材として利用しますので、毎週視聴するようにしてください。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

【テキスト（教科書）】
「エスピギータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（２０１７年）２３００円

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験１００％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度のオンライン授業では NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用しつつ、独自の課題を出して調べ学習をしてもらいました。これまでの対面授業の時よりも積極的に、また主体的にスペイン語に取り組むケースが多く見受けられ、私自身びっくりしました。「英語は苦手で好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思います。

【Outline and objectives】
This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and English in not a common language.Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANc100LC

基礎中国語 I

渡辺　浩司

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では，教科書を使って，文法を中心に初級中国語の前半部分を学びながら，中国語力の基礎（言語の規則・「書く」力・「話す」力・「聞く」力）の習得を目指します。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。なお，本授業は，後期開講の「基礎中国語Ⅱ」でも同じ教科書を使います。

【到達目標】
中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（発音篇、本篇：第 1 課～第 7 課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。
小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について・中国語とは。
第 2 回	中国語の発音 (1)	発音 (1) ：解説文の説明と発音練習。練習 1。 発音 (2) ：解説文の説明と発音練習。練習 2。
第 3 回	中国語の発音 (2)	発音 (3) ：解説文の説明と発音練習。練習 3。
第 4 回	中国語の発音 (3)	発音 (4) ：解説文の説明と発音練習。練習 4。
第 5 回	中国語の発音 (4)	発音 (5) ：解説文の説明と発音練習。練習 5。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (1)	第 1 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 2 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 3 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 4 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 5 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 6 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 12 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 7 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 13 回	前期授業内容の復習	第 1 課～第 7 課の復習と補足。
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストについている CD を十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝，朝日出版社，本体： 2300 円）

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70 %）と平常点（30 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。

【Outline and objectives】
This is a course for students studying Chinese for the first time. Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language.

LANc100LC

基礎中国語ＩＩ

渡辺　浩司

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では，教科書を使って，文法を中心に初級中国語の後半部分を学びながら，中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。必要に応じて，中国語検定（準 4 級）対策も行います。前期開講の「基礎中国語Ｉ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】
中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（本篇：第 8 課～第 15 課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，基本的な実用会話を学びます。また，必要に応じて，過去問題などを使って，中国語検定（準 4 級）対策も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。
小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・中国語の文法と語彙 (1)	授業の進め方について・第 8 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 2 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 9 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 3 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 10 課：新出単語・文法ポイント。
第 4 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 10 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 5 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 11 課：新出単語・文法ポイント。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 11 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 12 課：新出単語・文法ポイント。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (8)	第 12 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (9)	第 13 課：新出単語・文法ポイント。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (10)	第 13 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (11)	第 14 課：新出単語・文法ポイント。
第 12 回	中国語の文法と語彙 (12)	第 14 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 13 回	中国語の文法と語彙 (13)	第 15 課：新出単語・文法のまとめ。第 8-14 課の復習。
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストについている CD を十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝，朝日出版社，本体： 2300 円）

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70 %）と平常点（30 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。

【Outline and objectives】
This is a class for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure. The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language.

LANc100LC

中国語表現

平井　新

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。教科書を使って、基礎的な中国語を読み、書き、聞き、話す力の習得を目指します。語学学習に加えて、中国文化の紹介なども適宜採り入れていきます。
なお、本授業は月曜日開講の「基礎中国語Ⅰ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」「中級中国語Ⅰ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】
中国語の発音、ピンイン（発音表記）の読み書き、最も広く使用されている中国語の漢字（簡体字）の読み書き、基礎的な語彙・文法・会話を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は教科書の前半部分（発音篇、本篇：第 1 課～第 7 課）を使います。ピンインの読み書き、基礎語彙の発音、簡体字（中国語の漢字）の読み書き、文法の学習を行いながら、基礎的な日常会話を学びます。また、適宜、視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について。中国語について。
第 2 回	中国語の発音 (1)	発音 (1) ：発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。 発音 (2) ：発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第 3 回	中国語の発音 (2)	発音 (3) ：発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第 4 回	中国語の発音 (3)	発音 (4) ：発音練習とあいさつ言葉。練習④⑤⑥⑦。
第 5 回	中国語の発音 (4)	発音 (5) ：発音練習とあいさつ言葉。練習④⑤⑥⑦。
第 6 回	中国語の表現と語彙 (1)	第 1 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 7 回	中国語の表現と語彙 (2)	第 2 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 8 回	中国語の表現と語彙 (3)	第 3 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 9 回	中国語の表現と語彙 (4)	第 4 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③⑥。
第 10 回	中国語の表現と語彙 (5)	第 5 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル⑤⑥。
第 11 回	中国語の表現と語彙 (6)	第 6 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル⑤⑥。
第 12 回	中国語の表現と語彙 (7)	第 7 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③⑤⑥。
第 13 回	前期授業内容の復習	第 1 課～第 7 課の復習と補足
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】語学を身につけるには反復練習が重要です。授業で習った文章をできるだけ多く声に出して練習するようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体： 2300 円）。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70 %）と平常点（30 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
発音の反復練習が有効であると思われるので、本授業でも行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
ＣＤ関連機器。

【Outline and objectives】
This course will focus on Chinese pronunciation, how to read pronunciation notation, reading and writing kanji (simplified letters), and provide practice applying basic vocabulary, grammar and conversation patterns.

LANc100LC

中国語表現

杉本　公子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。中国語の基礎的な読み、書き、聞き、話す力の習得を目指します。語学学習に加えて、中国文化の紹介なども適宜とり入れていきます。
なお、本授業は月曜日開講の「基礎中国語Ⅰ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」「中級中国語Ⅰ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】
(1) 正確な発音を身につける。
(2) 発音表記が正確に読める。
(3) 基礎的な文法を理解する。
(4) 初歩的な会話ができる。
(5) 基礎的な作文ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は教科書の前半部分（発音篇、本篇：第 1 課～第 6 課）を学びます。ピンインの読み書き、基礎語彙の発音、簡体字（中国語の漢字）の読み書き、文法の学習を行いながら、基礎的な日常会話を学びます。また、中国文化にも親しみます。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
	発音 (1)：単母音	発音 (1)：発音表記・単母音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第 2 回	発音 (2)：複母音	発音 (2)：複母音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第 3 回	発音 (3)：子音	発音 (3)：子音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第 4 回	発音 (4)：鼻音	発音 (4)：鼻音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第 5 回	発音 (5)：声調の組み合わせ	発音 (5)：声調の組み合わせ 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤⑥。
第 6 回	表現と語彙 (1) 第 1 課	第 1 課：動詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 7 回	表現と語彙 (2) 第 2 課	第 2 課：疑問詞疑問文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 8 回	表現と語彙 (3) 第 3 課	第 3 課：所有 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 9 回	表現と語彙 (4) 第 4 課	第 4 課：形容詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 10 回	表現と語彙 (5) 第 5 課	第 5 課：存在 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 11 回	表現と語彙 (6) 第 6 課	第 6 課：名詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 12 回	復習	復習（第 1～6 課）
第 13 回	期末試験１	期末試験（筆記）
第 14 回	期末試験２・まとめと復習	期末試験（音読） 第 1 課～第 6 課の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国語によるコミュニケーション能力を養うには、できるだけ多く練習することが大切です。教科書付録の CD も活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの聞き取りや発音の反復練習をしてみましょう。
漢字に頼らず、耳を慣らしてください。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（受講態度・発声音量）15 %、課題内容 25 %、期末試験（筆記 5 対音読 1）60 %として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
漢字は、見て理解できても、いざ書こうとするとわからなくなるもの。書いて覚えましょう。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器。

【Outline and objectives】
Chinese Communication: A Mandarin Chinese course for students with no background in Chinese. Students will be offered training in applying their newly gained Chinese skills in listening, speaking, reading and writing. Special emphasis will be placed on developing accurate pronunciation. Students are also recommended to enroll in Basic Chinese 1 held during the spring semester.

LANk100LC

基礎朝鮮語 I

松本　ジュン

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。とくに日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】
ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに，朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。
受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場を設ける。
また、毎回提出される課題については教員が確認をおこない、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ハングルの仕組みと文章構造	朝鮮語の語順、語彙、分かち書きについて練習
第 2 回	基本母音字	母音の発音と聞き取りの練習
第 3 回	基本子音字 1	子音の発音と聞き取りの練習
第 4 回	基本子音字 2 ＆単語練習	子音の発音と聞き取りの練習
第 5 回	重母音＆単語練習	重母音の発音と聞き取りの練習
第 6 回	パッチム＆単語練習	終声の発音と聞き取りの練習
第 7 回	文字について	単語ゲーム
第 8 回	発音の変化	音韻変化について練習
第 9 回	発音の変化の活用	音韻変化について練習
第 10 回	私は日本人です	です、ですか表現の練習
第 11 回	期末テストのプレビュー	これまでの学習内容をもう一度考える
第 12 回	韓国体験１	料理の紹介
第 13 回	韓国体験２	ソウルの紹介
第 14 回	総まとめ	これまでの内容を復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になりますので、持続的な学習が大切になります。
予習よりも復習を重点的に行ってください。予習としては CD の音声を聞くのが効果的でしょう。また、学習効果を高めるために、曜日を離して「朝鮮語表現」、「朝鮮語中級」の両方の履修をお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『ＮＥＷ！ 韓国語＆会話』魏 聖銓 右文書院 2014

【参考書】
『韓国語の初歩　改訂版』（白水社）
『韓日辞典』(民衆書林出版／三修社販売)・『ポータブル日韓・韓日辞典』(小学館)

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
期末テスト　 60 %
授業内の小テスト、課題、宿題、平常点　 40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。
語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので
日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline and objectives】
This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing,and then introduces students to basic expressions in korean using
basic grammar rules.Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

LANk100LC

基礎朝鮮語 I

松本　ジュン

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。とくに日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】
ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに，朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。
受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場を設ける。
また、毎回提出される課題については教員が確認をおこない、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ハングルの仕組みと文章構造	朝鮮語の語順、語彙、分かち書きについて練習
第 2 回	基本母音字	母音の発音と聞き取りの練習
第 3 回	基本子音字 1	子音の発音と聞き取りの練習
第 4 回	基本子音字 2 ＆単語練習	子音の発音と聞き取りの練習
第 5 回	重母音＆単語練習	重母音の発音と聞き取りの練習
第 6 回	パッチム＆単語練習	終声の発音と聞き取りの練習
第 7 回	文字について	単語ゲーム
第 8 回	発音の変化	音韻変化について練習
第 9 回	発音の変化の活用	音韻変化について練習
第 10 回	私は日本人です	です、ですか表現の練習
第 11 回	期末テストのプレビュー	これまでの学習内容をもう一度考える
第 12 回	韓国体験１	料理の紹介
第 13 回	韓国体験２	ソウルの紹介
第 14 回	総まとめ	これまでの内容を復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になりますので、持続的な学習が大切になります。
予習よりも復習を重点的に行ってください。予習としては CD の音声を聞くのが効果的でしょう。また、学習効果を高めるために、曜日を離して「朝鮮語表現」、「朝鮮語中級」の両方の履修をお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『ＮＥＷ！ 韓国語＆会話』魏 聖銓 右文書院 2014

【参考書】
『韓国語の初歩　改訂版』（白水社）
『韓日辞典』(民衆書林出版／三修社販売)・『ポータブル日韓・韓日辞典』(小学館)

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
期末テスト　 60 %
授業内の小テスト、課題、宿題、平常点　 40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。
語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline and objectives】
This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing,and then introduces students to basic expressions in korean using
basic grammar rules.Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

LANk100LC

基礎朝鮮語ＩＩ

松本　ジュン

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。とくに日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】
ハングルの読み・書きを覚えて初歩的な文法に基づいた表現を習得し、簡単な会話能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに，朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。
受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場を設ける。
また、毎回提出される課題については教員が確認をおこない、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	趣味は何ですか	「～が好きですか」表現の練習
第 2 回	韓国にも十二支はありますか	十二支について学習する
第 3 回	韓国体験３	プサンに行ってみよう！
第 4 回	昨日何をしましたか	過去、完了形の練習
第 5 回	韓国体験４	慶州に行ってみよう！
第 6 回	コンビニでの買い物	希望を表す表現の練習
第 7 回	ソウルの観光スポット	仁寺洞、北村、ソウルタワー
第 8 回	明洞ホテルはどこですか	「～してください」「～だからです」表現の練習
第 9 回	この靴履いてみてもいいですか	許可を表す表現の練習
第 10 回	期末テストのプレビュー	これまでの学習内容を復習
第 11 回	韓国の文化	韓国の文化について紹介する
第 12 回	オミジャ茶一つください	カフェで注文してみよう！
第 13 回	インターネットは使えますか	可能表現と不可能表現の練習
第 14 回	総まとめ	これまでの内容を復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になりますので、持続的な学習が大切になります。
予習よりも復習を重点的に行ってください。予習としては CD の音声を聞くのが効果的でしょう。また、学習効果を高めるために、曜日を離して「朝鮮語表現」、「朝鮮語中級」の両方の履修をお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『ＮＥＷ！ 韓国語＆会話』魏 聖鉉 右文書院 2014

【参考書】
『韓国語の初歩　改訂版』（白水社）
『韓日辞典』(民衆書林出版／三修社販売)・『ポータブル日韓・韓日辞典』(小学館)

【成績評価の方法と基準】
期末テスト　60 %
授業内の小テスト、課題、宿題、平常点　40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。
語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline and objectives】
This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and
writing,and then introduces students to basic expressions in korean using
basic grammar rules.Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

LANk100LC

基礎朝鮮語ＩＩ

松本　ジュン

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。とくに日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】
ハングルの読み・書きを覚えて初歩的な文法に基づいた表現を習得し、簡単な会話能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに，朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。
受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場を設ける。
また、毎回提出される課題については教員が確認をおこない、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	趣味は何ですか	「～が好きですか」表現の練習
第 2 回	韓国にも十二支はありますか	十二支について学習する
第 3 回	韓国体験３	プサンに行ってみよう！
第 4 回	昨日何をしましたか	過去、完了形の練習
第 5 回	韓国体験４	慶州に行ってみよう！
第 6 回	コンビニでの買い物	希望を表す表現の練習
第 7 回	ソウルの観光スポット	仁寺洞、北村、ソウルタワー
第 8 回	明洞ホテルはどこですか	「～してください」「～だからです」表現の練習
第 9 回	この靴履いてみてもいいですか	許可を表す表現の練習
第 10 回	期末テストのプレビュー	これまでの学習内容を復習
第 11 回	韓国の文化	韓国の文化について紹介する
第 12 回	オミジャ茶一つください	カフェで注文してみよう！
第 13 回	インターネットは使えますか	可能表現と不可能表現の練習
第 14 回	総まとめ	これまでの内容を復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になりますので、持続的な学習が大切になります。
予習よりも復習を重点的に行ってください。予習としては CD の音声を聞くのが効果的でしょう。また、学習効果を高めるために、曜日を離して「朝鮮語表現」、「朝鮮語中級」の両方の履修をお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『ＮＥＷ！ 韓国語＆会話』魏 聖鉉 右文書院 2014

【参考書】
『韓国語の初歩　改訂版』（白水社）
『韓日辞典』(民衆書林出版／三修社販売)・『ポータブル日韓・韓日辞典』(小学館)

【成績評価の方法と基準】
期末テスト　60 %
授業内の小テスト、課題、宿題、平常点　40 %

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。
語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline and objectives】
This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and
writing,and then introduces students to basic expressions in korean using
basic grammar rules.Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

LANk100LC

朝鮮語表現

魏　聖銓

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：楽しく韓国語の表現を学ぼう

【到達目標】
ハングルの読み・書きを覚えて初歩的な文法に基づいた表現を習得し、韓国旅行などに使える簡単な会話能力を身につけることを目標にしています。 ハングル能力検定試験 5 級についてもガイドします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる．それにともなう各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示する．本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する．
提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う．
韓国語を学びたい人を対象にし、韓国語の文字であるハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を楽しく学び、それに基づいた表現を身に付けるようにします。
簡単なフレーズ、会話表現も練習します。また、K-POP、韓国の文化、ソウルの風景についても随時紹介します。 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	韓国語と文字について	自分の名前が書ける！ 韓国語と文字の紹介
2	基本母音字	基本母音字＆単語練習 アンニョンハセヨ（こんにちは）
3	基本子音字１	単語ゲームにチャレンジ/　カムサハムニダ（ありがとうございます）
4	基本子音字２	基本子音字２＆単語練習 トマンナヨ　（また会いましょう）
5	重母音	重母音＆単語練習
6	パッチム（終声）	パッチム（終声）＆単語練習 チョンマネヨ（どういたしまして）
7	文字のまとめ	文字に関する　　単語ゲーム２つ チャルモッケスムニダ（いただきます）
8	発音の変化について	７つの発音変化の簡単法則
9	発音の変化の活用例	パッチムの７グループも覚えましょう！
10	会話１　私は日本人です。	会話１　私は日本人です。 ハングルの表記と発音の間は？
11	会話２　ツツジではありません。	名詞の否定表現／期末テストのプレビュー
12	会話３　時間ありますか。	＜韓国体験１＞ 韓国の料理「サムゲタン」の紹介
13	簡単文法	＜韓国体験２＞　ソウルの風景
14	応用会話の練習 まとめ。	買い物の場面での会話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『NEW!　韓国語＆会話』　魏 聖銓　右文書院

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
楽しく、継続すれば、韓国語は自分のものになる。

【学生が準備すべき機器他】
赤色のペン

【Outline and objectives】
Korean expression
Students will review the writing system, pronunciation, and grammar learned at the elementary level while acquiring elementary communication skills.

LANk100LC

朝鮮語表現

魏　聖銓

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：楽しく韓国語の表現を学ぼう

【到達目標】
ハングルの読み・書きを覚えて初歩的な文法に基づいた表現を習得し、韓国旅行などに使える簡単な会話能力を身につけることを目標にしています。 ハングル能力検定試験 5 級についてもガイドします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
韓国語を学びたい人を対象にし、韓国語の文字であるハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を楽しく学び、それに基づいた表現を身に付けるようにします。
簡単なフレーズ、会話表現も練習します。また、K-POP、韓国の文化、ソウルの風景についても随時紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	韓国語と文字について	自分の名前が書ける！ 韓国語と文字の紹介
2	基本母音字	基本母音字＆単語練習 アンニョンハセヨ（こんにちは）
3	基本子音字１	単語ゲームにチャレンジ/　カムサハムニダ（ありがとうございます）
4	基本子音字２	基本子音字２＆単語練習 トマンナヨ　（また会いましょう）
5	重母音	重母音＆単語練習
6	パッチム（終声）	パッチム（終声）＆単語練習 チョンマネヨ（どういたしまして）
7	文字のまとめ	文字に関する　　単語ゲーム２つ チャルモッケスムニダ（いただきます）
8	発音の変化について	７つの発音変化の簡単法則
9	発音の変化の活用例	パッチムの７グループも覚えましょう！
10	会話 1　私は日本人です。	会話 1　私は日本人です。 ハングルの表記と発音の間は？
11	会話 2　ツツジではありません。	名詞の否定表現／期末テストのプレビュー
12	会話 3　時間ありますか。	＜韓国体験１＞ 韓国の料理「サムゲタン」の紹介
13	簡単文法	＜韓国体験２＞　ソウルの風景
14	応用会話の練習	買い物の場面での会話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『NEW!　韓国語＆会話』　魏 聖銓　右文書院

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1　簡単会話の力試し、期末試験（60%）
2　課題点、平常点、レポート、（40%）

【学生の意見等からの気づき】
楽しく、継続すれば、自分のものになる

【学生が準備すべき機器他】
赤色のペン

【Outline and objectives】
Korean expression
Students will review the writing system, pronunciation, and grammar learned at the elementary level while acquiring elementary communication skills.

LANk100LC

朝鮮語中級

魏　聖銓

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：楽しく韓国語の表現を学ぼう

【到達目標】
ハングルの読み・書きを覚えて初歩的な文法に基づいた表現を習得し、韓国旅行などに使える簡単な会話能力を身につけることを目標にしています。 ハングル能力検定試験 5 級についてもガイドします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
韓国語を学びたい人を対象にし、韓国語の文字であるハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を楽しく学び、それに基づいた表現を身に付けるようにします。
提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う.
簡単なフレーズ、会話表現も練習します。また、K-POP、韓国の文化、ソウルの風景についても随時紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前期の復習	前期の復習
2	会話 4　見ませんか。	道を訪ねるときの表現
3	韓国にも十二支はあります。	＜韓国体験３＞　慶州に行ってみよう！
4	会話 5　趣味はなんですか。	疑問代名詞
5	会話 6　昨日何をしましたか。	過去形の練習
6	会話 7　カップラーメンも食べてみたいです。	韓国のコンビニで買い物
7	会話 8　少し遅れそうです。	＜韓国体験４＞　仁寺洞に行ってみよう！
8	韓国へ旅しよう！	ソウルの観光スポット　仁寺洞、北村、ソウルタワーなど
9	会話 9　明洞ホテルはどこですか	タクシーでの会話
10	会話 10　この靴履いてみてもいいですか。	買い物の会話
11	期末テストのプレビュー	復習＆おさらい
12	韓国の文化	異文化コミュニケーション
13	会話 11　オミジャ茶１つください。	カフェでの注文！
14	会話 12　インターネットは使えますか。 まとめ。	可能・不可能の表現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『NEW!　韓国語＆会話』　魏 聖銓　右文書院

【参考書】
随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1　簡単会話の力試し、期末試験（60%）
2　課題点、平常点、レポート、（40%）

【学生の意見等からの気づき】
楽しく、継続すれば、自分のものになる！

【学生が準備すべき機器他】
赤色のペン

【Outline and objectives】
Intermediate Korean
Students will master basic Hangul grammar, vocabulary, and knowledge of expressions as well as daily conversation and composition skills.

BSP100LC

文章作法

堀井　一摩

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とします。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学んでいきます。最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とします。

【到達目標】
①わかりやすく正確な日本語の書き方を習得する。
②議論を構築し、文章で表現できるようになる。
③学術レポートが書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義と演習から成り、その進行は大きく三段階に分けられます。まず、読みやすく正確な文を書くための基本について学び、演習を行います。次に、説得力のある議論の立て方を学び、小論文を作成します。最後に、学術レポートを書くための文献検索や情報処理の技術を学び、期末課題としてレポートを作成します。
※演習を多く取り入れた授業構成とします。授業中に書いてもらった課題は、ピアレビューや添削によってよりよい作文に仕上げていきます。課題へのフィードバックは「学習支援システム」または紙媒体での添削とコメントによって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（授業内容の理解）・文章表現の基本（1）	・オリエンテーション（抽選、授業の目標、進め方および成績評価の説明） ・語順の法則
第 2 回	文章表現の基本（2）	・読点のうち方 ・書き言葉と話し言葉 ・小テスト（添削演習）
第 3 回	自己表現の実践（1）	・課題作成（怖い話／笑い話）
第 4 回	自己表現の実践（2）	・課題の返却と講評 ・主述の一致 ・長文の分割
第 5 回	論文入門（1）	・論文とは何か ・論理とは何か ・要約練習 ・文章整序
第 6 回	論文入門（2）	・論証とは何か ・論証のパターン① ・400 字作文
第 7 回	論文入門（3）	・論証のパターン②（反論） ・議論分析の方法 ・400 字作文
第 8 回	論文入門（4）	・パラグラフ・ライティング ・パッセージの構成法 ・アウトラインの作成
第 9 回	意見表明の実践（1）	・課題作成
第 10 回	意見表明の実践（2）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第 11 回	意見表明の実践（3）	・課題作成
第 12 回	意見表明の実践（4）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第 13 回	情報収集と情報処理（1）	・先行研究の調べ方 ・注と参考文献 ・話題ストラテジー
第 14 回	情報収集と情報処理（2）	・スキャニング ・スキミング ・要約練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・第 2 回：小テストを見直し、授業内容を復習する。
・第 4・10・12 回：課題文の返却後、添削・講評を参考に作文を書き直す。
・第 13・14 回：レポート作成に必要な資料を読み、文献メモを作る。レポートのアウトラインを作成する。レポートを書き、推敲する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。レジュメを配布します。

【参考書】
戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス、2012 年
野内良三『日本語作文術』中公新書、2010 年
野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006 年

【成績評価の方法と基準】
配分：
平常点（小テスト・400 字作文）（20 %）
課題文（40 %）
レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
双方向的な授業にしますが、一人の学生に当てる時間が長すぎないように調整します。メールでの質問にできるだけ迅速に対応するよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使用する場合があります。

【その他の重要事項】
受講希望者が定員を超えた場合は抽選になります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

【Outline and objectives】
The aim of this class is to provide students with writing skills to express themselves clearly and persuasively. Students will improve academic writing skills by reading articles and essays critically, editing grammatical and rhetorical errors, learning how to compose an argument, and developing research skills.

BSP100LC

情報リテラシーと表現技術

三牧　宏彬

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンの基本操作と情報モラルについて学ぶ。さらに、レポートや卒論の作成、発表に必要な、パソコンの基本的なソフト（ワード、エクセル、パワーポイント等）の使い方を学ぶ。

【到達目標】
コンピュータを使用して、レポート課題の情報収集、レポートの作成、提出ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ノートパソコンを使用し、パソコンの基本的操作、インターネットの利用、ワープロ、表計算、グラフ作成、プレゼンテーション資料の作成、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使用して行う予定。
春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネットと電子メール	接続方法と使用方法
第 2 回	ワードによる文章の作成（1）	文字の入力、ページ設定、移動とコピー
第 3 回	ワードによる文章の作成（2）	文字サイズの変更・装飾、表の挿入、ワードアート
第 4 回	ワードによる文章の作成（3）	文書入力の演習
第 5 回	ワードによる文章の作成（4）	まとめと演習
第 6 回	エクセルの基本操作（1）	文字と数字、データ入力の基礎、計算式の入力
第 7 回	エクセルの基本操作（2）	関数を使った計算式、罫線、行の挿入、絶対参照と相対参照
第 8 回	エクセルの基本操作（3）	グラフの作成
第 9 回	ワードとエクセルの活用	ワードにエクセルの表とグラフの貼り付け
第 10 回	パワーポイントの基本操作（1）	基本操作
第 11 回	パワーポイントの基本操作（2）	ワードとエクセルの連携活用
第 12 回	パワーポイントの基本操作（3）	文字の入力、アニメーション効果、グラフと図の貼り付け
第 13 回	パワーポイントの基本操作（4）	オリジナルパワーポイントの作成
第 14 回	最終課題の作成	課題内容と作成手順の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】本学の情報支援システム利用ガイドおよびインターネット利用ガイドを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
「Microsoft Office 2019 を使った情報リテラシーの基礎」，近代科学社
「30 時間でマスター Office2019（Windows10 対応）」，実教出版株式会社

【成績評価の方法と基準】
評価方法：各授業における演習（50%）とレポート提出（50%）で評価する。
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
スクリーンへ投射した文字等を大きく表示し、わかりやすい授業を行うよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン。

【Outline and objectives】
This course introduces the fundamental operation for personal computers and how to use effectively software. In addition, the course introduces how to compose PowerPoint for scientific presentation.

BSP100LC

情報リテラシーと表現技術

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
レポート作成や研究教育活動で必要な学内システムやパソコンの基本操作方法，ワード，エクセル，パワーポイント等のソフトウェアの使い方および情報モラルに関する知識の取得を目的とする．

【到達目標】
研究レポートの作成方法，データの処理方法，わかりやすいプレゼンテーションの作成方法および適切な情報の扱い方を習得する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
貸与パソコンを用いた演習により各テーマを学ぶ．基本的には Zoom 等を用いた双方向通信型の授業を行う．社会情勢や学内環境に応じて授業の実施方法や計画を変更する場合がある．変更の場合，学習支援システムにてその都度指示する．また，貸与パソコンの配布状況に応じて授業開始日を変更する．4 月 5 日までには具体的な授業実施方法や授業開始日について学習支援システムにて通知する．授業の最初に前回の授業で提出された課題の解答例や傾向を全体へフィードバックする．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の説明・概論，PC の使い方
第 2 回	インターネットと学内システムの利用	インターネット，メール，学習支援システム，文献調査
第 3 回	ワードの概要	ワードの基本操作
第 4 回	ワードによる文章作成	レポート作成に必要な操作と知識
第 5 回	レポートの作成	作文技術と表現
第 6 回	エクセルの概要	エクセルの基本操作
第 7 回	エクセルによるデータ処理 (1)	表の操作とグラフ作成
第 8 回	エクセルによるデータ処理 (2)	基本関数機能を用いたデータ処理
第 9 回	エクセルによるデータ処理 (3)	関数機能を用いたデータ処理の応用
第 10 回	エクセルによるデータ処理演習 (1)	電気電子分野のデータを利用したエクセルの演習 (1)
第 11 回	エクセルによるデータ処理演習 (2)	電気電子分野のデータを利用したエクセルの演習 (2)
第 12 回	パワーポイントの概要	パワーポイントの基本操作
第 13 回	パワーポイントによるプレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの作成方法
第 14 回	最終課題の作成	ワード，エクセル，パワーポイントを用いた総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
パソコン操作に慣れるように，授業後は復習を行うこと．

【テキスト（教科書）】
特に指定しない．

【参考書】
小野目如快『Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー』実教出版
木下是雄 『理科系の作文技術』 中央公論新社

【成績評価の方法と基準】
授業内で課すレポート課題 80 %，平常点 20 %とし，総合的に評価したうえで 100 点満点中 60 点以上を合格とする．授業方法変更に伴い，成績評価方法が変更となる場合は授業中に通知する．

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません．

【学生が準備すべき機器他】
貸与 PC を利用する．資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する．

【その他の重要事項】
民間企業の研究開発に携わってきた教員が，業務効率を向上させる Microsoft Office の利用法についても講義する．

【Outline and objectives】
The purpose of this course is acquire knowledge of basic computer operations, how to use software(Word, Excel, and PowerPoint) and computer literacy.

BSP100LC

情報リテラシーと表現技術

若林　哲

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系レポートにふさわしい表現力や効果的なプレゼンテーションの仕方を習得する。

【到達目標】
理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、ワード・エクセル・パワーポイントを用いた効果的なレポート作成とインパクトのあるプレゼンテーションの仕方を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始前にオリエンテーションの視聴確認を行い、オンライン講義と演習を行う (予定)。
ワード・エクセル・パワーポイントを用いたレポート作成演習を行う。この演習を通して、理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、効果的なプレゼンテーションについても学習する。提出課題については授業内でのフィードバックと個別フィードバックを適宜行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報リテラシーとは	情報リテラシーとは何かについてを学ぶ。
第 2 回	ワードは便利？ それとも不便？	実際に Word を使ってできる便利な機能、日本語作成にとっては不便な部分を克服する方法を知る。
第 3 回	エクセルで文書作成？	表計算のツールでもある Excel を使ってレポートの作成もできる可能性を探る。
第 4 回	ワードとエクセルでレポート作成！	文章設計や科学論文の書き方を学び、IoT 機器の結果からレポートを作成する。
第 5 回	パワーポイントでプレゼン！	PowerPoint を使ってどんなプレゼンができるのかチャレンジする。
第 6 回	パワーポイントにエクセルの表やグラフを組み込む	PowerPoint のプレゼンに Excel で作成した表やグラフをきれいに入れる技を習得する。
第 7 回	レポートを作成しよう	実験データを提供し、その値を元に実験レポートを Word と Excel で作成する。 インターネットを用いて調査し、レポートをまとめる。
第 8 回	グラフの作成と中間テスト	Excel を使ったグラフ作成方法の基本と応用を習得する。 【中間テスト】
第 9 回	困ったときにどうするか？	得す Office の利用方法をインターネット検索で調べる方法のこつを習る。
第 10 回	エクセル演習	Excel を使って統計処理、グラフ作成の演習を行う。
第 11 回	ワード演習	Word を使ってレポート作成の演習を行う。
第 12 回	パワーポイント演習	PowerPoint を使ってプレゼン作成の演習。
第 13 回	最終課題演習	提示されたデータを元に Office で資料を作成する
第 14 回	授業内テスト	講座で学んだ事柄に関するテストを授業内で実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書は基本的に自習用となっており、事前に独習して進める。授業中は基本的な使い方は教科書で自習している前提で演習を行う。
講義資料は授業の数日前に Hoppii よりダウンロードできるように準備し、PDF で配布する。
演習課題は、残りを時間外に復習も兼ねて完成させ、レポートにまとめ期日までに提出する。

【テキスト（教科書）】
講義資料は授業の数日前に Hoppii よりダウンロードできるように準備し、PDF で配布する。
下記書籍を生協では準備してもらっているが、アマゾンなどでは品切れのようなので、Hoppii で状況を確認すること。
書籍名： 30 時間でマスター　Office2019
出版社：実教出版
定価　：本体 1000 円
ISBN　： 978-4-407-34835-4

【参考書】
書籍名：サイエンス・ライティング入門
著者名：落合洋文
出版社：ナカニシヤ出版
定価　：本体 1500 円
ISBN978-4-7795-0139-5
書籍名：理科系の作文技術
著者名：木下是雄
出版社：中公新書
定価　：本体 700 円
ISBN4-12-100624-0

【成績評価の方法と基準】
評価方法：　演習や課題の提出物で評価 (40%)、中間テスト (20%)、最終課題 (20%)、授業内テスト (20%) で総合的に評価する。
評価基準：　本科目において設定した達成目標を 60 %以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
日本語に限らず、情報を発信するために必要な事柄を身につけて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】
貸与されたノートパソコンまたは Office が使えるノートパソコン。

【その他の重要事項】
基本的に Office のアプリの基本的な使い方は教科書を読みながら自習して事前に進めておく事。授業内では自習でわからなかった部分の質問に対応する形とする。

【Outline and objectives】
Learn the expressive power appropriate for science and engineering reports and how to make effective presentations.

BSP100LC

情報リテラシーと表現技術

三牧　宏彬

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンの基本操作と情報モラルについて学ぶ。さらに、レポートや卒論の作成、発表に必要な、パソコンの基本的なソフト（ワード、エクセル、パワーポイント等）の使い方を学ぶ。

【到達目標】
コンピュータを使用して、レポート課題の情報収集、レポートの作成、提出ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ノートパソコンを使用し、パソコンの基本的操作、インターネットの利用、ワープロ、表計算、グラフ作成、プレゼンテーション資料の作成、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使用して行う予定。
春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネットと電子メール	接続方法と使用方法
第 2 回	ワードによる文章の作成（1）	文字の入力、ページ設定、移動とコピー
第 3 回	ワードによる文章の作成（2）	文字サイズの変更・装飾、表の挿入、ワードアート
第 4 回	ワードによる文章の作成（3）	文書入力の演習
第 5 回	ワードによる文章の作成（4）	まとめと演習
第 6 回	エクセルの基本操作（1）	文字と数字、データ入力の基礎、計算式の入力
第 7 回	エクセルの基本操作（2）	関数を使った計算式、罫線、行の挿入、絶対参照と相対参照
第 8 回	エクセルの基本操作（3）	グラフの作成
第 9 回	ワードとエクセルの活用	ワードにエクセルの表とグラフの貼り付け
第 10 回	パワーポイントの基本操作（1）	基本操作
第 11 回	パワーポイントの基本操作（2）	ワードとエクセルの連携活用
第 12 回	パワーポイントの基本操作（3）	文字の入力、アニメーション効果、グラフと図の貼り付け
第 13 回	パワーポイントの基本操作（4）	オリジナルパワーポイントの作成
第 14 回	最終課題の作成	課題内容と作成手順の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】本学の情報支援システム利用ガイドおよびインターネット利用ガイドを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
「Microsoft Office 2019 を使った情報リテラシーの基礎」，近代科学社
「30 時間でマスター Office2019（Windows10 対応）」，実教出版株式会社

【成績評価の方法と基準】
評価方法：各授業における演習（50%）とレポート提出（50%）で評価する。
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
スクリーンへ投射した文字等を大きく表示し、わかりやすい授業を行うよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン。

【Outline and objectives】
This course introduces the fundamental operation for personal computers and how to use effectively software. In addition, the course introduces how to compose PowerPoint for scientific presentation.

BSP100LC

情報リテラシーと表現技術

小鍋　哲

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンの基本操作、インターネットの仕組みの理解、電子メールの送受信方法を学ぶ。ワード、エクセル、パワーポイント等の PC の基本的なソフトの使い方を学ぶ。

【到達目標】
・インターネットや電子メールを安全に使えるようになる。
・PC を使って、文書の作成、表計算、プレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各自の PC を用いた実習により各テーマを学ぶ。
レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明
第 2 回	インターネットと電子メール	インターネットや電子メールの使い方
第 3 回	ワードによる文章の作成（1）	文字の入力、編集
第 4 回	ワードによる文章の作成（2）	書式設定
第 5 回	ワードによる文章の作成（3）	表の挿入や図形の取扱い
第 6 回	ワードによる文章の作成（4）	ワードを用いた演習
第 7 回	エクセルの基本操作（1）	データや計算式の入力
第 8 回	エクセルの基本操作（2）	表の作成
第 9 回	エクセルの基本操作（3）	グラフの作成
第 10 回	エクセルの基本操作（4）	エクセルを用いた演習
第 11 回	パワーポイントの基本操作（1）	基本操作
第 12 回	パワーポイントの基本操作（2）	アニメーション効果、グラフと図の貼り付け
第 13 回	パワーポイントの基本操作（3）	パワーポイントを用いた演習
第 14 回	総合演習	ワード、エクセル、パワーポイントを用いた総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】普段から PC に触れ、操作に慣れる。授業で学ぶ内容は繰り返し使うことで身につくので、授業後必ず復習する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
宿題、レポート課題、期末最終レポート課題により、「到達目標」である
・インターネットや電子メールを安全に使えるようになる。
・PC を使って、文書の作成、表計算、プレゼンテーションができるようになる。
の達成度により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
好評につき、これまで同様教員と一緒に PC の操作を行い、各種ソフトウェアの使い方を学ぶ。

【学生が準備すべき機器他】
貸与されたノートパソコン、または Office がインストールされたノートパソコン。

【Outline and objectives】
We study basic skills and knowledges of personal computers. In particular, we aim at learning how to use softwares such as Microsoft Words, Excel and PowerPoint.

BSP100LC

情報処理技法

東原　正智

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義ではプログラミング言語 Python について学ぶ。また、ライブラリとして Numpy や Pandas を特に練習をする。この講義の目的は、Python の言語の基礎的な文法、Numpy と Pandas を講義と実習によって習得することである。

【到達目標】
Python の文法やライブラリ（Numpy、Pandas) を理解し、プログラムを作成できる。colab の使用方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
情報センターにて講義を行う。開発環境は Google Colaboratory で、言語は Python3 系を使用する。
また、学生の質問や課題の解説は、スライドと動画を用いてフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Python の概要、開発環境の colab について	Python の概要 開発環境 Google Colaboratory の説明
第 2 回	Python 文法	Python の基本、データ構造 ・変数宣言、print 出力 ・リスト ・タプル ・辞書 ・集合
第 3 回	Python 文法	制御フロー ・条件文 ・反復文
第 4 回	Python 文法	モジュールとパッケージ ・import,as ・標準ライブラリ
第 5 回	Python 文法	オブジェクトとクラス ・クラス ・オブジェクト ・特殊メソッド
第 6 回	Python 文法	ファイル操作とシステム ・ファイル操作 ・入出力
第 7 回	Numpy	Numpy
第 8 回	Numpy	Numpy
第 9 回	Pandas	Pandas
第 10 回	Pandas	Pandas
第 11 回	問題練習	今まで学習した内容の問題練習
第 12 回	データ解析入門	・概要 ・回帰分析 ・判別分析
第 13 回	データ解析入門	・決定木 ・アンサンブル学習 ・勾配ブースティング
第 14 回	データ解析入門、まとめ	・前処理、CV、評価 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】特にプログラミング言語の知識を前提としない。

【テキスト（教科書）】
講義はスライドを用意する。

【参考書】
公式サイト:https://www.python.org/
Python 実践入門 —— 言語の力を引き出し、開発効率を高める (WEB+DB PRESS plus シリーズ) (日本語) 陶山 嶺 (著) 技術評論社

【成績評価の方法と基準】
出席点 14%、レポート 3 回で 86 %を予定する。初年度のため理解度に応じてミニテスト

【学生の意見等からの気づき】
・わかりにくい内容や質問については、メール、スライド、動画にて回答する。

【学生が準備すべき機器他】
情報センターでの PC を使用する。

【その他の重要事項】
学生の理解を深めるたサポートページを用意している。

【Outline and objectives】
In this courses, you will learn the foundations of programming language Python and library(Numpy,Pandas).
You will learn about grammar of Python,object oriented programming, test and more.
You will practice all these ideas in colab.

BSP100LC

情報処理技法

陸名　雄一

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な情報処理技法の中から数式処理ソフトウェア Mathematica (Wolfram Research 社) を選び、その運用法を修得する。

【到達目標】
1. Mathematica の基本的文法・関数を習得し、対話的使用ができる。
2. Mathematica プログラミングの基礎を習得し、問題解決に応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主に PC 画面を投影し、実際の操作を確認しながら解説を行う。必要に応じて随時演習課題を設け、実践力の向上を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について概説と受講に必要なソフトウェア環境の確認・整備
第 2 回	Mathematica 入門	機能の概要、基本操作
第 3 回	数とシンボル	数と文字列の取扱い、シンボルの定義と運用
第 4 回	リストと式	リスト・式の定義と運用
第 5 回	パターンとパターンマッチ	パターンの定義、パターンマッチの概念と運用
第 6 回	遅延割り当てと関数・純関数	遅延割り当ての概念、パターンマッチと遅延割り当てによる関数定義、純関数の運用
第 7 回	ルールとその適用	ルールの概念とその運用
第 8 回	方程式と不等式	Matiematica による方程式・不等式の解法とその応用
第 9 回	プロットとアニメーション	二次元・三次元プロットの方法、アニメーションの作成法
第 10 回	微分積分と線形代数	Mathematica による微分積分学・線形代数学
第 11 回	Mathematica プログラミングの基礎	変数のスコープ・条件分岐・繰り返し処理
第 12 回	Mathematica による問題解決（1）	Mathematica の対話的使用による問題解決
第 13 回	Mathematica による問題解決（2）	Mathematica プログラミングによる問題解決
第 14 回	まとめ	基本的事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各回の内容を確実に反復し、定着させること。授業内で示される演習課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席は単位修得の前提条件である。その上で、Mathematica の理解度・運用能力を平常点（評価配分６０％）及び試験（評価配分４０％）によって評価する。但し、平常点の低い者は点数に依らず不合格とする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】
より実践的な内容を求める学生に応じて、応用面を強化したい。

【学生が準備すべき機器他】
講義および演習は各自の貸与 PC を用いて行う。持参なき者は出席者として認定されない。

【その他の重要事項】
通知・資料提供の手段として「学習支援システム」を使用する。確認を怠った場合に生じる不利益については、一切関知しない。担当教員への連絡方法については、当科目の「講義ガイダンス（第１回授業にて実施）」にて指定した方法のみ有効である。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic way to use Mathematica, which is one of leading softwares for symbolic computation.

BSP100LC

情報処理技法

三橋　秀生

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では技術者として最低限身につけておくべき基礎的な情報処理技法について学習する。背景となる数学と統計学の初歩について学習した上で、実例を通じながらソフトウェアの利用法を学ぶ。そして情報処理に関して、今後直面する課題を自分で解決できるための基礎能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
技術者として最低限身につけておくべき情報処理に関する知識および、ソフトウェアの利用法を身につけ、自ら設定した問題に対して、解析、考察できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
技術者として最低限身につけておくべき基礎的な情報処理技法について、授業ごとに理論の解説と演習を実施する。前半で背景となる数学や統計学の解説をし、後半で（MS-Excel 等を用いた）演習を行う。
また、Wolfram Research 社の Mathematica 等を利用した実践的な情報処理を経験する。
オンラインでの開講となった場合の、オンライン授業の方法や各回の授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報処理の基本操作	授業概要の説明、MS-Excel を用いた情報処理のための基礎操作　（平均、分散、標準偏差）
第 2 回	統計処理の基礎	度数分布、グラフの作成、サンプル抽出、不偏分散
第 3 回	推定	信頼区間、区間推定
第 4 回	カイ 2 乗検定	偏りの検定：カイ 2 乗検定
第 5 回	t 検定（対応のない場合）	平均値と平均値の差の検定：対応のない t 検定
第 6 回	t 検定（対応のある場合）	差の平均値の検定：対応のある t 検定
第 7 回	相関	散布図、相関
第 8 回	相関係数	相関係数、相関の強さ
第 9 回	無相関検定	標本集団の相関係数、無相関検定
第 10 回	単回帰	回帰直線の計算と予測
第 11 回	偏相関	偏相関、偏相関係数
第 12 回	重回帰	重回帰モデル、重相関係数
第 13 回	Mathematica 導入	Mathematica を利用した式、方程式の解法、因数分解、グラフ作成の紹介
第 14 回	Mathematica プログラミング	Mathematica プログラミングの基本とプログラム作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各自教材や資料を参考にした復習を強く推奨する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
統計の基礎、MS-Excel 等の利用に関して基礎的な内容で、各自使いやすい書籍、資料などを利用すること。

【参考書】
統計学に関するもの：
向後千春、冨永敦子著，統計学がわかる（技術評論社）
向後千春、冨永敦子著，統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】（技術評論社）
東京大学教養学部統計学教室編，統計学入門（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】
技術者として最低限身につけておくべき情報処理に関する知識および、ソフトウェアの利用法を身につけ、自ら設定した問題に対して、解析、考察できる素養を身につけられたかを演習課題レポートや期末試験などを通じて評価する。
期末試験もしくは期末レポート　(60 %)
演習課題レポート（40 %）
オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
Excel の処理を効率的に行う技法を実習を通じて示す。

【学生が準備すべき機器他】
講義および演習は、各自の貸与 NotePC を用いて行う。必ず持参すること。

【その他の重要事項】
履修者の状況等に応じて内容・順序を変更することがあります.
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。

【Outline and objectives】
In this lecture, students learn basic information processing techniques which should be acquired at the minimum as a technician. After learning about the background of the mathematics and the initial steps of statistics, learn how to use the software through examples. With regard to information processing, we aim to acquire the basic ability to solve the problems that we face in the future by ourselves.

BSP100LC

情報処理技法

三橋　秀生

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では技術者として最低限身につけておくべき基礎的な情報処理技法について学習する。背景となる数学と統計学の初歩について学習した上で、実例を通じながらソフトウェアの利用法を学ぶ。そして情報処理に関して、今後直面する課題を自分で解決できるための基礎能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
技術者として最低限身につけておくべき情報処理に関する知識および、ソフトウェアの利用法を身につけ、自ら設定した問題に対して、解析、考察できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
技術者として最低限身につけておくべき基礎的な情報処理技法について、授業ごとに理論の解説と演習を実施する。前半で背景となる数学や統計学の解説をし、後半で（MS-Excel 等を用いた）演習を行う。
また、Wolfram Research 社の Mathematica 等を利用した実践的な情報処理を経験する。
オンラインでの開講となった場合の、オンライン授業の方法や各回の授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	情報処理の基本操作	授業概要の説明、MS-Excel を用いた情報処理のための基礎操作　（平均、分散、標準偏差）
第 2 回	統計処理の基礎	度数分布、グラフの作成、サンプル抽出、不偏分散
第 3 回	推定	信頼区間、区間推定
第 4 回	カイ 2 乗検定	偏りの検定：カイ 2 乗検定
第 5 回	t 検定（対応のない場合）	平均値と平均値の差の検定：対応のない t 検定
第 6 回	t 検定（対応のある場合）	差の平均値の検定：対応のある t 検定
第 7 回	相関	散布図、相関
第 8 回	相関係数	相関係数、相関の強さ
第 9 回	無相関検定	標本集団の相関係数、無相関検定
第 10 回	単回帰	回帰直線の計算と予測
第 11 回	偏相関	偏相関、偏相関係数
第 12 回	重回帰	重回帰モデル、重相関係数
第 13 回	Mathematica 導入	Mathematica を利用した式、方程式の解法、因数分解、グラフ作成の紹介
第 14 回	Mathematica プログラミング	Mathematica プログラミングの基本とプログラミング作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
各自教材や資料を参考にした復習を強く推奨する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。
統計の基礎、MS-Excel 等の利用に関して基礎的な内容で、各自使いやすい書籍、資料などを利用すること。

【参考書】
統計学に関するもの：
向後千春、冨永敦子著，統計学がわかる（技術評論社）
向後千春、冨永敦子著，統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】（技術評論社）
東京大学教養学部統計学教室編，統計学入門（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】
技術者として最低限身につけておくべき情報処理に関する知識および、ソフトウェアの利用法を身につけ、自ら設定した問題に対して、解析、考察できる素養を身につけられたかを演習課題レポートや期末試験などを通じて評価する。
期末試験もしくは期末レポート　(60 %)
演習課題レポート（40 %）
オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
Excel の処理を効率的に行う技法を実習を通じて示す。

【学生が準備すべき機器他】
講義および演習は、各自の貸与 NotePC を用いて行う。必ず持参すること。

【その他の重要事項】
履修者の状況等に応じて内容・順序を変更することがあります.
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。

【Outline and objectives】
In this lecture, students learn basic information processing techniques which should be acquired at the minimum as a technician. After learning about the background of the mathematics and the initial steps of statistics, learn how to use the software through examples. With regard to information processing, we aim to acquire the basic ability to solve the problems that we face in the future by ourselves.

BSP100LC

情報処理技法

須河　光弘

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命科学分野の実験データ等を解析するのに必要な統計解析の基礎と PC スキル（プログラミングを含む）について学習する。

【到達目標】
実験で得られた画像データを、画像解析ソフト「ImageJ」を用いて画像処理を行い、さらにプログラミング言語「Python」を用いてデータのグラフ作成と統計解析を行うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
「授業の進め方と方法（2021 年 3 月現在）」
・オンライン授業の場合
　a）講義資料の配布：学習支援システムより配布
　b）講義動画のオンデマンド配信： 15 分程度の動画が 3 個程度
　c）Zoom による質問受付：講義時間に合わせて Zoom meeting を開きます
・対面授業の場合
　a) 貸与ノート PC を毎回持参すること
　b) 講義資料は学習支援システムより配布
・ハイブリッドの場合
　オンライン授業に準じて進める
「フィードバック方法」
・授業の初めに、前回の講義であった質問や提出課題でよくあった間違いを取り上げて、全体にフィードバックをする。
・提出課題に対するフィードバックは、学習支援システムから行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要の説明、Jupyter notebook の準備	Python プログラミングの準備
第 2 回	Python の基礎、統計の基礎	Python プログラミングの基礎、代表値の計算
第 3 回	グラフの作成	折れ線図、箱ひげ図、ヒストグラム
第 4 回	確率分布	確率分布（正規分布）について
第 5 回	正規分布のフィッティング	正規分布に従うデータのフィッティング
第 6 回	指数分布のフィッティング	指数分布に従うデータのフィッティング
第 7 回	データ解析の実践 1	比色定量、標準曲線
第 8 回	データ解析の実践 2	酵素反応、ミカエリス・メンテン式
第 9 回	仮説検定 1	平均の検定（t 検定）
第 10 回	仮説検定 2	t 分布の原理
第 11 回	ImageJ による画像処理（1）	ImageJ について、スケールバーの入れ方
第 12 回	ImageJ による画像処理（2）	粒子解析
第 13 回	ImageJ による画像処理（3）	電気泳動画像の解析
第 14 回	ImageJ による画像処理（4）	細胞染色画像の解析、バイナリー画像の処理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】
翌週の講義までに演習課題を復習しスキルを習得することが望ましい。欠席した場合、授業支援システムで配布する講義資料等で自習する必要がある。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業支援システムより講義資料を配布する。

【参考書】
参考になると思われるサイト、参考書について講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、レポート課題と中間テスト（40%）、その他（10%）(予定)
＊中間テストを行うかは未定です。

【学生の意見等からの気づき】
この講義で扱うプログラミングは、生命科学分野のデータ解析で必要最低限のものを厳選しており、使い方もパターン化しているので、講義で使っているうちに慣れていき使えるようになると思います。あまり難しく考えずにまずは使って動かしてみることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、edu 貸与ノート PC が必要です。

【Outline and objectives】
This course will focus on providing basic statistics and programming skills to analyze the data in molecular biology.

BSP100LC

情報リテラシーと表現技術

三牧　宏彬

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パソコンの基本操作と情報モラルについて学ぶ。さらに、レポートや卒論の作成、発表に必要な、パソコンの基本的なソフト（ワード、エクセル、パワーポイント等）の使い方を学ぶ。

【到達目標】
コンピュータを使用して、レポート課題の情報収集、レポートの作成、提出ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ノートパソコンを使用し、パソコンの基本的操作、インターネットの利用、ワープロ、表計算、グラフ作成、プレゼンテーション資料の作成、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使用して行う予定。
春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネットと電子メール	接続方法と使用方法
第 2 回	ワードによる文章の作成（1）	文字の入力、ページ設定、移動とコピー
第 3 回	ワードによる文章の作成（2）	文字サイズの変更・装飾、表の挿入、ワードアート
第 4 回	ワードによる文章の作成（3）	文書入力の演習
第 5 回	ワードによる文章の作成（4）	まとめと演習
第 6 回	エクセルの基本操作（1）	文字と数字、データ入力の基礎、計算式の入力
第 7 回	エクセルの基本操作（2）	関数を使った計算式、罫線、行の挿入、絶対参照と相対参照
第 8 回	エクセルの基本操作（3）	グラフの作成
第 9 回	ワードとエクセルの活用	ワードにエクセルの表とグラフの貼り付け
第 10 回	パワーポイントの基本操作（1）	基本操作
第 11 回	パワーポイントの基本操作（2）	ワードとエクセルの連携活用
第 12 回	パワーポイントの基本操作（3）	文字の入力、アニメーション効果、グラフと図の貼り付け
第 13 回	パワーポイントの基本操作（4）	オリジナルパワーポイントの作成
第 14 回	最終課題の作成	課題内容と作成手順の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】本学の情報支援システム利用ガイドおよびインターネット利用ガイドを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
「Microsoft Office 2019 を使った情報リテラシーの基礎」，近代科学社
「30 時間でマスター Office2019（Windows10 対応）」，実教出版株式会社

【成績評価の方法と基準】
評価方法：各授業における演習（50%）とレポート提出（50%）で評価する。
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
スクリーンへ投射した文字等を大きく表示し、わかりやすい授業を行うよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン。

【Outline and objectives】
This course introduces the fundamental operation for personal computers and how to use effectively software. In addition, the course introduces how to compose PowerPoint for scientific presentation.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

佐藤　巌

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている． 授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい.
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題される.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房

【参考書】
適宜、紹介する.

【成績評価の方法と基準】
【期末試験は、対面試験が可能な場合のみ，機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一 試験として行う。】 成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成 績を総合的に、判断して評価する。レポート提出及び成果 (20%)，期末試験の成績 (80%) として、成績を付ける。 なお，初回の授業 で課題の提出の仕方について、説明する.

【学生の意見等からの気づき】
教科書の予習、復習、また、講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

【Outline and objectives】
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

礒島　伸

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい.
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
初回の授業で紹介する.

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを，
毎回の課題の提出及び成果 (30%)，期末試験の成績 (70%)
により評価する.
初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
板書量に慣れるよう指導する機会を検討する.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

礒島　伸

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい．
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
初回の授業で紹介する．

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを，
毎回の課題の提出及び成果 (30%)，期末試験の成績 (70%)
により評価する．
初回の授業で課題の提出ルールを説明する．

【学生の意見等からの気づき】
板書量に慣れるよう指導する機会を検討する．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

伊藤　賢太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に、１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい．授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
初回の授業で紹介する．

【成績評価の方法と基準】
行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを期末試験や演習により判断する． 成績は期末試験の成績 (60%)、提出課題（40%）として総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
講義中の質問は、教室全体の理解度向上に資する行為なので歓迎する． また、講義時間の制約のため十分な応用例に触れられないのが残念であるが、興味のある者は行列がどのような分野で役に立つのか自ら調べてみて欲しい．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

本多　恭子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい.
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房

【参考書】
初回の授業で紹介する.

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを，
毎回の課題の提出及び成果 (30%)，期末試験の成績 (70%)
により評価する.
なお，初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
3 次元空間の中の 平面や 直線 について、より具体的に把握できるようにする.

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

本多　恭子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい.
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房

【参考書】
初回の授業で紹介する.

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを，
毎回の課題の提出及び成果 (30%)，期末試験の成績 (70%)
により評価する.
なお，初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
3 次元空間の中の 平面や 直線 について、より具体的に把握できるようにする.

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

佐藤　巌

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立， １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間， １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい．
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題される．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房

【参考書】
適宜、紹介する．

【成績評価の方法と基準】
【期末試験は、対面試験が可能な場合のみ，機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一 試験として行う。】成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績 を総合的に、判断して評価する。レポート提出及び成果 (20%)，期 末試験の成績 (80%) として、成績を付ける。 なお，初回の授業 で 課題の提出の仕方について、説明する．

【学生の意見等からの気づき】
教科書の予習、復習、また、講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

【Outline and objectives】
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

間下　克哉

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立， １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間， １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成， R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，
授業１回ごとに小テストを行い授業内容の理解度を確認する．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
とくに必要としないと思うが，必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを，期末試験の成績 (100%) により評価する．
――――――――――
期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う．
コロナ禍による授業形態の変更によって成績評価の方法を変更する可能性がある．

【学生の意見等からの気づき】
毎回，十分に復習を行い，小テストによって理解度の確認を行うことが有効である．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

加田　修

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ.

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインによる講義を行い、演習問題をオンラインで提出する。基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと,
前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房

【参考書】
スバラシク実力がつくと評判の線形代数キャンパス・ゼミ―大学の数学がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる! 単行本 – 2018/10/1
馬場 敬之 (著)
線形代数学（新装版） 単行本（ソフトカバー） – 2010/8/20
川久保　勝夫 (著)
齋藤正彦線型代数学 単行本 – 2014/4
齋藤 正彦 (著)
線型代数学 (新装版) (数学選書) (日本語) 単行本 – 2015/6/5
佐武 一郎 (著)

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを,
主に期末試験で判断する。
成績は期末試験の成績 (90%) を主とし、演習の成績や授業中の態度を平常点
（１０％）として加味して総合的に評価する.

【学生の意見等からの気づき】
数学においては、講義を漫然と聞いているだけでは身に付きません。自分で鉛筆と紙を使って、手を動かしながら自分で考えることが必要です。
講義中に質問することを躊躇する学生が多いですが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので、気軽に質問してください.

【その他の重要事項】
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline and objectives】
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

間下　克哉

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立， １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間， １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成， R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，
授業１回ごとに小テストを行い授業内容の理解度を確認する．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
とくに必要としないと思うが，必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを，期末試験の成績 (100%) により評価する．
――――――――――
期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う．
コロナ禍による授業形態の変更によって成績評価の方法を変更する可能性がある．

【学生の意見等からの気づき】
毎回，十分に復習を行い，小テストによって理解度の確認を行うことが有効である．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

三橋　秀生

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
オンラインでの開講となった場合の、オンライン授業の方法や各回の授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成, R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、
前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを評価する．
成績は，レポート提出、授業内試験、期末試験等の成績を総合的に判断して評価する．
平常点を２０％、期末試験の点を８０％として成績をつける．
※　期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う．
オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

【学生が準備すべき機器他】
初回時に貸与ノート PC を持参すること．
その他は適宜，指示する．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて
配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。
その他の重要事項は適宜、指示します。

【Outline and objectives】
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

三橋　秀生

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
オンラインでの開講となった場合の、オンライン授業の方法や各回の授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成, R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、
前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを評価する．
成績は，レポート提出、授業内試験、期末試験等の成績を総合的に判断して評価する．
平常点を２０％、期末試験の点を８０％として成績をつける．
※　期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う．
オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

【学生が準備すべき機器他】
初回時に貸与ノート PC を持参すること．
その他は適宜，指示する．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて
配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。
その他の重要事項は適宜、指示します。

【Outline and objectives】
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

礒島　伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立， １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間， １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成， R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，
前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい．
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
初回の授業で紹介する．

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを，
毎回の課題の提出及び成果 (30%)，期末試験の成績 (70%)
により評価する．
なお，初回の授業で課題の提出ルールを説明する．

【学生の意見等からの気づき】
応用例をできるだけ扱うよう配慮する．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

礒島　伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立， １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間， １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成， R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，
前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい．
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
初回の授業で紹介する．

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを，
毎回の課題の提出及び成果 (30%)，期末試験の成績 (70%)
により評価する．
なお，初回の授業で課題の提出ルールを説明する．

【学生の意見等からの気づき】
応用例をできるだけ扱うよう配慮する．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

伊藤　賢太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立， １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間， １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成， R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，
前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい．
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
初回の授業で紹介する．

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを期末試験や提出課題により判断する．
成績は期末試験の成績 **(60%)**、提出課題（4 ０%）として総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
微分積分と同様に線形代数は様々な分野で活用されている便利なツールであるが、その具体的な例の紹介にはそれほど時間を割くことができない．　とっかかりとなる情報は与えるので、是非各自で線形代数がどのように活用されているのか調べてみて欲しい．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて
配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

本多　恭子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，
前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい．
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房

【参考書】
初回の授業で紹介する．

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを，
毎回の課題の提出及び成果 (30%)，期末試験の成績 (70%)
により評価する．
なお，初回の授業で課題の提出ルールを説明する．

【学生の意見等からの気づき】
各テーマの 繋がりを よりよく把握できるようにする．

【Outline and objectives】
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

本多　恭子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる． 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成，R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，
前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい．
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房

【参考書】
初回の授業で紹介する．

【成績評価の方法と基準】
ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを，
毎回の課題の提出及び成果 (30%)，期末試験の成績 (70%)
により評価する．
なお，初回の授業で課題の提出ルールを説明する．

【学生の意見等からの気づき】
各テーマの 繋がりを よりよく把握できるようにする．

【Outline and objectives】
Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

加田　修

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインによる講義を行い、演習問題をオンラインで提出する。基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節〜 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
微分積分キャンパス・ゼミ 改訂 6 (日本語) 単行本 – 2019/9/18
馬場敬之 (著)
定本 解析概論 (日本語) 単行本（ソフトカバー） – 2010/9/16
高木 貞治 (著)
解析入門 I (基礎数学 2) (日本語) 単行本 – 1980/3/31
杉浦 光夫 (著)
解析入門 II (基礎数学 3) (日本語) 単行本 – 1985/4/25
杉浦 光夫 (著)

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する。
成績は期末試験の成績 (90%) を主とし、演習の成績や授業中の態度を平常点（１０%）として加味して総合的に評価する.

【学生の意見等からの気づき】
数学においては、講義を漫然と聞いているだけでは身に付きません。自分で鉛筆と紙を使って、手を動かしながら自分で考えることが必要です。
講義中に質問することを躊躇する学生が多いですが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので、気軽に質問してください.

【その他の重要事項】
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

寺杣　友秀

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ．

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力，逆三角関数や陰関数の理解，テイラーの定理の意味を理解し応用できること，とくに簡単な関数のテイラー展開ができること，偏導関数を用いて 2 変数関数を調べることができることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数，2 変数のテイラーの定理，2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書にある演習問題は自分が当たっていないところもといてみて理解度を確実なものとすること。

【テキスト（教科書）】
礒島伸ほか著：コア講義「微分積分」、裳華房 (2300 円＋税)
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.4 節までを学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算，逆三角関数や双曲線関数の理解，テイラーの定理の利用，多変数関数の極値の問題の解法等について，十分な能力を身につけたかを期末試験で判断する．
成績は期末試験の点数（ 100% ）をもとに決定するが、講義中に行う小テストも判断材料とする。

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになるので、問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う．

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

寺杣　友秀

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ．

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力，逆三角関数や陰関数の理解，テイラーの定理の意味を理解し応用できること，とくに簡単な関数のテイラー展開ができること，偏導関数を用いて 2 変数関数を調べることができることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数，2 変数のテイラーの定理，2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書にある演習問題は自分が当たっていないところもといてみて理解度を確実なものとすること。

【テキスト（教科書）】
礒島伸ほか著：コア講義「微分積分」、裳華房 (2300 円＋税)
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.4 節までを学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算，逆三角関数や双曲線関数の理解，テイラーの定理の利用，多変数関数の極値の問題の解法等について，十分な能力を身につけたかを期末試験で判断する．
成績は期末試験の点数（ 100% ）をもとに決定するが、講義中に行う小テストも判断材料とする。

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになるので、問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う．

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

伊藤　賢太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する。
成績は期末試験の成績 (60%)、提出課題（4 0％）として総合的に評価する.
初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる.
問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

伊藤　賢太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節〜 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する。
成績は期末試験の成績 (60%)、提出課題（4 0％）として総合的に評価する.
初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる.
問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

伊藤　賢太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する。
成績は期末試験の成績 (60%)、提出課題（4 0％）として総合的に評価する.
初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる.
問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

清田　正夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う.　またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う. 受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる. 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する,
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に、1 回の授業は教科書の 1 節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房　2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は，積分および重積分について十分な計算能力が身についていること，積分変換の基礎となる広義積分の計算法を理解していること，積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである. 原則として毎授業時間に復習確認のクイズを行う. 成績は期末試験の成績（９０％）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（１０％）として加味して総合的に評価する.
※　期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う.

【学生の意見等からの気づき】
二変数の関数が難しくなる原因は、図形の様子を捉えることが困難になることにある. 簡単な場合についてできるだけ図形を描く練習を心がけることが重要である. 毎回行うクイズの準備として復習を行うことが単位修得のための良い方法である.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

加田　修

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う.　またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインによる講義を行い、演習問題をオンラインで提出する。基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」
を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する,
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
微分積分キャンパス・ゼミ 改訂 6 (日本語) 単行本 – 2019/9/18
馬場敬之 (著)
定本 解析概論 (日本語) 単行本（ソフトカバー） – 2010/9/16
高木 貞治 (著)
解析入門 Ⅰ (基礎数学 2) (日本語) 単行本 – 1980/3/31
杉浦 光夫 (著)
解析入門 Ⅱ (基礎数学 3) (日本語) 単行本 – 1985/4/25
杉浦 光夫 (著)

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである.　成績は期末試験の成績（90%）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（10%）として加味して総合的に評価する.

【学生の意見等からの気づき】
数学においては、講義を漫然と聞いているだけでは身に付きません。自分で鉛筆と紙を使って、手を動かしながら自分で考えることが必要です。
講義中に質問することを躊躇する学生が多いですが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので、気軽に質問してください.

【その他の重要事項】
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

森田　純

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う.　またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する,
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房　2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである.　成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する．初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

森田　純

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う.　またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する,
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」 裳華房　2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである.　成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する．初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

塚田　和美

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う.　またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う. 受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる. 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する,
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房　2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである.
期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う.
成績は期末試験の成績 (100%) に小テストや演習の成績を加味して総合的に評価する.

【学生の意見等からの気づき】
問題演習とその解説を効果的に実施する。
板書を効果的に行い、学生がより効率的に理解できるよう工夫する。

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

陸名　雄一

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う.　またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う. 受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる. 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する,
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房　2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである. 成績は期末試験の成績 (100%) をもとに決定するが、提出課題の成績・受講態度も判断材料とする. 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.
※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科・電気電子工学科・応用情報工学科で統一試験として行う.

【学生の意見等からの気づき】
自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身に着けると良い.　講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい.

【その他の重要事項】
通知・資料提供の手段として「学習支援システム」を使用する。確認を怠った場合に生じる不利益については、一切関知しない。担当教員への連絡方法については、当科目の「講義ガイダンス（第 1 回授業にて実施）」にて指定した方法のみ有効である。

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

清田　正夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う.　またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う. 受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる. 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する,
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に、1 回の授業は教科書の 1 節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房　2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は，積分および重積分について十分な計算能力が身についていること，積分変換の基礎となる広義積分の計算法を理解していること，積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである. 原則として毎授業時間に復習確認のクイズを行う. 成績は期末試験の成績（９０％）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（１０％）として加味して総合的に評価する.
※　期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う.

【学生の意見等からの気づき】
二変数の関数が難しくなる原因は、図形の様子を捉えることが困難になることにある. 簡単な場合についてできるだけ図形を描く練習を心がけることが重要である. 毎回行うクイズの準備として復習を行うことが単位修得のための良い方法である.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

髙澤　兼二郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う．また、これらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する,
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房　2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである.
成績評価の方法は、演習問題のレポート (40%)・定期試験 (60%) である.

【学生の意見等からの気づき】
授業時間の後半に演習問題を解く時間を設けたことは好評であったので、本年度も可能な限り演習の時間を多くとる.

【その他の重要事項】
授業時間外の学習でわからないことがあったときは、ラーニングサポーターを訪ねて質問することを推奨します.

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

髙澤　兼二郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う．また、これらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する,
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房　2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである.
成績評価の方法は、演習問題のレポート (40%)・定期試験 (60%) である.

【学生の意見等からの気づき】
授業時間の後半に演習問題を解く時間を設けたことは好評であったので、本年度も可能な限り演習の時間を多くとる.

【その他の重要事項】
授業時間外の学習でわからないことがあったときは、ラーニングサポーターを訪ねて質問することを推奨します.

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

伊藤　賢太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う.　またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う. 受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる. 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する,
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房　2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである.　成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する. 初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身に着けると良い.　講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

伊藤　賢太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う.　またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う. 受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる. 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する,
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房　2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである.　成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する. 初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身に着けると良い.　講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

伊藤　賢太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う.　またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う. 受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる. 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で ある.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する,
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房　2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身についていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである.　成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する. 初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身に着けると良い.　講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

物理学基礎 I

篠原　俊二郎

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代物理学は力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学に大きく分けられる。物理学基礎では物理学全分野の基礎となる力学、いわゆる古典力学（ニュートンの運動）を学ぶ。これは我々の日常に現れる物体の運動を扱う分野であり、数学を用いて表現することにより、自然現象を理解する方法を学び、工学全般の基礎となる考え方、応用法を学べる。

つまり、自動車や飛行機などわれわれの日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は古典力学の法則に支配されている。したがって，実際の物体の運動を理解するためには、運動方程式を正しく立て、この方程式を解く必要がある。物理学基礎 I では、いくつかの典型 的な場合について、このプロセスの学習を行う。さらに、仕事とエ ネルギーの概念を導入し、運動方程式とは異なる観点から運動につ いての理解を深める。これらの概念の理解に必要な数学については、 そのつど説明する。

【到達目標】
力学は物理学分野の基礎、土台であり、今後の機械系専門分野への理解にも重要である、本講義ではその中で、基本的な運動に加え、抵抗力や振動などの運動、及び仕事、エネルギーについて理解できるのを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の開講形式はオンラインか実際の対面講義かは、状況により変わるので現在は未定です。各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示しますので、適宜そちらを確認して下さい。特に「お知らせ」、「教材」、「課題」を見て下さい。
なお指定教科書は授業開始日までに、購入しておいて下さい。
（通常となれば従来の下記の方法となります）
講義を基本とする。毎回、理解度を深め、疑問点を解消するため、演習及び小テストを行い、レポート、答案を提出する。
毎回講義の初めに、前回の講義のまとめと注意点を解説する。
何れにしても、課題等に対しては学習支援システムや講義においてフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	単位、運動の表わし方	単位系、変位・速度・加速度、微積分とベクトル, 等速円運動
2	運動の法則	平面の運動、極座標表示
3	運動方程式 (I)	放物運動、斜面、摩擦
4	運動方程式 (II)	等速円運動、運動量保存
5	抵抗力を受ける運動 (I)	速度に比例する力
6	抵抗力を受ける運動 (II)	速度の 2 乗に比例する力
7	前半テストと解説	位置・速度・加速度、運動方程式、抵抗力を受ける運動
8	振動運動 (I)	単振動
9	振動運動 (II)	減衰振動
10	振動運動 (III)	強制振動
11	仕事とエネルギー (I)	仕事の定義、エネルギー原理
12	仕事とエネルギー (II)	保存力とポテンシャルエネルギー
13	仕事とエネルギー (III)	力学的エネルギー保存則
14	後半テストと解説	振動運動、仕事とエネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】適宜、演習問題を宿題として課す。復習もしておくこと。

【テキスト（教科書）】
理工系のための解く！ 力学、平山修・篠原俊二郎 著、講談社（第 2 版、第 7 刷り）、ISBN Code: 9784062806039

【参考書】
特にないが、図書館や本屋で、「力学」の入門書、専門書の中から自分に合った書を見つけるのが良い。

【成績評価の方法と基準】
オンラインの場合は、成績評価の方法と基準も変更します。当面は学習支援システムでの提出書類で評価します。
（通常となれば従来の下記の方法となります）
各回のテーマについて内容が理解できたか、原則として毎回小テストを行うとともに、演習問題を宿題として課す。各人が自ら理解度を把握するようにする。成績評価は、小テスト（15 %）、宿題レポート（15%）、前半・後半試験（合わせて 70 %）による。

【学生の意見等からの気づき】
毎週の提出物の中に、疑問点、要望等、あれば記載する。フィードバックをかけてレベルの変更や、内容、進度を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
関数演算付き電卓

【その他の重要事項】
大学では自ら学び疑問を解決する姿勢が大事である。大学における力学について、高校レベルの物理の公式を用いれば解ける問題も多い。大学の授業では、しかし、その公式が確立する過程を考え、その本質を理解することが目的になる。したがって授業をよく理解し考え方を学ぶことで、応用できる課題が広がり、公式を忘れても自ら考え解を導く糸口をつかめるようになる。その考え方は、実社会へ出てからも必ず役に立つ。

【Outline and objectives】
Modern physics include mechanics, electromagnetics, statistical thermodynamics and quantum mechanics. Here, mechanics is classical fundamental physics (Newton's law of motion), describing the motion of the object.

Motion in various objects relating to our daily lives such as automobiles and airplanes is governed by the classical dynamics. Therefore, in order to understand the motion of a real object, we must set up equations of motion and solve them. Here, using some typical examples, this learning process will be executed.

Furthermore, introducing the concept of work and energy, a deep understanding of motion, which has a different viewpoint from the equations of motion, will be done. Regarding the mathematics necessary for the understandings of these concepts, the explanation will be done at all such times.

BSP100LC

物理学基礎 I

篠原　俊二郎

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代物理学は力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学に大きく分けられる。物理学基礎では物理学全分野の基礎となる力学、いわゆる古典力学（ニュートンの運動）を学ぶ。これは我々の日常に現れる物体の運動を扱う分野であり、数学を用いて表現することにより、自然現象を理解する方法を学び、工学全般の基礎となる考え方、応用法を学べる。
つまり、自動車や飛行機などわれわれの日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は古典力学の法則に支配されている。したがって，実際の物体の運動を理解するためには、運動方程式を正しく立て、この方程式を解く必要がある。物理学基礎 I では、いくつかの典型的な場合について、このプロセスの学習を行う。さらに、仕事とエ ネルギーの概念を導入し、運動方程式とは異なる観点から運動についての理解を深める。これらの概念の理解に必要な数学については、そのつど説明する。

【到達目標】
力学は物理学分野の基礎、土台であり、今後の機械系専門分野への理解にも重要である、本講義ではその中で、基本的な運動に加え、抵抗力や振動などの運動、及び仕事、エネルギーについて理解できるのを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の開講形式はオンラインか実際の対面講義かは、状況により変わるので現在は未定です。各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示しますので、適宜そちらを確認して下さい。特に「お知らせ」、「教材」、「課題」を見て下さい。
なお指定教科書は授業開始日までに、購入しておいて下さい。
（通常となれば従来の下記の方法となります）
講義を基本とする。毎回、理解度を深め、疑問点を解消するため、演習及び小テストを行い、レポート、答案を提出する。
毎回講義の初めに、前回の講義のまとめと注意点を解説する。
何れにしても、課題等に対しては学習支援システムや講義においてフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	単位、運動の表わし方	単位系、変位・速度・加速度、微積分とベクトル, 等速円運動
2	運動の法則	平面の運動、極座標表示
3	運動方程式 (I)	放物運動、斜面、摩擦
4	運動方程式 (II)	等速円運動、運動量保存
5	抵抗力を受ける運動 (I)	速度に比例する力
6	抵抗力を受ける運動 (II)	速度の 2 乗に比例する力
7	前半テストと解説	位置・速度・加速度、運動方程式、抵抗力を受ける運動
8	振動運動 (I)	単振動
9	振動運動 (II)	減衰振動
10	振動運動 (III)	強制振動
11	仕事とエネルギー (I)	仕事の定義、エネルギー原理
12	仕事とエネルギー (II)	保存力とポテンシャルエネルギー
13	仕事とエネルギー (III)	力学的エネルギー保存則
14	後半テストと解説	振動運動、仕事とエネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】適宜、演習問題を宿題として課す。復習もしておくこと。

【テキスト（教科書）】
理工系のための解く！ 力学、平山修・篠原俊二郎 著、講談社（第 2 版、第 7 刷り）、ISBN Code: 9784062806039

【参考書】
特にないが、図書館や本屋で、「力学」の入門書、専門書の中から自分に合った書を見つけるのが良い。

【成績評価の方法と基準】
オンラインの場合は、成績評価の方法と基準も変更します。当面は学習支援システムでの提出書類で評価します。
（通常となれば従来の下記の方法となります）
各回のテーマについて内容が理解できたか、原則として毎回小テストを行うとともに、演習問題を宿題として課す。各人が自ら理解度を把握するようにする。成績評価は、小テスト（15 %）、宿題レポート（15%）、前半・後半試験（合わせて 70 %）による。

【学生の意見等からの気づき】
毎週の提出物の中に、疑問点、要望等があれば記載する。フィードバックをかけてレベルの変更や、内容、進度を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
関数演算付き電卓

【その他の重要事項】
大学では自ら学び疑問を解決する姿勢が大事である。大学における力学について、高校レベルの物理の公式を用いれば解ける問題も多い。大学の授業では、しかし、その公式が確立する過程を考え、その本質を理解することが目的になる。したがって授業をよく理解し考え方を学ぶことで、応用できる課題が広がり、公式を忘れても自ら考え解を導く糸口をつかめるようになる。その考え方は、実社会へ出てからも必ず役に立つ。

【Outline and objectives】
Modern physics include mechanics, electromagnetics, statistical thermodynamics and quantum mechanics. Here, mechanics is classical fundamental physics (Newton's law of motion), describing the motion of the object.
Motion in various objects relating to our daily lives such as automobiles and airplanes is governed by the classical dynamics. Therefore, in order to understand the motion of a real object, we must set up equations of motion and solve them. Here, using some typical examples, this learning process will be executed.
Furthermore, introducing the concept of work and energy, a deep understanding of motion, which has a different viewpoint from the equations of motion, will be done. Regarding the mathematics necessary for the understandings of these concepts, the explanation will be done at all such times.

BSP100LC

物理学基礎 I

小鍋　哲

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。特に、大きさのない質量だけをもつ質点の運動を中心にして、古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の３法則とその応用を学ぶ。

【到達目標】
力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	運動の記述 (1)	物理量の表現と単位系、質点位置の表現、ベクトルとスカラー、ベクトル表現の復習。
2	運動の記述 (2)	質点の位置を微分して速度、加速度を求める。微分の復習。
3	運動の記述 (3)	質点の加速度を積分して速度、位置を求める。積分の復習。
4	運動の法則	慣性座標系、運動の 3 法則、運動方程式について学ぶ。
5	いろいろな力	摩擦力、張力、垂直抗力について学ぶ。
6	質点の運動 (1)	運動方程式を解き、一様な重力中の質点の運動について学ぶ。
7	質点の運動 (2)	運動方程式を解き、斜面上の質点の運動について学ぶ。
8	質点の運動 (3)	運動方程式を解き、摩擦のある運動や単振動について学ぶ。
9	仕事と運動エネルギー	仕事と運動エネルギーについて学ぶ。
10	保存力とポテンシャル (1)	保存力について学ぶ。保存力のポテンシャルを求める。
11	保存力とポテンシャル (2)	ポテンシャルから力を求める。
12	力学的エネルギー (1)	力学的エネルギー保存則とその運動解析への応用について学ぶ。
13	力学的エネルギー (2)	力学的エネルギー保存則に基づき運動を解析する。
14	質点運動のまとめ	質点運動の全体まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
その他、授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 (40%) と期末試験 (60%) により評価する。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】
演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
学習支援システムの不具合等で資料をアップできない場合は、不具合が解消しだい資料をアップし、その後の対応をアナウンスします。

【Outline and objectives】
Introduction to classical mechanics, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, and conservation of energy.

BSP100LC

物理学基礎 I

西村　征也

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物体や媒質の運動を記述する力学は理工系の様々な科目の基礎である。本講義では、力学の核心である質点（大きさを考慮しなくてよい物体）の力学について、ベクトルの乗法や微分積分を駆使して学ぶ。前半では、高校で学んだ力学への数学的な理解を深める。後半では、減衰振動、コリオリ力、惑星の運動などの進んだ内容について学ぶ。

【到達目標】
・ニュートンの運動の法則を具体的な問題に適用できる。
・仕事とエネルギーの関係を用いて、質点の運動を調べることができる。
・質点の運動方程式から、ばね振動の解を求めることができる。
・質点の角速度と、回転座標系において質点に作用する慣性力を計算できる。
・質点の運動の法則に基づいて、惑星の運動を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
4/12(月) から授業支援システムにて講義資料の公開を開始する。毎回、理解を深め疑問を解消するために演習を行い、その答案をレポートとして提出する。課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基礎的事項の復習	前期の授業内容の説明 単位系 直線運動における速度と加速度
2	ベクトルの乗法	ベクトルの内積と外積
3	力と運動	ニュートンの運動の第 1 法則、第 2 法則、第 3 法則
4	摩擦と抵抗	垂直抗力と摩擦力 物体の速度と抵抗力
5	仕事とエネルギー	仕事の定義 仕事・エネルギーの定理
6	ポテンシャルエネルギーと保存力	力学的エネルギーの保存 保存力の定義 保存力であるための条件
7	中間試験と解説	1 回目から 6 回目までの内容から出題
8	単振動	ばね振動の運動方程式
9	減衰振動	抵抗がある場合のばね振動の運動方程式
10	角速度と角運動量	角速度と角運動量の定義
11	回転系における慣性力	遠心力とコリオリ力
12	重力	中心力としての重力の取り扱い
13	惑星の運動	ケプラーの法則
14	定期試験と解説	8 回目から 13 回目までの内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。
・演習問題は解答例を配布する。試験に臨むに当たって、演習問題は必ず解けるようになっておくこと。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】
力学（川村清著 裳華房）
力学の基礎（橋本正章・荒井賢三著 裳華房）

【成績評価の方法と基準】
定期試験を実施できる場合は、試験（80%）、レポート（20%）で評価する。
定期試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。必要な教材は、授業支援システムにて共有する。

【Outline and objectives】
This course introduces the particle dynamics to students taking this course.

BSP100LC

物理学基礎 I

池田　浩治

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学は「力学」「電磁気学」「熱統計力学」「量子力学」に大別することができますが、この科目では物理学全般の基礎となる力学（いわゆる「古典力学」）において扱う基本的な運動を「どのように取り扱うかについて」学びます。
古典力学では日常目にする運動を対象としていますが、この科目では、それらの運動の特徴は文章を用いて表現するより、「数式を用いることにより正確に表現できること」、そしてその数式を数学的に変形したり他の物理的特徴と組み合わせたりすることによって「高校物理よりも拡張された取り扱いを理解すること」を学びます。
本科目で取り扱う内容は、物理学に限定された考え方や取り扱い方ではなく、「工学全般の基礎となる考え方や手法」です。応用情報工学科のみなさんにとっては、今後の専門科目において扱う内容とは直接関わり合いがないかもしれませんが、特徴を取り出して数式化する「モデル化」や、その数式を条件式として解いて、「現象の予測」を行うための基礎として、ぜひ「慣れる」「活用できる」ようにしてほしい内容です。
なお、この科目では大きさを無視できる「質点」を中心に扱います。

【到達目標】
全ての工学における基礎的な取り扱いを身につけるため、物理的な自然現象を対象として、観察し、測定し、その結果から規則性を見出して、法則を考え出し、その取り扱いを検討する、という物理学の手法を追体験する経験を通じて、以下の各点を受講生諸君が実現できることが本科目の到達すべき目標です。
1）「位置」「速度」「加速度」などの測定量は、数学的な数値とは異なり、「誤差」を含み「精度」を意識して取り扱うことができること
2）「ニュートンの運動の法則」を理解し、場面に応じて数式の形に表すことができること
3）微分、積分、ベクトルの取り扱いを活用できること
4）運動方程式を微分方程式として考え、解を求めることができること
5）得られた解から運動の様子を具体的に説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
2021 年度は COVID-19 感染防止との兼ね合いによっては、オンライン授業となるかもしれません。具体的な授業のやり方などは、4 月上旬から適宜「学習支援システム」経由でおしらせします。
オンライン授業の場合は、GoogleClassroom を用いて、出席確認、講義資料（動画）の視聴、小テストなどの実施、また、Zoom を用いてリアルタイムな質疑応答や追加説明を行うことになります。
対面式での授業実施が可能であれば、出席確認は教室に設置の「出席管理システム」により行い、小テストなどは学内ネットワーク経由で GoogleClassroom により実施、となります。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（シラバス　2021_02_10 ：以下は対面式授業の場合です。オンライン授業でも大筋同様に行います）
授業は指定した教科書の内容にしたがって行います。
教科書を予習して授業に臨んでもらうことが必要です。
ただし、自力では理解しにくいかもしれない部分に関する補助資料を授業前に公開しますので、それも参照して予習を行うこと。
授業では、予習の段階で理解しにくそうなところ、また、予習の段階で重要さを見落としそうなところを中心として説明するため、補助資料をスクリーンに投影したり、板書したりしながら説明します。
学期初めは、導入部分は高校で習ったことの復習から始めますが、途中から新たに説明される考え方、そして将来にわたって通用する考え方へと拡張されるので、気がつかないうちに高度な内容へ移っていることになります。
そのような展開についてきてもらうとき、「納得して理解すること」に注意を払ってください。ゲームの攻略本のように「丸覚え」したり、単に繰り返しを通じて「反射的に作業する」では応用が効きません。知識の積み重ねる努力が実力に直結することにも注意してください。
毎回、小テストを実施しますが、「不十分な回答だった場合、何が不十分なのか」「誤っている場合、何をどのように誤解していて、本来どのように理解すべきだったか」をはっきりしてもらうことが重要です。
そのため、小テストは、まず自力で答案を作成してもらったのち、続いて解説を聞きながら自分の答案を添削、修正することを行ってもらいます。
この作業を通じて、「正しい内容」を理解し、「簡潔に記す」を意識してもらうことを目指します。いわゆる「部分点狙い」のために、だらだらとなんでも答案に盛り込む答案が不適切であることを実感してください。
なお、課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、 測定に関連した基礎知識	(テキスト第０章) 国際単位系、実測値における有効数字と誤差、測定結果を用いた計算の仕方
2	運動の表し方 （1：直交座標系における表現）	(テキスト　1.1-1.3) 一般の運動における位置、速度、加速度の関係。 平面内での等速円運動
3	運動の表し方 （2：極座標系における表現）	(テキスト　1.4) 平面内での等速でない円運動、 平面内での極座標を用いた、位置、速度、加速度。
4	運動の法則（1：運動方程式）	第１章の復習 (テキスト 2.1-2.3) 運動方程式を用いた基本的な取り扱い。 １）作用する力が与えられている場合、 ２）作用する加速度が与えられている場合 ３）等速円運動の場合
5	運動の法則（2：運動量） 運動方程式を解く （1：解を仮定して解く）	(テキスト 2.4) ４）運動量と運動の法則 (テキスト 3.1) 速度に比例する抵抗のみを受ける物体の運動について運動方程式を「解を仮定」により解く。
6	運動方程式を解く （2：変数分離により解く）	(テキスト 3.1) 速度に比例する抵抗のみを受ける物体の運動について運動方程式を「変数分離法」により解く。
7	前半のまとめ（第１回ー第６回）	第１回から第６回までの内容に関するまとめとして、中間試験を実施。
8	運動方程式を解く （3：重力を含む場合） （4：速度の２乗に比例する抵抗の場合）	（テキスト 3.2-3.3） 一定の重力が作用する場合など定数項が含まれている時の取り扱い。 速度の２乗に比例する力を受ける場合の取り扱い。
9	運動方程式を解く （5：単振動）	（テキスト 4.1） バネの復元力のみで往復運動するときの運動方程式を第３章の手順が適用できるかどうかを確かめながら解く。
10	運動の解析 （5：単振動）	（テキスト 4.1） 前回の取り扱いを、テイラー展開と結びつける。 振り子の運動と単振動についても検討する。
11	運動の解析 （6：減衰振動）	（テキスト 4.2） 復元力だけでなく抵抗を受ける運動、の場合について検討する。
12	運動の解析 （7：強制振動）	（テキスト 4.3） 外部から力を周期的に受ける時の運動について検討する。
13	ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存（1）	（テキスト 5.1& 5.2） 仕事の定義。 運動方程式から「エネルギー原理」を導く。
14	ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存（2）	（テキスト 5.3-5.5） 特殊な場面として「保存力」に注目し、ポテンシャルエネルギーの定義を行い、「力学的エネルギー保存則」を導く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業計画に沿って授業を実施するので、各回に対応する部分のテキストを予習して授業に臨むこと。
あらかじめ「どこがわかりにくいか」「どこが納得できないか」をはっきりさせておくと、授業が理解しやすくなる。
復習においては、テキスト、板書を丸覚えするのではなく、「自分が理解できる言葉を使って表現すること」「略図やグラフを描いて、視覚的に里香雨を促す」に徹すること。
微分・積分について、高校での理解が不十分な人は，教科書レベルでよいので、復習しておくこと．

【テキスト（教科書）】
理工系のための解く！　シリーズ　「力学」　第２版第７刷
著者：平山修、篠原俊二郎、　　出版社：講談社
＊古い版等では、誤りや内容の変更に対応していませんので、上記の「第２版第７刷」を入手してください。
＊「物理学基礎 II （担当：池田）」でも教科書として使用します。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
2021 年度の講義が「対面式講義」「オンライン式講義」いずれかによって評価手法を変えざるを得ません。
具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（シラバス　2021_02_10 ：対面式講義の場合)
定期試験６０％（中間試験３０％、最終試験３０％）、授業中に実施する小テスト（２０％）、および、平常点（２０％）などをもとに総合的に評価する。いずれも、到達目標に対して、最低限のレベルに到達している場合を６割以上、若干の理解不足が見られるがほぼ到達目標に到達している場合を７割以上、ほぼ必要な知識を身につけていると考えられる場合を８割以上、知識を自由に運用でいるとみなすことができる場合を９割以上の評価とする。
（シラバス　2021_02_10 ：オンライン式講義の場合)
授業中に実施する小テスト（８０％）、および、平常点（２０％）などをもとに総合的に評価する。（手書き答案を作成してその画像を送ってもらう「試験」を 2020 年度に実施しましたが、通信環境の問題、画像取得手段や画像送付手段に関する慣れの問題などが、特に春学期は大きく影響したため、手書き答案の送付は避けることとしました）
なお、学期途中から対面式講義に変更された場合は、上述の「（シラバス 2021_02_10 ：対面式講義の場合)」に準ずる定期試験を実施する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
毎回行う小テストは「正解」「不正解」だけでは力を伸ばすことに繋がりません。「不正解」なら「何が欠けているのか」「何が誤りなのか」を学生本人が理解することが一番の勉強です。
そのための自己採点、自己添削であることを活用してください。
中間試験、最終試験の結果によれば、「だらだら計算式を並べている」「文字がはっきり書かれていないために採点できない」という答案の場合、内容を理解することをせずに「教科書や補助資料の丸写し」で済ませていることがほとんどです。
「異なる考え方を理解する」が学生諸君の思考の柔軟性を養う、ということをよく理解してください。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
対面式講義の場合、講義中にスマートフォンなどを使って写真を撮ることは勧めません。
講義中に「ここは重要」と発言すると、スマートフォンで写真を撮る諸君がいます。
「自分の手を使って書く」という作業を行うと、理解しやすかったり、記憶に残りやすかったりすることも、お手軽に写真を撮るだけで済ませている諸君は手元にデータがあるだけで安心するだけで止まるのか、理解すること自体を行っていない雰囲気があります。

【Outline and objectives】
Physics is divided into four major areas, such as dynamics, electromagnetism, thermal statistical mechanics, and quantum mechanics. This course focuses on the topics in classical mechanics, as the basics of whole treatment in physics.
Topics in classical mechanics are found as the phenomena you are familiar in daily life, and main stream in this course is as follows; to know that mathematical expression is proper than expression in text, and to know how to treat the mathematical expression.
The topics in this course will be the basic background for the studies in near future for your own specialities, then it is strongly recommended to master everything in this course.

BSP100LC

物理学基礎 I

赤松　茂

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
質点のさまざまな運動を運動方程式によって求める古典力学の基本概念を学ぶ.

【到達目標】
自然科学，工学全体の基礎となる線形代数や微積分などの基礎数学を，力学という具体的な課題への応用を通じて身につける。
本科目で例題として取り組む課題は，一見すると高校で学んだ物理の問題と似かよって感じられるかもしれないが，物体の位置を位置ベクトルを用いて表現し，その運動を規定する運動方程式をたて、これを微積分を駆使して解くことによって、運動を具体的に記述するという点では，解法のアプローチはまったく異なっている。具体的には，運動の記述法，運動の３法則，さまざまな力の作用による質点の運動を運動方程式から導くケーススタディ，運動量，運動エネルギー，仕事とポテンシャル，力学的エネルギー保存則などを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の講義内容を要約したレジメならびに毎回の履修内容についての理解を深めるために宿題として課される演習問題の受領、宿題とされた演習課題答案の提出、そして次回の授業時に自身の到達度を確認するフィードバックとしての正解表の受領など、これらすべての情報の授受は「学習支援システム」Hoppii を通じて行う予定です。
また、新型コロナの感染状況によっては、本科目の授業は教室における対面形式ではなく、遠隔会議システムを利用したオンライン授業となる可能性がありますが、Zoom を介しての板書・スライド投影による解説と Hoppii を介しての事前・事後の資料授受による情報共有によって、対面授業とほぼ同等の内容を提供できる見込みです。
オンラインでの開講となった場合の、オンライン授業の方法や各回の授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	運動の表し方（1）	位置と座標系、ベクトルとスカラー、位置ベクトルと変位ベクトル、ベクトルの基本的性質
2	運動の表し方（2）	速度、加速度、位置の微分によって速度、加速度を求める、微分法の復習
3	運動の表し方（3）	加速度の積分によって速度、位置を求める、積分法の復習、等加速度運動、等速円運動
4	力と運動（1）	慣性座標系、運動の 3 法則、運動方程式
5	力と運動（2）	作用反作用の法則、いろいろな力（摩擦力、張力）
6	いろいろな運動（1）	運動方程式を解く、一様な重力による運動、平面内の放物運動
7	いろいろな運動（2）	束縛された質点の運動（連結された質点の運動、斜面や軌道上の運動）
8	いろいろな運動（3）	摩擦や空気抵抗のある運動、単振動
9	質点の運動の様子	運動量、運動量の保存則、質点の運動エネルギー
10	仕事	一定の力がする仕事、仕事の一般的定義、仕事率
11	保存力とポテンシャル（1）	保存力とは、保存力のポテンシャルを求める
12	保存力とポテンシャル（2）	保存力場のポテンシャルから働く力を求める、保存力場の判定
13	力学的エネルギー（1）	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析（斜面上の運動）
14	力学的エネルギー（2）	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析（単振動）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
本科目では、高校で学んだ数学のうち、ベクトル、行列、数学Ⅲの微分積分を一通りは理解しているという前提で授業を進める。これらの理解が不十分な場合には、並行して、高校数学について復習あるいは独習を行ってほしい。
また、毎回の授業で宿題として課される演習問題に取り組むことで、授業で学んだ知識の定着をはかってほしい。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。必要に応じて、プリントを配布する。

【参考書】
基礎物理学　上　（有馬　朗人　編　　学術図書出版社）
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は学期末の定期試験を主とする（70 %）が、原則として毎回宿題として課する演習課題の提出状況とその結果も加味して（30 %）、総合的に評価する。合否判定は、期末試験の得点と宿題の得点とを重み付け合算して、その 60 点以上を合格とする。合格者に対する S～C の４段階評価は、原則として、期末試験の得点に対する相対評価で判定する。
オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。
その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業内容に対応した演習問題を課題とすることで、講義内容の定着を図るようにした。また、演習課題の提出回数が少ない者、その達成度（正解率）が低い者に対しては、ラーニングサポーターによる支援を活用するように勧めている。

【その他の重要事項】
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。

【Outline and objectives】
Introduction to classical dynamics (1) which includes; vector representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, and conservation of energy.

BSP100LC

物理学基礎 I

池田　浩治

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学は「力学」「電磁気学」「熱統計力学」「量子力学」に大別することができますが、この科目では物理学全般の基礎となる力学（いわゆる「古典力学」）において扱う基本的な運動を「どのように取り扱うかについて」学びます。
古典力学では日常目にする運動を対象としていますが、この科目では、それらの運動の特徴は文章を用いて表現するより、「数式を用いることにより正確に表現できること」、そしてその数式を数学的に変形したり他の物理的特徴と組み合わせたりすることによって「高校物理よりも拡張された取り扱いを理解すること」を学びます。
本科目で取り扱う内容は、物理学に限定された考え方や取り扱い方ではなく、「工学全般の基礎となる考え方や手法」です。経営システム工学科のみなさんにとっては、今後の専門科目において扱う内容とは直接関わり合いがないかもしれませんが、特徴を取り出して数式化する「モデル化」や、その数式を条件式として解いて、「現象の予測」を行うための基礎として、ぜひ「慣れる」「活用できる」ようにしてほしい内容です。
なお、この科目では大きさを無視できる「質点」を中心に扱います。

【到達目標】
全ての工学における基礎的な取り扱いを身につけるため、物理的な自然現象を対象として、観察し、測定し、その結果から規則性を見出して、法則を考え出し、その取り扱いを検討する、という物理学の手法を追体験する経験を通じて、以下の各点を受講生諸君が実現できることが本科目の到達すべき目標です。
1）「位置」「速度」「加速度」などの測定量は、数学的な数値とは異なり、「誤差」を含み「精度」を意識して取り扱うことができること
2）「ニュートンの運動の法則」を理解し、場面に応じて数式の形に表すことができること
3）微分、積分、ベクトルの取り扱いを活用できること
4）運動方程式を微分方程式として考え、解を求めることができること
5）得られた解から運動の様子を具体的に説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
2021 年度は COVID-19 感染防止との兼ね合いによっては、オンライン授業となるかもしれません。具体的な授業のやり方などは、4月上旬から適宜「学習支援システム」経由でおしらせします。
オンライン授業の場合は、GoogleClassroom を用いて、出席確認、講義資料（動画）の視聴、小テストなどの実施、また、Zoom を用いてリアルタイムな質疑応答や追加説明を行うことになります。
対面式での授業実施が可能であれば、出席確認は教室に設置の「出席管理システム」により行い、小テストなどは学内ネットワーク経由で GoogleClassroom により実施、となります。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（シラバス　2021_02_10 ：以下は対面式授業の場合です。オンライン授業でも大筋同様に行います）
授業は指定した教科書の内容にしたがって行います。
教科書を予習して授業に臨んでもらうことが必要です。
ただし、自力では理解しにくいかもしれない部分に関する補助資料を授業前に公開しますので、それも参照して予習を行うこと。
授業では、予習の段階で理解しにくそうなところ、また、予習の段階で重要さを見落としそうなところを中心として説明するため、補助資料をスクリーンに投影したり、板書したりしながら説明します。
学期初めは、導入部分は高校で習ったことの復習から始めますが、途中から新たに説明される考え方、そして将来にわたって通用する考え方へと拡張されるので、気がつかないうちに高度な内容へ移っていることになります。
そのような展開についてきてもらうとき、「納得して理解すること」に注意を払ってください。ゲームの攻略本のように「丸覚え」したり、単に繰り返しを通じて「反射的に作業する」では応用が効きません。知識の積み重ねる努力が実力に直結することにも注意してください。
毎回、小テストを実施しますが、「不十分な回答だった場合、何が不十分なのか」「誤っている場合、何をどのように誤解していて、本来どのように理解すべきだったか」をはっきりしてもらうことが重要です。
そのため、小テストは、まず自力で答案を作成してもらったのち、続いて解説を聞きながら自分の答案を添削、修正することを行ってもらいます。
この作業を通じて、「正しい内容」を理解し、「簡潔に記す」を意識してもらうことを目指します。いわゆる「部分点狙い」のために、だらだらとなんでも答案に盛り込む答案が不適切であることを実感してください。
なお、課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、 測定に関連した基礎知識	(テキスト第０章) 国際単位系、実測値における有効数字と誤差、測定結果を用いた計算の仕方
2	運動の表し方（１：直交座標系における表現）	(テキスト　1.1-1.3) 一般の運動における位置、速度、加速度の関係。 平面内での等速円運動
3	運動の表し方（２：極座標系における表現）	(テキスト　1.4) 平面内での等速でない円運動、 平面内での極座標を用いた、位置、速度、加速度。
4	運動の法則（１：運動方程式）	第１章の復習 (テキスト 2.1-2.3) 運動方程式を用いた基本的な取り扱い。 １）作用する力が与えられている場合、 ２）作用する加速度が与えられている場合 ３）等速円運動の場合
5	運動の法則（２：運動量） 運動方程式を解く（１：解を仮定して解く）	(テキスト 2.4) ４）運動量と運動の法則 (テキスト 3.1) 速度に比例する抵抗のみを受ける物体の運動について運動方程式を「解を仮定」により解く。
6	運動方程式を解く（２：変数分離により解く）	(テキスト 3.1) 速度に比例する抵抗のみを受ける物体の運動について運動方程式を「変数分離法」により解く。
7	前半のまとめ（第１回ー第６回）	第１回から第６回までの内容に関するまとめとして、中間試験を実施。
8	運動方程式を解く （３：重力を含む場合） （４：速度の２乗に比例する抵抗の場合）	（テキスト 3.2-3.3） 一定の重力が作用する場合など定数項が含まれている時の取り扱い。 速度の２乗に比例する力を受ける場合の取り扱い。
9	運動方程式を解く （５：単振動）	（テキスト 4.1） バネの復元力のみで往復運動するときの運動方程式を第３章の手順が適用できるかどうかを確かめながら解く。
10	運動の解析 （５：単振動）	（テキスト 4.1） 前回の取り扱いを、テイラー展開と結びつける。 振り子の運動と単振動についても検討する。
11	運動の解析 （６：減衰振動）	（テキスト 4.2） 復元力だけでなく抵抗を受ける運動、の場合について検討する。
12	運動の解析 （７：強制振動）	（テキスト 4.3） 外部から力を周期的に受ける時の運動について検討する。
13	ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存（１）	（テキスト 5.1& 5.2） 仕事の定義。 運動方程式から「エネルギー原理」を導く。
14	ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存（２）	（テキスト 5.3-5.5） 特殊な場面として「保存力」に注目し、ポテンシャルエネルギーの定義を行い、「力学的エネルギー保存則」を導く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業計画に沿って授業を実施するので、各回に対応する部分のテキストを予習して授業に臨むこと。
あらかじめ「どこがわかりにくいか」「どこが納得できないか」をはっきりさせておくと、授業が理解しやすくなる。
復習においては、テキスト、板書を丸覚えするのではなく、「自分が理解できる言葉を使って表現すること」「略図やグラフを描いて、視覚的に里香雨を促す」に徹すること。
微分・積分について、高校での理解が不十分な人は，教科書レベルでよいので、復習しておくこと．

【テキスト（教科書）】
理工系のための解く！　シリーズ　「力学」　第２版第７刷
著者：平山修、篠原俊二郎、　　出版社：講談社
＊古い版等では、誤りや内容の変更に対応していませんので、上記の「第２版第７刷」を入手してください。
＊「物理学基礎 II（担当：池田）」でも教科書として使用します。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
2021 年度の講義が「対面式講義」「オンライン式講義」いずれかによって評価手法を変えざるを得ません。
具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（シラバス　2021_02_10 ：対面式講義の場合）
定期試験６０％（中間試験３０％、最終試験３０％）、授業中に実施する小テスト（２０％）、および、平常点（２０％）などをもとに総合的に評価する。いずれも、到達目標に対して、最低限のレベルに到達している場合を６割以上、若干の理解不足が見られるがほぼ到達目標に到達している場合を７割以上、ほぼ必要な知識を身につけていると考えられる場合を８割以上、知識を自由に運用でいるとみなすことができる場合を９割以上の評価とする。
（シラバス　2021_02_10 ：オンライン式講義の場合）
授業中に実施する小テスト（８０％）、および、平常点（２０％）などをもとに総合的に評価する。（手書き答案を作成してその画像を送ってもらう「試験」を 2020 年度に実施しましたが、通信環境の問題、画像取得手段や画像送付手段に関する慣れの問題などが、特に春学期は大きく影響したため、手書き答案の送付は避けることとしました）
なお、学期途中から対面式講義に変更された場合は、上述の「（シラバス 2021_02_10 ：対面式講義の場合）」に準ずる定期試験を実施する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
毎回行う小テストは「正解」「不正解」だけでは力を伸ばすことに繋がりません。「不正解」なら「何が欠けているのか」「何が誤りなのか」を学生本人が理解することが一番の勉強です。
そのための自己採点、自己添削であることを活用してください。
中間試験、最終試験の結果によれば、「だらだら計算式を並べている」「文字がはっきり書かれていないために採点できない」という答案の場合、内容を理解することをせずに「教科書や補助資料の丸写し」で済ませていることがほとんどです。
「異なる考え方を理解する」が学生諸君の思考の柔軟性を養う、ということをよく理解してください。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
対面式講義の場合、講義中にスマートフォンなどを使って写真を撮ることは勧めません。
講義中に「ここは重要」と発言すると、スマートフォンで写真を撮る諸君がいます。
「自分の手を使って書く」という作業を行うと、理解しやすかったり、記憶に残りやすかったりすることも、お手軽に写真を撮るだけで済ませている諸君は手元にデータがあるだけで安心するだけで止まるのか、理解すること自体を行っていない雰囲気があります。

【Outline and objectives】
Physics is divided into four major areas, such as dynamics, electromagnetism, thermal statistical mechanics, and quantum mechanics. This course focuses on the topics in classical mechanics, as the basics of whole treatment in physics.
Topics in classical mechanics are found as the phenomena you are familiar in daily life, and main stream in this course is as follows; to know that mathematical expression is proper than expression in text, and to know how to treat the mathematical expression.
The topics in this course will be the basic background for the studies in near future for your own specialities, then it is strongly recommended to master everything in this course.

BSP100LC

物理学基礎 I

西村　征也

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物体や媒質の運動を記述する力学は理工系の様々な科目の基礎である。本講義では、力学の核心である質点（大きさを考慮しなくてよい物体）の力学について、ベクトルの乗法や微分積分を駆使して学ぶ。前半では、高校で学んだ力学への数学的な理解を深める。後半では、減衰振動、コリオリ力、惑星の運動などの進んだ内容について学ぶ。

【到達目標】
・ニュートンの運動の法則を具体的な問題に適用できる。
・仕事とエネルギーの関係を用いて、質点の運動を調べることができる。
・質点の運動方程式から、ばね振動の解を求めることができる。
・質点の角速度と、回転座標系において質点に作用する慣性力を計算できる。
・質点の運動の法則に基づいて、惑星の運動を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
4/12(月) から授業支援システムにて講義資料の公開を開始する。毎回、理解を深め疑問を解消するために演習を行い、その答案をレポートとして提出する。課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基礎的事項の復習	前期の授業内容の説明 単位系 直線運動における速度と加速度
2	ベクトルの乗法	ベクトルの内積と外積
3	力と運動	ニュートンの運動の第 1 法則、第 2 法則、第 3 法則
4	摩擦と抵抗	垂直抗力と摩擦力 物体の速度と抵抗力
5	仕事とエネルギー	仕事の定義 仕事・エネルギーの定理
6	ポテンシャルエネルギーと保存力	力学的エネルギーの保存 保存力の定義 保存力であるための条件
7	中間試験と解説	1 回目から 6 回目までの内容から出題
8	単振動	ばね振動の運動方程式
9	減衰振動	抵抗がある場合のばね振動の運動方程式
10	角速度と角運動量	角速度と角運動量の定義
11	回転系における慣性力	遠心力とコリオリ力
12	重力	中心力としての重力の取り扱い
13	惑星の運動	ケプラーの法則
14	定期試験と解説	8 回目から 13 回目までの内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。
・演習問題は解答例を配布する。試験に臨むに当たって、演習問題は必ず解けるようになっておくこと。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】
力学（川村清著 裳華房）
力学の基礎（橋本正章・荒井賢三著 裳華房）

【成績評価の方法と基準】
定期試験を実施できる場合は、試験（80%）、レポート（20%）で評価する。
定期試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。必要な教材は、授業支援システムにて共有する。

【Outline and objectives】
This course introduces the particle dynamics to students taking this course.

BSP100LC

物理学基礎 I

小鍋　哲

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。特に、大きさのない質量だけをもつ質点の運動を中心にして、古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の３法則とその応用を学ぶ。

【到達目標】
力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	運動の記述 (1)	物理量の表現と単位系、質点位置の表現、ベクトルとスカラー、ベクトル表現の復習。
2	運動の記述 (2)	質点の位置を微分して速度、加速度を求める。微分の復習。
3	運動の記述 (3)	質点の加速度を積分して速度、位置を求める。積分の復習。
4	運動の法則	慣性座標系、運動の 3 法則、運動方程式について学ぶ。
5	いろいろな力	摩擦力、張力、垂直抗力について学ぶ。
6	質点の運動 (1)	運動方程式を解き、一様な重力中の質点の運動について学ぶ。
7	質点の運動 (2)	運動方程式を解き、斜面上の質点の運動について学ぶ。
8	質点の運動 (3)	運動方程式を解き、摩擦のある運動や単振動について学ぶ。
9	仕事と運動エネルギー	仕事と運動エネルギーについて学ぶ。
10	保存力とポテンシャル (1)	保存力について学ぶ。保存力のポテンシャルを求める。
11	保存力とポテンシャル (2)	ポテンシャルから力を求める。
12	力学的エネルギー (1)	力学的エネルギー保存則とその運動解析への応用について学ぶ。
13	力学的エネルギー (2)	力学的エネルギー保存則に基づき運動を解析する。
14	質点運動のまとめ	質点運動の全体まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
その他、授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 (40%) と期末試験 (60%) により評価する。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】
演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
学習支援システムの不具合等で資料をアップできない場合は、不具合が解消しだい資料をアップし、その後の対応をアナウンスします。

【Outline and objectives】
Introduction to classical mechanics, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, and conservation of energy.

BSP100LC

物理学基礎 I

小鍋　哲

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。特に、大きさのない質量だけをもつ質点の運動を中心にして、古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の３法則とその応用を学ぶ。

【到達目標】
力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	運動の記述 (1)	物理量の表現と単位系、質点位置の表現、ベクトルとスカラー、ベクトル表現の復習。
2	運動の記述 (2)	質点の位置を微分して速度、加速度を求める。微分の復習。
3	運動の記述 (3)	質点の加速度を積分して速度、位置を求める。積分の復習。
4	運動の法則	慣性座標系、運動の 3 法則、運動方程式について学ぶ。
5	いろいろな力	摩擦力、張力、垂直抗力について学ぶ。
6	質点の運動 (1)	運動方程式を解き、一様な重力中の質点の運動について学ぶ。
7	質点の運動 (2)	運動方程式を解き、斜面上の質点の運動について学ぶ。
8	質点の運動 (3)	運動方程式を解き、摩擦のある運動や単振動について学ぶ。
9	仕事と運動エネルギー	仕事と運動エネルギーについて学ぶ。
10	保存力とポテンシャル (1)	保存力について学ぶ。保存力のポテンシャルを求める。
11	保存力とポテンシャル (2)	ポテンシャルから力を求める。
12	力学的エネルギー (1)	力学的エネルギー保存則とその運動解析への応用について学ぶ。
13	力学的エネルギー (2)	力学的エネルギー保存則に基づき運動を解析する。
14	質点運動のまとめ	質点運動の全体まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
その他、授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 (40%) と期末試験 (60%) により評価する。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】
演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
学習支援システムの不具合等で資料をアップできない場合は、不具合が解消しだい資料をアップし、その後の対応をアナウンスします。

【Outline and objectives】
Introduction to classical mechanics, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, and conservation of energy.

BSP100LC

物理学基礎ＩＩ

篠原　俊二郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代物理学は力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学に大きく分けられる。物理学基礎では物理学全分野の基礎となる力学、いわゆる古典力学（ニュートンの運動）を学ぶ。これは我々の日常に現れる物体の運動を扱う分野であり、数学を用いて表現することにより、自然現象を理解する方法を学び、工学全般の基礎となる考え方、応用法を学べる。

つまり、自動車や飛行機などわれわれの日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は古典力学の法則に支配されている。したがって，実際の物体の運動を理解するためには、運動方程式を正しく立て、この方程式を解く必要がある。物理学基礎 II では、物理学基礎 I の発展の上に、いくつかの典型的な場合について、このプロセスの学習を行う。さらに、回転系の運動、質点系と剛体系の運動についての理解を深める。これらの概念の理解に必要な数学については、そのつど説明する。

【到達目標】
力学は物理学分野の基礎、土台であり、今後の機械系専門分野への理解にも重要である、本講義ではその中で、物理学基礎 I の発展として、回転系の運動、質点系と剛体系の運動について理解できるのを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を基本とする。毎回、理解度を深め、疑問点を解消するため、演習及び小テストを行い、レポート、答案を提出する。
毎回講義の初めに、前回の講義のまとめと注意点を解説する。
但し、対面講義ができないオンラインの場合は、学習支援システムでのお知らせ、課題、教材フォルダーなどを用いて進める。
何れにしても、課題等に対しては学習支援システムや講義においてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	回転運動と角運動量 (I)	力のモーメント、角運動量
2	回転運動と角運動量 (II)	回転運動の方程式と中心力
3	万有引力を受ける運動 (I)	万有引力とポテンシャル
4	万有引力を受ける運動 (II)	万有引力と惑星の運動
5	慣性系と加速度系	慣性力と遠心力
6	予備	復習と演習
7	前半テストと解説	回転運動と角運動量、万有引力を受ける運動、慣性系と加速度系
8	質点系の運動	2 体の運動、運動量保存
9	剛体の運動 (I)	剛体の釣り合いの条件
10	剛体の運動 (II)	固定軸の周りの運動
11	剛体の運動 (III)	剛体の平面運動
12	剛体の運動 (IV)	撃力による運動
13	予備	復習と演習
14	後半テストと解説	質点系の運動、剛体の運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】適宜、演習問題を宿題として課す。復習もしておくこと。

【テキスト（教科書）】
理工系のための解く！ 力学、平山修・篠原俊二郎 著、講談社講談社（第 2 版、第 7 刷）、ISBN Code: 9784062806039

【参考書】
特にないが、図書館や本屋で、「力学」の入門書、専門書の中から自分に合った書を見つけるのが良い。

【成績評価の方法と基準】
各回のテーマについて内容が理解できたか、原則として毎回小テストを行うとともに、演習問題を宿題として課す。各人が自ら理解度を把握するようにする。成績評価は、小テスト（15 %）、宿題レポート（15%）、前半・後半試験（合わせて 70 %）による。
オンラインの場合は、成績評価の方法と基準も変更する。当面は学習支援システムでの提出書類で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎週の提出物の中に、疑問点、要望等があれば記載する。フィードバックをかけてレベルの変更や、内容、進度を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
関数演算付き電卓

【その他の重要事項】
大学では自ら学び疑問を解決する姿勢が大事である。大学における力学について、高校レベルの物理の公式を用いれば解ける問題も多い。大学の授業では、しかし、その公式が確立する過程を考え、その本質を理解することが目的になる。したがって授業をよく理解し考え方を学ぶことで、応用できる課題が広がり、公式を忘れても自ら考え解を導く糸口をつかめるようになる。その考え方は、実社会へ出てからも必ず役に立つ。

【Outline and objectives】
Modern physics include mechanics, electromagnetics, statistical thermodynamics and quantum mechanics. Here, mechanics is classical fundamental physics (Newton's law of motion), describing the motion of the object.

Motion in various objects relating to our daily lives such as automobiles and airplanes is governed by the classical dynamics. Therefore, in order to understand the motion of a real object, we must set up equations of motion and solve them. Here, using some typical examples, this learning process will be executed. In this lecture of Basic Physics II, advanced study will be shown, following the Basic Physics I. Furthermore, introducing the concept of work and energy, a deep understanding of motion, which has a different viewpoint from the equations of motion, will be done. Regarding the mathematics necessary for the understandings of these concepts, the explanation will be done at all such times.

BSP100LC

物理学基礎ＩＩ

篠原　俊二郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代物理学は力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学に大きく分けられる。物理学基礎では物理学全分野の基礎となる力学、いわゆる古典力学（ニュートンの運動）を学ぶ。これは我々の日常に現れる物体の運動を扱う分野であり、数学を用いて表現することにより、自然現象を理解する方法を学び、工学全般の基礎となる考え方、応用法を学べる。
つまり、自動車や飛行機などわれわれの日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は古典力学の法則に支配されている。したがって，実際の物体の運動を理解するためには、運動方程式を正しく立て、この方程式を解く必要がある。物理学基礎 II では、物理学基礎 I の発展の上に、いくつかの典型的な場合について、このプロセスの学習を行う。さらに、回転系の運動、質点系と剛体系の運動についての理解を深める。これらの概念の理解に必要な数学については、そのつど説明する。

【到達目標】
力学は物理学分野の基礎、土台であり、今後の機械系専門分野への理解にも重要である、本講義ではその中で、物理学基礎 I の発展として、回転系の運動、質点系と剛体系の運動について理解できるのを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を基本とする。毎回、理解度を深め、疑問点を解消するため、演習及び小テストを行い、レポート、答案を提出する。
毎回講義の初めに、前回の講義のまとめと注意点を解説する。
但し、対面講義ができないオンラインの場合は、学習支援システムでのお知らせ、課題、教材フォルダーなどを用いて進める。
何れにしても、課題等に対しては学習支援システムや講義においてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	回転運動と角運動量 (I)	力のモーメント、角運動量
2	回転運動と角運動量 (II)	回転運動の方程式と中心力
3	万有引力を受ける運動 (I)	万有引力とポテンシャル
4	万有引力を受ける運動 (II)	万有引力と惑星の運動
5	慣性系と加速度系	慣性力と遠心力
6	予備	復習と演習
7	前半テストと解説	回転運動と角運動量、万有引力を受ける運動、慣性系と加速度系
8	質点系の運動	2 体の運動、運動量保存
9	剛体の運動 (I)	剛体の釣り合いの条件
10	剛体の運動 (II)	固定軸の周りの運動
11	剛体の運動 (III)	剛体の平面運動
12	剛体の運動 (IV)	撃力による運動
13	予備	復習と演習
14	後半テストと解説	質点系の運動、剛体の運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】適宜、演習問題を宿題として課す。復習もしておくこと。

【テキスト（教科書）】
理工系のための解く！ 力学、平山修・篠原俊二郎 著、講談社（第 2 版、第 7 刷）、ISBN Code: 9784062806039

【参考書】
特にないが、図書館や本屋で、「力学」の入門書、専門書の中から自分に合った書を見つけるのが良い。

【成績評価の方法と基準】
各回のテーマについて内容が理解できたか、原則として毎回小テストを行うとともに、演習問題を宿題として課す。各人が自ら理解度を把握するようにする。成績評価は、小テスト（15 %）、宿題レポート（15%）、前半・後半試験（合わせて 70 %）による。
オンラインの場合は、成績評価の方法と基準も変更する。当面は学習支援システムでの提出書類で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎週の提出物の中に、疑問点、要望等があれば記載する。フィードバックをかけてレベルの変更や、内容、進度を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
関数演算付き電卓

【その他の重要事項】
大学では自ら学び疑問を解決する姿勢が大事である。大学における力学について、高校レベルの物理の公式を用いれば解ける問題も多い。大学の授業では、しかし、その公式が確立する過程を考え、その本質を理解することが目的になる。したがって授業をよく理解し考え方を学ぶことで、応用できる課題が広がり、公式を忘れても自ら考え解を導く糸口をつかめるようになる。その考え方は、実社会へ出てからも必ず役に立つ。

【Outline and objectives】
Modern physics include mechanics, electromagnetics, statistical thermodynamics and quantum mechanics. Here, mechanics is classical fundamental physics (Newton's law of motion), describing the motion of the object.
Motion in various objects relating to our daily lives such as automobiles and airplanes is governed by the classical dynamics. Therefore, in order to understand the motion of a real object, we must set up equations of motion and solve them. Here, using some typical examples, this learning process will be executed. In this lecture of Basic Physics II, advanced study will be shown, following the Basic Physics I.
Furthermore, introducing the concept of work and energy, a deep understanding of motion, which has a different viewpoint from the equations of motion, will be done. Regarding the mathematics necessary for the understandings of these concepts, the explanation will be done at all such times.

BSP100LC

物理学基礎ＩＩ

小鍋　哲

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前半の３回までは、物理学基礎Ｉで学んだ質点の直線運動を求める概念を、質点の回転運動、多数の質点からなる質点系の運動、質量と大きさを持つ剛体の運動に拡張する。4 回以降は、電磁気学について学ぶ。電磁気学は、電気・時期現象に関する学問であり、様々な電化製品や情報通信システムの基礎となっている。

【到達目標】
質点系や剛体の運動（並進と回転の運動）を運動方程式を解くことにより理解できる。電磁気現象の基本である静電場、電位、静電容量、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、授業で取り扱う内容について説明する。
2	力学：回転運動 (1)	角運動量などの回転を表す物理量について学ぶ。
3	力学：回転運動 (2)	中心力 2 体問題について学ぶ。
4	クーロンの法則 (1)	クーロン力とクーロンの法則について学ぶ。
5	クーロンの法則 (2)	電場について学ぶ。
6	ガウスの法則 (1)	電気力線による電場の表現について学ぶ。
7	ガウスの法則 (2)	ガウスの法則について学ぶ。
8	静電ポテンシャル	静電ポテンシャルについて学ぶ。
9	導体	静電誘導について学ぶ。
10	電流と磁場	オームの法則、磁場について学ぶ。
11	ビオ・サバールの法則 (1)	ビオ・サバールの法則について学ぶ。
12	ビオ・サバールの法則 (2)	磁束密度に対するガウスの法則、アンペールの法則について学ぶ。
13	ファラデーの電磁誘導の法則	ファラデーの電磁誘導の法則について学ぶ。
14	マクスウェル方程式	アンペール・マクスウェルの法則、マクスウェル方程式について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
その他、授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価は、学期末の定期試験の点を 70%、宿題またはレポートを 30%として計 100%(100 点) で行う。

【学生の意見等からの気づき】
演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
Introduction to classical mechanics, which includes; vector representation and equations of rotational motion, angular momentum of particle, motion caused by central force, Kepler problem, mechanics for system of multiple particles, rotational kinematics, rotation of rigid body about fixed axis, and motion in accelerated frames.　Introduction to electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.

BSP100LC

物理学基礎ⅠⅠ

西村　征也

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
力学の重要な応用分野として、連続体（質量の分布する媒質）の力学がある。本講義では、連続体の具体例として、剛体（こまのような大きさはあるが変形しない物体）と流体（水や空気などの流動する媒質）を扱う。前半では、剛体の回転や転がりについて学ぶ。後半では、流体を理解する上での基礎的な事項について学ぶ。

【到達目標】
・回転あるいは転がる物体の運動エネルギーと角運動量を計算できる。
・物体の回転に対する運動方程式を立て、その解を求めることができる。
・流体のベルヌーイの定理を具体的な問題に適用できる。
・流体の流線や渦度を計算することができる。
・流体の質量の保存と連続の式との関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を基本とする。毎回、理解を深め疑問を解消するために演習を行い、その答案を提出する。課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 質点系	後期の授業内容の説明 質点系と剛体
2	こまの運動エネルギー	大きさのある物体の回転の運動エネルギー
3	慣性モーメント	連続体としての剛体の扱い 様々な形状の剛体の慣性モーメントの計算
4	剛体の転がり	回転運動と並進運動の重ね合わせとしての転がりの記述
5	剛体の運動方程式	トルクが作用する場合の剛体の角運動量の時間変化
6	実体振り子	剛体の運動方程式の実例
7	中間試験と解説	1 回目から 6 回目までの内容から出題
8	流体の考え方	流体を記述する物理量とその表現方法
9	速度場と流線	流線の考え方と計算法
10	ベルヌーイの定理	流体のエネルギー保存
11	ガウスの定理とストークスの定理	ベクトル場の発散と回転の計算法 ガウスの定理とストークスの定理の使用法
12	連続の式	連続の式の導出
13	流体の回転と渦度	渦度と角運動量の関係 渦菅と渦糸の考え方
14	定期試験と解説	8 回目から 13 回目までの内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。
・演習問題は解答例を配布する。試験に臨むに当たって、演習問題は必ず解けるようになっておくこと。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】
力学（川村清著 裳華房）
力学の基礎（橋本正章・荒井賢三著 裳華房）
連続体の力学（巽友正著 岩波書店）
基礎物理数学 Vol.1 ベクトル・テンソルと行列（ジョージアルフケン・ハンスウェーバー著 講談社）

【成績評価の方法と基準】
試験を実施できる場合は、試験（80%）、レポート（20%）で評価する。
試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。必要な教材は、授業支援システムにて共有する。

【Outline and objectives】
This course introduces the dynamics of a continuum such as a rigid body and a fluid to students taking this course.

BSP100LC

物理学基礎ＩＩ

池田　浩治

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では物理学全般の基礎となる力学（いわゆる「古典力学」）の基礎に関する理解をさらに深めることを目的として、「物理学基礎Ｉ」で対象とした「質点の並進運動」を拡張して、「質点の回転運動」「剛体の運動」「非慣性系での運動」について学ぶ。
（「物理学基礎Ｉ」のシラバスも参照してください）

【到達目標】
物理学基礎Ｉに続いて物理学の基礎のステップアップをはかるため、以下に関する物理的な意味を理解し、その数学的取り扱い方を学生諸君が修得することを目指す。
１）回転に関わる物理量を理解し、質点の回転運動に関する運動方程式から導かれる内容を説明できること
２）遠心力と向心力を明確に区別できること
３）２体問題での取り扱い方を説明できること
４）剛体のつりあい条件を説明できること
５）剛体の回転運動について考え方を説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
2021 年度は COVID-19 感染防止との兼ね合いによっては、オンライン授業となるかもしれません。具体的な授業のやり方などは、９月上旬から適宜「学習支援システム」経由でおしらせします。
オンライン授業の場合は、GoogleClassroom を用いて、出席確認、講義資料（動画）の視聴、小テストなどの実施、また、Zoom を用いてリアルタイムな質疑応答や追加説明を行うことになります。
対面式での授業実施が可能であれば、出席確認は教室に設置の「出席管理システム」により行い、小テストなどは学内ネットワーク経由で GoogleClassroom により実施、となります。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
授業は指定した教科書の内容にしたがって行います。
教科書を予習して授業に臨んでもらうことが必要です。
ただし、自力では理解しにくいかもしれない部分に関する補助資料を授業前に公開しますので、それも参照して予習を行うこと。
授業では、予習の段階で理解しにくそうなところ、また、予習の段階で重要さを見落としそうなところを中心として説明するため、補助資料をスクリーンに投影したり、板書したりしながら説明します。
前の学期に実施した「物理学基礎Ｉ」の内容を基礎として、その拡張版としての内容を学ぶことになるため、既習の内容の復習から始めますが、途中から新たに説明される考え方、そして将来にわたって通用する考え方へと拡張されるので、気がつかないうちに高度な内容へ移っていることになります。
そのような展開についてきてもらうとき、「納得して理解すること」に注意を払ってください。ゲームの攻略本のように「丸覚え」したり、単に繰り返しを通じて「反射的に作業する」では応用が効きません。知識の積み重ねる努力が実力に直結することにも注意してください。
毎回、小テストを実施しますが、「不十分な回答だった場合、何が不十分なのか」「誤っている場合、何をどのように誤解していて、本来どのように理解すべきだったか」をはっきりしてもらうことが重要です。
そのため、小テストは、まず自力で答案を作成してもらったのち、続いて解説を聞きながら自分の答案を添削、修正することを行ってもらいます。
この作業を通じて、「正しい内容」を理解し、「簡潔に記す」を意識してもらうことを目指します。いわゆる「部分点狙い」のために、だらだらとなんでも答案に盛り込む答案が不適切であることを実感してください。
なお、課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	力のモーメントと角運動量	物体を回転させる力の働きを「力のモーメント」として表現するための「外積」を学ぶ。 さらに物体の回転運動の大きさを表現する「角運動量」について検討する。 （テキスト　6.1 & 6.2）
2	質点の回転運動（１：回転の運動方程式と中心力）	回転運動を表す運動方程式について学ぶ。 特殊な場面として中心力が作用するときについて検討する。 （テキスト 6.3 & 6.4）
3	質点の回転運動（２：万有引力とそのポテンシャル）	万有引力の取り扱いを拡張する。球殻定理の背景を理解し、使い方を学ぶ。 （テキスト 7.1）
4	質点の回転運動（３：万有引力と惑星の運動）	惑星の運動に関する「ケプラーの法則」を万有引力から検討する。 （テキスト 7.2）
5	慣性力と遠心力	「向心力」と「遠心力」を正しく理解するために、どの座標系から眺めているかを意識しながら検討する （テキスト 8.1 & 8.2）
6	回転座標系での運動方程式	二次元座標系において、同じ運動を静止座標系と回転座標系から眺めたときにどのように異なるかを検討。 コリオリの力についても触れる。 （テキスト　8.3 & 8.4）
7	まとめ（中間）	第１回から第６回までの内容の理解度合いを確認するために、中間試験を実施。
8	質点系の力学（１：２体問題と換算質量）	２物体からなる「系」の運動をどのように取り扱うかについて検討する。 （テキスト 9.1 & 9.2）
9	質点系の力学（２：２物体の衝突）	二つの物体が衝突する際の取り扱いについて検討する。 （テキスト 9.3）
10	質点系の力学（３：質量が変化する場合の運動）	燃料を燃焼ガスとして噴射しながら運動するロケットなど、質量が変化する物体の運動について、その取り扱いについて検討する。 （テキスト 9.5）
11	剛体の運動（１：剛体のつりあい条件）	大きさが無視できず、変形しない物体（剛体）が静止する条件について検討する。 （テキスト 10.1）
12	剛体の運動（２：固定軸周りの剛体の運動）	固定軸を回転中心とした剛体の回転運動について、その取り扱いを検討する。 （テキスト 10.2）
13	剛体の運動（３：剛体の平面内での運動）	平板状の円板や筒状の円筒が転がる場合、並進運動と回転運動の両方を考慮する必要がある。その取り扱いについて検討する。 （テキスト 10.3）
14	剛体の運動（４：撃力による剛体の運動）	剛体が撃力を受ける場合の運動について検討する。 （テキスト 10.4）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業計画に沿って授業を実施するので、各回に対応する部分のテキストを予習して授業に臨むこと。
あらかじめ「どこがわかりにくいか」「どこが納得できないか」をはっきりさせておくと、授業が理解しやすくなる。
復習においては、テキスト、板書を丸覚えするのではなく、「自分が理解できる言葉を使って表現すること」「略図やグラフを描いて、視覚的に里香雨を促す」に徹すること。
微分・積分について、高校での理解が不十分な人は，教科書レベルでよいので、復習しておくこと．

【テキスト（教科書）】
理工系のための解く！　シリーズ　「力学」　第２版第７刷
著者：平山修、篠原俊二郎、　　出版社：講談社
＊古い版等では、誤りや内容の変更に対応していませんので、上記の「第２版第７刷」を入手してください。
＊「物理学基礎Ｉ（担当：池田）」の教科書と同一です。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
2021 年度の講義が「対面式講義」「オンライン式講義」いずれかによって評価手法を変えざるを得ません。
具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（シラバス　2021_02_10 ：対面式講義の場合）
定期試験６０％（中間試験３０％、最終試験３０％）、授業中に実施する小テスト（２０％）、および、平常点（２０％）などをもとに総合的に評価する。

いずれも、到達目標に対して、最低限のレベルに到達している場合を６割以上、若干の理解不足が見られるがほぼ到達目標に到達している場合を７割以上、ほぼ必要な知識を身につけていると考えられる場合を８割以上、知識を自由に運用でいるとみなすことができる場合を９割以上の評価とする。
（シラバス　2021_02_10 ：オンライン式講義の場合)
授業中に実施する小テスト（８０％)、および、平常点（２０％）などをもとに総合的に評価する。(手書き答案を作成してその画像を送ってもらう「試験」を 2020 年度に実施しましたが、通信環境の問題、画像取得手段や画像送付手段に関する慣れの問題などが、特に春学期は大きく影響したため、手書き答案の送付は避けることとしました）
なお、学期途中から対面式講義に変更された場合は、上述の「(シラバス 2021_02_10 ：対面式講義の場合)」に準ずる定期試験を実施する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
毎回行う小テストは「正解」「不正解」だけでは力を伸ばすことに繋がりません。「不正解」なら「何が欠けているのか」「何が誤りなのか」を学生本人が理解することが一番の勉強です。
そのための自己採点、自己添削であることを活用してください。
中間試験、最終試験の結果によれば、「だらだら計算式を並べている」「文字がはっきり書かれていないために採点できない」という答案の場合、内容を理解することをせずに「教科書や補助資料の丸写し」で済ませていることがほとんどです。
「異なる考え方を理解する」が学生諸君の思考の柔軟性を養う、ということをよく理解してください。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
対面式講義の場合、講義中にスマートフォンなどを使って写真を撮ることは勧めません。
講義中に「ここは重要」と発言すると、スマートフォンで写真を撮る諸君がいます。
「自分の手を使って書く」という作業を行うと、理解しやすかったり、記憶に残りやすかったりすることも、お手軽に写真を撮るだけで済ませている諸君は手元にデータがあるだけで安心するだけで止まるのか、理解すること自体を行っていない雰囲気があります。

【Outline and objectives】
This course focuses on the topics in classical mechanics, to deepen your understanding on the motion of rigid body as well as point mass. The analysis in non-inertial system is also discussed.
This course is the step-up course of "Physics basics I".

BSP100LC

物理学基礎ＩＩ

赤松　茂

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学基礎Ⅰで学んだ質点の直線運動を求める運動方程式の基本概念を，質点の回転運動、多数の質点からなる質点系の運動、さらには大きさをもった剛体の運動にまで拡張する。

【到達目標】
物理学基礎Ⅰと同様に、自然科学，工学全体の基礎となる線形代数や微積分などの基礎数学を力学という具体的な課題への応用を通じて身につけることが本科目の目的の一つである。
具体的には、質点の回転運動の記述法、回転に関与する物理量である力のモーメントや角運動量の概念とベクトルによるこれらの数学的記述、万有引力に代表される中心力によって生じる質点の回転運動、また多数の質点からなる質点系に関して、重心の位置、運動量、運動エネルギーおよび角運動量などの物理量とそれら相互の関係、そして質点系の極限として導かれる大きさをもった剛体について、そのつりあいに関する静力学、その回転運動を規定する慣性モーメント、さらには慣性系に対して加速度をもつ座標系からみたときの物体の運動、などについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の講義内容を要約したレジメならびに毎回の履修内容についての理解を深めるために宿題として課される演習問題の受領、宿題とされた演習課題答案の提出、そして次回の授業時に自身の到達度を確認するフィードバックとしての正解表の受領など、これらすべての情報の授受は「学習支援システム」Hoppii を通じて行う予定です。
また、新型コロナの感染状況によっては、本科目の授業は教室における対面形式ではなく、遠隔会議システムを利用したオンライン授業となる可能性がありますが、Zoom を介しての板書・スライド投影による解説と Hoppii を介しての事前・事後の資料授受による情報共有によって、対面授業とほぼ同等の内容を提供できる見込みです。
オンラインでの開講となった場合の、オンライン授業の方法や各回の授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	質点の回転運動（1）	回転する運動の極座標系による記述
2	質点の回転運動（2）	回転を表す物理量（力のモーメントと角運動量）
3	質点の回転運動（3）	ベクトルの外積、力のモーメント・角運動量のベクトルによる表現
4	中心力による運動（1）	中心力の代表例： 2 つの質点間に作用する万有引力
5	中心力による運動（2）	中心力のポテンシャル
6	中心力による運動（3）	大きさのある物体によって生じる万有引力（体積積分）
7	質点系の力学（1）	質点系の運動方程式、重心の運動、質点系の運動量、衝突
8	質点系の力学（2）	質点系の角運動量、質点系の運動エネルギー
9	剛体の静力学	剛体のつりあい
10	剛体の運動（1）	剛体の運動を記述する運動方程式、運動エネルギー
11	剛体の運動（2）	剛体の慣性モーメント、固定軸のまわりの回転運動
12	剛体の運動（3）	剛体の平面運動（斜面上を回転しながら落下する回転体の運動など）
13	運動座標系での運動方程式（1）	慣性系に対して加速度をもつ並進座標系からみた運動、慣性力
14	運動座標系での運動方程式（2）	慣性系に対して回転運動している座標系からみた運動、コリオリの力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
本科目は春学期の物理学基礎Ⅰの内容を理解していることが履修の前提となっている。
また、毎回の授業で宿題として課される演習問題に取り組むことで、授業で学んだ知識の定着をはかってほしい。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。必要に応じて、プリントを配布する。

【参考書】
基礎物理学　上　（有馬　朗人　編　　学術図書出版社）
その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は学期末の定期試験を主とする（70 %）が、原則として毎回宿題として課する演習課題の提出状況とその結果も加味して（30 %）、総合的に評価する。合否判定は、期末試験の得点と宿題の得点とを重み付け合算して、その 60 点以上を合格とする。合格者に対する S～C の 4 段階評価は、期末試験の得点に対する相対評価で判定する。
オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。
その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業内容に対応した演習問題を課題とすることで、講義内容の定着を図るようにした。
また、演習課題の提出回数が少ない者、その達成度（正解率）が低い者に対しては、ラーニングサポーターによる支援を活用するように勧めている。

【その他の重要事項】
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。

【Outline and objectives】
Introduction to classical dynamics (2) which includes; vector representation and equations of rotational motion, angular momentum of particle, motion caused by central force, mechanics for system of multiple particles, rotational kinematics, rotation of rigid body about fixed axis, and motion in accelerated frames.

BSP100LC

物理学基礎ＩＩ

池田　浩治

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目では物理学全般の基礎となる力学（いわゆる「古典力学」）の基礎に関する理解をさらに深めることを目的として、「物理学基礎Ｉ」で対象とした「質点の並進運動」を拡張して、「質点の回転運動」「剛体の運動」「非慣性系での運動」について学ぶ。
（「物理学基礎 I」のシラバスも参照してください）

【到達目標】
物理学基礎 I に続いて物理学の基礎のステップアップをはかるため、以下に関する物理的な意味を理解し、その数学的取り扱い方を学生諸君が修得することを目指す。
１）回転に関わる物理量を理解し、質点の回転運動に関する運動方程式から導かれる内容を説明できること
２）遠心力と向心力を明確に区別できること
３）２体問題での取り扱い方を説明できること
４）剛体のつりあい条件を説明できること
５）剛体の回転運動について考え方を説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
2021 年度は COVID-19 感染防止との兼ね合いによっては、オンライン授業となるかもしれません。具体的な授業のやり方などは、９月上旬から適宜「学習支援システム」経由でおしらせします。
オンライン授業の場合は、GoogleClassroom を用いて、出席確認、講義資料（動画）の視聴、小テストなどの実施、また、Zoom を用いてリアルタイムな質疑応答や追加説明を行うことになります。
対面式での授業実施が可能であれば、出席確認は教室に設置の「出席管理システム」により行い、小テストなどは学内ネットワーク経由で GoogleClassroom により実施、となります。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
授業は指定した教科書の内容にしたがって行います。
教科書を予習して授業に臨んでもらうことが必要です。
ただし、自力では理解しにくいかもしれない部分に関する補助資料を授業前に公開しますので、それも参照して予習を行うこと。
授業では、予習の段階で理解しにくそうなところ、また、予習の段階で重要さを見落としそうなところを中心として説明するため、補助資料をスクリーンに投影したり、板書したりしながら説明します。
前の学期に実施した「物理学基礎Ｉ」の内容を基礎として、その拡張版としての内容を学ぶことになるため、既習の内容の復習から始めますが、途中から新たに説明される考え方、そして将来にわたって通用する考え方へと拡張されるので、気がつかないうちに高度な内容へ移っていることになります。
そのような展開についてきてもらうとき、「納得して理解すること」に注意を払ってください。ゲームの攻略本のように「丸覚え」したり、単に繰り返しを通じて「反射的に作業する」では応用が効きません。知識の積み重ねる努力が実力に直結することにも注意してください。
毎回、小テストを実施しますが、「不十分な回答だった場合、何が不十分なのか」「誤っている場合、何をどのように誤解していて、本来どのように理解すべきだったか」をはっきりしてもらうことが重要です。
そのため、小テストは、まず自力で答案を作成してもらったのち、続いて解説を聞きながら自分の答案を添削、修正することを行ってもらいます。
この作業を通じて、「正しい内容」を理解し、「簡潔に記す」を意識してもらうことを目指します。いわゆる「部分点狙い」のために、だらだらとなんでも答案に盛り込む答案が不適切であることを実感してください。
なお、課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	力のモーメントと角運動量	物体を回転させる力の働きを「力のモーメント」として表現するための「外積」を学ぶ。 さらに物体の回転運動の大きさを表現する「角運動量」について検討する。 （テキスト　6.1 & 6.2）
2	質点の回転運動（１：回転の運動方程式と中心力）	回転運動を表す運動方程式について学ぶ。 特殊な場面として中心力が作用するときについて検討する。 （テキスト 6.3 & 6.4）
3	質点の回転運動（２：万有引力とそのポテンシャル）	万有引力の取り扱いを拡張する。球殻定理の背景を理解し、使い方を学ぶ。 （テキスト 7.1）
4	質点の回転運動（３：万有引力と惑星の運動）	惑星の運動に関する「ケプラーの法則」を万有引力から検討する。 （テキスト 7.2）
5	慣性力と遠心力	「向心力」と「遠心力」を正しく理解するために、どの座標系から眺めているかを意識しながら検討する （テキスト 8.1 & 8.2）
6	回転座標系での運動方程式	二次元座標系において、同じ運動を静止座標系と回転座標系から眺めたときにどのように異なるかを検討。 コリオリの力についても触れる。 （テキスト　8.3 & 8.4）
7	まとめ（中間）	第１回から第６回までの内容の理解度合いを確認するために、中間試験を実施。
8	質点系の力学（１：２体問題と換算質量）	２物体からなる「系」の運動をどのように取り扱うかについて検討する。 （テキスト 9.1 & 9.2）
9	質点系の力学（２：２物体の衝突）	二つの物体が衝突する際の取り扱いについて検討する。 （テキスト 9.3）
10	質点系の力学（３：質量が変化する場合の運動）	燃料を燃焼ガスとして噴射しながら運動するロケットなど、質量が変化する物体の運動について、その取り扱いについて検討する。 （テキスト 9.5）
11	剛体の運動（１：剛体のつりあい条件）	大きさが無視できず、変形しない物体（剛体）が静止する条件について検討する。 （テキスト 10.1）
12	剛体の運動（２：固定軸周りの剛体の運動）	固定軸を回転中心とした剛体の回転運動について、その取り扱いを検討する。 （テキスト 10.2）
13	剛体の運動（３：剛体の平面内での運動）	平板状の円板や筒状の円筒が転がる場合、並進運動と回転運動の両方を考慮する必要がある。その取り扱いについて検討する。 （テキスト 10.3）
14	剛体の運動（４：撃力による剛体の運動）	剛体が撃力を受ける場合の運動について検討する。 （テキスト 10.4）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業計画に沿って授業を実施するので、各回に対応する部分のテキストを予習して授業に臨むこと。
あらかじめ「どこがわかりにくいか」「どこが納得できないか」をはっきりさせておくと、授業が理解しやすくなる。
復習においては、テキスト、板書を丸覚えするのではなく、「自分が理解できる言葉を使って表現すること」「略図やグラフを描いて、視覚的に里香雨を促す」に徹すること。
微分・積分について、高校での理解が不十分な人は，教科書レベルでよいので、復習しておくこと.

【テキスト（教科書）】
理工系のための解く！　シリーズ　「力学」　第２版第７刷
著者：平山修、篠原俊二郎、　出版社：講談社
＊古い版等では、誤りや内容の変更に対応していませんので、上記の「第２版第７刷」を入手してください。
＊「物理学基礎Ｉ（担当：池田）」の教科書と同一です。

【参考書】
必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
2021 年度の講義が「対面式講義」「オンライン式講義」いずれかによって評価手法を変えざるを得ません。
具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（シラバス　2021_02_10 ：対面式講義の場合）
定期試験６０％（中間試験３０％、最終試験３０％）、授業中に実施する小テスト（２０％）、および、平常点（２０％）などをもとに総合的に評価する。

いずれも、到達目標に対して、最低限のレベルに到達している場合を６割以上、若干の理解不足が見られるがほぼ到達目標に到達している場合を７割以上、ほぼ必要な知識を身につけていると考えられる場合を８割以上、知識を自由に運用でいるとみなすことができる場合を９割以上の評価とする。
（シラバス　2021_02_10 ：オンライン式講義の場合)
授業中に実施する小テスト（８０％)、および、平常点（２０％）などをもとに総合的に評価する。(手書き答案を作成してその画像を送ってもらう「試験」を 2020 年度に実施しましたが、通信環境の問題、画像取得手段や画像送付手段に関する慣れの問題などが、特に春学期は大きく影響したため、手書き答案の送付は避けることとしました）
なお、学期途中から対面式講義に変更された場合は、上述の「(シラバス 2021_02_10 ：対面式講義の場合)」に準ずる定期試験を実施する予定です。

【学生の意見等からの気づき】
毎回行う小テストは「正解」「不正解」だけでは力を伸ばすことに繋がりません。「不正解」なら「何が欠けているのか」「何が誤りなのか」を学生本人が理解することが一番の勉強です。
そのための自己採点、自己添削であることを活用してください。
中間試験、最終試験の結果によれば、「だらだら計算式を並べている」「文字がはっきり書かれていないために採点できない」という答案の場合、内容を理解することをせずに「教科書や補助資料の丸写し」で済ませていることがほとんどです。
「異なる考え方を理解する」が学生諸君の思考の柔軟性を養う、ということをよく理解してください。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
対面式講義の場合、講義中にスマートフォンなどを使って写真を撮ることは勧めません。
講義中に「ここは重要」と発言すると、スマートフォンで写真を撮る諸君がいます。
「自分の手を使って書く」という作業を行うと、理解しやすかったり、記憶に残りやすかったりすることも、お手軽に写真を撮るだけで済ませている諸君は手元にデータがあるだけで安心するだけで止まるのか、理解すること自体を行っていない雰囲気があります。

【Outline and objectives】
This course focuses on the topics in classical mechanics, to deepen your understanding on the motion of rigid body as well as point mass. The analysis in non-inertial system is also discussed.
This course is the step-up course of "Physics basics I".

BSP100LC

物理学基礎ⅠⅠ

西村　征也

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
力学の重要な応用分野として、連続体（質量の分布する媒質）の力学がある。本講義では、連続体の具体例として、剛体（こまのような大きさはあるが変形しない物体）と流体（水や空気などの流動する媒質）を扱う。前半では、剛体の回転や転がりについて学ぶ。後半では、流体を理解する上での基礎的な事項について学ぶ。

【到達目標】
・回転あるいは転がる物体の運動エネルギーと角運動量を計算できる。
・物体の回転に対する運動方程式を立て、その解を求めることができる。
・流体のベルヌーイの定理を具体的な問題に適用できる。
・流体の流線や渦度を計算することができる。
・流体の質量の保存と連続の式との関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を基本とする。毎回、理解を深め疑問を解消するために演習を行い、その答案を提出する。課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 質点系	後期の授業内容の説明 質点系と剛体
2	こまの運動エネルギー	大きさのある物体の回転の運動エネルギー
3	慣性モーメント	連続体としての剛体の扱い 様々な形状の剛体の慣性モーメントの計算
4	剛体の転がり	回転運動と並進運動の重ね合わせとしての転がりの記述
5	剛体の運動方程式	トルクが作用する場合の剛体の角運動量の時間変化
6	実体振り子	剛体の運動方程式の実例
7	中間試験と解説	1 回目から 6 回目までの内容から出題
8	流体の考え方	流体を記述する物理量とその表現方法
9	速度場と流線	流線の考え方と計算法
10	ベルヌーイの定理	流体のエネルギー保存
11	ガウスの定理とストークスの定理	ベクトル場の発散と回転の計算法 ガウスの定理とストークスの定理の使用法
12	連続の式	連続の式の導出
13	流体の回転と渦度	渦度と角運動量の関係 渦菅と渦糸の考え方
14	定期試験と解説	8 回目から 13 回目までの内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。
・演習問題は解答例を配布する。試験に臨むに当たって、演習問題は必ず解けるようになっておくこと。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】
力学（川村清著 裳華房）
力学の基礎（橋本正章・荒井賢三著 裳華房）
連続体の力学（巽友正著 岩波書店）
基礎物理数学 Vol.1 ベクトル・テンソルと行列（ジョージアルフケン・ハンスウェーバー著 講談社）

【成績評価の方法と基準】
試験を実施できる場合は、試験（80%）、レポート（20%）で評価する。
試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。必要な教材は、授業支援システムにて共有する。

【Outline and objectives】
This course introduces the dynamics of a continuum such as a rigid body and a fluid to students taking this course.

BSP100LC

物理学基礎ＩＩ

小鍋　哲

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前半の３回までは、物理学基礎Ｉで学んだ質点の直線運動を求める概念を、質点の回転運動、多数の質点からなる質点系の運動、質量と大きさを持つ剛体の運動に拡張する。4 回以降は、電磁気学について学ぶ。電磁気学は、電気・時期現象に関する学問であり、様々な電化製品や情報通信システムの基礎となっている。

【到達目標】
質点系や剛体の運動（並進と回転の運動）を運動方程式を解くことにより理解できる。電磁気現象の基本である静電場、電位、静電容量、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、授業で取り扱う内容について説明する。
2	力学：回転運動 (1)	角運動量などの回転を表す物理量について学ぶ。
3	力学：回転運動 (2)	中心力 2 体問題について学ぶ。
4	クーロンの法則 (1)	クーロン力とクーロンの法則について学ぶ。
5	クーロンの法則 (2)	電場について学ぶ。
6	ガウスの法則 (1)	電気力線による電場の表現について学ぶ。
7	ガウスの法則 (2)	ガウスの法則について学ぶ。
8	静電ポテンシャル	静電ポテンシャルについて学ぶ。
9	導体	静電誘導について学ぶ。
10	電流と磁場	オームの法則、磁場について学ぶ。
11	ビオ・サバールの法則 (1)	ビオ・サバールの法則について学ぶ。
12	ビオ・サバールの法則 (2)	磁束密度に対するガウスの法則、アンペールの法則について学ぶ。
13	ファラデーの電磁誘導の法則	ファラデーの電磁誘導の法則について学ぶ。
14	マクスウェル方程式	アンペール・マクスウェルの法則、マクスウェル方程式について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
その他、授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価は、学期末の定期試験の点を 70%、宿題またはレポートを 30%として計 100%(100 点) で行う。

【学生の意見等からの気づき】
演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
Introduction to classical mechanics, which includes; vector representation and equations of rotational motion, angular momentum of particle, motion caused by central force, Kepler problem, mechanics for system of multiple particles, rotational kinematics, rotation of rigid body about fixed axis, and motion in accelerated frames.　Introduction to electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.

BSP100LC

物理学基礎ＩＩ

小鍋　哲

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前半の３回までは、物理学基礎Ｉで学んだ質点の直線運動を求める概念を、質点の回転運動、多数の質点からなる質点系の運動、質量と大きさを持つ剛体の運動に拡張する。4 回以降は、電磁気学について学ぶ。電磁気学は、電気・時期現象に関する学問であり、様々な電化製品や情報通信システムの基礎となっている。

【到達目標】
質点系や剛体の運動（並進と回転の運動）を運動方程式を解くことにより理解できる。電磁気現象の基本である静電場、電位、静電容量、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、授業で取り扱う内容について説明する。
2	力学：回転運動 (1)	角運動量などの回転を表す物理量について学ぶ。
3	力学：回転運動 (2)	中心力 2 体問題について学ぶ。
4	クーロンの法則 (1)	クーロン力とクーロンの法則について学ぶ。
5	クーロンの法則 (2)	電場について学ぶ。
6	ガウスの法則 (1)	電気力線による電場の表現について学ぶ。
7	ガウスの法則 (2)	ガウスの法則について学ぶ。
8	静電ポテンシャル	静電ポテンシャルについて学ぶ。
9	導体	静電誘導について学ぶ。
10	電流と磁場	オームの法則、磁場について学ぶ。
11	ビオ・サバールの法則 (1)	ビオ・サバールの法則について学ぶ。
12	ビオ・サバールの法則 (2)	磁束密度に対するガウスの法則、アンペールの法則について学ぶ。
13	ファラデーの電磁誘導の法則	ファラデーの電磁誘導の法則について学ぶ。
14	マクスウェル方程式	アンペール・マクスウェルの法則、マクスウェル方程式について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は特に定めない。

【参考書】
「基礎からの物理学」山本貴博　裳華房。
その他、授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
評価は、学期末の定期試験の点を 70%、宿題またはレポートを 30%として計 100%(100 点) で行う。

【学生の意見等からの気づき】
演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
Introduction to classical mechanics, which includes; vector representation and equations of rotational motion, angular momentum of particle, motion caused by central force, Kepler problem, mechanics for system of multiple particles, rotational kinematics, rotation of rigid body about fixed axis, and motion in accelerated frames.　Introduction to electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.

BSP100LC

化学基礎 I

落合　剛

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
化学 (Chemistry) は、物理学、生物学などと並ぶ自然科学 (Science) の一分野である。本講義は、理工系学生として最低限必要な化学の知識や方法論をふまえ、**「化学が日常生活にどう結びついているか」**について、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力までを幅広く身に付けることを目的とする。

【到達目標】
1．化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法
2．論文など、科学的に信頼できる情報の見つけ方とその活用法
3．身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明する能力
4．科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案する能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
https://youtu.be/sxiEv0UAHgI
この youtube 動画は、2020 年度のオンライン講義で使用したものである。この動画のように、簡単な化学実験、動画、powerpoint スライド、関連 web サイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答や議論をおりまぜ、双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後に、学習支援システムに動画やスライドなどをアップロードする。**2～3回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信する。**優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。また、講義時間外にも、学習支援システムの授業内掲示板や、LINE オープンチャット、電子メールなどで、随時、質疑応答や議論（ときどき雑談）を展開する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「身近な現象を、科学的な視点でとらえ、考えること」の楽しさと重要性について
2	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	分子レベルで見た日々の呼吸、そもそも分子とは？、物質量の概念と計算方法
3	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	大気圏の構造、空気の組成と微量成分、空気の汚染とその原因物質
4	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	身近な空気清浄機の原理と効果について
5	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	空気にまつわる化学反応、汚染物質の分解方法
6	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	オゾン層の正体と存在場所、酸素／オゾンによる紫外線の遮蔽
7	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	光という波動
8	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	原子の構造とそのモデル１、我々は結局、何でできているのか？
9	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	原子の構造とそのモデル２、研究の意味
10	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	原子の構造とそのモデル３、オゾン層破壊問題の未来
11	テキスト第 3 章 全地球的気候変動にかかわる化学：切り離せない化学との関わり	地球温暖化とは：地球のエネルギー収支、証拠集め：時間からの証言
12	テキスト第 3 章 全地球的気候変動にかかわる化学：切り離せない化学との関わり	政治の動きと科学の対応・未来の予測１、「地球はこれからどうなるのか？」
13	テキスト第 3 章 全地球的気候変動にかかわる化学：切り離せない化学との関わり	政治の動きと科学の対応・未来の予測２、「不都合な真実」「”戦う”環境化学者たち」
14	演習問題、まとめ	具体的な問題の考え方・解き方、科学的に信頼できる情報の収集方法、研究とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないように内容を工夫しているので、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、Powerpoint 等で答案を作成して電子メールで提出する、といった PC の基本的な使用方法に慣れておくこと。**2～3回、演習課題を出題するが、いずれも、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない問題ばかりである。**少しインターネットで調べたりする程度では不十分なので、時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成してほしい。

【テキスト（教科書）】
『実感する化学 (上巻・地球感動編)』アメリカ化学会　著、廣瀬千秋訳著、エヌ・ティー・エス (2015 年発刊)、本体 3,500 円＋税
http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html
※第１～３章を使用。秋学期の「化学基礎Ⅱ」で、残りの第４～６章を使用。**春秋を通じての履修をおすすめする。**

【参考書】
講義中に適宜紹介する。専門書、一般書、科学論文、web ページや youtube 動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】
●上記の到達目標に記載した４つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、少しインターネットで調べたり、「過去問」を入手したところで、簡単に高評価が得られない問題になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えたうえで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では**「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。**

●目標１については、教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標２および３については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標４については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。さらに平常点として、模範解答の発表や講義の解説に対し、秀逸な質問・コメントを発したかどうかなども評価対象とする。**配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が 40%、演習課題の合計が 30%、その他平常点が 30%程度である。**

【学生の意見等からの気づき】

● 2020 年度はコロナ禍のためすべてオンライン講義となったが、Zoom を活用してリアルタイムかつ双方向に講義を展開した。また、入学後すぐにオンライン講義になってしまった 1 年生も多数受講していたので、授業支援アシスタント（当時 3 年生）に協力してもらい、講義時間の前後に雑談の時間を設定し、学生同士の交流づくりや大学生活についての相談にも対応できるよう配慮した。その結果、講義終了後のアンケートでは**「オンライン授業とは思えないほどの繋がりを感じた」「違う学年の人と話せたり、先生と気になる科学のことを話せたりしてとても楽しかった」「授業中の雰囲気が良く、先生に質問がしやすく学習がとても捗りました」**といった声が多数よせられ、手ごたえを感じた。中には**「LINE オープンチャットなどの気軽に発言できるスペースがあるともっと討論できるかもしれない」「先生の授業から離れがたい」「” 化学基礎” を失った喪失感がものすごい」**という声もあったので、さっそく LINE オープンチャットを立ち上げ、講義終了後も交流できる場として残しておくことにした。将来的に、化学基礎を受講した様々な学年の学生が、ゆるくつながって、ちょっとしたことから人生相談まで、自由に交流できる場にしたいと思っている。2021 年度もコロナ禍が続くと予想されるが、学ぶべきもの、教えるべきものをしっかり持って、工夫を続けていく。

●「化学が苦手で機械工学科に入った」という学生が多いようなので、化学が苦手な学生にもイメージしやすいよう、化学式や量子論などをなるべく使わず、「化学が日常生活にどう結びついているか」を、わかりやすく伝える工夫をしている。ときどき**「化学が得意で、シュレーディンガー方程式などを詳しく学びたくてこの講義を受講したが、期待外れだった」**という声もあり、学生の求めるものに幅があるのは悩ましいところである。課題の自由度を高く設定することで、学生それぞれの興味関心を活かし、得意分野を存分に発揮できるようにして対応していく。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC 等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義スライドや課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、2021 年度もコロナ禍が続くと予想されるので、オンライン講義にも対応できるよう、Zoom をはじめとした各種ツールの準備をしておくこと（必要に応じて携帯電話会社のデータ通信容量の支援なども活用し、通信環境を整備しておくと良い）。さらに、LINE オープンチャットでは、学生同士の自由な交流を主な目的として、雑談を随時展開している。参加が必須ではないが、興味があれば、LINE オープンチャットも使用できるようにしておくと良い（参加方法は講義内で説明する）。

【その他の重要事項】

●春学期と秋学期で教科書を半分ずつ進める。春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

●教員は、神奈川県の公的研究機関に勤める研究者である。その経験をふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn "how chemistry influence our daily lives" based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

BSP100LC

化学基礎 I

落合　剛

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
化学 (Chemistry) は、物理学、生物学などと並ぶ自然科学 (Science) の一分野である。本講義は、理工系学生として最低限必要な化学の知識や方法論をふまえ、**「化学が日常生活にどう結びついているか」**について、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力までを幅広く身に付けることを目的とする。

【到達目標】
1．化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法
2．論文など、科学的に信頼できる情報の見つけ方とその活用法
3．身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明する能力
4．科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案する能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
https://youtu.be/sxiEv0UAHgI
この youtube 動画は、2020 年度のオンライン講義で使用したものである。この動画のように、簡単な化学実験、動画、powerpoint スライド、関連 web サイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答や議論をおりまぜ、双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後に、学習支援システムに動画やスライドなどをアップロードする。**２～３回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信する。**優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。また、講義時間外にも、学習支援システムの授業内掲示板や、LINE オープンチャット、電子メールなどで、随時、質疑応答や議論（ときどき雑談）を展開する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「身近な現象を、科学的な視点でとらえ、考えること」の楽しさと重要性について
2	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	分子レベルで見た日々の呼吸、そもそも分子とは？、物質量の概念と計算方法
3	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	大気圏の構造、空気の組成と微量成分、空気の汚染とその原因物質
4	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	身近な空気清浄機の原理と効果について
5	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	空気にまつわる化学反応、汚染物質の分解方法
6	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	オゾン層の正体と存在場所、酸素／オゾンによる紫外線の遮蔽
7	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	光という波動
8	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	原子の構造とそのモデル１、我々は結局、何でできているのか？
9	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	原子の構造とそのモデル２、研究の意味
10	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	原子の構造とそのモデル３、オゾン層破壊問題の未来
11	テキスト第 3 章 全地球的気候変動にかかわる化学：切り離せない化学との関わり	地球温暖化とは：地球のエネルギー収支、証拠集め：時間からの証言
12	テキスト第 3 章 全地球的気候変動にかかわる化学：切り離せない化学との関わり	政治の動きと科学の対応・未来の予測１、「地球はこれからどうなるのか？」
13	テキスト第 3 章 全地球的気候変動にかかわる化学：切り離せない化学との関わり	政治の動きと科学の対応・未来の予測２、「不都合な真実」「”戦う”環境化学者たち」
14	演習問題、まとめ	具体的な問題の考え方・解き方、科学的に信頼できる情報の収集方法、研究とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないように内容を工夫しているので、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、Powerpoint 等で答案を作成して電子メールで提出する、といった PC の基本的な使用方法に慣れておくこと。**２～３回、演習課題を出題するが、いずれも、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない問題ばかりである。**少しインターネットで調べたりする程度では不十分なので、時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成してほしい。

【テキスト（教科書）】
『実感する化学 (上巻・地球感動編)』アメリカ化学会　著、廣瀬千秋訳著、エヌ・ティー・エス (2015 年発刊)、本体 3,500 円＋税
http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html
※第１～３章を使用。秋学期の「化学基礎Ⅱ」で、残りの第４～６章を使用。**春秋を通じての履修をおすすめする。**

【参考書】
講義中に適宜紹介する。専門書、一般書、科学論文、web ページや youtube 動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】
●上記の到達目標に記載した４つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、少しインターネットで調べたり、「過去問」を入手したところで、簡単に高評価が得られない問題になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えたうえで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では**「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。**

●目標１については、教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標２および３については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標４については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。さらに平常点として、模範解答の発表や講義の解説に対し、秀逸な質問・コメントを発したかどうかなども評価対象とする。**配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が 40%、演習課題の合計が 30%、その他平常点が 30%程度である。**

【学生の意見等からの気づき】

● 2020 年度はコロナ禍のためすべてオンライン講義となったが、Zoom を活用してリアルタイムかつ双方向に講義を展開した。また、入学後すぐにオンライン講義になってしまった 1 年生も多数受講していたので、授業支援アシスタント（当時 3 年生）に協力してもらい、講義時間の前後に雑談の時間を設定し、学生同士の交流づくりや大学生活についての相談にも対応できるよう配慮した。その結果、講義終了後のアンケートでは**「オンライン授業とは思えないほどの繋がりを感じた」「違う学年の人と話せたり、先生と気になる科学のことを話せたりしてとても楽しかった」「授業中の雰囲気が良く、先生に質問がしやすく学習がとても捗りました」**といった声が多数よせられ、手ごたえを感じた。中には**「LINE オープンチャットなどの気軽に発言できるスペースがあるともっと討論できるかもしれない」「先生の授業から離れがたい」「” 化学基礎” を失った喪失感がものすごい」**という声もあったので、さっそく LINE オープンチャットを立ち上げ、講義終了後も交流できる場として残しておくことにした。将来的に、化学基礎を受講した様々な学年の学生が、ゆるくつながって、ちょっとしたことから人生相談まで、自由に交流できる場にしたいと思っている。2021 年度もコロナ禍が続くと予想されるが、学ぶべきもの、教えるべきものをしっかり持って、工夫を続けていく。

●「化学が苦手で機械工学科に入った」という学生が多いようなので、化学が苦手な学生にもイメージしやすいよう、化学式や量子論などをなるべく使わず、「化学が日常生活にどう結びついているか」を、わかりやすく伝える工夫をしている。ときどき**「化学が得意で、シュレーディンガー方程式などを詳しく学びたくてこの講義を受講したが、期待外れだった」**という声もあり、学生の求めるものに幅があるのは悩ましいところである。課題の自由度を高く設定することで、学生それぞれの興味関心を活かし、得意分野を存分に発揮できるようにして対応していく。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC 等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義スライドや課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、2021 年度もコロナ禍が続くと予想されるので、オンライン講義にも対応できるよう、Zoom をはじめとした各種ツールの準備をしておくこと（必要に応じて携帯電話会社のデータ通信容量の支援なども活用し、通信環境を整備しておくと良い）。さらに、LINE オープンチャットでは、学生同士の自由な交流を主な目的として、雑談を随時展開している。参加が必須ではないが、興味があれば、LINE オープンチャットも使用できるようにしておくと良い（参加方法は講義内で説明する）。

【その他の重要事項】

●春学期と秋学期で教科書を半分ずつ進める。春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

●教員は、神奈川県の公的研究機関に勤める研究者である。その経験をふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn "how chemistry influence our daily lives" based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

BSP100LC

化学基礎 I

普神　敬悟

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校と大学の化学の橋渡し的役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう，化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】
(1) 数値の取扱いや単位について説明できる。
(2) モルの概念を説明できる。
(3) 化学反応の量的関係を説明できる。
(4) 原子の構造を説明できる
(5) 電子配置から周期律を説明できる。
(6) 化学結合の種類を分類し、説明できる。
(7) 分子間力の種類を分類し、説明できる。
(8) 酸と塩基の性質を説明できる。
(9) 酸と塩基の強さを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って講義を行う。
理解が深められるように、問題演習を適宜取り入れながら進める。
課題等に対しては，学習支援システム上でフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方，有効数字
2	数値の取扱いと単位	SI 単位，単位の換算
3	化学量論	原子量，モル，アボガドロ定数，化学変化の量的関係
4	原子の構造と電子配置	原子核と電子，原子軌道，電子配置
5	イオン結合	イオンとイオン結合、オクテット則
6	共有結合 1	分子と共有結合，ケクレ構造，非共有電子対
7	共有結合 2	形式電荷，原子価殻電子対反発（VSEPR）理論と分子の形
8	共有結合の極性	電気陰性度，極性分子
9	まとめと中間テスト	前半（第 7 回まで）の内容についての理解度の確認
10	共鳴 1	共鳴と共鳴構造
11	共鳴 2	共鳴と電荷の分散
12	分子間力	水素結合，ファンデルワールス力，分子の物理的性質を決める要素
13	酸と塩基 1	酸と塩基の定義，酸性と塩基性
14	酸と塩基 2	酸と塩基の強さとその考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・教科書の該当する項目を予習する。
・教科書の章末問題を解き，理解を深める。
・配布または授業支援システムを通じて配信する演習問題を解き，理解を深める。

【テキスト（教科書）】
フレンドリー基礎物理化学演習，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2013 年，2700 円＋税

【参考書】
・高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，参考書
・フレンドリー物理化学，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2004 年，2800 円＋税

【成績評価の方法と基準】
・期末試験 45 %
・中間テスト 35 %
・確認テスト 10%
・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み）10 %

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度はコロナ禍でオンライン開講となった。学習支援システムの利用上のトラブルもあり、時間通りに受講が開始できないトラブルに見舞われることが多かった。今年度は大幅な改善を見込んでいる。
講義内容の理解度を高めるために学習支援システム上の掲示板を活用し、さらに緊密なコミュニケーションをとりながら、理解の支援に努める。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を毎回持参すること

【その他の重要事項】
オフィスアワーは設けませんが、質問や要望、その他の連絡事項はすべて、電子メールで随時受け付けます

【None】
None

【Outline and objectives】
The aim of this couse is to understand basic principles of chemistry.
The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and acids and bases.

BSP100LC

化学基礎 I

尾池　秀章

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校で化学を十分学習していない学生を対象とする，高校と大学の化学の橋渡し的役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう，化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】
(1) 数値の取扱いや単位について説明できる。
(2) モルの概念を説明できる。
(3) 化学反応の量的関係を説明できる。
(4) 原子の構造を説明できる
(5) 電子配置から周期律を説明できる。
(6) 化学結合の種類を分類し、説明できる。
(7) 分子間力の種類を分類し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
板書を中心にスライドも用いながら講義を行う。講義内容に沿った宿題を課し，次回の講義中に解説をすると同時に，随時演習を取り入れながら理解が深められるように進める。また課題等に対しては学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・数値の取扱いと単位	授業の進め方，有効数字，SI 単位，単位の換算
2	原子の構造	原子核と電子，原子スペクトル
3	原子の電子配置	原子軌道，構成原理，電子配置
4	元素の周期律と属性	周期表，イオン化エネルギー，電子親和力，原子半径
5	量子力学入門 1	光の粒子性と波動性，波動関数
6	量子力学入門 2	水素原子の波動関数と量子数
7	まとめと解説 中間テスト	前半の内容についての確認
8	共有結合と配位結合 1	分子と共有結合，ルイス構造，オクテット則，形式電荷
9	共有結合と配位結合 2	分子軌道
10	分子の構造 1	原子価殻電子対反発（VSEPR）理論と分子の形
11	分子の構造 2	sp3，sp2，sp 混成軌道
12	共鳴構造	共鳴，共役系
13	イオン結合と水素結合	電気陰性度，極性分子，水素結合
14	まとめと解説 期末テスト	後半の内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・教科書の該当する項目を予習する。
・宿題を解き，宿題の答えを確認する。
・教科書の章末問題を解き，理解を深める。

【テキスト（教科書）】
基礎から学ぶ大学の化学，植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉，培風館，2400 円＋税

【参考書】
・フレンドリー基礎物理化学演習，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2700 円＋税
・高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，参考書

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %
各項目で行う小テスト 25 %
定期テスト 50 %
オンライン併用などの授業形式によっては変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】
スライドを見やすく工夫する。また宿題における記述のミスをなくす。

【その他の重要事項】
毎回，教科書と電卓を持参すること

【Outline and objectives】
This lecture is designed for the students who don't fully understand or have failed to learn basic chemistry. The aim of this lecture is that the students have a knowledge and understanding of basic chemistry.

BSP100LC

化学基礎 I

加藤　尚之

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身近な化学的現象や専門分野での化学が理解でき、将来研究に反映できる化学的基礎知識を身につけ、化学を通して社会人として必要な教養と人としての素養を培っていくことを目的とする。

【到達目標】
原子の構造と量子数、放射性同位元素について理解できる。
電子の配置から周期律が理解でき、周期表にしたがって、原子の性質について理解できる。
濃度、溶解度、pH などを定量的に理解できる。
化学結合および遷移元素の性質について理解できる。
熱力学、酸化還元など身近な化学反応を理解するための基礎学力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
高校で学んだ化学の知識をより深め、大学での専門分野での化学を理解するための橋渡しとして、原子・分子の概念から無機化学・物理化学を中心に講義を行う。講義は板書が中心で行うが、必要に応じて講義資料をプリントにして配布する。また自学自習が行えるように適宜演習問題を配布し、講義時間内で時間的に余裕があれば学生に問題を解いてもらいその解説を行う。時間的に余裕がなければ講義の初めに前回の問題の解説を行う。春学期の授業は, 原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要	・授業のガイダンス
	原子と分子	・原子構造と化学結合、構造式
	同位体	・反応速度と半減期
		・身近な放射性元素
第 2 回	原子構造と量子数	・原子軌道と電子配置
第 3 回	周期表と元素の性質	・原子半径
		・イオン化エネルギー
		・電子親和力
		・電気陰性度
第 4 回	化学結合と分子の構造	・共有結合と分子軌道
		・双極子モーメント
第 5 回	金属元素	・遷移元素の性質および応用
第 6 回	気体 (I)	・気体の性質
第 7 回	気体 (II)	・理想気体と実在気体
第 8 回	溶液 (I)	・水の性質、水素結合
		・水の状態図
第 9 回	溶液 (II)	・浸透圧
第 10 回	熱化学 (I)	・熱化学方程式
		・エンタルピー
		・エントロピー
第 11 回	熱化学 (II)	・自由エネルギー
		・反応の平衡定数
第 12 回	酸化還元反応	・酸化還元反応について
		・電気エネルギー
		・身近な酸化還元反応
第 13 回	酸と塩基	・酸塩基の性質
		・水溶液の pH
		・塩の加水分解
第 14 回	水溶液平衡	・共通イオン効果
		・緩衝作用
		・緩衝溶液の pH
		・身近な緩衝溶液

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回の講義内容の理解度を確認するために、講義内容に則した演習問題を配布するので必ず次回講義までに解く。また理解が不十分であったところは、復習としてノートおよび配布資料を見直し、再度演習問題を解くようにする。

【テキスト（教科書）】
講義内容が一冊の教科書で対応できないため教科書は使用しない。
毎回講義に則した資料を配布するので、各自必要に応じて参考書を参照する。

【参考書】
① 東京化学同人「マクマリー 一般化学 上・下」(J. McMURRY et al. 著、荻野 博ら共訳)
② 丸善株式会社「生命科学のための基礎化学 無機物理化学編」(Molly M. Bloomfield 著、伊藤俊洋ら共訳)
③ 東京化学同人「化学」(A. Sherman et al. 著、石倉洋子ら共訳)
④ 東京化学同人「バーロー生命科学のための物理化学 (第 2 版)」(G. M. Barrow 著、野田春彦訳)
⑤ 裳華房「メディカル化学」(齋藤勝裕共著)
⑥ 裳華房「元素と周期律」(井口洋夫著)

【成績評価の方法と基準】
小テスト 40%
期末テスト 50%
上記に授業平常点 10%を考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
練習問題の解答は次回講義で配布するが、授業時間内で時間的に余裕があれば、問題の解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire basic chemical knowledge so that the students can understand familiar chemical phenomena and can reflect it in future academic research.

BSP100LC

化学基礎 I

普神　敬悟

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校と大学の化学の橋渡し的役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう，化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】
(1) 数値の取扱いや単位について説明できる。
(2) モルの概念を説明できる。
(3) 化学反応の量的関係を説明できる。
(4) 原子の構造を説明できる
(5) 電子配置から周期律を説明できる。
(6) 化学結合の種類を分類し、説明できる。
(7) 分子間力の種類を分類し、説明できる。
(8) 酸と塩基の性質を説明できる。
(9) 酸と塩基の強さを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って講義を行う。
理解が深められるように、問題演習を適宜取り入れながら進める。課題等に対しては，学習支援システム上でフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方，有効数字
2	数値の取扱いと単位	SI 単位，単位の換算
3	化学量論	原子量，モル，アボガドロ定数，化学変化の量的関係
4	原子の構造と電子配置	原子核と電子，原子軌道，電子配置
5	イオン結合	イオンとイオン結合、オクテット則
6	共有結合 1	分子と共有結合，ケクレ構造，非共有電子対
7	共有結合 2	形式電荷，原子価殻電子対反発（VSEPR）理論と分子の形
8	共有結合の極性	電気陰性度，極性分子
9	まとめと中間テスト	前半（第 7 回まで）の内容についての理解度の確認
10	共鳴 1	共鳴と共鳴構造
11	共鳴 2	共鳴と電荷の分散
12	分子間力	水素結合，ファンデルワールス力，分子の物理的性質を決める要素
13	酸と塩基 1	酸と塩基の定義，酸性と塩基性
14	酸と塩基 2	酸と塩基の強さとその考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・教科書の該当する項目を予習する。
・教科書の章末問題を解き，理解を深める。
・配布または授業支援システムを通じて配信する演習問題を解き，理解を深める。

【テキスト（教科書）】
フレンドリー基礎物理化学演習，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2013 年，2700 円＋税

【参考書】
・高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，参考書
・フレンドリー物理化学，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2004 年，2800 円＋税

【成績評価の方法と基準】
・期末試験 45 %
・中間テスト 35 %
・確認テスト 10%
・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み）10 %

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度はコロナ禍でオンライン開講となった。学習支援システムの利用上のトラブルもあり、時間通りに受講が開始できないトラブルに見舞われることがあった。今年度は大幅な改善を見込んでいる。講義内容の理解度を高めるために学習支援システム上の掲示板を活用し、さらに緊密なコミュニケーションをとりながら、理解の支援に努める。

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓を毎回持参すること

【その他の重要事項】
特になし

【None】
None

【Outline and objectives】
The aim of this couse is to understand basic principles of chemistry.
The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and acids and bases.

BSP100LC

化学基礎 I

島田　恵理子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、「化学」を高校で十分学習してきていない学生や、基礎からやりなおしたい学生を主な対象にする。化学の基礎中の基礎を確実に自分のものにしながら、身近な物質や現象を化学的な視点で捉えられるようになることを目指す。

【到達目標】
(1) 原子番号 20 番までの電子配置を副殻 (s,p・・) を用いて表記できる。
(2) 周期表で元素の化学的性質を予測できる。
(3) 化学結合の極性を判別して、物性と関係付けられる。
(4) モルを正しく使い、濃度や量を計算して応用できる。
(5) 簡単な pH の計算ができる。
(6) 酸化数を計算でき、酸化還元の現象を説明できる。
(7) 反応熱や結合エネルギーの計算ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
到達目標の各項目について講義するほか、進行度にあわせて小テストまたは課題を 2 回（2 回あわせて 15 %）行い、定期試験（85 %）と合わせて 100 %として評価する。出席点はない。小テスト等に対しては，学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。
小テストまたは課題の日程と範囲は、実施の 2 回前の週から告知する。
前期の化学基礎 I では、化学の最も基礎になる部分をピックアップして学ぶ。これを土台にして、後期の化学基礎 II では、その周辺のやや高度な領域を学習し、発展させる。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス、確認問題	授業の進め方について 確認問題
2 回	物質・元素・原子、モル	すべての基本となる用語の正確な意味
3 回	原子の構造	原子の中身（陽子、中性子、電子）と構成の規則
4 回	多電子原子の電子配置と元素の周期律	副殻 (s,p,・・) を用いた電子配置 電子配置から元素の化学的性質や周期性を考え理解する
5 回	イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度	各用語の定義、電子配置から周期性を考え理解する
6 回	化学結合 (1) 結合の種類、イオン結合	イオン結合の特徴 どのような原子どうしの結合がイオン結合になるか
7 回	化学結合 (2) 共有結合、共有結合の極性	共有結合の特徴 どのような原子どうしの結合が共有結合になるか 結合の極性・無極性
8 回	物質の三態、溶液の性質	液体・気体・固体の状態図 溶液の性質、濃度、束一性
9 回	理想気体の状態方程式、実在気体	理想気体の状態方程式 実在気体のずれ 混合気体の分圧・全圧
10 回	混合系の状態図ー蒸留	二成分混合系の状態図から沸点や留出成分を考える
11 回	化学反応 (1) 酸と塩基、pH の基本	酸塩基の定義、強弱 中和反応を使って、濃度や量の関係を扱う 簡単な pH の計算
12 回	化学反応 (2) 酸化還元	酸化剤・還元剤、酸化数、酸化する/される等の用語の正確な意味 酸化還元反応を使って、濃度や量の関係を考える
13 回	化学変化とエネルギー	熱力学第一法則、エンタルピーを使った化学反応熱の計算
14 回	トピックス	応用例, 実用例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】学生は各授業終了時に提示される予習や宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】
「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人
講義用プリント

【参考書】
「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

【成績評価の方法と基準】
小テストまたは課題 2 回で 15 %（1 回あたり 7.5 %）+定期試験で 85 %。合計 100 %中、60 %以上で合格。
出席点なし。

【学生の意見等からの気づき】
演習および宿題により実際の問題に慣れるようにする。計算問題が苦手な人も避けて通らないほうがためになる。有機化学は時間の関係でほとんど扱えない。また、実験をしたいという希望には、本講座の目的や設備の問題で難しいので、それにかわるイメージを描ける授業を行う。

【その他の重要事項】
企業で研究開発をした経験を生かし、様々な問題解決へのアプローチのしかたを実例をあげて講義する。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of chemistry to students taking this course.
It is desirable to attend this class for students who have not been studied chemstry enough yet and need to understand it at university.

BSP100LC

化学基礎 I

大波　英幸

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校化学の復習をするとともに、今後専門分野を学び理解し、さらには研究・応用へ発展させるための化学的基礎知識を習得することを目的とする。

【到達目標】
高校で学習した化学の基礎的概念が理解できる。専門分野を理解するため理工・生命科学系学生に必要な化学的基礎知識を習得し、論理的な考え方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業計画各項目の講義を中心に、理解を深めるため、得られた知識を活用するため適宜演習問題、小テストを行う。
高校化学の習熟度は学生により様々だと思われるため、化学が入試科目でなかった、化学を積極的に学んでこなかった学生にも理解でき興味がもてる授業を心がける。
課題等に対しては，学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要	・授業のガイダンス ・習熟度の確認
第 2 回	原子の構造と性質①	・原子の基本構造 ・原子と元素 ・原子の電子配置
第 3 回	原子の構造と性質②	・電子の波動性と電子軌道 ・電子軌道と元素の化学的性質 ・電子のエネルギーと原子の安定性
第 4 回	化学結合と分子の構造①	・共有結合 ・分子の構造 ・混成軌道と二重結合、三重結合 ・イオン結合、金属結合、配位結合
第 5 回	化学結合と分子の構造②	・極性と双極子モーメント ・極性と電気陰性度 ・水素結合とファンデルワールス力 ・化学結合と原子の大きさ
第 6 回	物質の三態	・物質の三態と状態変化 ・気液平衡と蒸気圧
第 7 回	気体の性質①	・ボイルの法則 ・熱運動 ・シャルルの法則 ・ボイル・シャルルの法則
第 8 回	気体の性質②	・アボガドロの法則 ・気体の状態方程式 ・混合気体 ・実在気体
第 9 回	溶液の性質	・溶解度 ・溶液の濃度 ・溶液の性質
第 10 回	気体分子の運動とエネルギーの保存	・エネルギーと温度 ・気体分子の運動 ・化学反応と衝突 ・化学エネルギーと熱エネルギー
第 11 回	エントロピー	・自然現象の変化の方向 ・化学反応の変化の方向
第 12 回	反応の速さと平衡①	・化学反応の速さ ・反応速度と濃度 ・反応速度と活性化エネルギー ・化学反応と触媒
第 13 回	反応の速さと平衡②	・可逆反応と化学平衡 ・化学平衡の移動
第 14 回	まとめ	・春学期のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
高校化学の教科書・参考書を見直し、理解が不十分であったところを予め把握しておく。

【テキスト（教科書）】
新編基礎化学、金原粲ほか、実教出版、2013 年、2300 円＋税

【参考書】
①高校で使用していた化学の教科書
② [化学] Ⅰ B・Ⅱの新研究、卜部吉庸著、三省堂
③これだけはおさえたい化学、井口洋夫ほか、実教出版
④生きている温泉とは何か、大河内正一著、くまざさ出版

【成績評価の方法と基準】
通常は、
授業期間内の中間試験 (又はレポート)40 %
期末試験 60 %
に授業平常点を考慮し評価するが、オンラインでの開講となる可能性があるため、具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回授業の終盤に演習問題を行った。演習問題回答解説の希望があったので、解説時間をより多く確保できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
試験時に関数電卓。

【Outline and objectives】
Review the basics of chemistry learned in high school. Get chemical knowledge to develop into research and applications in specialized areas.

BSP100LC

化学基礎 I

島田　恵理子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、「化学」を高校で十分学習してきていない学生や、基礎からやりなおしたい学生を主な対象にする。化学の基礎中の基礎を確実に自分のものにしながら、身近な物質や現象を化学的な視点で捉えられるようになることを目指す。

【到達目標】
(1) 原子番号 20 番までの電子配置を副殻 (s,p・・) を用いて表記できる。
(2) 周期表で元素の化学的性質を予測できる。
(3) 化学結合の極性を判別して、物性と関係付けられる。
(4) モルを正しく使い、濃度や量を計算して応用できる。
(5) 簡単な pH の計算ができる。
(6) 酸化数を計算でき、酸化還元の現象を説明できる。
(7) 反応熱や結合エネルギーの計算ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
到達目標の各項目について講義するほか、進行度にあわせて小テストまたは課題を 2 回（2 回あわせて 15 %）行い、定期試験（85 %）と合わせて 100 %として評価する。出席点はない。小テスト等に対しては，学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。
小テストまたは課題の日程と範囲は、実施の 2 回前の週から告知する。
前期の化学基礎 I では、化学の最も基礎になる部分をピックアップして学ぶ。これを土台にして、後期の化学基礎 II では、その周辺のやや高度な領域を学習し、発展させる。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス、確認問題	授業の進め方について 確認問題
2 回	物質・元素・原子、モル	すべての基本となる用語の正確な意味
3 回	原子の構造	原子の中身（陽子、中性子、電子）と構成の規則
4 回	多電子原子の電子配置と元素の周期律	副殻 (s,p,・・) を用いた電子配置 電子配置から元素の化学的性質や周期性を考え理解する
5 回	イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度	各用語の定義、電子配置から周期性を考え理解する
6 回	化学結合 (1) 結合の種類、イオン結合	イオン結合の特徴 どのような原子どうしの結合がイオン結合になるか
7 回	化学結合 (2) 共有結合、共有結合の極性	共有結合の特徴 どのような原子どうしの結合が共有結合になるか 結合の極性・無極性
8 回	物質の三態、溶液の性質	液体・気体・固体の状態図 溶液の性質、濃度、束一性
9 回	理想気体の状態方程式、実在気体	理想気体の状態方程式 実在気体のずれ 混合気体の分圧・全圧
10 回	混合系の状態図ー蒸留	二成分混合系の状態図から沸点や留出成分を考える
11 回	化学反応 (1) 酸と塩基、pH の基本	酸塩基の定義、強弱 中和反応を使って、濃度や量の関係を扱う 簡単な pH の計算
12 回	化学反応 (2) 酸化還元	酸化剤・還元剤、酸化数、酸化する/される等の用語の正確な意味 酸化還元反応を使って、濃度や量の関係を考える
13 回	化学変化とエネルギー	熱力学第一法則、エンタルピーを使った化学反応熱の計算
14 回	トピックス	応用例, 実用例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】学生は各授業終了時に提示される予習や宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】
「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人
講義用プリント

【参考書】
「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

【成績評価の方法と基準】
小テストまたは課題 2 回で 15 %（1 回あたり 7.5 %）+定期試験で 85 %。合計 100 %中、60 %以上で合格。
出席点なし。

【学生の意見等からの気づき】
演習および宿題により実際の問題に慣れるようにする。計算問題が苦手な人も避けて通らないほうがためになる。有機化学は時間の関係でほとんど扱えない。また、実験をしたいという希望には、本講座の目的や設備の問題で難しいので、それにかわるイメージを描ける授業を行う。

【その他の重要事項】
企業で研究開発をした経験を生かし、様々な問題解決へのアプローチのしかたを実例をあげて講義する。

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of chemistry to students taking this course.
It is desirable to attend this class for students who have not been studied chemstry enough yet and need to understand it at university.

BSP100LC

化学基礎ＩＩ

落合　剛

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
化学 (Chemistry) は、物理学、生物学などと並ぶ自然科学 (Science) の一分野である。本講義は、理工系学生として最低限必要な化学の知識や方法論をふまえ、**「化学が日常生活にどう結びついているか」**について、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力までを幅広く身に付けることを目的とする。

【到達目標】
１．化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法
２．論文など、科学的に信頼できる情報の見つけ方とその活用法
３．身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明する能力
４．科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案する能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
https://youtu.be/sxiEv0UAHgI
この youtube 動画は、2020 年度のオンライン講義で使用したものである。この動画のように、簡単な化学実験、動画、powerpoint スライド、関連 web サイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答や議論をおりまぜ、双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後に、学習支援システムに動画やスライドなどをアップロードする。**２～３回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信する。**優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。また、講義時間外にも、学習支援システムの授業内掲示板や、LINE オープンチャット、電子メールなどで、随時、質疑応答や議論（ときどき雑談）を展開する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	化学基礎Ｉの復習、化学基礎ＩＩの概要
2	テキスト第 4 章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	エネルギーとは、エネルギーの単位、エネルギーの変換
3	テキスト第 4 章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	分子レベルで見たエネルギー変化、化学反応とエネルギー収支
4	テキスト第 4 章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源１
5	テキスト第 4 章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源２、電池と燃料電池
6	テキスト第 4 章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源３、水素エネルギー社会
7	テキスト第 4 章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源４、核エネルギーの功罪
8	テキスト第 5 章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	飲料水が口に入るまで、飲料水需要の国際性
9	テキスト第 5 章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	汚染された水の分析方法、浄化方法
10	テキスト第 5 章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	溶媒としての水、水分子の構造と物理的性質
11	テキスト第 5 章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	地球の水圏における物質移動とその影響、生命と水
12	テキスト第 6 章 酸性雨の脅威と海水の酸性化：地球環境の防御システムとその限界	酸・塩基・pH とは何か、酸性雨とは何か
13	テキスト第 6 章 酸性雨の脅威と海水の酸性化：地球環境の防御システムとその限界	SO_2 と NO_x ：排出の歴史と今後、規制の戦略、酸性雨にまつわる政治
14	演習問題、まとめ	具体的な問題の考え方・解き方、科学的に信頼できる情報の収集方法、研究とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないように内容を工夫しているので、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、Powerpoint 等で答案を作成して電子メールで提出する、といった PC の基本的な使用方法に慣れておくこと。**２～３回、演習課題を出題するが、いずれも、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない問題ばかりである。**少しインターネットで調べたりする程度では不十分なので、時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成してほしい。

【テキスト（教科書）】
『実感する化学 (上巻・地球感動編)』アメリカ化学会　著、廣瀬千秋訳著、エヌ・ティー・エス (2015 年発刊)、本体 3,500 円＋税
http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html
※第４～６章を使用。春学期の「化学基礎Ｉ」では、第１～３章を使用。**春秋を通じての履修をおすすめする。**

【参考書】
講義中に適宜紹介する。専門書、一般書、科学論文、web ページや youtube 動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】
●上記の到達目標に記載した４つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、少しインターネットで調べたり、「過去問」を入手したところで、簡単に高評価が得られない問題になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えたうえで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では**「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。**

●目標１については、教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標２および３については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標４については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。さらに平常点として、模範解答の発表や講義の解説に対し、秀逸な質問・コメントを発したかどうかなども評価対象とする。**配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が 40%、演習課題の合計が 30%、その他平常点が 30%程度である。**

【学生の意見等からの気づき】

● 2020 年度はコロナ禍のためすべてオンライン講義となったが、Zoom を活用してリアルタイムかつ双方向に講義を展開した。また、入学後すぐにオンライン講義になってしまった 1 年生も多数受講していたので、授業支援アシスタント（当時 3 年生）に協力してもらい、講義時間の前後に雑談の時間を設定し、学生同士の交流づくりや大学生活についての相談にも対応できるよう配慮した。その結果、講義終了後のアンケートでは**「オンライン授業とは思えないほどの繋がりを感じた」「違う学年の人と話せたり、先生と気になる科学のことを話せたりしてとても楽しかった」「授業中の雰囲気が良く、先生に質問がしやすく学習がとても捗りました」**といった声が多数よせられ、手ごたえを感じた。中には**「LINE オープンチャットなどの気軽に発言できるスペースがあるともっと討論できるかもしれない」「先生の授業から離れがたい」「” 化学基礎” を失った喪失感がものすごい」**という声もあったので、さっそく LINE オープンチャットを立ち上げ、講義終了後も交流できる場として残しておくことにした。将来的に、化学基礎を受講した様々な学年の学生が、ゆるくつながって、ちょっとしたことから人生相談まで、自由に交流できる場にしたいと思っている。2021 年度もコロナ禍が続くと予想されるが、学ぶべきもの、教えるべきものをしっかり持って、工夫を続けていく。

●「化学が苦手で機械工学科に入った」という学生が多いようなので、化学が苦手な学生にもイメージしやすいよう、化学式や量子論などをなるべく使わず、「化学が日常生活にどう結びついているか」を、わかりやすく伝える工夫をしている。ときどき**「化学が得意で、シュレーディンガー方程式などを詳しく学びたくてこの講義を受講したが、期待外れだった」**という声もあり、学生の求めるものに幅があるのは悩ましいところである。課題の自由度を高く設定することで、学生それぞれの興味関心を活かし、得意分野を存分に発揮できるようにして対応していく。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC 等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義スライドや課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、2021 年度もコロナ禍が続くと予想されるので、オンライン講義にも対応できるよう、Zoom をはじめとした各種ツールの準備をしておくこと（必要に応じて携帯電話会社のデータ通信容量の支援なども活用し、通信環境を整備しておくと良い）。さらに、LINE オープンチャットでは、学生同士の自由な交流を主な目的として、雑談を随時展開している。参加が必須ではないが、興味があれば、LINE オープンチャットも使用できるようにしておくと良い（参加方法は講義内で説明する）。

【その他の重要事項】

●春学期と秋学期で教科書を半分ずつ進める。春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

●教員は、神奈川県の公的研究機関に勤める研究者である。その経験をふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn "how chemistry influence our daily lives" based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

BSP100LC

化学基礎ＩＩ

落合　剛

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
化学 (Chemistry) は、物理学、生物学などと並ぶ自然科学 (Science) の一分野である。本講義は、理工系学生として最低限必要な化学の知識や方法論をふまえ、**「化学が日常生活にどう結びついているか」**について、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力までを幅広く身に付けることを目的とする。

【到達目標】
１．化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法
２．論文など、科学的に信頼できる情報の見つけ方とその活用法
３．身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明する能力
４．科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案する能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
https://youtu.be/sxiEv0UAHgI
この youtube 動画は、2020 年度のオンライン講義で使用したものである。この動画のように、簡単な化学実験、動画、powerpoint スライド、関連 web サイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答や議論をおりまぜ、双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後に、学習支援システムに動画やスライドなどをアップロードする。**２～３回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信する。**優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。また、講義時間外にも、学習支援システムの授業内掲示板や、LINE オープンチャット、電子メールなどで、随時、質疑応答や議論（ときどき雑談）を展開する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	化学基礎Ｉの復習、化学基礎ＩＩの概要
2	テキスト第 4 章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	エネルギーとは、エネルギーの単位、エネルギーの変換
3	テキスト第 4 章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	分子レベルで見たエネルギー変化、化学反応とエネルギー収支
4	テキスト第 4 章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源１
5	テキスト第 4 章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源２、電池と燃料電池
6	テキスト第 4 章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源３、水素エネルギー社会
7	テキスト第 4 章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源４、核エネルギーの功罪
8	テキスト第 5 章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	飲料水が口に入るまで、飲料水需要の国際性
9	テキスト第 5 章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	汚染された水の分析方法、浄化方法
10	テキスト第 5 章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	溶媒としての水、水分子の構造と物理的性質
11	テキスト第 5 章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	地球の水圏における物質移動とその影響、生命と水
12	テキスト第 6 章 酸性雨の脅威と海水の酸性化：地球環境の防御システムとその限界	酸・塩基・pH とは何か、酸性雨とは何か
13	テキスト第 6 章 酸性雨の脅威と海水の酸性化：地球環境の防御システムとその限界	SO_2 と NO_x ：排出の歴史と今後、規制の戦略、酸性雨にまつわる政治
14	演習問題、まとめ	具体的な問題の考え方・解き方、科学的に信頼できる情報の収集方法、研究とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないように内容を工夫しているので、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、Powerpoint 等で答案を作成して電子メールで提出する、といった PC の基本的な使用方法に慣れておくこと。**２～３回、演習課題を出題するが、いずれも、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない問題ばかりである。**少しインターネットで調べたりする程度では不十分なので、時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成してほしい。

【テキスト（教科書）】
『実感する化学 (上巻・地球感動編)』アメリカ化学会　著、廣瀬千秋訳著、エヌ・ティー・エス (2015 年発刊)、本体 3,500 円＋税
http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html
※第４～６章を使用。春学期の「化学基礎Ｉ」では、第１～３章を使用。**春秋を通じての履修をおすすめする。**

【参考書】
講義中に適宜紹介する。専門書、一般書、科学論文、web ページや youtube 動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】
●上記の到達目標に記載した４つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、少しインターネットで調べたり、「過去問」を入手したところで、簡単に高評価が得られない問題になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えたうえで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では**「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。**

●目標１については、教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標２および３については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標４については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。さらに平常点として、模範解答の発表や講義の解説に対し、秀逸な質問・コメントを発したかどうかなども評価対象とする。**配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が 40%、演習課題の合計が 30%、その他平常点が 30%程度である。**

【学生の意見等からの気づき】

● 2020 年度はコロナ禍のためすべてオンライン講義となったが、Zoom を活用してリアルタイムかつ双方向に講義を展開した。また、入学後すぐにオンライン講義になってしまった 1 年生も多数受講していたので、授業支援アシスタント（当時 3 年生）に協力してもらい、講義時間の前後に雑談の時間を設定し、学生同士の交流づくりや大学生活についての相談にも対応できるよう配慮した。その結果、講義終了後のアンケートでは**「オンライン授業とは思えないほどの繋がりを感じた」「違う学年の人と話せたり、先生と気になる科学のことを話せたりしてとても楽しかった」「授業中の雰囲気が良く、先生に質問がしやすく学習がとても捗りました」**といった声が多数よせられ、手ごたえを感じた。中には**「LINE オープンチャットなどの気軽に発言できるスペースがあるともっと討論できるかもしれない」「先生の授業から離れがたい」「” 化学基礎” を失った喪失感がものすごい」**という声もあったので、さっそく LINE オープンチャットを立ち上げ、講義終了後も交流できる場として残しておくことにした。将来的に、化学基礎を受講した様々な学年の学生が、ゆるくつながって、ちょっとしたことから人生相談まで、自由に交流できる場にしたいと思っている。2021 年度もコロナ禍が続くと予想されるが、学ぶべきもの、教えるべきものをしっかり持って、工夫を続けていく。

●「化学が苦手で機械工学科に入った」という学生が多いようなので、化学が苦手な学生にもイメージしやすいよう、化学式や量子論などをなるべく使わず、「化学が日常生活にどう結びついているか」を、わかりやすく伝える工夫をしている。ときどき**「化学が得意で、シュレーディンガー方程式などを詳しく学びたくてこの講義を受講したが、期待外れだった」**という声もあり、学生の求めるものに幅があるのは悩ましいところである。課題の自由度を高く設定することで、学生それぞれの興味関心を活かし、得意分野を存分に発揮できるようにして対応していく。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC 等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義スライドや課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、2021 年度もコロナ禍が続くと予想されるので、オンライン講義にも対応できるよう、Zoom をはじめとした各種ツールの準備をしておくこと（必要に応じて携帯電話会社のデータ通信容量の支援なども活用し、通信環境を整備しておくと良い）。さらに、LINE オープンチャットでは、学生同士の自由な交流を主な目的として、雑談を随時展開している。参加が必須ではないが、興味があれば、LINE オープンチャットも使用できるようにしておくと良い（参加方法は講義内で説明する）。

【その他の重要事項】

●春学期と秋学期で教科書を半分ずつ進める。春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

●教員は、神奈川県の公的研究機関に勤める研究者である。その経験をふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。

【Outline and objectives】

In this class, you will learn "how chemistry influence our daily lives" based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

BSP100LC

化学基礎ⅠⅠ

普神　敬悟

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での化学を理解することができるよう，化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】
(1) 圧力の単位を説明できる。
(2) 化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
(3) 反応の進む方向を予測できる。
(4) 溶液の性質を述べることができる。
(5) 酸・塩基の性質を述べることができる。
(6) 緩衝作用を説明できる。
(7) 酸化と還元を説明できる。
(8) 電池の起電力を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って講義を行う。
適宜メモ用ノート資料を配布する。
理解が深められるように、問題演習を適宜取り入れながら進める。
課題等に対しては，学習支援システム上でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	気体の性質	圧力，気体の法則，理想気体の状態方程式
2	エネルギー	系，熱，仕事，エネルギー
3	エンタルピー	内部エネルギー，エンタルピー
4	反応のエンタルピー	生成エンタルピー，標準反応エンタルピー
5	熱力学第 2 法則	自発的変化，エントロピー
6	自由エネルギー	ギブスの自由エネルギー，正味の仕事
7	溶液の性質	モル濃度，質量モル濃度，蒸気圧降下，沸点上昇，浸透圧
8	前半（第 6 回まで）の内容の理解度確認テスト・まとめと解説	前半（第 6 回まで）の内容についての理解度の確認
9	酸と塩基 1	弱酸，弱塩基,pH
10	酸と塩基 2	解離定数，弱酸，弱塩基水溶液の pH
11	酸と塩基 3	塩の水溶液の pH，緩衝液，ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式
12	酸化と還元 1	酸化還元の定義，酸化数，酸化剤と還元剤
13	酸化と還元 2	半反応，酸化還元反応式，電池
14	酸化と還元 3	標準電極電位，起電力，ネルンストの式

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・教科書の該当する項目を予習する。
・宿題を解き，宿題の答えを確認する。
・教科書の章末問題を解き，理解を深める。

【テキスト（教科書）】
フレンドリー基礎物理化学演習，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2013 年，2700 円＋税

【参考書】
・フレンドリー物理化学，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2004 年，2800 円＋税
・物理化学要論第 6 版，アトキンス，東京化学同人，2016 年，6372 円
・一般化学（上・下），ブラディー，東京化学同人，1991 年，各 3078 円

【成績評価の方法と基準】
・期末試験 45 %
・中間テスト 35 %
・確認テスト 10%
・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み）10 %

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度はコロナ禍でオンライン開講となった。学習支援システムの利用上のトラブルもあり、時間通りに受講が開始できないトラブルに見舞われることが多かった。今年度は大幅な改善を見込んでいる。
講義内容の理解度を高めるために学習支援システム上の掲示板を活用し、さらに緊密なコミュニケーションをとりながら、理解の支援に努める。

【学生が準備すべき機器他】
毎回，教科書と電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
The aim of this couse is to understand natural substances,for example,liquid,solid,gas and solution.
A large number of substances are prone to change there appearance and nature.
We are going to understand why and how these materials change.

BSP100LC

化学基礎ⅠⅠ

尾池　秀章

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校で化学を十分学習していない学生を対象とする，高校と大学の化学の橋渡し的役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう，化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】
(1) 化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
(2) 反応の進む方向を予測できる。
(3) 物質変化の駆動力と化学平衡について説明できる。
(4) 物質の三態および溶液の性質を述べることができる。
(5) 酸・塩基の性質を述べることができる。
(6) 緩衝作用を説明できる。
(7) 酸化と還元を説明できる。
(8) 電池の起電力を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
板書を中心にスライドも用いながら講義を行う。講義内容に沿った宿題を課し，次回の講義中に解説をすると同時に，随時演習を取り入れながら理解が深められるように進める。また課題等に対しては学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	物質系の変化とエネルギー１	系，熱，仕事，エネルギー，熱力学第一法則
2	物質系の変化とエネルギー２	内部エネルギー，エンタルピー
3	物質系の変化とエネルギー３	化学反応とエンタルピー変化，ヘスの法則
4	物質の変化の方向性１	熱力学第二法則，自発的変化，エントロピー
5	物質の変化の方向性２	ギブスの自由エネルギー，正味の仕事，熱力学第三法則
6	物質変化の駆動力と平衡	化学平衡
7	まとめと解説 中間試験	前半の内容についての確認
8	物質の状態変化	物質の三態，相転移，相図
9	溶液の性質	溶媒と溶質，理想溶液，希薄溶液
10	溶液内の化学反応：酸塩基反応１	酸，塩基の定義，水素イオン指数，酸解離定数
11	溶液内の化学反応：酸塩基反応２	塩の加水分解，緩衝液，ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式，酸塩基滴定
12	溶液内の化学反応：酸化と還元 1	酸化還元の定義，酸化数，酸化還元反応式
13	溶液内の化学反応：酸化と還元 2	電池と起電力，標準電極電位，ネルンストの式
14	まとめと解説 期末試験	後半の内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・教科書の該当する項目を予習する。
・宿題を解き，宿題の答えを確認する。
・教科書の章末問題を解き，理解を深める。

【テキスト（教科書）】
基礎から学ぶ大学の化学，植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉，培風館，2400 円＋税

【参考書】
・フレンドリー基礎物理化学演習，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2700 円＋税
・高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，参考書

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %
各項目で行う小テスト 25 %
定期テスト 50 %
オンライン併用などの授業形式によっては変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】
スライドを見やすく工夫する。また宿題における記述のミスをなくす。

【その他の重要事項】
毎回，教科書と電卓を持参すること。

【Outline and objectives】
This lecture is designed for the students who don't fully understand or have failed to learn basic chemistry. The aim of this lecture is that the students have a knowledge and understanding of basic chemistry.

BSP100LC

化学基礎ⅠⅠ

加藤　尚之

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
化学基礎Ⅰを十分理解した上で、有機化学の基礎、特に基本的な有機反応およびそのメカニズムについて理解することを目的とする。

【到達目標】
有機化合物の特徴・分類・構造について理解できる。
脂肪族炭化水素と脂環式炭化水素についての性質を理解できる。
炭素と水素の他に酸素を含んだ化合物について理解できる。
芳香族化合物の種類や性質について理解できる。
天然物有機化合物について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
高校で学んだ化学の知識をより深め、大学での専門分野での化学を理解するための橋渡しとして、既に化学基礎Ⅰで学んだことを踏まえて、有機化学を中心に授業を行う。講義は板書が中心で行うが、必要に応じて講義資料をプリントにして配布する。また自学自習が行えるように適宜演習問題を配布し、講義時間内で時間的に余裕があれば学生に問題を解いてもらいその解説を行う。時間的に余裕がなければ講義の初めに前回の問題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要	・授業のガイダンス
	化学結合 (I)	・有機化学とは
		・イオン結合、共有結合、配位結合
第 2 回	化学結合 (II)	・極性
		・形式電荷
第 3 回	化学結合 (III)	・共鳴構造
		・異性体
第 4 回	飽和炭化水素	・アルカン
		・命名法
		・ハロゲン化
第 5 回	環状飽和炭化水素	・シクロアルカン
第 6 回	不飽和炭化水素	・アルケン、アルキン
		・共役二重結合
第 7 回	芳香族炭化水素	・ベンゼン、ベンゼン環
	芳香族化合物	
第 8 回	立体化学	・鏡像異性体
		・キラル化合物
		・(R) と (S) の決定
第 9 回	有機化合物の性質 (I)	・アルコール、フェノール
		・チオール、エーテル
第 10 回	有機化合物の性質 (II)	・アルデヒド、ケトン
第 11 回	有機化合物の性質 (III)	・カルボン酸
		・カルボン酸誘導体
		・エステル、油脂
第 12 回	有機化合物の性質 (IV)	・アミン、アミド
第 13 回	天然物有機化合物 (I)	・炭水化物 (1)
		単糖類
第 14 回	天然物有機化合物 (II)	・炭水化物 (2)
		二糖類
		・アミノ酸

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回の講義内容の理解度を確認するために、講義内容に則した演習問題を配布するので必ず次回講義までに解く。また理解が不十分であったところは、復習としてノートおよび配布資料を見直し、再度演習問題を解くようにする。

【テキスト（教科書）】
講義内容が一冊の教科書で対応できないため教科書は使用しない。
毎回講義に則した資料を配布するので、各自必要に応じて参考書を参照する。

【参考書】
① 培風館「ハート 基礎有機化学」(H. Hart 著、秋葉欣哉ら共訳)
② 東京化学同人「マクマリー 一般化学 上・下」(J. McMURRY et al. 著、荻野 博ら共訳)
③ 丸善株式会社「生命科学のための基礎化学 有機・生化学編」(Molly M. Bloomfield 著、伊藤俊洋ら共訳)
④ 東京化学同人「化学」(A. Sherman et al. 著、石倉洋子ら共訳)
⑤ 裳華房「メディカル化学」(齋藤勝裕共著)
⑥ 東京教学社「生活の基礎化学」(飯田 真ら共著)

【成績評価の方法と基準】
中間試験 40%
期末試験 50%
上記に授業平常点 10%を考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
関数電卓

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to understand the fundamental organic chemistry, including organic reactions and their reaction mechanisms.

BSP100LC

化学基礎ⅠⅠ

普神　敬悟

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での化学を理解することができるよう，化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】
(1) 圧力の単位を説明できる。
(2) 化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
(3) 反応の進む方向を予測できる。
(4) 溶液の性質を述べることができる。
(5) 酸・塩基の性質を述べることができる。
(6) 緩衝作用を説明できる。
(7) 酸化と還元を説明できる。
(8) 電池の起電力を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って講義を行う。
適宜メモ用ノート資料を配布する。
理解が深められるように、問題演習を適宜取り入れながら進める。
課題等に対しては，学習支援システム上でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	気体の性質	圧力，気体の法則，理想気体の状態方程式
2	エネルギー	系，熱，仕事，エネルギー
3	エンタルピー	内部エネルギー，エンタルピー
4	反応のエンタルピー	生成エンタルピー，標準反応エンタルピー
5	熱力学第 2 法則	自発的変化，エントロピー
6	自由エネルギー	ギブスの自由エネルギー，正味の仕事
7	溶液の性質	モル濃度，質量モル濃度，蒸気圧降下，沸点上昇，浸透圧
8	前半（第 6 回まで）の内容の理解度確認テスト・まとめと解説	前半（第 6 回まで）の内容についての理解度の確認
9	酸と塩基 1	弱酸，弱塩基,pH
10	酸と塩基 2	解離定数，弱酸，弱塩基水溶液の pH
11	酸と塩基 3	塩の水溶液の pH，緩衝液，ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式
12	酸化と還元 1	酸化還元の定義，酸化数，酸化剤と還元剤
13	酸化と還元 2	半反応，酸化還元反応式，電池
14	酸化と還元 3	標準電極電位，起電力，ネルンストの式

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・教科書の該当する項目を予習する。
・宿題を解き，宿題の答えを確認する。
・教科書の章末問題を解き，理解を深める。

【テキスト（教科書）】
フレンドリー基礎物理化学演習，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2013 年，2700 円＋税

【参考書】
・フレンドリー物理化学，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2004 年，2800 円＋税
・物理化学要論第 6 版，アトキンス，東京化学同人，2016 年，6372 円
・一般化学（上・下），ブラディー，東京化学同人，1991 年，各 3078 円

【成績評価の方法と基準】
・期末試験 45 %
・中間テスト 35 %
・確認テスト 10%
・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み）10 %

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度はコロナ禍でオンライン開講となった。学習支援システムの利用上のトラブルもあり、時間通りに受講が開始できないトラブルに見舞われることが多かった。今年度は大幅な改善を見込んでいる。
講義の理解度を高めるために学習支援システム上の掲示板を活用し、さらに緊密なコミュニケーションをとりながら、理解の支援に努める。

【学生が準備すべき機器他】
毎回，教科書と電卓を持参すること。

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【Outline and objectives】
The aim of this couse is to understand natural substances,for example,liquid,solid,gas and solution.
A large number of substances are prone to change there
appearance and nature.
We are going to understand why and how these materials change.

BSP100LC

化学基礎ＩＩ

島田　恵理子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、前期「化学基礎Ｉ」で基礎を習得またはそれと同等レベルの学生を対象にする。前期に浅く学んだ範囲を学問的に踏み込み、その周辺も含めて理解を深める。

【到達目標】
(1) 簡単な等核二原子分子などのエネルギー準位図を描き、その物性の一部 (磁性、安定に存在するか否か) を判断できる。
(2) 混成軌道を使った化合物の形や極性の説明ができる。
(3) 化学平衡 (気体、液体) における物質の濃度、量の計算ができる。緩衝溶液などの pH が計算できる。
(4) 一次および二次反応の速度式がたてられ、一次反応は解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学習支援システムでの提示を確認すること。
重点項目は、混成軌道、分子軌道、化学平衡 (緩衝溶液の pH を含む)、反応速度、熱力学第二法則である。
講義のほか、進行度にあわせて 15 分程度の小テストまたは課題を 2 回（2 回で 15 %）、定期試験を 1 回（85 %）行う。出席点はない。小テスト等に対しては，学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。
小テストまたは課題の日程と範囲は、実施 2 週間前までに授業中に告知する。
前期の化学基礎 I で学んだことを土台にして、後期の化学基礎 II ではその周辺のやや高度な領域を学習し、発展させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス　力試し	授業の進め方 習得状況の調査
2 回	量子による表現：原子軌道	主量子数、方位量子数、磁気量子数、スピン量子数
3 回	共有結合の考え方の変遷	ルイスの点電子式 原子価結合法 分子軌道法 原子軌道から等核二原子分子の分子軌道のエネルギー準位図を描く
4 回	分子軌道	等核二原子分子や分子イオンのエネルギー準位図を描き、磁性や結合次数を調べる
5 回	混成軌道：分子の形状・物性	用語の意味、共有結合の考え方における位置づけ sp, sp^2, sp^3 混成軌道の結合角 分子としての極性、結合の極性をベクトル（双極子モーメント）合成で理解する
6 回	様々な物性と軌道	錯体の構造・色・磁性を混成軌道から考える 金属の電気伝導性を分子軌道法で考える
7 回	化学平衡 1:基本	平衡反応、平衡定数 気体反応の例で、平衡反応での濃度や量を理解する
8 回	化学平衡 2:pH(前)	弱酸水溶液、弱塩基水溶液の pH を求める 加水分解定数を使って塩の水溶液の pH を求める
9 回	化学平衡 3:pH(後)	塩と弱酸または弱塩基の混合溶液 (緩衝溶液) の pH を求める 酸塩基滴定における pH の変化を考える
10 回	反応速度 1	反応次数 速度式の立て方 一次、二次反応の速度解析
11 回	反応速度 2	逐次反応、酵素反応 アレニウスの式を使って、反応速度定数と温度の関係から活性化エネルギーを求める
12 回	熱力第二法則	熱力学第二法則 エントロピー、自由エネルギーと変化の自発性
13 回	熱力学と化学平衡	電池などを題材に、身近な事柄を熱力学的に考える
14 回	トピックス	応用・実用例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】学生は、各授業終了時に示される予習や宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】
「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人
講義用プリント

【参考書】
「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

【成績評価の方法と基準】
小テストまたは課題 2 回で 15 %（1 回あたり 7.5 %）、定期試験で 85 %。合計 100 %中 60 %以上で合格。
出席点なし。

【学生の意見等からの気づき】
演習と宿題で実際の問題に慣れる。また、小テストで理解度を確認する。計算が苦手という人も避けないほうがためになる。実験をしたいという希望には、本講座の目的や設備の関係で添えないが、それにかわるイメージを描ける授業を行う。

【その他の重要事項】
企業で研究開発をした経験を生かし、様々な問題解決のためのアプローチの仕方を実例をあげて講義する。

【Outline and objectives】
This course teaches the foundations of chemistry and scientific way of thinking which university students should acquire
Students are recommended to attend this class who have understood so-called high school chemistry and want to study chemistry more acadeically.

BSP100LC

化学基礎ＩＩ

大波　英幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校化学および春学期の化学基礎Ｉの復習をするとともに、今後専門分野を学び理解し、さらには研究・応用へ発展させるための化学的基礎知識を習得することを目的とする。

【到達目標】
高校で学習した化学の基礎的概念が理解できる。専門分野を理解するため理工・生命科学系学生に必要な化学的基礎知識を習得し、論理的な考え方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業計画各項目の講義を中心に、理解を深めるため、得られた知識を活用するため適宜演習問題、小テストを行う。
高校化学の習熟度は学生により様々だと思われるため、化学が入試科目でなかった、化学を積極的に学んでこなかった学生にも理解でき興味がもてる授業を心がける。
課題等に対しては，学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要 春学期の復習	・授業のガイダンス ・春学期までの内容の復習
第 2 回	酸と塩基	・酸と塩基 ・アレニウスの酸塩基の定義 ・酸と塩基の強さ ・濃度と電離度
第 3 回	中和反応と塩	・水のイオン積と pH ・中和と塩の加水分解 ・緩衝液 ・塩の溶解平衡
第 4 回	酸化還元反応	・酸化・還元の反応式 ・酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・金属のイオン化傾向 ・電池
第 5 回	元素の分類および典型元素の金属①	・典型元素と遷移元素 ・金属元素と非金属元素 ・1 族（アルカリ金属元素） ・2 族（アルカリ土類金属元素
第 6 回	元素の分類および典型元素の金属②	・12 族（亜鉛、水銀の単体とその化合物 ・13 族（アルミニウムの単体とその化合物） ・14 族（スズ族元素とその化合物）
第 7 回	遷移元素の金属	・6 族（クロム族元素とその化合物） ・7 族（マンガンとその化合物） ・8 族（鉄とその化合物） ・9 族（コバルトとその化合物 ・10 族（ニッケルとその化合物 ・11 族（銅族元素とその化合物）
第 8 回	非金属元素①	・水素とその化学的性質 ・14 族（炭素族元素とその化合物） ・15 族（窒素族元素とその化合物）
第 9 回	非金属元素②	・16 族（酸素族元素とその化合物 ・17 族（ハロゲン元素とその化合物） ・18 族（希ガス元素とその性質）
第 10 回	有機化合物の定義、分類、構造	・有機化合物の定義、性質 ・有機化合物の分類と官能基 ・有機化合物の構造式の決定
第 11 回	基本的な有機化合物と反応①	・アルカンとシクロアルカン ・アルケン ・アルキン
第 12 回	基本的な有機化合物と反応②	・芳香族炭化水素 ・アルコール ・フェノール ・エーテル
第 13 回	基本的な有機化合物と反応③	・エーテル ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸とエステル ・その他の有機化合物
第 14 回	まとめ	・秋学期のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
高校化学の教科書・参考書見直し、理解が不十分であったところを予め把握しておく。化学基礎Ｉの内容を復習しておく。

【テキスト（教科書）】
新編基礎化学、金原粲ほか、実教出版、2013 年、2300 円＋税

【参考書】
①高校で使用していた化学の教科書
② [化学] Ⅰ B・Ⅱの新研究、卜部吉庸著、三省堂
③これだけはおさえたい化学、井口洋夫ほか、実教出版
④生きている温泉とは何か、大河内正一著、くまざさ出版

【成績評価の方法と基準】
通常は、
授業期間内の中間試験 (又はレポート)40 %
期末試験 60 %
に授業平常点を考慮し評価するが、オンラインでの開講となる可能性があるため、具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回授業の終盤に演習問題を行った。演習問題回答解説の希望があったので、解説時間をより多く確保できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
試験時に関数電卓。

【Outline and objectives】
Review the basics of chemistry learned in high school and spring semester. Get chemical knowledge to develop into research and applications in specialized areas.

BSP100LC

化学基礎ＩＩ

島田　恵理子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、前期「化学基礎Ｉ」で基礎を習得またはそれと同等レベルの学生を対象にする。前期に浅く学んだ範囲を学問的に踏み込み、その周辺も含めて理解を深める。

【到達目標】
(1) 簡単な等核二原子分子などのエネルギー準位図を描き、その物性の一部 (磁性、安定に存在するか否か) を判断できる。
(2) 混成軌道を使った化合物の形や極性の説明ができる。
(3) 化学平衡 (気体、液体) における物質の濃度、量の計算ができる。緩衝溶液などの pH が計算できる。
(4) 一次および二次反応の速度式がたてられ、一次反応は解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学習支援システムでの提示を確認すること。
重点項目は、混成軌道、分子軌道、化学平衡 (緩衝溶液の pH を含む)、反応速度、熱力学第二法則である。
講義のほか、進行度にあわせて 15 分程度の小テストまたは課題を 2 回（2 回で 15 %）、定期試験を 1 回（85 %）行う。出席点はない。小テスト等に対しては，学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。
小テストまたは課題の日程と範囲は、実施 2 週間前までに授業中に告知する。
前期の化学基礎 I で学んだことを土台にして、後期の化学基礎 II ではその周辺のやや高度な領域を学習し、発展させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス　力試し	授業の進め方 習得状況の調査
2 回	量子による表現：原子軌道	主量子数、方位量子数、磁気量子数、スピン量子数
3 回	共有結合の考え方の変遷	ルイスの点電子式 原子価結合法 分子軌道法 原子軌道から等核二原子分子の分子軌道のエネルギー準位図を描く
4 回	分子軌道	等核二原子分子や分子イオンのエネルギー準位図を描き、磁性や結合次数を調べる
5 回	混成軌道：分子の形状・物性	用語の意味、共有結合の考え方における位置づけ sp, sp^2, sp^3 混成軌道の結合角 分子としての極性、結合の極性をベクトル（双極子モーメント）合成で理解する
6 回	様々な物性と軌道	錯体の構造・色・磁性を混成軌道から考える 金属の電気伝導性を分子軌道法で考える
7 回	化学平衡 1:基本	平衡反応、平衡定数 気体反応の例で、平衡反応での濃度や量を理解する
8 回	化学平衡 2:pH(前)	弱酸水溶液、弱塩基水溶液の pH を求める 加水分解定数を使って塩の水溶液の pH を求める
9 回	化学平衡 3:pH(後)	塩と弱酸または弱塩基の混合溶液 (緩衝溶液) の pH を求める 酸塩基滴定における pH の変化を考える
10 回	反応速度 1	反応次数 速度式の立て方 一次、二次反応の速度解析
11 回	反応速度 2	逐次反応、酵素反応 アレニウスの式を使って、反応速度定数と温度の関係から活性化エネルギーを求める
12 回	熱力第二法則	熱力学第二法則 エントロピー、自由エネルギーと変化の自発性
13 回	熱力学と化学平衡	電池などを題材に、身近な事柄を熱力学的に考える
14 回	トピックス	応用・実用例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】学生は、各授業終了時に示される予習や宿題を行うこと。

【テキスト（教科書）】
「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人
講義用プリント

【参考書】
「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

【成績評価の方法と基準】
小テストまたは課題 2 回で 15 %（1 回あたり 7.5 %）、定期試験で 85 %。合計 100 %中 60 %以上で合格。
出席点なし。

【学生の意見等からの気づき】
演習と宿題で実際の問題に慣れる。また、小テストで理解度を確認する。計算が苦手という人も避けないほうがためになる。実験をしたいという希望には、本講座の目的や設備の関係で添えないが、それにかわるイメージを描ける授業を行う。

【その他の重要事項】
企業で研究開発をした経験を生かし、様々な問題解決のためのアプローチの仕方を実例をあげて講義する。

【Outline and objectives】
This course teaches the foundations of chemistry and scientific way of thinking which university students should acquire
Students are recommended to attend this class who have understood so-called high school chemistry and want to study chemistry more acadeically.

BSP100LC

科学実験 I

三牧　宏彬

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。これらを通して以下のことを学ぶ。
1．実験とは何か。
2．個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3．実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4．定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5．実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6．実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】
1．実験に取り組む姿勢を理解する。
2．実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3．実験で用いる装置，測定器などを理解しその技術を習得する．
4．測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5．測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6．結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7．第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験１	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験２	長さと測定データのばらつき 誤差の性質を知る。
3	基礎実験３	密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験１	重力の加速度
5	力学実験２	球の衝突
6	コンピュータ処理１	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験１	電流・電圧の測定
8	電気実験２	電流計と電圧計よる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験１	固体の比熱
11	熱学実験２	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理２	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】
配布する。その他に実験に必要な実験ノート，作図のためのグラフ用紙，レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート点など 50%で評価する (詳細は初回ガイダンスで説明する)。

【学生の意見等からの気づき】
実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】
科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.
The goals of this course are to understand
(1) What is the experiment.
(2) Physics theories and principles of each experimental theme.
(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
(5) How to draw conclusions from experiment results.
(6) How to publish experiment results.

BSP100LC

科学実験 I

小鍋　哲、西村　征也

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。これらを通して以下のことを学ぶ。
1．実験とは何か。
2．個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3．実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4．定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5．実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6．実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】
1．実験に取り組む姿勢を理解する。
2．実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3．実験で用いる装置，測定器などを理解しその技術を習得する．
4．測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5．測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6．結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7．第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験１	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験２	長さと測定データのばらつき 誤差の性質を知る。
3	基礎実験３	密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験１	重力の加速度
5	力学実験２	球の衝突
6	コンピュータ処理１	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験１	電流・電圧の測定
8	電気実験２	電流計と電圧計よる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験１	固体の比熱
11	熱学実験２	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理２	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】
配布する。その他に実験に必要な実験ノート，作図のためのグラフ用紙，レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート点など 50%で評価する (詳細は初回ガイダンスで説明する)。

【学生の意見等からの気づき】
実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】
科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.
The goals of this course are to understand
(1) What is the experiment.
(2) Physics theories and principles of each experimental theme.
(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
(5) How to draw conclusions from experiment results.
(6) How to publish experiment results.

BSP100LC

科学実験 I

西村　征也、小鍋　哲

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。これらを通して以下のことを学ぶ。
1．実験とは何か。
2．個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3．実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4．定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5．実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6．実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】
1．実験に取り組む姿勢を理解する。
2．実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3．実験で用いる装置，測定器などを理解しその技術を習得する．
4．測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5．測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6．結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7．第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験１	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験２	長さと測定データのばらつき 誤差の性質を知る。
3	基礎実験３	密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験１	重力の加速度
5	力学実験２	球の衝突
6	コンピュータ処理１	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験１	電流・電圧の測定
8	電気実験２	電流計と電圧計よる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験１	固体の比熱
11	熱学実験２	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理２	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】
配布する。その他に実験に必要な実験ノート，作図のためのグラフ用紙，レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】
科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.
The goals of this course are to understand
(1) What is the experiment.
(2) Physics theories and principles of each experimental theme.
(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
(5) How to draw conclusions from experiment results.
(6) How to publish experiment results.

BSP100LC

科学実験 I

三牧　宏彬

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。これらを通して以下のことを学ぶ。
1．実験とは何か。
2．個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3．実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4．定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5．実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6．実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】
1．実験に取り組む姿勢を理解する。
2．実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3．実験で用いる装置，測定器などを理解しその技術を習得する．
4．測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5．測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6．結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7．第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験１	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験２	長さと測定データのばらつき 誤差の性質を知る。
3	基礎実験３	密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験１	重力の加速度
5	力学実験２	球の衝突
6	コンピュータ処理１	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験１	電流・電圧の測定
8	電気実験２	電流計と電圧計よる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験１	固体の比熱
11	熱学実験２	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理２	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】
配布する。その他に実験に必要な実験ノート，作図のためのグラフ用紙，レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】
科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.
The goals of this course are to understand
(1) What is the experiment.
(2) Physics theories and principles of each experimental theme.
(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
(5) How to draw conclusions from experiment results.
(6) How to publish experiment results.

BSP100LC

物理学実験

吉野　理貴

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。
これらを通して以下のことを学ぶ。
1．実験とは何か。
2．個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3．実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4．定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5．実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6．実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】
1．実験に取り組む姿勢を理解する。
2．実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3．実験で用いる装置，測定器などを理解しその技術を習得する．
4．測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5．測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6．結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7．第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験１	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験２	長さと測定データのばらつき 誤差の性質を知る。
3	基礎実験３	密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験１	重力の加速度
5	力学実験２	球の衝突
6	コンピュータ処理１	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験１	電流・電圧の測定
8	電気実験２	ホイートストンブリッジによる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験１	固体の比熱
11	熱学実験２	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理２	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】
配布する。その他実験に必要なレポート用紙，グラフ用紙などは適宜配布する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの書き方の指導に力を入れたい。またグループ（実験チーム）内でのディスカッション等をさらに充実させたい。

【履修上の注意】
第 1 回目の授業のはじめに化学実験履修者，生物学実験履修者と合同の共通ガイダンスを行う。共通ガイダンスの教室は所属学科の掲示板に掲示する。共通ガイダンスではクラス分けを行い，このクラスにより物理実験の履修日程が決まる。実験は決定された履修日程によって実施される。したがって、共通ガイダンスは必ず出席する必要がある。

【Outline and objectives】
This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.
The goals of this course are to understand
(1) What is the experiment.
(2) Physics theories and principles of each experimental theme.
(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
(5) How to draw conclusions from experiment results.
(6) How to publish experiment results.

BSP100LC

科学実験 I

吉野　理貴

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。
これらを通して以下のことを学ぶ。
1．実験とは何か。
2．個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3．実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4．定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5．実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6．実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】
1．実験に取り組む姿勢を理解する。
2．実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3．実験で用いる装置，測定器などを理解しその技術を習得する．
4．測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5．測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6．結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7．第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験１	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験２	長さと測定データのばらつき 誤差の性質を知る。
3	基礎実験３	密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験１	重力の加速度
5	力学実験２	球の衝突
6	コンピュータ処理１	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験１	電流・電圧の測定
8	電気実験２	電流計と電圧計よる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験１	固体の比熱
11	熱学実験２	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理２	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】
配布する。その他に実験に必要な実験ノート，作図のためのグラフ用紙，レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】
授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50%、レポート点など 50%で評価する (詳細は初回ガイダンスで説明する)。

【学生の意見等からの気づき】
実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】
科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.
The goals of this course are to understand
(1) What is the experiment.
(2) Physics theories and principles of each experimental theme.
(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
(5) How to draw conclusions from experiment results.
(6) How to publish experiment results.

BSP100LC

科学実験ＩＩ

尾池　秀章

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験を安全に行うための注意事項を学んだ後，身の回りの化学物質を素材とした 4 つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では，化学現象を観察し，得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え，レポートにまとめる。また，実験器具や薬品の取扱い方法，実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】
1）化学実験を安全に行うことができる。
2）基本的な実験操作を行うことができる。
3）化学現象を注意深く観察し，実験ノートに正確に記述することができる。
4）測定機器の取扱いを理解し，定量的なデータを得ることができる。
5）得られた実験結果を論理的に考察し，レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
指導者の助言のもと，一人で考えながら，あるいは複数で討論しながら化学実験を進め，高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育	予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験ノートの書き方，報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第 2 回	金属の電極電位測定 (1)	硫酸銅水溶液，硫酸亜鉛水溶液，硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第 3 回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液，硫酸亜鉛水溶液，硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第 4 回	金属の電極電位測定 (3)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第 5 回	pH の世界 (1)	身のまわりの水溶液の pH を pH メータを用いて測定する。
第 6 回	pH の世界 (2)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際の pH の変化を測定する。また，中和滴定により，水溶液中の炭酸ナトリウムを定量する。
第 7 回	pH の世界 (3)	実験データの解析，理論的考察を行う。
第 8 回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸，安息香酸，フェノール等の物理的・化学的性質を調べ，官能基との関係を考察する。
第 9 回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し，ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い目的物を単離する。
第 10 回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	官能基の性質を利用して，サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また，実験結果に対する理論的考察を行う。
第 11 回	アスコルビン酸（ビタミン C）の定量分析 (1)	比色試薬を用いてアスコルビン酸の分光学的定量を行う。
第 12 回	アスコルビン酸（ビタミン C）の定量分析 (2)	濃度未知のアスコルビン酸溶液および市販飲料，錠剤に含まれるアスコルビン酸の定量を行う。
第 13 回	アスコルビン酸（ビタミン C）の定量分析 (3)	最小二乗法による分析データの解析，実験結果に対する理論的考察を行う。
第 14 回	まとめ	各実験で学んだ理論，分析原理，化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には，実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を第 1 回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，図説化学など。その他は，授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %，レポート点など 50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
きめ細かなレポート指導を行う。

【その他の重要事項】
科学実験は I，II，III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには，共通カイダンスと各実験の個別カイダンスがあるので，必ず出席すること。カイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通カイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions; Quantitative and qualitative analysis by chromatography. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

BSP100LC

科学実験ＩＩ

大波　英幸

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験を安全に行うための注意事項を学んだ後，身の回りの化学物質を素材とした 4 つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では，化学現象を観察し，得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え，レポートにまとめる。また，実験器具や薬品の取扱い方法，実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】
1）化学実験を安全に行うことができる。
2）基本的な実験操作を行うことができる。
3）化学現象を注意深く観察し，実験ノートに正確に記述することができる。
4）測定機器の取扱いを理解し，定量的なデータを得ることができる。
5）得られた実験結果を論理的に考察し，レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
指導者の助言のもと，一人で考えながら，あるいは複数で討論しながら化学実験を進め，高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育	予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験ノートの書き方，報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第 2 回	金属の電極電位測定 (1)	硫酸銅水溶液，硫酸亜鉛水溶液，硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を作製する。
第 3 回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液，硫酸亜鉛水溶液，硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第 4 回	金属の電極電位測定 (3)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第 5 回	pH の世界 (1)	身のまわりの水溶液の pH を pH メータを用いて測定する。
第 6 回	pH の世界 (2)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際の pH の変化を測定する。また，中和滴定により，水溶液中の炭酸ナトリウムを定量する。
第 7 回	pH の世界 (3)	実験データの解析，理論的考察を行う。
第 8 回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸，安息香酸，フェノール等の物理的・化学的性質を調べ，官能基との関係を考察する。
第 9 回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し，ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い，目的物の分離を行う。
第 10 回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	官能基の性質を利用して，サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また，実験結果に対する理論的考察を行う。
第 11 回	アスコルビン酸（ビタミン C）の定量分析 (1)	比色試薬を用いてアスコルビン酸の分光学的定量を行う。
第 12 回	アスコルビン酸（ビタミン C）の定量分析 (2)	濃度未知のアスコルビン酸溶液および市販飲料，錠剤に含まれるアスコルビン酸の定量を行う。
第 13 回	アスコルビン酸（ビタミン C）の定量分析 (3)	最小二乗法による分析データの解析，実験結果に対する理論的考察を行う。
第 14 回	まとめ	各実験で学んだ理論，分析原理，化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には，実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を第 1 回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，図説化学など。その他は，授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %，レポート点など 50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
きめ細かなレポート指導を行う。

【その他の重要事項】
科学実験は I，II，III セットで゛履修する。第 1 回目の授業のはじ゛めには，共通カ゛イタ゛ンスと各実験の個別カ゛イタ゛ンスかゞあるので゛，必ず゛出席すること。カ゛イタ゛ンスの実施方法は学習支援システムで゛連絡する。共通カ゛イタ゛ンスで゛は実験の実施方法・成績評価基準など゛履修する上で゛重要な説明かゞある。

【Outline and objectives】
Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions; Quantitative and qualitative analysis by chromatography. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

BSP100LC

科学実験ＩＩ

尾池　秀章

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験を安全に行うための注意事項を学んだ後，身の回りの化学物質を素材とした 4 つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では，化学現象を観察し，得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え，レポートにまとめる。また，実験器具や薬品の取扱い方法，実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】
1）化学実験を安全に行うことができる。
2）基本的な実験操作を行うことができる。
3）化学現象を注意深く観察し，実験ノートに正確に記述することができる。
4）測定機器の取扱いを理解し，定量的なデータを得ることができる。
5）得られた実験結果を論理的に考察し，レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
指導者の助言のもと，一人で考えながら，あるいは複数で討論しながら化学実験を進め，高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育	予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験ノートの書き方，報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第 2 回	金属の電極電位測定 (1)	硫酸銅水溶液，硫酸亜鉛水溶液，硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第 3 回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液，硫酸亜鉛水溶液，硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第 4 回	金属の電極電位測定 (3)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第 5 回	酸・塩基と緩衝作用 (1)	中和滴定により，水酸化ナトリウム標準液を標定し，これを用いて酢酸水溶液の中和滴定曲線を求める。
第 6 回	酸・塩基と緩衝作用 (2)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際の pH の変化を測定する。
第 7 回	酸・塩基と緩衝作用 (3)	実験データの解析，理論的考察を行う。
第 8 回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸，安息香酸，フェノール等の物理的・化学的性質を調べ，官能基との関係を考察する。
第 9 回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し，ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い目的物を単離する。
第 10 回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	官能基の性質を利用して，サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また，実験結果に対する理論的考察を行う。
第 11 回	糖類の構造と性質 (1)	単糖，二糖類の糖溶液の調製とフェーリング反応を行う。
第 12 回	糖類の構造と性質 (2)	ジャガイモからコロイド状デンプン溶液を調製し，ヨウ素デンプン反応，加水分解，フェーリング反応を行う。
第 13 回	糖類の構造と性質 (3)	糖の三次元構造を分子模型で確認し，実験データの理論的考察を行う。
第 14 回	まとめ	各実験で学んだ理論，分析原理，化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には，実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を第 1 回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，図説化学など。その他は，授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート点など 50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
きめ細かなレポート指導を行う。

【その他の重要事項】
科学実験は I，II，III セットで゛履修する。第 1 回目の授業のはじ゛めには，共通カ゛イタ゛ンスと各実験の個別カ゛イタ゛ンスか゛あるので゛，必ず゛出席すること。カ゛イタ゛ンスの実施方法は学習支援システムで゛連絡する。共通カ゛イタ゛ンスで゛は実験の実施方法・成績評価基準など゛履修する上で゛重要な説明か゛ある。

【Outline and objectives】
Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions; Structures and chemical properties of carbohydrates. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

BSP100LC

科学実験ＩＩ

尾池　秀章

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験を安全に行うための注意事項を学んだ後，身の回りの化学物質を素材とした 4 つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では，化学現象を観察し，得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え，レポートにまとめる。また，実験器具や薬品の取扱い方法，実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】
1）化学実験を安全に行うことができる。
2）基本的な実験操作を行うことができる。
3）化学現象を注意深く観察し，実験ノートに正確に記述することができる。
4）測定機器の取扱いを理解し，定量的なデータを得ることができる。
5）得られた実験結果を論理的に考察し，レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
指導者の助言のもと，一人で考えながら，あるいは複数で討論しながら化学実験を進め，高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育	予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験ノートの書き方，報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第 2 回	金属の電極電位測定 (1)	硫酸銅水溶液，硫酸亜鉛水溶液，硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第 3 回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液，硫酸亜鉛水溶液，硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第 4 回	金属の電極電位測定 (3)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第 5 回	pH の世界 (1)	身のまわりの水溶液の pH を pH メータを用いて測定する。
第 6 回	pH の世界 (2)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際の pH の変化を測定する。また，中和滴定により，水溶液中の炭酸ナトリウムを定量する。
第 7 回	pH の世界 (3)	実験データの解析，理論的考察を行う。
第 8 回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸やその誘導体の物理的・化学的性質を調べる。
第 9 回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し，官能基の性質を利用して目的物の分離と確認を行う。
第 10 回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	官能基の性質を利用して，サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また，実験結果に対する理論的考察を行う。
第 11 回	アスコルビン酸（ビタミン C）の定量分析 (1)：	比色試薬を用いてアスコルビン酸の分光学的定量を行う。
第 12 回	アスコルビン酸（ビタミン C）の定量分析 (2)：	濃度未知のアスコルビン酸溶液および市販飲料，錠剤に含まれるアスコルビン酸の定量を行う。
第 13 回	アスコルビン酸（ビタミン C）の定量分析 (3)	最小二乗法による分析データの解析，実験結果に対する理論的考察を行う。
第 14 回	まとめ	各実験で学んだ理論，分析原理，化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には，実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を第 1 回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，図説化学など。その他は，授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート点など 50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
きめ細かなレポート指導を行う。

【その他の重要事項】
科学実験は I，II，III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには，共通カイダンスと各実験の個別カイダンスがあるので，必ず出席すること。カイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通カイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions; Quantitative and qualitative analysis by chromatography. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

BSP100LC

化学実験

大波　英幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験を安全に行うための注意事項を学んだ後，身の回りの化学物質を素材とした 4 つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では，化学現象を観察し，得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え，レポートにまとめる。また，実験器具や薬品の取扱い方法，実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】
1）化学実験を安全に行うことができる。
2）基本的な実験操作を行うことができる。
3）化学現象を注意深く観察し，実験ノートに正確に記述することができる。
4）測定機器の取扱いを理解し，定量的なデータを得ることができる。
5）得られた実験結果を論理的に考察し，レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
指導者の助言のもと，一人で考えながら，あるいは複数で討論しながら化学実験を進め，高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育	予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験ノートの書き方，報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第 2 回	金属の電極電位測定 (1)	硫酸銅水溶液，硫酸亜鉛水溶液，硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第 3 回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液，硫酸亜鉛水溶液，硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第 4 回	金属の電極電位測定 (3)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第 5 回	pH の世界 (1)	身のまわりの水溶液の pH を pH メータを用いて測定する。
第 6 回	pH の世界 (2)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際の pH の変化を測定する。また，中和滴定により，水溶液中の炭酸ナトリウムを定量する。
第 7 回	pH の世界 (3)	実験データの解析，理論的考察を行う。
第 8 回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸，安息香酸，フェノール等の物理的・化学的性質を調べ，官能基との関係を考察する。
第 9 回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し，ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い，目的物を単離する。
第 10 回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	実験結果に対する理論的考察を行う。
第 11 回	アスコルビン酸（ビタミン C）の定量分析 (1)	比色試薬を用いてアスコルビン酸の分光学的定量を行う。
第 12 回	アスコルビン酸（ビタミン C）の定量分析 (2)	濃度未知のアスコルビン酸溶液および市販飲料，錠剤に含まれるアスコルビン酸の定量を行う。
第 13 回	アスコルビン酸（ビタミン C）の定量分析 (3)	最小二乗法による分析データの解析，実験結果に対する理論的考察を行う。
第 14 回	まとめ	各実験で学んだ理論，分析原理，化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には，実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を第 1 回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，図説化学など。その他は，授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート点など 50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
きめ細かなレポート指導を行う。

【その他の重要事項】
第 1 回目の授業のはじめに物理学実験履修者，生物学実験履修者と合同の共通ガイダンスおよび化学実験の個別ｶﾞｲﾀﾞﾝｽがあるので，必ず出席すること。ｶﾞｲﾀﾞﾝｽの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ｶﾞｲﾀﾞﾝｽでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions; Quantitative and qualitative analysis by chromatography. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

BSP100LC

科学実験ＩＩ

尾池　秀章

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実験を安全に行うための注意事項を学んだ後，身の回りの化学物質を素材とした 4 つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では，化学現象を観察し，得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え，レポートにまとめる。また，実験器具や薬品の取扱い方法，実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】
1）化学実験を安全に行うことができる。
2）基本的な実験操作を行うことができる。
3）化学現象を注意深く観察し，実験ノートに正確に記述することができる。
4）測定機器の取扱いを理解し，定量的なデータを得ることができる。
5）得られた実験結果を論理的に考察し，レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
指導者の助言のもと，一人で考えながら，あるいは複数で討論しながら化学実験を進め，高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育	予習の方法，実験の進め方，実験器具や薬品の取扱い，実験ノートの書き方，報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第 2 回	金属の電極電位測定 (1)	硫酸銅水溶液，硫酸亜鉛水溶液，硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第 3 回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液，硫酸亜鉛水溶液，硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第 4 回	金属の電極電位測定 (3)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第 5 回	酸・塩基と緩衝作用 (1)	中和滴定により，水酸化ナトリウム標準液を標定し，これを用いて酢酸水溶液の中和滴定曲線を求める。
第 6 回	酸・塩基と緩衝作用 (2)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際の pH の変化を測定する。
第 7 回	酸・塩基と緩衝作用 (3)	実験データの解析，理論的考察を行う。
第 8 回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸，安息香酸，フェノール等の物理的・化学的性質を調べ，官能基との関係を考察する。
第 9 回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し，ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い目的物を単離する。
第 10 回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	官能基の性質を利用して，サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また，実験結果に対する理論的考察を行う。
第 11 回	糖類の構造と性質 (1)	単糖，二糖類の糖溶液の調製とフェーリング反応を行う。
第 12 回	糖類の構造と性質 (2)	ジャガイモからコロイド状デンプン溶液を調製し，ヨウ素・デンプン反応，加水分解，フェーリング反応を行う。
第 13 回	糖類の構造と性質 (3)	糖の三次元構造を分子模型で確認し，実験データの理論的考察を行う。
第 14 回	まとめ	各実験で学んだ理論，分析原理，化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には，実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を第 1 回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，図説化学など。その他は，授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %，レポート点など 50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
きめ細かなレポート指導を行う。

【その他の重要事項】
科学実験は I，II，III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには，共通カイダンスと各実験の個別カイダンスがあるので，必ず出席すること。カイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通カイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions; Structures and chemical properties of carbohydrates. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

BSP100LC

科学実験ＩＩＩ

田島　寛隆

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】
受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育・基礎実験１	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第 2 回	基礎実験２	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第 3 回	基礎実験３	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第 4 回	基礎実験４	顕微鏡による生物試料の観察
第 5 回	基礎実験５	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第 6 回	遺伝子実験１	無菌操作の習得
第 7 回	遺伝子実験２	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第 8 回	遺伝子実験３	ＤＮＡの分離・精製
第 9 回	遺伝子実験４	ＤＮＡの制限酵素による切断と電気泳動
第 10 回	遺伝子実験５	大腸菌プラスミドのＤＮＡ鑑定
第 11 回	遺伝子実験６	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第 12 回	酵素実験１	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第 13 回	酵素実験２	酵素活性測定
第 14 回	酵素実験３	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験内容を予習する。

【テキスト（教科書）】
担当教員が編集した実習テキストを第１回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】
実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
高校で生物を履修していない学生も多いので、わかりやすい授業を心がける。

【履修上の注意】
科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

BSP100LC

科学実験ＩＩＩ

細谷　茂生

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】
受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。
　課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育・基礎実験１	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第 2 回	基礎実験２	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第 3 回	基礎実験３	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第 4 回	基礎実験４	顕微鏡による生物試料の観察
第 5 回	基礎実験５	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第 6 回	遺伝子実験１	無菌操作の習得
第 7 回	遺伝子実験２	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第 8 回	遺伝子実験３	ＤＮＡの分離・精製
第 9 回	遺伝子実験４	ＤＮＡの制限酵素による切断と電気泳動
第 10 回	遺伝子実験５	大腸菌プラスミドのＤＮＡ鑑定
第 11 回	遺伝子実験６	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）
第 12 回	酵素実験１	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第 13 回	酵素実験２	酵素活性測定
第 14 回	酵素実験３	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。

【テキスト（教科書）】
担当教員が編集したテキストを第１回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】
実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
よりきめ細かなレポート指導を行う。

【履修上の注意】
科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは、実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

BSP100LC

科学実験ＩＩＩ

細谷　茂生

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】
受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。
　課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育・基礎実験１	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第 2 回	基礎実験２	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第 3 回	基礎実験３	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第 4 回	基礎実験４	顕微鏡による生物試料の観察
第 5 回	基礎実験５	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第 6 回	遺伝子実験１	無菌操作の習得
第 7 回	遺伝子実験２	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第 8 回	遺伝子実験３	ＤＮＡの分離・精製
第 9 回	遺伝子実験４	ＤＮＡの制限酵素による切断と電気泳動
第 10 回	遺伝子実験５	大腸菌プラスミドのＤＮＡ鑑定
第 11 回	遺伝子実験６	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）
第 12 回	酵素実験１	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第 13 回	酵素実験２	酵素活性測定
第 14 回	酵素実験３	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。

【テキスト（教科書）】
担当教員が編集したテキストを第１回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】
実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
よりきめ細かなレポート指導を行う。

【履修上の注意】
科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは、実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

BSP100LC

生物学実験

田島　寛隆

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】
生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。具体的には、光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育・基礎実験１	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第 2 回	基礎実験２	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第 3 回	基礎実験３	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第 4 回	基礎実験４	顕微鏡による生物試料の観察
第 5 回	基礎実験５	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第 6 回	遺伝子実験１	無菌操作の習得
第 7 回	遺伝子実験２	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第 8 回	遺伝子実験３	ＤＮＡの分離・精製
第 9 回	遺伝子実験４	ＤＮＡの制限酵素による切断と電気泳動
第 10 回	遺伝子実験５	大腸菌プラスミドのＤＮＡ鑑定
第 11 回	遺伝子実験６	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第 12 回	酵素実験１	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第 13 回	酵素実験２	酵素活性測定
第 14 回	酵素実験３	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験内容を予習する。

【テキスト（教科書）】
担当教員が編集したテキストを第１回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】
実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
高校で生物を履修していない学生が多いので、わかりやすい解説を心がける。

【履修上の注意】
科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

BSP100LC

科学実験ＩＩＩ

水澤　直樹

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】
受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育・基礎実験 1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第 2 回	基礎実験 2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第 3 回	基礎実験 3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第 4 回	基礎実験 4	顕微鏡による生物試料の観察
第 5 回	基礎実験 5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第 6 回	遺伝子実験 1	無菌操作の習得
第 7 回	遺伝子実験 2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第 8 回	遺伝子実験 3	DNA の分離・精製
第 9 回	遺伝子実験 4	DNA の制限酵素による切断と電気泳動
第 10 回	遺伝子実験 5	大腸菌プラスミドの DNA 鑑定
第 11 回	遺伝子実験 6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第 12 回	酵素実験 1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第 13 回	酵素実験 2	酵素活性測定
第 14 回	酵素実験 3	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験内容を予習する。

【テキスト（教科書）】
担当教員が編集したテキストを第 1 回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」 羊土社

【成績評価の方法と基準】
実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの作成指導に力を入れてほしいとの要望があったため、よりきめ細かなレポート指導を計画している。

【学生が準備すべき機器他】
「お知らせ」などで学習支援システムを使用します。

【履修上の注意】
科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

BSP100LC

科学実験ＩＩＩ

水澤　直樹

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】
受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育・基礎実験 1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第 2 回	基礎実験 2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第 3 回	基礎実験 3	顕微鏡の使い方（含ミクロメーターの使用法）
第 4 回	基礎実験 4	顕微鏡による生物試料の観察
第 5 回	基礎実験 5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第 6 回	遺伝子実験 1	無菌操作の習得
第 7 回	遺伝子実験 2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第 8 回	遺伝子実験 3	DNA の分離・精製
第 9 回	遺伝子実験 4	DNA の制限酵素による切断と電気泳動
第 10 回	遺伝子実験 5	大腸菌プラスミドの DNA 鑑定
第 11 回	遺伝子実験 6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第 12 回	酵素実験 1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第 13 回	酵素実験 2	酵素活性測定
第 14 回	酵素実験 3	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験内容を予習する。

【テキスト（教科書）】
担当教員が編集したテキストを第 1 回授業時に配布する。

【参考書】
高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」 羊土社

【成績評価の方法と基準】
実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの作成指導に力を入れてほしいとの要望があったため、よりきめ細かなレポート指導を計画している。

【学生が準備すべき機器他】
「お知らせ」などで学習支援システムを使用します。

【履修上の注意】
科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

BSP100LC

生物学基礎 I

石黒　亮

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球生物は、地球に存在する元素を選択的に利用して形成された生体高分子とその集合体で形成され、特異な生命機能を発揮している。この授業では生命を構成・維持する分子やシステムについて理解を深め、その上で多様な生命現象が発現する仕組みについて学ぶ。生命に対する科学的な理解を深めるとともに、専門分野で今後活躍する上で必要不可欠な生物学の基本的な知識を身につける。

【到達目標】
生物学の基本的な概念と用語を理解し自分の言葉で説明できる。生物学が関係する社会的、技術的問題について興味を持ち、科学的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的事項に最近発展した内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深める。
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生命とは何か	生物と無生物の違い。
2	細胞：生物の基本単位	細胞の構造と機能。
3	オルガネラ	オルガネラの構造とその働き。
4	個体の統合	多細胞生物と細胞分化。
5	生体を構成する分子 1	核酸とタンパク質の構造と機能。
6	生体を構成する分子 2	炭水化物, 脂質の構造と機能。
7	中間テスト・解説	6 回目までのテスト・まとめと解説
8	遺伝子発現	セントラルドグマと生体システム。
9	物質代謝とエネルギー代謝	合成と分解, 呼吸, 光合成
10	恒常性の維持	生体の内部環境を安定に保つしくみ。
11	生命システムの破綻	遺伝子発現, 代謝, 恒常性の破綻と疾患。
12	病原体と生体防御	ウイルス, 微生物と生体防御システム。
13	現在そしてこれからの生命科学	遺伝子治療、ゲノム編集、再生医療など、最新の生命工学と今後の展望。
14	生物の多様性・生命科学と倫理	生命の誕生と進化, 分類。生命科学で守るべきこと。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】ノートを読み直し、復習する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間・期末の２回実施するテスト、及び平常点にて評価する。テストがオンラインでの実施となった場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、講義の中で提示する。

【学生の意見等からの気づき】
高校で生物を選択していなかった受講者へも解り易い講義を心がける。

【その他の重要事項】
近年話題となった生物学上の発見や様々な問題点などを紹介、議論する。

【Outline and objectives】
Living organisms are formed of aggregates of biopolymers formed by selectively using Earth's elements. In this lecture, we will deepen our understanding of molecules and systems that constitute and maintain life and learn about its mechanism.

BSP100LC

生物学基礎 I

水澤　直樹

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球上の生命体は、地球に存在する元素を選択的に利用して形成された生体高分子とその集合体で形成され、特有な生命機能を発揮している。本授業では、受講学生は生命の基本単位である細胞とそれを構成する分子について理解を深め、多様な生命現象が発現する仕組みについて学ぶ。これらの学びを通じて、受講学生は生物に対する科学的な理解を深めるとともに、専門分野で今後活躍する上で必要不可欠な生物学の基本的な知識を身につける。

【到達目標】
生物学の基本的な概念と用語を理解し自分の言葉で説明できるようになり、生物学が関係する社会的、技術的問題について興味を持ち、科学的に考察できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
高校で生物を選択しなかった学生も考慮して、平易で簡潔な講義を行う。生命科学に関する基礎的事項に加え、近年発展した学問内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深めていく。「生命とは何か」「細胞とは何か」など生命の基本的な概念を解説した上で、オルガネラ（細胞小器官）、細胞を構成する分子（タンパク質、核酸、脂質、糖）など各論に入る。その後、さらに、DNA の遺伝情報をもとにしたタンパク質の合成、代謝（呼吸、光合成）などの生命現象のしくみについて説明する。
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生命とは何か	生物の進化、生物と無生物の違い
第 2 回	細胞：生物の基本単位	細胞の構造と機能
第 3 回	オルガネラ	オルガネラ（細胞小器官）の構造とその働き
第 4 回	恒常性	生体の内部環境を安定に保つしくみ
第 5 回	生体を構成する分子 1	タンパク質
第 6 回	生体を構成する分子 2	核酸： DNA と RNA
第 7 回	生体を構成する分子 3	糖
第 8 回	生体を構成する分子 4	脂質
第 9 回	遺伝 1	DNA、ゲノム、遺伝子
第 10 回	遺伝 2	DNA の複製、修復
第 11 回	遺伝 3	遺伝情報の転写と翻訳
第 12 回	代謝 1	酵素の特性と機能
第 13 回	代謝 2	嫌気呼吸、発酵、酸素呼吸
第 14 回	代謝 3	光合成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】まとめのプリントとノートを読み直し、復習する。課題のレポートを作成して提出する。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（15%）、中間テスト（25%）、自由課題レポート（10%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。基本的な生命科学の用語の定着、理解、生命現象のメカニズムの理解、現代社会における生命科学の重要性の理解などが試験、レポート課題の中心となる。

【学生の意見等からの気づき】
板書の読みやすさを心がける。

【学生が準備すべき機器他】
お知らせ、資料配付に学習支援システムを使用します。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life,biological molecules composing a cell,and the mechanisms of various biological phenomena inside the cell that occur using these molecules.

BSP100LC

生物学基礎 I

細谷　茂生

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
遺伝子工学分野をはじめとする生命科学の近年における急進な発展は、基礎生物学のみならず、医療や農業に技術革新をもたらし、社会全体にも大きな影響を及ぼすようになってきた。本講義は、受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、細胞学や分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。

【到達目標】
受講生が生物学の基本的概念を理解し、生命科学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。また、毎回小テストを行い、受講生の理解度を考慮して講義を進める。
　小テストの結果に対するフィードバックは、学習支援システムを用いて行うほか、小テストの結果に基づき講義において補足説明やまとめを行う。
　当面の間は学習支援システムでの授業とし、詳細は学習支援システムで提示する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生物と無生物、授業の概要	生物の定義と分類、授業で取り上げるテーマの概要
第 2 回	細胞生物学の基礎	原核細胞と真核細胞の構造とその違い、細胞小器官の構造とはたらき
第 3 回	生体膜	生体膜の種類、細胞膜とその構造、細胞膜の様々な役割
第 4 回	タンパク質	タンパク質の種類・構造、酵素を中心としたタンパク質の機能とはたらき
第 5 回	呼吸（解糖系、クエン酸回路）	生物の代謝と炭素循環、呼吸等で重要な物質、解糖系とクエン酸回路の分子的メカニズム
第 6 回	呼吸（電子伝達系、発酵）	電子伝達系の概要、分子的メカニズム、嫌気呼吸と発酵
第 7 回	光合成（明反応）	植物の構造と光合成、光合成の概要、電子伝達系の分子的メカニズム
第 8 回	光合成（暗反応）、その他の代謝系	カルビン回路と糖の生成の分子的メカニズム、光呼吸、C4 植物と CAM 植物の特徴、窒素同化
第 9 回	細胞分裂と染色体	細胞分裂と細胞周期、細胞周期の制御機構、染色体の構造、体細胞分裂と減数分裂のメカニズム
第 10 回	メンデル遺伝学	メンデルの遺伝の法則、様々な遺伝形式、ヒトの遺伝形質
第 11 回	遺伝子の本体と DNA	DNA 発見の歴史、DNA の構造と性質
第 12 回	DNA の複製	細胞分裂における DNA の複製、複製メカニズム発見の歴史、複製のメカニズム
第 13 回	まとめと解説 1	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説
第 14 回	まとめと解説 2、試験	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習：授業で配布する資料を読み、復習する。
予習：可能であれば、参考書を読んで授業で取り上げる内容について予習する。
予習・復習時間：各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、参考書に挙げた書籍の内容に沿って講義を行う。

【参考書】
BLUE BACKS アメリカ版 大学生物学の教科書第 1、2 巻 D・サダヴァ他編（講談社）視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

【成績評価の方法と基準】
小テスト成績（50%）、期末試験成績（50%）により判断する。
変更する場合は学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義で重要なキーワードを示す。学習支援システムを通した小テストの即時フィードバックを充実させる。

【学生が準備すべき機器他】
対面：講義中は必ずしも必要としないが、講義終了後の小テストは学習支援システムを通して回答するため、貸与パソコン等、システムにアクセスできる情報機器が必要。
オンライン：貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、zoom に参加できる情報機器が必要。

【その他の重要事項】
秋学期開講の生物学基礎 II と合わせて受講するのが望ましい。

【Outline and objectives】
The rapid development of life sciences in recent years, including the field of genetic engineering, has brought about technological innovation not only in basic biology but also in medicine and agriculture, and has come to have a great impact on society as a whole. This course outlines the basics of modern biology, focusing on cytology and molecular biology, so that students can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science.

BSP100LC

生物学基礎 I

細谷　茂生

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
遺伝子工学分野をはじめとする生命科学の近年における急進な発展は、基礎生物学のみならず、医療や農業に技術革新をもたらし、社会全体にも大きな影響を及ぼすようになってきた。本講義は、受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、細胞学や分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。

【到達目標】
受講生が生物学の基本的概念を理解し、生命科学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。また、毎回小テストを行い、受講生の理解度を考慮して講義を進める。
　小テストの結果に対するフィードバックは、学習支援システムを用いて行うほか、小テストの結果に基づき講義において補足説明やまとめを行う。
　当面の間は学習支援システムでの授業とし、詳細は学習支援システムで提示する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生物と無生物、授業の概要	生物の定義と分類、授業で取り上げるテーマの概要
第 2 回	細胞生物学の基礎	原核細胞と真核細胞の構造とその違い、細胞小器官の構造とはたらき
第 3 回	生体膜	生体膜の種類、細胞膜とその構造、細胞膜の様々な役割
第 4 回	タンパク質	タンパク質の種類・構造、酵素を中心としたタンパク質の機能とはたらき
第 5 回	呼吸（解糖系、クエン酸回路）	生物の代謝と炭素循環、呼吸等で重要な物質、解糖系とクエン酸回路の分子的メカニズム
第 6 回	呼吸（電子伝達系、発酵）	電子伝達系の概要、分子的メカニズム、嫌気呼吸と発酵
第 7 回	光合成（明反応）	植物の構造と光合成、光合成の概要、電子伝達系の分子的メカニズム
第 8 回	光合成（暗反応）、その他の代謝系	カルビン回路と糖の生成の分子的メカニズム、光呼吸、C4 植物と CAM 植物の特徴、窒素同化
第 9 回	細胞分裂と染色体	細胞分裂と細胞周期、細胞周期の制御機構、染色体の構造、体細胞分裂と減数分裂のメカニズム
第 10 回	メンデル遺伝学	メンデルの遺伝の法則、様々な遺伝形式、ヒトの遺伝形質
第 11 回	遺伝子の本体と DNA	DNA 発見の歴史、DNA の構造と性質
第 12 回	DNA の複製	細胞分裂における DNA の複製、複製メカニズム発見の歴史、複製のメカニズム
第 13 回	まとめと解説 1	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説
第 14 回	まとめと解説 2、試験	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習：授業で配布する資料を読み、復習する。
予習：可能であれば、参考書を読んで授業で取り上げる内容について予習する。
予習・復習時間：各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、参考書に挙げた書籍の内容に沿って講義を行う。

【参考書】
BLUE BACKS アメリカ版 大学生物学の教科書第 1、2 巻 D・サダヴァ他編（講談社）視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

【成績評価の方法と基準】
小テスト成績（50%）、期末試験成績（50%）により判断する。
変更する場合は学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義で重要なキーワードを示す。学習支援システムを通した小テストの即時フィードバックを充実させる。

【学生が準備すべき機器他】
対面：講義中は必ずしも必要としないが、講義終了後の小テストは学習支援システムを通して回答するため、貸与パソコン等、システムにアクセスできる情報機器が必要。
オンライン：貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、zoom に参加できる情報機器が必要。

【その他の重要事項】
秋学期開講の生物学基礎 II と合わせて受講するのが望ましい。

【Outline and objectives】
The rapid development of life sciences in recent years, including the field of genetic engineering, has brought about technological innovation not only in basic biology but also in medicine and agriculture, and has come to have a great impact on society as a whole. This course outlines the basics of modern biology, focusing on cytology and molecular biology, so that students can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science.

BSP100LC

生物学基礎ⅠⅠ

田島　寛隆

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物の遺伝・生殖・発生・老化・免疫などの様々な生命現象を生物学・分子生物学の視点から解説する．

【到達目標】
講義で紹介する生命現象について，受講学生がそれらが起こる仕組みを科学的に説明できるようになることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
下記授業テーマで挙げた生命現象を基礎レベルから学習する．
高校で生物を選択しなかった学生にも分かりやすいように平易・簡潔な講義を行う．またトピックスに関連した回覧資料・視覚教材を適宜提供する．
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	遺伝子 1	遺伝子の発見，形質・表現型と遺伝子
第 2 回	遺伝子 2	遺伝の基本法則
第 3 回	遺伝子 3	様々な遺伝
第 4 回	生殖 1	無性生殖と有性生殖のメリットとデメリット
第 5 回	生殖 2	生殖細胞と減数分裂
第 6 回	生殖 3	受精と多精拒否機構
第 7 回	中間試験・まとめと解説	第 1 回～第 6 回までの内容を出題範囲とした試験
第 8 回	発生	卵割，胞胚，原腸胚への変化
第 9 回	分化 1	胚葉の分化
第 10 回	分化 2	誘導の概念とオーガナイザーの働き
第 11 回	分化 3	ホメオティック遺伝子
第 12 回	老化と寿命	細胞の老化と不死化のメカニズム
第 13 回	免疫 1	自然免疫と獲得免疫
第 14 回	免疫 2	抗体の働き，免疫関連細胞の機能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】配付資料と授業ノートを良く読み返し，内容を十分に理解すること．授業内容に関連する参考書籍（講義で紹介する）を読み，理解をより深めるのが望ましい．

【テキスト（教科書）】
特に指定しない．適宜プリントを配布する．

【参考書】
初回の講義で紹介する．

【成績評価の方法と基準】
< 評価方法> 期末試験 70%，レポート 30%とする．
< 評価基準> 講義内容の基本項目を理解しているかを評価基準とする．
授業の実施状況に伴って、上記の評価方法は適宜変更することがある．この場合，初回授業時に説明する．

【学生の意見等からの気づき】
板書が読みにくい旨の意見が多いため、改善する。

【その他の重要事項】
講義内容に関する質問・感想・要望は随時受け付ける．

【Outline and objectives】
The aim of this lecture is to understand biological phenomena, such as heredity, reproduction, development, senescence and immunity, in terms of biology and molecular biology.

BSP100LC

生物学基礎ⅠⅠ

水澤　直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物を構築する全ての遺伝情報は、遺伝子の集合体であるゲノムに含まれている。ゲノムに含まれる遺伝情報の発現機構、ゲノムの細胞から細胞、親から子への伝達機構、共通の祖先から由来したゲノムの多種多様な生物への分化と進化について、物質的基盤での理解を深める。

【到達目標】
受講学生は生物学の基本的な概念と用語を理解し自分の言葉で説明できるようになり、生物学が関係する社会的、技術的問題について興味を持ち、科学的に考察できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
高校で生物を選択しなかった学生も考慮して、平易簡潔な講義を行う。生命科学に関する基礎的事項に加え、近年発展した学問内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深めていく。生物学基礎Ⅰで学んだ内容の復習で知識を整理したのちに、遺伝情報の発現の仕組みについて、原核生物と真核生物を比較しながら講義する。つぎに、生殖、発生について、動物と植物を比較しながら講義する。さらに、再生医療、遺伝子操作技術など基礎生命科学を基礎に発展した応用的な分野についても解説する。
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または
授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する
可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	生物学基礎Ⅰで学習した内容の復習・まとめ
第 2 回	細胞	原核生物と真核生物
第 3 回	遺伝子 1	遺伝の法則，遺伝子の発見，形質と遺伝子
第 4 回	遺伝子 2	遺伝子の構造，複製，PCR 法
第 5 回	遺伝子 3	原核生物における遺伝情報の発現制御；ラクトースオペロン
第 6 回	遺伝子 4	真核生物における遺伝情報の発現制御；クロマチン構造、エピジェネティクス
第 7 回	細胞分裂	体細胞分裂と減数分裂
第 8 回	生殖 1	動物と植物における生殖細胞の形成
第 9 回	生殖 2	動物と植物における受精のしくみ
第 10 回	発生 1	卵割、胞胚、原腸胚への変化
第 11 回	発生 2	オーガナイザーと胚葉分化、形態形成
第 12 回	発生 3	植物の発生、植物ホルモン
第 13 回	進化	生命の誕生と生物の系統進化
第 14 回	遺伝子工学・細胞工学	遺伝子組換技術、再生医療

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
まとめのプリントとノートを読み直し、復習する。課題のレポートを作成して提出する。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を配布する。

【参考書】
東京大学生命科学教科書編集委員会「生命科学」改訂第 3 版　羊土社
和田勝著「基礎から学ぶ゛生物学・細胞生物学」 羊土社

【成績評価の方法と基準】
平常点 15%、レポート 10%、中間試験 25%、期末試験 50%などで評価する。基本的な生命科学の用語の定着、理解、生命現象のメカニズムの理解、現代社会における生命科学の重要性の理解などが試験、レポート課題の中心となる。

【学生の意見等からの気づき】
板書の読みやすさを心がける。

【学生が準備すべき機器他】
お知らせ、資料配付に学習支援システムを使用します。

【Outline and objectives】
The course is an introduction to molecular biology,genetics and several modern molecular methods to elucidate molecular and genetic questions that involve the description of meiosis, sexual reproduction, and classical genetics,and the principles of DNA replication and gene regulation in prokaryotic and eukaryotic cells,and PCR.

BSP100LC

生物学基礎ＩＩ

細谷　茂生

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の基礎生物学Ｉに引き続き、本講義は受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、遺伝学と分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。また、近年の生物学の研究動向についても紹介する。

【到達目標】
受講生が生物学の基本的概念を身につけ、生物学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。また、毎回小テストを行い、受講生の理解度を考慮して講義を進める。
　小テストの結果に対するフィードバックは、学習支援システムを用いて行うほか、小テストの結果に基づき講義において補足説明やまとめを行う。
　当面の間は学習支援システムでの授業とし、詳細は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習、授業の概要	DNA の構造と性質、複製のメカニズム、授業で取り上げるテーマの概要
第 2 回	DNA の転写と転写の制御	DNA と遺伝情報、転写のメカニズム、代表的な転写の制御、転写調節に関する応用例
第 3 回	RNA の翻訳	遺伝暗号解読の歴史、翻訳のメカニズム、翻訳後修飾、突然変異、翻訳と抗生物質
第 4 回	バクテリアとウイルス	バクテリアの特徴と遺伝学、ウイルスの特徴とライフサイクル、代表的なウイルスの特徴
第 5 回	真核生物の分子遺伝学	ゲノムプロジェクト、真核生物のゲノムの特徴、真核生物における転写のメカニズムと遺伝子発現のメカニズム
第 6 回	細胞のシグナル伝達 1	細胞のシグナル伝達の分子的メカニズム、神経伝達のメカニズム、神経細胞と疾患とのかかわり
第 7 回	細胞のシグナル伝達 2、生理学の基礎 1	内分泌のメカニズム、循環器、呼吸器の概要と疾患とのかかわり
第 8 回	生理学の基礎 2	消化器、泌尿器、骨、感覚器の概要と疾患とのかかわり
第 9 回	発生の生物学と分子遺伝学	発生の概要、代表的な生物における発生の過程、発生の分子的メカニズム
第 10 回	生体防御システム	生体防御システムの全体像、自然免疫と獲得免疫の分子的メカニズム、免疫と疾患のかかわり
第 11 回	バイオテクノロジー基礎編	DNA やタンパク質を扱う主な実験手法の原理と概要
第 12 回	バイオテクノロジー応用編	遺伝子組換え技術の基礎と応用例、ゲノム編集技術の概要、バイオテクノロジーの医療への応用
第 13 回	まとめと解説 1	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説
第 14 回	まとめと解説 2、試験	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習：授業で配布する資料を読み、復習する。
予習：可能であれば、参考書を読んで授業で取り上げる内容について予習する。
予習・復習時間：各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、参考書に挙げた書籍の内容に沿って講義を行う。

【参考書】
BLUE BACKS アメリカ版 大学生物学の教科書第 2、3 巻 D・サダヴァ他編（講談社）視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

【成績評価の方法と基準】
小テスト成績（50%）、期末試験成績（50%）により判断する。
変更する場合は学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義で重要なキーワードを示す。学習支援システムを通した小テストの即時フィードバックを充実させる。

【学生が準備すべき機器他】
対面：講義中は必ずしも必要としないが、講義終了後の小テストは学習支援システムを通して回答するため、貸与パソコン等、システムにアクセスできる情報機器が必要。
オンライン：貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、zoom に参加できる情報機器が必要。

【その他の重要事項】
春学期開講の生物学基礎Ｉと合わせて受講するのが望ましい。

【Outline and objectives】
Continuing from Basic Biology I in the spring semester, this course focuses on genetics and molecular biology so that students can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science. We will also introduce recent trends in biology research.

BSP100LC

生物学基礎ＩＩ

細谷　茂生

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期開講の基礎生物学Ｉに引き続き、本講義は受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、遺伝学と分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。また、近年の生物学の研究動向についても紹介する。

【到達目標】
受講生が生物学の基本的概念を身につけ、生物学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。また、毎回小テストを行い、受講生の理解度を考慮して講義を進める。
　小テストの結果に対するフィードバックは、学習支援システムを用いて行うほか、小テストの結果に基づき講義において補足説明やまとめを行う。
　当面の間は学習支援システムでの授業とし、詳細は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習、授業の概要	DNA の構造と性質、複製のメカニズム、授業で取り上げるテーマの概要
第 2 回	DNA の転写と転写の制御	DNA と遺伝情報、転写のメカニズム、代表的な転写の制御、転写調節に関する応用例
第 3 回	RNA の翻訳	遺伝暗号解読の歴史、翻訳のメカニズム、翻訳後修飾、突然変異、翻訳と抗生物質
第 4 回	バクテリアとウイルス	バクテリアの特徴と遺伝学、ウイルスの特徴とライフサイクル、代表的なウイルスの特徴
第 5 回	真核生物の分子遺伝学	ゲノムプロジェクト、真核生物のゲノムの特徴、真核生物における転写のメカニズムと遺伝子発現のメカニズム
第 6 回	細胞のシグナル伝達 1	細胞のシグナル伝達の分子的メカニズム、神経伝達のメカニズム、神経細胞と疾患とのかかわり
第 7 回	細胞のシグナル伝達 2、生理学の基礎 1	内分泌のメカニズム、循環器、呼吸器の概要と疾患とのかかわり
第 8 回	生理学の基礎 2	消化器、泌尿器、骨、感覚器の概要と疾患とのかかわり
第 9 回	発生の生物学と分子遺伝学	発生の概要、代表的な生物における発生の過程、発生の分子的メカニズム
第 10 回	生体防御システム	生体防御システムの全体像、自然免疫と獲得免疫の分子的メカニズム、免疫と疾患のかかわり
第 11 回	バイオテクノロジー基礎編	DNA やタンパク質を扱う主な実験手法の原理と概要
第 12 回	バイオテクノロジー応用編	遺伝子組換え技術の基礎と応用例、ゲノム編集技術の概要、バイオテクノロジーの医療への応用
第 13 回	まとめと解説 1	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説
第 14 回	まとめと解説 2、試験	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習：授業で配布する資料を読み、復習する。
予習：可能であれば、参考書を読んで授業で取り上げる内容について予習する。
予習・復習時間：各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、参考書に挙げた書籍の内容に沿って講義を行う。

【参考書】
BLUE BACKS アメリカ版 大学生物学の教科書第 2、3 巻 D・サダヴァ他編（講談社）視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

【成績評価の方法と基準】
小テスト成績（50%）、期末試験成績（50%）により判断する。
変更する場合は学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義で重要なキーワードを示す。学習支援システムを通した小テストの即時フィードバックを充実させる。

【学生が準備すべき機器他】
対面：講義中は必ずしも必要としないが、講義終了後の小テストは学習支援システムを通して回答するため、貸与パソコン等、システムにアクセスできる情報機器が必要。
オンライン：貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、zoom に参加できる情報機器が必要。

【その他の重要事項】
春学期開講の生物学基礎Ｉと合わせて受講するのが望ましい。

【Outline and objectives】
Continuing from Basic Biology I in the spring semester, this course focuses on genetics and molecular biology so that students can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science. We will also introduce recent trends in biology research.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

加田　修

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
１）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
２）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
１）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
２）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
３）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインによる講義を行い、演習問題をオンラインで提出する。基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房

【参考書】
スバラシク実力がつくと評判の線形代数キャンパス・ゼミ―大学の数学がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる! 単行本 – 2018/10/1
馬場 敬之 (著)
線形代数学（新装版） 単行本（ソフトカバー） – 2010/8/20
川久保　勝夫 (著)
齋藤正彦線型代数学 単行本 – 2014/4
齋藤 正彦 (著)
線型代数学 (新装版) (数学選書) (日本語) 単行本 – 2015/6/5
佐武 一郎 (著)

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを，主に期末試験で判断する。成績は期末試験の成績 (90%) を主とし、演習の成績や授業中の態度を平常点（１０%）として加味して総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
数学においては、講義を漫然と聞いているだけでは身に付きません。自分で鉛筆と紙を使って、手を動かしながら自分で考えることが必要です。
講義中に質問することを躊躇する学生が多いですが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので、気軽に質問してください．

【その他の重要事項】
オンラインでの開講となった場合、オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

村上　弥生

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
グローバルな教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身に着ける。異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、国際人としての視野を広げる。
またリスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く設けることによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。
高度な英文の読み物については、精読、正確な和訳の作業を通して、文構造や表現、単語の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1. 読み物については、
現在の社会、世界において重要なテーマを 1〜2 選び、関連する資料を学生さんの予習を前提として、丁寧に読む。また、その過程で必要な情報や背景のリサーチを行ってもらったり、また教師からも随時行う。
2. テーマに関連する視聴覚材料をネットでのを聞き、内容確認等を行う
3. 各テーマないし読み物について、復習として語彙や表現、内容についての応用的な小テスト、ないし訳の修正や意見文を書いてもらう。
4. 1〜3 の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時 Hoppi に提出されたものを評価して返却、ないし授業時に総評を行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など
第 2 回	トピック 1 ：（社会や時代の変化に添って新たに選びなおすが、以下は昨年度の例である）Robots Are Hiring:採用現場における AI〈人口知能）活用の現状-1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 3 回	Robots Are Hiring:採用現場における AI 活用の現状-2 関連するリスニング教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 4 回	Robots Are Hiring:採用現場における AI 活用の現状-3 関連するリスニング教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 5 回	Robots Are Hiring:採用現場における AI 活用の現状- 4	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 6 回	トピック 1 の復習	質問と説明
第 7 回	Don't Be Evil: A Tale of Google, China and Atrocities: 巨大 IT 企業による情報の独占－ 1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 8 回	Don't Be Evil: A Tale of Google, China and Atrocities: 巨大 IT 企業による情報の独占－ 2 関連するリスニング教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 9 回	Don't Be Evil: A Tale of Google, China and Atrocities: 巨大 IT 企業による情報の独占－ 3 関連するリスニング教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 10 回	トピック 2 の復習	質問と説明
第 11 回	トピック- 3 ：Plamdemic's Virus conspiracy Theoru Video Highlights Challenges for Big Tech:コロナ陰謀説のネットの席巻－ 1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 12 回	トピック- 3 ：Plamdemic's Virus conspiracy Theoru Video Highlights Challenges for Big Teck － 2	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認。
第 13 回	トピック- 3 ：Plamdemic's Virus conspiracy Theoru Video Highlights Challenges for Big Teck － 3	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 14 回	トピック- 3 の復習	質問と説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
1. 読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。
2．読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
3．各トピックごとに復習テスト。もしくは訳の修正を行うように準備をする。
4. 全体的なテーマに関連した短い意見文を作成してもらう。

【テキスト（教科書）】
初回に指示する。また随時教師が提供する。

【参考書】
参考書はとくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】
予習としての和訳、リサーチ 50 %、授業での作文などへの積極的取組 20 %、復習テストもしくは和訳の修正や意見文 30 %。

【学生の意見等からの気づき】
現代の世界の様々な側面を広く知ることに意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう努力したい。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

藤野　輝雄

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
動物・冒険など興味あるテーマを読み、聴き、話すことにより英語の読解力、リスニング力、スピーキング力、語彙力等を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週興味あるテーマを英文で読み、語彙を確認し，ビデオを試聴し、テーマの内容を英語で説明することにより英語を理解し、英語によるコミュニケーション能力を養う。そのために、授業内容に関連したクイズや演習、シャドーイングを行うと同時に、ペアやグループで活動を行う。また，課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course
2	Reading Explorer 1 Unit one A: Reading and listening	Amazing Animals: The Incredible Dolphin
3	Reading Explorer 1 Unit one B: Reading and listening	Amazing Animals: Musical Elephants
4	Reading Explorer 1 Unit two A: Reading and listening	Travel and Adventure: The Trip of a Lifetime
5	Reading Explorer 1 Unit two B: Reading and listening	Travel and Adventure: Adventure Island
6	Reading Explorer 1 Unit three A: Reading and listening	The Power of Music: Hip-Hop Planet
7	Reading Explorer 1 Unit three B: Reading and listening	The Power of Music: A Musical Boost
8	Reading Explorer 1 Unit four A: Reading and listening	Into Space: Life Beyond Earth?
9	Reading Explorer 1 Unit four B: Reading and listening	Into Space: Living in Space
10	Reading Explorer 1 Unit five A: Reading and listening	City Life: Global Cities
11	Reading Explorer 1 Unit five B: Reading and listening	City Life: Rio Reborn
12	Reading Explorer 1 Unit six A: Reading and listening	Small Worlds: In One Cubic Foot
13	Reading Explorer 1 Unit six B: Reading and listening	Small Worlds: A World Within Us
14	Exam, summary, and explanation	Contents of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・次回の授業の予習を行うこと
・小テストのための復習をすること
・与えられた宿題を決められた日時に提出すること

【テキスト（教科書）】
・Nancy Douglas, Reading Explorer 1, HEINLE CENGAGE Learning, ISBN 978-1-285-84685-9

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
・試験（30%），小テスト・演習（25%）、宿題（30%），平常点（15%）とする
・「平常点」では、先生の言うことをしっかり聴き、質問に自発的に答え、与えられた課題に真面目に取り組み、授業に関係ない話をせず、他の学生の邪魔をしないかどうか等を評価する
・教員間の評価の不公平を解消するために成績を調整する場合がある

【学生の意見等からの気づき】
シャドウイングが勉強になったとのことなので今後も行っていきたい。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

吉川　直澄

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用する語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストを中心とする講義と演習を行う。レポーターによるプレゼンテーションを隔週で行う。レポーターは学期内に各自一回担当してもらう。CD などの音声教材を利用し、音読と頭から読んで内容を理解する訓練を進める。また、英語字幕の DVD を使用して、リスニングや情報の読み取りの練習を行う。春学期がオンラインでの開講となった場合、それに伴う各回の授業計画の変更については、「学習支援システム」を通じて提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の説明。予習すべき項目の指示。
②	Unit 1 The Scientific Method 精読	テキストの 7 ページと 8 ページの精読　科学的方法について パラグラフの構造の説明
③	Unit 1 The Scientific Method 文法	テキストの 9 ページと 10 ページの練習問題　受動態　科学英語の語彙と数式の読み方
④	Unit 2 Observing the Solar System 精読	テキストの 11 ページと 12 ページの精読　太陽系の観測史について
⑤	Unit 2 Observing the Solar System 文法	テキストの 13 ページと 14 ページの練習問題　方程式の読み方　他動詞の目的語となる動名詞と to-不定詞
⑥	Unit 3 The Beauty of Mathematics 精読	テキストの 15 ページと 16 ページの精読　数式の美しさについて
⑦	Unit 3 The Beauty of Mathematics 文法	テキストの 17 ページと 18 ページの練習問題　数式の記号について　関係代名詞
⑧	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 精読	テキストの 19 ページと 20 ページの精読　電球と LED について
⑨	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 文法	テキストの 21 ページと 22 ページの練習問題　図形・面積・体積　関係副詞
⑩	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 精読	テキストの 23 ページと 24 ページの精読　放射性物質について
⑪	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 文法	テキストの 25 ページと 26 ページの練習問題　長さ・幅・高さ・深さ　分詞構文
⑫	Unit 6 The Man Who Saved Millions 精読	テキストの 27 ページと 28 ページの精読　ジェンナーの業績
⑬	Unit 6 The Man Who Saved Millions 文法	テキストの 29 ページと 30 ページの練習問題　工具と付属部品の名称　関係代名詞
⑭	試験・まとめと解説	学期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、それにテキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、何度も反復練習をするように。

【テキスト（教科書）】
Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future,Dave Rear & Kayoko Murakami, 南雲堂, 2019, 1900 円.

【参考書】
『理科系のための英語力強化法』、ジャパンタイムズ、2002 年　『公式 TOEIC(R)Listening&Reading 問題集 7』、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、2020 年

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション・授業内提出物・平常点等（５０％）、期末試験のスコア（５０％）を総合的に検討して評価する。全体の 60 ％以上の得点をもって可とする。4 回以上欠席した場合、原則として、単位は認定されない。春学期がオンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」を通じて提示する。

【学生の意見等からの気づき】
英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようお手伝いします。質問があれば何時でもどうぞ。

【学生が準備すべき機器他】
DVD,CD, ブルーレイ等の再生機（自宅学習用）があれば望ましい。

【その他の重要事項】
学生の皆さんのレベルに応じて、予定を変更する場合もありうる。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development forcuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

ALAN D MORGAN

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples
2	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The News Media In The Past.
3	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The History of Electronic Media & Expansion Reading
4	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Citizen Journalism
5	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Ethical Journalism
6	THEME II EDUCATION (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Education Around the World
7	THEME II EDUCATION (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Testing In Education
8	THEME II EDUCATION (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 4 - Finding Supporting Details Alternative Education
9	THEME II EDUCATION (part 4)	Skills for the 21st Century
10	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers Supply and Demand in the Global Economy
11	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers The Workforce of the 21st Century
12	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Communication Technology in Business
13	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Business and Sustainability
14	FINAL TEST	FINAL TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
At the end of each two-week period of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

【テキスト（教科書）】
Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ￥3,000 - Jo McEntire & Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-58368-8

【参考書】
English-Japanese dictionaries
Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】
Assignments40%
Mini-tests 20%
Final Test 20%
Participation 20%
No credits will be given if the student is absent four times.
Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.
Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence
Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【学生の意見等からの気づき】
No previous comments for this class

【学生が準備すべき機器他】
The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

LANe200LC

アカデミック・リーディングⅠ

中野　里美

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
This course also seeks to promote reading skills and promote critical thinking skills to read these global issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
To begin with, students will be given TOEIC reading as warm-up handouts, then read the textbook, and finally be given some comments. Feedback about the classes will be carried out on the last week. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction and guidance	Explaining how to study in this class
第 2 回	Reading global issues	Don't freeze English education reform
第 3 回	Reading global issues	In international test, Japan sinks to lowest-ever rank for students' reading skills
第 4 回	Reading global issues	Building the UK's tech workforce
第 5 回	Reading global issues	Building the UK's tech workforce
第 6 回	Reading global issues	News ooutlets are uncertain
第 7 回	Reading global issues	Flight-shaming could slow growth of airline industry
第 8 回	Reading global issues	Saving the fire victims who cannot flee
第 9 回	Reading global issues	Beware the posh boy's hollow self-confidence
第 10 回	Reading global issues	Stopping superhuman A.I.
第 11 回	Reading global issues	Stopping superhuman A.I.
第 12 回	Reading global issues	The price of recycling
第 13 回	Reading global issues	Can esports save post-Olympics Japan?
第 14 回	Review	term-end exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Students will need to be prepare for the textbook.

【テキスト（教科書）】
English through the news media: 2021 Edition by Masami Takahashi
Asahi Press
￥1700

【参考書】
Participants will be given information of references in the class.

【成績評価の方法と基準】
半期の欠席４回以上（４回を含む）で、授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書、日付とフルネーム入りの領収書などの証明書持参のこと）などは考慮します。遅刻は授業開始後２０分以降の入室から。３回目の遅刻を１回欠席に換算します。遅延証明書があれば、当日の授業内持参のみ考慮します。毎回の授業で平常点が２回生じます。授業内課題テスト (50%) と期末テスト (50%の 50 点満点) を合計して１００％とし評価します。
注：オンライン授業での課題への取り組み＋最終課題により評価しますが、具体的には学習支援システムで状況に応じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

荒木　友嗣

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

この授業では、わたしたちの日常に密接な関わりをもつ自然科学、工学、人類学など諸分野における多彩な英語記事を読み、それらの分野での広く柔軟な英語読解力を養う。

【到達目標】
Smithsonian Magazine のウェブサイト *Smart News* から、認知工学、統計学、遺伝子工学、ロボット工学など、私たちの日常に密接な関わりのある興味深いニュースを読む。情報を正確に、明瞭に、簡潔に伝える最先端の科学ニュースを読むことによって、より正確な語法・文法の理解をともなう広く柔軟な英語読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は使用テキスト（以下参照）の Unit1 から、Unit 構成（Before You Read～ Reading～Comprehension Questions～Read Better, Understand More[文法や表現法解説]～After You Read）に沿って進められる。受講者の挙手による積極的な応答（応答のない場合は名簿からの指名）によって進められる。座席は固定となる。また一つの unit につき一回、テキストから課題が出される。

課題については、提出後おそからず、全体に対してフィードバック（解答例の提示や記述の確認）を行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業全般、辞書の活用などについての説明。
2	Unit 1 ①	Flowers Sweeten Up When They Sense Bees Buzzing（Before You Read～Reading）
3	Unit 1 ②	Flowers Sweeten Up When They Sense Bees Buzzing（Reading～ Reading Comprehensions）
4	Unit 1 ③	Flowers Sweeten Up When They Sense Bees Buzzing（Read Better, Understand More～After You Read）
5	Unit 2 ①	Sorry, the Mona Liza Is Not Looking at You（Before You Read～Reading）
6	Unit 2 ②	Sorry, the Mona Liza Is Not Looking at You（Reading～ Reading Comprehensions）
7	Unit 2 ③	Sorry, the Mona Liza Is Not Looking at You（Read Better, Understand More～After You Read）
8	Unit 3 ①	Nearly One-Third of Americans Sleep Fewer Than Six Hours Per Night（Before You Read～ Reading）
9	Unit 3 ②	Nearly One-Third of Americans Sleep Fewer Than Six Hours Per Night（Reading～ Reading Comprehensions）
10	Unit 3 ③	Nearly One-Third of Americans Sleep Fewer Than Six Hours Per Night（Read Better, Understand More～After You Read）
11	Unit 4 ①	There Is No Limit on Longevity, But Getting Super Old Is Still Tough（Before You Read～Reading）
12	Unit 4 ②	There Is No Limit on Longevity, But Getting Super Old Is Still Tough（Reading～ Reading Comprehensions）
13	Unit 4 ③	There Is No Limit on Longevity, But Getting Super Old Is Still Tough（Read Better, Understand More～After You Read）
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
毎回進んだ箇所まで学習状況を点検し、次の回の学習箇所を予習しておくこと。なかでも特に重要なことは、Reading をあらかじめ出来るだけ多く辞書を引きながら読んで、内容の把握に努めること。常に英語辞書の活用を心掛けること。

【テキスト（教科書）】
Keiko Miyamoto 著，*Science at Hand: Articles from Smithsonian Magazine's Smart News*〈スミソニアンで読む日常の科学〉金星堂、2020 年、2100 円（税別）

【参考書】
一年時に使用した英語辞書（電子辞書可）を持参すること。以下は一般に定評のある英語学習辞書：
『ジーニアス英和辞典』第 5 版（大修館）※電子版では同『和英辞典』（第 3 版）

他には必要に応じて適宜文献を紹介、あるいは資料を配付する。新聞、雑誌（ネットを含む）の科学記事に目を通す習慣を付けるとよい。

【成績評価の方法と基準】
授業平常点 50 %（挙手応答 20 %、課題実施・提出状況 30 %）、学期末試験 50 %として、全体の 60 %以上の取得者に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】
全体として積極的な参加と良好な課題提出状況が見られた。

【その他の重要事項】
出欠のカウントは最初のガイダンス授業から開始されるので、その点履修者は意識的、自覚的であること。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

Attendants of this class will be reading a variety of popular, scientific topics on a textbook that compiles 15 articles of *Smart News* from *Smithsonian's Magazine*. Hopefully, the students would deepen their verbal, grammatical, and contextual understandings and improve their ability in adaptable readings of a wider range of scientific topics.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

長谷川　秀子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
この授業では、社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済に関する専門的で学術的な文章を読む時の基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養い、文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したりすることができる読解力の養成を目指していく。
現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などの状況と問題に関して英語を読みながら読解力を高め、考える力を伸ばしていく。グローバル社会において世の中の情勢を理解し、それに関して各自の意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、授業内で確認していく。
このクラスの教科書は Introduction, Words in context, Reading, Comprehension 1&2,Vocabulary, Listening 1&2, Your opinion とあり予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけではなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。
COVID－１９による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。
　春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進めかた、テキストの使い方等の説明。
第 2 回	Unit 1	Mini Presentation Smart Phones Deserve Smart Users
第 3 回	Unit 2	The Animals in Our Lives
第 4 回	Unit 3	Mini Presentation Reforming　Japan's Education System
第 5 回	Unit 4	A Hungry Future
第 6 回	Unit 5	Mini Presentation No More Unwelcome Advertisements
第 7 回	Unit 6	A Living Wage
第 8 回	Unit 7	Mini presentation Keeping Mothers on the Payroll
第 9 回	Unit 8	Slow Life
第 10 回	Unit 9	Mini Presentation Volunteering
第 11 回	Unit 10	Longevity ： a Mixed Blessing
第 12 回	Review (1) News Paper Article	Unit 1-5 Current Topic
第 13 回	Review (2) News Paper Article	Unit6-1 Current Topic
第 14 回	Term Exam	Unit 1-10 の範囲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】
未来へ続く道
What's Going On in the World?　David Peaty, Kahori Kobayashi (2017) SEIBIDO 1900 円 (税別)　ISBN978-4-7919-6027-9

【参考書】
授業中に紹介の予定。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】ミニプレゼンテーション、小テスト、課題　50%
　　期末試験　50%
【評価基準】全体の 60 %の得点をもって可とする。
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。
教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

余田　亜希

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスについて書かれた文章を集めたテキストを使用して、読解力と語彙力を強化する。イギリスの社会や文化に関する知識を身につける。

【到達目標】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
2 回の授業で教科書の 1 章分を学習する。まず教科書本文のパラグラフ構成を確認したあと、練習問題の答え合わせをする。次に学生を指名して 1 段落ずつ音読と日本語訳を確認する。授業後半では、こちらで用意した時事問題に関するリスニングなどを行ってテーマを多角的に理解するよう努める。なお提出された課題のフィードバックは原則として授業時に行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明
2	Chapter 1 Multi-Cultural UK 前半	Reading 1: White Flight 演習問題
3	Chapter 1 Multi-Cultural UK 後半	Reading 2: Fear of Increasing Immigration 演習問題
4	Chapter 2 English Gardens 前半	Reading 1: Public Gardens 演習問題
5	Chapter 2 English Gardens 後半	Reading 2: Private Gardens 演習問題
6	Chapter 3 The British Royal Family 前半	Reading 1: Constitutional Monarchy 演習問題
7	Chapter 3 The British Royal Family 後半	Reading 2: Princess Diana- Her Legacy 演習問題
8	Chapter 4 Education in the UK 前半	Reading 1: The Education System 演習問題
9	Chapter 4 Education in the UK 後半	Reading 2: Issues for the Universities 演習問題
10	Chapter 5 Eating in Britain 前半	Reading 1: Typical British Dining 演習問題
11	Chapter 5 Eating in Britain 後半	Reading 2: Poor Diet 演習問題
12	Chapter 6 Health & Medical System 前半	Reading 1: The National Health Service (NHS) 演習問題
13	Chapter 6 Health & Medical System 後半	Reading 2: The Corona Virus Pandemic 演習問題
14	期末試験	授業で扱った内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

【テキスト（教科書）】
『Modern Britain: Culture, Society and History 現代英国の文化・社会・歴史』松柏社　2,000 円（税別）

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業に対する積極的な取り組み　20 %
授業内で課される課題や小テスト　20 %
期末試験　60 %
欠席回数が 5 回となった時点で単位取得の資格を失う。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。
30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。
予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】
教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていきたい。

【その他の重要事項】
教室での対面授業ではスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

【Outline and objectives】
This course will focus on reading articles and essays on Britain to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of Britain.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

川口　悠子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
・十分な語彙力、文法力を身につける。
・パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、英文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
予習して分からなかったところなどを確認しながら、テキストの内容を確認します。リスニングや音読、作文、文法事項の確認なども交えます。また、語学は反復が重要ですので、随時小テストを行い、前回の授業で学んだことの定着を図ります。
小テストで誤りが多かった問題は翌週の授業で解説します。そのほか授業中に出た質問もできるかぎり解答し、フィードバックを図ります。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方について説明する
2	Unit 1 (1)	Elegant Demolition
3	Unit 1 (2)	Elegant Demolition
4	Unit 2 (1)	Ayato Takada and the Ebola Virus
5	Unit 2 (2)	Ayato Takada and the Ebola Virus
6	Unit 3 (1)	Japanese Rocket Science
7	Unit 3 (2)	Japanese Rocket Science
8	Unit 4 (1)	Drones
9	Unit 4 (2)	Drones
10	Unit 5 (1)	Whistleblower Engineer Fights Giant Monsters and Wins!
11	Unit 5 (2)	Whistleblower Engineer Fights Giant Monsters and Wins!
12	Unit 6 (1)	AI
13	Unit 6 (2)	AI
14	まとめと期末試験	授業内容を振り返り、期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・語学では予習が決定的に重要です。辞書を引きながら丁寧に読み、設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。
・各ユニットの復習を目的として小テストをおこないますので、準備をして臨んでください。
・授業中に暗唱をしますので、授業外でも練習をしてきてください（練習方法は指示します）

【テキスト（教科書）】
松尾秀樹ほか『リーディング・レイディアス：科学技術の多様な側面を考える』（三修社）

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小テスト　20%
期末試験　70%
授業参加　10%
＊交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮します。ただし一学期につき 3 回を上限とします。
＊正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊予習が不充分な場合、または授業に参加する意欲が見られない場合、出席とみなさないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】
私語をする受講生を注意してほしいとの意見がありましたので、静かな教室環境の維持に努めます。

【その他の重要事項】
授業にはかならずきちんとした辞書を持参してください。
なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望を踏まえて、シラバスの内容を修正することがあります。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

吉川　直澄

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用する語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストを中心とする講義と演習を行う。レポーターによるプレゼンテーションを隔週で行う。レポーターは学期内に各自一回担当してもらう。CD などの音声教材を利用し、音読と頭から読んで内容を理解する訓練を進める。また、英語字幕の DVD を使用して、リスニングや情報の読み取りの練習を行う。春学期がオンラインでの開講となった場合、それに伴う各回の授業計画の変更については、「学習支援システム」を通じて提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の説明。予習すべき項目の指示。
②	Unit 1 The Scientific Method 精読	テキストの 7 ページと 8 ページの精読　科学的方法について パラグラフの構造の説明
③	Unit 1 The Scientific Method 文法	テキストの 9 ページと 10 ページの練習問題　受動態　科学英語の語彙と数式の読み方
④	Unit 2 Observing the Solar System 精読	テキストの 11 ページと 12 ページの精読　太陽系の観測史について
⑤	Unit 2 Observing the Solar System 文法	テキストの 13 ページと 14 ページの練習問題　方程式の読み方　他動詞の目的語となる動名詞と to-不定詞
⑥	Unit 3 The Beauty of Mathematics 精読	テキストの 15 ページと 16 ページの精読　数式の美しさについて
⑦	Unit 3 The Beauty of Mathematics 文法	テキストの 17 ページと 18 ページの練習問題　数式の記号について　関係代名詞
⑧	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 精読	テキストの 19 ページと 20 ページの精読　電球と LED について
⑨	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 文法	テキストの 21 ページと 22 ページの練習問題　図形・面積・体積　関係副詞
⑩	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 精読	テキストの 23 ページと 24 ページの精読　放射性物質について
⑪	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 文法	テキストの 25 ページと 26 ページの練習問題　長さ・幅・高さ・深さ　分詞構文
⑫	Unit 6 The Man Who Saved Millions 精読	テキストの 27 ページと 28 ページの精読　ジェンナーの業績
⑬	Unit 6 The Man Who Saved Millions 文法	テキストの 29 ページと 30 ページの練習問題　工具と付属部品の名称　関係代名詞
⑭	試験・まとめと解説	学期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、それにテキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、何度も反復練習をするように。

【テキスト（教科書）】
Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future,Dave Rear & Kayoko Murakami, 南雲堂, 2019, 1900 円.

【参考書】
『理科系のための英語力強化法』、ジャパンタイムズ、2002 年　『公式 TOEIC(R)Listening&Reading 問題集 7』、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、2020 年

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション・授業内提出物・平常点等（５０％）、期末試験のスコア（５０％）を総合的に検討して評価する。全体の 60 ％以上の得点をもって可とする。4 回以上欠席した場合、原則として、単位は認定されない。春学期がオンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」を通じて提示する。

【学生の意見等からの気づき】
英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようお手伝いします。質問があれば何時でもどうぞ。

【学生が準備すべき機器他】
DVD,CD, ブルーレイ等の再生機（自宅学習用）があれば望ましい。

【その他の重要事項】
学生の皆さんのレベルに応じて、予定を変更する場合もありうる。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development forcuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

梨本　邦直

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
この授業では、以下の 5 つを主な目標とします。
1) 個々の文を正確に理解する。
2) パラグラフの構成を理解する。
3) パラグラフ間のつながりを理解する。
4) 文章の大意を理解する。
5) 1〜4 を発展させ、批判的思考力・分析力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　社会情勢の変化に伴い、授業計画の変更がありうる。変更については本授業の開始日以降に学習支援システムでその都度提示する。
　この授業は、学生が予習済みであることを前提に進む。
・予習課題でわからなかった箇所を確認し、授業中にフィードバックをする。
・リーディングを中心としつつ、適宜リスニング (動画視聴)、ライティングなども含め英語運用能力を総合的に高めるアクティビティを行う。
・各ユニットで扱った内容の復習を目的として小テストを行い、翌週、結果をフィードバックをする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the course
2	Reading Explorer 1, Unit 1A	Amazing Animals: The Incredible Dolphin
3	Reading Explorer 1, Unit 1B	Amazing Animals: Master of Disguise
4	Reading Explorer 1, Unit 2A	Travel and Adventure: The Trip of a Lifetime
5	Reading Explorer 1, Unit 2B	Travel and Adventure: Adventure Island
6	Reading Explorer 1, Unit 3A	The Power of Music: Move to the Music
7	Reading Explorer 1, Unit 3B	The Power of Music: A Musical Boost
8	Reading Explorer 1, Unit 4A	Into Space: Life Beyond Earth?
9	Reading Explorer 1, Unit 4B	Into Space: Living in Space
10	Reading Explorer 1, Unit 5A	City Life: Global Cities
11	Reading Explorer 1, Unit 5B	City Life: A Taste of Two Cities
12	Reading Explorer 1, Unit 6A	Small World: In One Cubic Foot
13	Reading Explorer 1, Unit 6B	Small World: What's in Your Neighborhood?
14	Final Exam	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・指定された予習を必ずやっておくこと。
・予習の段階でわからない箇所を明確にしておくこと。
・多様な媒体 (本・雑誌・ソーシャルメディア等) で、自分の興味のあるトピックの英語のインプットを増やすこと。

【テキスト（教科書）】
Nancy Douglas and David Bohlke, Reading Explorer 1, 3rd Edition (Cengage Learning)

【参考書】
必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
社会情勢の変化に伴って以下の成績評価の方法と基準を変更する場合、授業開始日以降に学習支援システムで提示する。
1. 小テスト (20%)
2. 中間テスト (40%)
3. 授業内に行う学期末試験 (40%)
中間テストは Units 1-3, 期末試験は Units 4-6 を復習範囲とする。
なお、5 回以上、正当な理由なく欠席した場合は不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
必ずテキストと辞書を持参する。(電子辞書・紙媒体の辞書のどちらも歓迎)

【その他の重要事項】
・クラスの進行具合に合わせて授業スケジュールを調整することがある。
・この授業では、積極的な授業参加を重視する。
・初回の授業で予習の仕方を説明するので、それまでにテキストを入手しておく。
・質問がある場合は、授業後に受け付ける。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

大石　文雄

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。

【到達目標】
1) 英文をフィーリングではなく，語順や構造に従って正しく読めるようになる。
2) テキストを通じて理工系分野に関わる語彙を多く習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　英文を「単語レベル」ではなく「句」や「節」で理解でき，「文構造」を理解した上で英文読解ができるようになることを中心に授業を進める。
　毎回の授業では，最初に「Reading Test」を行い，速読力の向上を図る。次にテキスト『Science Fair ： 『Science』で読む科学の世界』を使い英文の「読み方」を教えていく。また、適宜英字新聞記事を授業内で活用していく。
　予習を行った上で授業に参加すること。予習の際には，各 Unit の「In Advance」をやり，「Reading」についてはきちんと和訳をしておくこと。また「Exercises」については授業で答え合わせを行い，テキストの内容理解を深める。なお「In Advance」「Exercises」については順番に指名し【成績】に加味する。
最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけではなく，授業内で毎回実施した小テストに対する講評や解説を行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容説明
第 2 回	Unit 1 ： Why Diets Fail	① Reading Test（第 1 回） ②基本文法用語の確認 I ③英文読解演習： Introduction ／ In Advance
第 3 回	Unit 1 ： Why Diets Fail	① Reading Test（第 2 回） ②基本文法用語の確認 II ③英文読解演習： Part 1
第 4 回	Unit 1 ： Why Diets Fail	① Reading Test（第 3 回） ②英文読解演習： Part 2
第 5 回	Unit 1 ： Why Diets Fail	① Reading Test（第 4 回） ②英文読解演習： Part 3
第 6 回	Unit 1 ： Why Diets Fail	① Reading Test（第 5 回） ②英文読解演習：問題演習： Exercises
第 7 回	Unit 4 ： Malagasy Spiders Spin the World's Toughest Biological Material	① Reading Test（第 6 回） ②英文読解演習： Part 1
第 8 回	Unit 4 ： Malagasy Spiders Spin the World's Toughest Biological Material	① Reading Test（第 7 回） ②英文読解演習： In Advance ／ Part 2
第 9 回	Unit 4 ： Malagasy Spiders Spin the World's Toughest Biological Material	① Reading Test（第 8 回） ②英文読解演習： Part 3
第 10 回	Unit 4 ： Malagasy Spiders Spin the World's Toughest Biological Material	① Reading Test（第 9 回） ②英文読解演習：問題演習： Exercises
第 11 回	Unit 5 ： Say Goodbye to Sunspots?	① Reading Test（第 10 回） ②英文読解演習： In Advance ／ Part 1
第 12 回	Unit 5 ： Say Goodbye to Sunspots?	① Reading Test（第 11 回） ②英文読解演習： Part 2
第 13 回	Unit 5 ： Say Goodbye to Sunspots?	① Reading Test（第 12 回） ②英文読解演習： Part 3　問題演習 ： Exercises
第 14 回	End-of-term test（学期末試験）	学習内容の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
　必ず予習をして授業に臨む。予習の際には，本文に出てくる単語・熟語を調べ，和訳をしておく。また各 Unit の「In Advance」「Exercises」を事前に学習しておく。

【テキスト（教科書）】
Science Fair:『Science』で読む科学の世界：南雲堂

【参考書】
必要に応じて，授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席 2/3 以上，学期末試験 70%，平常点 30%（毎時実施する「Reading Test」の成績を含む）として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業は「精読」を中心に進めるが，「速読」の意味を込めて毎時 10 分程度の「Reading Test」を実施する。また，「多読」の意味を込めて，適宜興味深い英字新聞の記事を読む。

【その他の重要事項】
辞書を毎回必ず持参すること（電子辞書可／スマホ不可）。遅刻・早退は３回をもって欠席１回とみなす。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

尾関　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルともとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
１英文を正確にとらえる　２情報を整理する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回一章分を精読する。書かれている文章を正確にとらえたうえでエクササイズを実施し各自の読解に間違いがなかったかを確認する。後半ではひとつのテーマでかなり長い英文を使用し読解する。エクサイズ一部を提出していただき、添削、採点の上返却します。返却ののち、各問に対する解説をします。単に答えを知るだけではなく、どのようにその解答にたどり着くのかがわかるようにしたいと思います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「読むこと」について	講義。パラグラフの構成についての基礎的な知識の確認。サマリー作成の考え方。
2	テキストの英文読解 unit 1	The Concept of Beauty を読みます。「美」に対する文化、時代よる違いを確認。普遍的な美について考えます。
3	unit 2	Greek Mythology を読みます。西洋の芸術文化の根底に流れるギリシア神話の成り立ちと現在との接点も探ります。
4	unit 3	The Bible を読みます。キリスト教文化の世界観を知るために必須の知識です。ギリシア神話との接点にも触れます。
5	unit 4	Renaissance を読みます。イタリアで始まったルネサンスの背景にある教会の抑圧と人間性の解放の問題を考えます。
6	unit 5	The Structure of Fictional Literature を読みます。物語とはどのようなものか、その構造に「型」はあるのか、興味あるテーマを追います。
7	unit 6	The Theater and Acting を読みます。世界に存在する「演じる」という行為の歴史とバリエーションを知る。
8	unit 7	The English Language を読みます。英語の歴史を 知り、今日の英語の成立を学びます。
9	テキスト以外の英文読解 （13 回まで, これまでより長いまとまった英文を読む）	英文読解 これまでの内容に比べ現代的な内容をもつ英文を読みます。内容を把握する練習とします。
10	テキスト以外の英文読解	内容を正確に把握する練習となるよう、文法的にもこれまでより複雑なものを読みます。
11	テキスト以外の英文読解	正確に英文をよみために文法、語彙の知識を生かすパーシングという手段を用いて、英文を読みます
12	テキスト以外の英文読解	パーシングの練習となるような英文を読みます。
13	テキスト以外の英文読解	パーシングの練習となるような英文を読みます。
14	これまでのまとめ/試験	英文を正確にとらえる読解が行われていたか、扱った英文内容を既習した情報として身に着けているか確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの読解、問題の予習をします。

【テキスト（教科書）】
TRANSCULTURE—Transcending Time, Region and Ethnicity by Christopher Belton and Koshi Odashima (KINSEIDO 2017 年 ￥1800)

【参考書】
必用に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点３０％、提出物１５％　テスト５５％

【学生の意見等からの気づき】
授業時には和訳も行いますが、それを板書することはありません。口頭で学生の和訳を確認する程度になりますが、なるべくゆっくり皆さんが理解できるスピードで授業をすすめたいと思います。よくわからない場合は遠慮せずに質問してください。

【その他の重要事項】
英文を読むには、基本的な文法の理解と語彙の知識が欠かせません。英語読解力をアップしましょう。時には英文法の確認に時間を多く使うこともあると思いますが、感覚的に文をとらえるのではなく、正確に読む術を身につけていただきたいと思います。

【Outline and objectives】
The purpose of this calss is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

安田　孝子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を養成することを狙いとします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読します。

【到達目標】
様々な分野のエッセイを精読し、さらには音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
＜進め方＞
教科書の Reading Part は、クラス全体で毎時間音読トレーニングを行います。音読を習慣化することで、正しい発音への意識を高め、英文の持つリズムをつかみます。エッセイの内容については、事前に指名した担当者に phrase reading で和訳してもらい、その後は英語/日本語の音読を全員で行い、内容の理解を深めます。また、Reading Part 以外の Exercises は、その場で指名した方に答えてもらいます。
＜方法＞
授業では、「語彙力・読解力」の育成だけでなく、「速読力・表現力」の向上も目指し、「音読・シャドーイング」活動を大いに行います。
また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	クラスオリエンテーション	テキスト紹介、音読活動、シャドーイング、その他について。
	Chapter 1	Chapter 1 Reading Part の音声を視聴 音読活動 訳読
第 2 回	Chapter 1	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 3 回	Chapter 2	1. Chapter 1 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 4 回	Chapter 2	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 5 回	Chapter 3	1. Chapter 2 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 6 回	Chapter 3	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 7 回	Chapter 4	1. Chapter 3 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 8 回	Chapter 4	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 9 回	Chapter 5	1. Chapter 4 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 10 回	Chapter 5	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 11 回	Chapter 6	1. Chapter 5 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 12 回	Chapter 6	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 13 回	Chapter 7	1. Chapter 6 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 14 回	Chapter 7 (Chapter 1 ～ 7)	期末試験 前期学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ￥ 2,000+税

【参考書】
毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
Chapter 終了毎の小テスト (20 点 ×6 回=120) と期末試験 (100 点) で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の 6 割獲得で C-,C,C+、7 割獲得で B-,B,B+、8 割獲得で A-,A,A+、9 割以上獲得で S とする。

【学生の意見等からの気づき】
「音読」トレーニングによる成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、語彙力、読解力および表現力のさらなる発展を目指します。

【その他の重要事項】
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・欠席は 3 回までは認めますが、それ以上の欠席については、必ず申し出ること。
・遅刻は 20 分程度までは入室可ですが、30 分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動
　不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

磯部　芳恵

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。
TOEIC 教材でリスニング力を養いながら、日常生活の中のさまざまな疑問を題材にしたテキストを使って、読解力と語彙力を高める。

【到達目標】
この授業の目的は、リスニング力をつけながら、読解力を向上させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の始めに、TOEIC 教材でリスニングし、その後、メインテキストを使って、文法事項を確認しながら訳します。今年度はスケジュール通りに開講する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。 ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、評価方法について説明。
2	Unit 1 Why is Gold so Valuable?	語彙、訳読。
3	Unit 1 Why is gold so Valuable?	内容理解問題、英作文。
4	Unit 2 Why does Breathing Helium Make Your Voice Sound so High?	語彙、訳読。
5	Unit 2 Why does Breathing Helium Make Your Voice Sound so High?	内容理解問題、英作文。
6	Unit 3 How do People Survive Lightning Strikes?	語彙、訳読。
7	Unit 3 How do People Survive Lightning Strikes?	内容理解問題、英作文。
8	Review 1	Unit 1-3 の復習。
9	Unit 4 Why do Golf Balls Have Dimples?	語彙、訳読。
10	Unit 4 Why do Golf Balls Have Dimples?	内容理解問題、英作文。
11	Unit 5 What Causes Allergies?	語彙、訳読。
12	Unit 5 What Causes Allergies?	内容理解問題、英作文。
13	Unit 6 How does the Dry-Cleaning Process Work?	語彙、訳読。
14	Unit 6 How does the Dry-Cleaning Process Work?	内容理解問題、英作文。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、１時間を標準とする】
各ユニットを予習し要約を提出する。

【テキスト（教科書）】
Science for Inquiring Minds (成美堂）1,900 円
『TOEIC TEST リスニングスピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円

【参考書】
講義中に指示する

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席, 提出物、授業態度等）30 %
テスト 70 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・３０分以内の遅刻、早退は３回で１回とみなします。
・３０分以上の遅刻、早退は欠席１回として扱います。
・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血でき、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

安田　孝子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。
教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を養成することを狙いとします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読します。

【到達目標】
様々な分野のエッセイを精読し、さらには音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
＜進め方＞
教科書の Reading Part は、クラス全体で毎時間音読トレーニングを行います。音読を習慣化することで、正しい発音への意識を高め、英文の持つリズムをつかみます。エッセイの内容については、事前に指名した担当者に phrase reading で和訳してもらい、その後は英語/日本語の音読を全員で行い、内容の理解を深めます。また、Reading Part 以外の Exercises は、その場で指名した方に答えてもらいます。
＜方法＞
授業では、「語彙力・読解力」の育成だけでなく、「速読力・表現力」の向上も目指し、「音読・シャドーイング」活動を大いに行います。
また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	クラスオリエンテーション Chapter 1	テキスト紹介、音読活動、シャドーイング、その他について。 Chapter 1 Reading Part の音声を視聴 音読活動 訳読
第 2 回	Chapter 1	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 3 回	Chapter 2	1. Chapter 1 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 4 回	Chapter 2	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 5 回	Chapter 3	1. Chapter 2 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 6 回	Chapter 3	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 7 回	Chapter 4	1. Chapter 3 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 8 回	Chapter 4	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 9 回	Chapter 5	1. Chapter 4 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 10 回	Chapter 5	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 11 回	Chapter 6	1. Chapter 5 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 12 回	Chapter 6	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 13 回	Chapter 7	1. Chapter 6 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 14 回	Chapter 7 (Chapter 1 ～ 7)	期末試験 前期学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ￥ 2,000+税

【参考書】
毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
Chapter 終了毎の小テスト (20 点 ×6 回=120) と期末試験 (100 点) で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の 6 割獲得で C-,C,C+、7 割獲得で B-,B,B+、8 割獲得で A-,A,A+、9 割以上獲得で S とする。

【学生の意見等からの気づき】
「音読」トレーニングによる成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、語彙力、読解力および表現力のさらなる発展を目指します。

【その他の重要事項】
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・欠席は 3 回までは認めますが、それ以上の欠席については、必ず申し出ること。
・遅刻は 20 分程度までは入室可ですが、30 分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動
　不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

ALAN D MORGAN

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples
2	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The News Media In The Past.
3	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The History of Electronic Media & Expansion Reading
4	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Citizen Journalism
5	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Ethical Journalism
6	THEME II EDUCATION (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Education Around the World
7	THEME II EDUCATION (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Testing In Education
8	THEME II EDUCATION (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 4 - Finding Supporting Details Alternative Education
9	THEME II EDUCATION (part 4)	Skills for the 21st Century
10	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers Supply and Demand in the Global Economy
11	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers The Workforce of the 21st Century
12	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Communication Technology in Business
13	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Business and Sustainability
14	FINAL TEST	FINAL TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
At the end of each two-week period of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

【テキスト（教科書）】
Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ￥3,000 - Jo McEntire & Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-58368-8

【参考書】
English-Japanese dictionaries
Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】
Assignments40%
Mini-tests 20%
Final Test 20%
Participation 20%
No credits will be given if the student is absent four times.
Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.
Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence
Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【学生の意見等からの気づき】
No previous comments for this class

【学生が準備すべき機器他】
The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

久慈　美貴

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術的な文章を読む際の基本的な語彙力・文法力・構文解析力を養成し、リーディング力の向上をはかる。文脈や分構造を考慮して意味をとらえることができるようにする。
パラグラフごとの要点を抽出し、英文の論理構成や論理展開を理解することを目標に、平易な文をできるだけ多く読み、語彙力と読解速度の向上をはかる。

【到達目標】
基本的な語彙と文法をもとに、まとまった文章を読み、要点を把握して、簡潔に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストの英文をもとに、キーセンテンス抜き出し、パラグラフのまとめ、全体の要約など練習する。　科学関連の記事を集めたテキストを使用して、情報のピックアップ、内容の流れをつかむ練習をする。テキストに使用されている記事はさほど長くないが、読み取り練習を重ねることで、雑誌や新聞の比較的長い文を読み込める土台を作っていきたい。毎回ボキャブラリークイズまたは文法事項のミニテストを提出してもらう。授業のはじめに前回の提出課題からいくつかを紹介し、全体に対してフィードバックを行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction (What's the Problem?) プリント配布	まとめの作り方（topic + support)
2	U.1 Impact Craters	パラグラフごとのまとめを作成し、内容をチェック
3	U. 2 Tides	要点の抜き出し
4	U. 3 The Great Pacific Garbage Patch	パラグラフの流れを追い、内容をチェックする
5	U. 4 Colors in the Sky	パラグラフの役割 (全体の構成）を検討する。
6	U.5 Climate Modeling	パラグラフごとのまとめ (各パラグラフに見出しをつけてみる）
7	U. 6 Dark Matter and Dark Energy	要点抜き出しと文法確認 (強調構文に注意する）
8	U. 7 Natural Selection	パラグラフのまとめと文法確認 (助動詞の時制と意味の変化に注意する）
9	U. 8 Rockets	必要な Background information を検索して内容の理解を深める。不定詞の使い方に注意して読む。
10	U. 9 The Hazards of Space Travel	パラグラフのまとめ (提示されている問題点を抽出してみる）と文法確認 (副詞の意味と使い方に注意する）
11	U. 10 The Cassini-Huygens Mission	図を参照しながら本文の理解を深める。文法確認 (後置修飾の形容詞句に注意する）
12	U.11 Space Junk	パラグラフのまとめを作成する。分詞の形容詞用法に注意して読む。
13	Review 1	科学関連のプリントを配布して、要点抜き出しの練習をする
14	学期のまとめ	Review for U.1-11.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本受業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎回ボキャブラリークイズをウォームアップとして提出してもらうので、あらかじめテキストのボキャブラリーと文法項目をチェックしておいてください。
テキスト本文を通読して、ポイントをピックアップするのが授業内のおもな作業になりますので、不明な語彙・言い回しがないかチェックしてください。授業後は文法事項や重要フレーズを再確認してください。

【テキスト（教科書）】
Our Place in the Universe 地球人類の進化と科学 (成美堂）1900 円

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%、授業時の提出物および発表 70%として、総合評価する。4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。3 回程度の欠席でも平常点が大きく原点となる場合がありますので、気を付けてください。（遅刻も回数に応じて減点となるので注意が必要。）ボキャブラリークイズは宿題として、毎回授業のはじめに提出していただきますので、用意しておいてください。提出が遅れた場合、平常点がおおきく減点となる可能性があります。注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
要点の抜出に関しては問題がないのに、自分の言葉でまとめをつくろうとすると、文の構造や構成がおかしくなってしまう、ということがよく起こります。基本文型をしっかり押さえておきましょう。
ボキャブラリークイズは、語彙を広げるため、派生語をチェックする問題が出ています。基本語形を踏まえたうえで、文脈に沿って語形変化を考えていただければと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない

【その他の重要事項】
授業時は必ず辞書を携行してください。
ただ単語を調べるだけでなく、ひとつの単語からいろいろな熟語・成句を調べて展開できるよう、辞書を使いこなせるようになりましょう。予習の際、例文までチェックして語の使い方を確認することをお勧めします。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. You have to try to understand what the writer means, considering the context and structure of the article. Let's try to pick out the topic and get hold of the essence of the article. I'd like you to get accustomed to the logical development of an argument, so please try to read various articles in addition to those in the textbook.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

花﨑　一夫

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術的な文章を読むために必要となる基本的な語彙力・文法力・構文解析力を養成することによって、英語の読解力の向上を図る。語彙のついては理工系の語彙を幅広く学習する。文法と構文解析については、既習知識を活用して学術的な英文を読む力を養う。また、英語の文章を迅速かつ正確に読み進めることができる力を養成することを目指す。

【到達目標】
①アカデミックな内容の英文を正確に理解できる。
②アカデミックな内容の文章でよく使われる単語や表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストは、AI までの道のりをわかりやすく記述した英語のエッセイです。１回の授業で１ユニットを読む予定です。初回の授業時に各ユニットの担当者を決め、各学期に１回は授業内で発表してもらいます。また、毎時間、各ユニットの英文の内容に関連する課題を各自やってもらいます。それに対するフィードバックは次の時間に行います。具体的には、皆さんが提出してくれた答案の中から良いものを取り上げて共有したり、理解が不十分な場合にはどこを修正すべきなのかについてコメントします。そうすることで英文の内容に関する理解を深めます。そのほかの細かい授業内容については初回の授業時にお話しする予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス	授業の内容と進め方の説明。
第 2 回	Unit1 How Far Can Tech Take Us?	テクノロジーの発達によって我々がどこまで到達できるかについて考察する。
第 3 回	Unit2 Extending Both Muscle and Brainpower	筋力とともに考える力を人間がどのように発達させたかを考察する。
第 4 回	Unit3 Agriculture: A Mistake?	農業の発達は過ちだったのか否かを考える。
第 5 回	Unit4 Architecture: Building Upward	建築の発達について考察する。
第 6 回	Unit5 Building Better Brains: Technology and Thinking	人間がどのように考える力を身に着けたかについて考察する。
第 7 回	Unit6 A Time of Technological "Miracles" and Geniuses	科学技術上の奇跡と天才たちについて考察する。
第 8 回	Unit7 Gutenberg's Printing Press: The First Information Age	グーテンベルクの印刷機の持つ意味について考察する。
第 9 回	Unit8 "The Turk": An Ingenious Trick	「トルコ人」という発明品について考察する。
第 10 回	Unit9 The "Luddites": What Were They Fighting Against?	ラッダイト運動の意味について考察する。
第 11 回	Unit10 Energy: Why the 20th Century Stands Out	エネルギーの歴史について考察する。
第 12 回	Unit11 The Automobile: Bridging Two Ages	自動車が発明された意義について考察する。
第 13 回	Unit12 How Mass Media Shaped Our Ideas About AI	マスメディアがどのようにして AI についての考えを形成したのかについて考察する。
第 14 回	まとめ	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
１．テキストの指定箇所を毎授業前に必ず予習する。
特に発表を担当する人は、テキストの内容を簡潔にまとめるだけでなく、英語の語法などで問題になりそうなところを指摘できるようにする。発表をもとに、皆で議論をできるようにする。
２．授業後は、授業内容を復習して理解を深める。

【テキスト（教科書）】
The Road to AI Mankind's Technological Journey 金星堂

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
小テスト・課題　５０％
定期試験　５０％

【学生の意見等からの気づき】
この授業は初めて担当するので特にありません。

【Outline and objectives】
This class aims at improving students' academic reading ability through the acquirement and development of extensive vocabulary, accurate grammatical knowledge and sentence structure analysis skills. As for vocabulary development, this class focuses on comprehending and mastering a wide variety of vocabulary and useful expressions in the science and engineering fields. As for the instruction of grammar and sentence structure, it emphasizes the application of previous knowledge to read actual academic English materials rapidly and concisely.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

村上　弥生

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
グローバルな教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身に着ける。異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、国際人としての視野を広げる。
またリスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く設けることによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。
高度な英文の読み物については、精読、正確な和訳の作業を通して、文構造や表現、単語の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1. 読み物については、
現代の社会、また世界において重要なテーマを 1〜2 選び、関連する資料を学生さんの予習を前提として、丁寧に読む。また、読み物のテーマについての説明も、学生さんに英語で行ってもらったり、また教師からも随時行う。
2. テーマに関連する視聴覚材料をネットでのを聞き、内容確認等を行う
3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テスト、ないし訳の修正や意見文の作成を行ってもらう。
4. 4. 1〜3 の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時 Hoppi に提出されたものを評価して返却、ないし授業時に総評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など
第 2 回	トピック 1 ：（社会や時代の変化に添って新たに選びなおすが、以下は昨年度の例である）Tesla Speeds Past Toyota to Become World's Top Automaker by Value ：電気自動車への高まる期待と恣意的な株式市場 − 1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 3 回	トピック 1 ： Tesla Speeds Past Toyota to Become World's Top Automaker by Value − 2 関連するリスニング教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 4 回	トピック 2 ： Why We Are Heading for a Climate Catastrophe:気候変動と脱炭素化-1 関連する視聴覚教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 5 回	トピック 2:Why We Are Heading for a Climate Catastrophe:気候変動と脱炭素化-2	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 6 回	トピック 3:The Law that could Make climate Change Illegal:気候変動に拘束力を持って挑むデンマークの新法 - 1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 7 回	トピック 3:The Law that could Make climate Change Illegal − 2	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 8 回	トピック 1〜3 の復習	質問と説明
第 9 回	トピック 3 ： Reversible Batteries of Electric Cars:自動車を送電網に組み込むポルトガルの地方自治体の挑戦 関連する視聴覚教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 10 回	トピック 5:At Airbus a Hydrogen-powered Aircraft takes shape:航空業界の脱炭素化の挑戦 — 1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 11 回	トピック 5:At Airbus a Hydrogen-powered Aircraft takes shape − 2 関連する視聴覚教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 12 回	トピック 6:Hydrogen Hype? Aviation's False Promise?-1:水素燃料への移行を阻む重い現実 − 1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認。
第 13 回	トピック 6:Hydrogen Hype? Aviation's False Promise? − 2	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 14 回	トピック 4〜6 の復習	質問と説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
1. 読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。
2．読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
3．各トピックごとに復習テスト、もしくは訳の修正を行うように準備をする。
4. 全体的なテーマに関連した短い意見文を作成してもらう。

【テキスト（教科書）】
初回に指示する。また随時教師が提供する。

【参考書】
参考書はとくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】
予習としての和訳、リサーチ 50 %、授業での作文などへの積極的取組 20 %、復習テストもしくは和訳の修正 30 %。

【学生の意見等からの気づき】
現代の世界の様々な側面を広く知ることに意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう努力したい。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

藤野　輝雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
動物・冒険など興味あるテーマを読み、聴き、話すことにより英語の読解力、リスニング力、スピーキング力、語彙力等を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週興味あるテーマを英文で読み，語彙を確認し，ビデオを試聴し，テーマの内容を英語で説明することにより英語を理解し，英語によるコミュニケーション能力を養う。そのために，授業内容に関連したクイズや演習，シャドーイングを行うと同時に，ペアやグループで活動を行う。また，課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course
2	Reading Explorer 1 Unit seven A: Reading and listening	When Dinosaurs Ruled: The Truth about Dinosaurs
3	Reading Explorer 1 Unit seven B: Reading and listening	When Dinosaurs Ruled: Mystery of the Terrible Hand
4	Reading Explorer 1 Unit eight A: Reading and listening	Stories and Storytellers: The Brothers Grimm
5	Reading Explorer 1 Unit eight B: Reading and listening	Stories and Storytellers: The Tale of the Seven Ravens
6	Reading Explorer 1 Unit nine A: Reading and listening	Unusual Jobs: Meet the Meteorite Hunter
7	Reading Explorer 1 Unit nine B: Reading and listening	Unusual Jobs: Smokejumpers
8	Reading Explorer 1 Unit ten A: Reading and listening	Uncovering the Past: The Army's True Colors
9	Reading Explorer 1 Unit ten B: Reading and listening	Uncovering the Past: Wonders of Egypt
10	Reading Explorer 1 Unit elven A: Reading and listening	Legends of the Sea: Pirates: Romance and Reality
11	Reading Explorer 1 Unit eleven B: Reading and listening	Legends of the Sea: Women of the Waves
12	Reading Explorer 1 Unit twelve A: Reading and listening	Vanished!:Mystery on Everest
13	Reading Explorer 1 Unit twelve B: Reading and listening	Vanished!:The Missing Pilot
14	Exam, summary, and explanation	Contents of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・次回の授業の予習を行うこと
・小テストのための復習をすること
・与えられた宿題を決められた日時に提出すること
なお，本授業の予習・復習・宿題時間は、各々 1，2，1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Nancy Douglas, Reading Explorer 1, HEINLE CENGAGE Learning, ISBN 978-1-285-84685-9

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
・試験（30%），小テスト・演習（25%），宿題（30%），平常点 (15%）
・「平常点」では、先生の言うことをしっかり聴き，質問に自発的に大きな声で答え，与えられた課題に真面目に取り組み，授業に関係ない話をせず，他の学生の邪魔をしないかどうか等を評価する。
・教員間の評価の不公平を解消するために成績を調整する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
シャドーイングすることで少しだけ聞き取れるようになったとのことなのでシャドーイングを続けたいと思います。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

吉川　直澄

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。DVD を使用するリスニングとリーディングの訓練も継続させる。

【到達目標】
一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用される語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前学期に準ずる講義と演習に加えて、TOEIC 形式の問題演習（プリント）を随時行い、スキルの仕上げをめざす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	試験の返却とガイダンス	前学期試験答案を返却し、本学期のガイダンスを行う。
②	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 精読	テキストの 31 ページと 32 ページの精読　アインシュタインの一般相対性理論について
③	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 文法	テキストの 33 ページと 34 ページの練習問題　運動を表す動詞　「原因・理由」を表す副詞節
④	Unit 8 The Strange World of Atoms 精読	テキストの 35 ページと 36 ページの精読　原子の世界について
⑤	Unit 8 The Strange World of Atoms 文法	テキストの 37 ページと 38 ページの練習問題　運動の方向を表す表現「結果・程度」を表す副詞節
⑥	Unit 9 Interstellar Travel 精読	テキストの 39 ページと 40 ページの精読　星間旅行について
⑦	Unit 9 Interstellar Travel 文法	テキストの 41 ページと 42 ページの練習問題　測定・計量を表す動詞「譲歩」を表す副詞節
⑧	Unit 10 Limitless Energy 精読	テキストの 43 ページと 44 ページの精読　核融合について
⑨	Unit 10 Limitless Energy 文法	テキストの 45 ページと 46 ページの練習問題　グラフ・図表の英語表現　比較の表し方
⑩	Unit 11 The Surprising Uses of Nanotechnology 要約　基礎	テキストの 47 ページから 50 ページの内容の要約　ナノテクノロジーについて　主語・目的語の名詞表現を判別し、文の「主題」をつかむ。
⑪	Unit 12 Creating the Perfect Human 要約　基礎	テキストの 51 ページから 54 ページの内容の要約　ヒトの遺伝子編集について　「主題」のパラフレーズとディスコースマーカーの働き
⑫	Unit 13 The New Age of Computing 要約　応用	テキストの 55 ページから 58 ページの内容の要約　量子コンピューターについて　全体の主旨を理解する論理的思考力と無意識に活用できる文法力
⑬	Unit 14 The Coming of the Machines 要約　応用	テキストの 59 ページから 62 ページの内容の要約　ヒトと AI の共存について　背景知識の活用
⑭	試験・まとめと解説	学期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習と復習をきちんとすること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し何度も反復練習すること。

【テキスト（教科書）】
前期のテキストを引き続き使用し、プリントを随時配布する。秋学期からの履修者のため、タイトルを提示しておく。
Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, 南雲堂, 2019, ISBN 978-4-523-17899-6.

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション・授業内提出物・平常点等（50 %）、期末試験のスコア（50 %）を総合的に検討して評価する。全体の 60 %以上の得点をもって可とする。欠席が 4 回以上になった者は原則として、単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようにお手伝いします。前期同様に質問があれば、気軽にしてください。

【学生が準備すべき機器他】
DVD,CD, ブルーレイ等の再生機（自宅学習用）があれば望ましい。

【その他の重要事項】
学生の皆さんのレベルに応じて、予定を変更する場合もありうる。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

ALAN D MORGAN

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples
2	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 7 – Collocations Population Trends
3	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 7 – Collocations Global Migration & Expansion Reading
4	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information The Growth of Cities
5	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information Challenges Facing the World's Cities
6	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study The Design of Everyday Objects
7	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study Ergonomics
8	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading The design of Living Spaces
9	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading Fashion
10	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) Brain Development and Function
11	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) The Teenage Brain
12	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test The Male and Female Brain
13	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test Addiction and The Brain
14	FINAL TEST	FINAL TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
At the end of each two-week period of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

【テキスト（教科書）】
Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ￥3,000 - Jo McEntire & Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-58368-8

【参考書】
English-Japanese dictionaries
Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】
Assignments40%
Mini-tests 20%
Final Test 20%
Participation 20%
No credits will be given if the student is absent four times.
Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.
Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence
Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【学生の意見等からの気づき】
No previous comments for this class

【学生が準備すべき機器他】
The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

中野　里美

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
This course also seeks to promote reading skills and promote critical thinking skills to read these global issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
To begin with, students will be given TOEIC reading as warm-up handouts, then read the textbook, and finally be given some comments. Feedback about the classes will be carried out on the last week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Reading global issues	You don't have to be Asian to wear a face mask in an epidemic
第 2 回	Reading global issues	You don't have to be Asian to wear a face mask in an epidemic
第 3 回	Reading global issues	Why are some people so much more infectious than others?
第 4 回	Reading global issues	Why are some people so much more infectious than others?
第 5 回	Reading global issues	In France, pastry and wine
第 6 回	Reading global issues	They laid foundation for a wireless society
第 7 回	Reading global issues	Finland retains crown as world's happiest country
第 8 回	Reading global issues	Finland retains crown as world's happiest country
第 9 回	Reading global issues	Saudi society is changing
第 10 回	Reading global issues	Saudi society is changing
第 11 回	Reading global issues	An immigrant influx that a wall won't deter
第 12 回	Reading global issues	An immigrant influx that a wall won't deter
第 13 回	Reading global issues	Inside Greece's secret site for migrants
第 14 回	Review	term-end exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Students will need to be prepare for the textbook.

【テキスト（教科書）】
English through the news media: 2021 Edition by Masami Takahashi
Asahi Press
￥1700

【参考書】
Participants will be given information of references in the class.

【成績評価の方法と基準】
半期の欠席４回以上（４回含む）で、授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書や日付とフルネーム入りの領収書を持参すること）は考慮します。遅刻は授業開始２０分以降の入室から。３回目の遅刻で１回欠席に換算します。遅延証明書は当日の授業内持参のみ考慮します。授業内課題テスト (50%) と期末テスト (50%の 50 点満点) を合計して１００％とし評価します。

【学生の意見等からの気づき】
There is no particular pointing out to be improved, so I would like to do the best as much as I can. If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

荒木　友嗣

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

Smithsonian Magazine のウェブサイト *Smart News* から、認知工学、統計学、遺伝子工学、ロボット工学など、私たちの日常に密接な関わりのある興味深いニュースを読む。情報を正確に、明瞭に、簡潔に伝える最先端の科学ニュースを読むことによって、より正確な語法・文法の理解をともなう広く柔軟な英語読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は使用テキスト（以下参照）の Unit5 から、Unit 構成（Before You Read～ Reading～Comprehension Questions～ Read Better, Understand More[文法や表現法解説]～After You Read）に沿って進められる。（ただし【その他の重要事項】も参照）。受講者の挙手による積極的な応答（応答のない場合は名簿からの指名）によって進められる。座席は固定となる。また一つの unit につき一回、テキストから課題が出される。

課題については、提出後おそからず、全体に対してフィードバック（解答例の提示や記述の確認）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	秋学期開始にあたって	春学期の授業を振り返る 秋学期の授業ガイダンス 第 2 回授業の導入
2	Unit 5 ①	Chinese City Wants to Launch Fake Moon to Illuminate Its Streets（Before You Read～ Reading）
3	Unit 5 ②	Chinese City Wants to Launch Fake Moon to Illuminate Its Streets（Reading～ Reading Comprehensions）
4	Unit 5 ③	Chinese City Wants to Launch Fake Moon to Illuminate Its Streets（Read Better, Understand More～After You Read）
5	Unit 6 ①	Doctors“Grow”Ear for Transplant in Patient’s Forearm（Before You Read～ Reading）
6	Unit 6 ②	Doctors“Grow”Ear for Transplant in Patient’s Forearm（Reading～ Reading Comprehensions）
7	Unit 6 ③	Doctors“Grow”Ear for Transplant in Patient’s Forearm（Read Better, Understand More～After You Read）
8	Unit 7 ①	A German Grocery Chain Is Selling First-Of-Its Kind“No-Kill”Eggs（Before You Read～Reading）
9	Unit 7 ②	A German Grocery Chain Is Selling First-Of-Its Kind“No-Kill”Eggs（Reading～ Reading Comprehensions）
10	Unit 7 ③	A German Grocery Chain Is Selling First-Of-Its Kind“No-Kill”Eggs（Read Better, Understand More～ After You Read）
11	Unit 8 ①	Why Scientists Want to Engineer Spicy Tomatoes（Before You Read～Reading）
12	Unit 8 ②	Why Scientists Want to Engineer Spicy Tomatoes（Reading～ Reading Comprehensions）
13	Unit 8 ③	Why Scientists Want to Engineer Spicy Tomatoes（Read Better, Understand More～After You Read）
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

毎回進んだ箇所まで学習状況を点検し、次の回の学習箇所を予習しておくこと。なかでも特に重要なことは、Reading をあらかじめ出来るだけ多く辞書を引きながら読んで、内容の把握に努めること。常に英語辞書の活用を心掛けること。

【テキスト（教科書）】

Keiko Miyamoto 著，*Science at Hand: Articles from Smithsonian Magazine’s Smart News*〈スミソニアンで読む日常の世界〉金星堂、2020 年、2100 円（税別）

【参考書】

一年時に使用した英語辞書（電子辞書可）を持参すること。以下は一般に定評のある英語学習辞書：

『ジーニアス英和辞典』第 5 版（大修館）※電子版では同『和英辞典』（第 3 版）

他には必要に応じて適宜文献を紹介、あるいは資料を配付する。新聞、雑誌（ネットを含む）の科学記事に目を通す習慣を付けるとよい。

【成績評価の方法と基準】

授業平常点 50 %（挙手応答 20 %、課題実施・提出状況 30 %）、学期末試験 50 %として、全体の 60 %以上の取得者に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

全体として一定の持続的学習意欲が見られた。授業がマンネリに陥らないよう常に心掛ける。

【その他の重要事項】

上記【授業計画】5,6,7 回目以降の Unit6,7,8 をそれぞれ選択的に Unit9,10,11 に変更する可能性もある。その場合は直前の Unit の学習中に予告する。

【Outline and objectives】

Attendants of this class will be reading a variety of popular, scientific topics on a textbook that compiles 15 articles of *Smart News* from *Smithsonian's Magazine*. Hopefully, the students would deepen their verbal, grammatical, and contextual understandings and improve their ability in adaptable readings of a wider range of scientific topics.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

長谷川　秀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
この授業では、社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済に関する専門的で学術的な文章を読む時の基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養い、文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したりすることができる読解力の養成を目指していく。現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などの状況と問題に関して英語を読みながら読解力を高め、考える力を伸ばしていく。グローバル社会において世の中の情勢を理解し、それに関して各自の意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、授業内で確認していく。
このクラスの教科書は Introduction, Words in context, Reading, Comprehension 1&2,Vocabulary, Listening 1&2, Your opinion とあり予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけではなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。
COVID－１９による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Plan for this term
第 2 回	Unit 11	Mini Presentation The Importance of Biodiversity
第 3 回	Unit 12	A Home for Endangered Storks
第 4 回	Unit 13	Mini Presentation Japan's Future Energy Supply
第 5 回	Unit 14	Green Transportation
第 6 回	Unit 15	Mini Presentation How Much Is Nature Worth?
第 7 回	Unit 16	Business Can Be Green
第 8 回	Unit 17	Mini presentation Storing Energy
第 9 回	Unit 18	A Dollar a Day
第 10 回	Unit 19	Mini presentation Beyond Fair Trade
第 11 回	Unit 20	Shrink the Economy, Not the Earth
第 12 回	Review (1) Newspaper Article	Mini Presentation Current Issue
第 13 回	Review (2) Newspaper Article	Current Issue
第 14 回	Term Exam	Unit 11-20

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】
未来へ続く道
What's Going On in the World?　David Peaty, Kahori Kobayashi（2017）SEIBIDO 1900 円（税別）　ISBN978-4-7919-6027-9

【参考書】
授業にて紹介予定。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】ミニプレゼンテーション、小テスト、要約課題　50%
期末試験　50%
【評価基準】全体の 60 %の得点をもって可とする。
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席する（した）場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく 5 回以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
トピックを理解するための情報はクラスの中で話したり、プリントを配布することがある。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。
教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

余田　亜希

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、イギリスについて書かれた文章を集めたテキストを使用して、読解力と語彙力を強化する。イギリスの社会や文化に関する知識を身につける。

【到達目標】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
2 回の授業で教科書の 1 章分を学習する。まず教科書本文のパラグラフ構成を確認したあと、練習問題の答え合わせをする。次に学生を指名して 1 段落ずつ音読と日本語訳を確認する。授業後半では、こちらで用意した時事問題に関するリスニングなどを行ってテーマを多角的に理解するよう努める。なお提出された課題のフィードバックは原則として授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明
2	Chapter 7 Music & Fashion 前半	Reading 1: Liverpool, the Beatles and more 演習問題
3	Chapter 7 Music & Fashion 後半	Reading 2: Fashion in the UK 演習問題
4	Chapter 8 Tourism 前半	Reading 1: Outbound Tourism-Expectations & Disappointments 演習問題
5	Chapter 8 Tourism 後半	Reading 2: Inbound Tourism-Places to go in the UK 演習問題
6	Chapter 9 Post Brexit Britain 前半	Reading 1: Is the Future of the UK in Europe? 演習問題
7	Chapter 9 Post Brexit Britain 後半	Reading 2: Uncertainty for Pensioners Living Abroad 演習問題
8	Chapter 10 Leisure & Sport in the UK 前半	Reading 1: Leisure Queens 演習問題
9	Chapter 10 Leisure & Sport in the UK 後半	Reading 2: Football in Britain 演習問題
10	Chapter 11 The British Empire 前半	Reading 1: British Empire Survey 演習問題
11	Chapter 11 The British Empire 後半	Reading 2: Nostalgia for the British Empire in Hong Kong 演習問題
12	Chapter 12 Made in the UK 前半	Reading 1: Social Networking-Positives and Negatives 演習問題
13	Chapter 12 Made in the UK 後半	Reading 2: The BBC's Reporting- is it Impartial? 演習問題
14	期末試験	授業で扱った内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

【テキスト（教科書）】
『Modern Britain: Culture, Society and History 現代英国の文化・社会・歴史』松柏社　2,000 円（税別）

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業に対する積極的な取り組み　20 %
授業内で課される課題や小テスト　20 %
期末試験　60 %
欠席回数が 5 回となった時点で単位取得の資格を失う。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。
30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。
予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】
教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていきたい。

【その他の重要事項】
教室での対面授業ではスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

【Outline and objectives】
This course will focus on reading articles and essays on Britain to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of Britain.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

川口　悠子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
・十分な語彙力、文法力を身につける。
・パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、英文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
予習して分からなかったところなどを確認しながら、テキストの内容を確認します。リスニングや音読、作文、文法事項の確認なども交えます。また、語学は反復が重要ですので、随時小テストを行い、前回の授業で学んだことの定着を図ります。
小テストで誤りが多かった問題は翌週の授業で解説します。そのほか授業中に出た質問もできるかぎり解答し、フィードバックを図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方について説明する
2	Unit 7 (1)	Mitsubishi Regional Jet
3	Unit 7 (2)	Mitsubishi Regional Jet
4	Unit 8 (1)	Johannis de Rijke
5	Unit 8 (2)	Johannis de Rijke
6	Unit 9 (1)	Child Proof Technology: A Disaster Waiting to Happen
7	Unit 9 (2)	Child Proof Technology: A Disaster Waiting to Happen
8	Unit 12 (1)	Living Fossils
9	Unit 12 (2)	Living Fossils
10	Additional Reading (1)	No water? Technology to the Rescue!
11	Additional Reading (2)	No water? Technology to the Rescue!
12	Additional Reading (3)	The Dedication of an Oyster Fisherman Saves a Forest
13	Additional Reading (4)	The Dedication of an Oyster Fisherman Saves a Forest
14	まとめ・期末試験	授業内容を振り返り、期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・語学では予習が決定的に重要です。辞書を引きながら丁寧に読み、設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。
・各ユニットの復習を目的として小テストをおこないますので、準備をして臨んでください。
・授業中に暗唱をしますので、授業外でも練習をしてください（練習方法は指示します）

【テキスト（教科書）】
松尾秀樹ほか『リーディング・レイディアス：科学技術の多様な側面を考える』（三修社）
その他、プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小テスト　20%
期末試験　70%
授業参加　10%
＊交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮します。ただし一学期につき 3 回を上限とします。
＊正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
＊予習が不充分な場合、または授業に参加する意欲が見られない場合、出席とみなさないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】
私語をする受講生を注意してほしいとの意見がありましたので、静かな教室環境の維持に努めます。

【その他の重要事項】
授業にはかならずきちんとした辞書を持参してください。
なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望を踏まえて、シラバスの内容を修正することがあります。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

吉川　直澄

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。DVD を使用するリスニングとリーディングの訓練も継続させる。

【到達目標】
一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用される語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前学期に準ずる講義と演習に加えて、TOEIC 形式の問題演習（プリント）を随時行い、スキルの仕上げをめざす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	試験の返却とガイダンス	前学期試験答案を返却し、本学期のガイダンスを行う。
②	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 精読	テキストの 31 ページと 32 ページの精読　アインシュタインの一般相対性理論について
③	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 文法	テキストの 33 ページと 34 ページの練習問題　運動を表す動詞　「原因・理由」を表す副詞節
④	Unit 8 The Strange World of Atoms 精読	テキストの 35 ページと 36 ページの精読　原子の世界について
⑤	Unit 8 The Strange World of Atoms 文法	テキストの 37 ページと 38 ページの練習問題　運動の方向を表す表現「結果・程度」を表す副詞節
⑥	Unit 9 Interstellar Travel 精読	テキストの 39 ページと 40 ページの精読　星間旅行について
⑦	Unit 9 Interstellar Travel 文法	テキストの 41 ページと 42 ページの練習問題　測定・計量を表す動詞「譲歩」を表す副詞節
⑧	Unit 10 Limitless Energy 精読	テキストの 43 ページと 44 ページの精読　核融合について
⑨	Unit 10 Limitless Energy 文法	テキストの 45 ページと 46 ページの練習問題　グラフ・図表の英語表現　比較の表し方
⑩	Unit 11 The Surprising Uses of Nanotechnology 要約　基礎	テキストの 47 ページから 50 ページの内容の要約　ナノテクノロジーについて　主語・目的語の名詞表現を判別し、文の「主題」をつかむ。
⑪	Unit 12 Creating the Perfect Human 要約　基礎	テキストの 51 ページから 54 ページの内容の要約　ヒトの遺伝子編集について　「主題」のパラフレーズとディスコースマーカーの働き
⑫	Unit 13 The New Age of Computing 要約　応用	テキストの 55 ページから 58 ページの内容の要約　量子コンピューターについて　全体の主旨を理解する論理的思考力と無意識に活用できる文法力
⑬	Unit 14 The Coming of the Machines 要約　応用	テキストの 59 ページから 62 ページの内容の要約　ヒトと AI の共存について　背景知識の活用
⑭	試験・まとめと解説	学期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習と復習をきちんとすること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し何度も反復練習すること。

【テキスト（教科書）】
前期のテキストを引き続き使用し、プリントを随時配布する。秋学期からの履修者のため、タイトルを提示しておく。
Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, 南雲堂, 2019, ISBN 978-4-523-17899-6.

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション・授業内提出物・平常点等（50 %）、期末試験のスコア（50 %）を総合的に検討して評価する。全体の 60 %以上の得点をもって可とする。欠席が 4 回以上になった者は原則として、単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようにお手伝いします。前期同様に質問があれば、気軽にしてください。

【学生が準備すべき機器他】
DVD,CD, ブルーレイ等の再生機（自宅学習用）があれば望ましい。

【その他の重要事項】
学生の皆さんのレベルに応じて、予定を変更する場合もありうる。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

梨本　邦直

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
この授業では、以下の 5 つを主な目標とします。
1) 個々の文を正確に理解する。
2) パラグラフの構成を理解する。
3) パラグラフ間のつながりを理解する。
4) 文章の大意を理解する。
5) 1〜4 を発展させ、批判的思考力・分析力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　社会情勢の変化に伴い、授業計画の変更がありうる。変更については本授業の開始日以降に学習支援システムでその都度提示する。
・この授業は、学生が予習済みであることを前提に進む。
・予習課題でわからなかった箇所を確認し、授業中にフィードバックをする。
・リーディングを中心としつつ、適宜リスニング (動画視聴)、ライティングなども含め英語運用能力を総合的に高めるアクティビティを行う。
・各ユニットで扱った内容の復習を目的として小テストを行い、翌週、結果をフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Reading Explorer 1, Unit 7A	When Dinosaurs Ruled: The Truth about Dinosaurs
2	Reading Explorer 1, Unit 7B	When Dinosaurs Ruled: Mystery of the Terrible Hand
3	Reading Explorer 1, Unit 8A	Stories and Storytellers: The Brothers Grimm
4	Reading Explorer 1, Unit 8B	Stories and Storytellers: The Tale of the Seven Ravens
5	Reading Explorer 1, Unit 9A	Unusual Jobs: Meet the Meteorite Hunter
6	Reading Explorer 1, Unit 9B	Unusual Jobs: Smokejumpers
7	Mid-semester Exam	Review of Units 7-9
8	Reading Explorer 1, Unit 10A	Uncovering the Past: The Army's True Colors
9	Reading Explorer 1, Unit 10B	Uncovering the Past: Wonders of Egypt
10	Reading Explorer 1, Unit 11A	Plastic Planet: The problem with Plastic
11	Reading Explorer 1, Unit 11B	Plastic Planet: Five Tips for Using Less Plastic
12	Reading Explorer 1, Unit 12A	Vanished!: Mystery on the Mountain
13	Reading Explorer 1, Unit 12B	Vanished!: The Missing Pilot
14	Final Exam	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・指定された予習を必ずやっておくこと。
・予習の段階でわからない箇所を明確にしておくこと。
・多様な媒体 (本・雑誌・ソーシャルメディア等) で、自分の興味のあるトピックの英語のインプットを増やすこと。

【テキスト（教科書）】
Nancy Douglas and David Bohlke, Reading Explorer 1, 3rd Edition (Cengage Learning)

【参考書】
必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
社会情勢の変化に伴って以下の成績評価の方法と基準を変更する場合、授業開始日以降に学習支援システムで提示する。
1. 小テスト (20%)
2. 中間テスト (40%)
3. 授業内に行う学期末試験 (40%)
中間テストは Units 7-9, 期末試験は Units 10-12 を復習範囲とする。
なお、5 回以上、正当な理由なく欠席した場合は不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
必ずテキストと辞書を持参する。(電子辞書・紙媒体の辞書のどちらも歓迎)

【その他の重要事項】
・クラスの進行具合に合わせて授業スケジュールを調整することがある。
・この授業では、積極的な授業参加を重視する。
・初回の授業で予習の仕方を説明するので、それまでにテキストを入手しておく。
・質問がある場合は、授業後に受け付ける。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

大石　文雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。アカデミック・リーディングⅡでは，アカデミック・リーディングⅠで学んだスキルをもとに、基本的な読解力と共にパラグラフの構造の理解の養成を目指す。

【到達目標】
春学期の到達目標に加え，パラグラフの論理構造について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期に引き続いて，英文を「単語レベル」ではなく「句」や「節」で理解でき，「文構造」を理解した上で英文読解ができるようになることを中心に授業を進めるが，それに加えて科学論文のパラグラフの構成の基本についても考えていく。
春学期同様，毎回の授業では，最初に「Reading Test」を行い，速読力の向上を図る。次にテキスト『Science Fair ： 『Science』で読む科学の世界』を使い英文の「読み方」を教えていく。また、適宜英字新聞記事を授業内で活用していく。
予習を行った上で授業に参加すること。予習の際には，各 Unit の「In Advance」をやり，テキスト本文についてはきちんと和訳をしておくこと。また「Exercises」については授業で答え合わせを行い，テキストの内容理解を深める。なお「In Advance」「Exercises」については順番に指名し【成績】に加味する。
最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけではなく，授業内で毎回実施した小テストに対する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	答案返却及びガイダンス	①春学期試験答案返却 ②秋学期授業内容説明
第 2 回	Unit 6 ： Folklore Confirmed: The Moon's Phase Affects Rainfall	① Reading Test（第 1 回） ②英文読解演習： In Advance ／ Part 1
第 3 回	Unit 6 ： Folklore Confirmed: The Moon's Phase Affects Rainfall	① Reading Test（第 2 回） ②英文読解演習： Part 2
第 4 回	Unit 6 ： Folklore Confirmed: The Moon's Phase Affects Rainfall	① Reading Test（第 3 回） ②英文読解演習： Part 3　問題演習 ： Exercises
第 5 回	Unit 9 ： Alien Gases in Our Atmosphere	① Reading Test（第 4 回） ②英文読解演習： In Advance ／ Part 1
第 6 回	Unit 9 ： Alien Gases in Our Atmosphere	① Reading Test（第 5 回） ②英文読解演習： Part 2
第 7 回	Unit 9 ： Alien Gases in Our Atmosphere	① Reading Test（第 6 回） ②英文読解演習： Part 3　問題演習 ： Exercises
第 8 回	Unit 11 ： When Pigeons Flock, Who's in Command?	① Reading Test（第 7 回） ②英文読解演習： In Advance ／ Part 1
第 9 回	Unit 11 ： When Pigeons Flock, Who's in Command?	① Reading Test（第 8 回） ②英文読解演習： Part 2
第 10 回	Unit 11 ： When Pigeons Flock, Who's in Command?	① Reading Test（第 9 回） ②英文読解演習： Part 3　問題演習 ： Exercises
第 11 回	Unit 13 ： Cats' Tongues Employ Tricky Physics	① Reading Test（第 10 回） ②英文読解演習： In Advance ／ Part 1
第 12 回	Unit 13 ： Cats' Tongues Employ Tricky Physics	① Reading Test（第 11 回） ②英文読解演習： Part 2
第 13 回	Unit 13 ： Cats' Tongues Employ Tricky Physics	① Reading Test（第 12 回） ②英文読解演習： Part 3　問題演習 ： Exercises
第 14 回	End-of-term test（学期末試験）	学習内容の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
必ず予習をして授業に臨む。予習の際には，本文に出てくる単語・熟語を調べ，和訳をしておく。また各 Unit の「In Advance」「Exercises」を事前に学習しておく。

【テキスト（教科書）】
Science Fair ： 『Science』で読む科学の世界：南雲堂

【参考書】
必要に応じて，授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席 2/3 以上，学期末試験 70%，平常点 30%（毎時実施する「Reading Test」の成績を含む）として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
科学論文以外の英語にも触れたいという要望に応え、英字新聞の社会面の記事等も一緒に読んでいく。

【その他の重要事項】
辞書を毎回必ず持参すること（電子辞書可／スマホ不可）。遅刻・早退は３回をもって欠席 1 回とみなす。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. In Academic Reading II, using the skills learned in Academic Reading I, this class aims to reinforce an understanding of paragraph structure as well as basic reading competence.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

尾関　裕子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期に続き学術的文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによってリーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
１英文を正確にとらえる。文法を正確に理解し、使われている言葉のニュアンスを確認する。自分のかってな思い込みで英文をとらえないことがまず大切です。　２情報を整理する。書かれていることを図式化するなど整理することで著者のいわんとしていることがはっきりと見えてきます。歴史的背景を調べたりすることで文の背後にある世界も理解したうえで文脈をとらえます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前期に続き毎回一章分を精読する。書かれている文章を正確にとらえたうえでエクササイズを実施し各自の読解に問題がなかったかを確認する。後半では一つのテーマでかなり長い英文を使用し読解する。エクササイズの一部を提出し、採点のうえ返却される。返却の際には各問への解答および解説を実施。どのような考え方で解答につながるのかを説明する。模範的な解答については良い例として公開、解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	unit 8	The Rise of Cities を読む。文明が生まれることと川との関係を知り、都市のもつ役割について考える。
2	unit 9	Trusting in Recorded History を読む。書かれた歴史について考察する。歴史への信頼をどのようにして捉えるのかを考える。
3	unit10	Battles on Board Games を読む。人間のもつ闘争本能と古来より存在するゲームとの関連を考える。
4	unit 11	How Democrcy Works を読む。民主主義という政治システムの歴史を知り、抱える問題点を考察する。
5	unit 12	Marriage and the State を読む。婚姻と国家の関わりの歴史を概観する。
6	unit 13	The Meaning of Prayers を読む。「祈り」について様々の面からひとにとっての意味を考える。
7	unit 14	Mankind and Laughter を読む。笑うことと人間との多面的な関係を考察する。
8	unit 15	The Importance of Discipline を読む。社会のルールと家庭のしつけについてその関係性を考え、さらに宗教や徴兵制の問題からも規律のもつ意味を考える。
9	テキスト以外の英文による長文読解１	英文読解　前期に紹介したパーシングという手段を用いて正確に文を読む練習を重ねる。
10	長文読解２	パーシング練習のために続きの英文を読む。
11	長文読解３	パーシング練習のために続きの英文を読む。
12	長文読解４	パーシング練習のために続きの英文を読む。
13	長文読解５	これまでの長文のテキストを読み終え、最後にその内容についての個々の考えをまとめる。
14	これまでのまとめ/試験	これまで学んだ内容を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキスト読解、問題の予習をして授業に出席してください。読解後は自分の読解内容と比べ問題があるとしたらその原因を探る。

【テキスト（教科書）】
前期に同じ。TRANSCULTURE by Christopher Beloton and Koshi Odajima (Kinseido 2017 年　￥１８００）

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
平常点３０％　提出物１５％　テスト５５％

【学生の意見等からの気づき】
精読をする上で和訳をしてゆきますが、その和訳をすべて板書することはありません。授業の流れについてゆけない場合は遠慮することなくそのことを伝えてください。授業時間外でも結構です。

【その他の重要事項】
この授業を通して正確に英文をとらえる力をぜひつけてください。文法力や語彙力を活かし、構文解析に努める姿勢を忘れず文章を読みましょう。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

安田　孝子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。
アカデミック・リーディングＩ同様、教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を養成することを狙いとします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読します。

【到達目標】
アカデミック・リーディングＩ同様、様々な分野のエッセイを精読し、さらに音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（進め方）
アカデミック・リーディングＩ同様、テキストの Reading Part はクラス全体で毎時間、音読を行い、Reading Part については事前に指名した担当者に phrase reading で和訳してもらいます。また、Reading Part 以外の Exercises はその場で指名した人に答えてもらいます。
（方法）
アカデミック・リーディングＩ同様、授業では、「語彙力」と「読解力」の育成だけでなく、「速読力」「表現力」の向上をも狙い、「音読・シャドーイング」活動を大いに行います。
また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 8	1. Chapter 7 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 2 回	Chapter 8	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 3 回	Chapter 9	1. Chapter 8 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 4 回	Chapter 9	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 5 回	Chapter 10	1. Chapter 9 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 6 回	Chapter 10	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 7 回	Chapter 11	1. Chapter 10 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 8 回	Chapter 11	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 9 回	Chapter 12	1. Chapter 11 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 10 回	Chapter 12	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 11 回	Chapter 13	1. Chapter 12 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 12 回	Chapter 13	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 13 回	Chapter 14	1. Chapter 13 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 14 回	期末試験 (Chapter8 ～ 14) まとめ・解説	期末試験 後期学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ￥ 2,000+税

【参考書】
毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
Chapter 終了毎の小テスト (20 点 ×7 回＝ 140) と期末試験 (100 点) で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の 6 割獲得で C-,C,C+、7 割獲得で B-,B,B+、8 割獲得で A-,A,A+、9 割以上獲得で S とする。

【学生の意見等からの気づき】
「音読」トレーニングにより成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、さらなる読解力の発展を目指します。

【その他の重要事項】
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・欠席は 3 回までは認めますが、それ以上の欠席については、必ず申し出ること。
・遅刻は 20 分程度までは入室可ですが、30 分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動
　不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

磯部　芳恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。
TOEIC 教材でリスニング力を養いながら、日常生活のさまざまな疑問を扱った教材を使って、読解力を向上させる。

【到達目標】
高度な読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
今年度はスケジュール通りに開講します。
授業の最初の２０分位で TOEIC 教材でリスニングし、メインテキストは、文法事項を確認しながら訳読します。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 7 Why are Hurricanes Seasonal?	語彙、訳読。
2	Unit 7 Why are Hurricanes Seasonal?	内容理解問題、英作文。
3	Unit 8 Why does Food Rot?	語彙、訳読。
4	Unit 8 Why does Food Rot?	内容理解問題、英作文。
5	Unit 9 Why do Clocks Go Clockwise?	語彙、訳読。
6	Unit 9 Why do clocks Go Clockwise?	内容理解問題、英作文。
7	Review	Unit 7-9 の復習。
8	Unit 10 Why is the Ocean so Salty?	語彙、訳読。
9	Unit 10 Why is the Ocean so Salty?	内容理解問題、英作文。
10	Unit 11 Why don't Skyscrapers Fall Over?	語彙、訳読。
11	Unit 11 Why don't Skyscrapers Fall Over?	内容理解問題、英作文。
12	Unit 12 Why does Fluoride Prevent Tooth Decay?	語彙、訳読。
13	Unit 12 Why does Fluoride Prevent Tooth Decay?	内容理解問題、英作文。
14	Review	Unit 7-12 の復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各ユニットの予習をし、提出する。

【テキスト（教科書）】
Science for Inquiring Minds(成美堂）1,900 円。
『TOEIC　TEST　リスニング　スピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円。

【参考書】
講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席、提出物、授業内態度等） 30%
定期考査 70%。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションを多くする。

【その他の重要事項】
・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・３０分以内の遅刻、早退は３回で１回とみなします。
・３０分以上の遅刻、早退は欠席１回として扱います。
・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血でき、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

安田　孝子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。
アカデミック・リーディングＩ同様、教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を養成することを狙いとします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読します。

【到達目標】
アカデミック・リーディングＩ同様、様々な分野のエッセイを精読し、さらに音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（進め方）
アカデミック・リーディングＩ同様、テキストの Reading Part はクラス全体で毎時間、音読を行い、Reading Part については事前に指名した担当者に phrase reading で和訳してもらいます。また、Reading Part 以外の Exercises はその場で指名した人に答えてもらいます。
（方法）
アカデミック・リーディングＩ同様、授業では、「語彙力」と「読解力」の育成だけでなく、「速読力」「表現力」の向上をも狙い、「音読・シャドーイング」活動を大いに行います。
また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 8	1. Chapter 7 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 2 回	Chapter 8	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 3 回	Chapter 9	1. Chapter 8 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 4 回	Chapter 9	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 5 回	Chapter 10	1. Chapter 9 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 6 回	Chapter 10	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 7 回	Chapter 11	1. Chapter 10 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 8 回	Chapter 11	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 9 回	Chapter 12	1. Chapter 11 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 10 回	Chapter 12	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 11 回	Chapter 13	1. Chapter 12 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 12 回	Chapter 13	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 13 回	Chapter 14	1. Chapter 13 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 14 回	期末試験 (Chapter8 ～ 14) まとめ・解説	期末試験 後期学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

【テキスト（教科書）】
Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ￥ 2,000+税

【参考書】
毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
Chapter 終了毎の小テスト (20 点 ×7 回＝ 140) と期末試験 (100 点) で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の 6 割獲得で C-,C,C+、7 割獲得で B-,B,B+、8 割獲得で A-,A,A+、9 割以上獲得で S とする。

【学生の意見等からの気づき】
「音読」トレーニングにより成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、さらなる読解力の発展を目指します。

【その他の重要事項】
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・欠席は 3 回までは認めますが、それ以上の欠席については、必ず申し出ること。
・遅刻は 20 分程度までは入室可ですが、30 分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動
　不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

ALAN D MORGAN

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.
A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.
General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples
2	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 7 – Collocations Population Trends
3	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 7 – Collocations Global Migration & Expansion Reading
4	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information The Growth of Cities
5	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information Challenges Facing the World's Cities
6	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study The Design of Everyday Objects
7	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study Ergonomics
8	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading The design of Living Spaces
9	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading Fashion
10	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) Brain Development and Function
11	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) The Teenage Brain
12	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test The Male and Female Brain
13	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test Addiction and The Brain
14	FINAL TEST	FINAL TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
At the end of each two-week period of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

【テキスト（教科書）】
Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ￥3,000 - Jo McEntire & Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-58368-8

【参考書】
English-Japanese dictionaries
Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】
Assignments40%
Mini-tests 20%
Final Test 20%
Participation 20%
No credits will be given if the student is absent four times.
Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.
Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence
Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【学生の意見等からの気づき】
No previous comments for this class

【学生が準備すべき機器他】
The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

久慈　美貴

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成し、リーディング力の向上をはかる。文脈や文構造を考慮しながら、精読して正確に理解し、論理構造を理解した上で、全体を簡潔に要約することができる読解力の養成をめざす。

【到達目標】
基本的な語彙や文法に基づいて、記事を正確に理解できる。
文脈や文構造を理解したうえで、記事の要点をまとめ、問題点をピックアップする。
自分の言葉で記事の要約を作成し、付随する情報を検索することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
引き続き科学関連の記事を集めたテキストを使用し、要約の作成、かんたんなコメントをつけるなどの練習をする。テキストの記事あるいは関連の記事を読み、内容把握のチェックをした上で、英文で要約したり、簡単なコメントを書く練習をする。提出課題は授業時に返却し、質問を受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	U.12 Saving the Kakapo	パラグラフのまとめと内容チェック
2	U.13 The Birth of Genetics	パラグラフのまとめと文法確認
3	U.14 Coral Reefs	パラグラフのまとめと文法確認
4	U.15 Life in Extreme Environments	要点抜き出しと文法の確認
5	U.16 The Monarch Butterflies' Migration	パラグラフのまとめと文法確認
6	U.17 Earth's Human Population	パラグラフのまとめと文法確認
7	U.18 Lasers	パラグラフのまとめと文法確認
8	U.19 Renewable Energy	要点抜き出しと文法確認
9	U.20 Keeping Us Alive for Longer	パラグラフのまとめと文法確認
10	U.21 Robots	パラグラフのまとめと文法確認
11	U.22 Plastics	パラグラフのまとめと文法確認
12	Review 1	科学関連の記事を読む（プリント配布）
13	Review 2	科学関連の記事を読む（プリント配布）
14	学期のまとめ	Review for U.12-22

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各 2 時間を標準とする】毎回ボキャブラリークイズを提出してもらいますので、しっかり辞書ををチェックしておきましょう。
各ユニットの文を読み込んで疑問点・不明点をピックアウトし、じぶんでも関連する情報を検索して、記事の背景や基礎的な知識をあらかじめ目にしておくと、より深く内容を把握できることと思います。受動的に読むのではなく、そこからさらに広げて、自分の意見を付け加えていけるよう、準備しましょう。

【テキスト（教科書）】
Our Place in the Universe 地球人類の進化と科学 （成美堂）　1900 円

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%、授業時の提出物および発表 70%として総合評価する。授業を 4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。3 回程度の欠席で平常点が不足する可能性がありますので、気を付けてください。（遅刻も回数に応じて減点となるので、注意が必要。）

【学生の意見等からの気づき】
ヴォキャブラリークイズにあるような派生語に加えて、各自が短文を書いて語の使い方をチェックする短文ノートを作成することをおすすめします。
長文を読んでまとめる際、文型や説明の仕方を自分なりにかみ砕いてわかりやすい表現になるよう練習しましょう。
提出物を返却する際、ご質問があれば、授業前後にも対応いたします。

【学生が準備すべき機器他】
とくに使用しない

【その他の重要事項】
授業時は必ず辞書を携行してください。
テキストのまとめを書くなど、英作文の際、ある単語がどういう使い方ができるものなのか、辞書の例文を確認しましょう。基本のパターンをしっかり身につけて、わかりやすく正確な文をかけるよう練習しましょう。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills.　You have to understand what the writer means, considering the context and structure of the article.　Let's try to read various articles carefully and sum them up in easy and concise English.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

花﨑　一夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１年次で身につけた基礎英語力を更に発展させ、この授業では特にアカデミック（学術的）な内容に関して英語で書かれた文章を正確に理解できるように学習します。

【到達目標】
①アカデミックな内容の英文を正確に理解できる。
②アカデミックな内容の文章でよく使われる単語や表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
①担当者による本文内容の発表
②単語や表現の確認
③内容に関する活発な議論
上記のほか、毎時間、各ユニットの英文の内容に関連する課題を各自やって提出してもらいます。それに対するフィードバックは次の時間に行います。具体的には、皆さんが提出してくれた答案の中から良いものを取り上げて共有したり、理解が不十分な場合にはどこを修正すべきなのかについてコメントします。そうすることで英文の内容に関する理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Language and mind rethought
2	Chapter1	Language and mind rethought
3	Chapter2	Is human language unrelated to animal communication systems?
4	Chapter2	Is human language unrelated to animal communication systems?
5	Chapter3	Are there language universals?
6	Chapter3	Are there language universals?
7	Chapter4	Is language innate?
8	Chapter4	Is language innate?
9	Chapter5	Is language a distinct module in the mind?
10	Chapter5	Is language a distinct module in the mind?
11	Chapter6	Is there a universal Mentalese?
12	Chapter6	Is there a universal Mentalese?
13	Chapter7	Is thought independent of language?
14	まとめ	期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習／宿題：
①本文内容を事前に読み、授業内で内容を説明できるように準備する。
特に発表の担当者は、本文の重要な点について指摘し、それをもとにクラス内で議論ができるようにする。
②授業の内容に関する小テストを毎回やってもらうので、それにこたえられるようにしっかりと予習を行う。

【テキスト（教科書）】
The Language Myth
Vyvyan Evans 著
Cambridge University Press
アマゾンで電子書籍版が購入可能です。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①小テスト・課題　５０％
②期末試験　５０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
①授業には必ず辞書を持参すること（電子辞書可）
②初回授業にて、履修に関する注意点を説明するので、必ず出席すること。

【Outline and objectives】
この授業では「言語」について深く考察したアカデミックな文章を読むことを通して、言語の謎にせまります。

LANe200LC

アカデミック・ライティング

小林　直樹

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
本授業は、英語で文章を書く能力を養成するためのクラスである。授業では文法的に正確なセンテンスを書くことから始め、様々なパラグラフ、エッセイを書く事を目標とする。また、それぞれの専攻内容についての英文を書くことも目標とする。
The aim of this class is to develop students' ability of English composition. The students will start from composing grammatically accurate sentences and next write various paragraphs and essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テクストの問題を中心に進めつつ、自分なりの英語の表現を学ぶように授業を進めます。オンラインで英作文の課題を課し、フィードバックを行うこともあります。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価の方法につての説明
第 2 回	Unit 1	品詞と文の要素
第 3 回	Unit 2	英語の文型
第 4 回	Unit 3	英語の文型
第 5 回	Unit 4	英語の時制
第 6 回	Unit 5	英語の時制
第 7 回	Unit 6	リスニングと英作文の練習
第 8 回	Unit 7	リスニングと英作文の練習
第 9 回	Unit 8	リスニングと英作文の練習
第 10 回	Unit 9	リスニングと英作文の練習
第 11 回	Unit 10	リスニングと英作文の練習
第 12 回	Unit 11	パラグラフの作成
第 13 回	Unit 12	パラグラフの作成
第 14 回	Unit 13	パラグラフの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
Skills for Better Writing (Basic)（南雲堂）

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】学期末のレポート (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。学期末の試験の春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
英語の基礎をおろそかにせず学んでいきましょう。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

長谷川　秀子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
授業では英語で自分の考えや、身の回りのことが話せるか、書けるかということから始まり、英語をアカデミックに書く書き方までを学んでいく。”Output English” にフォーカスを置き、いままで学んだ"Input English"を使いながら、話したり、書いたりする練習をしていく。授業中は書く時間やミニプレゼンテーションの時間がある。このクラスは小人数構成が望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題などからからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
教科書を使いながら英文の書き方を学び、トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1 つのユニットを大体２回で終わるように授業を行うが、教科書以外の内容もカバーする予定。クラスの中で書いたり、発表する時間には積極的な参加を望む。
COVID－１９による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	テキストの使い方と授業準備授業の進め方の説明 Writing
第 2 回	Unit 1 (1) Mini presentation	What is a Paragraph?
第 3 回	Unit 1 (2)	What is a Paragraph? Writing
第 4 回	Unit 2 (1) Mini presentation	Narration Writing
第 5 回	Unit 2 (2)	Narration Writing
第 6 回	Unit 3 (1) Mini presentation	Mini presentation Process Writing
第 7 回	Unit 3 (2)	Process Writing
第 8 回	Unit 4 (1) Mini presentation	Description of Feelings Writing
第 9 回	Unit 4 (2)	Description of Feelings Writing
第 10 回	Unit 5 (1) Mini presentation	Description of People Writing
第 11 回	Unit 5 (2)	Description of People Writing（１）Outline
第 12 回	Unit 6	Description of Places & Locations Writing（２）Introdection, Body
第 13 回	Unit 7	Definition Writing（３） Conclusion, Refererences
第 14 回	Term Exam	試験範囲　Unit 1-6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1.5 時間程度を標準とする】
各ユニットの英文の書き方を理解すること。課題などの Writing, ミニプレゼンの用意をする。

【テキスト（教科書）】
はじめてのパラグラ・ライティング
Smart Writing
Active Approach to Paragraph Writing
By Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara, Ruth Fallon (2017)
SEIBIDO
ISBN978-4-7919-6032-3

【参考書】
必要に応じて授業、学習主演システムで紹介。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】ミニプレゼンテーション、課題　50%
　　期末試験　50%
【評価基準】全体の 60 %の得点をもって可とする。
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
担当者の連絡先はオリエンテーションで連絡。
授業では辞書が必要なので用意をしておくこと。
学習支援システムで連絡、確認事項、授業資料などを確認すること。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students’ basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

荒木　友嗣

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
この授業では 6 項目の基礎英文法を学習し、それぞれの知識を復習し、理解を深化させながら、着実な英作文（センテンス・ライティング）の実践へとつなげる。パラグラフ・ライティングにおける「主題文（トピック・センテンス）」の論理的展開や全体の構成などを学び、パラグラフ作文を実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
使用テキスト（「テキスト」欄参照）の構成に従い、特定の基本英文法について【文法の最重要ポイント】【文法の発展的整理】において解説や例文を学習し、それから【Exercise】に進む。毎回の授業は座席指定（2 回目以降）とし、挙手による積極的な（挙手のない場合は指名による）応答が求められる。この積極的な実践および応答は授業平常点として算定される。
なお、期間中、使用テキストから各章 1 回の課題が出される。課題については、提出後おそからず、全体に対してフィードバック（解答例の提示や記述の確認）を行う。この課題の実施・提出状況は平常点として算定される。必ず自分で行い、提出すること。
春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業全般、辞書の活用などに関する説明、諸注意など
2	第 1 章．英文を上手く組み立てるには？：主語・目的語・補語	解説と例文
3	第 1 章	練習問題
4	第 2 章．動詞に着目してみると？ ：動詞、文型	解説と例文
5	第 2 章	練習問題
6	第 3 章．時間を点としてとらえる表現は？：時制	解説と例文
7	第 3 章	練習問題
8	第 4 章．時間を線としてとらえる表現は？：相	解説と例文
9	第 4 章	練習問題
10	第 5 章．動詞の働きをになう表現は？ ：不定詞	解説と例文
11	第 5 章	練習問題
12	第 6 章　動詞と名詞の働きをになう表現は？ ：動名詞	解説と例文
13	第 6 章	練習問題
14	おさらいと補足	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回、章の解説や練習問題を予習し、授業で確認する習慣をつけること。授業中、不明な個所はなるべく放置せず、必要に応じて質問に来て解決すること。

【テキスト（教科書）】
山内信幸、赤楚治之、北林利治（共著）『文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ（From Grammar through Composition to Paragraph Writing）』（英宝社、2013）1800 円+税

【参考書】
英語辞書についてはさしあたり、一年時に使用したものを持参して活用するか、あるいは以下の例を参考にするとよい。電子辞書の使用も可。
『ジーニアス英和辞典』（第 5 版、大修館書店）
『ジーニアス和英辞典』(第 3 版、大修館書店)

【成績評価の方法と基準】
授業平常点 50 %（課題実施・提出状況 30 %、挙手応答 20 %）と学期末試験 50 %で、全体の 60 %以上の取得者に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の力量をやや上回る教材を扱ったかもしれないが、学生の取り組みは概して積極的と受け止められた。期間中でも採用教材の難易の判定とそれに見合う臨機応変な教授法の適用を常に考えていく必要があると感じた。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

中野　里美

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
Students will be given skills to write essays and make a presentation in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Participants are expected to practice writing in English about some issues, make a presentation and finally write an essay. Feedback will be carried out every week in the mini-essay. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Explaining how to write an essay	Introduction and guidance
第 2 回	Learning how to write with handouts	Task 1:What is essay? Task 2:Writing what you think(based on this week's newspaper articles)
第 3 回	Learning how to write with handouts,	Task 1:What is paragraph? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 4 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: What is presentation? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 5 回	Learning how to write and the explicit correction	Task 1: The common errors Japanese students make (words) Task 2:Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 6 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students makes (words) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 7 回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1: The common errors Japanese students make (phrases) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 8 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 9 回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1:The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 10 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 11 回	Learning how to write with a presenter	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 12 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 13 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 14 回	Submitting an essay	Review: Creating a polished essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Students will need to practice writing in English, be prepared for presentations, and write a final essay.

【テキスト（教科書）】
Participants will be given some handouts.

【参考書】
Participants will be informed of it in the class.

【成績評価の方法と基準】
出席重視。半期の授業のうち 4 回以上（4 回を含む）の欠席をもって評価の対象外とする。遅刻は授業開始 15 分以降の入室をもって遅刻とし、3 回目の遅刻を 1 回分の欠席に換算する。早退も同じ扱い。また授業中のタスク、エッセイライティング、プレゼンのオーディエンスとしてのＱ＆Ａのボランティアなどにより総合的に評価します。
プレゼン＋最終エッセイ 80%、平常点（毎回の自由英作文、Ｑ＆Ａなど）20%＝計１００％となります。
注：オンライン授業での課題への取り組み＋最終課題により評価しますが、具体的には学習支援システムで状況に応じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】
If you have any questions, please feel free to ask them.

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

長谷川　秀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
授業では英語で自分の考えや、身の回りのことが"Output English"として話せるか、書けるかということから始まり、英語でのアカデミックライティングの書き方までを学んでいく。授業では”Output English”にフォーカスを置き、いままで学んだ"Input English"を使いながら、話したり、書いたりする練習をしていく。授業中は書く時間やミニプレゼンテーションの時間がある。このクラスは少人数構成が望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題などからからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
教科書を使いながら英文の書き方を学び、トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1つのユニットを大体2回で終わるように授業を行うが、教科書以外の内容もカバーする予定。クラスの中で書いたり、発表する時間には積極的な参加を望む。
COVID－１９による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Plan for this term Mini Presentation
第 2 回	Unit 8 (1)	Comparison & Contrast Writing
第 3 回	Unit 8(2) Mini presentation	Comparison & Contrast
第 4 回	Unit 9 (!)	Cause & Effect Writing
第 5 回	Unit 9 (2) Mini Presentation	Cause & Effect
第 6 回	Unit 10 (1)	Problems & Solutions Writing
第 7 回	Unit 10 (2) Mini Presentation	Problems & Solutions
第 8 回	Unit 11	Your Opinion - Agree
第 9 回	Unit 12	Your Opinion - Disagree
第 10 回	Unit 13	Data Analysis
第 11 回	Unit 14	Email Writing
第 12 回	Writing (1)	Outline Introduction
第 13 回	Writing (2)	Body Conclusion References
第 14 回	Term Exam	Essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1.5 － 2 時間程度を標準とする】各ユニットの英文の書き方を理解すること。課題などのWriting, ミニプレゼンの用意をする。

【テキスト（教科書）】
はじめてのパラグラフ・ライティング
Smart Writing
Active Approach to Paragraph Writing
By Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara, Ruth Fallon (2017)
SEIBIDO
ISBN978-4-7919-6032-3　　2000 円（税別）

【参考書】
必要に応じて授業、学支援システムで紹介。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】ミニプレゼンテーション、課題など　50%
期末試験　50%
【評価基準】全体の 60 %の得点をもって可とする。
【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく３分の１以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】
担当者の連絡先はオリエンテーションで連絡。
授業では辞書が必要なので用意をしておくこと。
大学のプラットフォームで連絡、確認事項、授業資料などを確認すること。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

中野　里美

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
Students will be given skills to write essays and make a presentation in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Participants are expected to practice writing in English about some issues, make a presentation and finally write an essay. Feedback will be carried out every week in the mini-essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Explaining how to write an essay	Introduction and guidance
第 2 回	Learning how to write with handouts	Task 1:What is essay? Task 2:Writing what you think(based on this week's newspaper articles)
第 3 回	Learning how to write with handouts,	Task 1:What is paragraph? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 4 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: What is presentation? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 5 回	Learning how to write and the explicit correction	Task 1: The common errors Japanese students make (words) Task 2:Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 6 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students makes (words) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 7 回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1: The common errors Japanese students make (phrases) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 8 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 9 回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1:The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 10 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 11 回	Learning how to write with a presenter	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 12 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 13 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 14 回	Submitting an essay	Review: Creating a polished essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Students will need to practice writing in English, be prepared for presentations, and write a final essay.

【テキスト（教科書）】
Participants will be given handouts.

【参考書】
Participants will be informed of it in the class.

【成績評価の方法と基準】
半期の欠席４回以上（４回含む）で、授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書、日付とフルネーム入りの領収書などを持参すること）は考慮します。遅刻は授業開始１５分以降の入室から。３回目の遅刻で１回欠席に換算します。遅延証明書は当日、授業内に持参すれば考慮します。毎回の自由英作文、平常点がプレゼン（自分の回＆他の人へのＱ＆Ａボランティア）、最終 essay を総合的に評価します。プレゼン＋最終エッセイ 80%、平常点（毎回の自由英作文、Ｑ＆Ａなど）20%＝計１００％となります。

【学生の意見等からの気づき】
If you have any questions, please feel free to ask them.

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

荒木　友嗣

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
この授業では 6 項目の基礎英文法を学習し、それぞれの知識を復習し、理解を深化させながら、着実な英作文（センテンス・ライティング）の実践へとつなげる。パラグラフ・ライティングにおける「主題文（トピック・センテンス）」の論理的展開や全体の構成などを学び、パラグラフ作文を実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
使用テキスト（「テキスト」欄参照）の構成に従い、特定の基本英文法について【文法の最重要ポイント】【文法の発展的整理】において解説や例文を学習し、それから【Exercise】に進む。毎回の授業は座席指定（2 回目以降）とし、挙手による積極的な（挙手のない場合は指名による）応答が求められる。この積極的な実践および応答は授業平常点として算定される。

なお、期間中、使用テキストから各章 1 回の課題が出される。課題については、提出後おそからず、全体に対してフィードバック（解答例の提示や記述の確認）を行う。この課題の実施・提出状況は平常点として算定される。必ず自分で行い、提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業全般、辞書の活用などに関する説明、諸注意など
2	第 章	解説と例文
3	第 章	練習問題
4	第 章	解説と例文
5	第 章	練習問題
6	第 章	解説と例文
7	第 章	練習問題
8	第 章	解説と例文
9	第 章	練習問題
10	第 章	解説と例文
11	第 章	練習問題
12	第 章	解説と例文
13	第 章	練習問題
14	おさらいと補足	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回、章の解説や練習問題を予習し、授業で確認する習慣をつけること。授業中、不明な個所はなるべく放置せず、必要に応じて質問に来て解決すること。

【テキスト（教科書）】
山内信幸、赤楚治之、北林利治（共著）『文法から英作文、そしてパラグラフライティングへ（From Grammar through Composition to Paragraph Writing）』（英宝社、2013）1800 円+税

【参考書】
英語辞書についてはさしあたり、一年時に使用したものを持参して活用するか、あるいは以下の例を参考にするとよい。電子辞書の使用も可。
『ジーニアス英和辞典』（第 5 版、大修館書店）
『ジーニアス和英辞典』(第 3 版、大修館書店)

【成績評価の方法と基準】
授業平常点 50 %（課題実施・提出状況 30 %、挙手応答 20 %）と学期末試験 50 %で、全体の 60 %以上の取得者に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の力量をやや上回る教材を扱ったかもしれないが、学生の取り組みは概して積極的と受け止められた。期間中でも採用教材の難易の判定とそれに見合う臨機応変な教授法の適用を常に考えていく必要があると感じた。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

NEIL CONWAY

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
• Write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices
• Choose, restrict, organize, and support a writing topic and/or thesis
• Understand the planning, outlining and drafting process
• Write sentences that are clear, concise, and effective, using academic essay structure and paragraphing
• Integrate sources accurate and effectively
• Write in the style of an English-language academic essay and be aware of MLA formatting.
• Read and edit their own and their peers' essays in order to improve them

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Each class will review key points in that week's topic using short reading and writing tasks, along with pair- and groupwork designed for Active Learning, this will include project-based work. Feedback will be delivered in-class. Students will be asked to consider how these tasks relate to the topic at large, and the essay type being focused on. Homework will be assigned which relates to the incremental steps of each week and also to the main assessment tasks of the course. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to Academic Writing	Introducing the class content, expectations and discussing the course.
2	Writing Paragraphs I	Writing a paragraph Coherence & structure MLA
3	Writing Paragraphs II	Types of sentence Evidence and support Editing
4	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information I	Sources
5	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information II	MLA
6	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information III	Practice
7	Essay Structure I	From paragraph to essay
8	Essay Structure II	What goes where?
9	Essay Structure III	Practice
10	Writing an Argumentative Essay: Developing Arguments	Argument, Counter-Argument & Rebuttal
11	Writing an Argumentative Essay: Organising Argumentative Essays	Practice
12	Writing an Argumentative Essay: Proofing and Editing	Argument, Structure & MLA
13	Essay Work	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
14	Essay Work & Presentation	Students will be asked to present one of their essays in a presentation style.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Writing assignments not finished within the allotted time; editing tasks; textbook exercises; research; coursework writing

【テキスト（教科書）】
No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer, or will be available online. However, library access is required for students to research their chosen essay topics.
We will use these two texts throughout the course:
https://issuu.com/cambridgeupelt/docs/academic_writing_skills_student_s_book_1
https://issuu.com/cambridgeupelt/docs/academic_writing_skills_student_s_book_2

【参考書】
[Lunsford, et al.] Everyone's an Author: with Readings (Third Edition). W. W. Norton & Company (May 15, 2020)
ISBN: 978-0393420838
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Homework: 20%
Classwork (effort, participation): 20%
Essays (Planning, Drafts, Final draft) x 2: 60%

【学生の意見等からの気づき】
Use power point for presentations. Add an audio-visual element to assist in understanding summary writing.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.* Students will also be instructed to regularly visit the "Forums" section in order to communicate with other students, give and receive support etc.
Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.
Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

川島　るり子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
具体例に取り組み、「英語らしい」センテンスを組み立てる基礎力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。毎回の講義の理解度を測る課題を提出してもらいます。授業形態は対面授業（状況によりハイブリッド型、オンデマンド型）を予定しています。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第 3 回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第 4 回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第 5 回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第 6 回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第 7 回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第 8 回	英語はポジティブにいこう！	「否定」から「肯定」へ
第 9 回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第 10 回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第 11 回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第 12 回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第 13 回	センテンスからまとまった文章へ	英文はとにかく「結論」が先、「起承転結」から抜け出し、PREP 手法でエッセイを書いてみよう
第 14 回	まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容を復習し課題に取り組みます（各２時間）。

【テキスト（教科書）】
遠田和子・岩渕デボラ著『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800 円＋税 978-4-7700-4074-9

【参考書】
必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加と毎週の課題への取り組み）　１００％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

太田　美智子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフで書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝たいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

【到達目標】
· Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.
· You can choose the most appropriate type of essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The lesson will involve using both the textbook and also free-writing. At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第 2 回	Unit 1	* The Case of the Hitchhiker * Understanding Rhetoric
第 3 回	Unit 2	* The Case of Lookout * Understanding the Pharagraph
第 4 回	Unit 3	* The Case of the Spilled Brandy * Writing a Paragraph
第 5 回	Unit 4	* The Case of the Locked Wine Cellar * Expressing Time Order
第 6 回	Unit 5	* The Case of the Silk Mantle * Using Space Order
第 7 回	Unit 6	* The Case of the Home Bakery * Explaining Processes and Giving Directions
第 8 回	quiz	quiz
第 9 回	Unit 7	* The Case of the Cave Painting * Giving Examples
第 10 回	Unit 8	* The Case of the Lakeside Murder * Writing Definitions
第 11 回	Unit 9	* The Case of the Hero Dog * Classfication
第 12 回	Unit 10	* The Case of the Million-to-One Shot * Comparison
第 13 回	Review	Review
第 14 回	Quiz	Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】
Solve the Mystery3 and Improve your English Skills,Toshiko Yoshimura, Eihosha, 2019, 2200yen

【参考書】
Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】
Class Work and Participation　30 %
Short Reports　30 %
Term-Examination 40 %

【学生の意見等からの気づき】
It is important for us to find interesting topics.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries

【Outline and objectives】
The class aims at developing studetnts' basic knowledge of accurately constucting English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

尾関　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に着け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
基本的論理展開に必要な考え方・表現・文法を確認し、典型的なパラグラフの論理展開の理解を深め実際にパラグラフを書けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回テキストのレッスン１つを進めます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。提出されたものは採点されたうえで返却されます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1-1 アカデミックライティングとは	パラグラフの基本構造を学ぶ
2	Unit 1-2 一英文を書くとは	英語と日本語の違いに着目し英語表現におけるポイントを把握する
3	Unit 2-1 narrative paragraph	narrative paragraph はどのように表現するか
4	Unit 2-2 2-2 descriptive paragraph	descriptive paragraph はどのように表現するか
5	Unit 2-3 narrative/descriptive paragraph まとめ	narrative/descriptive paragraph を実際に書く
6	Unit 3-1 comparison/contrast paragraph	ものごとの共通点、相違点はどのように表現するか
7	Unit 3-2 Advantages and disadvantages	ものごとのメリット、デメリットはどのように表現するか
8	Unit 3-3 advantages and disadvantages まとめ	ものごとのメリット・デメリットについて実際にまとまった英文を書く
9	Unit 4-1 cause and effect	原因と結果を表現するにはどのようにするか・エクササイズ（１）
10	Unit 4-2 cause and effect	原因と結果を表現するにはどのようにするか・エクササイズ（２）
11	Unit 4-3 cause and effect	ものごとの原因と結果についてまとまった英文を書く
12	Unit 5-1 opinion paragraph	賛成意見を表現するにはどのようにするか
13	Unit 5-2 opinion paragraph	反対意見を表現するにはどのようにするか
14	これまでのまとめ/試験	様々な内容のパラグラフ展開に必要な要素を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、４時間を標準とする】授業相当範囲の文法問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

【テキスト（教科書）】
A Guide to English Academic Writing for Beginners, Akira Tajino 他、Asahi Press, ￥1800

【参考書】
「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times) ほか。授業時に必用に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
提出物３０％。期末テスト５５％。平常点１５％。テストを受けるためには全授業数の 3 分の２は出席していること。遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。遅延証明の有効は３回までです。授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話の使用は禁止。

【学生の意見等からの気づき】
黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しずらいですので、各授業の終わりには課題にそった英作文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
英和・和英辞書

【その他の重要事項】
授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。
出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leadint to writing paragraphs and essays in which students develop the founbdations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

ALDER　mark

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to academic writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance.
2	How to write essays 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques.
3	How to write essays 2	An introduction of several various kinds of essays. Students will practice writing introductions and conclusions.
4	Summary writing Process	Students will understand the basics of writing a set of instructions
5	Summary writing Process 2	Students will revise and rewrite their technical writing assignment
6	Division and Classification Essay	Students will understand the basics of writing a division and classification essay and be given some class time to write.
7	Division and Classification Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
8	Comparison/Contrast Essay	Students will understand the basics of writing a comparison/contrast essay and be given some class time to write.
9	Comparison/Contrast Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
10	Problem/Solution Essay	Students will understand the basics of writing a problem/solution essay and be given some class time to write.
11	Problem/Solution Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
12	Writing summaries	Students will understand the basics of writing a summary and be given some class time to write.
13	Writing summaries 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
14	Final presentations	Students will be asked to present one of their essays in a presentation style.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Writing assignments as well as self-editing tasks. Also, preparation for the final presentation.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Ready to Write More. Karen Blanchard. Longman Press.

【成績評価の方法と基準】
Essays-70%
Final Essay/presentation-30%

【学生の意見等からの気づき】
Focus will be added to group editing practice

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries, powerpoint.

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

川島　るり子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
具体例に取り組み、「英語らしい」センテンスを組み立てる基礎力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。毎回の講義の理解度を測る課題を提出してもらいます。授業形態は対面授業（状況によりハイブリッド型、オンデマンド型）を予定しています。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第 3 回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第 4 回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第 5 回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第 6 回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第 7 回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第 8 回	英語はポジティブにいこう！	「否定」から「肯定」へ
第 9 回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第 10 回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第 11 回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第 12 回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第 13 回	センテンスからまとまった文章へ	英文はとにかく「結論」が先、「起承転結」から抜け出し、PREP 手法でエッセイを書いてみよう
第 14 回	まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容を復習し課題に取り組みます（各２時間）。

【テキスト（教科書）】
遠田和子・岩渕デボラ著『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800 円＋税 978-4-7700-4074-9

【参考書】
必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加と毎週の課題への取り組み）　１００％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

太田　美智子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフで書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝たいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

【到達目標】
· Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.
· You can choose most appropriate type of essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The lesson will involve using both the textbook and also free-writing. At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第 2 回	Unit 1	* The Case of the Hitchhiker * Understanding Rhetoric
第 3 回	Unit 2	* The Case of Lookout * Understanding the Pharagraph
第 4 回	Unit 3	* The Case of the Spilled Brandy * Writing a Paragraph
第 5 回	Unit 4	* The Case of the Locked Wine Cellar * Expressing Time Order
第 6 回	Unit 5	* The Case of the Silk Mantle * Using Space Order
第 7 回	Unit 6	* The Case of the Home Bakery * Explaining Processes and Giving Directions
第 8 回	quiz	quiz
第 9 回	Unit 7	* The Case of the Cave Painting * Giving Examples
第 10 回	Unit 8	* The Case of the Lakeside Murder * Writing Definitions
第 11 回	Unit 9	* The Case of the Hero Dog * Classfication
第 12 回	Unit 10	* The Case of the Million-to-One Shot * Comparison
第 13 回	Review	Review
第 14 回	Quiz	Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】
Solve the Mystery3 and Improve your English Skills,Toshiko Yoshimura, Eihosha, 2019, 2200yen

【参考書】
Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】
Class Work and Participation　30 %
Short Reports　30 %
Term-Examination 40 %

【学生の意見等からの気づき】
It is important for us to find intersting topics.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries

【Outline and objectives】
The class aims at developing studetnts' basic knowledge of accurately constucting English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

谷　智子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・文法的に正確で、わかりやすく読み手に伝わる文章を書けるようにする。
・英語の論理展開に沿って、説得力のあるパラグラフを書けるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・この授業は、学生が予習済みであることを前提に進みます。
・各章の多様なエクササイズを通して英語の論理展開を段階的に学び、説得力あるパラグラフを書けるよう練習します。
・ひとつひとつの英語の文を書く上での文法・表現を確認します。
・学期中に複数回、授業で扱った単語・文法の定着を目的として小テストを行います。
・各章の最後にあるライティング課題を、授業で扱った内容の復習として課します。
・学生一人一人の提出課題について、個別にフィードバックをすると同時に、学生全員に共有しておくべき事柄については授業中に全体に対してフィードバックをします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション / パラグラフの構成 Paragraph Structure	授業の進め方や予習の仕方について説明する。パラグラフの基本構造を学ぶ。
2	時間順に語るパラグラフ Narrative paragraph	出来事を時間順に並べて、相手に伝えたいことを物語風に書く。
3	空間配列のパラグラフ Descriptive paragraph	ある場所の状況や雰囲気などの特徴を、相手にうまく伝わるように書く。
4	理由を説明するパラグラフ Reasoning	順を追って理由を提示し、相手に伝わりやすい形で説明する。
5	過程のパラグラフ Process	何かを行う過程や何かを作る手順等を段階ごとに明確に説明する。
6	分類のパラグラフ Classification	人や物などをグループやカテゴリーに分け、明確に説明する。
7	比較のパラグラフ（1） Comparison（1）	物事を比べて、異なる点、似ている点について書く。
8	比較のパラグラフ（2） Comparison（2）	物事を比べて、異なる点、似ている点について書く。
9	説得する文章（1） Convincing（1）	相手に自分の意見に賛成させるような文章を書く。
10	説得する文章（2） Convincing（2）	相手に自分の意見に賛成させるような文章を書く。
11	原因と結果のパラグラフ（1） Cause and Effect（1）	因果関係を説明する文章を書く。
12	原因と結果のパラグラフ（2） Cause and Effect（2）	因果関係を説明する文章を書く。
13	E メールの書き方 How to write E-mail	英文メールのルールを理解し、相手や内容に応じた適切な文章を書く。
14	まとめと授業内期末試験	まとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・辞書を用いて指定された予習を必ずやっておくこと。
・予習の段階でわからない箇所を明確にしておくこと。
・ライティング課題を指定された期日までに提出すること。
・単語・文法の小テストに向けた準備をしっかりすること。
・多様な媒体 (本・雑誌・ソーシャルメディア等) で、自分の興味のあるトピックの英語のインプットを増やすこと。

【テキスト（教科書）】
Mitaka Yoneda, Mikiko Inoue, Sumie Kato, Robert Lamitie: Working Up to Paragraph Writing, ASAHI PRESS.

【参考書】
必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
以下の割合をもとに、総合的に判断します。
1. 授業への参加態度　(20%)
2. 複数のライティング課題 (25%)
3. 単語・文法の小テスト (25%)
4. 授業内に行う学期末試験 (30%)
なお、5 回以上、正当な理由なく欠席した場合は不可とします。

【学生の意見等からの気づき】
前年度はオンラインでの授業を実施したため、直接学生からの意見を聞くことができませんでしたが、
今後、授業を行う中で、学生とのコミュニケーションを大切にし、一人一人の意見や要望を聞き、それらを授業に反映させる形で進めていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
必ずテキストと辞書を持参してください。(電子辞書・紙媒体の辞書のどちらも歓迎)

【その他の重要事項】
・クラスの進行具合に合わせて授業スケジュールを調整することがあります。
・この授業では、積極的な授業参加を重視します。
・初回の授業で予習の仕方を説明しますので、それまでにテキストを入手しておいてください。
・質問がある場合は、授業の前後で受け付けます。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

尾関　裕子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に着け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
基本的論理展開に必要な考え方・表現・文法を確認し、典型的なパラグラフの論理展開の理解を深め実際にパラグラフを書けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回テキストのレッスンを 1 つ進みます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。エクササイズの提出に際しては採点のうえ、返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Unit 1-1 アカデミックライティングとは	パラグラフの基本構造を学ぶ
2	Unit 1-2 一英文を書くとは	英語と日本語の違いに着目し英語表現におけるポイントを把握する
3	Unit 2-1 narrative paragraph	narrative paragraph はどのように表現するか
4	Unit 2-2 2-2 descriptive paragraph	descriptive paragraph はどのように表現するか
5	Unit 2-3 narrative/descriptive paragraph まとめ	narrative/descriptive paragraph を実際に書く
6	Unit 3-1 comparison/contrast paragraph	ものごとの共通点、相違点はどのように表現するか
7	Unit 3-2 Advantages and disadvantages	ものごとのメリット、デメリットはどのように表現するか
8	Unit 3-3 Advantages and disadvantages まとめ	ものごとのメリット・デメリットについて実際にまとまった英文を書く
9	Unit 4-1 cause and effect	原因と結果を表現するにはどのようにするか・エクササイズ（1）
10	Unit 4-2 cause and effect	原因と結果を表現するにはどのようにするか・エクササイズ（2）
11	Unit 4-3 cause and effect	ものごとの原因と結果についてまとまった英文を書く
12	Unit 5-1 opinion paragraph	賛成意見を表現するにはどのようにするか
13	Unit 5-2 opinion paragraph	反対意見を表現するにはどのようにするか
14	これまでのまとめ/試験	様々な内容のパラグラフ展開に必要な要素を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業相当範囲の文法問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

【テキスト（教科書）】
A Guide to English Academic Writing for Beginners, Akira Tajino 他、Asahi Press, ￥1800

【参考書】
「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times) ほか。授業時に必用に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
提出物３０％。期末テスト５５％。平常点１５％。テストを受けるためには全授業数の 3 分の２は出席していること。遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。遅延証明の有効は３回までです。授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話の使用は禁止。

【学生の意見等からの気づき】
黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しずらいですので、各授業の終わりには課題にそった英作文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
英和・和英辞書

【その他の重要事項】
授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。
出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leadint to writing paragraphs and essays in which students develop the founbdations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

磯部　芳恵

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
This subject aims to improve students' overall confidence in communicating and writing skills. It also aims at improving their listening skills by using the textbook for TOEIC.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Getting ready	授業の進め方と評価、プレゼンテーションのについて説明する。
第 2 回	Getting ready	topic focus それぞれの尊敬する人についてペアで質問しあう。テキストにある有名人について聞き取りをする。
第 3 回	Unit 1 A person to admire	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第 4 回	Unit 1 A person to admire	practice 自分の尊敬する人についてパラグラフライティングする。
第 5 回	Unit 1 A person to admire	Unit 1 のテーマでまとめたエッセイをプレゼンテーションする。
第 6 回	Unit 2 A great vacation idea	topic focus 自分の理想とする旅行の計画について話し、テキストにある 3 つの都市についてリスニングをする。 presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第 7 回	Unit 2 A great vacation idea	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第 8 回	Unit 2 A great vacation idea	practice 自分で選んだ都市についてパラグラフライティングをする。
第 9 回	Unit 2 A great vacation idea	Unit 2 のテーマでまとめたエッセイをプレゼンテーションする。
第 10 回	Unit 2 A great vacation idea	topic focus 現代の若者のライフスタイルについてクラスメイトにインタビューする。
第 11 回	Unit 5 In my opinion	presentation focus テキストで、サーベイの仕方を学ぶ。
第 12 回	Unit 5 In my opinion	practice モデル・エッセイでパラグラフ・ライティングの構造を学ぶ。
第 13 回	Unit 5 In my opinion	opener と closer, モデル・プレゼンテーション
第 14 回	学期のまとめ	Unit 1,2 5 のまとめとリスニングテスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】プレゼンテーション用の原稿を準備する。

【テキスト（教科書）】
Present Yourself 2 (Cambridge University Press)
『TOEIC TEST リスニング　スピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出　30 %
授業 no
参加度　50 %　欠席は減点
レポート 20 %
欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。欠席は減点とする。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回と見なす。
30 分以上の遅刻・早退は欠席として取り扱う。
教科書を所持していない場合は欠席扱いとなることがある。

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーションのためのエッセイ作成期間を延長できるようにする。

【その他の重要事項】
・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・３０分以内の遅刻、早退は３回で１回とみなします。
・３０分以上の遅刻、早退は欠席１回として扱います。
・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血でき、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

藤野　輝雄

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
各ユニットのリーディングセクションの英文を読んで語彙や読解力を身に着け、英文の特集記事の語法、文法、言葉遣い、言い回し等を自分のものとし、それを自分自身のライティング課題に生かして、パラグラフの書き方を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Part 1 の Reading では，読む前にテーマについて議論し重要な単語を学ぶ。From Reading to Writing では，Reading で学んだ事柄の各自のライティングへの応用方法を学ぶ。最後に，Part 2 の Writing では，まず例文や演習問題でライティング技術に磨きをかけ，次に宿題で段階を踏んでパラグラフを作成していく。また，課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation From Reading to Writing Chapter 1: Unit one: All in the Family: Reading and writing	· Introduction to the course · Good Things Come in Fours
2	From Reading to Writing Chapter 2: Unit one: All in the Family: Reading and writing	· Stay-at-Home Dads
3	From Reading to Writing Chapter 3: Unit two: Time to Eat: Reading and writing	· Pizza around the World
4	From Reading to Writing Chapter 4: Unit two: Time to Eat: Reading and writing	· Rachael Ray: Celebrity Chef
5	From Reading to Writing Chapter 5: Unit three: Overcoming difficulties: Reading and writing	· Ray Charles
6	From Reading to Writing Chapter 6: Unit three: Overcoming difficulties: Reading and writing	· Whoopi Goldberg
7	From Reading to Writing Chapter 7: Unit four: Places Near and Far: Reading and writing	· An Anniversary to Remember
8	From Reading to Writing Chapter 8: Unit four: Places Near and Far: Reading and writing	· Seattle: A Great Place to Live
9	From Reading to Writing Chapter 9: Unit five: Keeping Up with Technology: Reading and writing	· Sorry, You've Got Mail
10	From Reading to Writing Chapter 10: Unit five: Keeping Up with Technology: Reading and writing	· Using YouTube
11	From Reading to Writing Chapter 11: Unit six: In Business and at Work: Reading and writing	· The Success of Starbucks
12	From Reading to Writing Chapter 12: Unit six: In Business and at Work: Reading and writing	· Happiness at Work
13	From Reading to Writing Chapter 13: Unit seven: Music: Reading and writing	· A Gift of Music · Presentation
14	Exam, summary, and explanation	· Checks comprehension

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
· 次回の授業の予習をすること
· 小テストのための復習をすること
· 与えられた宿題を決められた日時に提出すること
なお，本授業の予習・復習・宿題時間は、各々 1，2，1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
· Lynn Bonesteel,"From Reading to Writing 2" Student Book, ISBN 978-0-13-247403-0

【参考書】
· 藤野輝雄、「理科系のためのかならず書ける英語論文」、研究社，2006 初版

【成績評価の方法と基準】
· 小テスト (20%)，宿題 (25%)，試験 (30%)，平常点 (15%)，口頭発表 (10%)
·「平常点」では，先生の言うことをしっかり聴き，質問に自発的に大きな声で答え，与えられた課題に真面目に取り組み，授業に関係ない話をせず，他の学生の邪魔をしないかどうか等を評価する
· 教員間の評価の不公平を解消するために成績を調整する場合がある

【学生の意見等からの気づき】
英語を書くいい機会になったとのことなので，引き続きできるだけ書く機会を持ちたいと思います。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

村上　弥生

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、正確な情報に基づいて自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
大学生は、すでにかなりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かせないことが多い。
重要な文法、表現の復習を行いながら、大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、自分の集めた情報、考えをまとめた短いエッセイを作成する力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
①ネットの学習用サイトからニュースを各自選んでもらい、口頭でわかりやすくまとめて発表してもらう。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。
②①で紹介されたニュースについてクラス全体で Brain Storming を行う。ニュースと関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に出し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身に着ける。
③①, ②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自自由にテーマを設定し、エッセイを書くと仮定して、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。
④学期前半終了時点で、③で書いた第一段落から一つ選び、必要なリサーチなどを行ってエッセイ全体を作成する。
⑤学期終了時点でも同様に別個のテーマについてエッセイを作成する。
⑥④. ⑤のエッセイについては、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1〜2 回修正、書き直しを行い完成作品とする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第 2 回	学生さんによるニュースの発表 1〜3 brain storming 1〜3	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第 3 回	学生さんによるニュースの発表 4〜6 brain storming 1〜3	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 エッセイ構成の学習 効果的な段落構成の学習
第 4 回	学生さんによるニュースの発表 4〜6 brain storming 4〜6	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 5 回	学生さんによるニュースの発表 7〜9 brain storming7〜9	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 6 回	エッセイー 1 の作成	1〜9 までに関連するテーマでのエッセイの作成
第 7 回	エッセイー 1 の添削、クラスでの講評	各自作成したエッセイについての教師、クラスでの講評
第 8 回	エッセイー 1 の再作成	エッセイー 1 の再作成
第 9 回	学生さんによるニュースの発表 10〜12 brain storming10〜12	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 10 回	学生さんによるニュースの発表 13〜15 brain storming13〜15	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 11 回	学生さんによるニュースの発表 16〜18 brain storming16〜18	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 12 回	学生さんによるニュースの発表 19〜21 brain storming19〜21	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 13 回	エッセイ- 2 の作成	10〜21 までに関連するテーマでのエッセイの作成
第 14 回	エッセイ- 2 の講評、再作成	各自作成したエッセイについての教師、クラスでの講評 再作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
指定されたネットでニュースを選択し、内容をほかのクラスメートに伝わりやすくまとめなおし、必要な背景情報を収集する。
毎週、ないし隔週で、授業で紹介されたニュースや brain storming から着想を得てテーマを設定し、簡単なリサーチを行って第一パラグラフを作成する。
教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。
学期中に二回作成するエッセイについて、より詳しいリサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み (ニュースの発表、ブレインストーミングへの貢献など)（50 %)、英文エッセーの作成の過程（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生各自が英語によって自己表現する楽しさを感じるだけにとどまらず、より正確な表現に向けて、地道な努力を継続できるように促していきたい

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

L　アイヴアニック

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
Students will learn to write compositions of several well-argued and structured paragraphs on topics of interest to them and of significance in the modern world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Academic vocabulary, appropriate grammatical structures, and building informative and persuasive paragraphs according to models reflecting good English writing will take up the bulk of the time in and out of class. Students will work in pairs or small groups in class to edit their writing. Every paper will be returned to students within a week of receipt. The instructor will make general comments about the strengths and weaknesses of each first draft and give specific hints for correcting English errors.The second draft will be the one that is graded according to the point system outlined in the Grading section below with final comments and corrections. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Outline and requirements; Identifying the most common errors students make writing English and learning how to correct them	Correction symbol handout and "Pleasures of the Mountains" paragraph.
2	Review of common errors; Topic #1: Fitness routines	Class: Unit 1 Writing Model, Writing Skill & Vocabulary exercises; HW: Unit 1 Grammar exercises
3	Topic #1: Fitness routines	Class: Unit 1 Grammar, Collaborative Writing exercises; HW: Comp. #1 1st draft
4	Topic #1: Fitness routines	Class: Peer and instructor editing of Comp. #1; HW: Comp. #1 final draft
5	Topic #2: Career choices	Class: Collect Comp. #1 final draft; Unit 4 Writing Model, Writing Skill & Vocabulary exercises; HW: Unit 4 Grammar exercises
6	Topic #2: Career choices	Class: Unit 4 Grammar, Collaborative Writing exercises; HW: Comp. #2 1st draft
7	Topic #2: Career choices	Class: Class: Peer and instructor editing of Comp. #2; HW: Comp. #2 final draft
8	Topic #3: Business FAQ page	Class: Collect Comp. #2 final draft; Unit 5 Writing Model, Writing Skill & Vocabulary exercises; HW: Unit 5 Grammar exercises
9	Topic #3: Business FAQ page	Class: Unit 5 Grammar, Collaborative Writing exercises; HW: Comp. #3 1st draft
10	Topic #3: Business FAQ page	Class: Peer and instructor editing of Comp. #3; HW: Comp. #3 final draft
11	Topic #4: Earthquakes	Class: Collect Comp. #3 final draft; Unit 7 Writing Model, Writing Skills & Vocabulary exercises; HW: Unit 7 Grammar exercises
12	Topic #4: Earthquakes	Class: Unit 7 Grammar, Collaborative Writing exercises; HW: Comp. #4 1st draft
13	Topic #4: Earthquakes	Class: Peer and instructor editing of Comp. #4; HW: Comp. #4 final draft
14	Vocabulary and grammar review	Class: Collect Comp. #4 final draft; review exercises

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Each week students will be expected to do homework, usually writing either a first or final draft of a required paper. There will also be some exercises assigned in the textbook in preparation for writing.

【テキスト（教科書）】
Burns, Walton: Inside Writing: The Academic Word List in Context, INTRO, New York and London: Oxford University Press, 2014. ISBN 978-0-19-460106-1

【参考書】
Good electronic English-English dictionary

【成績評価の方法と基準】
Each of the four edited and revised final drafts students submit will be evaluated on the basis of content (0-15 points) and expression (0-15 points), for a maximum of 120 points total (60%). Class participation and pair/group work will be evaluated each week on the basis of the contribution the student makes to learning in pair/group work and overall, for a total of 80 points (40%).Students are expected to submit papers in class on time. If a student is absent from a class in which a paper is to be submitted, that paper must be submitted by the next class. Papers submitted more than one week late will lose 5 points for every additional week of lateness.

【学生の意見等からの気づき】
Everything went well last year.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring their textbook and lined A4 size paper. They may type their assignments or write them carefully and legibly by hand at home.

【その他の重要事項】
There will be no final exam. Students who do not turn in two or more of the four required final drafts by the last day of class will earn a D or E for the course, regardless of the quality of their performance in class or on the one or two final drafts they do submit.

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

川口　悠子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・文法的に正しく、読み手に伝わりやすい文を書けるようになる。
・分かりやすく、かつ説得力のある文章構成がどのようなものか理解し、そのような文章を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、予習を元に、ひとつひとつの文を作文するための文法・語法とパラグラフ（段落）の構造を確認します。授業で確認した文法・語法を定着させるために期末テストをおこないます。また、学期中に 3 回、まとまった長さの作文を課します。授業中に予習部分の理解度を確認し、作文を添削して、フィードバックとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション/ Chapter 1 What Is a Paragraph?	授業の進め方や予習の仕方について説明する。またパラグラフの基本構造について学ぶ。
第 2 回	Chapter 6 Description of Place and Locations	場所や位置の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第 3 回	Chapter 8 Comparison and Contrast	比較について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第 4 回	Essay Writing (1)	エッセイ（1）を執筆する。
第 5 回	Essay Review (1)	エッセイ（1）を返却し、演習形式で解説する。
第 6 回	Chapter 9 Cause and Effect	物事の原因や結果について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第 7 回	Chapter 10 Problems and Solutions	問題点を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるよう練習する。
第 8 回	Essay Writing (2)	エッセイ（2）を執筆する。
第 9 回	Essay Review (2)	エッセイ（2）を返却し、演習形式で解説する。
第 10 回	Chapter 11 Your Opinion -- Agree	ある物事に対して賛成意見を述べる際の表現を学び、自分の主張をまとめた文章を書く練習をする。
第 11 回	Chapter 12 Your Opinion -- Disagree	ある物事に対して反対意見を述べる際の表現を学び、自分の主張をまとめた文章を書く練習をする。
第 12 回	Chapter 13 Data Analysis	グラフや表について述べる際によく用いられる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第 13 回	Essay Writing (3)	エッセイ（3）を執筆する。
第 14 回	期末試験／ Essay Review (3)	期末試験をおこなう。またエッセイ（3）を返却し、演習形式で解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・語学の勉強に、予習と反復練習は決定的に重要です。テキストの指示された部分をしっかりと予習してきてください。
・作文の課題は、よく辞書を引き、言葉の意味を吟味しながら書いてください。
・授業で扱った文法・語法の定着を目的として、期末試験をおこないます。準備して臨んでください。

【テキスト（教科書）】
仲谷都、吉原学、Ruth Fallon, Smart Writing: Active Approach to Paragraph Writing（『はじめてのパラグラフ・ライティング』成美堂、2017 年）

【参考書】
綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006 年）
小池直己、佐藤誠司『実践英文法 FOCUS』（南雲堂、2009 年）
ほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
エッセイ　各 20%×3 = 60%
期末試験 30%
授業参加度 10%
なお、5 回以上正当な理由なく欠席した場合は不可とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんが質問や発言がしやすい雰囲気を作るよう、心がけます。

【その他の重要事項】
きちんとした辞書を毎回必ず持参して下さい。また、初回の授業で予習の仕方を説明しますので、それまでに必ずテキストを入手しておいてください。
なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

ALDER　mark

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure.　By the end of this course, students will understand how and why to write different types of essays as well as how to complete a finished high quality paper.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on.　Essays topics will be mostly chosen from the student's major.　Feedback will be given one to one and as a class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to academic writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance.
2	How to write essays 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques.
3	How to write essays 2	An introduction of several various kinds of essays. Students will practice writing introductions and conclusions.
4	DVD summary 1	Students will understand the basics of writing a group summary after viewing a DVD.
5	DVD summary 2	In a group, students will create a summary and present it after watching the DVD.
6	Division and classification essay 1	Students will understand the basics of writing a division and classification essay and be given some class time to write.
7	Division and classification essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
8	Cause and Effect Essay 1	Students will understand the basics of writing a cause and effect essay and be given some class time to write.
9	Cause and Effect Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
10	Comparison/Contrast Essay 1	Students will understand the basics of writing a comparison/contrast essay and be given some class time to write.
11	Comparison/Contrast Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
12	Writing Summaries 1	Students will understand the basics of writing a summary and be given some class time to write.
13	Writing Summaries 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
14	Final Presentation 1	Students will be asked to present one of their essays in a presentation style.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Writing assignments as well as self-editing tasks.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Ready to Write More. Karen Blanchard. Longman Preess.

【成績評価の方法と基準】
Essays-70%
Final essay /Presentation-30%

【学生の意見等からの気づき】
Group editing will be a bigger focus.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionary, powerpoint.

【その他の重要事項】
Could you please insert Japanese common syllabus below in the【授業の概要と目的（何を学ぶか）】Outline and objectives space. The content that is there can be added to 【到達目標】Goal.
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

尾関　裕子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に着け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
基本的論理展開に必要な考え方・表現・文法を確認し、典型的なパラグラフの論理展開の理解を深め実際にパラグラフを書けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回テキストのレッスンを 1 つ進みます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。提出された課題については採点のうえ、返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	unit 1-1 アカデミックライティングとは	パラグラフの基本構造を学ぶ
2	unit 1-2 一英文を書くとは	英語と日本語の違いに着目し英語表現におけるポイントを把握する
3	unit 2-1 narrative paragraph	narrative paragraph はどのように表現するか
4	unit 2-2 2-2 descriptive paragraph	descriptive paragraph はどのように表現するか
5	unit 2-3 narrative/descriptive paragtaph まとめ	narrative/descriptive paragraph を実際に書く
6	unit 3-1 comparison/contrast paragraph	ものごとの共通点、相違点はどのように表現するか
7	unit 3-2　Advantages and disadvantages	ものごとのメリット、デメリットはどのように表現するか
8	unit 3-3　Advantages and disadvantages　まとめ	ものごとのメリット・デメリットについて実際にまとまった英文を書く
9	unit4-1　cause and effect	原因と結果を表現するにはどのようにするか・エクササイズ（1）
10	unit 4-2　cause and effect	原因と結果を表現するにはどのようにするか・エクササイズ（2）
11	unit 4-3　cause and effect	ものごとの原因と結果についてまとまった英文を書く
12	unit 5-1 opinion paragraph	賛成意見を表現するにはどのようにするか
13	unit 5-2 opinion paragraph	反対意見を表現するにはどのようにするか
14	これまでのまとめ/試験	様々な内容のパラグラフ展開に必要な要素を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業相当範囲の文法問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

【テキスト（教科書）】
A Guide to English Academic Writing for Beginners, Akira Tajino 他、Asahi Press, ￥1800

【参考書】
「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times) ほか。授業時に必用に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
提出物３０％。期末テスト５５％。平常点１５％。テストを受けるためには全授業数の 3 分の２は出席していること。遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。遅延証明の有効は３回までです。授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話の使用は禁止。

【学生の意見等からの気づき】
黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しずらいですので、各授業の終わりには課題にそった英作文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
英和・和英辞書

【その他の重要事項】
授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。
出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leadint to writing paragraphs and essays in which students develop the founbdations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

早舩　由紀見

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
400 ワード程度の英語論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。
学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。
英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。
さらに、毎回英文読解の宿題を課す。
提出された英文、文法課題、宿題については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第 2 回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第 3 回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第 4 回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第 5 回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第 6 回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第 7 回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第 8 回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第 9 回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第 10 回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第 11 回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。 他人の書いた英文を校正する。
第 12 回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第 13 回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第 14 回	論文評価	完成した論文を評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】英文読解、英作文、文法、ボキャブラリーの習得。

【テキスト（教科書）】
指定教科書なし。

【参考書】
佐藤洋一　著「理工系のための英文法再入門」(オーム社)
高山英士、森一泰　著「English EX」(Linkage Club)

【成績評価の方法と基準】
授業参加度： 20%
授業内演習および宿題提出： 20%
論文： 30%
期末試験： 30%

【学生の意見等からの気づき】
文法演習および宿題の解説に時間をかけ、丁寧に行う。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

ALDER　mark

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure.　Students will be able to understand how and why to write different types of essays as well as how to turn their essay into a power point presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on.　Essays topics will be mostly chosen from the student's major.　Feedback will be given one to one and as a class. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to academic writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance.
2	How to write essays 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques.
3	How to write essays 2	An introduction of several various kinds of essays. Students will practice writing introductions and conclusions.
4	Summary DVD 1	Students will understand the basics of writing a summary. Selected portions of a DVD will be viewed.
5	summary DVD 2	In groups, students will write, edit and present their DVD summaries.
6	Division and Classification Essay 1	Students will understand the basics of writing a division and classification essay and be given some class time to write.
7	Division and Classification Essay 1	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
8	Cause and Effect Essay 1	Students will understand the basics of writing a cause and effect essay and be given some class time to write.
9	Cause and Effect Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
10	Comparison/Contrast Essay 1	Students will understand the basics of writing a comparison/contrast essay and be given some class time to write.
11	Comparison/Contrast Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
12	Writing summaries 1	Students will understand the basics of writing a summary and be given some class time to write.
13	Writing summaries 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
14	Final Presentation 1	Students will be asked to present one of their essays in a presentation style.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Writing assignments not finished within the alloted time as well as self-editing tasks. Also creating a power point presentation for the final evaluation.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Ready to write more. Karen Blanchard. Longman Press.

【成績評価の方法と基準】
Essays 70%
Final essay and presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】
Group editing activities will be a bigger focus.

【学生が準備すべき機器他】
Blackboard, powerpoint, OHP, DVD player.

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

尾関　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に着け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
基本的論理展開に必要な考え方・表現・文法を確認し、典型的なパラグラフの論理展開の理解を深め実際にパラグラフを書けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回テキストのレッスンを 1 つ進みます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。提出の際には採点のうえで返却されます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	unit 1-1 アカデミックライティングとは	パラグラフの基本構造を学ぶ
2	unit 1-2 一英文を書くとは	英語と日本語の違いに着目し英語表現におけるポイントを把握する
3	unit 2-1 narrative paragraph	narrative paragraph はどのように表現するか
4	unit 2-2 2-2 descriptive paragraph	descriptive paragraph はどのように表現するか
5	unit 2-3 narrative/descriptive paragtaph まとめ	narrative/descriptive paragraph を実際に書く
6	unit 3-1 comparison/contrast paragraph	ものごとの共通点、相違点はどのように表現するか
7	unit 3-2　Advantages and disadvantages	ものごとのメリット、デメリットはどのように表現するか
8	unit 3-3　Advantages and disadvantages　まとめ	ものごとのメリット・デメリットについて実際にまとまった英文を書く
9	unit4-1　cause and effect	原因と結果を表現するにはどのようにするか・エクササイズ（1）
10	unit 4-2　cause and effect	原因と結果を表現するにはどのようにするか・エクササイズ（2）
11	unit 4-3　cause and effect	ものごとの原因と結果についてまとまった英文を書く
12	unit 5-1 opinion paragraph	賛成意見を表現するにはどのようにするか
13	unit 5-2 opinion paragraph	反対意見を表現するにはどのようにするか
14	これまでのまとめ/試験	様々な内容のパラグラフ展開に必要な要素を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業相当範囲の文法問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

【テキスト（教科書）】
A Guide to English Academic Writing for Beginners, Akira Tajino 他、Asahi Press, ￥1800

【参考書】
「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times) ほか。授業時に必用に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
提出物３０％。期末テスト５５％。平常点１５％。テストを受けるためには全授業数の 3 分の２は出席していること。遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。遅延証明の有効は３回までです。授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話の使用は禁止。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しずらいですので、各授業の終わりには課題にそった英作文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
英和・和英辞書

【その他の重要事項】
授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。
出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leadint to writing paragraphs and essays in which students develop the founbdations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

早舩　由紀見

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
400 ワード程度の英語論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。
学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。
英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。
さらに、毎回英文読解の宿題を課す。
提出された英文、文法課題、宿題については、次の授業で返却し、各自へのフィードバックを行うほか、授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第 2 回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第 3 回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第 4 回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第 5 回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第 6 回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第 7 回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第 8 回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第 9 回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第 10 回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第 11 回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。 他人の書いた英文を校正する。
第 12 回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第 13 回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第 14 回	論文評価	完成した論文を評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】英文読解、英作文、文法、ボキャブラリーの習得。

【テキスト（教科書）】
指定教科書なし。

【参考書】
佐藤洋一　著「理工系のための英文法再入門」(オーム社)
高山英士、森一泰　著「English EX」(Linkage Club)

【成績評価の方法と基準】
授業参加度： 20%
授業内演習および宿題提出： 20%
論文： 30%
期末試験： 30%

【学生の意見等からの気づき】
文法演習および宿題の解説に時間をかけ、丁寧に行う。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

磯部　芳恵

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
This subject aims to improve students' overall confidence in communicating and writing skills. It also aims at improving their listening skills by using the textbook for TOEIC.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
今年度はスケジュール通りに開校する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Getting ready	授業の進め方と評価、プレゼンテーションのについて説明する。
第 2 回	Getting ready	topic focus それぞれの尊敬する人についてペアで質問しあう。テキストにある有名人について聞き取りをする。
第 3 回	Unit 1 A person to admire	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第 4 回	Unit 1 A person to admire	practice 自分の尊敬する人についてパラグラフライティングする。
第 5 回	Unit 1 A person to admire	Unit 1 のテーマでまとめたエッセイをプレゼンテーションする。
第 6 回	Unit 2 A great vacation idea	topic focus 自分の理想とする旅行の計画について話し、テキストにある 3 つの都市についてリスニングをする。 presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第 7 回	Unit 2 A great vacation idea	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第 8 回	Unit 2 A great vacation idea	practice 自分で選んだ都市についてパラグラフライティングをする。
第 9 回	Unit 2 A great vacation idea	Unit 2 のテーマでまとめたエッセイをプレゼンテーションする。
第 10 回	Unit 2 A great vacation idea	topic focus 現代の若者のライフスタイルについてクラスメイトにインタビューする。
第 11 回	Unit 5 In my opinion	presentation focus テキストで、サーベイの仕方を学ぶ。
第 12 回	Unit 5 In my opinion	practice モデル・エッセイでパラグラフ・ライティングの構造を学ぶ。
第 13 回	Unit 5 In my opinion	opener と closer, モデル・プレゼンテーション
第 14 回	学期のまとめ	Unit 1,2 5 のまとめとリスニングテスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】プレゼンテーション用の原稿を準備する。

【テキスト（教科書）】
Present Yourself 2 (Cambridge University Press)
『TOEIC TEST リスニングスピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出　30 %
授業での参加度　50 %　欠席は減点
レポート 20 %
欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格を失う。欠席は減点とする。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回と見なす。
30 分以上の遅刻・早退は欠席として取り扱う。
教科書を所持していない場合は欠席扱いとなることがある。

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーションのためのエッセイ作成期間を延長できるようにする。

【その他の重要事項】
・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
・３０分以内の遅刻、早退は３回で１回とみなします。
・３０分以上の遅刻、早退は欠席１回として扱います。
・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血でき、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

村上　弥生

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、正確な情報に基づいて自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
大学生は、すでにかなりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かせないことが多い。
重要な文法、表現の復習を行いながら、大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、自分の集めた情報、考えをまとめた短いエッセイを作成する力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
①ネットの学習用サイトからニュースを各自選んでもらい、口頭でわかりやすくまとめて発表してもらう。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。
②①で紹介されたニュースについてクラス全体で Brain Storming を行う。ニュースと関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に出し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身に着ける。
③①, ②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自自由にテーマを設定し、エッセイを書くと仮定して、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。
④学期前半終了時点で、③で書いた第一段落から一つ選び、必要なリサーチなどを行ってエッセイ全体を作成する。
⑤学期終了時点でも同様に別個のテーマについてエッセイを作成する。
⑥④. ⑤のエッセイについては、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1～2 回修正、書き直しを行い完成作品とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第 2 回	学生さんによるニュースの発表 1～3 brain storming 1～3	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第 3 回	学生さんによるニュースの発表 4～6 brain storming 1～3	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 エッセイ構成の学習 効果的な段落構成の学習
第 4 回	学生さんによるニュースの発表 4～6 brain storming 4～6	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 5 回	学生さんによるニュースの発表 7～9 brain storming7～9	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 6 回	エッセイー 1 の作成	1～9 までに関連するテーマでのエッセイの作成
第 7 回	エッセイー 1 の添削、クラスでの講評	各自作成したエッセイについての教師、クラスでの講評
第 8 回	エッセイー 1 の再作成	エッセイー 1 の再作成
第 9 回	学生さんによるニュースの発表 10～12 brain storming10～12	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 10 回	学生さんによるニュースの発表 13～15 brain storming13～15	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 11 回	学生さんによるニュースの発表 16～18 brain storming16～18	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 12 回	学生さんによるニュースの発表 19～21 brain storming19～21	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 13 回	エッセイ- 2 の作成	10～21 までに関連するテーマでのエッセイの作成
第 14 回	エッセイ- 2 の講評、再作成	各自作成したエッセイについての教師、クラスでの講評 再作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定されたネットでニュースを選択し、内容をほかのクラスメートに伝わりやすくまとめなおし、必要な背景情報を収集する。
毎週、ないし隔週で、授業で紹介されたニュースや brain storming から着想を得てテーマを設定し、簡単なリサーチを行って第一パラグラフを作成する。教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。
学期中に二回作成するエッセイについて、より詳しいリサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み (ニュースの発表、ブレインストーミングへの貢献など)（50 %）、英文エッセーの作成の過程（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生各自が英語によって自己表現する楽しさを感じるだけにとどまらず、より正確な表現に向けて、地道な努力を継続できるように促していきたい

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小畑　美貴

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
※このクラスは補講クラスです。学生証番号が２１から始まる新入生はこのクラスには原則参加出来ません。指定されたクラスで履修するようにして下さい※
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウィルス感染拡大防止の為、現時点では授業形態が未定です。決定次第授業支援システムより皆さんにご連絡致します。場合によっては、授業予定は変更の可能性もあります。
テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。初回授業時に各ユニットの担当者を決め、各学期１回は授業内で発表をしてもらいます。また、前回の授業で学習した内容が定着しているか確認する為に、毎回の授業で小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業内に行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit1: Welcome to a World within a Pair of Glasses (1)	仮想現実の世界に関する文章を読み解く
3	Unit1: Welcome to a World within a Pair of Glasses (2)	小テスト① 仮想現実の世界に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
4	Unit2: The Secret of the Stradivarius (1)	小テスト② ストラディバリウスの音色に関する文章を読み解く
5	Unit2: The Secret of the Stradivarius (2)	小テスト③ ストラディバリウスの音色に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
6	Unit3: Getting Rid of Plastic in the Ocean (1)	小テスト④ 海からプラスティックの廃棄物をなくす方法に関する文章を読み解く
7	Unit3: Getting Rid of Plastic in the Ocean (2)	小テスト⑤ 海からプラスティックの廃棄物をなくす方法に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
8	Unit4: Preventing the World's Increasing Allergies (1)	小テスト⑥ アレルギーとその予防・対応策に関する文章を読み解く
9	Unit4: Preventing the World's Increasing Allergies (2)	小テスト⑦ アレルギーとその予防・対応策に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
10	Unit5: Journey to the Lonely Outer World (1)	小テスト⑧ 冥王星への旅に関する文章を読み解く
11	Unit5: Journey to the Lonely Outer World (2)	小テスト⑨ 冥王星への旅に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
12	Unit6: Archaeoiogists, Aliens and Earth (1)	小テスト⑩ 考古学で探る古代のミステリーに関する文章を読み解く
13	Unit6: Archaeoiogists, Aliens and Earth (2)	小テスト⑪ 考古学で探る古代のミステリーに関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
14	授業内学期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・前回の授業内容を復習し、次週の小テストに備える。
・返却された小テストを見直し、最終試験へ備える。
・発表担当のユニットに関しては、発表の準備を入念に行う。

【テキスト（教科書）】
Faudree, Michael C. "Science Adventures", Kitihara Shoten. (￥1,900)

【参考書】
英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
【オンラインのみの場合】
課題提出　100 %
【対面のみの場合】
小テスト　45 %
学期末テスト　40 %
授業への積極的な参加姿勢　15 %
ただし、学期途中で授業形態が変更になる可能性もあり、その際は再度評価方法を変更せざるを得なくなります。変更する際は、事前に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
今学期の授業形態は未定ですが、オンラインでも対面でも、それぞれの特性を生かして、教科書の内容を学生が確実に理解し、学ぶことが出来るように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

鈴木　幸

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
Goals to be achieved:
1. To be able to discuss familiar/social issues in English.
2. To be able to express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This class will be carried out following the textbook: 2 lessons (DAY) per week basically. Students will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q & A, group/pair work. Students must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance DAY 1 Wish You Were Here	· Introduction · Let's talk about "holidays"!
2	DAY 2 Get Well Soon DAY 3 Money Makes the World Go Round	· Speaking Quiz · Let's talk about "illness" & "bank"!
3	DAY 4 May the Force Be with You! DAY 5 Bon Voyage	· Writing Quiz · Let's talk about "movies" & "travel"!
4	DAY 6 For Here or to Go? DAY 7 What's Your E-mail Address?	· Speaking Quiz · Let's talk about "fast food" & computer"!
5	DAY 8 Taking Care of Business DAY 9 Shop 'Til You Drop	· Writing Quiz · Let's talk about "business" & "shopping"!
6	DAY 10 You Can't Miss It DAY 11 Go Team Go	· Speaking Quiz · Let's talk about "direction" & "sports"!
7	DAY 12 Talk to the Animals DAY 13 Up, Up and Away	· Writing Quiz · Let's talk about "pets" & "flight"!
8	DAY 14 On the Sunny Side of the Street DAY 15 Family Fun	· Speaking Quiz · Let's talk about "weather" & "family"!
9	DAY 16 Do the Clothe Make the Man? DAY 17 You're Getting on My Nerves!	· Writing Quiz · Let's talk about "clothes" & "quarrel"!
10	DAY 18 What's Cooking? DAY 19 Stop! Thief!	· Speaking Quiz · Let's talk about "cooking" & "police"!
11	DAY 20 Putting a Square Peg in a Round Hole DAY 21 Money Talks	· Writing Quiz · Let's talk about "shapes" & "money"!
12	DAY 22 The Daily Grind DAY 23 What Do You Do?	· Let's talk about "daily life" & "job"! · Presentation 1
13	DAY 24 It's a Sign of the Times	· Let's talk about "sign"! · Presentation 2
14	Final Examination	· Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

【テキスト（教科書）】
Shari J. Berman, et al., Topic by Topic TOEIC Listening, SEIBIDO, 2000/2020.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Contribution to the class: 30%
Assignment: 20% (including presentation)
Quiz: 20%
Exam: 30%
There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】
I hope students enjoy studying English.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

小畑　美貴

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
※この授業は補講クラスです。学生証番号が２１から始まる新入生は、原則履修できません。各自指定されたクラスに登録するようにして下さい※
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウィルス感染拡大防止の為、現時点では授業形態が未定です。決定次第授業支援システムより皆さんにご連絡致します。場合によっては、授業予定は変更の可能性もあります。
テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。初回授業時に各ユニットの担当者を決め、各学期１回は授業内で発表をしてもらいます。また、前回の授業で学習した内容が定着しているか確認する為に、毎回の授業で小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit7: Dinosaur and Human Co-Existence (1)	恐竜と人類の共存に関する文章を読み解く
3	Unit7: Dinosaur and Human Co-Existence (2)	小テスト① 恐竜と人類の共存に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
4	Unit8: Face Recognition Systems All Around Us (1)	小テスト② 顔認識システムに関する文章を読み解く
5	Unit8: Face Recognition Systems All Around Us (2)	小テスト③ 顔認識システムに関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
6	Unit9: Miracle Drink: Green Tea and Action of Catechin (1)	小テスト④ 緑茶とカテキンの効能に関する文章を読み解く
7	Unit9: Miracle Drink: Green Tea and Action of Catechin (2)	小テスト⑤ 緑茶とカテキンの効能に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
8	Unit10: Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop Global Warming? (1)	小テスト⑥ 海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化に関する文章を読み解く
9	Unit10: Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop Global Warming? (2)	小テスト⑦ 海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
10	Unit11: Time Warp: Taking a Journey to Black Holes in Space (1)	小テスト⑧ ブラックホールとタイムワープの関係性に関する文章を読み解く
11	Unit11: Time Warp: Taking a Journey to Black Holes in Space (1)(2)	小テスト⑨ ブラックホールとタイムワープの関係性に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
12	Unit12: Plastic Surgery (1)	小テスト⑩ 美容整形手術に関する文章を読み解く
13	Unit12: Plastic Surgery (2)	小テスト⑪ 美容整形手術に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
14	授業内学期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・前回の授業内容を復習し、次週の小テストに備える。
・返却された小テストを見直し、最終試験へ備える。
・発表担当のユニットに関しては、発表の準備を入念に行う。

【テキスト（教科書）】
Faudree, Michael C. "Science Adventures", Kitihara Shoten. (￥1,900)

【参考書】
英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
【オンラインのみの場合】
課題提出　100 %
【対面のみの場合】
小テスト　45 %
学期末テスト　40 %
授業への積極的な参加姿勢　15 %
ただし、学期途中で授業形態が変更になる可能性もあり、その際は再度評価方法を変更せざるを得なくなります。変更する際は、事前に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
現時点では、授業形態が未定ではありますが、オンラインでも対面でも、それぞれの特性をうまく生かすことで、学生の皆さんが、教科書の内容を正確に理解し、学習することが出来るように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

鈴木　幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
Goals to be achieved:
1. To be able to discuss familiar/social issues in English.
2. To be able to express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This class will be carried out following the textbook: 2 lessons (DAY) per week basically. Students will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q & A, group/pair work. Students must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance DAY 1 Wish You Were Here	· Introduction · Let's talk about "holidays"!
2	DAY 2 Get Well Soon DAY 3 Money Makes the World Go Round	· Speaking Quiz · Let's talk about "illness" & "bank"!
3	DAY 4 May the Force Be with You! DAY 5 Bon Voyage	· Writing Quiz · Let's talk about "movies" & "travel"!
4	DAY 6 For Here or to Go? DAY 7 What's Your E-mail Address?	· Speaking Quiz · Let's talk about "fast food" & computer"!
5	DAY 8 Taking Care of Business DAY 9 Shop 'Til You Drop	· Writing Quiz · Let's talk about "business" & "shopping"!
6	DAY 10 You Can't Miss It DAY 11 Go Team Go	· Speaking Quiz · Let's talk about "direction" & "sports"!
7	DAY 12 Talk to the Animals DAY 13 Up, Up and Away	· Writing Quiz · Let's talk about "pets" & "flight"!
8	DAY 14 On the Sunny Side of the Street DAY 15 Family Fun	· Speaking Quiz · Let's talk about "weather" & "family"!
9	DAY 16 Do the Clothe Make the Man? DAY 17 You're Getting on My Nerves!	· Writing Quiz · Let's talk about "clothes" & "quarrel"!
10	DAY 18 What's Cooking? DAY 19 Stop! Thief!	· Speaking Quiz · Let's talk about "cooking" & "police"!
11	DAY 20 Putting a Square Peg in a Round Hole DAY 21 Money Talks	· Writing Quiz · Let's talk about "shapes" & "money"!
12	DAY 22 The Daily Grind DAY 23 What Do You Do?	· Let's talk about "daily life" & "job"! · Presentation 1
13	DAY 24 It's a Sign of the Times	· Let's talk about "sign"! · Presentation 2
14	Final Examination	· Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

【テキスト（教科書）】
Shari J. Berman, et al., Topic by Topic TOEIC Listening, SEIBIDO, 2000/2020.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Contribution to the class: 30%
Assignment: 20% (including presentation)
Quiz: 20%
Exam: 30%
There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】
I hope students enjoy studying English.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

川口　悠子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
・身近なテーマを手がかりに、日常会話コミュニケーション能力を身につける。
・論理的に自分の意見を述べ、相手の意見に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な文法事項や単語などを確認しつつ、ペアやグループでの会話練習や発表などのアクティヴィティを中心に授業を進めていきます。随時小テストをおこない、学んだ表現などの定着を図ります。会話練習や発表にあたってはより適切な表現を提示したり、小テストの解説をしたりして、フィードバックを図ります。
語学の授業、とくにコミュニケーションの授業ですから、能力を高めるためには、受講生の皆さんが積極的に授業に参加してくれることが一番大切です。どうか照れずに口を開いてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Introduction	授業の進め方や予習の仕方について説明する
2 回	会話練習（1） Family	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
3 回	会話練習（2） Friends	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
4 回	会話練習（3） Culture	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
5 回	会話練習（4） Education	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
6 回	スピーキング・テスト（1）	これまで学んだ内容を踏まえて、会話のテストをおこなう
7 回	会話練習（5） Sports	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
8 回	会話練習（6） Work	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習。
9 回	会話練習（7） Food	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
10 回	スピーキング・テスト（2）	これまで学んだ内容を踏まえて、会話のテストをおこなう
11 回	期末試験、発表準備（1）	期末試験をおこなう。発表の構成や語彙について学ぶ
12 回	発表準備（2）	発表の構成や語彙について学ぶ
13 回	発表準備（3）	口頭発表の原稿をクラス内で交換し、推敲する
14 回	発表	発表をおこない、クラスメートの発表にコメントをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・指示された部分を丁寧に予習すること。語学の授業は予習が決定的に重要で、かつ予習をしていないと、ペア練習のパートナーに迷惑がかかります。
・音声教材をダウンロードし，予習及び復習で活用すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて、プリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】
スピーキング・テスト（20%×2）
期末テスト（20%）
発表（30%）
授業参加（10%）
＊ 5 回以上正当な理由なく欠席した場合は不合格とします。
＊スピーキング・テスト、期末テスト、発表、のうち、どれか一つかそれ以上を欠席した場合、不合格とします。
＊予習が不充分な場合や授業参加が不充分な場合は欠席扱いとすることがあります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんが口を開きやすい、楽しい雰囲気を作るよう心がけます。また、発表の準備に時間をかけたいという意見があったので、準備にかける授業回数を増やしました。

【その他の重要事項】
授業には、かならずきちんとした辞書を持参してください。
なお、授業の進行や受講生の皆さんの要望により、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

鈴木　幸

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
Goals to be achieved:
1. To be able to discuss familiar/social issues in English.
2. To be able to express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This class will be carried out following the textbook: 2 lessons (DAY) per week basically. Students will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q & A, group/pair work. Students must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance DAY 1 Wish You Were Here	· Introduction · Let's talk about "holidays"!
2	DAY 2 Get Well Soon DAY 3 Money Makes the World Go Round	· Speaking Quiz · Let's talk about "illness" & "bank"!
3	DAY 4 May the Force Be with You! DAY 5 Bon Voyage	· Writing Quiz · Let's talk about "movies" & "travel"!
4	DAY 6 For Here or to Go? DAY 7 What's Your E-mail Address?	· Speaking Quiz · Let's talk about "fast food" & computer"!
5	DAY 8 Taking Care of Business DAY 9 Shop 'Til You Drop	· Writing Quiz · Let's talk about "business" & "shopping"!
6	DAY 10 You Can't Miss It DAY 11 Go Team Go	· Speaking Quiz · Let's talk about "direction" & "sports"!
7	DAY 12 Talk to the Animals DAY 13 Up, Up and Away	· Writing Quiz · Let's talk about "pets" & "flight"!
8	DAY 14 On the Sunny Side of the Street DAY 15 Family Fun	· Speaking Quiz · Let's talk about "weather" & "family"!
9	DAY 16 Do the Clothe Make the Man? DAY 17 You're Getting on My Nerves!	· Writing Quiz · Let's talk about "clothes" & "quarrel"!
10	DAY 18 What's Cooking? DAY 19 Stop! Thief!	· Speaking Quiz · Let's talk about "cooking" & "police"!
11	DAY 20 Putting a Square Peg in a Round Hole DAY 21 Money Talks	· Writing Quiz · Let's talk about "shapes" & "money"!
12	DAY 22 The Daily Grind DAY 23 What Do You Do?	· Let's talk about "daily life" & "job"! · Presentation 1
13	DAY 24 It's a Sign of the Times	· Let's talk about "sign"! · Presentation 2
14	Final Examination	· Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Students are supposed to prepare for each class, quiz and assignment.

【テキスト（教科書）】
Shari J. Berman, et al., Topic by Topic TOEIC Listening, SEIBIDO, 2000/2020.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Contribution to the class: 30%
Assignment: 20% (including presentation)
Quiz: 20%
Exam: 30%
There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】
I hope students enjoy studying English.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

久慈　美貴

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語を実社会で使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活にかかわる会話に慣れ、身の回りのことを英語で説明する練習をする。幅広いコミュニケーション力の習得と、異文化に対する理解を深めることを目標とする。

【到達目標】
日常的に使用する基礎語彙を使い、基礎的な文法に沿って平明な説明を口頭でできる。対話を深め、より多くの情報を取得するために、多面的で多彩な質問を数多く発することができるように、表現を学び、使えるようになる。ペアワークやグループワークを通して、コミュニケーションのための戦略を考えてみよう。
短文スキットの聞き取り・書き取り練習を通じてリスニングスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
配布プリントのスキットを参考に語彙を増やし、表現練習をする。プリントを配布し、ペア・ワークやグループ・ワークで、トピックに関するインタビュー＆レポートを作成したり、ロールプレイをする。また、翌週のテーマに関連したボキャブラリーシートを配布するので、あらかじめ発音や用法を調べておいてほしい。　授業のはじめに前回の提出課題からいくつか紹介し、全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Getting to Know Your Group(Speculating)	かんたんな ice-breaking game とインタヴューを通じて、グループ内またはペアワークのパートナーを描写してみよう。
2	Getting to Know Your Group(Role-playing)	4 人程度のグループに分かれ、配布プリントの役割指定にしたがって、会話スキットを作成し、演じてもらいます
3	Annual event	日常会話のスキットを使って、日本の慣習を説明してみましょう。
4	Presentation: Annual event	グループで構成した Annual event の説明会話スキットを演じてみましょう。
5	Lifestyle Survey I (on food)	Interview of your lifestyle（より詳しい情報を得るための follow-up question を考える）
6	Lifestyle Survey II (on expense)	Interview of your lifestyle
7	Transportation	日常会話のスキットを使って、時間・場所・方向などを表す前置詞を練習します。
8	Making up a scene	日常会話のスキットを使って、グループごとにシーンを構成し、演じて見ましょう。
9	Situations from dialogue	一連のインタヴューを完成させ、シチュエーションを明確にするために必要な表現を考えてみましょう。
10	Guess What?(Making Questions)	Yes/No Question & Wh-Question
11	Speculation from the appearnce of people	詳細情報を得るために有効な質問をできるだけたくさん考えてみましょう。
12	Explaining the Scene	Making explanation on a short movie
13	Explaining the movement of body	動作の説明と感覚動詞を使った表現の練習をしてみましょう。
14	Final Interview	Interview and Report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各 2 時間を標準とする】会話スキットのプリントやボキャブラリーシートを配布するので、発音・語彙をチェックしてください。グループ指定してインタヴューや会話スキットの作成をしますので、事前にどんな表現ができるか考えて、グループ内で積極的にアイデアを出してみましょう。また、毎回授業の冒頭にリスニングディクテーションを行いますので、自分がアクセスできるメディア（ラジオ講座・テレビ講座その他）を使っていろいろな英語の聞き取りになじんでおきましょう。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布

【参考書】
随時プリントを配布します。授業時はかならず辞書を携行してください。

【成績評価の方法と基準】
Interview session のレポート 20 %、授業時の発表（レポート、スピーチ）およびボキャブラリークイズなどの提出物 80 %として評価する。3 回以上欠席した場合、評価の対象としない。遅刻も回数に応じて減点されるので、注意のこと。スピーチやグループワークでのインタヴューなど平常点の評価割合が大きいので、欠席しないようにしてください。
Interview session は、ペアワークで行います。情報をどれだけ多く正確に聞き出せるか、あるいは質問に正確に答えられるか、また取得した情報をレポートできるかをはかるものです。授業時のインタビューは、この Final Interview に向けての準備となります。

【学生の意見等からの気づき】
When you have questions on what you have to do during the class, please don't hesitate to ask. Try to make sure what you should do to complete the task. Asking questions to get information is important part of this class.

【学生が準備すべき機器他】
特に使用しない。

【その他の重要事項】
授業時は必ず辞書を携行してください。
ペアワークやグループワークの際、相手から情報を引き出すために、どんどん follow-up question を考えて、使ってみましょう。とにかく口に出してみる、そして修正する、という練習の繰り返しです。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. Let's try to get accustomed to the expressions of everyday-English and try to explain what you do or think of in English.　Our goal is to get good communication skills and to have better understanding of foreign culture.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

川口　悠子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
・身近なテーマを手がかりに、日常会話コミュニケーション能力を身につける。
・論理的に自分の意見を述べ、相手の意見に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な文法事項や単語などを確認しつつ、ペアやグループでの会話練習や発表などのアクティヴィティを中心に授業を進めていきます。随時小テストをおこない、学んだ表現などの定着を図ります。会話練習や発表にあたってはより適切な表現を提示したり、小テストの解説をしたりして、フィードバックを図ります。
語学の授業、とくにコミュニケーションの授業ですから、能力を高めるためには、受講生の皆さんが積極的に授業に参加してくれることが一番大切です。どうか照れずに口を開いてください。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Introduction	授業の進め方や予習の仕方について説明する
2 回	会話練習（1） Family	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
3 回	会話練習（2） Friends	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
4 回	会話練習（3） Culture	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
5 回	会話練習（4） Education	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
6 回	スピーキング・テスト（1）	これまで学んだ内容を踏まえて、会話のテストをおこなう
7 回	会話練習（5） Sports	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
8 回	会話練習（6） Work	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習。
9 回	会話練習（7） Food	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
10 回	スピーキング・テスト（2）	これまで学んだ内容を踏まえて、会話のテストをおこなう
11 回	期末試験、発表準備（1）	期末試験をおこなう。発表の構成や語彙について学ぶ
12 回	発表準備（2）	発表の構成や語彙について学ぶ
13 回	発表準備（3）	口頭発表の原稿をクラス内で交換し、推敲する
14 回	発表	発表をおこない、クラスメートの発表にコメントをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・指示された部分を丁寧に予習すること。語学の授業は予習が決定的に重要で、かつ予習をしていないと、ペア練習のパートナーに迷惑がかかります。
・音声教材をダウンロードし，予習及び復習で活用すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて、プリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】
スピーキング・テスト（20%×2）
期末テスト（20%）
発表（30%）
授業参加（10%）
＊ 5 回以上正当な理由なく欠席した場合は不合格とします。
＊スピーキング・テスト、期末テスト、発表、のうち、どれか一つかそれ以上を欠席した場合、不合格とします。
＊予習が不充分な場合や授業参加が不充分な場合は欠席扱いとすることがあります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんが口を開きやすい、楽しい雰囲気を作るよう心がけます。また、発表の準備に時間をかけたいという意見があったので、準備にかける授業回数を増やしました。

【その他の重要事項】
授業には、かならずきちんとした辞書を持参してください。
なお、授業の進行や受講生の皆さんの要望により、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

川口　悠子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
・身近なテーマを手がかりに、日常会話コミュニケーション能力を身につける。
・論理的に自分の意見を述べ、相手の意見に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的な文法事項や単語などを確認しつつ、ペアやグループでの会話練習や発表などのアクティヴィティを中心に授業を進めていきます。随時小テストをおこない、学んだ表現などの定着を図ります。会話練習や発表にあたってはより適切な表現を提示したり、小テストの解説をしたりして、フィードバックを図ります。
語学の授業、とくにコミュニケーションの授業ですから、能力を高めるためには、受講生の皆さんが積極的に授業に参加してくれることが一番大切です。どうか照れずに口を開いてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Introduction	授業の進め方や予習の仕方について説明する
2 回	会話練習（1） Family	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
3 回	会話練習（2） Friends	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
4 回	会話練習（3） Culture	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
5 回	会話練習（4） Education	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
6 回	スピーキング・テスト（1）	これまで学んだ内容を踏まえて、会話のテストをおこなう
7 回	会話練習（5） Sports	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
8 回	会話練習（6） Work	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習。
9 回	会話練習（7） Food	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
10 回	スピーキング・テスト（2）	これまで学んだ内容を踏まえて、会話のテストをおこなう
11 回	期末試験、発表準備（1）	期末試験をおこなう。発表の構成や語彙について学ぶ
12 回	発表準備（2）	発表の構成や語彙について学ぶ
13 回	発表準備（3）	口頭発表の原稿をクラス内で交換し、推敲する
14 回	発表	発表をおこない、クラスメートの発表にコメントをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・指示された部分を丁寧に予習すること。語学の授業は予習が決定的に重要で、かつ予習をしていないと、ペア練習のパートナーに迷惑がかかります。
・音声教材をダウンロードし，予習及び復習で活用すること。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
必要に応じて、プリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】
スピーキング・テスト（20%×2）
期末テスト（20%）
発表（30%）
授業参加（10%）
＊ 5 回以上正当な理由なく欠席した場合は不合格とします。
＊スピーキング・テスト、期末テスト、発表、のうち、どれか一つかそれ以上を欠席した場合、不合格とします。
＊予習が不充分な場合や授業参加が不充分な場合は欠席扱いとすることがあります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんが口を開きやすい、楽しい雰囲気を作るよう心がけます。また、発表の準備に時間をかけたいという意見があったので、準備にかける授業回数を増やしました。

【その他の重要事項】
授業には、かならずきちんとした辞書を持参してください。
なお、授業の進行や受講生の皆さんの要望により、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

渡邊　晶子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
基本的な文法を確実なものにし、語彙を増やしていく。
構文をしっかり理解した上で長文を正確に読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、準備をしておくこと。
課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
2	The Bee Colony	品詞について学ぶ。 ミツバチのコロニーについての英文を読む。
3	Space Junk	動詞について学ぶ。 宇宙ゴミについての英文を読む。
4	The Gift of Energy	句動詞について学ぶ。 エネルギーについての英文を読む。
5	Water and Living Things	時制について学ぶ。 水と生き物についての英文を読む。
6	The Sun, Our Powerful Star	時制について学ぶ。 太陽についての英文を読む。
7	Tomorrow's Transportation	主語と動詞の一致について学ぶ。 近未来の乗物についての英文を読む。
8	All That Glitters, Spread, and Stretches	代名詞について学ぶ。 金についての英文を読む。
9	Bioclock - the Time of Your Life	名詞・冠詞について学ぶ。 体内時計についての英文を読む。
10	Right Brain, Left Brain	前置詞について学ぶ。 右脳と左脳についての英文を読む。
11	The Miracle of Vitamins	助動詞について学ぶ。 ビタミンについての英文を読む。
12	Unlocking Submarine Secrets	海底の謎についての英文を読む。
13	Frozen Foods	冷凍食品の発見についての英文を読む。
14	まとめ	重要構文などの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの英文の日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

【テキスト（教科書）】
The Wonders of Science（成美堂）
A Shorter Course in Usage and Vocabulary（南雲堂）

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %　レポート課題 40 %　期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
提出課題や質問等を解説に織り込んでいきたい。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

渡邊　晶子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
基本的な文法を確実なものにし、語彙を増やしていく。
構文をしっかり理解した上で長文を正確に読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、準備をしておくこと。
課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
2	The Bee Colony	品詞について学ぶ。 ミツバチのコロニーについての英文を読む。
3	Space Junk	動詞について学ぶ。 宇宙ゴミについての英文を読む。
4	The Gift of Energy	句動詞について学ぶ。 エネルギーについての英文を読む。
5	Water and Living Things	時制について学ぶ。 水と生き物についての英文を読む。
6	The Sun, Our Powerful Star	時制について学ぶ。 太陽についての英文を読む。
7	Tomorrow's Transportation	主語と動詞の一致について学ぶ。 近未来の乗物についての英文を読む。
8	All That Glitters, Spread, and Stretches	代名詞について学ぶ。 金についての英文を読む。
9	Bioclock - the Time of Your Life	名詞・冠詞について学ぶ。 体内時計についての英文を読む。
10	Right Brain, Left Brain	前置詞について学ぶ。 右脳と左脳についての英文を読む。
11	The Miracle of Vitamins	助動詞について学ぶ。 ビタミンについての英文を読む。
12	Unlocking Submarine Secrets	海底の謎についての英文を読む。
13	Frozen Foods	冷凍食品の発見についての英文を読む。
14	まとめ	重要構文などの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの英文の日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

【テキスト（教科書）】
The Wonders of Science（成美堂）
A Shorter Course in Usage and Vocabulary（南雲堂）

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %　レポート課題 40 %　期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
提出課題や質問等を解説に織り込んでいきたい。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

渡邊　晶子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
基本的な文法を確実なものにし、語彙を増やしていく。
構文をしっかり理解した上で長文を正確に読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、準備をしておくこと。
課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Your Immune Defense System	不定詞について学ぶ。 免疫防御系についての英文を読む。
2	The Earth We Live On	動名詞について学ぶ。 地球の内部についての英文を読む。
3	Science Looks Twice at Twins	分詞について学ぶ。 双子についての英文を読む。
4	Memory Miracles	比較について学ぶ。 記憶力についての英文を読む。
5	Products of the Sea	否定について学ぶ。 海の産物についての英文を読む。
6	If the Oceans Should Die	受動態について学ぶ。 海についての英文を読む。
7	小テスト	重要構文などの確認と 小テストを行う。
8	Moving Continents	関係詞について学ぶ。 大陸移動についての英文を読む。
9	Who Needs Spiders?	接続詞について学ぶ。 クモについての英文を読む。
10	It's the Humidity	仮定法について学ぶ。 湿気についての英文を読む。
11	Blue Babe - a Messenger from the Ice Age	語彙（紛らわしい語）について学ぶ。 氷河時代の野牛の遺骸の発見についての英文を読む。
12	The New Zoo - a Modern Ark	現代の動物園の意義についての英文を読む。
13	Wonderworker - New Drugs	新薬についての英文を読む
14	まとめ	重要構文などの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

【テキスト（教科書）】
The Wonders of Science（成美堂）
A Shorter Course in Usage and Vocabulary（南雲堂）

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %　レポート課題 40 %　期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
提出課題や質問等を解説に織り込んでいきたい。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

渡邊　晶子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
基本的な文法を確実なものにし、語彙を増やしていく。
構文をしっかり理解した上で長文を正確に読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、準備をしておくこと。
課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Your Immune Defense System	不定詞について学ぶ。 免疫防御系についての英文を読む。
2	The Earth We Live On	動名詞について学ぶ。 地球の内部についての英文を読む。
3	Science Looks Twice at Twins	分詞について学ぶ。 双子についての英文を読む。
4	Memory Miracles	比較について学ぶ。 記憶力についての英文を読む。
5	Products of the Sea	否定について学ぶ。 海の産物についての英文を読む。
6	If the Oceans Should Die	受動態について学ぶ。 海についての英文を読む。
7	小テスト	重要構文などの確認と 小テストを行う。
8	Moving Continents	関係詞について学ぶ。 大陸移動についての英文を読む。
9	Who Needs Spiders?	接続詞について学ぶ。 クモについての英文を読む。
10	It's the Humidity	仮定法について学ぶ。 湿気についての英文を読む。
11	Blue Babe - a Messenger from the Ice Age	語彙（紛らわしい語）について学ぶ。 氷河時代の野牛の遺骸の発見についての英文を読む。
12	The New Zoo - a Modern Ark	現代の動物園の意義についての英文を読む。
13	Wonderworker - New Drugs	新薬についての英文を読む
14	まとめ	重要構文などの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

【テキスト（教科書）】
The Wonders of Science（成美堂）
A Shorter Course in Usage and Vocabulary（南雲堂）

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %　レポート課題 40 %　期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
提出課題や質問等を解説に織り込んでいきたい。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

バリー　ヘイタ

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。
Increasing general English proficiency and heightening skills in understanding English texts.

【到達目標】
i)More refined comprehension skills for listening and reading in English
ii)Development of grammatical,logical,and lexical expression in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Pair work on tasks as introductions to the grammar and vocabulary used in the unit texts; cooperative blackboard presentions of the completed tasks; individual recitations to the class; personal assignment completion and submission; direct in- class consultation with the instructor. Feedback will be provided over the university Hoppii system on the Announcement and Assignment Submission pages. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction, Culture and Differerence	Class operation and materials; Language Focus: noun/verb/adjective
Class 2	Culture and Difference	Reading Practice: difference/similarity/agreement
Class 3	Culture and Difference	TOEIC Extension: Listening,Part 1 (listening while looking)
Class 4	Objects and Items	Language Focus: size/shape/material
Class 5	Objects and Items	Reading Practice: description/usage
Class 6	Objects and Items	TOEIC Extension: Listening,Part 2 (matching responses to questions and statements)
Class 7	Process and Progress	Language Focus: verbs/adverbs
Class 8	Process and Progress	Reading Practice: actions/instructions
Class 9	Process and Progress	TOEIC Extension: Listening, Part 3 (scanning choices while listening to talks)
Class 10	Characteristicsand Definitions	Language Focus: general classes/ specific examples
Class 11	Characteristicsand Definitions	Reading Practice: information analysis/ classification/charts
Class 12	Characteristicsand Definitions	TOEIC Extension: Listening,Part 4 (scanning choices while following presentations)
Class 13	Directions and Locations	Language Focus: compound verbs/nouns/ prepositions
Class 14	Directions and Locations	Reading Practice: navigation/environs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Tasks not completed in classroom time will be assigned as homework for presentation at the next class. Therefore,absence from any class will not excuse a student from completing all of such tasks for the next class.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor in class.

【参考書】
Topics in English 1@Longman Asia Limited,1994
Practice Tests for new format of TOEIC(ELS) TOEIC　運営委員会

【成績評価の方法と基準】
Participation 15%; Presentations/Assignments 15%; Mid/Final Tests 70%

【学生の意見等からの気づき】
Greater emphasis on improving oral not only pronunciation but also intonation skills through recitation of both task content and unit texts.

【学生が準備すべき機器他】
Tape Cassette or CD Player

【その他の重要事項】
Forgotten or lost materials will be replaced only once at the start of each class by the instructor. In all other cases,students must supply their own replacements before class begins. Furthermore, photocopies of completed assignments will not be accepted.

【Caution】
Changes to the schedule may be made in accordance to the proficiency level of the class.

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

バリー　ヘイタ

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。
i)Increasing general proficiency in understanding English texts.
ii)More refined comprehension skills for listening to and reciting from English texts.

【到達目標】
i)Greater development of lexical,logical,and grammatical expression in English
ii)More refinement in the strategies and analytical methods employed in Comprehensive English 1.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This course incorporates collaborative learning through practical problem solving. Students study in pairs to accomplish various tasks related to the grammar and vocabulary used in the unit text, give cooperative blackboard presentations of the task results, recite individually the content of both tasks and texts, complete personal assignments, and receive direct in-class consultations with the instructor. Feedback will be provided over the university Hoppii system on the Announcement and Assignment Submission pages.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
Class 1	Climate Change	Language Focus: prepositions/ propositions/ predictions
Class 2	Climate change	Reading Practice: certain/probable/ possible
Class 3	Climate Change	TOEIC Extension: Reading,Part 5 (grammar,meaning, logic)
Class 4	Previews and Reviews	Language Focus: adjectives/verbs/nouns
Class 5	Previews and Reviews	Reading Practice: paraphrase/restatement
Class 6	Previews and Reviews	TOEIC Extension: Reading,Part 5 (grammar,meaning, logic)
Class 7	Conditions and States	Language Focus: nouns/verbs/adjectives
Class 8	Conditions and States	Reading Practice: conditions/predictions
Class 9	Conditions and States	TOEIC Extension: Reading,Part 6 (reference,paragraph structure)
Class 10	Distance and Space	Language Focus: synonyms/paraphrases
Class 11	Distance and Space	Reading Practice: past events/present states/future outcomes
Class 12	Distance and Space	TOEIC Extension: Reading,Part 7 (scanning,alignment, content,paragraph)
Class 13	Judgements and Opinions	Language Focus: adverbs/adjectives/ verbs/nouns
Class 14	Judgements and Opinions	Reading Practice: fact/opinion/theory

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Work not finished in class time will be given for completion as homework. Absence from a class does not excuse a student from doing assignments or covering class work missed.Photocopies of any assignments will not be accepted as the original work of the student presenting such.

【テキスト（教科書）】
Course materials for each module will be distributed by the instructor in class.

【参考書】
Topics in English 1 @ Longman Asia Limited,1994
Practice Tests in the TOEIC(ELS),TOEIC 運営委員会：
Volumes 1~4

【成績評価の方法と基準】
Students are expected both to study sincerely and to make a valuable and positive contribution to the class. Accordingly, students disinclined, asleep, chattering, or otherwise engaged will be considered disruptive. Grades are based on collaborative module tests(65%), assignments(20%), and class contribution(15%).

【学生の意見等からの気づき】
More intensive practice in the oral skills of pronunciation and intonation essential for reciting paragraphs within a text.

【学生が準備すべき機器他】
Cassette Tape or CD Player.

【その他の重要事項】
Forgotten or lost materials will be replaced by the instructor only once for each student at the start of any class.In all other cases students are required to supply their own replacements. Also,photocopies of assignments will not be accepted.

【Caution】
Changes to the schedule may be made in accordance with the proficiency level of the class.

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

井上　敏郎

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
本授業では英語のスキルアップのため、読む、聞く、書く、話すを練習する。特に、読むについて、日本語に訳さず理解する方法を学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
読む、聞くを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	授業説明と英語力の確認	小テストを行う。
2	英語力の確認	100 字程度の英文を読む。
3	英語力の確認	内容理解のための練習を行う。
4	ＤＶＤを使ってのリスニング。	簡潔な英文を聞いて、内容を理解する。
5	ＤＶＤを使ってのリスニング。	簡潔な英文を聞いて、内容を理解する。
6	ＤＶＤを使ってのリスニングとスピーキング。	使われた英文を使ってみる。
7	ＤＶＤを使ってのリスニングとスピーキング。	使われた英文を使ってみる。
8	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
9	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
10	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
11	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
12	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
13	パラグラフ・リーディングの練習 前期の授業内容の確認	本文の英語を使ってまとめる練習をする。 前期試験に向けての説明
14	前期試験	学力の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】易しい英語の本を 1 冊読む。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%) 重視。試験 (40%) を実施する。

【学生の意見等からの気づき】
前回の確認をしっかり行い、授業の流れが円滑に進むように気をつける。少し早口になる場合があるようなので、ゆっくり喋ることを心掛けます。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

井上　敏郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
本授業では英語のスキルアップのため、読む、聞く、書く、話すを練習する。特に、読むについて、日本語に訳さず理解する方法を学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
読む、聞くを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期試験の確認。リスニングによる応答。	リスニングの質問に答える。
2	リスニングによる応答。	リスニングの質問に答える。パートナーとの応答。
3	500 字程度の文章を読む。	訳さずに理解する練習を行う。
4	500 字程度の文章を読む。	パラグラフリーディングと英語によるまとめを行う。
5	1 分ほどのリスニング。	内容理解とまとめを行う。
6	1 分ほどのリスニング。	内容理解と英語によるまとめを行う。
7	1000 字程度の科学英文を読む。	内容理解とまとめ。
8	1000 字程度の科学英文を読む。	内容理解と英語によるまとめ。
9	一日のルー ティンのリスニング。	自分の一日を英語で書く。
10	TOEIC によるリスニング。	TOEIC 英語の特徴を掴む。
11	TOEIC によるリーディング。	文法の確認と TOEIC 英語の特徴を掴む。
12	授業のまとめ。	読む、聞く、話す、書くの確認。
13	授業のまとめ。	読む、聞く、話す、書くの確認。
14	秋学期試験。	英語力の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業内で説明するが、日々英語に触れる時間を作ることを望む。

【テキスト（教科書）】
授業で配布する。

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (60%) 重視。試験 (40%) を実施する。

【学生の意見等からの気づき】
タスクの解答をしっかり提示することに気をつける。時々早口になるので、それも気をつける。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小畑　美貴

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウィルス感染拡大防止の為、現時点では授業形態が未定です。決定次第授業支援システムより皆さんにご連絡致します。場合によっては、授業予定は変更の可能性もあります。
テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。初回授業時に各ユニットの担当者を決め、各学期１回は授業内で発表をしてもらいます。また、前回の授業で学習した内容が定着しているか確認する為に、毎回の授業で小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業内に行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit1: Welcome to a World within a Pair of Glasses (1)	仮想現実の世界に関する文章を読み解く
3	Unit1: Welcome to a World within a Pair of Glasses (2)	小テスト① 仮想現実の世界に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
4	Unit2: The Secret of the Stradivarius (1)	小テスト② ストラディバリウスの音色に関する文章を読み解く
5	Unit2: The Secret of the Stradivarius (2)	小テスト③ ストラディバリウスの音色に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
6	Unit3: Getting Rid of Plastic in the Ocean (1)	小テスト④ 海からプラスティックの廃棄物をなくす方法に関する文章を読み解く
7	Unit3: Getting Rid of Plastic in the Ocean (2)	小テスト⑤ 海からプラスティックの廃棄物をなくす方法に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
8	Unit4: Preventing the World's Increasing Allergies (1)	小テスト⑥ アレルギーとその予防・対応策に関する文章を読み解く
9	Unit4: Preventing the World's Increasing Allergies (2)	小テスト⑦ アレルギーとその予防・対応策に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
10	Unit5: Journey to the Lonely Outer World (1)	小テスト⑧ 冥王星への旅に関する文章を読み解く
11	Unit5: Journey to the Lonely Outer World (2)	小テスト⑨ 冥王星への旅に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
12	Unit6: Archaeoiogists, Aliens and Earth (1)	小テスト⑩ 考古学で探る古代のミステリーに関する文章を読み解く
13	Unit6: Archaeoiogists, Aliens and Earth (2)	小テスト⑪ 考古学で探る古代のミステリーに関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
14	授業内学期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・前回の授業内容を復習し、次週の小テストに備える。
・返却された小テストを見直し、最終試験へ備える。
・発表担当のユニットに関しては、発表の準備を入念に行う。

【テキスト（教科書）】
Faudree, Michael C. "Science Adventures", Kitihara Shoten. (￥1,900)

【参考書】
英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
【オンラインのみの場合】
課題提出　100 %
【対面のみの場合】
小テスト　45 %
学期末テスト　40 %
授業への積極的な参加姿勢　15 %
ただし、学期途中で授業形態が変更になる可能性もあり、その際は再度評価方法を変更せざるを得なくなります。変更する際は、事前に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
今学期の授業形態は未定ですが、オンラインでも対面でも、それぞれの特性を生かして、教科書の内容を学生が確実に理解し、学ぶことが出来るように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

小畑　美貴

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウィルス感染拡大防止の為、現時点では授業形態が未定です。決定次第授業支援システムより皆さんにご連絡致します。場合によっては、授業予定は変更の可能性もあります。
テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。２回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。初回授業時に各ユニットの担当者を決め、各学期１回は授業内で発表をしてもらいます。また、前回の授業で学習した内容が定着しているか確認する為に、毎回の授業で小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit7: Dinosaur and Human Co-Existence (1)	恐竜と人類の共存に関する文章を読み解く
3	Unit7: Dinosaur and Human Co-Existence (2)	小テスト① 恐竜と人類の共存に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
4	Unit8: Face Recognition Systems All Around Us (1)	小テスト② 顔認識システムに関する文章を読み解く
5	Unit8: Face Recognition Systems All Around Us (2)	小テスト③ 顔認識システムに関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
6	Unit9: Miracle Drink: Green Tea and Action of Catechin (1)	小テスト④ 緑茶とカテキンの効能に関する文章を読み解く
7	Unit9: Miracle Drink: Green Tea and Action of Catechin (2)	小テスト⑤ 緑茶とカテキンの効能に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
8	Unit10: Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop Global Warming? (1)	小テスト⑥ 海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化に関する文章を読み解く
9	Unit10: Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop Global Warming? (2)	小テスト⑦ 海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
10	Unit11: Time Warp: Taking a Journey to Black Holes in Space (1)	小テスト⑧ ブラックホールとタイムワープの関係性に関する文章を読み解く
11	Unit11: Time Warp: Taking a Journey to Black Holes in Space (1)(2)	小テスト⑨ ブラックホールとタイムワープの関係性に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
12	Unit12: Plastic Surgery (1)	小テスト⑩ 美容整形手術に関する文章を読み解く
13	Unit12: Plastic Surgery (2)	小テスト⑪ 美容整形手術に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
14	授業内学期末試験	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
・前回の授業内容を復習し、次週の小テストに備える。
・返却された小テストを見直し、最終試験へ備える。
・発表担当のユニットに関しては、発表の準備を入念に行う。

【テキスト（教科書）】
Faudree, Michael C. "Science Adventures", Kitihara Shoten. (￥1,900)

【参考書】
英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】
【オンラインのみの場合】
課題提出　100 %
【対面のみの場合】
小テスト　45 %
学期末テスト　40 %
授業への積極的な参加姿勢　15 %
ただし、学期途中で授業形態が変更になる可能性もあり、その際は再度評価方法を変更せざるを得なくなります。変更する際は、事前に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
現時点では、授業形態が未定ではありますが、オンラインでも対面でも、それぞれの特性をうまく生かすことで、学生の皆さんが、教科書の内容を正確に理解し、学習することが出来るように努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】
初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANd100LC

基礎ドイツ語ＩＩ

鈴木　淳子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎ドイツ語Ｉに引き続き、ドイツ語の基本文法を学習する。

【到達目標】
文法の知識をさらに深めるとともに、実践力も強化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎ドイツ語Ｉで習った文法事項を確認しながら、新しい項目についても体系的に学習する。
オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。
授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎ドイツ語Ｉの学習内容の確認	第 1-6 課 (p.5-28)
第 2 回	前置詞	第 7 課 (p.29-32)
第 3 回	前置詞と定冠詞の融合形、数詞④	第 7 課 (p.29-32)
第 4 回	話法の助動詞	第 8 課 (p.33-36)
第 5 回	話法の助動詞 不定代名詞 man の用法	第 8 課 (p.33-36)
第 6 回	分離動詞 数詞⑤	第 9 課 (p.37-40)
第 7 回	命令形	第 9 課 (p.37-40)
第 8 回	時刻表現 数詞⑥	第 9 課 (p.37-40)
第 9 回	形容詞の用法	第 10 課 (p.41-44)
第 10 回	形容詞の格変化	第 10 課 (p.41-44)
第 11 回	再帰動詞・再帰代名詞	第 10 課 (p.41-44)
第 12 回	再帰動詞・再帰代名詞	第 10 課 (p.41-44)
第 13 回	総復習	第 7-10 課 (p.29-44)
第 14 回	総復習	第 7-10 課 (p.29-44)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】基礎ドイツ語Ｉの内容も含めて繰り返し復習すること。

【テキスト（教科書）】
秋田静男他著『イン・ドイチュラント』朝日出版社

【参考書】
必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
試験成績 (70%)、平常点及び授業態度等 (30%) を総合して評価する。
オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多くがドイツ語及びドイツに強い関心をもっていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline and objectives】
This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills.

LANd100LC

基礎ドイツ語ＩＩ

鈴木　淳子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎ドイツ語Ⅰに引き続き、ドイツ語の基本文法を学習する。

【到達目標】
文法の知識をさらに深めるとともに、実践力も強化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎ドイツ語Ⅰで習った文法事項を確認しながら、新しい項目についても体系的に学習する。
オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。
授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎ドイツ語Ⅰの学習内容の確認	第 1-6 課 (p.5-28)
第 2 回	前置詞	第 7 課 (p.29-32)
第 3 回	前置詞と定冠詞の融合形、数詞④	第 7 課 (p.29-32)
第 4 回	話法の助動詞	第 8 課 (p.33-36)
第 5 回	話法の助動詞 不定代名詞 man の用法	第 8 課 (p.33-36)
第 6 回	分離動詞 数詞⑤	第 9 課 (p.37-40)
第 7 回	命令形	第 9 課 (p.37-40)
第 8 回	時刻表現 数詞⑥	第 9 課 (p.37-40)
第 9 回	形容詞の用法	第 10 課 (p.41-44)
第 10 回	形容詞の格変化	第 10 課 (p.41-44)
第 11 回	再帰動詞・再帰代名詞	第 10 課 (p.41-44)
第 12 回	再帰動詞・再帰代名詞	第 10 課 (p.41-44)
第 13 回	総復習	第 7-10 課 (p.29-44)
第 14 回	総復習	第 7-10 課 (p.29-44)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】基礎ドイツ語Ⅰの内容も含めて繰り返し復習すること。

【テキスト（教科書）】
秋田静男他著『イン・ドイチュラント』朝日出版社

【参考書】
必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
試験成績 (70%)、平常点及び授業態度等 (30%) を総合して評価する。
オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多くがドイツ語及びドイツに強い関心をもっていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline and objectives】
This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills.

LANd100LC

基礎ドイツ語ＩＩ

鈴木　淳子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎ドイツ語Ⅰに引き続き、ドイツ語の基本文法を学習する。

【到達目標】
文法の知識をさらに深めるとともに、実践力も強化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎ドイツ語Ⅰで習った文法事項を確認しながら、新しい項目についても体系的に学習する。
オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。
授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎ドイツ語Ⅰの学習内容の確認	第 1-6 課 (p.5-28)
第 2 回	前置詞	第 7 課 (p.29-32)
第 3 回	前置詞と定冠詞の融合形、数詞④	第 7 課 (p.29-32)
第 4 回	話法の助動詞	第 8 課 (p.33-36)
第 5 回	話法の助動詞 不定代名詞 man の用法	第 8 課 (p.33-36)
第 6 回	分離動詞 数詞⑤	第 9 課 (p.37-40)
第 7 回	命令形	第 9 課 (p.37-40)
第 8 回	時刻表現 数詞⑥	第 9 課 (p.37-40)
第 9 回	形容詞の用法	第 10 課 (p.41-44)
第 10 回	形容詞の格変化	第 10 課 (p.41-44)
第 11 回	再帰動詞・再帰代名詞	第 10 課 (p.41-44)
第 12 回	再帰動詞・再帰代名詞	第 10 課 (p.41-44)
第 13 回	総復習	第 7-10 課 (p.29-44)
第 14 回	総復習	第 7-10 課 (p.29-44)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】基礎ドイツ語Ⅰの内容も含めて繰り返し復習すること。

【テキスト（教科書）】
秋田静男他著『イン・ドイチュラント』朝日出版社

【参考書】
必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
試験成績 (70%)、平常点及び授業態度等 (30%) を総合して評価する。
オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の多くがドイツ語及びドイツに強い関心をもっていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline and objectives】
This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills.

LAN f 100LC

基礎フランス語 I

荻野　文隆

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の基礎を学ぶとともに、フランスの文化、歴史、社会について基本的な理解を進める。
予め次の歌を聴いておいてください。
ジブリ作品「紅の豚」で使われている曲です。
Le temps des cerises
https://m.youtube.com/watch?v=-9aQNv5nraA
フランスの作家 Victor Hugo の作品 Les misérables の映画化の中で歌われている曲
Les Miserables - A la volonté du peuple
https://m.youtube.com/watch?v=7x2PQJ0l_Zo
フランス語の基礎を学習する。実践的な文法と発音、リスニングを踏まえた運用能力の養成に務める。
フランスの歴史と文化、フランス語圏の事情についても触れる。

【到達目標】
基礎文法の理解を深め、聞き取り能力の向上を図ってフランス語運用能力を総合的に高め，実用フランス語技能検定資格取得を目指す。
フランス・フランス語圏の最新事情について情報交換する場を設ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎文法の理解を深め、聞き取り能力の向上を図ってフランス語運用能力を総合的に高め，実用フランス語技能検定資格取得を目指す。
フランス・フランス語圏の最新事情について情報交換する場を設ける。
授業の始めに、前回の授業で提出された質問等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業紹介	フランスの歴史とフランス語の成立の経緯
2	挨拶	Bonjour,Bonsoir, Bonne nuit. Bon voyage!
3	パリに着いた。	Paris, c'est super
4	自己紹介	Je m'appelle Sarah
5	家族の話題	La famille de Sarah
6	私は猫が好き	Louise aime les animaux.
7	ここはどこ？ どこへ行く？	Ou allons-nous cet été?
8	ブルターニュの夏	On va en Bretagne en vacances.
9	東京からの友人	Une lettre du Japon.
10	知ってる人？	Tu le connais? Tu la connais?
11	ホテルで	A l'hôtel des balcons fleuris.
12	どういう意味？	Qu'est-ce que ça veut dire?
13	いい天気	Bateau sur l'eau.
14	復習と試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】フランス語の発音や綴りに馴染むための課題を授業ごとに出しますので、それをうまく利用してフランス語の基礎を自分のものにしてください。

【テキスト（教科書）】
「パリの街角で」　荻野文隆、Isabelle Ogino　　両風堂
しっかりとフランス語を身に付けたい方は、別売りの音声ペンが有効。
また両風堂のホームページから本文とシャンソンの音源をダウンロードできます。

【参考書】
「地球の歩き方　フランス　」
「地球の歩きから　パリ　」など
フランスやパリについての便利な情報が簡単に得られます。

【成績評価の方法と基準】
評価については平常点、課題、レポートなどの総合評価となります。

【学生の意見等からの気づき】
フランス映画やシャンソン、フランス各地の風物、観光地についての情報に触れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
教科書「パリの街角で」には、本文、シャンソン、例文の音声が聞ける音声ペンが別売りで存在しますので、意欲のある方をこれを利用することで、フランス語らしい発音とイントネーションを身に付けることができます。
また両風堂のホームページからも音源の一部をダウンロードできますので、これらをうまく利用してください。

【その他の重要事項】
少なくとも予習は基本的に必要になります。

【Outline and objectives】

The aim of this class is to learn elementary French grammar.

LAN ｆ 100LC

基礎フランス語ＩＩ

荻野　文隆

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期でのフランス語基礎を踏まえて、実際の状況を想定しながら発音、表現、文法、リスニング力の向上を目指します。

【到達目標】
フランスやフランス語圏への知見を広げながら、歴史、社会、文化にも視野をむけたいと思います。
仏検４級に対応出来る基礎力をつけていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
フランス語での表現やリスニングの力を身につけていきたい。
授業の始めに、前回の授業で提出された質問等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	春学期のおさらい。	Qui est-ce?
2	夏のバカンスはどこへ行った？	On est allés en Bretagne.
3	パン屋だ～。	Colchiques dans les prés
4	お腹が空いたよ。	Bon appétit!
5	もしもし、健三です。	Allô! C'est Kenzo à l'appareil
6	この公園には花がいっぱい。	Beaucoup de fleurs et beaucoup de couleurs.
7	ノートル・ダム大聖堂が見える。	Ah vous dirai-je Maman
8	向こうでアイスクリームを売っている。	Là-bas, on vend des glaces délicieuses.
9	楽しかったね。	C'était très sympa.
10	急がなきゃ。	Il faut qu'on se dépêche.
11	あなたの言いたいことは分かります。	Je vois ce que tu veux dire.
12	私は嬉しい。	Je m'en réjouis.
13	ゆっくりと時間をかけて。	Doucement!
14	復習と試験	Bon courage!

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】教科書の版元である「両風堂」のホームページから例文の音源をダウンロードして、予習、復讐に役立ててください。

【テキスト（教科書）】
「パリの街角で」　　荻野文隆、　Isabelle Ogino 両風堂
これの教科書には、別売りで本文、例文、シャンソンの発音をピンポイントで確認できる音声ペンがあります。これを利用することで、フランス語らしい発音、イントネーションを身につけてください。
また両風堂のホームページから、一部の音源をダウンロードできますので、これも利用してください。

【参考書】
「地球の歩き方」シリーズのフランス、パリ、南仏を利用します。

【成績評価の方法と基準】
平常点　予習、復習、授業への参加など　５０％
実用フランス語技能検定試験への取り組み　　２０％
期末試験　　３０％

【学生の意見等からの気づき】
旅行やフランス映画、シャンソン、フランスの時事的情報に随時触れていくことで、日本語メディアとフランス語メディアの情報の違いにも関心を向けていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
教科書「パリの街角で」には、本文、シャンソン、例文の発音をピンポイントで再生できる音声ペンが、別売りで準備されていますので、これを利用することでフランス語らしい発音を身につけることができます。
また両風堂のホームページからも一部音源をダウンロードできますので、通学の電車の中などの時間を利用している、フランス語の生の音声になれるようにしてください。そうすることで、自分でも発音が自然と身についてくるでしょう。

【その他の重要事項】
今や世界情勢が大きく動き出しており、日本もその中に巻き込まれつつあります。日本社会がどのような状況にあるかを、地球規模の状況の変化を視野にいれながら認識していける契機として、フランスとフランス語圏の動向を見ていきたいと思います。

【Outline and objectives】
After four months of studying French, you will learn how to use your knowledge in an effective and practical way, in order to improve your communication skills.

LANc100LC

基礎中国語 I

平井　新

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めて中国語を学ぶ学生を主な対象とする授業です。教科書を使って、中国語の基礎（中国語の発音要領と表記法、基本語彙、文の構成原理＝単語の並べ方、基本文型）を学びます。中国語の基礎力（声に出して読む力、書く力、話す力、聞く力）の習得を目指します。適宜，視聴覚教材を使用して中国文化の紹介も行います。
なお、本授業は、金曜日開講の「中国語表現」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。そのため私のほうの授業では、文法の習得を中心に進めていく予定です。

【到達目標】
中国語の発音が正確にできること、ピンイン（表音文字）の読み書きができること、簡体字を正しく書け、基礎的な語彙・文法を習得することを目標とします。
言葉は、文法の基礎を理解してこそ、上達します。がんばって一緒に勉強しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（発音篇、本篇：第１課～第 6 課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い，基礎力を養います。また，適宜，視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス＋中国映画を見る	授業の進め方の説明。中国語に触れてみよう。
第 2 回	中国語発音①	「中国語とは何か」。 テキスト発音一、二の部分： 声調、母音、複母音、ピンインのつづり方①、声調記号のつけ方、練習１の１、練習２の６。
第 3 回	中国語発音②	テキスト発音三の部分： 子音、無気音と有気音、そり舌音、三つの i、ピンインのつづり方②、練習３の１と２。
第 4 回	中国語発音③	テキスト発音四の部分： 鼻母、r 化、ピンインのつづり方③、声調の組み合わせ、中国語の音節構造、練習１と２。
第 5 回	中国語発音④	テキスト発音五の部分： 発音総復習。ピンインのつづり方の規則、声調の変化、声調記号のつけ方の規則、練習１と３と５。
第 6 回	中国語文法・テキスト第１課	人称代名詞、動詞述語文、「～⊠?」の疑問文・本文の説明と発音練習。ドリル⑤。
第 7 回	中国語文法・テキスト第２課	指示代詞、「的」について、疑問詞疑問文、「也」について。ドリル⑤。
第 8 回	中国語文法・テキスト第３課	量詞、「有」のあれこれ、数のたずね方「几」と「多少」。ドリル⑤⑥。
第 9 回	中国語文法・テキスト第４課	形容詞述語文、反復疑問文、「呢?」の疑問文について。ドリル⑤⑥。
第 10 回	中国語文法・テキスト第５課	場所指示代詞、存在の「有・在」の違い、助動詞「想・要」と否定形の注意事項。ドリル③⑥。
第 11 回	中国語文法・テキスト第６課	日付・時を表す言葉、名詞述語文と肯定文「是」の省略、変化の「了」、「吧」の使い方。ドリル⑤⑥。
第 12 回	中国語文法・テキスト第７課	連動文・時間量・前置詞文あれこれ・「どのくらい～なのか」の文。ドリル④⑥
第 13 回	前期授業内容の確認・まとめ＋中国語で歌を歌ってみよう＋中国語を読んでみよう。	期末試験＋「中国語で遊ぶ」
第 14 回	復習とまとめ	試験返却＋前期文法の重要ポイント総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】予習復習してください。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝，朝日出版社，本体： 2300 円）。

【参考書】
電子辞書、たとえば CASIO　EX-word などを持っていると便利です。ただし、その辞書には、講談社か小学館の日中・中日辞典が入っているものを選んで下さい。そして携帯の電子辞書も、無料のものではなく、上述のものがあることが望ましいです。紙の辞書については、授業中に述べます。辞書はあるほうが望ましいですが、急いで買う必要はありません。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。平常点 20%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験 80%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
語学の勉強は日々の積み重ねが大切です。
語学力向上のためには、学生は欠かさず出席し、積極的に授業参加すること。授業中、教員の板書は必ず丁寧にノートをとること。その週に新出した単語は、その週のうちに覚えること。
そして何より重要なのは、その言語を使う地域への限りない好奇心です。言葉だけでなく、中国に関する書籍をなるべく多く読むようにして下さい。

【その他の重要事項】
前期に一、二度プロジェクターやブルーレイ、ＤＶＤ、ＣＤを使用する授業をしますが、基本的に黒板に板書をする形の講義です。
中国語の基礎を教える授業なので、中国人留学生は基本的に受け入れることはできません。

【Outline and objectives】
This is a course for students studying Chinese for the first time.Using textbooks,students acquire grammar rules,Chinese pronunciation,essential vocabulary.word order,and other aspects of the Chinese language.

LANc100LC

基礎中国語 I

渡辺　浩司

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、文法を中心に初級中国語の前半部分を学びながら、中国語力の基礎（言語の規則・「書く」力・「話す」力・「聞く」力）の習得を目指します。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。なお，本授業は，後期開講の「基礎中国語Ⅱ」でも同じ教科書を使います。

【到達目標】
中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（発音篇、本篇：第 1 課～第 7 課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。また，適宜，視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。
小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について・中国語について
第 2 回	中国語の発音 (1)	発音 (1) ：解説文の説明と発音練習。練習 1。 発音 (2) ：解説文の説明と発音練習。練習 2。
第 3 回	中国語の発音 (2)	発音 (3) ：解説文の説明と発音練習。練習 3。
第 4 回	中国語の発音 (3)	発音 (4) ：解説文の説明と発音練習。練習 4。
第 5 回	中国語の発音 (4)	発音 (5) ：解説文の説明と発音練習。練習 5。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (1)	第 1 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 2 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 3 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 4 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 5 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 6 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 12 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 7 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 13 回	前期授業内容の復習	第 1 課～第 7 課の復習と補足。
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには，なるべく多く発音することが大切です。教科書付録の CD も活用して，授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習をしてみましょう。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝，朝日出版社，本体： 2300 円）。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70 %）と平常点（30 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。

【Outline and objectives】
This is an ABC Chinese course for beginners.Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language. After taking this class.

LANc100LC

基礎中国語ＩＩ

平井　新

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に初級中国語の前期授業を履修した学生を対象とした授業です。初級中国語テキストの後半部分を進めます。

【到達目標】
中国語を正確に発音できること、表音文字（ピンイン）の読み書きをマスターすることができること，授業で学習した中国語の基礎的な語彙・文法・実用会話を習得することを到達目標とします。中国語検定（4 級）の合格レベルに達することを目標としましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の後半部分（本篇：第 7 課～第 15 課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めます。文法を更に深く理解していきましょう。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト第８課	過去の経験の表し方・動詞の重ね型（形容詞の重ね型も参考までに）・選択疑問文。ドリル④⑤
第 2 回	テキスト第９課	比較文、二重目的語動詞
第 3 回	テキスト第９課	様態補語、お金の言い方、ドリル④⑤⑥
第 4 回	テキスト第１０課	「了」の用法、「是～的」構文
第 5 回	テキスト第１０課	「会/能/可以」という３つの「できる」について。ドリル②③④⑤
第 6 回	テキスト第１１課	進行型と継続型。ドリル②③④⑤。
第 7 回	テキスト第１２課	方向補語、結果補語。
第 8 回	テキスト第１２課	動量詞、「ちょっと～」の言い方。ドリル②③④⑤
第 9 回	テキスト第１３課	さまざまな連語について、自然現象表現と存現文について。ドリル②③④⑤
第 10 回	テキスト第１４課	禁止の言い方、同時進行表現、たとえの表現。ドリル②③④⑤
第 11 回	テキスト第１５課	これまでの文法総復習
第 12 回	テキストにないが、他のテキストでは通常でてくる文法について	可能補語、把構文について。
第 13 回	最終的なまとめ＋「中国語で遊ぼう」	期末試験＋中国語映画のセリフを読んでみよう＋中国語で歌を歌おう
第 14 回	後期授業内容の確認	試験の返却と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】教科書についている CD などを聞いてください。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝，朝日出版社，本体： 2300 円）。

【参考書】
電子辞書、たとえば CASIO　EX-word などを持っていると便利 です。ただし、その辞書には、講談社か小学館の日中・中日辞典が 入っているものを選んで下さい。そして携帯の電子辞書も、無料の ものではなく、上述のものがあることが望ましいです。紙の辞書に ついては、授業中に述べます。辞書はあるほうが望ましいですが、急 いで買う必要はありません。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムに宿題を提出してもらいます。宿題を平常点として期末成績評価の 50 %、期末試験の点数（50%）として、総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
語学勉強のコツは練習と復習の繰り返しです。授業にできるだけ皆勤出席し、ノートを取り、単語を覚え、練習問題に取り組みましょう。
付録の CD を携帯電話に取り込み、通勤時になるべく多く聞きましょう。耳から単語を覚えること。

【学生が準備すべき機器他】
後期にも一、二度プロジェクタやブルーレイ、ＤＶＤ、ＣＤを使用する授業をしますが、基本的に黒板に板書する形の授業です。

【その他の重要事項】
前期同様、中国語の基礎を教える授業なので、中国人留学生は受講不可です。

【Outline and objectives】
This is a class for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure .The course focuses on learning Chinese aspect,idiomatic phrases,basic vocabulary,and other aspects of the Chinese language.

LANc100LC

基礎中国語ＩＩ

渡辺　浩司

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では，教科書を使って，文法を中心に初級中国語の後半部分を学びながら，中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。必要に応じて，中国語検定（準 4 級）対策も行います。前期開講の「基礎中国語Ｉ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】
中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得すること、中検 4 級を合格することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（本篇：第 8 課～第 15 課）を使って、中国語の文法・語彙の理解・習得を進め、実用な会話を学びます。また、必要に応じて、過去問などを使って、中国語検定（準 4 級）対策も行います。適宜、視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。
小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・中国語の文法と語彙 (1)	授業の進め方について・第 8 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 2 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 9 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 3 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 10 課：新出単語・文法ポイント。
第 4 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 10 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 5 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 11 課：新出単語・文法ポイント。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 11 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 12 課：新出単語・文法ポイント。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (8)	第 12 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (9)	第 13 課：新出単語・文法ポイント。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (10)	第 13 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (11)	第 14 課：新出単語・文法ポイント。
第 12 回	中国語の文法と語彙 (12)	第 14 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 13 回	中国語の文法と語彙 (13)	第 15 課：新出単語・文法のまとめ。第 8-14 課の復習。
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには，なるべく多く発音することが大切です。教科書付録の CD を活用して，授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習をしてみましょう。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝，朝日出版社，本体： 2300 円）。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70 %）と平常点（30 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。

【Outline and objectives】
This is a class for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure. The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language.

LANd100LC

ドイツ語表現

高橋　完治

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語に初めて触れる学生諸君を対象とし，身近なテーマについて話す・聞く・読む・書く練習をする．ドイツ語コミュニケーション能力の基礎を身につけることが目的である．

【到達目標】
日常生活のなかでよく使われる平易な表現や言い回しを理解し，運用できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
どのテーマも，写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める．ビデオを観て，これをテーマへの導きとする場合もある．この導入部の後，手本となる会話を多角的に理解し，これをもとに，互いにインタビューをしたり紹介文を書いたり，班同士で情報を交換して隠れた事柄を見つけ出したりなど，さまざまな内容のペア作業やグループ作業を展開する．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Kontakte (1)	あいさつを交わす／名前を訊く・答える
2	Kontakte (2)	出身地を訊く・答える／ペアで簡単な Dialog を作る
3	Kontakte (3)	国名に親しむ／ du と Sie の使い分けに慣れる
4	Kontakte (4)	「お元気ですか」の表現を使う／人を紹介する
5	Personalien (1)	名前のつづりを伝える／職業を訊く・答える
6	Personalien (2)	配偶関係・子供の有無について話す
7	Personalien (3)	居住地と年齢を訊き合う／人物の紹介文を書く
8	Familie (1)	家族のことを尋ねる・答える
9	Familie (2)	家族について簡単な記事を書く
10	Einkaufen, Möbel (1)	買い物をする時の表現を学ぶ／家具の値段を訊く・答える
11	Einkaufen, Möbel (2)	「すてきだ，モダンだ」など家具を評価する
12	Gegenstände, Produkte	身の回りの物の名を訊く／物を形容する言葉（色・形・素材）に親しむ
13	Wie viele ...?	物をいくつ持っているか，物がいくつ必要かを表現する
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】自宅でも音声教材やビデオ教材に繰り返し接し，発音の質や聞き取り能力の向上に努める．

【テキスト（教科書）】
Franz Specht u. a.: Menschen A1/1, Kursbuch. Hueber

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する．

【学生の意見等からの気づき】
既習事項を学生諸君がうまく整理できるように配慮する．

【Outline and objectives】
This course is designed for students without any knowledge of the German language. By developing the four skills of speaking, listening, reading and writing, it aims at equipping the students with basic communicative abilities needed in simple everyday situations.

LANc100LC

中国語表現

杉本　公子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。中国語の基礎的な読み、書き、聞き、話す力の習得を目指します。語学学習に加えて、中国文化の紹介なども適宜とり入れていきます。
なお、本授業は月曜日開講の「基礎中国語Ⅰ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」「中級中国語Ⅰ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】
(1) 正確な発音を身につける。
(2) 発音表記が正確に読める。
(3) 基礎的な文法を理解する。
(4) 初歩的な会話ができる。
(5) 基礎的な作文ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は教科書の前半部分（発音篇、本篇：第 1 課～第 6 課）を学びます。ピンインの読み書き、基礎語彙の発音、簡体字（中国語の漢字）の読み書き、文法の学習を行いながら、基礎的な日常会話を学びます。また、中国文化にも親しみます。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
	発音 (1)：単母音	発音 (1)：発音表記・単母音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第 2 回	発音 (2)：複母音	発音 (2)：複母音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第 3 回	発音 (3)：子音	発音 (3)：子音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第 4 回	発音 (4)：鼻音	発音 (4)：鼻音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第 5 回	発音 (5)：声調の組み合わせ	発音 (5)：声調の組み合わせ 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤⑥。
第 6 回	表現と語彙 (1) 第 1 課	第 1 課：動詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 7 回	表現と語彙 (2) 第 2 課	第 2 課：疑問詞疑問文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 8 回	表現と語彙 (3) 第 3 課	第 3 課：所有 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 9 回	表現と語彙 (4) 第 4 課	第 4 課：形容詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 10 回	表現と語彙 (5) 第 5 課	第 5 課：存在 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 11 回	表現と語彙 (6) 第 6 課	第 6 課：名詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第 12 回	復習	復習（第 1～6 課）
第 13 回	期末試験１	期末試験（筆記）
第 14 回	期末試験２・まとめと復習	期末試験（音読） 第 1 課～第 6 課の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国語によるコミュニケーション能力を養うには、できるだけ多く練習することが大切です。教科書付録の CD も活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの聞き取りや発音の反復練習をしてみましょう。
漢字に頼らず、耳を慣らしてください。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（受講態度・発声音量）15 %、課題内容 25 %、期末試験（筆記 5 対音読 1）60 %として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
漢字は、見て理解できても、いざ書こうとするとわからなくなるもの。書いて覚えましょう。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器。

【Outline and objectives】
Chinese Communication: A Mandarin Chinese course for students with no background in Chinese. Students will be offered training in applying their newly gained Chinese skills in listening, speaking, reading and writing. Special emphasis will be placed on developing accurate pronunciation. Students are also recommended to enroll in Basic Chinese 1 held during the spring semester.

LANc100LC

中国語中級

杉本　公子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級中国語の前半部分を学んだ学生を主な対象としています。基礎の「定着」と応用力の養成に努め、基本的な会話や自己表現が自信をもってできるようになることを目指します。また、中国語検定（準４級以上）の受検にも対応します。適宜、中国文化にも触れます。
なお、本授業は、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、前期開講の「基礎中国語Ⅰ」「中国語表現」と同じ教科書を使います。

【到達目標】
(1) 基礎的な中国語について、漢字に頼らず、音で理解できる。
(2) 基礎文法が理解できる。
(3) 基礎的な作文ができる。
(4) 基礎的な会話が自信をもってできる。
(5) 学習した内容のまとまった中国語が読める。聞き取れる。
(6) 希望者は、中国語検定試験（準４級以上）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
発音練習、聞き取り練習、発話練習、作文練習を通して、表現する力と聴く力を養います。また、過去問題などを使い、中国語検定（準４級）対策も行います。適宜、中国文化にも触れます。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
	第 7 課 (1)	第 7 課：連動文・時間量・前置詞
第 2 回	第 7 課 (2)	第 7 課：連動文・時間量・前置詞
	中国語検定案内	中国語検定試験問題
第 3 回	第 8 課 (1)	第 8 課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文
第 4 回	第 8 課 (2)	第 8 課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文
	第 9 課 (1)	第 9 課：比較・二重目的語・様態補語
第 5 回	第 9 課 (2)	第 9 課：比較・二重目的語・様態補語
	第 10 課 (1)	第 10 課：完了・「～なのだ」・「できる」
第 6 回	第 10 課 (2)	第 10 課：完了・「～なのだ」・「できる」 リスニング練習
第 7 回	第 11 課 (1)	第 11 課：動作の進行・状態の持続・「はやく～」
第 8 回	第 11 課 (2)	第 11 課：動作の進行・状態の持続・「はやく～」
	第 12 課 (1)	リスニング練習 第 12 課：方向補語・結果補語・動量補語
第 9 回	第 12 課 (2)	第 12 課：方向補語・結果補語・動量補語 リスニング練習
第 10 回	第 13 課 (1)	第 13 課：無主語文・「少しも～」・「すぐに～」・「ますます」
第 11 回	第 13 課 (2)	第 13 課：無主語文・「少しも～」・「すぐに～」・「ますます」
	第 14 課 (1)	リスニング練習 第 14 課：「～のようだ」・禁止・「～しながら」
第 12 回	第 14 課 (2)	第 14 課：「～のようだ」・禁止・「～しながら」 リスニング練習
第 13 回	期末試験 1	期末試験（筆記）
第 14 回	期末試験 2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】受講者は、教科書の予習・復習をし、本文をしっかりと身につける。付属の音声教材を使って音読練習、リスニング練習をし、漢字に頼らず、音で理解する。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
『中検準 4 級問題集 2021 年版』光生館、2021 年。
『中検 4 級問題集 2021 年版』光生館、2021 年。
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』同学社、2016 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（受講態度・発声音量）15 %、課題内容 25 %、試験（筆記 5 対音読 1）60 %として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
疑問に思ったことを質問して一度は解決したのに、しばらくしてわからなくなってしまったときには、遠慮なくまた聞いてください。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器。

【Outline and objectives】
Intermediate Chinese: This Mandarin Chinese course is for students who have completed either or both of Basic Chinese 1 and Chinese Communication held during the spring semester or equivalent. Students are offered training in listening, speaking, reading, and writing. The goal is to improve students' comprehensive Chinese language skills. Students are also recommended to enroll in Basic Chinese 2 held during the fall semester.

LANc100LC

中国語中級

杉本　公子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級中国語の前半部分を学んだ学生を主な対象としています。基礎の「定着」と応用力の養成に努め、基本的な会話や自己表現が自信をもってできるようになることを目指します。また、中国語検定（準４級以上）の受検にも対応します。適宜、中国文化にも触れます。
なお、本授業は、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、前期開講の「基礎中国語Ⅰ」「中国語表現」と同じ教科書を使います。

【到達目標】
(1) 基礎的な中国語について、漢字に頼らず、音で理解できる。
(2) 基礎文法が理解できる。
(3) 基礎的な作文ができる。
(4) 基礎的な会話が自信をもってできる。
(5) 学習した内容のまとまった中国語が読める。聞き取れる。
(6) 希望者は、中国語検定試験（準４級以上）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
発音練習、聞き取り練習、発話練習、作文練習を通して、表現する力と聴く力を養います。また、過去問題などを使い、中国語検定（準４級）対策も行います。適宜、中国文化にも触れます。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
	第 7 課 (1)	第 7 課：連動文・時間量・前置詞
第 2 回	第 7 課 (2)	第 7 課：連動文・時間量・前置詞
	中国語検定案内	中国語検定試験問題
第 3 回	第 8 課 (1)	第 8 課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文
第 4 回	第 8 課 (2)	第 8 課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文
	第 9 課 (1)	第 9 課：比較・二重目的語・様態補語
第 5 回	第 9 課 (2)	第 9 課：比較・二重目的語・様態補語
	第 10 課 (1)	第 10 課：完了・「〜なのだ」・「できる」
第 6 回	第 10 課 (2)	第 10 課：完了・「〜なのだ」・「できる」 リスニング練習
第 7 回	第 11 課 (1)	第 11 課：動作の進行・状態の持続・「はやく〜」
第 8 回	第 11 課 (2)	第 11 課：動作の進行・状態の持続・「はやく〜」
	第 12 課 (1)	リスニング練習 第 12 課：方向補語・結果補語・動量補語
第 9 回	第 12 課 (2)	第 12 課：方向補語・結果補語・動量補語 リスニング練習
第 10 回	第 13 課 (1)	第 13 課：無主語文・「少しも〜」・「すぐに〜」・「ますます」
第 11 回	第 13 課 (2)	第 13 課：無主語文・「少しも〜」・「すぐに〜」・「ますます」
	第 14 課 (1)	リスニング練習 第 14 課：「〜のようだ」・禁止・「〜しながら」
第 12 回	第 14 課 (2)	第 14 課：「〜のようだ」・禁止・「〜しながら」 リスニング練習
第 13 回	期末試験 1	期末試験（筆記）
第 14 回	期末試験 2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】受講者は、教科書の予習・復習をし、本文をしっかりと身につける。付属の音声教材を使って音読練習、リスニング練習をし、漢字に頼らず、音で理解する。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
『中検準 4 級問題集 2021 年版』光生館、2021 年。
『中検 4 級問題集 2021 年版』光生館、2021 年。
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』同学社、2016 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（受講態度・発声音量）15 %、課題内容 25 %、試験（筆記 5 対音読 1）60 %として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
疑問に思ったことを質問して一度は解決したのに、しばらくしてわからなくなってしまったときには、遠慮なくまた聞いてください。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器。

【Outline and objectives】
Intermediate Chinese: This Mandarin Chinese course is for students who have completed either or both of Basic Chinese 1 and Chinese Communication held during the spring semester or equivalent. Students are offered training in listening, speaking, reading, and writing. The goal is to improve students' comprehensive Chinese language skills. Students are also recommended to enroll in Basic Chinese 2 held during the fall semester.

LANc100LC

中国語中級

平井　新

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級中国語を 1 学期履修した学生を対象としています。簡単な会話や読み書きについて学習し、中国語の基礎を固めます。

【到達目標】
中国語の発音やピンインの読み書きを確かなものとすること、簡体字に親しみ、基礎的な日常会話ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期開講の「中国語表現」と通年で 1 冊の教科書を使います。本授業では教科書（本篇：第 7 課～第 15 課）を使って中国語の基礎的な会話を学習していきます。中国語検定準 4 級の受験を推奨しており、過去問などを使って検定試験対策も行います。また適宜視聴覚教材などを使って中国語圏の文化や社会について紹介していきます。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について, 前期授業内容の復習.
第 2 回	中国語の表現と語彙 (1)	第 7 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③⑤⑥。
第 3 回	中国語の表現と語彙 (2)	第 8 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③⑤⑥⑦。
第 4 回	中国語の表現と語彙 (3)	第 9 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル⑤⑥⑦。
第 5 回	中国語の表現と語彙 (4)	第 10 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル⑤⑥⑦。
第 6 回	中国語の表現と語彙 (5)	第 11 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル④⑤⑥⑦。
第 7 回	中国語の表現と語彙 (6)	第 12 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル④⑤⑥⑦。
第 8 回	中国語の表現と語彙 (7)	第 1 課～第 10 課の復習＋中国語検定対策 (1)。
第 9 回	中国語の表現と語彙 (8)	第 1 課～第 10 課の復習＋中国語検定対策 (2)。
第 10 回	中国語の表現と語彙 (9)	第 13 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル④⑤⑥⑦。
第 11 回	中国語の表現と語彙 (10)	第 14 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル④⑤⑥⑦。
第 12 回	復習	第 7 課～第 15 課の復習と補足 (1)
第 13 回	復習	第 7 課～第 15 課の復習と補足 (2)
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】語学を身につけるには反復練習が重要です。授業で習った文章をできるだけ多く声に出して練習するようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
『つながる中国語文法』林　松涛著、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2011 年。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（80 %）＋平常点（20 %）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業中にできるだけ声に出して練習する機会を持ちたいと考えています。

【Outline and objectives】
This lesson is for students who took the 1st semester of Elementary Chinese. You will learn simple conversation, reading and writing, and solidify the foundation of your Chinese.

PSY100LC

パーソナリティ

伊藤　隆一

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。
○　この授業は、抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。
★ 2021 年度は特別態勢を取るので、詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★
○　教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
○　成績は、従来の定期試験を中心とする方法ではなく、授業中５回程度課すレポートの内容をもとに、授業への積極的な参加度で ± ３０%の加点または減点を行って、算出します。
○　伊藤隆一のメールアドレスは、　momokawa@hosei.ac.jp です。
○　状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせいたします。

【到達目標】
「パーソナリティ」「こころの働き」という２つの授業を通じて、人間のこころのメカニズムについて知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限１週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第 2 回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第 3 回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第 4 回	心理学の研究方法	心理学が用いる研究方法について説明する
第 5 回	心理学の領域と周辺諸科学	心理学がどのような他の学問領域と関連しているのか説明する
第 6 回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第 7 回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第 8 回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第 9 回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第 10 回	知能と実際的知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第 11 回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第 12 回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第 13 回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第 14 回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】
伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦　『現代の心理学』　金子書房　2003 年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の記述式試験の成績をベース（75%）に、授業内レポートの成績、授業への参加度、授業中の態度なども加味して（25%）、最終成績とする。授業内評価によって、期末試験の成績を ±25 点の範囲で変動させることがある。

【学生の意見等からの気づき】
今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行って行きたい。

【学生が準備すべき機器他】
心理学に関するビデオ・ＤＶＤを見せることがある。

【その他の重要事項】
受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。
「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests
to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind".

PSY100LC

こころの働き

伊藤　ひろみ

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。
○　この授業は抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。
★２０２１年度は特別体制を取るので、詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★
○　教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
○　成績は、従来の定期試験を中心とする方法では無く、授業中５回程度課すレポートの内容をもとに、授業への積極的な参加度で ± ３０％の加点または減点を行って、算出します。
○　伊藤ひろみのメールアドレスは、　hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp です。
○　状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときは、改めて、おしらせいたします。

【到達目標】
さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究法、人間の共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。また，課題を数回提出してもらうが､その場合はその次の週以降に正解・解説を述べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第 2 回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第 3 回	感覚の種類（1）	８つの感覚について説明する
第 4 回	感覚の種類（2）	〃　　（２）
第 5 回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第 6 回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第 7 回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第 8 回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第 9 回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第 10 回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第 11 回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第 12 回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第 13 回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第 14 回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

【テキスト（教科書）】
伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦　『現代の心理学』　金子書房　2003 年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。心理学に関するビデオ・ＤＶＤを見せることがある。

【成績評価の方法と基準】
原則として、学期末の記述式試験の成績をベースに (75%)、授業内レポートと、授業中の態度や授業への積極的な参加度などの平常点を加味して (25%)、最終成績とする。授業内評価によって、期末試験の成績を ±20 点の範囲で変動させることがある。

【学生の意見等からの気づき】
今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行って行きたい。

【その他の重要事項】
受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".

PSY100LC

パーソナリティ

伊藤　ひろみ

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。
○　この授業は、抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果登録できたか確認してください。
★２０２１年度は特別体制を取るので、詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★
○　教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
○　成績は、従来の定期試験を中心とする方法ではなく、授業中５回程度課すレポートの内容をもとに、授業への積極的な参加度で ± ３０%の加点または減点を行って、算出します。
○　伊藤ひろみのメールアドレスは、　hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp です。
○　状況が変化し、授業の内容と成績の査定方法を変更するときには、改めて、お知らせいたします。

【到達目標】
「パーソナリティ」「こころの働き」という２つの授業を通じて、人間のこころのメカニズムについて知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。また，課題を数回提出してもらうが，その場合はその次の週以降に正解・解説を述べる。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第 2 回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第 3 回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第 4 回	心理学の研究方法と周辺諸科学	心理学が用いる研究方法と、他の学問領域との関連について説明する
第 5 回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第 6 回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第 7 回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第 8 回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第 9 回	知能と実際的知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第 10 回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第 11 回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第 12 回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第 13 回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる
第 14 回	人間関係	他者との人間関係とパーソナリティとの関連性について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】
伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦　『現代の心理学』　金子書房　2003 年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。心理学に関するビデオ・ＤＶＤを見せることがある。

【成績評価の方法と基準】
原則として、学期末の記述式試験の成績をベースに (75%)、授業内レポートと、授業中の態度や授業への積極的な参加度などの平常点を加味して (25%)、最終成績とする。授業内評価によって、期末試験の成績を ±20 点の範囲で変動させることがある。

【学生の意見等からの気づき】
今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行って行きたい。

【その他の重要事項】
受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests to students taking this course.　The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind"

PSY100LC

こころの働き

伊藤　ひろみ

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。
○　この授業は抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。
★２０２１年度は特別体制を取るので、詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★
○　教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
○　成績は、従来の定期試験を中心とする方法では無く、授業中５回程度課すレポートの内容をもとに、授業への積極的な参加度で ± ３０％の加点または減点を行って、算出します。
○　伊藤ひろみのメールアドレスは、　hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp です。
○　状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときは、改めて、おしらせいたします。

【到達目標】
さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究法、人間の共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。また，課題を数回提出してもらうが，その場合はその次の週以降に正解・解説を述べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第 2 回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第 3 回	感覚の種類（1）	８つの感覚について説明する
第 4 回	感覚の種類（2）	〃　　（２）
第 5 回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第 6 回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第 7 回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第 8 回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第 9 回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第 10 回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第 11 回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第 12 回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第 13 回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第 14 回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

【テキスト（教科書）】
伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦　『現代の心理学』　金子書房　2003 年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。心理学に関するビデオ・ＤＶＤを見せることがある。

【成績評価の方法と基準】
原則として、学期末の記述式試験の成績をベースに (75%)、授業内レポートと、授業中の態度や授業への積極的な参加度などの平常点を加味して (25%)、最終成績とする。授業内評価によって、期末試験の成績を ±20 点の範囲で変動させることがある。

【学生の意見等からの気づき】
今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行って行きたい。

【その他の重要事項】
受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".

PSY100LC

パーソナリティ

伊藤　隆一

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。
○　この授業は、抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。
★ 2021 年度は特別態勢を取るので、詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★
○　教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
○　成績は、従来の定期試験を中心とする方法ではなく、授業中５回程度課すレポートの内容をもとに、授業への積極的な参加度で ± ３０%の加点または減点を行って、算出します。
○　伊藤隆一のメールアドレスは、　momokawa@hosei.ac.jp です。
○　状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせいたします。

【到達目標】
「パーソナリティ」「こころの働き」という２つの授業を通じて、人間のこころのメカニズムについて知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究方法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限１週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第 2 回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第 3 回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第 4 回	心理学の研究方法	心理学が用いる研究方法について説明する
第 5 回	心理学の領域と周辺諸科学	心理学がどのような他の学問領域と関連しているのか説明する
第 6 回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第 7 回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第 8 回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第 9 回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第 10 回	知能と実際的知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第 11 回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第 12 回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第 13 回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第 14 回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】
伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦　『現代の心理学』　金子書房　2003 年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の記述式試験の成績をベース (75%) に、授業内レポートの成績、授業への参加度、授業中の態度なども加味して (25%)、最終成績とする。授業内評価によって、期末試験の成績を ±25 点の範囲で変動させることがある。

【学生の意見等からの気づき】
今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行って行きたい。

【学生が準備すべき機器他】
心理学に関するビデオ・ＤＶＤを見せることがある。

【その他の重要事項】
受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。
「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests
to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind".

PSY100LC

こころの働き

伊藤　ひろみ

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。
○　この授業は抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。
★２０２１年度は特別体制を取るので、詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★
○　教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
○　成績は、従来の定期試験を中心とする方法では無く、授業中５回程度課すレポートの内容をもとに、授業への積極的な参加度で ± ３０％の加点または減点を行って、算出します。
○　伊藤ひろみのメールアドレスは、　hiromi.ito.rk@hosei.ac.jp です。
○　状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときは、改めて、おしらせいたします。

【到達目標】
さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現代心理学の枠組みや心理学の研究法、人間の共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。また，課題を数回提出してもらうが，その場合はその次の週以降に正解・解説を述べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第 2 回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第 3 回	感覚の種類（1）	８つの感覚について説明する
第 4 回	感覚の種類（2）	〃　　（２）
第 5 回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第 6 回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第 7 回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第 8 回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第 9 回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第 10 回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第 11 回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第 12 回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第 13 回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第 14 回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

【テキスト（教科書）】
伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦　『現代の心理学』　金子書房　2003 年

【参考書】
適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。心理学に関するビデオ・ＤＶＤを見せることがある。

【成績評価の方法と基準】
原則として、学期末の記述式試験の成績をベースに (75%)、授業内レポートと、授業中の態度や授業への積極的な参加度などの平常点を加味して (25%)、最終成績とする。授業内評価によって、期末試験の成績を ±20 点の範囲で変動させることがある。

【学生の意見等からの気づき】
今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行って行きたい。

【その他の重要事項】
受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".

HIS100LC

日本文化論

横山　泰子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文化の特徴や歴史性を考える一つの手がかりとして、妖怪文化をとりあげます。自国の文化を知るために、様々な文献やマンガ、絵画資料などにふれ、現代の文化が過去とつながっていること、海外の文化とも関係していることを知ります。

【到達目標】
世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的です。
文章だけではなく、映像や絵画、マンガなども文化研究の資料です。娯楽としてそれらを楽しむだけではなく、資料として扱う方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査
2	現代日本の妖怪文化の特徴 「鬼滅の刃」について	現代の日本の妖怪文化を代表する作品を鑑賞し、その特徴を考える
3	娯楽の対象としての妖怪 鬼について	怖いはずのものが楽しみ＝娯楽になることに注目し、妖怪文化の遊びの面をとらえる
4	信仰の対象としての妖怪 アマビエの正体	神秘的な存在は、恐怖されるのみならず、崇拝され信仰されることがある。そのメカニズムを考える
5	地域に根ざす妖怪文化	日本には、地域に根ざした多様な妖怪伝承がある。その地域性について考える
6	地域を超える妖怪文化	近年、日本の妖怪文化は諸外国から注目・評価されている。どの点がユニークとされ、興味を持たれているかをとらえる
7	欧米の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
8	欧米の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
9	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
10	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
11	妖怪を表現する技術	歴史的な絵画技術などに学びながら、自分たちで妖怪を創造してみる
12	日本の妖怪文化を世界で説明するために	日本文化を世界で説明することが求められる昨今、妖怪について自分なりに説明してみる
13	近代科学と妖怪 寺田寅彦について	近代科学の発展にともない、過去に妖怪のしわざとされていた現象は科学的に説明可能となった面がある。科学と怪異現象との関係について考える
14	まとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】その都度指示します

【テキスト（教科書）】
教科書を使用する予定はありません。

【参考書】
参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
【成績評価基準】
平常点３０％　授業時の提出物ならびに小テスト７０％

【学生の意見等からの気づき】
毎年教室で映像を見る時間をもうけていますが、毎年アンケートで「もっと長い時間見せてほしい」という声があります。作品の情報を提供しますので、興味をひかれた作品については自宅で個人で視聴して下さい。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
月曜日４時限目をオフィスアワーとします。研究室は W1004 です。
また、いそぎの質問等は
yyoko@hosei.ac.jp
にメールで御願いします。

【Outline and objectives】
This course will help you to understand yokai in Japan as cultural concepts and cultural products. The word yokai means creatures, presences, or phenomena that could be described as mysterious or eerie and are seen in every society.In recent years, interest in yokai culture has continued to build in Japan.After taking this course, you will be able to explain how yokai culture has built in Japan.

HIS100LC

比較文化論

横山　泰子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新型コロナウイルスの感染拡大は、日本および日本文化のさまざまな面をあらわにしています。変化を受け入れざるをえない今、自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしながら考えるという姿勢を身につけます。

【到達目標】
日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について１	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について２	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について３	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化１	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化２	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性１	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性２	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】その都度指示します

【テキスト（教科書）】
鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書　２０１９年　８２０円

【参考書】
ヤマザキマリ『たちどまって考える』中公新書ラクレ　２０２０年

【成績評価の方法と基準】
平常点３０％　授業時の提出物ならびに小テスト７０％

【学生の意見等からの気づき】
２０２０年度に教科書として指定した『「空気」を読んでも従わない』が好評だったので、今回はより時間をかけて読み、別の視点からの説明も加えることにしました。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
オフィスアワーは月曜４時限です。研究室は W1004 です。
急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jp
に御願いします。

【Outline and objectives】
This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese peolple think are very Japanese are really Japanese.

HIS100LC

日本文化論

谷村　玲子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
江戸時代は “Pax Tokugawa” とも呼ばれる、平和で豊かな時代である。本来は戦闘者である「武士」は平和を維持する為政者として、二六〇年という長い時をいかに生きたのであろうか。本授業においては、武家思想のみならず武士の具体的な衣食住から、江戸時代の武士の在り方を学ぶ。武士を核とした授業であるが、おのずから江戸時代における武士と町人との違いも明らかとなる。ある程度具体的な知識を得た後、学期の後半では赤穂事件（「忠臣蔵」）を取り上げる。この授業を通じて、学生一人一人が江戸時代に興味を持つと共に、日本人の精神性について考えてもらいたい。

【到達目標】
明治以降の日本人に期待される行動様式は、しばしば「サムライ」と表現される。江戸時代の武士の文化と精神性を知り、その上で、現代の我々にとって「日本人の理想像とは何か」を考える。思想的な問題にとどまらず、授業中の視覚資料から、江戸時代の生活・文化を広く知ることができ、また日本の伝統文化に触れることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業方法：コロナ感染の状況により、授業方法は大学の判断に従うものとする。対面授業が出来ない場合は、オンライン（zoom）による授業とする。毎回授業内で資料を手渡すが、後者の形式の場合は事前に送信する。授業内で簡単なアンケートや感想文を課す。提出物から学生の理解が難しかった内容が分かれば、次回で取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また感想文などでの良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
授業内容：授業内では江戸時代の武士の精神性を配布資料で説明すると共に、豊富な画像や映像を用いて、石高や屋敷、教育、衣食住といった具体的な内容も紹介する。そして武士との対比という形で、江戸時代の町人文化にも言及する。授業の半ばを過ぎた頃、赤穂事件（「忠臣蔵」）を取り上げ、日本人にとってなぜこの事件が魅力的なのかを考えたい。最後に映画『武士の一分』を観て、映像を通して授業で学んだことを確認する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバスの内容の確認と、授業で扱うテーマについてのアンケート調査。
2	武士道とは	明治に書かれた新渡戸稲造の「武士道」と、江戸時代の武士道の在り方との相違を考える。
3	戦闘者から為政者へ。	慶長二〇年（１６１５「武家諸法度」に見る戦闘者からの脱皮。徳川政権における政治思想＝儒学とは。
4	参勤交代と武士の生活	幕藩体制の中の武士。江戸城の中の大名。さらに大名に仕える武士の知行と扶持。
5	江戸時代の経済	知行と扶持とは。現実の武士の生活をその石高から考える。
6	大火後の江戸の町	江戸の華（大火）と街並みの変化。江戸の居住空間を知る。
7	武家と町人	井原西鶴「日本永代蔵」を読み、江戸時代の武士と町人の精神性の違いを考える。
8	無事の世の教養	戦国武将に流行した茶の湯は下剋上の芸能である。江戸時代に入り、武士の教養はどのように変化したか。特に参勤交代で江戸に集まった大名、藩士の生活を芸能から考える。
9	赤穂事件「忠臣蔵」元禄 14 年（1701）の事件。	「赤穂事件」には、五代将軍綱吉から七石二人扶持の最下位の武士までが関係している。どんな事件だったかを時系列で解説する。
10	元禄 15 年（1702）の吉良邸への討ち入り。その後の赤穂事件の評価。	討ち入りの夜から朝にかけて、何があったのか。さらに討ち入り直後からの様々な評価から、江戸時代の人々にとって「赤穂事件」とは何だったかを考察する。
11	江戸の教育：藩校と寺子屋	江戸時代の武士と町人の教育の違いを考える。武士（藩士）の通った藩校、また庶民の教育を支えた寺子屋を、俳句や絵から考える。
12	江戸の教育：湯島聖堂と昌平坂学問所。私塾とは。そして江戸時代の女子教育。	幕府の教育機関であった昌平坂学問所。さらに日本特有の「私塾」とは何か。そして江戸時代の女子教育の高さを同時代のイギリスと比べて考察する。
13	「武士の一分」	映画「武士の一分」から、これまでの授業の内容を復習すると共に、日本人にとっての「武士」を考える。
14	江戸の美意識「粋」について。 本授業のまとめ。	江戸の美意識「粋」を、武士の有り様と対比する形で考える。 その上で本講義のまとめを通して、江戸時代から明治東京への連続性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中でその日のテーマに沿った具体的な事項を取り上げ、それに対して学生が気楽にクラス内で発言できる機会を設けたい。また学期中に数回、簡単なアンケート、または感想文を授業中に提出させ、学生の興味を刺激したい。
毎回授業ではその日の内容を記したレジュメと配布資料を配るので、授業の後にも読み返してもらいたい。また参考文献の紹介を通じて、学生の自主的な参加を促したい。例えば第七回、第八回の授業では、武士（武家）をテーマとした江戸時代の文芸作品にも言及したい。現代文を前もって配布するので、予習として読んできて欲しい。
その日の授業内容に応じた参考文献を紹介するので、学生の自主的な参加を促したい。zoom 授業を余儀なくされた場合は、前もって学習支援システムで配信する。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布するので、特にテキストを準備する必要はない。

【参考書】
参考書については、随時授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
【成績評価基準】
対面授業の場合は、試験期間中に期末テストを行う。原則として大学の評価基準により、テストの点数で評価する。
☆完全オンライン授業となった場合は、学期中の小課題二回、小テスト三回の総合点で評価する。

☆学期内に授業方法の変更があった場合の評価方法は、時間的な余裕を持って（学期半ばには）学生と話し合い、学生側の合意を得た上で評価方法を決定したい。

【学生の意見等からの気づき】
江戸時代を様々な面から紹介したいが、情報が広範になりすぎると、学生が理解しにくいことがわかった。その上で視覚教材を大事にしたいと思う。また対面授業中の学生の雑談は、他の学生が大変迷惑に思うことから、厳しく注意していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
The Tokugawa regime maintained peace for 260 years. This is called "Pax Tokugawa". The warrior class (samurai) worked as politicians and bureaucrats in this period within a rigid social structure. Bushido was understood as the discipline of samurai's life. This course aims to examine the samurai of the Edo period from the cultural point of view. We will look at the norms of the samurai class including the protocol of high ranked samurai at Edo castle and also the real life of middle and lower ranked samurai, for example food, clothing and so on. We will examine the famous incident known as "Chūshingura", or "the 47 Ronin", in the second half of the class.

HIS100LC

比較文化論

谷村　玲子

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、西洋の社会学、心理学、また文化人類学の理論を用いた比較文化の視点から、日本の伝統文化である茶の湯を捉える。コースの前半では茶の湯に用いられる工芸品の数々から、外国からの影響や、日本の独自性を説明する。そして学生には日本の芸能や工芸における「自然」について考えて欲しい。後半には日本の茶の湯の歴史も講義するが、本授業におけるサブ・テーマは「政治と文化（茶の湯）」である。戦国時代の織田信長、豊臣秀吉、明智光秀の茶会の比較は、興味深い問題提起になるだろう。またその後に江戸時代の茶の湯を説明し、近世における日本の政治と文化の関係性を考える。日本史が不得意という学生には、知識としての歴史ではなく、現代を考えるための歴史ということを理解させたい。

【到達目標】
茶の湯を広く学際的に考察し、世界の中での日本文化、日本の美意識、そして日本文化の将来ということに興味を発展させたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業方法：授業方法：コロナ感染の状況により、授業方法は大学の判断に従うものとする。対面授業が出来ない場合は、オンライン（zoom）による授業とする。毎回授業内で資料を手渡すが、後者の形式の場合は事前に送信する。授業内で簡単なアンケートや感想文を課す。提出物から学生の理解が難しかった内容が分かれば、次回で取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また感想文などでの良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
授業の進め方としては、まず講義の導入として、日本の茶の湯と西洋紅茶文化の違いを明らかにする。その上で茶の湯の三要素―身体技法（作法・点前）、茶道具、特殊空間（茶室と茶庭）―を、それぞれに比較文化の視点から解説する。特に日本文化の特徴である「自然」の問題を意識して、身体技法・工芸品と季節・禅寺と茶室の違いを考えていく。茶の湯史に関しても、日本文化史の領域に留まらず、文化人類学、教育学、社会学といった観点から新しい分析を加える。本授業を通じて、世界にいかに日本文化をそして日本の美意識を伝えるかを考えたい。
対面授業の場合は、配布資料の理解を助けるべく、スライドや時には茶の湯道具の実物を見せることで、学生の興味や理解を深める。オンライン授業となった場合でも、画像や動画を増やすことで多方面から学生の興味を刺激したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	茶の湯研究とは	シラバス内容の確認と茶の湯文化に関する意見調査
2	植物としてのチャ、そして西洋の茶文化	様々なスライドで西洋の茶文化を紹介し、改めて日本の茶の湯との違いを明らかにする。
3	茶道具そして銘とは	茶道具から見た日本人の美意識の変化。中国と日本の工芸品の違いから、其々の美意識の相違を明らかにする。さらに「銘」とは何かを考えてもらう。
4	茶の湯に見られる自然	茶庭の自然、身体技法における自然、そして広く工芸品全般に見られる自然を表す文様。その上で日本文化が西洋に与えた影響を、ジャポニズムから考える。
5	茶事	四時間にわたる正式の茶会とはなにか
6	茶の湯の歴史	茶に関する中国と日本の最古の文献は何か。遣唐使・平安時代・鎌倉時代の茶の湯を説明し、鎌倉時代に禅と茶の湯が、なぜ武士の間で流行したかを考える。
7	室町時代の茶の湯	会所の茶の湯とやつしの美意識の出現。日本人の美意識の変化を文献とスライドから説明する。
8	戦国時代と南蛮文化	南蛮文化と自由都市堺。なぜ基督教宣教師は日本に来たのか。さらに南蛮屏風や、南蛮到来の言葉、食べ物等、南蛮文化の日本文化への影響を考える。
9	下剋上と茶の湯	信長、秀吉、そして明智光秀の茶会から、政治と茶の湯（芸能）を考える。さらに、この時代の茶会料理から、日本の食文化の変化を説明する。
10	利休の茶の湯とは １茶会　２茶室	天文一三年（1544）から天正一八年（1590）の利休の茶会。そして江戸時代初頭より利休の茶室と伝わる国宝「待庵」を用いて、わび茶とは何かを、心理学、文化人類学の視点から考える。
11	利休の最後と利休後の茶の湯	下剋上の人利休の謎に包まれた最後と、その後の茶の湯の変化から、下剋上と江戸時代の精神性の違いを茶の湯から考える。
12	江戸時代の茶の湯: 家元制度	現代日本の組織を考える時も、１８世紀半ばから確立していく家元制度は大きなヒントとなる。家元制度を社会学の視点から考える。
13	武家の茶の湯	江戸時代に茶の湯は武家の必須の教養となっていく。ブルデューの社会理論を参考に、身分特有の文化とは何かを、茶の湯から考える。
14	女性の茶の湯と現代の茶の湯 本講義のまとめ	女性の茶の湯の歴史から、現代の茶の湯を考える。 １４回にわたる講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前半の授業では茶の湯を通して「工芸」を考える。後半の授業では歴史背景の説明をしながら、日本人の美意識の変化や茶の湯という日本独特の文化の完成を説明していく。学生にはごく一般的な歴史の流れを復習したり、または授業後に配布資料を読み返し確認することを欲する。また前半・後半それぞれに授業内で自分の意見をまとめる小課題を出し、授業の説明を基に学生自身が考える機会としたい。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布するので、準備する必要はない。

【参考書】
授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末テストを行う。原則として大学の採点基準により、テストの点数で評価する。
☆対面方式の期末試験が出来ない場合は、学期内のオンラインでの小課題三回、小テスト三回の総合点を評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生による授業中の雑談は、他の学生が大変迷惑するので、今年はさらに厳しく注意したい。質問する・学生に感想を求めるなどの方法で、授業中に学生が発言できる機会を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
The Japanese Tea Ceremony or chanoyu is a very good perspective from which to examine Japanese culture in a comparative cultural context. Chanoyu is a performance art which is created through 1) the drinking of special tea by a host and guests following strict procedures, 2) the employing of special types of tea utensils, and 3) the use of a defined space, a tea room or tea hut including a tea garden. Through this course, you will learn about not only various arts and crafts but also patterns, and symbols of the seasons. You will be encouraged to think about the relationship between nature and Japanese culture. We will examine the history of tea in Japan in the second half of the course.
As I would like to illuminate the aesthetics of Japanese culture, I will speak about not only chanoyu itself but also the secondary aspects of chanoyu, including the history of tea, kaiseki meals (懐石), and some special Japanese cultural concepts such as utsushi (写し), hakogaki, and mei（銘）or poetic name. The particular relation between a tea master and followers, called the iemoto (家元) system, will also be discussed in the class.

HIS100LC

日本文化論

谷村　玲子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
江戸時代は “Pax Tokugawa” とも呼ばれる、平和で豊かな時代である。本来は戦闘者である「武士」は平和を維持する為政者として、二六〇年という長い時をいかに生きたのであろうか。本授業においては、武家思想のみならず武士の具体的な衣食住から、江戸時代の武士の在り方を学ぶ。武士を核とした授業であるが、おのずから江戸時代における武士と町人との違いも明らかとなる。ある程度具体的な知識を得た後、学期の後半では赤穂事件（「忠臣蔵」）を取り上げる。この授業を通じて、学生一人一人が江戸時代に興味を持つと共に、日本人の精神性について考えてもらいたい。

【到達目標】
明治以降の日本人に期待される行動様式は、しばしば「サムライ」と表現される。江戸時代の武士の文化と精神性を知り、その上で、現代の我々にとって「日本人の理想像とは何か」を考える。思想的な問題にとどまらず、授業中の視覚資料から、江戸時代の生活・文化を広く知ることができ、また日本の伝統文化に触れることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業方法：コロナ感染の状況により、授業方法は大学の判断に従うものとする。対面授業が出来ない場合は、オンライン（zoom）による授業とする。毎回授業内で資料を手渡すが、後者の形式の場合は事前に送信する。授業内で簡単なアンケートや感想文を課す。提出物から学生の理解が難しかった内容が分かれば、次回で取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また感想文などでの良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
授業内容：授業内では江戸時代の武士の精神性を配布資料で説明すると共に、豊富な画像や映像を用いて、石高や屋敷、教育、衣食住といった具体的な内容も紹介する。そして武士との対比という形で、江戸時代の町人文化にも言及する。授業の半ばを過ぎた頃、赤穂事件（「忠臣蔵」）を取り上げ、日本人にとってなぜこの事件が魅力的なのかを考えたい。最後に映画『武士の一分』を観て、映像を通して授業で学んだことを確認する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバスの内容の確認と、授業で扱うテーマについてのアンケート調査。
2	武士道とは	明治に書かれた新渡戸稲造の「武士道」と、江戸時代の武士道の在り方との相違を考える。
3	戦闘者から為政者へ。	慶長二〇年（１６１５「武家諸法度」に見る戦闘者からの脱皮。徳川政権における政治思想＝儒学とは。
4	参勤交代と武士の生活	幕藩体制の中の武士。江戸城の中の大名。さらに大名に仕える武士の知行と扶持。
5	江戸時代の経済	知行と扶持とは。現実の武士の生活をその石高から考える。
6	大火後の江戸の町	江戸の華（大火）と街並みの変化。江戸の居住空間を知る。
7	武家と町人	井原西鶴「日本永代蔵」を読み、江戸時代の武士と町人の精神性の違いを考える。
8	無事の世の教養	戦国武将に流行した茶の湯は下剋上の芸能である。江戸時代に入り、武士の教養はどのように変化したか。特に参勤交代で江戸に集まった大名、藩士の生活を芸能から考える。
9	赤穂事件「忠臣蔵」元禄 14 年（1701）の事件。	「赤穂事件」には、五代将軍綱吉から七石二人扶持の最下位の武士までが関係している。どんな事件だったかを時系列で解説する。
10	元禄 15 年（1702）の吉良邸への討ち入り。その後の赤穂事件の評価。	討ち入りの夜から朝にかけて、何があったのか。さらに討ち入り直後からの様々な評価から、江戸時代の人々にとって「赤穂事件」とは何だったかを考察する。
11	江戸の教育：藩校と寺子屋	江戸時代の武士と町人の教育の違いを考える。武士（藩士）の通った藩校、また庶民の教育を支えた寺子屋を、俳句や絵から考える。
12	江戸の教育：湯島聖堂と昌平坂学問所。私塾とは。そして江戸時代の女子教育。	幕府の教育機関であった昌平坂学問所。さらに日本特有の「私塾」とは何か。そして江戸時代の女子教育の高さを同時代のイギリスと比べて考察する。
13	「武士の一分」	映画「武士の一分」から、これまでの授業の内容を復習すると共に、日本人にとっての「武士」を考える。
14	江戸の美意識「粋」について。 本授業のまとめ。	江戸の美意識「粋」を、武士の有り様と対比する形で考える。 その上で本講義のまとめを通して、江戸時代から明治東京への連続性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中でその日のテーマに沿った具体的な事項を取り上げ、それに対して学生が気楽にクラス内で発言できる機会を設けたい。また学期中に数回、簡単なアンケート、または感想文を授業中に提出させ、学生の興味を刺激したい。
毎回授業ではその日の内容を記したレジュメと配布資料を配るので、授業の後にも読み返してもらいたい。また参考文献の紹介を通じて、学生の自主的な参加を促したい。例えば第七回、第八回の授業では、武士（武家）をテーマとした江戸時代の文芸作品にも言及したい。現代文を前もって配布するので、予習として読んできて欲しい。
その日の授業内容に応じた参考文献を紹介するので、学生の自主的な参加を促したい。zoom 授業を余儀なくされた場合は、前もって学習支援システムで配信する。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布するので、特にテキストを準備する必要はない。

【参考書】
参考書については、随時授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
【成績評価基準】
対面授業の場合は、試験期間中に期末テストを行う。原則として大学の評価基準により、テストの点数で評価する。
☆完全オンライン授業となった場合は、学期中の小課題二回、小テスト三回の総合点で評価する。

☆学期内に授業方法の変更があった場合の評価方法は、時間的な余裕を持って（学期半ばには）学生と話し合い、学生側の合意を得た上で評価方法を決定したい。

【学生の意見等からの気づき】
江戸時代を様々な面から紹介したいが、情報が広範になりすぎると、学生が理解しにくいことがわかった。その上で視覚教材を大事にしたいと思う。また対面授業中の学生の雑談は、他の学生が大変迷惑に思うことから、厳しく注意していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
The Tokugawa regime maintained peace for 260 years. This is called "Pax Tokugawa". The warrior class (samurai) worked as politicians and bureaucrats in this period within a rigid social structure. Bushido was understood as the discipline of samurai's life. This course aims to examine the samurai of the Edo period from the cultural point of view. We will look at the norms of the samurai class including the protocol of high ranked samurai at Edo castle and also the real life of middle and lower ranked samurai, for example food, clothing and so on. We will examine the famous incident known as "Chūshingura", or "the 47 Ronin", in the second half of the class.

HIS100LC

比較文化論

谷村　玲子

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、西洋の社会学、心理学、また文化人類学の理論を用いた比較文化の視点から、日本の伝統文化である茶の湯を捉える。コースの前半では茶の湯に用いられる工芸品の数々から、外国からの影響や、日本の独自性を説明する。そして学生には日本の芸能や工芸における「自然」について考えて欲しい。後半には日本の茶の湯の歴史も講義するが、本授業におけるサブ・テーマは「政治と文化（茶の湯）」である。戦国時代の織田信長、豊臣秀吉、明智光秀の茶会の比較は、興味深い問題提起になるだろう。またその後に江戸時代の茶の湯を説明し、近世における日本の政治と文化の関係性を考える。日本史が不得意という学生には、知識としての歴史ではなく、現代を考えるための歴史ということを理解させたい。

【到達目標】
茶の湯を広く学際的に考察し、世界の中での日本文化、日本の美意識、そして日本文化の将来ということに興味を発展させたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業方法：授業方法：コロナ感染の状況により、授業方法は大学の判断に従うものとする。対面授業が出来ない場合は、オンライン（zoom）による授業とする。毎回授業内で資料を手渡すが、後者の形式の場合は事前に送信する。授業内で簡単なアンケートや感想文を課す。提出物から学生の理解が難しかった内容が分かれば、次回で取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また感想文などでの良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす.
授業の進め方としては、まず講義の導入として、日本の茶の湯と西洋紅茶文化の違いを明らかにする。その上で茶の湯の三要素―身体技法（作法・点前）、茶道具、特殊空間（茶室と茶庭）―を、それぞれに比較文化の視点から解説する。特に日本文化の特徴である「自然」の問題を意識して、身体技法・工芸品と季節・禅寺と茶室の違いを考えていく。茶の湯史に関しても、日本文化史の領域に留まらず、文化人類学、教育学、社会学といった観点から新しい分析を加える。本授業を通じて、世界にいかに日本文化をそして日本の美意識を伝えるかを考えたい。
対面授業の場合は、配布資料の理解を助けるべく、スライドや時には茶の湯道具の実物を見せることで、学生の興味や理解を深める.
くオンライン授業となった場合でも、画像や動画を増やすことで多方面から学生の興味を刺激したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	茶の湯研究とは	シラバス内容の確認と茶の湯文化に関する意見調査
2	植物としてのチャ、そして西洋の茶文化	様々なスライドで西洋の茶文化を紹介し、改めて日本の茶の湯との違いを明らかにする。
3	茶道具そして銘とは	茶道具から見た日本人の美意識の変化。中国と日本の工芸品の違いから、其々の美意識の相違を明らかにする。さらに「銘」とは何かを考えてもらう。
4	茶の湯に見られる自然	茶庭の自然、身体技法における自然、そして広く工芸品全般に見られる自然を表す文様。その上で日本文化が西洋に与えた影響を、ジャポニズムから考える。
5	茶事	四時間にわたる正式の茶会とはなにか
6	茶の湯の歴史	茶に関する中国と日本の最古の文献は何か。遣唐使・平安時代・鎌倉時代の茶の湯を説明し、鎌倉時代に禅と茶の湯が、なぜ武士の間で流行したかを考える。
7	室町時代の茶の湯	会所の茶の湯とやつしの美意識の出現。日本人の美意識の変化を文献とスライドから説明する。
8	戦国時代と南蛮文化	南蛮文化と自由都市堺。なぜ基督教宣教師は日本に来たのか。さらに南蛮屏風や、南蛮到来の言葉、食べ物等、南蛮文化の日本文化への影響を考える。
9	下剋上と茶の湯	信長、秀吉、そして明智光秀の茶会から、政治と茶の湯（芸能）を考える。さらに、この時代の茶会料理から、日本の食文化の変化を説明する。
10	利休の茶の湯とは １茶会　２茶室	天文一三年（1544）から天正一八年（1590）の利休の茶会。そして江戸時代初頭より利休の茶室と伝わる国宝「待庵」を用いて、わび茶とは何かを、心理学、文化人類学の視点から考える。
11	利休の最後と利休後の茶の湯	下剋上の人利休の謎に包まれた最後と、その後の茶の湯の変化から、下剋上と江戸時代の精神性の違いを茶の湯から考える。
12	江戸時代の茶の湯: 家元制度	現代日本の組織を考える時も、１８世紀半ばから確立していく家元制度は大きなヒントとなる。家元制度を社会学の視点から考える。
13	武家の茶の湯	江戸時代に茶の湯は武家の必須の教養となっていく。ブルデューの社会理論を参考に、身分特有の文化とは何かを、茶の湯から考える。
14	女性の茶の湯と現代の茶の湯 本講義のまとめ	女性の茶の湯の歴史から、現代の茶の湯を考える。 １４回にわたる講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前半の授業では茶の湯を通して「工芸」を考える。後半の授業では歴史背景の説明をしながら、日本人の美意識の変化や茶の湯という日本独特の文化の完成を説明していく。学生にはごく一般的な歴史の流れを復習したり、または授業後に配布資料を読み返し確認することを欲する。また前半・後半それぞれに授業内で自分の意見をまとめる小課題を出し、授業の説明を基に学生自身が考える機会としたい。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布するので、準備する必要はない。

【参考書】
授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末テストを行う。原則として大学の採点基準により、テストの点数で評価する。
☆対面方式の期末試験が出来ない場合は、学期内のオンラインでの小課題三回、小テスト三回の総合点を評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生による授業中の雑談は、他の学生が大変迷惑するので、今年はさらに厳しく注意したい。質問する・学生に感想を求めるなどの方法で、授業中に学生が発言できる機会を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline and objectives】
The Japanese Tea Ceremony or chanoyu is a very good perspective from which to examine Japanese culture in a comparative cultural context. Chanoyu is a performance art which is created through 1) the drinking of special tea by a host and guests following strict procedures, 2) the employing of special types of tea utensils, and 3) the use of a defined space, a tea room or tea hut including a tea garden. Through this course, you will learn about not only various arts and crafts but also patterns, and symbols of the seasons. You will be encouraged to think about the relationship between nature and Japanese culture. We will examine the history of tea in Japan in the second half of the course.
As I would like to illuminate the aesthetics of Japanese culture, I will speak about not only chanoyu itself but also the secondary aspects of chanoyu, including the history of tea, kaiseki meals (懐石), and some special Japanese cultural concepts such as utsushi (写し), hakogaki, and mei（銘）or poetic name. The particular relation between a tea master and followers, called the iemoto (家元) system, will also be discussed in the class.

LAN ｆ 100LC

フランス語表現

元木　淳子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語を正しく発音し，フランス・フランス語圏での日常生活に必要な自己表現力を養う。また，フランス・フランス語圏の歴史や文化等について認識を深める。

【到達目標】
フランス語で簡単な自己紹介ができる。
フランス・フランス語圏で旅行する際に必要な基本的な情報を尋ね、聞き取ることができる。道を尋ねたり交通機関の情報をとることができる。
ホテルの予約や買い物ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学年全学科のフランス語初学者を対象とする授業。ペアやグループでフランス語を話し聞き，日常のさまざまな場面でフランス語で自己表現する力を培う。学習
者は，フランス・フランス語圏で関心のある事柄について調べ、口頭発表や学習支援システムの掲示板への書き込みを通じて、相互に意見交換を行う。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーについて講評し、全体に対してフィードバックを行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介、挨拶表現	始業、終業の挨拶など、様々な挨拶表現を学ぶ。
第 2 回	パリを紹介する 提示する	être 動詞を用いた断定、提示の表現を学ぶ。 ２０まで数を数える。
第 3 回	家族を紹介する	国籍・年齢表現を学ぶ。 否定表現を学ぶ。
第 4 回	好き嫌いを伝える	好き嫌いについて語り、その理由を述べ方を学ぶ。
第 5 回	将来の計画を立てる	近接未来、近接過去の表現を学ぶ
第 6 回	手紙を読む	義務の表現を学ぶ 考えを述べる表現を知る
第 7 回	場所を尋ねる	場所を尋ねる表現を学ぶ。 曜日、時刻表現を知る。
第 8 回	天気について語る	天候・気温の表現を学ぶ。 感覚表現を知る
第 9 回	丁寧に望みを伝える	丁寧に注文したり買い物したりする表現を学ぶ
第 10 回	許可を得る	相手に承諾を求める表現を学ぶ レストランで食事をする表現を知る
第 11 回	電話をかける	電話で話す表現を学ぶ 乗り物を利用する表現を知る
第 12 回	待ち合わせをする	謝罪と許しの表現を学ぶ 色彩と服装表現を知る
第 13 回	観光地をめぐる	比較の表現を学ぶ
第 14 回	総復習	フランス語で自己紹介し、ペアで寸劇を披露する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
予習、復習、課題を着実にこなします。

【テキスト（教科書）】
荻野文隆・荻野イザベル著、『パリの街角で』、両風堂、２０１５

【参考書】
授業中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 ％　期末試験 50 ％として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ映像資料やシャンソンを用いて授業を行います__

【Outline and objectives】
The purpose of this class is for students to acquire the ability to speak basic French.

LAN f 100LC

フランス語中級

元木　淳子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語運用能力を高める。
フランス・フランス語圏事情について認識を深める。

【到達目標】
実用フランス語技能検定資格の取得を目指す。
フランス語のインターネットサイトで情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
全学年全学科の「フランス語基礎 1」程度既習者を対象とする授業。基礎文法の理解を深め、聞き取り能力の向上を図ってフランス語運用能力を総合的に高め，実用フランス語技能検定資格 5 級以上の取得を目指す。
フランス・フランス語圏の最新事情について情報交換する場を設ける。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーについて講評し、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介 直説法複合過去	授業の紹介、 直説法複合過去の文を作る。
第 2 回	代名動詞	代名動詞で文を作る。
第 3 回	関係代名詞・指示代名詞	関係代名詞と指示代名詞を用いて文を作る。
第 4 回	直説法半過去	直説法半過去形を用いて、文を作る。
第 5 回	直説法大過去	直説法大過去形と他の過去時制とを比較する。
第 6 回	受動態	受動態の文を作る。
第 7 回	現在分詞	現在分詞を用いた文を理解する。
第 8 回	ジェロンディフ	ジェロンディフを用いて文を作る。
第 9 回	直説法単純未来	直説法単純未来を用いて文を作る。
第 10 回	直説法前未来	直説法前未来を用いた文を理解する。
第 11 回	中性代名詞	中性代名詞を用いた文を理解する。
第 12 回	条件法現在	条件法現在を用いて文を作る。
第 13 回	接続法現在 フランス語で情報を得る	接続法現在を用いて文を作る。 フランス語のインターネットサイトで情報を入手する。
第 14 回	総復習	フランス語の基礎文法と表現を総復習する。 フランス・フランス語圏について調べ、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
フランス語の基礎文法と表現の定着をはかるため、練習問題を中心とした課題をこなします。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
授業中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】
平常点　５０％
実用フランス語技能検定資格への取り組み　２０％
期末試験　３０％

【学生の意見等からの気づき】
シャンソンや映画などを用いて、フランス・フランス語圏文化に親しむ。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is for students to develop communication skills in French.

BSP100LC

文章作法

堀井　一摩

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とします。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学んでいきます。最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とします。

【到達目標】
①わかりやすく正確な日本語の書き方を習得する。
②議論を構築し、文章で表現できるようになる。
③学術レポートが書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義と演習から成り、その進行は大きく三段階に分けられます。まず、読みやすく正確な文を書くための基本について学び、演習を行います。次に、説得力のある議論の立て方を学び、小論文を作成します。最後に、学術レポートを書くための文献検索や情報処理の技術を学び、期末課題としてレポートを作成します。
※演習を多く取り入れた授業構成とします。授業中に書いてもらった課題は、ピアレビューや添削によってよりよい作文に仕上げていきます。課題へのフィードバックは「学習支援システム」または紙媒体での添削とコメントによって行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（授業内容の理解）・文章表現の基本（1）	・オリエンテーション（抽選、授業の目標、進め方および成績評価の説明） ・語順の法則
第 2 回	文章表現の基本（2）	・読点のうち方 ・書き言葉と話し言葉 ・小テスト（添削演習）
第 3 回	自己表現の実践（1）	・課題作成（怖い話／笑い話）
第 4 回	自己表現の実践（2）	・課題の返却と講評 ・主述の一致 ・長文の分割
第 5 回	論文入門（1）	・論文とは何か ・論理とは何か ・要約練習 ・文章整序
第 6 回	論文入門（2）	・論証とは何か ・論証のパターン① ・400 字作文
第 7 回	論文入門（3）	・論証のパターン②（反論） ・議論分析の方法 ・400 字作文
第 8 回	論文入門（4）	・パラグラフ・ライティング ・パッセージの構成法 ・アウトラインの作成
第 9 回	意見表明の実践（1）	・課題作成
第 10 回	意見表明の実践（2）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第 11 回	意見表明の実践（3）	・課題作成
第 12 回	意見表明の実践（4）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第 13 回	情報収集と情報処理（1）	・先行研究の調べ方 ・注と参考文献 ・話題ストラテジー
第 14 回	情報収集と情報処理（2）	・スキャニング ・スキミング ・要約練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・第 2 回：小テストを見直し、授業内容を復習する。
・第 4・10・12 回：課題文の返却後、添削・講評を参考に作文を書き直す。
・第 13・14 回：レポート作成に必要な資料を読み、文献メモを作る。レポートのアウトラインを作成する。レポートを書き、推敲する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。レジュメを配布します。

【参考書】
戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス、2012 年
野内良三『日本語作文術』中公新書、2010 年
野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006 年

【成績評価の方法と基準】
配分：
平常点（小テスト・400 字作文）（20 %）
課題文（40 %）
レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
双方向的な授業にしますが、一人の学生に当てる時間が長すぎないように調整します。メールでの質問にできるだけ迅速に対応するよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使用する場合があります。

【その他の重要事項】
受講希望者が定員を超えた場合は抽選になります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

【Outline and objectives】
The aim of this class is to provide students with writing skills to express themselves clearly and persuasively. Students will improve academic writing skills by reading articles and essays critically, editing grammatical and rhetorical errors, learning how to compose an argument, and developing research skills.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

川島　るり子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
具体例に取り組み、「英語らしい」センテンスを組み立てる基礎力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。毎回の講義の理解度を測る課題を提出してもらいます。授業形態は対面授業（状況によりハイブリッド型、オンデマンド型）を予定しています。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第 3 回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第 4 回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第 5 回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第 6 回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第 7 回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第 8 回	英語はポジティブにいこう！	「否定」から「肯定」へ
第 9 回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第 10 回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第 11 回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第 12 回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第 13 回	センテンスからまとまった文章へ	英文はとにかく「結論」が先、「起承転結」から抜け出し、PREP 手法でエッセイを書いてみよう
第 14 回	まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容を復習し課題に取り組みます（各２時間）。

【テキスト（教科書）】
遠田和子・岩渕デボラ著『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800 円＋税 978-4-7700-4074-9

【参考書】
必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加と毎週の課題への取り組み）　１００％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

早舩　由紀見

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
400 ワード程度の英語論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。
学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。
英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。
さらに、毎回英文読解の宿題を課す。
提出された英文、文法課題、宿題については、次の授業で返却し、各自へのフィードバックを行うほか、授業内で講評する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第 2 回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第 3 回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第 4 回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第 5 回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第 6 回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第 7 回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第 8 回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第 9 回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第 10 回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第 11 回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。 他人の書いた英文を校正する。
第 12 回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第 13 回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第 14 回	論文評価	完成した論文を評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】英文読解、英作文、文法、ボキャブラリーの習得。

【テキスト（教科書）】
指定教科書なし。

【参考書】
佐藤洋一　著「理工系のための英文法再入門」(オーム社)
高山英士、森一泰　著「English EX」(Linkage Club)

【成績評価の方法と基準】
授業参加度： 20%
授業内演習および宿題提出： 20%
論文： 30%
期末試験： 30%

【学生の意見等からの気づき】
文法演習および宿題の解説に時間をかけ、丁寧に行う。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

早舩　由紀見

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
400 ワード程度の英語論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。
学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。
英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。
さらに、毎回英文読解の宿題を課す。
提出された英文、文法課題、宿題については、次の授業で返却し、各自へのフィードバックを行うほか、授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第 2 回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第 3 回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第 4 回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第 5 回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第 6 回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第 7 回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第 8 回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第 9 回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第 10 回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第 11 回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。 他人の書いた英文を校正する。
第 12 回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第 13 回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第 14 回	論文評価	完成した論文を評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】英文読解、英作文、文法、ボキャブラリーの習得。

【テキスト（教科書）】
指定教科書なし。

【参考書】
佐藤洋一　著「理工系のための英文法再入門」(オーム社)
高山英士、森一泰　著「English EX」(Linkage Club)

【成績評価の方法と基準】
授業参加度： 20%
授業内演習および宿題提出： 20%
論文： 30%
期末試験： 30%

【学生の意見等からの気づき】
文法演習および宿題の解説に時間をかけ、丁寧に行う。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

余田　亜希

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
This course will focus on reading articles and essays on Britain to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of Britain.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
2 回の授業で教科書の 1 章分を学習する。まず教科書本文のパラグラフ構成を確認したあと、練習問題の答え合わせをする。次に学生を指名して 1 段落ずつ音読と日本語訳を確認する。授業後半では、こちらで用意した時事問題に関するリスニングなどを行ってテーマを多角的に理解するよう努める。なお提出された課題のフィードバックは授業時に口頭で行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明
2	Chapter 1 Multi-Cultural UK 前半	Reading 1: White Flight 演習問題
3	Chapter 1 Multi-Cultural UK 後半	Reading 2: Fear of Increasing Immigration 演習問題
4	Chapter 2 English Gardens 前半	Reading 1: Public Gardens 演習問題
5	Chapter 2 English Gardens 後半	Reading 2: Private Gardens 演習問題
6	Chapter 3 The British Royal Family 前半	Reading 1: Constitutional Monarchy 演習問題
7	Chapter 3 The British Royal Family 後半	Reading 2: Princess Diana- Her Legacy 演習問題
8	Chapter 4 Education in the UK 前半	Reading 1: The Education System 演習問題
9	Chapter 4 Education in the UK 後半	Reading 2: Issues for the Universities 演習問題
10	Chapter 5 Eating in Britain 前半	Reading 1: Typical British Dining 演習問題
11	Chapter 5 Eating in Britain 後半	Reading 2: Poor Diet 演習問題
12	Chapter 6 Health & Medical System 前半	Reading 1: The National Health Service (NHS) 演習問題
13	Chapter 6 Health & Medical System 後半	Reading 2: The Corona Virus Pandemic 演習問題
14	期末試験	授業で扱った内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

【テキスト（教科書）】
『Modern Britain: Culture, Society and History 現代英国の文化・社会・歴史』松柏社　2,000 円（税別）

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業に対する積極的な取り組み　20 %
授業内で課される課題や小テスト　20 %
期末試験　60 %
欠席回数が 5 回となった時点で単位取得の資格を失う。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。
30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。
予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】
教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていきたい。

【その他の重要事項】
教室での対面授業ではスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

余田　亜希

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
This course will focus on reading articles and essays on Britain to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will be also required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of Britain.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
2 回の授業で教科書の 1 章分を学習する。まず教科書本文のパラグラフ構成を確認したあと、練習問題の答え合わせをする。次に学生を指名して 1 段落ずつ音読と日本語訳を確認する。授業後半では、こちらで用意した時事問題に関するリスニングなどを行ってテーマを多角的に理解するよう努める。なお提出された課題のフィードバックは原則として授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の基準と方法についての説明
2	Chapter 7 Music & Fashion 前半	Reading 1: Liverpool, the Beatles and more 演習問題
3	Chapter 7 Music & Fashion 後半	Reading 2: Fashion in the UK 演習問題
4	Chapter 8 Tourism 前半	Reading 1: Outbound Tourism- Expectations & Disappointments 演習問題
5	Chapter 8 Tourism 後半	Reading 2: Inbound Tourism- Places to go in the UK 演習問題
6	Chapter 9 Post Brexit Britain 前半	Reading 1: Is the Future of the UK in Europe? 演習問題
7	Chapter 9 Post Brexit Britain 後半	Reading 2: Uncertainty for Pensioners Living Abroad 演習問題
8	Chapter 10 Leisure & Sport in the UK 前半	Reading 1: Leisure Queens 演習問題
9	Chapter 10 Leisure & Sport in the UK 後半	Reading 2: Football in Britain 演習問題
10	Chapter 11 The British Empire 前半	Reading 1: British Empire Survey 演習問題
11	Chapter 11 The British Empire 後半	Reading 2: Nostalgia for the British Empire in Hong Kong 演習問題
12	Chapter 12 Made in the UK 前半	Reading 1: Social Networking- Positives and Negatives 演習問題
13	Chapter 12 Made in the UK 後半	Reading 2: The BBC's Reporting- is it Impartial? 演習問題
14	期末試験	授業で扱った内容についての筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席すること。予習を行っていないことが発覚した場合は、欠席扱いとなることもあるので注意すること。

【テキスト（教科書）】
『Modern Britain: Culture, Society and History 現代英国の文化・社会・歴史』松柏社　2,000 円（税別）

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業に対する積極的な取り組み　20 %
授業内で課される課題や小テスト　20 %
期末試験　60 %
欠席回数が 5 回となった時点で単位取得の資格を失う。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として取り扱う。
30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なす。
予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】
教科書以外にも学生の希望するトピックを取り扱っていきたい。

【その他の重要事項】
教室での対面授業ではスマートフォンやタブレットの使用を禁止する。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

吉川　直澄

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用する語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストを中心とする講義と演習を行う。CD などの音声教材を利用し、音読と頭から読んで内容を理解する訓練を進める。また、英語字幕の DVD を使用して、リスニングや情報の読み取りの練習を行う。春学期がオンラインでの開講となった場合、それに伴う各回の授業計画の変更については、「学習支援システム」を通じて提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の説明。予習すべき項目の指示。
②	Unit 1 The Scientific Method 精読	テキストの 7 ページと 8 ページの精読　科学的方法について パラグラフの構造の説明
③	Unit 1 The Scientific Method 文法	テキストの 9 ページと 10 ページの練習問題　受動態　科学英語の語彙と数式の読み方
④	Unit 2 Observing the Solar System 精読	テキストの 11 ページと 12 ページの精読　太陽系の観測史について
⑤	Unit 2 Observing the Solar System 文法	テキストの 13 ページと 14 ページの練習問題　方程式の読み方　他動詞の目的語となる動名詞と to-不定詞
⑥	Unit 3 The Beauty of Mathematics 精読	テキストの 15 ページと 16 ページの精読　数式の美しさについて
⑦	Unit 3 The Beauty of Mathematics 文法	テキストの 17 ページと 18 ページの練習問題　数式の記号について　関係代名詞
⑧	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 精読	テキストの 19 ページと 20 ページの精読　電球と LED について
⑨	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 文法	テキストの 21 ページと 22 ページの練習問題　図形・面積・体積　関係副詞
⑩	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 精読	テキストの 23 ページと 24 ページの精読　放射性物質について
⑪	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 文法	テキストの 25 ページと 26 ページの練習問題　長さ・幅・高さ・深さ　分詞構文
⑫	Unit 6 The Man Who Saved Millions 精読	テキストの 27 ページと 28 ページの精読　ジェンナーの業績
⑬	Unit 6 The Man Who Saved Millions 文法	テキストの 29 ページと 30 ページの練習問題　工具と付属部品の名称　関係代名詞
⑭	試験・まとめと解説	学期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、それにテキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、何度も反復練習をするように。

【テキスト（教科書）】
Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future,Dave Rear & Kayoko Murakami, 南雲堂, 2019, 1900 円.

【参考書】
『理科系のための英語力強化法』、ジャパンタイムズ、2002 年　『公式 TOEIC(R)Listening&Reading 問題集 7』、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、2020 年

【成績評価の方法と基準】
授業内提出物・宿題・平常点等（５０％）、期末試験のスコア（５０％）を総合的に検討して評価する。全体の 60 %以上の得点をもって可とする。4 回以上欠席した場合、原則として、単位は認定されない。春学期がオンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に「学習支援システム」を通じて提示する。

【学生の意見等からの気づき】
英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようお手伝いします。質問があれば何時でもどうぞ。

【学生が準備すべき機器他】
DVD,CD, ブルーレイ等の再生機（自宅学習用）があれば望ましい。

【その他の重要事項】
学生の皆さんのレベルに応じて、予定を変更する場合もありうる。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development forcuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

吉川　直澄

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。DVD を使用するリスニングとリーディングの訓練も継続させる。

【到達目標】
一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用される語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前学期に準ずる講義と演習に加えて、TOEIC 形式の問題演習（プリント）を随時行い、スキルの仕上げをめざす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	試験の返却とガイダンス	前学期試験答案を返却し、本学期のガイダンスを行う。
②	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 精読	テキストの 31 ページと 32 ページの精読　アインシュタインの一般相対性理論について
③	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 文法	テキストの 33 ページと 34 ページの練習問題　運動を表す動詞　「原因・理由」を表す副詞節
④	Unit 8 The Strange World of Atoms 精読	テキストの 35 ページと 36 ページの精読　原子の世界について
⑤	Unit 8 The Strange World of Atoms 文法	テキストの 37 ページと 38 ページの練習問題　運動の方向を表す表現「結果・程度」を表す副詞節
⑥	Unit 9 Interstellar Travel 精読	テキストの 39 ページと 40 ページの精読　星間旅行について
⑦	Unit 9 Interstellar Travel 文法	テキストの 41 ページと 42 ページの練習問題　測定・計量を表す動詞「譲歩」を表す副詞節
⑧	Unit 10 Limitless Energy 精読	テキストの 43 ページと 44 ページの精読　核融合について
⑨	Unit 10 Limitless Energy 文法	テキストの 45 ページと 46 ページの練習問題　グラフ・図表の英語表現　比較の表し方
⑩	Unit 11 The Surprising Uses of Nanotechnology 要約　基礎	テキストの 47 ページから 50 ページの内容の要約　ナノテクノロジーについて　主語・目的語の名詞表現を判別し、文の「主題」をつかむ。
⑪	Unit 12 Creating the Perfect Human 要約　基礎	テキストの 51 ページから 54 ページの内容の要約　ヒトの遺伝子編集について　「主題」のパラフレーズとディスコースマーカーの働き
⑫	Unit 13 The New Age of Computing 要約　応用	テキストの 55 ページから 58 ページの内容の要約　量子コンピューターについて　全体の主旨を理解する論理的思考力と無意識に活用できる文法力
⑬	Unit 14 The Coming of the Machines 要約　応用	テキストの 59 ページから 62 ページの内容の要約　ヒトと AI の共存について　背景知識の活用
⑭	試験・まとめと解説	学期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習と復習をきちんとすること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し何度も反復練習すること。

【テキスト（教科書）】
前期のテキストを引き続き使用し、プリントを随時配布する。秋学期からの履修者のため、タイトルを提示しておく。
Advances in Science Learning from the Past, Looking to the Future, 南雲堂, 2019, ISBN 978-4-523-17899-6.

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内提出物・宿題・平常点等（50 %）、期末試験のスコア（50 %）を総合的に検討して評価する。全体の 60 %以上の得点をもって可とする。欠席が 4 回以上になった者は原則として、単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようにお手伝いします。前期同様に質問があれば、気軽にしてください。

【学生が準備すべき機器他】
DVD,CD, ブルーレイ等の再生機（自宅学習用）があれば望ましい。

【その他の重要事項】
学生の皆さんのレベルに応じて、予定を変更する場合もありうる。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

太田　美智子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

【到達目標】
· Reviewing basic grammatical structure in order to write English more correctly and confidently.
· You can choose most appropriate type of essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The lesson will involve using textbook and also free-writing.
At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第 2 回	Unit 1	* These are facts * Writing to inform
第 3 回	Unit 2	* Separating into groups * Writing to classify
第 4 回	Unit 3	* If I were you... * Writing to advise
第 5 回	Unit 4	* Sizing things up * Writing to evaluate
第 6 回	Unit 5	* Mission accomplished * Describing an achievement
第 7 回	quiz	quiz
第 8 回	Unit 6	* This really happened * Reporting an event
第 9 回	Unit 7	* Every problem has a solution * Solving a problem
第 10 回	Unit 8	* Let me make it clear * Writing to clarify
第 11 回	Unit 9	* Don’t you see it my way? * Persuasive writing
第 12 回	Unit 10	* One thing leads to another * Cause & effect
第 13 回	Review	Review
第 14 回	Quiz	Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】
Jigsaw Intro — Insight Reading to Successful Writing, Robert Hickling, Jun Yashima, Cengage Learning、2021、2150yen

【参考書】
Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】
Class Work and Participation　30 %
Short Reports　30 %
Term-Examination 40 %

【学生の意見等からの気づき】
It is important for us to find intersting topics.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries

【Outline and objectives】
This class aims at developing students’ basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skills of writing in a more English-like way, finding and resarching good topics and content-based writing.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

太田　美智子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

【到達目標】
· Reviewing basic grammatical structure in order to write English more correctly and confidently.
· You can choose most appropriate type of essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The lesson will involve using textbook and also free-writing.
At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第 2 回	Unit 1	* These are facts * Writing to inform
第 3 回	Unit 2	* Separating into groups * Writing to classify
第 4 回	Unit 3	* If I were you... * Writing to advise
第 5 回	Unit 4	* Sizing things up * Writing to evaluate
第 6 回	Unit 5	* Mission accomplished * Describing an achievement
第 7 回	quiz	quiz
第 8 回	Unit 6	* This really happened * Reporting an event
第 9 回	Unit 7	* Every problem has a solution * Solving a problem
第 10 回	Unit 8	* Let me make it clear * Writing to clarify
第 11 回	Unit 9	* Don't you see it my way? * Persuasive writing
第 12 回	Unit 10	* One thing leads to another * Cause & effect
第 13 回	Review	Review
第 14 回	Quiz	Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】
Jigsaw Intro — Insight Reading to Successful Writing, Robert Hickling, Jun Yashima, Cengage Learning、2021、2150yen

【参考書】
Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】
Class Work and Participation　30 %
Short Reports　30 %
Term-Examination 40 %

【学生の意見等からの気づき】
It is important for us to find intersting topics.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionaries

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skills of writing in a more English-like way, finding and resarching good topics and content-based writing.

LANe100LC

英語資格試験準備講座

川島　多加子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、TOEIC 対策の教材を使います。TOEIC テストは、最も一般的な英語資格試験で、英語の熟達度を評価する有効なテストです。また、最近では TOEIC テストが多くの企業において英語能力の評価の基準として用いられており、また世界的にもその目的に適したものとみなされています。こうした社会の状況を考慮すれば、将来仕事に就く際に TOEIC テストでの十分な成績が要求されると考えられます。その点を踏まえ、本授業は TOEIC テストに焦点を絞り、それに必要な知識や技術の向上を目的とします。

【到達目標】
TOIEC50 点～100 点のスコアアップをめざして、学生は以下のことができるようになります。
・TOEIC テストの出題形式に慣れスコアアップに向けての対策ができる。
・簡単な会話であれば、相手が理解できるように伝えることができる。
・700 ワードの TOIEC 関連語彙を理解し使うことができる。
・リスニングパートのおよその内容を理解できる。
・リーディングパートのおよその内容を理解できる。
・速読速聴が当初よりも速い速度でできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
3 回の授業で、テキストの 5 単元を進め、確認の小テストを実施します。各回では、リスニングパートやリーディングパートの一つを取り上げ、それぞれのパートで必要なコツを説明します。学生はその演習を通して聞き方のコツや解き方のコツなどのテクニックを習得していきます。
授業では、問題を解いた後、グループやペアで答え合わせをし、その答えを発表していきます。分からない箇所を、クラスメイトからのフィードバックと講師の解説を通して、理解を深めていきます。
リスニングパートでは、聞いて発話することでリスニング力の向上をはかります。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Pretest 目標設定ワークシート
第 2 回	Unit 1 & Unit 2 Listening Tips: Part 1	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 3 回	Unit 3 & Unit 4 Reading Tips: Part 5	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 4 回	Unit 5 Review: Learning Points of Units 1-5	テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説 学習ポイントの確認 Quiz（リスニング）
第 5 回	Unit 6 & Unit 7 Reading Tips: Part 6	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 6 回	Unit 8 & Unit 9 Listening Tips: Part 2	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 7 回	Unit 10 Review: Learning Points of Units 6-10	テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説 学習ポイントの確認 Quiz（文法、語彙）
第 8 回	Unit 11 & Unit 12 Listening Tips: Part 3	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 9 回	Unit 13 & Unit 14 Reading Tips: Part 7	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 10 回	Unit 15 Review: Units 11-15	テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説 学習ポイントの確認 Quiz（リスニング）
第 11 回	Unit 16 & Unit 17 Listening Tips: Part 4	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 12 回	Unit 18 & Unit 19 Reading Tips: Part 7	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 13 回	Unit 20 Review: Units 16-20	テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説 学習ポイントの確認 Quiz（文法、語彙）
第 14 回	Review Post Test Reflection	重要ポイントの確認、解説 TOEIC ミニテスト 振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・予習として、指定された教科書等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味を確認すること。
・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
・教科書のオーディオマークのある英文については、繰り返し発話すること。

【テキスト（教科書）】
Effective Approaches to the TOEIC L&R Test (Revised Edition),
by Kiyomi Tanaka, Yuri Wada, Satoru Sakaki, & Asako Kaneko, Nan'un-do, 2021　(￥2,200+tax)

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点　４０％
小テスト　２０％
最終日のテスト（Post-Test)　４０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人財育成の実務経験に基づいて、実際の企業で使われる英語を紹介しながら、5 年後、10 年後のキャリアを見据え、学生が主体的に学習できるような動機づけをします。

【Outline and objectives】
This class focuses on the TOEIC preparation texts. The TOEIC is the most commonly used test of English proficiency and is especially popular in Japan. In recent years, the TOEIC has become the measure used by many businesses for assessing employees' English abilities, and it is globally recognized for the purpose.
Considering this situation in society, students will need to get a good score on the TOEIC to get a job in the future. Based on that, this class aims to help students develop the language and test-taking skills they need to succeed on the TOEIC Listening and Reading test.

LANe100LC

英語資格試験準備講座

バリー　ヘイタ

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(i)Improved understanding of the principle elements of certified tests,particularly TOEIC.(ii)Higher score attainment on such tests which is more commensurate to actual understanding of their content.

【到達目標】
i)The integration of skills for reading and writing with those cognitive ones involved for analysis, recognition, and choice of relevant information.
ii)Better understanding of text and discourse structures through practice with materials from the different sections of TOEIC tests .

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Practical learning through both the use of material from past tests and regular revision with practice work sheets. As pair work is an essential part of the course, students are expected to take responsibility for their own study and participate fully.
.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
First	Introduction to the nature of TOEIC and its two Sections of Listening and Reading	Section 1(1–100) Section 2(101–200)
Second	Reading Section (Parts 5-7)	Practice Test,Answers, and Scores Strategy and Tactics Time management Order preferences
Third	Reading Part 5 (101-140)	Answer sheet use Question pattern analysis
Forth	Reading Part 5 (101-140)	Sentence,word, and spelling analysis
Fifth	Reading Part 6 (141-152)	Sentence and paragraph composition:pronouns, verbs and adjectives
Sixth	Reading Parts 5/6	Review and practice
Seventh	Reading Part 7 (153-200)	Question expressions and text words;question order and text development; Scanning
Eighth	Reading Part 7 (147-179)	Single Texts:purposes, persons,places, give and take interactions
Ninth	Reading Part 7(180-200) Review of Reading Section	Double texts:reference, development,cohesion
Tenth	Listening Section(Parts 1-4)	Common features and differences of the 4 parts. Review and preview practice
Eleventh	Part 1	Picture analysis and misunderstandings of content
Twelfth	Listening Part 2 (11-40)	Spoken question and sentence shadowing
Thirteenth	Listening Part 3 (41-70)	Scanning question and possible responses in unison with listening to talks
Forteenth	Listening Part 4 (71-100)	Skimming the choices for situation and topic hints simultaneous with listening to the monologues

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Constant review of materials practiced and explained in class is necessary both for improved scores on certified tests and for faster recognition of the question patterns. Only this will heighten skills and performance.

【テキスト（教科書）】
Materials including CDs,Question Papers,and Answer Sheets will be provided by the instructor.

【参考書】
TOEIC Test Practice for the new format (TOEIC 運営委員会)

【成績評価の方法と基準】
Final test 50%
Mini-tests 25%
Classroom tasks 25%

【学生の意見等からの気づき】
Initial focus on the Reading Section; subsequent focus on the Listening Section

【学生が準備すべき機器他】
Tape cassette or CD player

【その他の重要事項】
Irregular,indifferent,ill-prepared,sleepy, or chattery students can neither benefit nor participate optimally in this class.They will be considered disruptive and accordingly asked to leave.

【Outline and objectives】
i)To improve not only general proficiency in understanding of and performance on certified tests but also the particular skills needed for atttaning this.

LANc100LC

基礎中国語 I

呉　暁林

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では，教科書を使って，文法を中心に初級中国語の前半部分を学びながら，中国語力の基礎（言語の規則・「書く」力・「話す」力・「聞く」力）の習得を目指します。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。なお，本授業は，後期開講の「基礎中国語Ⅱ」でも同じ教科書を使います。

【到達目標】
中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業（分散登校を含む）を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性があります。
　本授業では，教科書（発音篇、本篇：第 1 課～第 7 課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。
　提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について・中国語とは。
第 2 回	中国語の発音 (1)	発音 (1) ：解説文の説明と発音練習。練習①②⑥。 発音 (2) ：解説文の説明と発音練習。練習①②⑥。
第 3 回	中国語の発音 (2)	発音 (3) ：解説文の説明と発音練習。練習①②⑥。
第 4 回	中国語の発音 (3)	発音 (4) ：解説文の説明と発音練習。練習①②⑥⑦。
第 5 回	中国語の発音 (4)	発音 (5) ：解説文の説明と発音練習。練習①②⑦。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (1)	第 1 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 2 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 3 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 4 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 5 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 6 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 12 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 7 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②④。
第 13 回	前期授業内容の復習	第 1 課～第 7 課の復習と補足。
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストについている CD を十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝，朝日出版社，本体： 2300 円）。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（80 %）と平常点（20 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
大学の「学習支援システム」に基礎中国語 I の自主登録を行ってください。

【Outline and objectives】
This is a course for students studying Chinese for the first time. Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language.

LANc100LC

基礎中国語ＩＩ

呉　暁林

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では，教科書を使って，文法を中心に初級中国語の後半部分を学びながら，中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。必要に応じて，中国語検定（準 4 級）対策も行います。なお，本授業は，前期開講の「基礎中国語Ｉ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】
中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（本篇：第 8 課～第 15 課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，基本的な実用会話を学びます。また，必要に応じて，過去問題などを使って，中国語検定（準 4 級）対策も行います。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・中国語の文法と語彙 (1)	授業の進め方について・第 8 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②④。
第 2 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 8 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②④。
第 3 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 9 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③④。
第 4 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 9 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③④。
第 5 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 10 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③④。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 10 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③④。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 11 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (8)	第 11 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (9)	第 12 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (10)	第 12 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (11)	第 13 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 12 回	中国語の文法と語彙 (12)	第 13 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 13 回	中国語の文法と語彙 (13)	第 14 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストについている CD を十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝，朝日出版社，本体： 2300 円）。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は宿題・レポートなど 50 %、期末試験 50 %で換算して行います。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が充実を感じ、興味を持って学習を続けたいと思うような授業を志します。なお、受講者の理解を優先しますので、上記の授業計画通りには進まない可能性があります

【Outline and objectives】
This is a class for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure. The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language.

LANe100LC

英語資格試験準備講座

井上　敏郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TOEIC テストの成績向上と共に、英語の実力も向上することを目指す。TOEIC テストの 7 種類のパターンについて、それぞれその特徴とポイントを、実践的に行っていくつもりです。

【到達目標】
学生諸君の得意な分野と苦手な分野はそれぞれ違うでしょうが、今回はリスニングと文法を確実に向上させることを目的とするつもりです。具体的には、１００点のアップを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
TOEIC テストの 7 つのパートを全部扱うつもりですが、上で書いたように、リスニングと文法に重きを置くつもりです。具体的にはリスニングのパート１～３、リーディングのパート５，６です。実際に問題を解きながらの授業となります。 また、幾つかを課題として、次週に回収した解答を使って、解くポイントの説明等を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	授業説明	聴きづらい音の確認、リスニングの要
	リスニング　パート１	点の確認
	リーディング　パート５	語感の説明
2 回目	リスニング　パート１	問題の傾向の説明
	リーディング　パート５	語彙の傾向の説明
3 回目	リスニング　パート１	選択肢の傾向の説明
	リーディング　パート５	
4 回目	リスニング　パート２	話の流れを掴む練習を積む
	リーディング　パート６	
5 回目	リスニング　パート２	わからない文章を前後から理解する練
	リーディング　パート６	習を積む
6 回目	リスニング　パート２	語彙の確認
	リーディング　パート６	
7 回目	リスニング　パート３	ポイントとなる単語やフレーズの把握
	リーディング　パート７	の練習を積む
	（１つの文書）	
8 回目	リスニング　パート３	理解の強弱をつける練習を積む
	リーディング　パート７	
	（１つの文書）	
9 回目	リスニング　パート３	リスニングのスピードに慣れる、
	リーディング　パート７	読むスピードを上げる練習を積む
	（１つの文書）	
10 回目	リスニング　パート４	何度か聞いたり、時間をかけて読み、
	リーディング　パート７	文章の長さに慣れる練習を積む
	（２つの文書）	
11 回目	リスニング　パート４	スピードを上げて、話の流れを掴む練
	リーディング　パート７	習を積む
	（２つの文書）	
12 回目	リスニング　パート４	実際のテストと同様のシステムでどの
	リーディング　パート７	くらい理解できるかを確認する
	（２つの文書）	
13 回目	リスニング　パート４	上と同様だが、それによって自分の長
	リーディング　パート７	所、弱点を確認する
	（２つの文書）	
14 回目	実際のテストに当たる	現在の自分の実力を確認する
	（リスニング）	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】TOEIC テストに限らず、結局は問題への慣れが重要です。毎日とは言いませんが、出来るだけ多く自宅学習をやること。一番良いのは、TOEIC 公式問題集です。図書館にあると思うので、借りてやってみてください。とにかく本一冊をやりきれば、どんな本でも意味があります。

【テキスト（教科書）】
授業で配布します。

【参考書】
授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】
毎回、問題を解きながらの授業なので、一応諸君の答案を集めて確認します。この授業の性格から、平常点重視にするつもりです。真面目な授業態度を特に重要視します（６０％）。最後に行う模擬テスト（４０％）と合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ちょっと喋るテンポが速くなったり、またたまに正解の説明を忘れたりすることがあるようなので、今回はそうならないように気をつけます。

【その他の重要事項】
辞書は必ず持参して下さい。

【Outline and objectives】
I'll show you about the characteristics of TOEIC and how to solve the questions so that you can acquire the higher scores.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

NEIL CONWAY

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
• choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrange of media
• write an effective summary paragraph
• write an analytical book report
• make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
• carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form. During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be ccovered.	Students will recieve guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.
Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】
No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】
Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_
and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
A good dictionary is required. One example is:
Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Homework: 30%
Class performance (effort, participation, presentations): 30%
Project Work: 40%

【学生の意見等からの気づき】
Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice with MLA.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx format: not PDF, Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the “Announcements” section of the course site.* Students will also be instructed to regularly visit the “Forums” section in order to communicate with other students, give and receive support etc.
Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.
Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes
an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not. *You may not use a smartphone for this purpose*

【その他の重要事項】
This class has a strict “NO Smartphones” policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students’ own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

ALDER　mark

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This class will be student centred, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.
Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Personailty	Talking about life choices
3	Family	Talking about some of their favourite things
4	Advice	Students will have the opportunity to talk about problems and brainstorm solutions to these problems.
5	Technology	Discussing possessions and tech features
6	Bullying	DVD listening and storytelling
7	Getting around	giving an guided tour of your hometown
8	First conversation test	Partner work to show consolidation of the first six chapters of the course.
9	Smart cities	Students will discuss a variety of scenarios about our future world
10	Driving test	Students will discuss a variety of challenges they will face
11	Health	Talk about different health and fitness issues.
12	Work	Students will discuss work, bosses and interesting coworkers.
13	Lifestyle	Students will discuss good habits, bad habits and lifestyle choices.
14	Final conversation	Partner based conversation to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Most of the work done outside class will be listening tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】
Evolve Student book 3B.
Cambridge university press. 2019

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Mid term assessment 30%
Final assessement 30%
Weekly assignments and homework 40%

【学生の意見等からの気づき】
More time will be spent giving short speeches

【学生が準備すべき機器他】
CD player, blackboard, DVD, OHP

【None】
None

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

川島　るり子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
実用的な英語文法を軸におきつつ、具体例を通して様々なコンテクストにおける英語の表現を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。毎回の講義の理解度を測る課題を提出してもらいます。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。授業形態は対面授業（状況によりハイブリッド型、オンデマンド型）を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	時制のはなし（1）	現在と過去、現在時制
第 3 回	時制のはなし（2）	過去時制、時制の一致
第 4 回	完了形・進行形のはなし（1）	現在完了、過去完了、動態動詞の進行形
第 5 回	完了形・進行形のはなし（2）	状態動詞と進行形、完了進行形
第 6 回	法助動詞のはなし（1）	法助動詞、根源的用法、推量的用法
第 7 回	法助動詞のはなし（2）	擬似法助動詞、未来に言及する色々な表現、縮約形
第 8 回	命令・依頼・懇願など	文の種類とその用途、遠慮のない命令・要請、要請・依頼・懇願、許可の求め方、依頼その他のイントネーション
第 9 回	助言・批判・警告など	助言・忠告、勧誘、助力の申し出、文句の付け方、警告・脅かし
第 10 回	依頼・助言・警告などへの対応	居丈高な命令への対応、依頼・許可要請などに対する応諾、拒絶・謝絶・反発等
第 11 回	知的情報交換	確認、意見・知見の訊ね方・述べ方、賛成・反対、反論・批判の回避術
第 12 回	潤滑油としてのことば	交換的言語使用、同情・悔やみなど、come と go、bring と take など、謝辞・賛辞・世辞・祝辞など、格好の付け方
第 13 回	イントネーション	イントネーションの重要性、どこを強く、どこを弱く発音するか、上昇と下降
第 14 回	まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする
当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容を復習し課題に取り組みます（各2時間）。

【テキスト（教科書）】
今井邦彦著『英語の使い方』大修館書店 1,600 円＋税 978-4-469-14138-2

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加と毎週の課題への取り組み）　１００％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

NEIL CONWAY

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
At the end of this course, students will be able to:
• choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrange of media
• write an effective summary paragraph
• write an analytical book report
• make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
• carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form. During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be ccovered.	Students will recieve guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.
Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】
No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】
Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_
and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
A good dictionary is required. One example is:
Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Homework: 30%
Class performance (effort, participation, presentations): 30%
Project Work: 40%

【学生の意見等からの気づき】
Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice with MLA.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx format: not PDF, Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the “Announcements” section of the course site.* Students will also be instructed to regularly visit the “Forums” section in order to communicate with other students, give and receive support etc.
Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.
Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes
an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not. *You may not use a smartphone for this purpose*

【その他の重要事項】
This class has a strict “NO Smartphones” policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students’ own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

ALDER　mark

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】
The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This class will be student centred, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.
Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Personality	Talking about lifestyle choices
3	Family	Students will have the opportunity to talk about some of their favorite things.
4	Advice	Students will have the opportunity to talk about problems and brainstorm solutions to these problems.
5	Technology	Discussing possessions and tech features.
6	Bullying	DVD listening and storytelling
7	Getting around	Explaining favourite games to others in small groups.
8	First conversation	Giving a guided tour of your hometown
9	Smart cities	Students will discuss a variety of scenarios about our future world
10	Health	Talk about different health and fitness issues
11	Work	Students will discuss work, bosses and interesting coworkers.
12	Lifestyle	Students will discuss good habits, bad habits and lifestyle choices.
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique.
14	Final conversation	Partner based conversation to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Most of the work done outside class will be listening tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】
Evolve Student Book 3B
Cambridge University press. 2019

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
midterm assessment 30%
Final assessment 30%
Weekly assignments and homework 40%

【学生の意見等からの気づき】
There will be more emphasis on conversation in groups

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionary

【None】
None

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小屋　多恵子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、基礎的な文法力と語彙力の定着を図ると同時に、それに支えられたライティング力の向上を目的とする。ライティングは高校までの授業で最も学習する機会が少ないにも関わらず、大学以降ますます要求される重要な技能である。基礎的な文法知識を復習し、語彙の中でも語法とコロケーションに焦点を当て、日本人学習者のエラーに留意したテキストを使用して正確で自然なライティング力養成を目指す。

【到達目標】
1) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認し、正しい文法と語法・コロケーションに支えられた自然な英文を習得できる。
2) 自然な英文を文字だけでなく音声も合わせて身に着ける。
3) 日本語的な表現を、日英発想の違いを念頭に置いて、直訳ではなく、効果的に英語で表現することができる。
4)2 年次に履修するアカデミック・ライティングの準備として、まとまりのある文章が書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の 6 つである。
1)warming-up activity: 先週の復習をする。
2) 文法・基本例文をおさらいする。
3) 音読・リスニングにより学習ポイントを確認する。
4) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認する。
5) 日本人英語学習者のエラー項目に注意して英文を書く。
6) 正確な文法に支えられた文をもとに、英語でまとまった文章を書く。
・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な参加が求められる。
・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深めることに努めたい。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	授業の進め方、学習の仕方、評価などの説明。英語力チェック。
2 回目	Introduction	英語力チェック。
3 回目	Unit 1 主語の選択	Unusual Weather
4 回目	Unit 2 名詞 (1)	Terrorism
5 回目	Unit 4 代名詞	Fame and Fortune
6 回目	Unit 5 冠詞	Hosting the Olympics
7 回目	Review	中間試験
8 回目	エッセイを書いてみよう (1)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。
9 回目	Unit 6 形容詞 (1)	Convenient Gadgets and Sustainable Lifestyles
10 回目	Unit 8 副詞	Still Addicted to Junk Food
11 回目	Unit 9 比較	A Graying Society
12 回目	Unit 10 動詞 (1)	Waiting for "Mr. Right"
13 回目	Review	期末試験
14 回目	エッセイを書いてみよう (2)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
・理解した内容は本や資料により学習を深め、不明な点については自主学習によって解決を目指す。
・授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

【テキスト（教科書）】
Writing Updates
A Grammar-based Approach to English Writing
『今を表現する英文ライティング入門』
木塚　晴夫/ノースリッジ ロジャー著
金星堂　1944 円
プリント課題を適宜配布

【参考書】
必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題・小テスト・中間テスト 50%
学期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】
次の 4 点に留意する。
1) 一つ一つの活動には明確な目的・意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
2) 学生の興味や学習の理解度に応じて、シラバスに書いた計画を柔軟に修正し授業を行う。
3) わかりやすく見やすい板書を心がける。
4) 質問しやすい環境と時間を作る。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使用する際は前もって連絡する。

【その他の重要事項】
・５回欠席した者に対しては学期末試験を受けることなく単位取得不可となる。
・遅刻・早退は２回を持って欠席１回とみなす。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

村上　弥生

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施。

【到達目標】
高校までに培ってきた英語の文法、語彙を確認しながら、実際に読み聞き話す場面で運用する力として高めていく。
国際的な教養人たることを期待される大学生にふさわしく、英語を通じて世界と社会の現在についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1. 現代社会の直面する問題や情勢を考える材料となるような読み物やビデオのスクリプトを精読、ないし要旨の把握を行い、語彙や表現の拡充、視野の拡大を図る。
２．現在多く議論され、意見の分かれる問題をいくつか取り上げて、短い資料を読んだうえで、簡単なリサーチを個々人で行ってもらい、集めた情報や自分の意見を英語で発信する経験を重ねる。
3. 日本語訳の提出やスピーチ原稿の提出、発表などを随時求める。
4. 4. 1～3 の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時 Hoppi に提出されたものを評価して返却、ないし授業時に総評を行い、受講生間での議論の発展につなげる。
下記の題材は昨年度の例であり、今年度はまた社会情勢に合わせて資料やトピックは選びなおす予定である。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業の進め方についての説明 受講生の自己紹介など。
第二回	Impact of pandemic on the environment: In India,Life Under Coronavirus Brings Blue Skies And Clean Air － 1 コロナ禍における環境浄化 (以下の題材は昨年度の例であり、今年度はまた社会情勢に合わせて資料やトピックは選びなおす予定である。)	精読 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第三回	Impact of pandemic on the environment: In India, Life Under Coronavirus Brings Blue Skies And Clean Air － 2	精読 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習 関連した現象についてのリサーチの発表
第四回	Impact of pandemic on the environment: In India, Life Under Coronavirus Brings Blue Skies And Clean Air － 3	精読 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習 関連した現象についてのリサーチの発表
第五回	1～3 の復習	質問と説明
第六回	Rare Protest Led By Celebrities Helps Shelve Prosecutor Bill － 1 検察庁法改正案反対運動に見るコロナ禍におけるネット社会での政治意識の拡大	精読 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第七回	Rare Protest Led By Celebrities Helps Shelve Prosecutor Bill － 2	精読 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習 関連した現象についてのリサーチの発表
第八回	グループでの議論	グループでの議論
第九回	グループでの話し合いの報告 6～7 の復習	質問と説明
第十回	Japan's Virus Vigilantes Take On rule-Breakers And Invaders － 1 コロナ禍に見るネット社会の問題点	精読 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第十一回	Japan's Virus Vigilantes Take On rule-Breakers And Invaders － 2	精読 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習 関連した現象についてのリサーチの発表
第十二回	Japan's Virus Vigilantes Take On rule-Breakers And Invaders － 3	精読 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習 関連した現象についてのリサーチの発表
第十三回	グループでの議論	グループでの議論
第十四回	グループでの議論の報告 10～13 の復習	質問と説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
1. 読む資料については、テキストも含めて事前に丁寧に予習を行う。
2. 各章のトピックに関連する情報や意見について、各人でリサーチを行う。
3. クラスでの情報・意見交換にそなえて、リサーチの結果を紹介したり自分の考え　　を発信する英文を作成する。
4. リスニング資料については、自宅でオンラインで復習する

【テキスト（教科書）】
教師による配布、または初回に指示する

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
予習と情報や意見の交換などの平常点（６０%）、各種発表やエッセイなど（４０%）。

【学生の意見等からの気づき】
英語と日本語を授業で併用するバランスについて、英語が多すぎる、反対に英語で全部行ってほしいなど異なる意見があるが、参加者の理解の様子を注意して検討していきたい。
不足しているように見受けられる文法、語彙の確認に十分時間を配分したい。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

藤野　輝雄

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
動物・冒険など興味あるテーマを読み、聴き、話すことにより英語の読解力、リスニング力、スピーキング力、語彙力等を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週興味あるテーマを英文で読み、語彙を確認し，ビデオを試聴し、テーマの内容を英語で説明することにより英語を理解し、英語によるコミュニケーション能力を養う。そのために、授業内容に関連したクイズや演習、シャドーイングを行うと同時に、ペアやグループで活動を行う。また，課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course
2	Reading Explorer 1 Unit one A: Reading and listening	Amazing Animals: The Incredible Dolphin
3	Reading Explorer 1 Unit one B: Reading and listening	Amazing Animals: Musical Elephants
4	Reading Explorer 1 Unit two A: Reading and listening	Travel and Adventure: The Trip of a Lifetime
5	Reading Explorer 1 Unit two B: Reading and listening	Travel and Adventure: Adventure Island
6	Reading Explorer 1 Unit three A: Reading and listening	The Power of Music: Hip-Hop Planet
7	Reading Explorer 1 Unit three B: Reading and listening	The Power of Music: A Musical Boost
8	Reading Explorer 1 Unit four A: Reading and listening	Into Space: Life Beyond Earth?
9	Reading Explorer 1 Unit four B: Reading and listening	Into Space: Living in Space
10	Reading Explorer 1 Unit five A: Reading and listening	City Life: Global Cities
11	Reading Explorer 1 Unit five B: Reading and listening	City Life: Rio Reborn
12	Reading Explorer 1 Unit six A: Reading and listening	Small Worlds: In One Cubic Foot
13	Reading Explorer 1 Unit six B: Reading and listening	Small Worlds: A World Within Us
14	Exam, summary, and explanation	Contents of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・次回の授業の予習を行うこと
・小テストのための復習をすること
・与えられた宿題を決められた日時に提出すること

【テキスト（教科書）】
・Nancy Douglas, Reading Explorer 1, HEINLE CENGAGE Learning, ISBN 978-1-285-84685-9

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
・試験（30%），小テスト・演習（25%）、宿題（30%），平常点（15%）とする
・「平常点」では、先生の言うことをしっかり聴き、質問に自発的に答え、与えられた課題に真面目に取り組み、授業に関係ない話をせず、他の学生の邪魔をしないかどうか等を評価する
・教員間の評価の不公平を解消するために成績を調整する場合がある

【学生の意見等からの気づき】
シャドウイングが勉強になったとのことなので今後も行っていきたい。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

神　康介

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Yuzuru Hanyu	授業の進め方の説明。 オリンピックについて学ぶ。
2	Kei Nishikori Christel Takigawa	スポーツ文化について学ぶ。
3	Kyary Pamyu Pamyu	日本の新しいタイプの文化について学ぶ。
4	World Cultural Heritage Site Mount Fuji	世界文化遺産について学習する。
5	World Intangible Cultural Heritage Washoku	世界無形文化遺産について学習する。
6	Spiber	新しい産業について学習する。
7	Abenomics	経済について学習する。
8	Maglev Train	工業技術について学習する。
9	Pokémon Go	エンターテイメントについて学習する。
10	My Number	マイナンバーについて学習する。
11	Net TV	インターネットについて学習する。
12	Epsilon Rocket	人工知能について学習する。
13	Olive Oil Medicinal Plants	食品産業について学習する。 薬草について学習する。
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

【テキスト（教科書）】
Ｃｏｏｌ　Ｊａｐａｎ　南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 %で評価する。60 パーセント以上で単位習得となる。原則として 半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚機器をもっと活用する。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

小屋　多恵子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、基礎的な文法力と語彙力の定着を図ると同時に、それに支えられた更なるライティング力の向上を目的とする。基礎的な文法知識を復習し、語彙の中でも語法とコロケーションに焦点を当て、日本人学習者のエラーに留意したテキストを使用して正確で自然なライティング力養成を目指す。また、秋学期は特に次年度アカデミック・ライティングの準備も兼ねて、まとまりのある文章を書く練習を多く取り入れていくつもりである。

【到達目標】
1) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認し、正しい文法と語法・コロケーションに支えられた自然な英文を習得する。
2) 自然な英文を文字だけでなく音声も合わせて身に着ける。
3) 日本語的な表現を、日英発想の違いを念頭に置いて、直訳ではなく、効果的に英語で表現することができる。
4) 正確な文法に支えられた文から文章へと発展させ、まとまりのある文章の書き方を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の 6 つである。
1)warming-up activity: 先週の復習をする。
2) 文法・基本例文をおさらいする。
3) 音読・リスニングにより学習ポイントを確認する。
4) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認する。
5) 日本人英語学習者のエラー項目に注意して英文を書く。
6) トピックに合った文章を書く。
・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な授業への参加が基本となる。
・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深めることに努めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction エッセイを書いてみよう (3)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。
2 回目	Unit 12 時制	Seeing What Isn't There
3 回目	Unit 13 態	Cybercrime
4 回目	Unit 14 動名詞	Looking for a Job
5 回目	Unit 15 不定詞	To Smoke or Not to Smoke
6 回目	Review	中間試験
7 回目	エッセイを書いてみよう (4)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。
8 回目	Unit 16 接続詞	Cats and Dogs
9 回目	Unit 17 前置詞	World Heritage Sites
10 回目	Unit 18 関係詞	Keeping the Peace
11 回目	Unit 19 仮定法	But for the Distance
12 回目	Unit 20 語順	Clean, Green Cities
13 回目	Review	期末試験
14 回目	エッセイを書いてみよう (5)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。
・教科書の一部指定した箇所を予習し、補足プリントをやってみる。

【テキスト（教科書）】
Writing Updates
A Grammar-based Approach to English Writing
『今を表現する英文ライティング入門』
木塚　晴夫/ノースリッジ ロジャー著
金星堂　1944 円
プリント課題を適宜配布

【参考書】
必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題・小テスト・中間テスト 50%
学期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】
次の 4 点に留意する。
1) 一つ一つの活動には明確な目的・意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
2) 学生の興味や学習の理解度に応じて、シラバスに書いた計画を柔軟に修正し授業を行う。
3) わかりやすく見やすい板書を心がける。
4) 質問しやすい環境と時間を作る。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使用する際は前もって連絡する。

【その他の重要事項】
・５回欠席した者に対しては学期末試験を受けることなく単位取得不可となる。
・遅刻・早退は２回を持って欠席 1 回とみなす。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

村上　弥生

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施。

【到達目標】
高校までに培ってきた英語の文法、語彙を確認しながら、実際に読み聞き話す場面で運用する力として高めていく。
国際的な教養人たることを期待される大学生にふさわしく、英語を通じて世界と社会の現在についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1. 現代社会の直面する問題や情勢を考える材料となるような読み物やビデオのスクリプトを精読、ないし要旨の把握を行い、語彙や表現の拡充、視野の拡大を図る。
２．現在多く議論され、意見の分かれる問題をいくつか取り上げて、短い資料を読んだうえで、簡単なリサーチを個々人で行ってもらい、集めた情報や自分の意見を英語で発信する経験を重ねる。
3. 日本語訳の提出やスピーチ原稿の提出、発表などを随時求める。
4. 1〜3 の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時 Hoppi に提出されたものを評価して返却、ないし授業時に総評を行い、受講生間での議論の発展につなげる。
下記の題材は昨年度の例であり、今年度はまた社会情勢に合わせて資料やトピックは選びなおす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業の進め方についての説明 夏休みの経験など自由な会話
第二回	Online Games-1 オンラインゲームの現状と賛否両論 （以下は昨年度の例デアリ、今年度はまた社会情勢に合わせて選びなおす予定である）	精読・要旨のまとめ 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第三回	Online Games － 2 リサーチに基づく情報・意見交換	関連した現象についてのリサーチ、自分の意見の発表
第四回	Online Games-3 より発展させた意見の発表	クラスメートとの意見交換を通じた議論の発展
第五回	Small Government vs. Big Government-1 大きな政府か小さな政府か、それぞれの根拠	精読・要旨のまとめ 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第六回	Small Government vs. Big Government-2 リサーチに基づく情報・意見交換	関連した現象についてのリサーチ、自分の意見の発表
第七回	Small Government vs. Big Government-3 より発展させた意見の発表	クラスメートとの意見交換を通じた議論の発展
第八回	Tax Hikes: Direct or Indirect?－ 1 直接税か間接税か:税制度を巡る議論	精読・要旨のまとめ 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第九回	Tax Hikes: Direct or Indirect?－ 2 リサーチに基づく情報・意見交換	関連した現象についてのリサーチ、自分の意見の発表
第十回	Tax Hikes: Direct or Indirect?－ 3 より発展させた意見の発表	クラスメートとの意見交換を通じた議論の発展
第十一回	Open Borders or Closed Societies-1 移民政策を巡る議論	精読 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習 関連した現象についてのリサーチの発表
第十二回	Open Borders or Closed Societies-2 リサーチに基づく情報・意見交換	関連した現象についてのリサーチ、自分の意見の発表
第十三回	Presentations and feedback-1 移民政策ないし税制度のいずれかについてのプレゼンテーション	スピーチとクラスメートによるフィードバック
第十四回	Presentations and feedback-2	スピーチとクラスメートによるフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
1. 読む資料については、テキストも含めて事前に丁寧に予習を行う。
2. 各トピックに関連する情報や意見について、各人でリサーチを行う。
3. クラスでの情報・意見交換にそなえて、リサーチの結果を紹介したり自分の考え　　を発信する英文を作成する。
4. 説得力のある、ないし啓発的なスピーチ原稿を作成する

【テキスト（教科書）】
教師による配布、または初回に指示する

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
予習と情報や意見の交換などの平常点（６０%）、各種発表やエッセイなど（４０%）。

【学生の意見等からの気づき】
英語と日本語を授業で併用するバランスについて、英語が多すぎる、反対に英語で全部行ってほしいなど異なる意見があるが、参加者の理解の様子を注意して検討していきたい。
不足しているように見受けられる文法、語彙の確認に十分時間を配分したい。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

藤野　輝雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
動物・冒険など興味あるテーマを読み、聴き、話すことにより英語の読解力、リスニング力、スピーキング力、語彙力等を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週興味あるテーマを英文で読み、語彙を確認し，ビデオを試聴し、テーマの内容を英語で説明することにより英語を理解し、英語によるコミュニケーション能力を養う。そのために、授業内容に関連したクイズや演習、シャドーイングを行うと同時に、ペアやグループで活動を行う。また，課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course
2	Reading Explorer 1 Unit seven A: Reading and listening	When Dinosaurs Ruled: The Truth about Dinosaurs
3	Reading Explorer 1 Unit seven B: Reading and listening	When Dinosaurs Ruled: Mystery of the Terrible Hand
4	Reading Explorer 1 Unit eight A: Reading and listening	Stories and Storytellers: The Brothers Grimm
5	Reading Explorer 1 Unit eight B: Reading and listening	Stories and Storytellers: The Tale of the Seven Ravens
6	Reading Explorer 1 Unit nine A: Reading and listening	Unusual Jobs: Meet the Meteorite Hunter
7	Reading Explorer 1 Unit nine B: Reading and listening	Unusual Jobs: Smokejumpers
8	Reading Explorer 1 Unit ten A: Reading and listening	Uncovering the Past: The Army's True Colors
9	Reading Explorer 1 Unit ten B: Reading and listening	Uncovering the Past: Wonders of Egypt
10	Reading Explorer 1 Unit elven A: Reading and listening	Legends of the Sea: Pirates: Romance and Reality
11	Reading Explorer 1 Unit eleven B: Reading and listening	Legends of the Sea: Women of the Waves
12	Reading Explorer 1 Unit twelve A: Reading and listening	Vanished!:Mystery on Everest
13	Reading Explorer 1 Unit twelve B: Reading and listening	Vanished!:The Missing Pilot
14	Exam, summary, and explanation	Contents of the course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・次回の授業の予習を行うこと
・小テストのための復習をすること
・与えられた宿題を決められた日時に提出すること
なお，本授業の予習・復習・宿題時間は，各々 1，2，1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・Nancy Douglas, Reading Explorer 1, HEINLE CENGAGE Learning, ISBN 978-1-285-84685-9

【参考書】
授業の中で必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・試験（30%），小テスト・演習（25%）、宿題（30%），平常点（15%）とする
・「平常点」では、先生の言うことをしっかり聴き、質問に自発的に答え、与えられた課題に真面目に取り組み、授業に関係ない話をせず、他の学生の邪魔をしないかどうか等を評価する
・教員間の評価の不公平を解消するために成績を調整する場合がある

【学生の意見等からの気づき】
興味深い内容があったとのことなので引き続き本テキストを使用して授業を行いたい。

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ

神　康介

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	No More Shakespeare? Privacy Matters	英文学 プライバシー
2	Pet Peeves Truth in dvertising	ペット 広告
3	The Race to Work	通勤
4	Unsafe at Any Speed	交通
5	Up in Smoke	喫煙
6	Keeping Up Appearances	外見を飾る
7	Painful Cuts	支出削減
8	The Future of Cinema?	映画
9	Separate Ways	離婚
10	Power to the People	環境問題
11	Behind Bars	獄中からの叫び
12	O City of Broken Dreams	貧困
13	Changing Times	変遷
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては, 大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句, 専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

【テキスト（教科書）】
U.K. Update いま、イギリスを読む　南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 %で評価する。半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline and objectives】
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

塩谷　勇

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
１）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
２）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
１）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
２）　行基本変形によって連立 1 次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
３）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
講義と演習を組み合わせて行う．最初に、(1) 前回の復習、(2) 前回の課題の解説と解答状況、(3) 新規の内容、(4) 演習、(5) 課題の提示を中心に進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」 裳華房 2200 円+税

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
　行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを期末試験の成績で判断する．
　ほぼ毎回小テストを行うが，受験回数が全体の２／３以下の学生は不合格とするので注意すること．
中間試験 (35%), 期末試験 (40%), 演習小テスト (25%)

【学生の意見等からの気づき】
【時間内】自らの講義ノートを作成することが重要のポイント。
【授業時間外の学習】　に書いたことを実行して，毎回行う小テストの準備をきちんとすることが単位修得のための良い方法である．

【その他の重要事項】
基本的には全出席が必要です。少なければ、減点がされます。

【Outline and objectives】
We learn a primary linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1)We learn the calculation methods of vectors and matrices,
and understand the applications to simultaneous linear equations.
2)We know the concepts such as regular matrices and ranks,
and understand the equivalence conditions being regular matrices.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

塩谷　勇

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立 1 次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
講義と演習を組み合わせて行う．最初に、(1) 前回の復習、(2) 前回の課題の解説と解答状況、(3) 新規の内容、(4) 演習、(5) 課題の提示を中心に進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」 裳華房 2200 円

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
　行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを期末試験の成績で判断する.
　ほぼ毎回小テストを行うが，受験回数が全体の２／３以下の学生は不合格とするので注意すること.
中間試験 (35%), 期末試験 (40%), 演習小テスト (25%)

【学生の意見等からの気づき】
【時間内】自らの講義ノートを作成することが重要なポイント。
【授業時間外の学習】　に書いたことを実行して，毎回行う小テストの準備をきちんとすることが単位修得のための良い方法である.

【その他の重要事項】
基本的には全出席が必要です。少なければ、減点がされます。

【Outline and objectives】
We learn a primary linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1)We learn the calculation methods of vectors and matrices,
and understand the applications to simultaneous linear equations.
2)We know the concepts such as regular matrices and ranks,
and understand the equivalence conditions being regular matrices.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

塩谷　勇

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
講義と演習を組み合わせて行う．最初に、(1) 前回の復習、(2) 前回の課題の解説と解答状況、(3) 新規の内容、(4) 演習、(5) 課題の提示を中心に進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの線形結合	平面ベクトルの線形結合, 空間ベクトルの線形結合
2	線形独立と線形従属	線形独立, 線形独立な数ベクトル空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 線形独立と線形従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成, R^3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う。授業全体の講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、
前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」 裳華房 2200 円

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
　ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを期末試験で判断する．
　ほぼ毎回小テストを行うが，受験回数が全体の２／３以下の学生は不合格とするので注意すること．
中間試験 (35%), 期末試験 (40%), 演習小テスト (25%)

【学生の意見等からの気づき】
【授業時間内】自らの講義ノートを作成することが重要なポイント。
【授業時間外の学習】　に書いたことを実行して，毎回行う小テストの準備をきちんとすることが単位修得のための良い方法である．

【その他の重要事項】
基本的には全出席が必要です。少なければ、減点がされます。

【Outline and objectives】
We learn the concepts and applications of linear mappings, eigenvalues and eigenvectors, which are the of mathematical basis in the fields of science and engineering.

BSP100LC

線形代数学及び演習ＩＩ

塩谷　勇

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ．

【到達目標】
ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
講義と演習を組み合わせて行う．最初に、(1) 前回の復習、(2) 前回の課題の解説と解答状況、(3) 新規の内容、(4) 演習、(5) 課題の提示を中心に進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトルの１次結合	平面ベクトルの１次結合, 空間ベクトルの１次結合
2	１次独立と１次従属	１次独立, １次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, １次独立と１次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成, R3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う。授業全体の講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、
前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」 裳華房 2200 円

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
　ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを期末試験で判断する．
　ほぼ毎回小テストを行うが，受験回数が全体の２／３以下の学生は不合格とするので注意すること．
中間試験 (35%), 期末試験 (40%), 演習小テスト (25%)

【学生の意見等からの気づき】
【授業時間内】自らの講義ノートを作成することが重要なポイント。
【授業時間外の学習】　に書いたことを実行して，毎回行う小テストの準備をきちんとすることが単位修得のための良い方法である．

【その他の重要事項】
基本的には全出席が必要です。少なければ、減点がされます。

【Outline and objectives】
We learn the concepts and applications of linear mappings, eigenvalues and eigenvectors, which are the of mathematical basis in the fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

金沢　誠

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ．

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力，逆三角関数の理解，平均値の定理，テイラーの定理の意味を理解し応用できること，簡単な関数のテイラー級数展開ができること，偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読んで，演習問題を指定された期日までに解く。

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節〜 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
特になし．授業では，教科書の他に講義資料を配布する．

【成績評価の方法と基準】
成績は，期末試験 (70%) と提出課題（30%）の成績による．期末試験では，微分及び偏微分の計算，逆三角関数や双曲線関数の理解，テイラーの定理の利用，多変数関数の極値の問題の解法等について，十分な能力を身につけたかテストする．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【学生の意見等からの気づき】
質問を受け付ける方法を工夫する．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its applications, which form the foundations of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

金沢　誠

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ．

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力，逆三角関数の理解，平均値の定理，テイラーの定理の意味を理解し応用できること，簡単な関数のテイラー級数展開ができること，偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読んで，演習問題を指定された期日までに解く。

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節〜 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
特になし．授業では，教科書の他に講義資料を配布する．

【成績評価の方法と基準】
成績は，期末試験 (70%) と提出課題（30%）の成績による．期末試験では，微分及び偏微分の計算，逆三角関数や双曲線関数の理解，テイラーの定理の利用，多変数関数の極値の問題の解法等について，十分な能力を身につけたかテストする．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．

【学生の意見等からの気づき】
質問を受け付ける方法を工夫する．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its applications, which form the foundations of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

金沢　誠

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め，さらに 2 変数関数の積分を扱う．またこれらを用いて図形の面積，体積，長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する.
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読み，演習問題を指定された期日までに解く。

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房　 2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
特になし。授業では，講義資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
成績は，期末試験 (70%) と提出課題 (30%) の成績による．期末試験では，積分および重積分について十分な計算能力が身についていること，広義積分の計算法を理解していること，積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることをテストする。

【学生の意見等からの気づき】
質問を受け付ける方法を工夫する。

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its applications, which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習ＩＩ

金沢　誠

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め，さらに 2 変数関数の積分を扱う．またこれらを用いて図形の面積，体積，長さが求められるようにする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解，基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法，微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法，漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する，また，極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る.
13	体積	積分を応用して体積を計算する.
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読み，演習問題を指定された期日までに解く。

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房　2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】
特になし。授業では，講義資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】
成績は，期末試験 (70%) と提出課題 (30%) の成績による．期末試験では，積分および重積分について十分な計算能力が身についていること，広義積分の計算法を理解していること，積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることをテストする。

【学生の意見等からの気づき】
質問を受け付ける方法を工夫する。

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of integration and its applications, which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

BSP100LC

物理学基礎 I

佐藤　修一

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
力学の基礎の分野について，物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する．物理学の公式としてではなく，ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する．

【到達目標】
基礎となる「基本法則」を礎にして，なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる．公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２クラス制とした比較的少人数による授業を想定する．基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し，基本的な理解を得る．更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって，実践力を養う．毎回の課題は次回に解説を行い，フィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	単位と空間・時間	物理学を記述する基礎となるべき概念について
2	ベクトルと内積外積	ベクトル演算の基礎について
3	座標系	運動を記述する土俵となる様々な座標系にすいて
4	直線運動と速度・加速度	速度・加速度とその表現について
5	自由落下放物運動	重力加速度中の質点の運動学
6	３次元・極座標での運動	座標系変換したときの運動の記述について
7	ニュートンの３法則	ニュートンの３法則の理解と物理的意味について
8	張力・摩擦力	外力と運動におよぼす影響について
9	単振動	単振動の運動学について
10	運動量と力積	運動量と力積の定義，物理的意味について
11	エネルギー、仕事	エネルギーと仕事の定義，物理的意味について
12	保存力と位置エネルギー	保存力と位置エネルギーの定義，物理的意味について
13	運動エネルギー	運動エネルギーの定義，物理的意味について
14	偏微分と勾配	偏微分と勾配の定義と幾何学的意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
初回授業時に指定する．

【参考書】
力学に関する参考書は数多くあるので，自分の理解度に応じて適宜参照する事．

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ，授業の進度・内容に適宜フィードバックする．

【Outline and objectives】
Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".

BSP100LC

物理学基礎 I

佐藤　修一

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
力学の基礎の分野について，物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する．物理学の公式としてではなく，ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する．

【到達目標】
基礎となる「基本法則」を礎にして，なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる．公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２クラス制とした比較的少人数による授業を想定する．基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し，基本的な理解を得る．更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって，実践力を養う．毎回の課題は次回に解説を行い，フィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	単位と空間・時間	物理学を記述する基礎となるべき概念について
2	ベクトルと内積外積	ベクトル演算の基礎について
3	座標系	運動を記述する土俵となる様々な座標系にすいて
4	直線運動と速度・加速度	速度・加速度とその表現について
5	自由落下放物運動	重力加速度中の質点の運動学
6	３次元・極座標での運動	座標系変換したときの運動の記述について
7	ニュートンの３法則	ニュートンの３法則の理解と物理的意味について
8	張力・摩擦力	外力と運動におよぼす影響について
9	単振動	単振動の運動学について
10	運動量と力積	運動量と力積の定義，物理的意味について
11	エネルギー、仕事	エネルギーと仕事の定義，物理的意味について
12	保存力と位置エネルギー	保存力と位置エネルギーの定義，物理的意味について
13	運動エネルギー	運動エネルギーの定義，物理的意味について
14	偏微分と勾配	偏微分と勾配の定義と幾何学的意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
初回授業時に指定する．

【参考書】
力学に関する参考書は数多くあるので，自分の理解度に応じて適宜参照する事．

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ，授業の進度・内容に適宜フィードバックする．

【Outline and objectives】
Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".

BSP100LC

物理学基礎ⅠⅠ

佐藤　修一

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
力学の基礎の分野について，物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する．物理学の公式としてではなく，ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する．

【到達目標】
基礎となる「基本法則」を礎にして，なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる．公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ，一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２クラス制とした比較的少人数による授業を想定する．基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し，基本的な理解を得る．更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって，実践力を養う．毎回の課題は次回に解説を行い，フィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	抵抗と終端速度	抵抗力があった場合の運動学について
2	減衰振動強制振動	各種振動の運動学について
3	２粒子の弾性衝突	２粒子の弾性衝突の取り扱いについて
4	２次元での衝突	２次元での衝突における運動の表現について
5	重力と重力ポテンシャル	重力と重力ポテンシャル，および重力下における運動について
6	ケプラーの法則と万有引力	ケプラーの法則と万有引力について
7	慣性質量と重力質量	慣性質量と重力質量の違いと物理的意味について
8	ベクトル積	ベクトルの外積の定義と意味について
9	モーメント、角運動量	モーメント、角運動量の定義と導入
10	２粒子系の運動方程式	２粒子系の運動方程式について
11	エネルギー角運動量保存則	エネルギー角運動量保存則について
12	重心座標と相対座標	重心座標と相対座標における表現について
13	自由度と運動方程式	自由度と運動方程式の表現について
14	固定軸まわりの運動	固定軸まわりの運動について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
初回授業時に指定する．

【参考書】
力学に関する参考書は数多くあるので，自分の理解度に応じて適宜参照する事．

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ，授業の進度・内容に適宜フィードバックする．

【Outline and objectives】
Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".

BSP100LC

物理学基礎ⅠⅠ

佐藤　修一

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
力学の基礎の分野について，物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する．物理学の公式としてではなく，ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する．

【到達目標】
基礎となる「基本法則」を礎にして，なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる．公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ，一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
２クラス制とした比較的少人数による授業を想定する．基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し，基本的な理解を得る．更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって，実践力を養う．毎回の課題は次回に解説を行い，フィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	抵抗と終端速度	抵抗力があった場合の運動学について
2	減衰振動強制振動	各種振動の運動学について
3	２粒子の弾性衝突	２粒子の弾性衝突の取り扱いについて
4	２次元での衝突	２次元での衝突における運動の表現について
5	重力と重力ポテンシャル	重力と重力ポテンシャル，および重力下における運動について
6	ケプラーの法則と万有引力	ケプラーの法則と万有引力について
7	慣性質量と重力質量	慣性質量と重力質量の違いと物理的意味について
8	ベクトル積	ベクトルの外積の定義と意味について
9	モーメント、角運動量	モーメント、角運動量の定義と導入
10	２粒子系の運動方程式	２粒子系の運動方程式について
11	エネルギー角運動量保存則	エネルギー角運動量保存則について
12	重心座標と相対座標	重心座標と相対座標における表現について
13	自由度と運動方程式	自由度と運動方程式の表現について
14	固定軸まわりの運動	固定軸まわりの運動について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】
初回授業時に指定する．

【参考書】
力学に関する参考書は数多くあるので，自分の理解度に応じて適宜参照する事．

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する．

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ，授業の進度・内容に適宜フィードバックする．

【Outline and objectives】
Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".

LANd100LC

基礎ドイツ語 I

外山　知子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実践に役立つドイツ語を楽しく身につける。

【到達目標】
発音のルールを知って、初見の単語でも発音できる。
独和辞典を用いて、初歩的なテクストを分析して理解する。
簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回すぐに役立つ表現、最新のドイツ事情なども紹介し、その後教科書を学習する。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
下の「その他の重要事項」も必ず目を通すこと。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/アルファベート	ドイツについて紹介し、発音練習もする。
第 2 回	つづりと発音	つづりと発音を学ぶ。
第 3 回	あいさつ 曜日・四季・月・数詞	あいさつ、曜日、四季、月、数詞を発音練習しながら覚える。
第 4 回	所有冠詞 / 定形第 2 位 / 否定の語	所有冠詞、定形（人称変化した動詞）が文の２番目にくることを学ぶ。否定の仕方についても学ぶ。
第 5 回	**Lektion 1** **ミュンヘンで自己紹介**	人称代名詞と動詞の現在人称変化（規則変化） sein,haben の現在人称変化（不規則変化）
第 6 回	ja,nein の使い方	語順、ja,nein の使い方を学び、練習問題を解く。
第 7 回	**Lekition 2** **ザルツブルクの美術館で**	名詞の性と冠詞、定冠詞と名詞の格変化を学ぶ。
第 8 回	不定冠詞と名詞の格変化	不定冠詞と名詞の格変化、格の用法を学び、練習問題を解く。
第 9 回	会話 講読	ザルツブルクの美術館で、初対面の人に職業・身分や趣味を説明する会話を学び、練習する。 自己紹介文、第３者の紹介文を読む。
第 10 回	**Lekition 3** **ヴィーンの市街で**	不規則動詞の現在人称変化、命令形、名詞の複数形について学び、練習問題を解く。
第 11 回	非人称の es	非人称の es、時刻表現について学び、練習問題を解く。
第 12 回	会話	ヴィーン市街でバスツアーのことを尋ねる会話を学び、練習する。
第 13 回	**Lektion 4** **ハンブルクで買い物**	定冠詞類、不定冠詞類、否定表現について学び、練習問題を解く。
第 14 回	会話 講読	ハンブルクでの買い物の会話を学び、練習する。ヴィーンの紹介文、家族のプロフィールを読む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で学んだことの復習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

【テキスト（教科書）】
小野寿美子・中川明博・西巻丈児著 『ブーメラン』 朝日出版社

【参考書】
本郷健治著『ドイツ文法の要点』　三修社

【成績評価の方法と基準】
出席は 3 分の 2 以上を必要とする。基本的には期末試験 70 %、授業参加度（宿題、課題を含む平常点）30 %の割合で総合評価する。
遅刻 3 回で欠席 1 回にカウントされる。
休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【学生の意見等からの気づき】
宿題の提出はなるべく先延ばしにしないように随時働きかける。

【学生が準備すべき機器他】
必要な場合学生支援システムの「お知らせ」で伝えます。

【その他の重要事項】
この授業のやり方、その他のお知らせを随時学習支援システムの「お知らせ」で連絡するので、いつも気をつけていてください。私の場合は特に感染状況で流動的になる場合があります。
授業中は（Zoom などをやるとき以外は）パソコン、スマートフォン、その他のモバイルは鞄の中にしまっておくこと。勝手に見ないこと。
２回目以降は毎回教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を持参して使用すること。
板書は手書きでノートに写すこと。許可なく写真に撮らないこと。
教科書には書かれていないが、ドイツを知るために、あるいはドイツ語を学ぶ上で重要なことも多く語られるので、極力欠席も遅刻もせず、好奇心を持って積極的に授業にのぞんでもらいたい。遅刻の扱いについては授業中に説明する。

【Outline and objectives】
To master the pronunciation and the improvement in German

LANd100LC

基礎ドイツ語ＩＩ

外山　知子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実践に役立つドイツ語を楽しく身につける。
ドイツ語圏の歴史、文化を学ぶ。

【到達目標】
独和辞典を用いて、初歩的なテクストを分析して理解する。
簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の最初にドイツの文化、最新のトピックが紹介され、、引き続いてすぐに役立つ表現を学ぶ。その後、前期と同じ教科書でドイツ語の文法を学び、会話文を学び、テクストを講読する。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
下の「その他の重要事項」も必ず目を通すこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション / 前期の復習	前期の復習をする。
第２回	**Lektion 5 バーゼルで**	前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形について学び、練習問題を解く。
第３回	人称代名詞の３格と４格	人称代名詞の３格と４格、３格と４格の語順、疑問代名詞 was と wer の格変化について学び、練習問題を解く。
第４回	会話	バーゼルで道を尋ねる会話を学び、練習する。
第５回	**Lektion 6 コンサートに行きたい**	話法の助動詞、未来形、従属の接続詞と副文について学び、練習問題を解く。
第６回	分離動詞と非分離動詞 会話	分離動詞と非分離動詞について学び、練習問題を解く。 ベルリンでコンサートのチケットを買う会話を学ぶ。
第７回	講読	バーゼルについての紹介文とリョウタがコンサートへ行く文を講読する。
第８回	**Lektion 7 レストランで食事**	形容詞の格語尾変化、形容詞、副詞の比較について学び、練習問題を解く。
第９回	会話	エッセンで食べ物を注文する会話を学ぶ。
第10回	現在完了形 会話	現在完了形について学び、練習問題を解く。 ハレで週末のことを語る会話を学ぶ。
第11回	講読	原発に代わるエネルギーについての文と世界遺産 ヴァルトブルク城についての文を講読する。
第12回	**Lektion 9 ヴァイマルで**	過去形、再帰代名詞と再帰動詞について学び、練習問題を解く。
第13回	**Lektion 10 冬休みに**	ライプツィヒで昨日のことを語る会話を学び、練習する。
第14回	会話 講読	冬休みの予定を言う会話を学び、練習する。 ドイツ屈指の文化都市 ヴァイマルについての文とケルンの水についての文を講読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業で習ったことの復習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。
学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

【テキスト（教科書）】
小野寿美子・中川明博・西巻丈児著 『ブーメラン』 朝日出版社

【参考書】
本郷健治著『ドイツ文法の要点』　三修社

【成績評価の方法と基準】
出席は３分の２以上を必要とする。基本的には試験 70 %、授業参加度（宿題、課題を含む平常点）30 %の割合で総合評価する。遅刻んとされる。３回で欠席１回にカウントされる。
休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【学生の意見等からの気づき】
ドイツ語を学ぶことをきっかけとして普段からドイツへの関心を高めてもらう。

【その他の重要事項】
この授業のやり方、その他のお知らせを随時学習支援システムの「お知らせ」で連絡するので、いつも気をつけていてください。私の場合は特に感染状況で流動的になる場合があります。
授業中は（Zoom などをやるとき以外は）パソコン、スマートフォン、他のモバイルはしまっておくこと。勝手に見ないこと。
２回目以降は毎回教科書と独和辞典（通信機能の付いた機器で代用することは許可しない）を持参して使用すること。
板書は手書きでノートに写すこと。許可なく写真に撮らないこと。
教科書には書かれていないが、ドイツを知るために、あるいはドイツ語を学ぶ上で重要なことも多く語られるので、極力欠席も遅刻もせず、好奇心を持って積極的に授業にのぞんでもらいたい。遅刻の扱いについては授業中に説明する。

【Outline and objectives】
The improvement in German and the understanding of german culture

LAN f 100LC

基礎フランス語 I

平岡　敦

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語文法と表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】
簡単なフランス語を読み、書き、話せるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
フランス語初学者を対象とする授業。学習者がフランス語の基礎を身につけられるよう読み、書き、話す練習をするとともに、フランス文化にも触れられるようにする。
授業で課した課題については次回の授業で確認、解説を行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介、フランスとフランス語。	授業の進め方の説明。フランスという国について、フランス語の特徴について知る。
第 2 回	アルファベと綴り字記号。	フランス語で使う文字と記号、綴りの規則を学ぶ。
第 3 回	フランス語で自己紹介。	フランス語の自己紹介の練習する。
第 4 回	名詞の性と数、冠詞。	男性名詞と女性名詞、冠詞の種類と形を学ぶ。
第 5 回	主語人称代名詞。	主語になる人称代名詞の形を学ぶ。
第 6 回	動詞 être,avoir の直説法現在。	重要な不規則動詞 être と avoir の直説法現在形を学ぶ。
第 7 回	形容詞の性・数一致、否定形	形容詞の性・数変化の規則と否定形の作り方を学ぶ。
第 8 回	第 1 群規則動詞、疑問文	第 1 群規則動詞の活用と疑問文の作り方を学ぶ。
第 9 回	指示形容詞、所有形容詞。	指示形容詞、所有形容詞の形と使い分けを学ぶ。
第 10 回	第 2 群規則動詞。	第 2 群規則動詞の活用を学ぶ。
第 11 回	aller, venir の直説法現在。	不規則動詞 aller, venir の活用を学ぶ。
第 12 回	近接未来、近接過去。	近い未来と近い過去を示す表現を学ぶ。
第 13 回	疑問代名詞、疑問副詞。	疑問代名詞と疑問副詞の形と使い方を学ぶ。
第 14 回	前期の復習	前期の復習と確認の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】各授業で学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題を中心とした課題を課す。

【テキスト（教科書）】
『パリ―ボルドー』朝日出版社

【参考書】
授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、課題、授業参加度などを 30 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が消化不足にならないよう、基本的な文法事項と表現に絞って授業を進めたい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to understand basic French grammar and to getFrench expressions.

LAN ｆ 100LC

基礎フランス語ＩＩ

平岡　敦

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語文法と表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】
簡単なフランス語を読み、書き、話せるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
フランス語初学者を対象とする授業。学習者がフランス語の基礎を身につけられるよう読み、書き、話す練習をするとともに、フランス文化にも触れられるようにする。
授業で課した課題については次回の授業で確認、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	比較級と最上級、強勢形	比較級、最上級表現の作り方と、人称代名詞の強勢形の形と使い方を学ぶ。
第 2 回	命令法	命令文の作り方について学ぶ。
第 3 回	非人称構文	非人称構文の仕組みを学ぶ。
第 4 回	目的語代名詞	人称代名詞の目的補語形について学ぶ。
第 5 回	代名動詞	代名動詞の仕組みと直説法現在形を学ぶ。
第 6 回	直説法複合過去	直説法複合過去形の構成と用法について学ぶ。
第 7 回	直説法半過去	直説法半過去の活用と用法を学ぶ。
第 8 回	直説法単純未来	直説法単純未来の活用と用法を学ぶ。
第 9 回	関係代名詞	関係代名詞と、複文の構造について学ぶ。
第 10 回	受動態	受動態の形態と用法について学ぶ。
第 11 回	ジェロンディフ	ジェロンディフの形態と用法について学ぶ。
第 12 回	条件法現在	条件法の活用と用法を学ぶ。
第 13 回	接続法現在	接続法の活用と用法を学ぶ。
第 14 回	後期の復習	後期の復習と確認の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業時に学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題を中心とする課題を課す。

【テキスト（教科書）】
『パリ―ボルドー』朝日出版社

【参考書】
授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を 70 %、課題、授業参加度などを 30 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が消化不足にならないよう、基本的な文法事項と表現に絞って授業を進めたい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to understand basic French grammar and to getFrench expressions.

LANc100LC

基礎中国語 I

平井　新

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では，教科書を使って，初級中国語の前半部分を学びながら，中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。中国語の発音と表記法を学び，漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。

【到達目標】
中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法などを理解し，学習した中国語が聞いてもわかるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（発音篇、本篇：第 1 課～第 6 課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い，基礎力を養います。また，適宜，視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について・中国語について
	中国語の発音 (1)	発音 (1) ：解説文の説明と発音練習。練習①～⑤。
第 2 回	中国語の発音 (2)	発音 (2) ：解説文の説明と発音練習。練習①～⑤。
第 3 回	中国語の発音 (3)	発音 (3) ：解説文の説明と発音練習。練習①～⑤。
第 4 回	中国語の発音 (4)	発音 (4) ：解説文の説明と発音練習。練習①～⑥。
第 5 回	中国語の発音 (5)	発音 (5) ：解説文の説明と発音練習。練習①～⑦。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (1)	第 1 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 2 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 3 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 4 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 5 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 6 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 12 回	前期授業内容の復習 (1)	第 1 課～第 6 課の復習と補足 (1)。
第 13 回	前期授業内容の復習 (2)	第 1 課～第 6 課の復習と補足 (2)。
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには，なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付録の CD も活用して，授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習やリスニング練習をしてみましょう。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著，朝日出版社，本体： 2300 円）。

【参考書】
『つながる中国語文法』林　松涛著、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2011 年。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。平常点 20%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験 80%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
発音の反復練習が有効であると思われるので，本授業でも行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
ＣＤ関連機器。

【Outline and objectives】
This lesson is mainly for students who first time to learning Chinese. In the lesson, you'll use the textbook to learn the second half of Elementary Chinese, while aiming to master the fundamentals of the Chinese language ("speaking" ability, "listening" ability, and "writing" ability). You'll master Chinese pronunciation and notation firmly and create a foundation that will enable you to enjoy not only kanji, but also the world of sounds.

LANc100LC

基礎中国語 I

新田　龍希

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では，教科書を使って，初級中国語の前半部分を学びながら，中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。中国語の発音と表記法を学び，漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。

【到達目標】
中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法などを理解し，学習した中国語が聞いてもわかるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（発音篇、本篇：第 1 課～第 7 課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。
毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について・中国語について
	中国語の発音 (1)	発音 (1) ：解説文の説明と発音練習。練習①～⑤。
第 2 回	中国語の発音 (2)	発音 (2) ：解説文の説明と発音練習。練習①～⑤。
第 3 回	中国語の発音 (3)	発音 (3) ：解説文の説明と発音練習。練習①～⑤。
第 4 回	中国語の発音 (4)	発音 (4) ：解説文の説明と発音練習。練習①～⑥。
第 5 回	中国語の発音 (5)	発音 (5) ：解説文の説明と発音練習。練習①～⑦。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (1)	第 1 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 2 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 3 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 4 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 5 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 6 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 12 回	前期授業内容の復習 (1)	第 1 課～第 6 課の復習と補足 (1)。
第 13 回	前期授業内容の復習 (2)	第 1 課～第 6 課の復習と補足 (2)。
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著，朝日出版社，本体： 2300 円）。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する．

【学生の意見等からの気づき】
発音の反復練習が有効だと思われるので，本授業でも行う予定です。

【Outline and objectives】
This is a course for students studying Chinese for the first time.Using textbooks,students acquire grammar rules,Chinese pronunciation,essential vocabulary,word order,and other aspects of the Chinese language.

LANc100LC

基礎中国語ＩＩ

平井　新

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では，教科書を使って，初級中国語の後半部分を学びながら，中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。中国語の発音と表記法をしっかりとマスターし，漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。

【到達目標】
中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得し，聞いてもわかるようになることを到達目標とします。11 月後半に実施される中国語検定（準 4 級）の合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（本篇：第 7 課～第 14 課、及び第 15 課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，基本的な実用会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習、作文練習を行い，基礎力を養います。また，過去問題などを使って，中国語検定（準 4 級）対策も行います。適宜，視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・前期授業内容の復習	授業の進め方について・前期授業内容の復習
第 2 回	中国語の文法と語彙 (1)	第 7 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 3 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 8 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 4 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 9 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 5 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 10 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 11 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 12 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 1 課～第 10 課の復習＋中国語検定対策 (1)。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (8)	第 1 課～第 10 課の復習＋中国語検定対策 (2)。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (9)	第 13 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (10)	第 14 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 12 回	後期授業内容の復習 (1)	第 7 課～第 14 課の復習と補足 (1)。
第 13 回	後期授業内容の復習 (2)	第 7 課～第 14 課の復習と補足 (2)。
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには，なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付録の CD も活用して，授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習、リスニング練習をしてみましょう。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著，朝日出版社，本体： 2300 円）。

【参考書】
『つながる中国語文法』林　松涛著、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2011 年。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。平常点 20%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験 80%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
発音の反復練習が有効であると思われるので，本授業でも行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】
ＣＤ関連機器

【Outline and objectives】
This lesson is mainly for students who have learned the first half of Elementary Chinese. In the lesson, you'll use the textbook to learn the second half of Elementary Chinese, while aiming to master the fundamentals of the Chinese language ("speaking" ability, "listening" ability, and "writing" ability). You'll master Chinese pronunciation and notation firmly and create a foundation that will enable you to enjoy not only kanji, but also the world of sounds.

LANc100LC

基礎中国語ＩＩ

新田　龍希

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では，教科書を使って，初級中国語の後半部分を学びながら，中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。中国語の発音と表記法をしっかりとマスターし，漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。また，中国文化に対する理解を深めるために，適宜，中国文化の紹介も行います。

【到達目標】
中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること，授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得し，聞いてもわかるようになることを到達目標とします。11 月後半に実施される中国語検定（準 4 級）の合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では，教科書（本篇：第 7 課～第 14 課、及び第 15 課）を使って，中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら，基本的な実用会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習、作文練習を行い，基礎力を養います。また，過去問題などを使って，中国語検定（準 4 級）対策も行います。適宜，視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。
毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・前期授業内容の復習	授業の進め方について・前期授業内容の復習
第 2 回	中国語の文法と語彙 (1)	第 7 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 3 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 8 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 4 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 9 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 5 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 10 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 11 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 12 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 1 課～第 10 課の復習＋中国語検定対策 (1)。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (8)	第 1 課～第 10 課の復習＋中国語検定対策 (2)。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (9)	第 13 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (10)	第 14 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 12 回	後期授業内容の復習 (1)	第 7 課～第 14 課の復習と補足 (1)。
第 13 回	後期授業内容の復習 (2)	第 7 課～第 14 課の復習と補足 (2)。
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著，朝日出版社，本体： 2300 円）。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。平常点 30%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験 70%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
発音の反復練習が有効だと思われるので，本授業でも行う予定です。

【Outline and objectives】
This is a class for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure. The course focuses on learning Chinese aspect,idiomatic phrases,basic vocabulary,and other aspects of the Chinese language.

BSP100LC

文章作法

矢口　貢大

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とします。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学んでいきます。最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とします。

【到達目標】
①わかりやすく正確な日本語の書き方を習得する。
②議論を構築し、文章で表現できるようになる。
③学術レポートが書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文章作法の基礎については講義形式で伝えます。不明点があれば積極的に質問してください。授業では、小テスト、400 字作文、課題文などの作成を随時行ないます。また、履修者同士で評価や議論をすることで、文章の書き方を学んでいきます。作成した課題のフィードバックは、Hoppii の課題返却機能を用いる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業の目標、成績評価についての説明
第 2 回	文章作法の基礎	・文章の書き方 ・小テスト（添削）
第 3 回	自己紹介文を書く	・400 字程度の作文
第 4 回	課題の返却と講評	・400 字程度の作文の添削修正
第 5 回	要約の練習	・要約の仕方 ・要約の作成
第 6 回	レポートの書き方（基礎編）	・レポートとは何か ・400 字程度の作文
第 7 回	論文作法	・課題の返却 ・論文とは何か
第 8 回	レポートの書き方（発展編）	・レポートのテクニック ・400 字作文
第 9 回	議論の方法	・課題の返却 ・議論の仕方
第 10 回	意見表明の実践（1）	・課題文の作成
第 11 回	意見表明の実践（2）	・課題文の返却 ・ピアレビュー
第 12 回	情報収集と情報処理	・文献の調べ方 ・引用の仕方 ・注 ・参考文献
第 13 回	意見表明の実践（3）	・前回の復習 ・前回をふまえたうえでの課題文の作成
第 14 回	意見表明の実践（4）	・課題文の返却 ・ピアレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】作文、課題文の作成を宿題にします。
また作文のテーマに関する文献を図書館等で調べます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。講義ごとにプリントを配布します。

【参考書】
木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994 年
戸田山和久『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』NHK ブックス、2012 年
野内良三『日本語作文術』中公新書、2010 年

【成績評価の方法と基準】
配分：
平常点（小テスト・400 字作文）（30 %）
課題文（30 %）
レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを使用する場合があります。

【その他の重要事項】
受講希望者が定員を超えた場合は抽選になります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

【Outline and objectives】
The aim of this class is to provide students with writing skills to express themselves clearly and persuasively. Students will improve academic writing skills by reading articles and essays critically, editing grammatical and rhetorical errors, learning how to compose an argument, and developing research skills.

LANd200LC

ドイツ語中級

高橋　完治

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
創生科学科 2 年生の学生諸君を対象とする．実践的な言語使用の観点に立って基礎的な文法事項を確認・復習し，重要な表現を学んで，身近なテーマについて書く力・読む力・話す力・聞き取る力を養う．

【到達目標】
ドイツ語技能検定試験 5 級レベル以上の力が身についている．日常生活に必要な表現や言い回しを理解し，運用できる．短いテクストの要点をつかんで，質問に答えられる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
どのテーマも，映像付きの短い物語と取り組むことから始める．この導入部の後，物語のいくつかの場面に出てきた表現を多角的に理解し，これをもとに，Dialog の構築，Audiotraining，Lesetext の読解，ひな形に沿って文章を書くなど，種々の課題をこなして，ドイツ語 4 技能を鍛える．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Vergangenes (1)	過去の行動について話す
2	Vergangenes (2)	人物の行動を描写する／経験の有無を訊き合う
3	Beruf und Arbeit (1)	職について話す
4	Beruf und Arbeit (2)	経歴を訊く・答える
5	Beruf und Arbeit (3)	求人広告を理解する
6	Unterwegs (1)	券売機の操作方法など，物事の手順を説明する
7	Unterwegs (2)	許可されていること・禁止されていることについて話す／観光案内のパンフレットを読む
8	Unterwegs (3)	ホテルのフロントでのやりとりを理解する
9	Gesundheit und Krankheit (1)	身体のどこが痛むのかを伝える
10	Gesundheit und Krankheit (2)	健康上の問題に対して助言する
11	Gesundheit und Krankheit (3)	問い合わせの手紙を書く／受診の予約・変更・取り消しの仕方を学ぶ
12	In der Stadt unterwegs (1)	道案内の仕方を学ぶ／交通機関の名称に親しむ
13	In der Stadt unterwegs (2)	位置関係を表現する
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】理解を深めるために，教科書後半の練習問題を解く．

【テキスト（教科書）】
Daniela Niebisch u.　a.:　Schritte international Neu 2, Kurs- und Arbeitsbuch. Hueber

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）にテストの成績（60%）を加えて評価する．ドイツ語技能検定試験に合格した場合は加点する．

【学生の意見等からの気づき】
基礎力強化のための副教材を増やすことにする．

【Outline and objectives】
This German course aims at developing students' writing, reading, speaking and listening skills and functional use of basic grammar and vocabulary in order that they can achieve communicative abilities needed in simple everyday situations.

LAN ｆ 200LC

フランス語中級

荻野　文隆

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語基礎で学んだことを土台にして、フランス語とフランスの文化、歴史、社会についての理解を深める授業です。
予め次の歌を聴いておいてください。
ジブリ作品「紅の豚」で使われている曲です。
Le temps des cerises
https://m.youtube.com/watch?v=-9aQNv5nraA
フランスの作家 Victor Hugo の小説 Les misérables の映画化の中で歌われる歌です。
Les Miserables - A la volonté du peuple
https://m.youtube.com/watch?v=7x2PQJ0l_Zo
一年で学んだフランス語の知識をもとに、さらに実践的で文法知識と運用能力を高める。
フランスの歴史と文化、フランス語圏事情について認識を深める。

【到達目標】
実用フランス語技能検定資格取得をめざす。
シャンソンを通して発音の自然な習得に務める。
フランス語のインターネットサイトで情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
全学年全学科の「フランス語基礎 1」程度既習者を対象とする授業。基礎文法の理解を深め、聞き取り能力の向上を図ってフランス語運用能力を総合的に高め，実用フランス語技能検定資格取得を目指す。
フランス・フランス語圏の最新事情について情報交換する場を設ける。授業の始めに、前回の授業で提出された質問等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介 フランスの成立の歴史	ローマ帝国崩壊と民族移動 クロヴィスと三国志状況
第 2 回	フランス語の成立の歴史	ラテン語とゲルマン語 英語の成立：アングル語とフランス語の融合
第 3 回	フランス語、英語、ドイツ語の比較	シャンソン：ダルマさん転んだ！
第 4 回	複合過去 直説法半過去と条件法	シャンソン：グリンピースは手で食べないよ。
第 5 回	接続法の概要	シャンソン： Fais dodo. おねんねしな。
第 6 回	受動態	シャンソン： Ah vous dirai-je, Maman... きらきら星
第 7 回	現在分詞 関係代名詞	シャンソン： Bateau sur l'eau...
第 8 回	ジェロンディフ	シャンソン： Colchiques dans les prés
第 9 回	中性代名詞	シャンソン： Chevaliers de la table ronde...
第 10 回	直説法単純未来	数字の復習 疑問視のまとめ
第 11 回	直説法前未来	シャンソン： Les petits poissons nagent...
第 12 回	条件法現在	シャンソン： Loup y es-tu? 狼さん、どこにいるの？
第 13 回	接続法現在	シャンソン： La mer qu'on voit danser... 海
第 14 回	総まとめ	学期のまとめとして復習と確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】フランス語の基礎文法と表現の定着をはかるため、音読、MP 3ファイルからダウンロードできる音源のリスニング、練習問題などを中心とした課題をこなす。

【テキスト（教科書）】
『パリの街角で：音声ペンで学ぶフランス語入門』、荻野文隆、Isabelle Ogino、両風堂

【参考書】
『フランス　地球の歩き方』、ダイヤモンド・ビッグ社
フランスやパリについてのさまざまな便利な情報が簡単に得られます。

【成績評価の方法と基準】
評価については、平常点、課題、レポートなどの総合評価となります。

【学生の意見等からの気づき】
シャンソンや映画などを用いて、フランス語・フランス語圏文化に親しむ。

【学生が準備すべき機器他】
教科書『パリの街角で』には、音声ペンが別売りで付いていますので、発音に付いてのしっかりした学習を希望する方は、購入して予習、復習に活かしてください。
また、両風堂のホームページから各課のスケッチとシャンソンの音源がダウンロードできますので、それも積極的に活用してください。
音源ダウンロード
http://www.ryofudo.jp/dl.html

【Outline and objectives】
After one year of studying French, you will learn how to use your knowledge in an effective and practical way, in order to improve your communication skills.

LANd200LC

ドイツ語表現

高橋　完治

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
創生科学科 2 年生の学生諸君を対象とする．実践的な言語使用の観点に立って新たな文法事項と重要な表現を学び，語彙を拡張して，身近なテーマについて書く力・読む力・話す力・聞き取る力を向上させる．

【到達目標】
ドイツ語技能検定試験 4 級レベルの力が身についている．平易な会話や記事の要点をつかんで，質問に答えられる．身近な話題について簡単なやりとりができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
どのテーマも，映像付きの短い物語と取り組むことから始める．この導入部の後，物語のいくつかの場面に出てきた表現を多角的に理解し，これをもとに，Dialog の構築，Audiotraining，Lesetext の読解，ひな形に沿って文章を書くなど，種々の課題をこなして，ドイツ語 4 技能を鍛える．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Wo und wohin?	場所・方向を表す前置詞について学ぶ
2	Am Bahnhof (1)	駅のインフォメーションを理解する
3	Am Bahnhof (2)	交通機関を利用する際に必要となる情報をやりとりする
4	Kundenservice (1)	一日の行動を描写する
5	Kundenservice (2)	修理を依頼するときの表現に親しむ／丁寧な依頼の仕方を学ぶ
6	Kundenservice (3)	業務上のメールや留守番電話のメッセージを理解する
7	Neue Kleider (1)	衣服の名称に親しむ／気に入る・気に入らないを表現する
8	Neue Kleider (2)	比較表現の基礎を学ぶ
9	Neue Kleider (3)	買い物での助言の求め方を学ぶ
10	Feste (1)	序数を学び，日付を表現する
11	Feste (2)	さまざまな理由を案出する
12	Feste (3)	招待状の書き方を学ぶ
13	Feste (4)	祭りについて書かれた記事を読む／祝福の表現に親しむ
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】理解を深めるために，教科書後半の練習問題を解く．

【テキスト（教科書）】
Daniela Niebisch u. a.: Schritte international Neu 2, Kurs- und Arbeitsbuch. Hueber

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）にテストの成績（60%）を加えて評価する．ドイツ語技能検定試験に合格した場合は加点する．

【学生の意見等からの気づき】
授業の速度が適切かどうか常に気をつける．

【Outline and objectives】
This German course is intended to strengthen students' language skills (writing, reading, speaking and listening) and develop functional use of advanced grammar and vocabulary in order that they can achieve communicative competence at an upper-intermediate level.

LAN f 200LC

フランス語表現

荻野　文隆

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期で学んだことを踏まえて、さらにフランス語とフランスについての理解を深めていくことを目指します・
フランス語の基礎を踏まえた文法、発音、リスニング力の向上を実際の状況を想定しながら目指しましょう。併せて、フランスとフランス語を話す国々の歴史や文化についても触れていきましょう。

【到達目標】
フランス・フランス語圏の歴史、社会、文化などについて知見を深めていく。
実用フランス語技能検定資格の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
フランス語基礎文法の定着をはかり、フランス語で書く練習に重点を置くことによって、自己表現の能力を高め、フランス語自学自習体制の構築を期す。
実用フランス語技能検定資格取得を目指す。
フランス・フランス語圏の歴史、社会、文化などについて認識を深め、フランス語の情報を収集して、発表する。授業の始めに、前回の授業で提出された質問等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介	パリへ行くんだ？
第 2 回	自己紹介と家族の話題	ルイーズは動物が好き？ シャンソン： La nuit
第 3 回	夏のバカンスはどこへ行くの？	ブルターニュ？ ブルゴーニュ？ チュニジア？
第 4 回	日本からの手紙	三十年来の友人 シャンソン： Caresse sur l'océan
第 5 回	ホテルの予約	エレバーターはどこ？ トイレはどこ？
第 6 回	パリのパン屋で	クロワッサンとブリオッシュ シャンソン： Cake d'amour
第 7 回	レストランで	ステーキとムール貝 コーヒーは食事のあとで
第 8 回	いい天気だ、ついてるね。	雲と雪と霧 セーヌの景色
第 9 回	電話で話そう	もしもし、ケンゾーです。
第 10 回	リュクサンブール公園には花がいっぱい。	もっと時間があったらなあ。
第 11 回	シテ島の散策	写真も撮らなきゃ。
第 12 回	サントシャペルとノートルダム大聖堂	ゴシック様式
第 13 回	シャンティーユ城	サンリスはユーグカペーのまち？
第 14 回	総合的な総括を行う。	最終的な復習と確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】フランス語運用能力を高めるため、発話能力の強化、リスニング、練習問題を中心とした課題を課します。

【テキスト（教科書）】
『パリの街角で：　音声ペンで学ぶフランス語』、荻野文隆、Isabelle Ogino、両風堂
音源ダウンロード
http://www.ryofudo.jp/dl.html

【参考書】
『フランス　地球の歩き方』、ダイヤモンド・ビッグ社
フランスやパリについて歴史、文化、旅行、レストラン、ホテルなどのさまざまな情報が簡単に手に入ります。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30 %
検定試験へのとりくみ 20 %
授業への参加度を 50 %として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
シャンソンやフランス語映画に触れる機会をできるだけ増やします。

【学生が準備すべき機器他】
教科書『パリの街角で』には、音声ペンが別売りで付いていますので、発音に付いてのしっかりした学習を希望する方は、購入して予習、復習に活かしてください。
また、両風堂のホームページから各課のスケッチとシャンソンの音源がダウンロードできますので、それも積極的に活用してください。
音源ダウンロード
http://www.ryofudo.jp/dl.html

【Outline and objectives】
Let's discover France and French-speaking countries through learning French language, and enjoy communication in real-life situations!

LANc200LC

中国語中級

新田　龍希

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は基礎的中国語を学習した学生を対象としています。学生が挨拶言葉、例文、対話文と短文などの復習と学習を通じて、中国語の基礎力（音読、聞き取り、基本的語彙の応用、文法事項の理解など）を固め、着実にレベルアップできるように図ります。具体的には学生が (1) より正確な発音を身につける、(2) 孤立語の特徴を持つ中国語の語順と基本的な構造をきちんと理解する、(3) 基礎的な中国語を聞いて理解できることを目指します。

【到達目標】
学生はピンインをしっかりマスターすること。
所定の話題について確実に中国語で会話や表現ができるようになること。
6 月後半実施の中国検定試験（準 4 級あるいは 11 月実施の 4 級をクリアすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
少しまとまった文章にも触れつつ、内容理解、発話練習、作文練習を行い、すでに学習してきた内容の定着をめざします。必要に応じて中国語検定問題も扱います。適宜、中国文化の紹介をします。
毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと復習	授業計画 復習と確認 挨拶言葉と発音チェック
第 2 回	第 1 課、第 2 課 自己紹介・家族の紹介	ポイント（人称代名詞、動詞述語文、～☒?）指示代詞、的」、疑問詞疑問文、也） ドリル
第 3 回	第 3 課 第 4 課	ポイント（量詞、所有の「有」、几、多少）、（形容詞述語文、反復疑問文、名詞＋呢? ） ドリル
第 4 回	第 5 課 第 6 課	ポイント（場所指示代詞、存在の「有・在」、助動詞「想・要」、（日付・時の言葉、名詞述語文、「了」、「吧」） ドリル
第 5 回	第 7 課 第 8 課	ポイント（主述述語文・二重目的語、持続・分離動詞） （「☒」、動詞の重ね型、選択疑問文「A☒是 B) ドリル
第 6 回	第 9 課 第 10 課	ポイント (比較文、二重目的をとる動詞、様態補語、お金の数え方)、（「V了/V＋了」、「是…的」、「会/能/可以」 ドリル
第 7 回	第 11 課 第 12 課	ポイント（在V…呢、V着、快V）、方向補語、結果補語、動量補語、有点儿） ドリル
第 8 回	第 13 課	ポイント（自然現象を表す無主語文、一点儿＋都/也＋否定、一…就～、越…越～） ドリル
第 9 回	第 14 課	ポイント（たとえの表現、像…一☒ 、禁止表現　別/不要、有点儿＋…、動作の同時進行の表現　一☒…一☒ ドリル
第 10 回	中間復習	文法のまとめと点検
第 11 回	講読 新教科書 第５課 初対面の自己紹介文	文型の練習と翻訳
第 12 回	第６課	文型の練習と翻訳
第 13 回	第７課	文型の練習と翻訳
第 14 回	期末試験	試験時間 60 分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』保坂律子・郭雲輝著、朝日出版、2011 年
『すぐ読める中国語』胡金定ほか著、朝日出版社、2016 年。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介。
語学電子辞書、たとえば CASIO　EX-word、『広辞苑/英和・和英/中日・日中辞典』などを持っていると便利です。
中国検定試験に挑戦するために以下の本
中検準 4 級問題集〈2015 年版〉　中検研究会
中検 4 級問題集〈2015 年版〉 中検研究会
中検 3 級問題集〈2015 年版〉中検研究会

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する．

【学生の意見等からの気づき】
提示した学習の要点を中心に予習し、欠かさず授業に出席する人とそうでない人の語学力の差が拡大するので、学習のモチベーションは不可欠です。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクター、ＤＶＤ、ＣＤ。スマートフォンの LING の音声機能を活用して、発音のチェックをすることがある。

【その他の重要事項】
教科書を必ず購入してください。

【Outline and objectives】
This course is intended for students with basic knowledge of Chinese language. It focuses on simple and compound sentences, reinforcing language knowledge and developing students' language proficiency.

LANc200LC

中国語中級

杉本　公子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎中国語をひととおり学習した学生を対象としています。これまで学んだことを基に、少しまとまった文章に触れながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」を中心に、自信をもって表現できるようになることを目標とします。また、中国語検定試験にも対応します。

【到達目標】
(1) 一年生で学んだ基礎事項が応用できる。
(2) 少しまとまった中国語が読める。聞ける。
(3) 会話、作文で、自信をもって表現できる。
(4) 希望者は、中国語検定試験（準 4 級以上）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
少しまとまった文章にも触れつつ、内容理解、発話練習、作文練習を行い、すでに学習してきた内容の定着をめざします。
必要に応じて中国語検定問題も扱います。適宜、中国文化の紹介をします。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
	第 1〜4 課・復習 1	これまでの復習：発音・数字・簡単な作文練習
第 2 回	中国語検定案内	中国語検定試験問題
	第 5 課 (1)	第 5 課：動詞述語文・形容詞述語文・疑問文
第 3 回	第 5 課 (2)	第 5 課：動詞述語文・形容詞述語文・疑問文 練習問題
第 4 回	第 6 課 (1)	第 6 課：量詞・日時・名詞述語文・「在」の用法
第 5 回	第 6 課 (2)	第 6 課：量詞・日時・名詞述語文・「在」の用法 練習問題
第 6 回	第 7 課 (1)	第 7 課：助動詞「会」と「想」・助詞「了」・連動文
第 7 回	第 7 課 (2)	第 7 課：助動詞「会」と「想」・助詞「了」・連動文 練習問題
第 8 回	第 8 課 (1)	第 8 課：前置詞・助詞・「〜なのだ」構文・数量補語
第 9 回	第 8 課 (2)	第 8 課：前置詞・助詞・「〜なのだ」構文・数量補語 練習問題
第 10 回	復習 2	復習 2 ：第 5 課から第 8 課までの文法のまとめ、確認練習問題
第 11 回	第 9 課 (1)	第 9 課：助動詞・動詞の重ね型・方向補語
第 12 回	第 9 課 (2)	第 9 課：助動詞・動詞の重ね型・方向補語 練習問題
第 13 回	期末試験 1	期末試験（筆記）
第 14 回	期末試験 2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】教科書の予習・復習。付属の音声教材を使っての音読練習、リスニング練習。

【テキスト（教科書）】
『すぐ読める中国語　改訂版』、胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016 年。

【参考書】
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』同学社、2016 年。
『中検準 4 級問題集 2021 年版』光生館、2021 年。
『中検 4 級問題集 2021 年版』光生館、2021 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（受講態度・発声音量）15 %、課題内容 25 %、試験（筆記 5 対音読 1）60 %として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングが苦手と思う方は、自主的に教科書付属の音声教材をたくさん聞いてください。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器。

【Outline and objectives】
Intermediate Chinese: A second-year Mandarin Chinese course. The goal is to consolidate the foundation which students have built in their first-year Chinese courses. Students are offered training in listening, speaking, reading, and writing.

LANc200LC

中国語表現

新田　龍希

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は基礎中国語と中国語中級（前期）を学習した学生を対象とし、日記風の文章の講読を行います。文章を読み、書くために必要な基本表現を身につけ、読解力と表現力の強化をします。

【到達目標】
中国語の理解力、表現力を身につけることを目指します。
11 月後半に実施される中国語検定（4 級）の合格を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
さまざまな出来事を記述する文章を題材に、音読、リスニング、作文と翻訳の訓練を通して、基本的表現を習得します。また、過去問題などを使い、中国語検定（4 級）対策も行います。
毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	発音の復習と日常用語	教科書発音編
第 2 回	第８課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 3 回	文法の復習	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 4 回	第９課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 5 回	第１０課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 6 回	第１１課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 7 回	第１２課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 8 回	第１３課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 9 回	第１４課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 10 回	文法の復習と確認	文型と表現の復習、リスニング、作文、
第 11 回	中国語検定試験対策	過去問を解く
第 12 回	中国語検定試験対策	過去問を解く
第 13 回	後期試験	試験時間 60 分
第 14 回	試験公評	答え合わせと問題発見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

【テキスト（教科書）】
『すぐ読める中国語』胡金定ほか著、朝日出版社、2013 年。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介。
光生館 (2013/03)
中検準 4 級問題集〈2016〉　中検研究会
中検 4 級問題集〈2016 年版〉 中検研究会
中検 3 級問題集〈2016 年版〉中検研究会

【成績評価の方法と基準】
出席状況を評価の前提条件とします。平常点 30%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験 70%を総合して評価します。なお資格取得者には追加点を与えます。

【学生の意見等からの気づき】
語学の勉強は日々の積み重ねが大切です。
期待できる教育効果を得るには、学生が欠かさず授業に出席し、積極的に授業参加すること、授業中、教員が学習要点を提示し、発音指導と練習を繰り返すこと、どちらも必要です。

【Outline and objectives】
This course is designed for students who have completed both basic and intermediate Chinese courses in previous semesters. The course is expected to develop students' proficiency in reading comprehension, listening and writing.

LANc200LC

中国語表現

杉本　公子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎中国語と中国語中級（春学期）を学習した学生を主な対象としています。少しまとまった文章に触れながら、語彙を増やしつつ基礎文法の再確認をし、中国語を正確に理解し、表現する力を養います。また、中国語検定試験にも対応します。

【到達目標】
(1) 一年生で学んだ基礎事項が応用できる。
(2) 少しまとまった中国語が読める。聞ける。
(3) 会話、作文で、大胆にとりくみ、自信をもって表現できる。
(4) 新しい文法事項が理解できる。
(5) 希望者は、中国語検定試験（準 4 級以上）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
音読、作文、リスニング練習を行い、すでに学習してきた内容の定着をめざします。
また、必要に応じて中国語検定（準 4 級以上）対策も行います。
適宜、中国文化の紹介をします。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語検定案内	中国語検定問題
第 2 回	第 10 課 (1)	助詞「了」・兼語文・疑問詞の用法
第 3 回	第 10 課 (2)	助詞「了」・兼語文・疑問詞の用法 練習問題
第 4 回	第 11 課 (1)	接続詞・二重目的語・語気助詞
第 5 回	第 11 課 (2)	接続詞・二重目的語・語気助詞 練習問題
第 6 回	第 12 課 (1)	「～なので」・結果補語・「～を」
第 7 回	第 12 課 (2)	「～なので」・結果補語・「～を」 練習問題
第 8 回	第 13 課 (1)	比較・受け身・可能性
第 9 回	第 13 課 (2)	比較・受け身・可能性 練習問題
第 10 回	第 14 課 (1)	「もうすぐ～」・「少しも～」・可能補語
第 11 回	第 14 課 (2)	「もうすぐ～」・「少しも～」・可能補語 練習問題
第 12 回	復習 3	復習 3 ：第 9 課から第 14 課までの文法のまとめ 確認練習問題
第 13 回	期末試験 1	期末試験（筆記）
第 14 回	期末試験 2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】教科書の予習・復習。付属の音声教材を使っての音読練習、リスニング練習。

【テキスト（教科書）】
『すぐ読める中国語　改訂版』、胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016 年。

【参考書】
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』同学社、2016 年。
『中検準 4 級問題集 2021 年版』光生館、2021 年。
『中検 4 級問題集 2021 年版』光生館、2021 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（受講態度・発声音量）15 %、課題内容 25 %、試験（筆記 5 対音読 1）60 %として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
本文を書いてみると発見があります。実際に書いてみましょう。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器。

【Outline and objectives】
Chinese Communication: Continuation of second-year Mandarin Chinese course. Students are offered training in listening, speaking, reading, and writing, and will be introduced to more complex grammatical structures. The goals are to improve students' comprehensive Chinese language skills and lay a solid foundation for further Chinese language study.

LANc100LC

基礎中国語 I

杉本　公子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。中国語の発音と表記法を学び、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。そして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の基礎力養成を目指します。中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。

【到達目標】
(1) 正確な発音を身につける。
(2) 発音表記が正確に読める。
(3) 基礎的な文法を理解する。
(4) 初歩的な会話ができる。
(5) 基礎的な作文ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
正確な発音、発音の表記法、簡体字と、基本的な文法と語彙、初歩的な会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い、基礎力を養います。また、適宜、中国文化の紹介も行います。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 発音 (1)	授業の進め方について 発音 (1) ：発音表記・声調・単母音
第 2 回	発音 (2)	発音 (2) ：複母音・声調記号
第 3 回	発音 (3)	発音 (3) ：子音・無気音・有気音・そり舌音
第 4 回	発音 (4)	発音 (4) ：鼻音・声調変化
第 5 回	発音 (5)	発音 (5) ：発音表記の規則・数字・声調の組み合わせ
第 6 回	第 1 課	第 1 課：人称代名詞・動詞述語文・諾否疑問文
第 7 回	第 2 課	第 2 課：指示代詞・連体修飾語・疑問詞疑問文
第 8 回	第 3 課	第 3 課：助数詞・所有・「いくつ」
第 9 回	第 4 課	第 4 課：形容詞述語文・反復疑問文・「～は？」
第 10 回	第 5 課	第 5 課：場所の指示代詞・存在・「～したい」
第 11 回	第 6 課	第 6 課：日時・名詞述語文・変化・提案・推測
第 12 回	第 1～6 課復習	第 1～6 課：復習
第 13 回	期末試験 1	期末試験（筆記）
第 14 回	期末試験 2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付属の音声教材も活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などについて、発音練習やリスニング練習をしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』同学社、2016 年。
『中検準 4 級問題集 2021 年版』光生館、2021 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（受講態度・発声音量）15 %、課題内容 25 %、試験（筆記 5 対音読 1）60 %として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
どんどん間違えてください。そこから多くが学べます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器。

【Outline and objectives】
Basic Chinese 1: A first-year Mandarin Chinese course for students with no background in Chinese. Students will learn to read and write Chinese phonetic alphabet and simplified Chinese characters. Special emphasis will be placed on developing accurate pronunciation. The goal is to develop the basics of four language skills: listening, speaking, reading, and writing.

LANc100LC

基礎中国語 II

杉本　公子

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、主に初級中国語の前半を学んだ学生を対象としています。中国語の発音と表記法をしっかりとマスターし、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。そして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の基礎力養成を目指します。中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。

【到達目標】
(1) 発音が正確にできる。
(2) 基礎的な文法を理解する。
(3) 初歩的な会話ができる。
(4) 基礎的な作文ができる。
(5) 学習した内容のまとまった中国語が聞き取れる。
(6) 希望者は、11 月後半に実施される中国語検定（準 4 級）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
正確な発音、発音の表記法、簡体字と、基本的な文法と語彙、初歩的な会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い、基礎力を養います。また、必要に応じて中国語検定対策も行います。適宜、中国文化の紹介を行います。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 第 7 課 (1)	授業の進め方について 第 7 課 (1) ：連動文・時間量・前置詞
第 2 回	第 7 課 (2) 検定試験練習問題	第 7 課 (2) ：連動文・時間量・前置詞 検定試験練習問題
第 3 回	第 8 課 (1)	第 8 課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文
第 4 回	第 8 課 (2) 第 9 課 (1)	第 8 課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文 第 9 課：比較・二重目的語・様態補語
第 5 回	第 9 課 (2) 第 10 課 (1)	第 9 課：比較・二重目的語・様態補語 第 10 課：完了・「～なのだ」・「できる」
第 6 回	第 10 課 (2)	第 10 課：完了・「～なのだ」・「できる」 リスニング練習
第 7 回	第 11 課 (1)	第 11 課：動作の進行・状態の持続・「はやく～」
第 8 回	第 11 課 (2) 第 12 課 (1)	第 11 課：動作の進行・状態の持続・「はやく～」 リスニング練習 第 12 課：方向補語・結果補語・動量補語
第 9 回	第 12 課 (2)	第 12 課：方向補語・結果補語・動量補語 リスニング練習
第 10 回	第 13 課 (1)	第 13 課：無主語文・「少しも～」・「すぐに～」・「ますます」
第 11 回	第 13 課 (2) 第 14 課 (1)	第 13 課：無主語文・「少しも～」・「すぐに～」・「ますます」 リスニング練習 第 14 課：「まるで～」・禁止・「少し～」・「～しながら」
第 12 回	第 14 課 (2)	第 14 課：「まるで～」・禁止・「少し～」・「～しながら」 リスニング練習
第 13 回	期末試験 1	期末試験（筆記）
第 14 回	期末試験 2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付属の音声教材も活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習、リスニング練習をしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011 年。

【参考書】
『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』同学社、2016 年。
『中検準 4 級問題集 2021 年版』光生館、2021 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（受講態度・発声音量）15 %、課題内容 25 %、試験（筆記 5 対音読 1）60 %として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
ペースが速いときは、遠慮なく言ってください。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器。

【Outline and objectives】
Basic Chinese 2: Continuation of Basic Chinese 1. The goal is to develop the basics of four language skills: listening, speaking, reading, and writing. Emphasis will be given to the acquisition of basic grammatical structures.

LANk200LC

朝鮮語中級

魏　聖銓

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：楽しく韓国語を学ぼう

【到達目標】
初級で学んだ文字・発音・文法などをしっかり再確認し、次のステップの発音変化の練習・文法を強化し、現地ですぐに使える会話ができるようにするのが目標です。
韓国語の文法、連体形や不規則変則が使えるように学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる．それにともなう各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示する．具体的なオンライン授業の日程や方法などを、学習支援システムで提示する．
提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う
　ハングル 5 級から 4 級レベルの文法・単語・表現を学習しながら、日常の会話に活用できるような授業を展開していきます。読む・聞くのインプット学習と「文を書く」・「自分で思ったことを話す」アウトプット学習がうまくリンクできるように、ペアワーク、グループワークも多く取り入れて授業を行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	全体の授業のガイダンス	授業の流れの説明、初級の復習、ガイダンス
2	1　桜 形容詞・指定詞の現在	連体形／形容詞・指定詞の過去・未来の連体形
3	韓国の名所：ソウル 1 ☒ 梁津水産市場、単語練習：花	-ている 1　/　(12-3　参)　／韓国と日本の四字熟語 変則の説明と練習　／異文化紹介：花見
4	2　韓国の記念日 動詞・存在詞の連体形	伝聞　引用文　/韓国の名所：済州道　単語練習：趣味
5	語幹説明 会話：☒梁津	語幹説明と練習問題　異文化紹介：韓国の記念日について
6	3　ビビンパ　/　接続詞　原因理由から・ので：(　)	接続詞　順接・逆接の表現　-　/　韓国の名所：全州　単語練習：韓国の食べ物 韓国語の漢字の理解
7	変則の学習	応用問題：短文　（私の日記）　/ 異文化紹介：のり巻きと韓国のキンパ
8	復習　中間まとめ	復習　中間まとめ
9	4　デザートとダイエット 体（普通体）ぞんざいな言い方	動詞の禁止の表現　- 韓国の名所：ソウル 2　（広場市場），　（東大門）　単語練習：スイーツ
10	韓国のスイーツ　/　会話：キンパと海苔巻	音読コーナー：誕生日とケーキ屋さん　/　異文化紹介：誕生日の朝にわかめスープ
11	5　? 週末に何をしますか。	仮定表現　（　）　/　役に立つ表現：　-　/ -　/ -(　) 韓国の名所：ソウル 3 汝矣島 (　) 漢江遊覧船　/　単語練習：場所
12	作文：　私の一日/ 応用作文コーナー：週末の過ごし方	変則と応用問題：短文　（ヒーリング）　異文化紹介：日韓共同開催 2002 年ワールドカップと日韓友好
13	6　韓国のお盆と暦　/　敬語表現：(　)　/位置名詞 韓国の名所：平昌 (　) と江陵 (　)	家族名称と家族写真　／　可能・不可能表現　(　)　/ 会話：KTX　アメリカーノ（カード文化）
14	プレゼン：韓国旅行に役立つ表現 まとめ。	プレゼン：韓国旅行に役立つ表現 まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『韓国と日本くらべて学ぶ中級韓国語』　魏 聖銓　朝日出版社

【参考書】
辞書は『朝鮮語辞典』（小学館）をはじめ、『コスモス朝和辞典』(白水社)、『韓日辞典』(民衆書林出版／三修社販売)・『ポータブル日韓・韓日辞典』(小学館) を勧めますが、電子辞書の方もお勧めします。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
楽しく、継続すれば、自分のものになる！
韓国の会話をより楽しもう！

【学生が準備すべき機器他】
赤色のペン

【Outline and objectives】
Intermediate Korean
Students will master basic Hangul grammar, vocabulary, and knowledge of expressions as well as daily conversation and composition skills.

LANk200LC

朝鮮語表現

魏　聖銓

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：楽しく韓国語を学ぼう

【到達目標】
初級で学んだ文字・発音・文法などをしっかり再確認し、次のステップの発音変化の練習・文法を強化し、現地ですぐに使える会話ができるようにするのが目標です。
連体形と不規則変則が理解できるように学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　ハングル 5 級から 4 級レベルの文法・単語・表現を学習しながら、日常の会話に活用できるような授業を展開していきます。読む・聞くのインプット学習と「文を書く」・「自分で思ったことを話す」アウトプット学習がうまくリンクできるように、ペアワーク、グループワークも多く取り入れて授業を行います。
提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	全体の授業のガイダンス	自己紹介 前期の復習、後期の授業について
2	7　　外来語とアルファベット	表現：－（　） 　／動詞語幹＋てください（　/　と（　）　の違い） 韓国の名所：水原　単語練習：外来語
3	アルファベットの表記について　／会話練習：	音読コーナー：新大久保とホットク 異文化紹介：韓国の匙と箸
4	8　　慶州旅行　／ようだ、そうだ水量表現：（　）　　。	間接話法の中での「依頼」表現：　/ 韓国の名所：慶州　／　単語練習：交通機関　／応用コーナー：建物とマップ
5	変則の学習	短文:アルバイト　／　異文化紹介：カルビとプルゴギ
6	9　　ホワイトクリスマス 表現　（　）　／「-　+形容詞」	「-　+形容詞」表現：　/ 韓国の名所：安東　単語練習：スポーツ
7	韓国映画	会話練習：美味しいパン屋さん 美味しいパン屋へ行く行き方　／ 異文化紹介：韓国のデリバリー文化
8	総復習とおさらい	ハングル能力検定試験 5 級＆ 4 級について
9	10　　ソウルタワーと東京タワー /　原因・理由、事柄の順序	表現：　/　/　（し）たことがある/ない 韓国と日本の名所：ソウルタワー＆東京タワー　単語練習：果物
10	疑問代名詞と縮約形　変則	変則の学習 応用短文：道を教える　／異文化：韓国のアパート（マンション）
11	11　　釜山で買い物　／(し) てもよい　/	表現：-　/-　,-　韓国の名所：釜山　単語練習：野菜
12	色、服装を表す表現について　／　変則	変則の学習 音読コーナー　応用短文：:私が好きな色　／　異文化紹介：韓服と着物
13	12　　韓国語スピーチ大会　／－ている２　-	逆接表現　／韓国と日本のことわざ　／韓国の名所：仁川　単語練習：装身具、アクセサリー
14	まとめ。	まとめ。 韓国紙幣の人物　／　新幹線と富士山　／異文化紹介：　ソウル城郭

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『韓国と日本くらべて学ぶ中級韓国語』　魏 聖銓　朝日出版社

【参考書】
辞書は『朝鮮語辞典』（小学館）をはじめ、『コスモス朝和辞典』(白水社)、『韓日辞典』(民衆書林出版／三修社販売)・『ポータブル日韓・韓日辞典』(小学館)を勧めますが、電子辞書の方もお勧めします。

【成績評価の方法と基準】
1　簡単会話の力試し、期末試験（60%）
2　課題点、平常点、レポート、(40%)

【学生の意見等からの気づき】
楽しく、継続すれば、自分のものになる！
韓国の会話をより楽しもう！

【学生が準備すべき機器他】
赤色のペン

【Outline and objectives】
Korean expression
Students will review the writing system, pronunciation, and grammar learned at the elementary level while acquiring elementary communication skills.

LANs200LC

スペイン語中級

日高　憲三

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は４億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】
スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが...。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて○○国に行ってみたい、○○をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。
尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。５級、６級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
このクラスの皆さんはスペイン語履修２年目になりますが、新たに使用する教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力再発見！	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第 2 回	教科書第１課	アファベット、母音、子音
第 3 回	教科書第１課	音節の分け方、アクセントのルール
第 4 回	教科書第２課	名詞の性、名詞の数
第 5 回	教科書第２課	冠詞、形容詞
第 6 回	教科書第３課	主格人称代名詞、ser 動詞
第 7 回	教科書第３課	文の構造、指示語
第 8 回	教科書第４課	estar 動詞、所有形容詞
第 9 回	教科書第４課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第 10 回	教科書第５課	直説法現在形・規則動詞
第 11 回	教科書第５課	直説法現在形・規則動詞
第 12 回	教科書第６課	現在形不規則動詞１
第 13 回	教科書第６課	直接目的格人称代名詞
第 14 回	教科書第７課	現在形不規則動詞２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
昨年度のオンライン授業では NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用し、これまでにない大きな学習効果がありました。今年は対面授業を行いつつも、NHK の「旅するためのスペイン語」も教材として利用したいと思います。当スペイン語クラスの受講を希望する人は、４月の第１回目の放送（４月７日、午前０時）から視聴するように準備してください（可能であれば３月の前年度の番組から視聴するのもおすすめです）。

【テキスト（教科書）】
「エスピギータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（２０１７年）２３００円

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験１００％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度のオンライン授業では NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用しつつ、独自の課題を出して調べ学習をしてもらいました。これまでの対面授業の時よりも積極的に、また主体的にスペイン語に取り組むケースが多く見受けられ、私自身びっくりしました。「英語は苦手で好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思います。

【Outline and objectives】
This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and English in not a common language.Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs200LC

スペイン語表現

日高　憲三

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は４億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】
スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが...。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて○○国に行ってみたい、○○をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。
尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。５級、６級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前期に引き続き基礎的な文法事項や会話表現などを復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。またスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解をさらに深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	教科書第８課	gustar 動詞
第 2 回	教科書第８課	前置詞格人称代名詞
第 3 回	教科書第９課	再帰動詞
第 4 回	教科書第９課	無人称文、接続詞
第 5 回	教科書第１０課	点過去１（規則動詞）
第 6 回	教科書第１０課	点過去２（規則動詞）
第 7 回	教科書第１１課	点過去（不規則動詞）
第 8 回	教科書第１１課	関係代名詞 所有形容詞
第 9 回	教科書第１２課	現在分詞
第 10 回	教科書第１２課	不定語、否定語
第 11 回	教科書第１３課	過去分詞、現在完了
第 12 回	教科書第１３課	受動態
第 13 回	教科書第１４課	比較級
第 14 回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前期に引き続き NHK の「旅するためのスペイン語」も教材として利用しますので、毎週視聴するようにしてください。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

【テキスト（教科書）】
「エスピギータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（２０１７年）２３００円

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験１００％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度のオンライン授業では NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用しつつ、独自の課題を出して調べ学習をしてもらいました。これまでの対面授業の時よりも積極的に、また主体的にスペイン語に取り組むケースが多く見受けられ、私自身びっくりしました。「英語は苦手で好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思います。

【Outline and objectives】
This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and English in not a common language.Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANe200LC

アカデミック・ライティング

藤野　輝雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
各ユニットのリーディングセクションの英文を読んで語彙や読解力を身に着け、英文の特集記事の語法、文法、言葉遣い、言い回し等を自分のものとし、それを自分自身のライティング課題に生かして、パラグラフの書き方を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Part 1 の Reading では，読む前にテーマについて議論し重要な単語を学ぶ。From Reading to Writing では，Reading で学んだ事柄の各自のライティングへの応用方法を学ぶ。最後に，Part 2 の Writing では，まず例文や演習問題でライティング技術に磨きをかけ，次に宿題で段階を踏んでパラグラフを作成していく。また，課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation From Reading to Writing Chapter 1: Unit one: All in the Family: Reading and writing	· Introduction to the course · Good Things Come in Fours
2	From Reading to Writing Chapter 2: Unit one: All in the Family: Reading and writing	· Stay-at-Home Dads
3	From Reading to Writing Chapter 3: Unit two: Time to Eat: Reading and writing	· Pizza around the World
4	From Reading to Writing Chapter 4: Unit two: Time to Eat: Reading and writing	· Rachael Ray: Celebrity Chef
5	From Reading to Writing Chapter 5: Unit three: Overcoming difficulties: Reading and writing	· Ray Charles
6	From Reading to Writing Chapter 6: Unit three: Overcoming difficulties: Reading and writing	· Whoopi Goldberg
7	From Reading to Writing Chapter 7: Unit four: Places Near and Far: Reading and writing	· An Anniversary to Remember
8	From Reading to Writing Chapter 8: Unit four: Places Near and Far: Reading and writing	· Seattle: A Great Place to Live
9	From Reading to Writing Chapter 9: Unit five: Keeping Up with Technology: Reading and writing	· Sorry, You've Got Mail
10	From Reading to Writing Chapter 10: Unit five: Keeping Up with Technology: Reading and writing	· Using YouTube
11	From Reading to Writing Chapter 11: Unit six: In Business and at Work: Reading and writing	· The Success of Starbucks
12	From Reading to Writing Chapter 12: Unit six: In Business and at Work: Reading and writing	· Happiness at Work
13	From Reading to Writing Chapter 13: Unit seven: Music: Reading and writing	· A Gift of Music · Presentation
14	Exam, summary, and explanation	· Checks comprehension

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
· 次回の授業の予習をすること
· 小テストのための復習をすること
· 与えられた宿題を決められた日時に提出すること
なお，本授業の予習・復習・宿題時間は、各々 1，2，1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
· Lynn Bonesteel,"From Reading to Writing 2" Student Book, ISBN 0-13-247403-4

【参考書】
· 藤野輝雄、「理科系のためのかならず書ける英語論文」、研究社，2006 初版

【成績評価の方法と基準】
· 小テスト (20%)，宿題 (25%)，試験 (30%)，平常点 (15%)，口頭発表 (10%)
·「平常点」では，先生の言うことをしっかり聴き，質問に自発的に大きな声で答え，与えられた課題に真面目に取り組み，授業に関係ない話をせず，他の学生の邪魔をしないかどうか等を評価する
· 教員間の評価の不公平を解消するために成績を調整する場合がある

【学生の意見等からの気づき】
英語を書くいい機会になったとのことなので，引き続きできるだけ書く機会を持ちたいと思います。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

井上　敏郎

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
読むことを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	授業説明と英語力の確認	小テストを行う。
2	英語力の確認	100 字程度の英文を読む。
3	英語力の確認	内容理解のための練習を行う。
4	パラグラフ・リーディングの練習	簡潔な英文を使って、パラグラフごとのまとめをする。
5	パラグラフ・リーディングの練習	簡潔な英文を使って、パラグラフごとのまとめをする。
6	パラグラフ・リーディングの練習	簡潔な英文を使って、パラグラフごとのまとめとその繋がりを意識する。
7	パラグラフ・リーディングの練習	簡潔な英文を使って、パラグラフごとのまとめとその繋がりを意識する。
8	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
9	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
10	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
11	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
12	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
13	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
14	春期の授業内容の確認 試験	学力の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】易しい英語の本を 1 冊読む。授業内で説明する。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 (50%) と平常点 (10%) 重視。試験 (40%) を実施する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
前回の確認をしっかり行い、授業の流れが円滑に進むように気をつける。少し早口になる場合があるようなので、ゆっくり喋ることを心掛けます。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

井上　敏郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
本授業では英語の論文を読むためのスキルを学ぶ。特に、翻訳をなるべくやらずに理解する練習を積む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主にトピック・リーディング、パラグラフ・リーディングを学ぶが、簡単英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。 また、前回回収したペーパーを使って、英文読解のポイントを説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	前期の授業内容の確認	小テストを行う（文法含む）。
2	トピック・リーディングの練習	前期の授業内容を確認しながら、トピックを探し出す練習をする。
3	トピック・リーディングの練習	キーワードを探し、内容を理解する。
4	トピック・リーディングの練習	キーワードを探し、内容を理解する。
5	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、パラグラフごとのまとめを行う。
6	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、パラグラフごとのまとめを行う。
7	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、パラグラフごとのまとめを行う。
8	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、理解に必要な文章をそうでない箇所の読み分けの練習を行う。
9	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、理解に必要な文章をそうでない箇所の読み分けの練習を行う。
10	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、理解に必要な文章をそうでない箇所の読み分けの練習を行う。
11	全体の流れを掴む	内容理解と、自分の見解を述べる練習をする。
12	全体の流れを掴む	内容理解と、自分の見解を述べる練習をする。
13	全体の流れを掴む	内容理解と、自分の見解を述べる練習をする。
14	春期のまとめ　試験	学力確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】易しい英語の本を 1 冊読む。授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業態度と平常点重視（60 %）。試験 (40%) を実施する。

【学生の意見等からの気づき】
前回の確認をしっかり行い、授業の流れが円滑に進むように気をつける。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

大石　文雄

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。

【到達目標】
1) 英文をフィーリングではなく，語順や構造に従って正しく読めるようになる。
2) テキストを通じて理工系分野に関わる語彙を多く習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
英文を「単語レベル」ではなく「句」や「節」で理解でき，「文構造」を理解した上で英文読解ができるようになることを中心に授業を進める。
毎回の授業では，最初に「Reading Test」を行い，速読力の向上を図る。次にテキスト『Science Fair ：『Science』で読む科学の世界』を使い英文の「読み方」を教えていく。また、適宜英字新聞記事を授業内で活用していく。
予習を行った上で授業に参加すること。予習の際には，各 Unit の「In Advance」をやり，「Reading」についてはきちんと和訳をしておくこと。また「Exercises」については授業で答え合わせを行い，テキストの内容理解を深める。なお「In Advance」「Exercises」については順番に指名し【成績】に加味する。
前回の授業で実施した「Reading Test」の採点結果を基に，テストで問われた題材についてフィードバックする。また，最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけではなく，授業内で毎回実施した小テストに対する講評や解説を行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容説明
第 2 回	Unit 1 ： Why Diets Fail	① Reading Test（第 1 回） ②基本文法用語の確認 I ③英文読解演習： Introduction ／ In Advance
第 3 回	Unit 1 ： Why Diets Fail	① Reading Test（第 2 回） ②基本文法用語の確認 II ③英文読解演習： Part 1
第 4 回	Unit 1 ： Why Diets Fail	① Reading Test（第 3 回） ②英文読解演習： Part 2
第 5 回	Unit 1 ： Why Diets Fail	① Reading Test（第 4 回） ②英文読解演習： Part 3
第 6 回	Unit 1 ： Why Diets Fail	① Reading Test（第 5 回） ②英文読解演習：問題演習： Exercises
第 7 回	Unit 4 ： Malagasy Spiders Spin the World's Toughest Biological Material	① Reading Test（第 6 回） ②英文読解演習： In Advance ／ Part 1
第 8 回	Unit 4 ： Malagasy Spiders Spin the World's Toughest Biological Material	① Reading Test（第 7 回） ②英文読解演習： Part 2
第 9 回	Unit 4 ： Malagasy Spiders Spin the World's Toughest Biological Material	① Reading Test（第 8 回） ②英文読解演習： Part 3
第 10 回	Unit 4 ： Malagasy Spiders Spin the World's Toughest Biological Material	① Reading Test（第 9 回） ②英文読解演習：問題演習： Exercises
第 11 回	Unit 5 ： Say Goodbye to Sunspots?	① Reading Test（第 10 回） ②英文読解演習： In Advance ／ Part 1
第 12 回	Unit 5 ： Say Goodbye to Sunspots?	① Reading Test（第 11 回） ②英文読解演習： Part 2
第 13 回	Unit 5 ： Say Goodbye to Sunspots?	① Reading Test（第 12 回） ②英文読解演習： Part 3　問題演習 ： Exercises
第 14 回	End-of-term test（学期末試験）	学習内容の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
必ず予習をして授業に臨む。予習の際には，本文に出てくる単語・熟語を調べ，和訳をしておく。また各 Unit の「In Advance」「Exercises」を事前に学習しておく。

【テキスト（教科書）】
Science Fair:『Science』で読む科学の世界：南雲堂

【参考書】
必要に応じて，授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席 2/3 以上，学期末試験 70%，平常点 30%（毎時実施する「Reading Test」の成績を含む）として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業は「精読」を中心に進めるが，「速読」の意味を込めて毎時 10 分程度の「Reading Test」を実施する。また，「多読」の意味を込めて，適宜興味深い英字新聞の記事を読む。

【その他の重要事項】
辞書を毎回必ず持参すること（電子辞書可／スマホ不可）。遅刻・早退は３回をもって欠席 1 回とみなす。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

大石　文雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。アカデミック・リーディングⅡでは，アカデミック・リーディングⅠで学んだスキルをもとに、基本的な読解力と共にパラグラフの構造の理解の養成を目指す。

【到達目標】
春学期の到達目標に加え，パラグラフの論理構造について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期に引き続いて，英文を「単語レベル」ではなく「句」や「節」で理解でき，「文構造」を理解した上で英文読解ができるようになることを中心に授業を進めるが，それに加えて科学論文のパラグラフの構成の基本についても考えていく。
春学期同様，毎回の授業では，最初に「Reading Test」を行い，速読力の向上を図る。次にテキスト『Science Fair ： 『Science』で読む科学の世界』を使い英文の「読み方」を教えていく。また、適宜英字新聞記事を授業内で活用していく。
予習を行った上で授業に参加すること。予習の際には，各 Unit の「In Advance」をやり，テキスト本文についてはきちんと和訳をしておくこと。また「Exercises」については授業で答え合わせを行い，テキストの内容理解を深める。なお「In Advance」「Exercises」については順番に指名し【成績】に加味する。
前回の授業で実施した「Reading Test」の採点結果を基に，テストで問われた題材についてフィードバックする。また，最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけではなく，授業内で毎回実施した小テストに対する講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	答案返却及びガイダンス	①春学期試験答案返却 ②秋学期授業内容説明
第 2 回	Unit 6 ： Folklore Confirmed: The Moon's Phase Affects Rainfall	① Reading Test（第 1 回） ②英文読解演習： In Advance ／ Part 1
第 3 回	Unit 6 ： Folklore Confirmed: The Moon's Phase Affects Rainfall	① Reading Test（第 2 回） ②英文読解演習： Part 2
第 4 回	Unit 6 ： Folklore Confirmed: The Moon's Phase Affects Rainfall	① Reading Test（第 3 回） ②英文読解演習： Part 3　問題演習 ： Exercises
第 5 回	Unit 9 ： Alien Gases in Our Atmosphere	① Reading Test（第 4 回） ②英文読解演習： In Advance ／ Part 1
第 6 回	Unit 9 ： Alien Gases in Our Atmosphere	① Reading Test（第 5 回） ②英文読解演習： Part 2
第 7 回	Unit 9 ： Alien Gases in Our Atmosphere	① Reading Test（第 6 回） ②英文読解演習： Part 3　問題演習 ： Exercises
第 8 回	Unit 11 ： When Pigeons Flock, Who's in Command?	① Reading Test（第 7 回） ②英文読解演習： In Advance ／ Part 1
第 9 回	Unit 11 ： When Pigeons Flock, Who's in Command?	① Reading Test（第 8 回） ②英文読解演習： Part 2
第 10 回	Unit 11 ： When Pigeons Flock, Who's in Command?	① Reading Test（第 9 回） ②英文読解演習： Part 3　問題演習 ： Exercises
第 11 回	Unit 13 ： Cats' Tongues Employ Tricky Physics	① Reading Test（第 10 回） ②英文読解演習： In Advance ／ Part 1
第 12 回	Unit 13 ： Cats' Tongues Employ Tricky Physics	① Reading Test（第 11 回） ②英文読解演習： Part 2
第 13 回	Unit 13 ： Cats' Tongues Employ Tricky Physics	① Reading Test（第 12 回） ②英文読解演習： Part 3　問題演習 ： Exercises
第 14 回	End-of-term test（学期末試験）	学習内容の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
必ず予習をして授業に臨む。予習の際には，本文に出てくる単語・熟語を調べ，和訳をしておく。また各 Unit の「In Advance」「Exercises」を事前に学習しておく。

【テキスト（教科書）】
Science Fair ： 『Science』で読む科学の世界：南雲堂

【参考書】
必要に応じて，授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席 2/3 以上，学期末試験 70%，平常点 30%（毎時実施する「Reading Test」の成績を含む）として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
科学論文以外の英語にも触れたいという要望に応え、英字新聞の社会面の記事等も一緒に読んでいく。

【その他の重要事項】
辞書を毎回必ず持参すること（電子辞書可／スマホ不可）。遅刻・早退は３回をもって欠席 1 回とみなす。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. In Academic Reading II, using the skills learned in Academic Reading I, this class aims to reinforce an understanding of paragraph structure as well as basic reading competence.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

柳川　浩三

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。 以下 k の授

【到達目標】
学生が英文法のエッセンスを理解し、実際にそれを駆使して、正しく英文の意味を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オリジナルプリントを使用しながら、断片化した文法知識を整理し、体系化する。それと並行して平易な英文や最新の時事問題 (Japan Times) を読みながら、その体系化への橋渡しとする。
授業の初めに、前回の授業の宿題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	英文法のエッセンス	導入
2	動詞	すべては動詞が決める
3	名詞	主語、目的語、補語、同格になる
4	形容詞	名詞を形容するか補語になる
5	副詞	副詞はどこを限定するか考える
6	前置詞	前置詞は名詞とセットになって、形容詞か副詞になる
7	And がわかれば英文が読める	and が何と何をつなぐか考える
8	今までの復習 1	Japan Times を読む
9	今までの復習 2	歌を聞く
10	今までの復習 3	英文学を読む
11	今までの復習 4	エッセイを読む
12	従属接続詞 1)	名詞・形容詞・副詞のどれかを導く従属接続詞
13	従属接続詞 2)	名詞・形容詞・副詞のどれかを導く従属接続詞
14	前期末試験	筆記試験 (辞書持込み可)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】宿題が出たら必ずやる

【テキスト（教科書）】
オリジナルテキスト「品詞とその働き」使用（生協で授業開始時までに購入のこと）

【参考書】
授業中に指示する

【成績評価の方法と基準】
クラス内での貢献（発言・態度・協調姿勢）と授業観察 20 %
テスト（80 %）

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の反省を踏まえて、以下の３点を改善した。1．「節」「関係詞」を加えた。2．名詞・副詞・形容詞のまとめのプリントを新たに作成した。3．練習問題などを精選・改良した。

【その他の重要事項】
座席は全席指定となります。
電子辞書または紙の英和辞書が必携となります（ノート PC, スマホの使用は不可）
5 分以上の遅刻は欠席とみなします。
夏季休業期間中に簡易な宿題が出ます。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content. It also aims to provide fundamental and practical knowledge and skills required for reading a range of academic texts.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

柳川　浩三

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
「品詞とその働き」を用いて、英文の構造を理解し、正確に英文を読む力をつけること。具体的には、Japan Times を読んだり、TED のレクチャーを聞いてその意味を理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前期のアカデミックリーディングＩで学んだ「品詞とその働き」の理解を確固なものにするために、実際に英文を精読していく。「品詞とその働き」を考えることが、英文を正確にかつ速く理解する上でとても有効且つ重要であることを体感してもらいたい。授業は演習形式で進むので、参加者の積極的が参加が求められます。また、授業の最初に前回の授業の宿題から共通して理解が不足がしている点をピックアップし、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	前期の復習 1	前期の復習 四品詞
2	前期の復習 2	前期の復習 前置詞・接続詞
3	関係詞　1	関係代名詞
4	関係詞 2	関係副詞
5	ING 形	四つの用法
6	過去分詞	四つの用法
7	分詞構文（ING 形と過去分詞の副詞的用法）	分詞構文の二つのパターン
8	後期中間試験 1	関係詞・ING 形、過去分詞の復習, 呪文の暗唱
9	To 不定詞 1	to の本質
10	To 不定詞 2	三つの用法
11	名詞のまとめ	副詞的・同格
12	形容詞・副詞のまとめ	歌を聞く 映画を見る
13	受け身	三つのパターン
14	期末テスト	準動詞を中心に

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】学生は毎週出される宿題を確実に行うことが求められます。
冬休みにも宿題が課される予定です。

【テキスト（教科書）】
オリジナルテキスト使用

【参考書】
授業内に指示する

【成績評価の方法と基準】
出席・授業内観察（発言・貢献・協同的姿勢）・宿題の提出 20%
定期考査 80%
中間試験と期末試験各 100 点合計 200 点のうち、獲得点数が 120 点に満たない場合は単位の認定が原則できない。

【学生の意見等からの気づき】
おおむね好評のようであったが、さらなる改善を図りたい。

【その他の重要事項】
座席は全席指定となります。
電子辞書または紙の英和辞書が必携となります。
This is where we begin to fight.
5 分以上の遅刻は欠席とみなします。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content. It also aims to provide fundamental and practical knowledge and skills required for reading a range of academic texts. It also aims to enhance reading proficiency of the students, particularly through intensive reading.

LANe100LC

基礎英語

谷　智子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、基本的には読解演習を中心に据え、そこから発展的に英語の４技能を高めていくことを目標とします。環境問題、テクノロジー、健康など様々なトピックに関する英文エッセイを読みながら、総合的な英語運用能力の基礎固めを行います。具体的には、語彙力の強化と英文法の復習を図ると同時に、それらに支えられた英語を「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」能力を柔軟に連携させる訓練を行います。

【到達目標】
この授業では以下の６点を主な到達目標とします。
１）語彙力の強化
２）高校までに学んだ英文法の復習
３）辞書を用いて平易な英文エッセイの内容を正確に理解できる
４）トピックと関連した会話文を正確に聞き取ることができる
５）トピックと関連した内容について英語による簡単なディスカッションを行い、
　　自分の意見を述べることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・この授業は学生が予習済みであることを前提に進みます。
・予習でわからなかった箇所を確認しながら、各ユニットの確認をします。
・本文の精読、リスニング、音読、文法事項の確認、ペアやグループでの英語によるディスカッションも交えます。
・授業の最初に毎回単語テストを行います。
・前期の途中で、復習を目的とした中間試験を行います。
・学生一人一人の提出課題について、個別にフィードバックをすると同時に、学生全員に共有しておくべき事柄については授業中に全体に対してフィードバックをします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Introduction	授業の概要と説明
2 回	Unit 1	The Arts: Music and the Mind
3 回	Unit 2	Culture: Body Language across Cultures
4 回	Unit 3	The Environment: Turning Waste into Wealth
5 回	Unit 4	Space: The Search for Other Worlds
6 回	Unit 5	The internet: Crowdsourcing
7 回	中間試験	中間試験
8 回	Unit 6	Architecture and Identity: Urban Landmarks
9 回	Unit 7	Health: Food safety
10 回	Unit 8	Entertainment: Spending a Fortune
11 回	Unit 9	Nature: Wonders of the Deep
12 回	Unit 10	Business: Product Placement
13 回	Unit 11	Law and Crime: White-collar Crime
14 回	授業内期末試験・もとめ	授業内期末試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・予習をしっかりすること。
・予習の段階でわからない箇所を明確にしておくこと。
・単語テスト、中間試験、授業内期末試験に向けた準備をしっかりすること。
・多様な媒体 (本・雑誌・ソーシャルメディア等) で、自分の興味のあるトピックの英語のインプットを増やすこと。

【テキスト（教科書）】
Andrew E. Bennett, Reading Fusion 1, 南雲堂

【参考書】
必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
以下の割合をもとに、総合的に判断します。
1. 授業への参加態度　(10%)
2. 毎回の単語テスト　(20%)
3. 中間試験　(30%)
4. 授業内に行う期末試験　(40%)
なお、5 回以上、正当な理由なく欠席した場合は不可とします。

【学生の意見等からの気づき】
前年度はオンラインでの授業を実施したため、直接学生からの意見を聞くことができませんでしたが、
今後、授業を行う中で、学生とのコミュニケーションを大切にし、一人一人の意見や要望を聞き、それらを授業に反映させる形で進めていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
必ずテキストと辞書を持参してください。(電子辞書・紙媒体の辞書のどちらも歓迎)

【その他の重要事項】
・クラスの進行具合に合わせて授業スケジュールを調整することがあります。
・この授業では、積極的な授業参加を重視します。
・初回の授業で予習の仕方を説明しますので、それまでにテキストを入手しておいてください。
・質問がある場合は、授業の前後で受け付けます。

【Outline and objectives】
The aim of this class is to strengthen students' overall basic English skills through reading articles on various topics, such as environmental issues, the development of technology and health problems. While focusing on the expansion of vocabulary and the review of grammar, this class provides students with opportunities for integrating skills in reading, listening, speaking and writing.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

NEIL CONWAY

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
The aim of this class is to develop students' reading abilities. By the end of the course, students will:
• develop their reading skills both in terms of fluency and comprehension
• extend their vocabulary in common areas of academic interest in English-language undergraduate classes
• practice their comprehension through exposure to texts
• practise and recycle new language through activities based on Active Learning methodologies
• demonstrate their comprehension of ideas by creating short written texts such as summaries, reports and presentations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Each week we will look at a particular theme and explore that theme through reading texts and other media. Themes and topic arising from these texts will be assessed, and academic vocabulary arising from this will be practiced and incorporated into Active Learning tasks which will provide expanded practice opportunities. The homework will involve students doing some research and more reading connected to the week's theme. Students will create written texts based on their reading and research, and this work may be extended by adapting students' research into presentations. Feedback will be given to the class the week following an applicable deadline. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Introduction to the course. First Theme: Humanity & Nature	Course introduction; Materials;
2	History Detectives	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
3	Tradition and Ritual	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
4	Urban Underworlds	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
5	Reef Encounters	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
6	Sweet Scents	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
7	Mid-term test	The test will focus on comprehension and some vocabulary.
8	Who are We?	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
9	Who are We?	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
10	Incredible Insects	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
11	Going to Extremes	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
12	Open Theme: Students will choose their own materials.	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
13	End-of-Semester Exam	The exam will focus on comprehension and vocabulary from the course reading texts (weeks 1 – 12).
14	Course Wrap-up	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】There will be assigned readings for homework which will be accompanied by some writing work.

【テキスト（教科書）】
No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer (students should have their A4 pocket folders each week to organize these handouts), or will be available online.
Library access is required for students to research their chosen research topics, and sometimes students will be expected to research and bring materials to class.

【参考書】
Students need a good bilingual dictionary (not a smartphone) which they must bring to every class.
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_
and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to home research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Classwork (including Effort and Participation): 30%
Homework: 40%
Tests and Quizzes: 30%

【学生の意見等からの気づき】
More writing practice has been included, and active learning opportunities have been extended.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, and a PDF reader
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, not Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.*
Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.
Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ colored pencils for making notes

【その他の重要事項】
There is a strict "No Smartphone" policy in this class. The teacher will explain this in the first class of the semester.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングＩＩ

NEIL CONWAY

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】
The aim of this class is to develop students' reading abilities. By the end of the course, students will:
• develop their reading skills both in terms of fluency and comprehension
• extend their vocabulary in common areas of academic interest in English-language undergraduate classes
• practice their comprehension through exposure to texts
• practise and recycle new language through activities based on Active Learning methodologies
• demonstrate their comprehension of ideas by creating short written texts such as summaries, reports and presentations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Each week we will look at a particular theme and explore that theme through reading texts and other media. Themes and topic arising from these texts will be assessed, and academic vocabulary arising from this will be practiced and incorporated into Active Learning tasks which will provide expanded practice opportunities. The homework will involve students doing some research and more reading connected to the week's theme. Students will create written texts based on their reading and research, and this work may be extended by adapting students' research into presentations. Feedback will be given to the class the week following an applicable deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	Introduction to the course. First Theme: Humanity & Nature	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation。
2	History Detectives	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
3	Tradition and Ritual	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
4	Urban Underworlds	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
5	Reef Encounters	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
6	Sweet Scents	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
7	Mid-term test	The test will focus on comprehension and some vocabulary.
8	Who are We?	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
9	Global Warming	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
10	Incredible Insects	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
11	Going to Extremes	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
12	Open Theme: students deicide class theme.	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
13	End-of-Semester Exam	The exam will focus on comprehension and vocabulary from the course reading texts (weeks 1 – 12).
14	Course Wrap-up	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
There will be assigned readings for homework which will be accompanied by some writing work.

【テキスト（教科書）】
No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer (students should have their A4 pocket folders each week to organize these handouts), or will be available online.
Library access is required for students to research their chosen research topics, and sometimes students will be expected to research and bring materials to class.

【参考書】
Students need a good bilingual dictionary (not a smartphone) which they must bring to every class.
For MLA information:
https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_
and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html
Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to home research will be required.

【成績評価の方法と基準】
Classwork (including Effort and Participation): 30%
Homework: 40%
Tests and Quizzes: 30%

【学生の意見等からの気づき】
More writing practice has been included, and active learning opportunities have been extended.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, and a PDF reader
Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, not Google Docs or anything else.
If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.*
Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.
Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working
A4 file folder (for organizing handouts / your own work)
USB memory stick (for back-ups and printing)
Class notebook (B5 size is good)
a few highlighter pens/ colored pencils for making notes

【その他の重要事項】
There is a strict "No Smartphone" policy in this class. The teacher will explain this in the first class of the semester.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe100LC

基礎英語

小林　直樹

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TOEIC での高得点を目指す学習を通じて、基礎的な英語力を身につけることを目標とする。また、受講生の理解力を養うため、様々な英文を、リスニングによって理解する機会を多く設ける。

【到達目標】
簡単な英語の文章なら、すべて音声を聞いて書き取ることが出来る英語力を身につけること。また、読解用の英文の音声を聞いて、ある程度の内容を理解できる英語力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、TOEIC での高得点を目指すための授業を通じて、基礎的な文法を確認し、日常会話の中で使われる語彙を身につけ、リスニング能力を高めるための授業とする。オンラインで授業を進める場合が、リスニングの課題の提出を課し、フィードバックを行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、評価方法の説明
第 2 回	Unit 1: Travel	TOEIC の概要
第 3 回	Unit 2: Dining Out	リスニングの練習など。
第 4 回	Unit 3: Media	リスニングの練習など。
第 5 回	Unit 4: Entertainment	語彙の習得など。
第 6 回	Unit 5: Purchasing	語彙の習得など。
第 7 回	Unit 6: Clients	文法の確認など。
第 8 回	Unit 7: Recruiting	リスニングの練習など。
第 9 回	Unit 8: Personel	リスニングの練習など。
第 10 回	Unit 9: Advertising	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 11 回	Unit 10: Meetings	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 12 回	Unit 11: Finance	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 13 回	Unit 12: Offices	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 14 回	期末テスト	英文の書き取り、長文の聞き取り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】復習を欠かさないこと。また、リスニングを意欲的に行うこと。

【テキスト（教科書）】
THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING（金星堂）

【参考書】
教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】
【評価方法】学期末の試験の点数 (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リスニングを中心に授業を進めます。併せて総合的な英語力を身につけるよう頑張っていきましょう。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire basic English ability by practicing the listening section of TOEIC. The students are expected to improve their ability of comprehension by listening to various English sentences.

LANe100LC

英語中級ライティング

鈴木　幸

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、身近なテーマや現代の社会問題について、リーディングやディスカッションを通して見識を深め、論理的・批判的な思考を養ったうえで、理解したこと・自分の考えをライティング（エッセイ）で表現できるように、学習意識を高めていきます。

【到達目標】
Objectives to be achieved:
1. To be able to use proper words and correct grammar.
2. To be able to express personal opinions in English.
3. To improve essay writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Students will be expected:
1. To improve critical reading and thinking skills.
2. To write essays.
3. To review grammar and writing skills.
4. To rewrite essays.
5. To prepare for quiz and exam.
At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	· Guidance · Critical thinking & discussion
2	Let's write an essay! (1)	· Essay (paragraph structure) · Critical thinking & discussion
3	Rewriting (1)	· Quiz · Rewriting (1) essay · Critical thinking & discussion
4	Let's write an essay! (2)	· Essay (pros and cons) · Critical thinking & discussion
5	Rewriting (2)	· Rewriting (2) essay · Critical thinking & discussion
6	Let's write an e-mail!	· Quiz · E-mail · Critical thinking & discussion
7	Let's write an essay! (3)	· Essay (response) · Critical thinking & discussion
8	Rewriting (3)	· Rewriting (3) essay · Critical thinking & discussion
9	Let's write an essay! (4)	· Quiz · Essay (current trend) · Critical thinking & discussion
10	Rewriting (4)	· Rewriting (4) essay · Critical thinking & discussion
11	Let's make a PowerPoint!	· PowerPoint · Critical thinking & discussion
12	Let's write an essay! (5)	· Quiz · Essay (recommendation) · Critical thinking & discussion
13	Rewriting (5)	· Rewriting (5) essay · Critical thinking & discussion
14	Final Examination	· Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Review the previous class and prepare all homework assignments.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide handouts each week to the students.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Contribution to the class: 20%
Quiz: 20%
Essays: 40%
Examination: 20%
There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】
Variations in class size, students responses, etc. may lead to changes in this syllabus. All changes will be explained. Some flexibility is required.

【その他の重要事項】
Please bring a good dictionary and your laptop every week.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to enhance your ability to read critically and think logically, and to apply these skills to effective writing.

LANe100LC

英語中級ライティング

鈴木　幸

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、身近なテーマや現代の社会問題について、リーディングやディスカッションを通して見識を深め、論理的・批判的な思考を養ったうえで、理解したこと・自分の考えをライティング（エッセイ）で表現できるように、学習意識を高めていきます。

【到達目標】
Objectives to be achieved:
1. To be able to use proper words and correct grammar.
2. To be able to express personal opinions in English.
3. To improve essay writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Students will be expected:
1. To improve critical reading and thinking skills.
2. To write essays.
3. To review grammar and writing skills.
4. To rewrite essays.
5. To prepare for quiz and exam.
At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	・Guidance ・Critical thinking & discussion
2	Let's write an essay! (1)	・Essay (paragraph structure) ・Critical thinking & discussion
3	Rewriting (1)	・Quiz ・Rewriting (1) essay ・Critical thinking & discussion
4	Let's write an essay! (2)	・Essay (pros and cons) ・Critical thinking & discussion
5	Rewriting (2)	・Rewriting (2) essay ・Critical thinking & discussion
6	Let's write an e-mail!	・Quiz ・E-mail ・Critical thinking & discussion
7	Let's write an essay! (3)	・Essay (response) ・Critical thinking & discussion
8	Rewriting (3)	・Rewriting (3) essay ・Critical thinking & discussion
9	Let's write an essay! (4)	・Quiz ・Essay (current trend) ・Critical thinking & discussion
10	Rewriting (4)	・Rewriting (4) essay ・Critical thinking & discussion
11	Let's make a PowerPoint!	・PowerPoint ・Critical thinking & discussion
12	Let's write an essay! (5)	・Quiz ・Essay (recommendation) ・Critical thinking & discussion
13	Rewriting (5)	・Rewriting (5) essay ・Critical thinking & discussion
14	Final Examination	・Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Review the previous class and prepare all homework assignments.

【テキスト（教科書）】
The instructor will provide handouts each week to the students.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Contribution to the class: 20%
Quiz: 20%
Essays: 40%
Examination: 20%
There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】
Variations in class size, students responses, etc. may lead to changes in this syllabus. All changes will be explained. Some flexibility is required.

【その他の重要事項】
Please bring a good dictionary and your laptop every week.

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to enhance your ability to read critically and think logically, and to apply these skills to effective writing.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

KOPROWSKI MARK

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles of t

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.
Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction & explanation	The students will receive a self-introduction from the teacher. The students will also write a brief self-introduction.
2	Chapter 1 The Topic Sentence	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: personality words -Paragraph organization in English -The topic sentence -Simple sentences -The writing process (Part 1)
3	Chapter 2 Supporting Sentences	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: suffixes -Supporting sentences: major & minor -Using connectors -Parts of speech -The writing process (Part 2)
4	Chapter 3 The Concluding Sentence	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: family words -The concluding sentence -Transitions of conclusion -Simple & Compound sentences -The writing process (Part 3)
5	Chapter 4 Descriptive Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: describing people -Prepositions of place -Using adjectives [Write a descriptive paragraph]
6	Chapter 5 Narrative Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: simple past verbs -Transitions in narrative paragraphs -Complex sentences [Write a narrative paragraph]
7	Chapter 6 Expository Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: verbs for communicating -Transitions in expository paragraphs [Write an expository paragraph]
8	Chapter 7 Unity Chapter 8 Coherence	10-minute continuous writing Vocabulary builder: prepositions of time -Combining sentences -Avoiding fragments
9	Chapter 9 Cohesion	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: dating & marriage customs -The definite article -Personal and demonstrative pronouns
10	Chapter 10 Process	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: sports -Using the imperative [Write a process paragraph]
11	Chapter 11 Reasons and Results	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: exercise -Connectors for reason and result -Review sentence types [Write a reasons and result paragraph]
12	Chapter 12 Opinion	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: movies -Transitions for opinion paragraphs -Avoiding run-on sentences [Write an opinion paragraph]
13	Review for final writing exam	10-minute continuous writing
14	Final writing examination	60-minute final writing exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given weekly out-of-class homework assignments, which will include grammar exercises and/or writing assignments. All writing assignments must be typed. Students are also responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important that homework be completed on time. Late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】
Writing to Communicate 1
Author: Cynthia A. Boardman
(Pearson Longman, 2008 ISBN 978-0-13-614191-4)

【参考書】
An English-Japanese dictionary will be very useful.
A good online English-Japanese dictionary can be found here: http://www.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Class participation/effort 10%
Homework assignments 20%
Writing assignments (6 paragraphs) 50%
Final writing exam 20%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

KOPROWSKI MARK

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.
Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction & explanation	The students will receive a self-introduction from the teacher. The students will also write a brief self-introduction.
2	Chapter 1 The Topic Sentence	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: personality words -Paragraph organization in English -The topic sentence -Simple sentences -The writing process (Part 1)
3	Chapter 2 Supporting Sentences	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: suffixes -Supporting sentences: major & minor -Using connectors -Parts of speech -The writing process (Part 2)
4	Chapter 3 The Concluding Sentence	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: family words -The concluding sentence -Transitions of conclusion -Simple & Compound sentences -The writing process (Part 3)
5	Chapter 4 Descriptive Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: describing people -Prepositions of place -Using adjectives [Write a descriptive paragraph]
6	Chapter 5 Narrative Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: simple past verbs -Transitions in narrative paragraphs -Complex sentences [Write a narrative paragraph]
7	Chapter 6 Expository Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: verbs for communicating -Transitions in expository paragraphs [Write an expository paragraph]
8	Chapter 7 Unity Chapter 8 Coherence	10-minute continuous writing Vocabulary builder: prepositions of time -Combining sentences -Avoiding fragments
9	Chapter 9 Cohesion	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: dating & marriage customs -The definite article -Personal and demonstrative pronouns
10	Chapter 10 Process	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: sports -Using the imperative [Write a process paragraph]
11	Chapter 11 Reasons and Results	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: exercise -Connectors for reason and result -Review sentence types [Write a reasons and result paragraph]
12	Chapter 12 Opinion	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: movies -Transitions for opinion paragraphs -Avoiding run-on sentences [Write an opinion paragraph]
13	Review for final writing exam	10-minute continuous writing
14	Final writing examination	60-minute final writing exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given weekly out-of-class homework assignments, which will include grammar exercises and/or writing assignments. All writing assignments must be typed. Students are also responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important that homework be completed on time. Late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】
Writing to Communicate 1
Author: Cynthia A. Boardman
(Pearson Longman, 2008 ISBN 978-0-13-614191-4)

【参考書】
An English-Japanese dictionary will be very useful.
A good online English-Japanese dictionary can be found here:
http://www.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Class participation/effort 10%
Homework assignments 20%
Writing assignments (6 paragraphs) 50%
Final writing exam 20%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

梨本　邦直

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
パラグラフ構造を理解し、パラグラフ形式で５種類のライティングを練習し、習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各トピックに関する解説を行った後、各自がトピックを決定し、事前のライティングを行う。ペアでお互いのライティングを検討し、その中から間違いやすい事項を解説する。隔週でそれぞれのライティング形式でパラグラフを書いて提出する。フィードバックは次週の授業冒頭で触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course introduction, textbook structure
第 2 回	About the Paragraph	Write a self-introduction paragraph.
第 3 回	About the Paragraph	Evaluating and correcting self-introduction paragraphs.
第 4 回	Descriptive Paragraph	Descriptive paragraph examples, prewriting
第 5 回	Descriptive Paragraph	Organizing and writing a descriptive paragraph
第 6 回	Comparison Paragraph	Comparison paragraph examples, prewriting
第 7 回	Comparison Paragraph	Organizing and writing a comparison paragraph
第 8 回	Process Paragraph	Process paragraph examples, prewriting
第 9 回	Process Paragraph	Organizing and writing a process paragraph
第 10 回	Narrative Paragraph	Narrative paragraph examples, prewriting
第 11 回	Narrative Paragraph	Organizing and writing a narrative paragraph
第 12 回	Summary Paragraph	Summary paragraph examples, prewriting
第 13 回	Summary Paragraph	Organizing and writing a summary paragraph
第 14 回	About the Essay	Changing a Paragraph into an Essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
　テキストの練習問題は宿題とする。パラグラフ作文の提出は学習支援システムを使って行う。

【テキスト（教科書）】
Matthew A. Taylor & David E. Kluge (2012) Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay. Cengage Learning

【参考書】
適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
社会情勢の変化に伴って以下の成績評価の方法と基準を変更する場合がある。その場合授業開始日以降に学習支援システムで提示する。
作文課題： 60%
その他の提出物、授業参加姿勢： 20%
期末課題： 20%

【学生の意見等からの気づき】
剽窃検索ソフトを利用し不公平感をなくすようにする。

【その他の重要事項】
社会情勢の変化に伴い、授業計画の変更がありうる。変更がある場合、本授業の開始日以降に学習支援システムでその都度提示する。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

福澤　レベッカ

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
効果的な文章を書くために、基礎的文法の復習をする。それをもとにして、論理的構造のパラグラフを書く基本的な手法を身につけ、自分で書いた文章を発表することを目的にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では下記の３つもことを主に行う。
1) 適切な単語・語句を使って文法的に正しい文を書くために、一文レベルの基本文を学ぶ。
2) パラグラフ構造を学び、理解し、様々なスタイルのパラグラフを書く。５つのアサインメントはフィードバック付きで返却される。
3) 書いたパラグラフを適切に音読する。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス・文章の基本	文章構成と文法の基礎チェック 文法ポイント：主語を見つける
2 回	パラグラフ構成の基礎	１）手法（ブレインストーミングやプランニング、下書き、編集・校正） ２) パラグラフ構成（トピック・センテンス、サポートィング・センテンス、コンクルーディングセンテンスなど）の基礎を学ぶ。
3 回	Process パラグラフ構成	過程を説明を説明するパラグラフ 文法ポイント:be 動詞
4 回	Process パラグラフ構成	過程の説明を説明するパラグラフ 文法ポイント:be 動詞
5 回	Description パラグラフ構成	空間的配列についてのパラグラフ 文法ポイント：前置詞、
6 回	Description パラグラフ構成	空間的配列についてのパラグラフ 文法ポイント：前置詞
7 回	Illustration パラグラフ構成	例示のパラグラフ構成 文法ポイント：助動詞
8 回	Illustration パラグラフ構成	例示のパラグラフ構成 文法ポイント：助動詞
9 回	Cause and Effect パラグラフ構成	因果関係を述べるパラグラフの構成 文法ポイント：接続詞
10 回	Cause and Effect パラグラフ構成	因果関係を述べるパラグラフの構成 文法ポイント：接続詞
11 回	Comparison and Contrast パラグラフ構成	比較・対照によるパラグラフの展開 文法ポイント：比較級
12 回	Comparison and Contrast パラグラフ構成	比較・対照によるパラグラフの展開 文法ポイント：比較級
13 回	期末試験	基礎知識のまとめをする。
14 回	期末試験返却	基礎知識のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１）１０週間分の日記を書く
２）授業中に書いた草稿に対する教師のコメントに留意して、完成されたパラグラフを仕上げる。

【テキスト（教科書）】
プリントを用意する。

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（１０％）、日記（２０％）、パラグラフアサインメント１～４（５０％）最終プレゼンテーション（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
2021 年度から担当するため、学生からのコメントはありません。

【学生が準備すべき機器他】
辞書・電子辞書を毎回必ず持参して下さい。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

福澤　レベッカ

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
効果的な文章を書くために、基礎的文法の復習をする。それをもとにして、論理的構造のパラグラフを書く基本的な手法を身につけ、自分で書いた文章を発表することを目的にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では下記の３つもことを主に行う。
1) 適切な単語・語句を使って文法的に正しい文を書くために、一文レベルの基本文を学ぶ。
2) パラグラフ構造を学び、理解し、様々なスタイルのパラグラフを書く。５つのアサインメントはフィードバック付きで返却される。
3) 書いたパラグラフを適切に音読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス・文章の基本	文章構成と文法の基礎チェック 文法ポイント：主語を見つける
2 回	パラグラフ構成の基礎	１）手法（ブレインストーミングやプランニング、下書き、編集・校正） ２) パラグラフ構成（トピック・センテンス、サポートィング・センテンス、コンクルーディングセンテンスなど）の基礎を学ぶ。
3 回	Process パラグラフ構成	過程を説明を説明するパラグラフ 文法ポイント:be 動詞
4 回	Process パラグラフ構成	過程の説明を説明するパラグラフ 文法ポイント:be 動詞
5 回	Description パラグラフ構成	空間的配列についてのパラグラフ 文法ポイント：前置詞、
6 回	Description パラグラフ構成	空間的配列についてのパラグラフ 文法ポイント：前置詞
7 回	Illustration パラグラフ構成	例示のパラグラフ構成 文法ポイント：助動詞
8 回	Illustration パラグラフ構成	例示のパラグラフ構成 文法ポイント：助動詞
9 回	Cause and Effect パラグラフ構成	因果関係を述べるパラグラフの構成 文法ポイント：接続詞
10 回	Cause and Effect パラグラフ構成	因果関係を述べるパラグラフの構成 文法ポイント：接続詞
11 回	Comparison and Contrast パラグラフ構成	比較・対照によるパラグラフの展開 文法ポイント：比較級
12 回	Comparison and Contrast パラグラフ構成	比較・対照によるパラグラフの展開 文法ポイント：比較級
13 回	期末試験	基礎知識のまとめをする。
14 回	期末試験返却	基礎知識のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１）１０週間分の日記を書く
２）授業中に書いた草稿に対する教師のコメントに留意して、完成されたパラグラフを仕上げる。

【テキスト（教科書）】
プリントを用意する。

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
授業への参加（１０％）、日記（２０％）、パラグラフアサインメント１～４（５０％）最終プレゼンテーション（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
2021 年度から担当するため、学生からのコメントはありません。

【学生が準備すべき機器他】
辞書・電子辞書を毎回必ず持参して下さい。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

村上　弥生

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、正確な情報に基づいて自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
大学生は、すでにかなりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かせないことが多い。
重要な文法、表現の復習を行いながら、大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、自分の集めた情報、考えをまとめた短いエッセイを作成する力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
①ネットの学習用サイトからニュースを各自選んでもらい、口頭でわかりやすくまとめて発表してもらう。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。
②①で紹介されたニュースについてクラス全体で Brain Storming を行う。ニュースと関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に出し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身に着ける。
③①, ②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自自由にテーマを設定し、エッセイを書くと仮定して、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。
④学期前半終了時点で、③で書いた第一段落から一つ選び、必要なリサーチなどを行ってエッセイ全体を作成する。
⑤学期終了時点でも同様に別個のテーマについてエッセイを作成する。
⑥④. ⑤のエッセイについては、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1〜2 回修正、書き直しを行い完成作品とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第 2 回	学生さんによるニュースの発表 1〜3 brain storming 1〜3	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第 3 回	学生さんによるニュースの発表 4〜6 brain storming 1〜3	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 エッセイ構成の学習 効果的な段落構成の学習
第 4 回	学生さんによるニュースの発表 4〜6 brain storming 4〜6	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 5 回	学生さんによるニュースの発表 7〜9 brain storming7〜9	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 6 回	エッセイー 1 の作成	1〜9 までに関連するテーマでのエッセイの作成
第 7 回	エッセイー 1 の添削、クラスでの講評	各自作成したエッセイについての教師、クラスでの講評
第 8 回	エッセイー 1 の再作成	エッセイー 1 の再作成
第 9 回	学生さんによるニュースの発表 10〜12 brain storming10〜12	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 10 回	学生さんによるニュースの発表 13〜15 brain storming13〜15	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 11 回	学生さんによるニュースの発表 16〜18 brain storming16〜18	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 12 回	学生さんによるニュースの発表 19〜21 brain storming19〜21	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 13 回	エッセイ- 2 の作成	10〜21 までに関連するテーマでのエッセイの作成
第 14 回	エッセイ- 2 の講評、再作成	各自作成したエッセイについての教師、クラスでの講評 再作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定されたネットでニュースを選択し、内容をほかのクラスメートに伝わりやすくまとめなおし、必要な背景情報を収集する。
毎週、ないし隔週で、授業で紹介されたニュースや brain storming から着想を得てテーマを設定し、簡単なリサーチを行って第一パラグラフを作成する。教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。
学期中に二回作成するエッセイについて、より詳しいリサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み (ニュースの発表、ブレインストーミングへの貢献など)（50 %）、英文エッセーの作成の過程（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生各自が英語によって自己表現する楽しさを感じるだけにとどまらず、より正確な表現に向けて、地道な努力を継続できるように促していきたい

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

北原　久嗣

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
具体例に取り組むなか、文レベルの英語の文体（スタイル）を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式に加え、ディスカッションを行います。学生の積極的な参加を期待します。また、授業内テストを適宜行い、テキスト・配布資料に対する学生の理解度を確認します。フィードバックは、授業内、学習支援システム、メール（hisatsugu.kitahara.87@hosei.ac.jp）で行う予定です。授業形態は対面授業（状況によってはハイブリッド型、オンデマンド型）を予定しています。詳しくは授業開始時に指示しますが、毎週課題に取り組み、その総合点を成績評価の基準にします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第 3 回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第 4 回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第 5 回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第 6 回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第 7 回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第 8 回	英語はポジティブにいこう！	「否定」から「肯定」へ
第 9 回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第 10 回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第 11 回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第 12 回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第 13 回	センテンスからまとまった文章へ	英文はとにかく「結論が先」、「起承転結」から抜け出し、PREP 手法でエッセイを書いてみよう
第 14 回	理解度の確認・まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テキスト・配布資料の予習（当該授業で扱う章を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと）と復習（当該授業で扱った内容を復習し、例文を身につけ毎週の課題に取り組むこと）は不可欠です。

【テキスト（教科書）】
遠田和子・岩渕デボラ著『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800 円＋税 978-4-7700-4074-9

【参考書】
中村駿夫著『発音記号の正しい読み方』SHORYUDO 291 円＋税 978-4-399-03099-2
その他、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加と毎週の課題への取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎週の課題への取り組みを重視します。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることもあります。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe100LC

英語資格試験準備講座

柳川　浩三

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は受講生の TOEIC の点数を上げることを当面の目標としつつ、受講生の英語リスニング力の底上げを図ることです。この目的の達成のために、以下の３つにポイントをおきます。
１．TOEIC 受験方略への習熟
２．リスニング強化法への習熟
３．TOEIC 頻出語彙の強化

【到達目標】
1.TOEIC に対するテクニックを適切に使える。
２.リスニング力トレーニングを日ごろから実践する
３.TOEIC 頻出語彙を聞いて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
3 つのポイントから TOEIC の点数アップを目指します。1 テスト方略への習熟、2 リスニング力の強化のための戦略（a. 通訳トレーニング方の援用 b. 音変化の知識の習得と発音練習　c. リスニングを意識したリーディングへの習熟　d. メタ認知方略を用いたリスニングへの習熟)、3 TOEIC 特有の語彙力強化です。
また、学期途中にそれぞれの TOEIC 点数の伸長を測るため３回の模擬試験を実施します。結果は、個別に学習支援システムを用いて伝え、次週に復習します。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	TOEIC とは、 この授業のねらい
2	実力を上げるために君は 何を知っておくべきか その 1	弱く曖昧に発音する音 第 1 回リスニングテスト
3	その 2	/t/の八変化
4	その 3	リスニングと発音を一体化する
5	その 4	舌の位置を意識化する
6	リスニングとリーディングを関連づける	リスニングを意識した速読の仕方
7	君は何をするべきか	静聴～口頭練習へ
8	リスニングの実際 1	BBC World
9	リスニングの実際：映画・歌 第 2 回リスニングテスト	タイタニック Just the way you are(Blueno Mars) Wonderful world (Eric Clapton) One thing　(One Direction), Hero (Maria Carry)
10	Part1,2 をクリックする ：今の力で 100 点上げる	Part1 ：聞く前の準備 Part2 ：文頭集中と反芻 第 2 回リスニングテスト返却と振り返り
11	Part3,4 をクリックする	聞きながら解く マークシート用紙はいつ塗る 図表問題
12	Part5,6 をクリックする	形、意味、形+意味の 3 つに分ける。 アイスパンを調整する。
13	第 3 回リスニングテスト	どれだけ伸びたか測ってみる。
14	Part7 をクリックする	解き方の手順 第 3 回リスニングテスト返却

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】英語のリスニング口頭練習 (シャドーイング)。

【テキスト（教科書）】
「英語リスニング発音教本」柳川浩三著 (オリジナルテキスト　非売品)
「公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 4」（財）国際ビジネスコミュニケーション協会

【参考書】
授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
試験:60 %　計 3 回のリスニングテスト（各回 100 問）各 20%。
平常点評価 40 %:課題の提出状況と達成具合

【学生の意見等からの気づき】
日頃から、学生に英語を聞く習慣を植えつけたい。

【その他の重要事項】
3 回を超える理由なき欠席は単位不認定となります。
5 分を超える遅刻は欠席とみなします
短期間で点数 UP がしやすいリスニングに比重を置いた講座です。
学期中、音読の課題が出ます。しっかり取り組みましょう。

【Outline and objectives】
This class aims to enhance your TOEIC listening score by 100.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

川口　悠子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
・文法的に正しく、読み手に伝わりやすい文を書けるようになる。
・分かりやすく、かつ説得力のある文章構成がどのようなものか理解し、そのような文章を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では、予習を元に、ひとつひとつの文を作文するための文法・語法とパラグラフ（段落）の構造を確認します。授業で確認した文法・語法を定着させるために期末テストをおこないます。また、学期中に 3 回、まとまった長さの作文課題を課します。授業中に予習部分の理解度を確認し、作文を添削して、フィードバックとします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション/ Chapter 1 What Is a Paragraph?	授業の進め方や予習の仕方について説明する。またパラグラフの基本構造について学ぶ。
第 2 回	Chapter 6 Description of Place and Locations	場所や位置の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第 3 回	Chapter 8 Comparison and Contrast	比較について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第 4 回	Essay Writing (1)	エッセイ（1）を執筆する。
第 5 回	Essay Review (1)	エッセイ（1）を返却し、演習形式で解説する。
第 6 回	Chapter 9 Cause and Effect	物事の原因や結果について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第 7 回	Chapter 10 Problems and Solutions	問題点を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるよう練習する。
第 8 回	Essay Writing (2)	エッセイ（2）を執筆する。
第 9 回	Essay Review (2)	エッセイ（2）を返却し、演習形式で解説する。
第 10 回	Chapter 11 Your Opinion -- Agree	ある物事に対して賛成意見を述べる際の表現を学び、自分の主張をまとめた文章を書く練習をする。
第 11 回	Chapter 12 Your Opinion -- Disagree	ある物事に対して反対意見を述べる際の表現を学び、自分の主張をまとめた文章を書く練習をする。
第 12 回	Chapter 13 Data Analysis	グラフや表について述べる際によく用いられる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第 13 回	Essay Writing (3)	エッセイ（3）を執筆する。
第 14 回	期末試験／ Essay Review (3)	期末試験をおこなう。またエッセイ（3）を返却し、演習形式で解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・語学の勉強に、予習と反復練習は決定的に重要です。テキストの指示された部分をしっかりと予習してきてください。
・作文の課題は、よく辞書を引き、言葉の意味を吟味しながら書いてください。
・授業で扱った文法・語法の定着を目的として、期末試験をおこないます。準備して臨んでください。

【テキスト（教科書）】
仲谷都、吉原学、Ruth Fallon, Smart Writing: Active Approach to Paragraph Writing（『はじめてのパラグラフ・ライティング』成美堂、2017 年）

【参考書】
綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006 年）
小池直己、佐藤誠司『実践英文法 FOCUS』（南雲堂、2009 年）
ほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
エッセイ　各 20%×3 = 60%
期末試験 30%
授業参加度 10%
なお、5 回以上正当な理由なく欠席した場合は不可とします。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の皆さんが質問や発言がしやすい雰囲気を作るよう、心がけます。

【その他の重要事項】
きちんとした辞書を毎回必ず持参して下さい。また、初回の授業で予習の仕方を説明しますので、それまでに必ずテキストを入手しておいてください。
なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe300LC

英語中級コミュニケーション

北原　久嗣

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語とは何か。この問いを英語のデータを中心に様々な角度からとりあげます。関係する DVD ２本を視聴し、その英文 transcripts を読み進めていきます。視聴する DVD は下記の２本です。
Discovering the Human Language: Colorless Green Ideas
Acquiring the Human Language: Playing The Language Game

【到達目標】
言語研究が取り組む課題を通して、英語による議論の組み立て方、効果的な展開について学び、英語で専門的知識・意見の交換ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式に加え、ディスカッションを行います。学生の積極的な参加を期待します。また、授業内テストを適宜行い、テキスト・配布資料に対する学生の理解度を確認します。フィードバックは、授業内、学習支援システム、メール（hisatsugu.kitahara.87@hosei.ac.jp）で行う予定です。授業形態は対面授業（状況によってはハイブリッド型、オンデマンド型）を予定しています。詳しくは授業開始時に指示しますが、毎週課題に取り組み、その総合点を成績評価の基準にします。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	What is language?	内容把握・ディスカッション・課題
第 3 回	What do we have in our minds before we speak?	内容把握・ディスカッション・課題
第 4 回	Colorless green ideas sleep furiously.	内容把握・ディスカッション・課題
第 5 回	Universal Grammar	内容把握・ディスカッション・課題
第 6 回	Language will grow in the child's mind.	内容把握・ディスカッション・課題
第 7 回	まとめ：言語とは何か	内容把握・ディスカッション・課題
第 8 回	How do children acquire language without seeming to learn it?	内容把握・ディスカッション・課題
第 9 回	Language is essentially an organ of the mind.	内容把握・ディスカッション・課題
第 10 回	The Gavagai Problem	内容把握・ディスカッション・課題
第 11 回	Are languages utterly different from each other?	内容把握・ディスカッション・課題
第 12 回	The Human Language	内容把握・ディスカッション・課題
第 13 回	まとめ：言語の普遍性と多様性	内容把握・ディスカッション・課題
第 14 回	理解度の確認・まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキスト・配布資料の予習と復習は不可欠です。

【テキスト（教科書）】
視聴する DVD の英文 transcripts を配布します。

【参考書】
中村駿夫著『発音記号の正しい読み方』SHORYUDO 291 円＋税 978-4-399-03099-2
その他、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加と毎週の課題への取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎週の課題への取り組みを重視します。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline and objectives】
What is language? We will discuss contemporary work concerned with this question. We will watch the following two DVDs.
Discovering the Human Language: Colorless Green Ideas
Acquiring the Human Language: Playing The Language Game

LANe300LC

英語中級コミュニケーション

柳川　浩三

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Explore global issues and enjoy speaking English

【到達目標】
Objectives to be achieved.
1. Express opinions about global issues in a coherent way.
2. Discuss personal matters in English.
3. Enhance overall English proficiency

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The primary purpose of this class is to enhance your speaking skills in English. This purpose will be done using various communication tasks such as Show and tell, role plays, impromptu speeches, and public speech.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Guidance	explaining the purpose of this class
2	Ice breaking	Who is the most positive in this class?/What is good about you?/What is common between us?
3	Show and Tell	Individual presentation by using a photo/picture
4	Help me!	Making suggestions Asking for help
5	Group presentation 1	topic choice group making
6	Group presentation 2	Presentation by groups
7	Group presentation 3	Presentation by groups leading and developing the discussion
8	Human migration	reading and summarizing
9	Human migration	sharing information
10	Presumptions	retelling
11	Gender equality and roles	exchange opinions
12	Universal language of Humor	retelling speaking
13	Examination	writing
14	Another story	individual presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】You are supposed to be a responsible member of this class. You are supposed to be well prepared for giving a short speech, a presentation about a global issue by working together with your group members.

【テキスト（教科書）】
Kozo YANAGAWA and Simon Johnson (2021).
Global issues in Action: Tasks that Work 東京：三修社

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
1. Examination (45%)
2. Presentations (Group and Solo 25%)
3. Attitude by classroom observation (10%)
4. Assignment (20%)

【学生の意見等からの気づき】
Overall, the students were very positive about this class, but I will try to make an every effort to tailor the content and procedures to meet the needs or interests of all students.

【その他の重要事項】
The more mistakes you make in speaking English, the better your English should be.
Being late for the class (over 5 minutes) is considered as absence.

【Outline and objectives】
To succeed in this course, you must get out of your chair and actively discuss global issues with partners, in small groups, and with the whole class. You will be asked to improvise, role play, hold debates, give presentations, and engage in other forms of structured discussion in English. The tasks in this course are designed to deepen your learning by nudging you out of your comfort zone. When you complete this course, you will have gained knowledge about the world, practical skills in using the English language, and experience in speaking out. The global issues of focus (poverty, nuclear threats, environmental issues, violations of human rights, and inequality) are selected to broaden your perspective by drawing your attention to different parts of the world.

LANe300LC

英語中級コミュニケーション

北原　久嗣

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語とは何か。この問いを英語のデータを中心に様々な角度からとりあげます。関係する DVD ２本を視聴し、その英文 transcripts を読み進めていきます。視聴する DVD は下記の２本です。
Discovering the Human Language: Colorless Green Ideas
Acquiring the Human Language: Playing The Language Game

【到達目標】
言語研究が取り組む課題を通して、英語による議論の組み立て方、効果的な展開について学び、英語で専門的知識・意見の交換ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式に加え、ディスカッションを行います。学生の積極的な参加を期待します。また、授業内テストを適宜行い、テキスト・配布資料に対する学生の理解度を確認します。フィードバックは、授業内、学習支援システム、メール（hisatsugu.kitahara.87@hosei.ac.jp）で行う予定です。授業形態は対面授業（状況によってはハイブリッド型、オンデマンド型）を予定しています。詳しくは授業開始時に指示しますが、毎週課題に取り組み、その総合点を成績評価の基準にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	What is language?	内容把握・ディスカッション・課題
第 3 回	What do we have in our minds before we speak?	内容把握・ディスカッション・課題
第 4 回	Colorless green ideas sleep furiously.	内容把握・ディスカッション・課題
第 5 回	Universal Grammar	内容把握・ディスカッション・課題
第 6 回	Language will grow in the child's mind.	内容把握・ディスカッション・課題
第 7 回	まとめ：言語とは何か	内容把握・ディスカッション・課題
第 8 回	How do children acquire language without seeming to learn it?	内容把握・ディスカッション・課題
第 9 回	Language is essentially an organ of the mind.	内容把握・ディスカッション・課題
第 10 回	The Gavagai Problem	内容把握・ディスカッション・課題
第 11 回	Are languages utterly different from each other?	内容把握・ディスカッション・課題
第 12 回	The Human Language	内容把握・ディスカッション・課題
第 13 回	まとめ：言語の普遍性と多様性	内容把握・ディスカッション・課題
第 14 回	理解度の確認・まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキスト・配布資料の予習と復習は不可欠です。

【テキスト（教科書）】
視聴する DVD の英文 transcripts を配布します。

【参考書】
中村駿夫著『発音記号の正しい読み方』SHORYUDO 291 円＋税 978-4-399-03099-2
その他、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加と毎週の課題への取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎週の課題への取り組みを重視します。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline and objectives】
What is language? We will discuss contemporary work concerned with this question. We will watch the following two DVDs.
Discovering the Human Language: Colorless Green Ideas
Acquiring the Human Language: Playing The Language Game

LANe300LC

英語中級リーディング

村上　弥生

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、英語での情報を身近に利用できるように英語力を向上させることである。また、グローバル化した世界の一員として、英語の資料に触れることを通じて、現代世界の直面する問題について知見を深めることも目的とする。

【到達目標】
グローバルな教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身に着ける。異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、国際人としての視野を広げる。
またリスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く設けることによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。
高度な英文の読み物については、精読、正確な和訳の作業を通して、文構造や表現、単語の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1．読み物については、
現代の社会、世界における重要なテーマを 1〜2 選び、関連する資料を、学生さんの予習を前提として、丁寧に読む。また、その過程で必要な情報や背景のリサーチを行ってもらったり、また教師からも随時行う。
2．テーマに関連する視聴覚材料をネットでのを聞き、内容確認等を行う
3．各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テスト、ないし訳の再作成や短い意見文の作成を行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など
第 2 回	トピック 1 ：（社会や時代の変化に添って新たに選びなおすが、以下は昨年度の例である）Robots Are Hiring:採用現場における 4 〜 6 AI〈人口知能〉活用の現状-1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 3 回	Robots Are Hiring:採用現場における AI 活用の現状-2 関連するリスニング教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 4 回	Robots Are Hiring:採用現場における AI 活用の現状-3 関連するリスニング教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 5 回	Robots Are Hiring:採用現場における AI 活用の現状- 4	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 6 回	トピック 1 の復習	質問と説明
第 7 回	Don’t Be Evil: A Tale of Google, China and Atrocities: 巨大 IT 企業による情報の独占 − 1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 8 回	Don’t Be Evil: A Tale of Google, China and Atrocities: 巨大 IT 企業による情報の独占 − 2 関連するリスニング教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 9 回	Don’t Be Evil: A Tale of Google, China and Atrocities: 巨大 IT 企業による情報の独占 − 3 関連するリスニング教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 10 回	トピック 2 の復習	質問と説明
第 11 回	トピック- 3 ： Plamdemic’s Virus conspiracy Theoru Video Highlights Challenges for Big Tech:コロナ陰謀説のネットの席巻 − 1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 12 回	トピック- 3 ： Plamdemic’s Virus conspiracy Theoru Video Highlights Challenges for Big Teck − 2	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認。
第 13 回	トピック- 3 ： Plamdemic’s Virus conspiracy Theoru Video Highlights Challenges for Big Teck − 3	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 14 回	トピック- 3 の復習	質問と説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
1. 読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。
2．読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
3．各トピックごとに復習テスト、もしくは訳の修正および短い意見文を作成する。

【テキスト（教科書）】
初回に指示する。また随時教師が提供する。

【参考書】
参考書はとくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】
予習としての和訳、リサーチ 50 %、授業での作文などへの積極的取組 20 %、復習テストもしくは和訳の修正 30 %。

【学生の意見等からの気づき】
現代の世界の様々な側面を広く知ることに意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう努力したい。

【Outline and objectives】
This course aims at getting students to gain English competence required of active global citizens who can access and understand accurately information conveyed in English. The other objective of this course is to enhance awareness and perspectives of contemporary global issues through reading and listening to English materials.

LANe300LC

英語中級リーディング

村上　弥生

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、英語での情報を身近に利用できるように英語力を向上させることである。また、グローバル化した世界の一員として、英語の資料に触れることを通じて、現代世界の直面する問題について知見を深めることも目的とする。

【到達目標】
グローバルな教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身に着ける。異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、国際人としての視野を広げる。
またリスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く設けることによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。
高度な英文の読み物については、精読、正確な和訳の作業を通して、文構造や表現、単語の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1. 読み物については、
現代の社会、世界における重要なテーマを 1〜2 選び、関連する資料を、学生さんの予習を前提として、丁寧に読む。また、その過程で必要な情報や背景のリサーチを行ってもらったり、また教師からも随時行う。
2. テーマに関連する視聴覚材料をネットでのを聞き、内容確認等を行う
3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テスト、ないし訳の再作成や短い意見文の作成を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など
第 2 回	トピック 1 ：（社会や時代の変化に添って新たに選びなおすが、以下は昨年度の例である）Tesla Speeds Past　Toyota to Become World's Top Automaker by Value ：電気自動車への高まる期待と恣意的な株式市場 − 1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 3 回	トピック 1 ： Tesla Speeds Past　Toyota to Become World's Top Automaker by Value − 2 関連するリスニング教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 4 回	トピック 2 ： Why We Are Heading for a Climate Catastrophe:気候変動と脱炭素化-1 関連する視聴覚教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 5 回	トピック 2:Why We Are Heading for a Climate Catastrophe:気候変動と脱炭素化-2	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 6 回	トピック 3:The Law that could Make climate Change Illegal:気候変動に拘束力を持って挑むデンマークの新法 - 1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 7 回	トピック 3:The Law that could Make climate Change Illegal − 2	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 8 回	トピック 1〜3 の復習	質問と説明
第 9 回	トピック 3 ： Reversible Batteries of Electric Cars:自動車を送電網に組み込むポルトガルの地方自治体の挑戦 関連する視聴覚教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 10 回	トピック 5:At Airbus a Hydrogen-powered Aircraft takes shape:航空業界の脱炭素化の挑戦 — 1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 11 回	トピック 5:At Airbus a Hydrogen-powered Aircraft takes shape − 2 関連する視聴覚教材	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 12 回	トピック 6:Hydrogen Hype? Aviation's False Promise?-1:水素燃料への移行を阻む重い現実 − 1	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認。
第 13 回	トピック 6:Hydrogen Hype? Aviation's False Promise? − 2	背景説明 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 14 回	トピック 4〜6 の復習	質問と説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
1. 読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。
2．読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
3．各トピックごとに復習テスト、もしくは訳の修正および短い意見文を作成する。

【テキスト（教科書）】
初回に指示する。また随時教師が提供する。

【参考書】
参考書はとくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】
予習としての和訳、リサーチ 50 %、授業での作文などへの積極的取組 20 %、復習テストもしくは和訳の修正 30 %。

【学生の意見等からの気づき】
現代の世界の様々な側面を広く知ることに意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう努力したい。

【Outline and objectives】
This course aims at getting students to gain English competence required of active global citizens who can access and understand accurately information conveyed in English. The other objective of this course is to enhance awareness and perspectives of contemporary global issues through reading and listening to English materials.

LANe300LC

英語中級リーディング

福澤　レベッカ

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は英語でニュース記事、アカデミックな研究論文等を読むために必要な技術を身に着ける。これには一般的な読解能力をつけるための多読的アプローチと、単語力をつけ文法的形式の知識を伸ばす精読的アプローチの両方が含まれている。多読による学習と精読による学習を組み合わせ、テキストとして社会科学、科学、科学技術関連のトピックを選定するのが本コースの特徴である。さらに、リスニング、スピーキング、ライティング演習を含める。

【到達目標】
本授業は、実社会で英語を有効に使用し、仕事をする際に必要となる英語の読解力を養成することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Class time will be spent in intensive reading and analysis of news academic texts selected by students. A variety of activities, including warm up speaking activities, listening exercises, shadowing, timed reading, discussion, pair work and small group activities will be included. Feedback will be provided in class and on Hoppii each week through review of homework, weekly quizzes and return of the final exam. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction and Guidance	ガイダンス（多読と図書館利用の説明、精読のための様々なリーディング方法の紹介）
2	Student selection of articles for course	精読のためのニュース記事、アカデミックな研究論文検索
3	Environmental Issue Reading	多読の練習、精読：導入演習、語彙の紹介, 様々なリーディング方法、理解力を試す質問
4	Environmental Issue Reading	多読の練習、精読：導入演習、語彙の紹介, 様々なリーディング方法、理解力を試す質問
5	Animal Behavior Reading	多読の練習、精読：導入演習、語彙の紹介, 様々なリーディング方法、理解力を試す質問
6	Space and Astronomy Reading	多読の練習、精読：導入演習、語彙の紹介, 様々なリーディング方法、理解力を試す質問
7	Space & Astronomy Reading	多読の練習、精読：導入演習、語彙の紹介, 様々なリーディング方法、理解力を試す質問
8	Space and Astronomy Reading	多読の練習、精読：導入演習、語彙の紹介, 様々なリーディング方法、理解力を試す質問
9	Brain Science Reading	多読の練習、精読：導入演習、語彙の紹介, 様々なリーディング方法、理解力を試す質問
10	Technology/Computer Science Reading	多読の練習、精読：導入演習、語彙の紹介, 様々なリーディング方法、理解力を試す質問
11	Technology/Computer Science Reading	多読の練習、精読：導入演習、語彙の紹介, 様々なリーディング方法、理解力を試す質問
12	Technology/Computer Science Reading	多読の練習、精読：導入演習、語彙の紹介, 様々なリーディング方法、理解力を試す質問
13	Review and confirmation of reading skills	期末試験：基礎知識のまとめをする。
14	Review and confirmation of reading skills	期末試験返却：基礎知識のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】毎週授業外で、多読を行い、語彙の小テストの準備、授業内でのテキストを分析する課題が不可欠です。

【テキスト（教科書）】
教員がプリントを配布する。

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
平常点・クイズ 50%, 多読の記録 10%, 期末試験 40%.

【学生の意見等からの気づき】
文法の説明を少なくする。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【その他の重要事項】
授業が始まる前に図書館から借りるか e-ブックをダウンロードすること。授業外で毎週読むこと。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is for students to become competent and confident in reading news articles and academic texts. First, the class will review basic vocabulary, grammar, and sentence structure analysis skills while reading for main ideas and key vocabulary. Second, students will learn how to use paragraph structure to decipher meaning. Third, students do extensive reading with books or articles of their choice to develop speed and fluency.

LANe300LC

英語中級ライティング

L　アイヴアニック

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a lower intermediate level required Writing course in English. Students will be writing a variety of paragraphs on practical subjects from everyday life.

【到達目標】
The goal is for students to learn how to write a good paragraph communicating their ideas in a well-organized and effective manner in English. They will write two drafts of each paper. The first will be peer- and instructor-edited in class on a one-on-one basis.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
PLEASE READ EVERYTHING THAT FOLLOWS.The format of the class will be a workshop. Students will do their writing mostly as homework. In class, they will be helped personally by their classmates and teacher to edit and improve their writing. NEW INFORMATION! If the coronavirus emergency makes it necessary, this class will be conducted online via Zoom and students will submit papers via the Learning Management System (LMS). Changes from the original syllabus for each class session will be posted on the Hoppii page for this course before each class session. Check the course's Hoppii page every week. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Introduction; expository paragraph	Describing a place in one paragraph (Assignment 1)
2	Assignment 1 continued	Edit and improve your First Assignment
3	Describing your ideal partner (Assignment 2)	Using connecting and transition words to write about a person
4	Assignment 2 continued	Edit and improve your Second Assignment; including reasons
5	Assignment 2 continued	Final Edit of Second Assignment
6	Describing a more complex topic (Assignment 3)	Find a photo that is important to you: describe and analyze it.
7	Assignment 3 continued	Edit and improve your Third Assignment. Writing good concluding sentences
8	Writing about plans (Assignment 4)	Describing your ideal party
9	Assignment 4 continued	Edit and improve your Fourth Assignment; presenting reasons and results together
10	A thank-you note or email (Assignment 5)	Write a thank-you note using time expressions
11	Assignment 5 continued	Edit and improve your Fifth Assignment
12	Assignment 5 completed	Exercises in Unit 10
13	Writing about something imaginary(Assignment 6)	Using the 2nd conditional forms to write about something unreal
14	Assignment 6 completed	Final edit of Sixth Assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】We will start by learning about how English-speakers construct paragraphs and writing about simple topics. As the course continues, students will tackle more sophisticated topics and add more details.

【テキスト（教科書）】
Kelly, Curtis and Arlen Gargagliano, Writing from Within 1, 2nd ed. (Cambridge University Press, 2011, ISBN 978-0-521-18827-2)

【参考書】
Students should have a good English-English university level dictionary. There are many good ones on the market. If students have a good dictionary on their smartphones, those are fine.

【成績評価の方法と基準】
A total of 200 points can be earned in the course. The grades of S, A+, A, etc. will be determined based on that 200-point scale. Each of the six papers students hand in can earn a maximum of 20 points, for a total of 120 points. That's 60% of the total. Students can earn a maximum of 80 points throughout the term from other homework exercises in the textbook and group work in class. That's 40% of the total. Papers: 120 points maximum; HW and group work: 80 points maximum. 200 points total.NEW INFORMATION! 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。If classes are again conducted online, the grading policy for this class will be modified. More specific information will be posted on the learning management system. In principle, the guidelines above will be followed, but there may be fewer papers to submit.

【学生の意見等からの気づき】
No change. The goals of the course as stated above have been achieved by previous classes.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring their textbook and lined A4 size paper. They may type their assignments or write them carefully and legibly by hand at home.

【その他の重要事項】
Students must keep _all_ their papers throughout the term and bring them to class each week. There will be no final exam, but students must turn in their papers regularly. Unexcused late papers will lose points for each week they are late. The last paper is due on the last day of regular class. If a student has an emergency that prevents him/her from turning in the paper, he/she should report it to the office immediately. The office, teacher and student will work out a solution.

【Outline and objectives】
This is a lower intermediate level required Writing course in English. Students will be writing a variety of paragraphs on practical subjects from everyday life.

LANe300LC

英語中級ライティング

KOPROWSKI MARK

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This intermediate-level writing course will offer a step-by-step approach for the successful development of English composition skills.

【到達目標】
The goals of this writing class are to develop composition skills through the integration of reading and writing activities. Students will learn to write a variety of multi-paragraph composition types on a number of familiar everyday topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
In the classroom and at home, students will work on exercises and improve succeeding drafts of their composition assignments. Students will also maintain a vocabulary notebook which they may use during the final composition exam. Pair work will be emphasized.
Written feedback will be given on each composition assignment, assessing important features such content, organization, transitions, language use, spelling, punctuation, and presentation. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction & explanation	The students will receive a self-introduction from the teacher. The students will also write a brief self-introduction.
2	Describing Daily Routines	10-minute continuous writing Reading: Bruno's Daily Activities Grammar: Simple Present Tense; Frequency Words; Present Continuous Tense
3	Describing Daily Routines	10-minute continuous writing Reading: Maria's Day Grammar: Simple Present Tense; Frequency Words; Present Continuous Tense Start composition #1 (narration): Write about your daily activities and what you are doing and thinking right now
4	Describing a Friend	10-minute continuous writing Check vocabulary notebook Vocabulary quiz #1 Reading: My Friend, Roberto Grammar: Be/Predicate Adjectives; Be going to; Will; Cohesion; Punctuation
5	Describing a Friend	10-minute continuous writing Reading: My Girlfriend, Maria Grammar: Be/Predicate Adjectives; Be going to; Will; Cohesion; Punctuation Start composition #2 (description): Describe a friend, classmate, or family member
6	Giving Instructions/Directions	10-minute continuous writing Reading: A Party Grammar: Imperatives; Modals Vocabulary quiz #2
7	Giving Instructions/Directions	10-minute continuous writing Reading: Bruno's Cheese Pie Start composition #3 (process description): Tell someone how to do or make something
8	Making a Written Request	10-minute continuous writing Check vocabulary notebook Vocabulary quiz #3 Reading: A Business Letter Grammar: Indirect Requests with would + like to; Direct Requests
9	Making a Written Request	10-minute continuous writing Reading: A Business Letter #2 Start composition #4 (business letter): Write a business letter to a company or an institution
10	Describing Past Events	10-minute continuous writing Reading: A Terrible Trip
11	Describing Past Events	10-minute continuous writing Check vocabulary notebook Reading: A Memorable Trip Grammar: Simple Past Tense; Past Continuous Tense; Predicate Infinitives Start composition #5 (narration): Write about a trip
12	Review for final composition exam	10-minute continuous writing Vocabulary quiz #5
13	Final composition exam (60 minutes)	Review
14	Return final composition exams	Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be given weekly out-of-class homework assignments, which will comprise of grammar exercises and/or writing assignments. All composition assignments must be typed. Students are responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important that homework be completed on time. Late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】
No textbook is required. The instructor will provide all materials.

【参考書】
Composition Practice Book 2 (Third Edition) by Linda Lonon Blanton (Published by Thomson)
An English-Japanese dictionary will be useful.
A good online English-Japanese dictionary can be found here: http://www.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Class participation/effort: 20%
Homework assignments: 10%
Vocabulary notebook/word cards: 10%
Vocabulary quizzes: 10%
Compositions: 30%
Final composition exam: 20%

【学生の意見等からの気づき】
None.

【Outline and objectives】
This intermediate-level writing course will offer a step-by-step approach for the successful development of English composition skills.

LANe300LC

英語中級ライティング

バリー　ヘイタ

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Completing practical writing tasks utilizing models of such in order to learn how to organize information most effectively, optimally construct informative paragraphs, and better compose texts according to standard typographical conventions.

【到達目標】
Increased general and technical English writing ability and greater understanding of coherence and development in paragraphs through actual practice in composing drafts as well as rewriting for grammatical correctness and conventions of composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の方法などについては、学習支援システムで提示する．
課題へのフィードバックも学習支援システムで行う．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
First	Paragraph Types	topic, theme, definition, description, directions
Second	Paragraph Types	topic, theme, definition, description, directions
Third	Paragraph Types	topic, theme, definition, description, directions
Forth	Instructions	order, cohesion, caution, and comprehensiveness
Fifth	Instructions	order, cohesion, caution, and comprehensiveness
Sixth	Expositions	classification, constituents, content, and convenience
Seventh	Expositions	classification, constituents, content, and convenience
Eighth	Processes	events, connections, causes, consequences, and conditions
Ninth	Processes	events, connections, causes, consequences, and conditions
Tenth	Listing Features	main/minor points, precedents, and conformity
Eleventh	Listing Features	main/minor points, precedents, and conformity
Twelfth	Interpreting Graphs	comparison, contrast, change, continuity, and conversion
Thirteenth	Interpreting Graphs	comparison, contrast, change, continuity, and conversion
Forteenth	Interpreting Graphs	comparison, contrast, change, continuity, and conversion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Initial sentence reordering and final drafts are to be conducted as individual assignments beside composition tasks not completed within the allotted class time

【テキスト（教科書）】
All practical materials will be provided by the instructor

【参考書】
Any Japanese-English dictionary containing sections on word usages and writing purposes

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する．

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Paper, eraser, blackboard. and chalk

【その他の重要事項】
Regular, alert, and prepared attendance is indispensable for maximum benefit from and optimal contribution to the class

【Outline and objectives】
i)To increase general English writing skills.ii)To improve understanding of both typography and content as equally essential elements of composition.iii)To practice the acquisition and ordering of information as preparation for correctly constructing a standard paragraph.iv)To realize the need for editing and rewriting to complete a finished piece of work.

LANe300LC

英語中級ライティング

福澤　レベッカ

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、論理的構造を基礎にパラグラフを書く基本的な手法を身につけ、自分で書いた文章を発表することを目的にする。それをもとにして、パラグラフを繋げて、エッセイを書き、アカデミック論文と発表方法の基礎も学ぶ。

【到達目標】
1) 適切な単語・語句を使って文法的に正しい文を書くために、一文レベルの基本文を学ぶ。
2) パラグラフ構造を学び、理解し、様々なスタイルのパラグラフを書く。５つのアサインメントはフィードバック付きで返却される。
3) パラグラフ構成を基にして、エッセイとアカデミック論文を作成する。
4) 書いたエッセイを音読する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
目標を達成するために、授業中実施することは主に次の３つである。
・一文レベルの基本文法を確認する。
・パラグラフ・ライティングの構成や展開法を復習する。
・パラグラフ・ライティングを実践する。
提出された 5 つのライーティングアサインメントについては採点のうえ、返却されます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス パラグラプ構成の基礎	1）パラグラフの書き方の手法（ブレインストーミングと計画、下書き、編集・校正）を復習する。　2) パラグラフ構成の基礎学ぶ。3) パラグラフの書式を復習する。
2	Description: 記述式パラグラフ構造	記述式パラグラフの基礎を学び、自分のトッピクについてパラグラを書く。文法ポイント：現在進行形、形容詞が含まれている文章を繋ぐ。
3	Description: 記述式パラグラフ編集と校正	文章レベルのチェック。自分とクラスメートがパラグラフ構造で書いた文章を、ガイドラインに沿って編集する。文法ポイント：文章の基礎文法復習
4	Time, Space and Process: 時間・空間・過程パラグラフ構造	空間的配列・時間的配列・または過程を説明するパラグラフを書く。文法ポイント：前置詞
5	Time, Space and Process: 時間・空間・過程パラグラフの編集と校正	文章レベルのチェク。自分とクラスメートがパラグラフ構造で書いた文章をガイドラインに沿って編集する。
6	Illustration/Support: 例示のパラグラフ構造	例示のパラグラフ構造を学ぶ。文法ポイント：時制
7	Illustration/Support: 例示のパラグラフ編集と校正	文章レベルのチェック。自分とクラスメートがパラグラフ構造で書いた文章をガイドラインに沿って編集する。
8	Cause and Effect ：因果関係 パラグラフ構成	原因と結果を論理的に結び付けて因果関係型のパラグラフ構造を学ぶ。文法ポイント：従位接続詞
9	Cause and Effect: 因果関係 パラグラフ構成の編集と校正	文章のレベルのチェック。　自分とクラスメートがパラグラフ構造で書いた文章を、ガイドラインに沿って編集する。
10	Paragraph to Essay Writing & Research Strategies. パラグラフからエッセイに・　リサーチストラテジー	パラグラフをエッセイに繋げて構成していく方法を学ぶ。図書館のオンラインデータベースとインターネットを利用して、自分のトピックについて情報収集をする。
11	Comparison & Contrast ：比較・対照 パラグラフ構造	比較・対照によるパラグラフの展開、文法ポイント：比較級・最上級
12	Comparison & Contrast ：比較・最上 パラグラフ構造の編集と校正	文章レベルのチェック　自分とクラスメートがパラグラフ構造で書いた文章を、ガイドラインに沿って編集する。
13	発表方法の基礎：効果的な発表とは何か.	効果的な発表の論文構造・パワーポイント作りと話し方の基礎を学ぶ。
14	パワーポイントで発表	書いたエッセイを音読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
特に
・自分のトッピクについて情報収集をする。
・授業で書いたパラグラフを書き終えて校正する。
・プレゼンの準備と練習をする。
・毎週の日記を書く。

【テキスト（教科書）】
プリント

【参考書】
辞書

【成績評価の方法と基準】
平常点/クイズ（30 %）、ライティングアサインメント１～４（50 %）、最終のエッセイと発表（20%）

【学生の意見等からの気づき】
ダイアリアサインメントを少なくする。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン持参

【その他の重要事項】
1/3 欠席した者は単位取得不可となる可能性がある。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to master logical paragraph writing structure and be able to present one's writing as a polished presentation. Students will write a number of different types of paragraphs. For the final assignment they will write and present an essay based on their own research.

LAN f 300LC

フランス語中級リーディング

元木　淳子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語読解力の養成

【到達目標】
フランス語検定資格取得、留学などを目標に、フランス語読解能力の向上を図る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
フランス語検定試験問題などにあたって、文法のポイントを押さえる。
インターネットのフランス語サイトの記事、新聞、シャンソン、映画のシナリオ、文学作品などで、さまざまなフランス語の表現に触れ、長文の読解にあたる。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーについて講評し、全体に対してフィードバックを行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介 慣用句、熟語表現	慣用句や熟語表現に注意を払って、文を読む。
第 2 回	動詞の法	動詞の法を見きわめながら、文を読む。
第 3 回	代名詞	代名詞の指し示すものを明確にしながら、文を読む。
第 4 回	前置詞	動詞と前置詞の結びつきに注意をはらいながら、文を読む。
第 5 回	冠詞と名詞	冠詞と名詞の使われ方に注意を払いながら、文を読む。
第 6 回	動詞の時制	動詞の時制に注意して、文を読む。
第 7 回	対話文の読解	対話文を読んで、話の流れをつかむ。
第 8 回	長文読解	代名詞や、動詞の法と時制に注意して、長文を読解する。
第 9 回	仏文和訳	さまざまなフランス語表現を翻訳してみる。
第 10 回	映画のシナリオ	会話体の訳を工夫する
第 11 回	インターネットでフランス語	フランス語サイトの記事を訳す。
第 12 回	歴史	フランス・フランス語圏についての観光ガイドブックで歴史を学ぶ
第 13 回	文学テクスト	フランス語表現の文学作品を読む
第 14 回	総復習	さまざまな種類の長文読解と訳出を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とします。】
授業で学んだことの定着を図るため、適宜課題を課します。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
授業中に適宜指示します

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
シャンソンや、フランス語圏についての映像に触れる機会をできるだけ多くもうけます

【Outline and objectives】
The purpose of this class is for students to develop reading skills in French.

LAN ｆ 300LC

フランス語中級ライティング

佐藤　正和

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語作文力の養成と仏検 3 級の受験対策

【到達目標】
フランス語検定資格習得、留学などを目標にして、フランス語で書き、自己表現する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
フランス語検定試験問題に当たって、文法のポイントを押さえながら、
フランス語で書き、自己表現する練習を重ねる。
インターネットでメールを送ったり、日本についての紹介記事を書いてみる。
そしてそれらの添削を行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。
詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介 慣用表現・熟語	慣用句や熟語を用いて、仏作する
第 2 回	動詞の形１：動詞の法	自分の習慣についてフランス語で紹介する。 丁寧に依頼する文を書く。
第 3 回	代名詞	日本語との違いに注意しながら、代名詞を用いたフランス語文を構成する。
第 4 回	前置詞	前置詞と名詞、動詞の結びつきに注意して、仏作する。
第 5 回	冠詞と名詞	冠詞と名詞の用い方や結びつきに注意して、仏作する。
第 6 回	動詞の形２:過去の表現	過去時制を用いて、日記を書く。
第 7 回	動詞の形３:未来の表現	未来時制を用いて、将来の計画を語る。
第 8 回	疑問文	級友にフランス語で手紙を書き、質問する。
第 9 回	自己紹介する	できるだけ詳しく、フランス語で自己紹介をする。
第 10 回	映画の感想	フランスの映画について、感想や意見を述べる。
第 11 回	メールを書く	フランス語で友人とメールのやりとりをする
第 12 回	注文する	フランス語で注文書を作成する
第 13 回	日本について解説する	フランス語話者に、日本の歴史、社会、文化などをフランス語で解説する。
第 14 回	詩を書く	フランス語で詩やシャンソンを書いてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で学んだ事柄の定着を計るため、適宜課題を課します。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度５０％、仏語検定２０％、期末試験３０％として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り、シャンソンや映像資料に触れる機会を設けます。

【Outline and objectives】
The improvement of the composition of French

LAN f 300LC

フランス語中級コミュニケーションと文化

荻野　イザベル

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語は、フランスを含めたヨーロッパ、そしてアフリカ諸国でも使用される言語である。
フランス語を学びながら、世界へのイメージを広げていきましょう！

【到達目標】
フランス語の会話に親しむための授業です。
勉強しながら、フランス人の生活、料理、文化、社会、歴史などに触れることになります。
楽しみながら進歩しましょう！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ビデオ教材にそって、フランスのさまざまな文化と生活を紹介します。
日常生活で便利な表現を身につける練習をやります。
個人および複数での発話の機会を作りながら進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	自己紹介	parler de soi
2	会話に彩りを	des goûts et des couleurs ...
3	フランス地方	régions de France
4	行先を決める	choisir une destination
5	趣味について	vos loisirs préférés
6	フランスの海外県、海外領	la France d'Outremer
7	四季	les quatre saisons
8	酒盛りの歌	chanson à boire: Chevaliers de la Table ronde
9	どうしたの？	J'ai un problème ...
10	お菓子とケーキ	Qu'est-ce que vous prenez comme dessert?
11	美食	la gastronomie
12	フランスの祭り	le calendrier des Fêtes
13	電話で	au téléphone: allô?
14	お正月	le Nouvel An

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】簡単な予習と復習を出します

【テキスト（教科書）】
音声ペンで学ぶフランス語入門　パリの街角で
A Paris ... avec un stylo magique
Fumitaka Ogino / Isabelle Ogino
両風堂、2015 年　　２８００￥

【参考書】
地球の歩き方フランス　ダイヤモンド・ビッグ社

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加と平常点。
厳しい学ぶ環境ですので、総合的に判断します。
フランスとフランス語への関心を深めてください。

【学生の意見等からの気づき】
HOPPII に自然なフランス語の発音に馴染めるように新しい「教材」の URL をアップしました。
例えば、次のうたがあります:
＊　À La Volonté Du Peuple － Les Misérables より https://m.youtube.com/watch?v=_G95vcrzAGk

【Outline and objectives】
This course is designed for improving your general communication skills in French.
The level will be adjusted according to students'needs.
As a world language, French will give you access to a multiplicity of cultures. Let's open a window into the French-speaking world!

LANe100LC

上級英語

ALDER　mark

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class will be divided into two sections: 1) story telling and daily conversation.

【到達目標】
The first half of this class aims to develop the students awareness of how to enhance and extend conversations.The second focusses on longer story telling techniques.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This class will be student centred, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and explaining reasons (support) for opinions. Feedback will be provided to the class through (light)debate and discussion, as a class. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Techniques for handling introductios and increasing interest levels
2	Attitudes	Students will discuss memories, likes and dislikes
3	Money	Talking about lifestyle choices
4	Health	Questioning advice
5	Dating	How to meet and what to talk about
6	Bullying/harrassment	DVD listening and storytelling
7	Crime	Discussions of punishments
8	Consolidation of previous vocabulary lists	Increase daily vocabulary usage
9	Violence	making excuses
10	DVD- the strange and unusual	Group writing summary
11	Economics	Starting a business
12	Happiness	Compliments and complaints
13	Globalization	Giving a guided tour
14	Final storytelling	Consolidation of vocabulary and question periods

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Some creative writing tasks will be assigned as well as some vocabulary consolidation.

【テキスト（教科書）】
Communication Strategies 2
David Paul
Cengage publishing
ISBN:978-981-4232-62-3

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
midterm assessment 30%
Final asssessment 30%
Weekly assignments and homework 40%

【学生の意見等からの気づき】
Writing and power point will be omitted.

【学生が準備すべき機器他】
Electronic dictionary
notebook

【Outline and objectives】
In the first half of this class the core will be pair work and small group conversation, with emphasis on enhanced conversation techniques. The second half will enhance students storytelling abilities.

LANs100LC

上級スペイン語

日高　憲三

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は４億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】
スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが...。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて○○国に行ってみたい、○○をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。
尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。５級、６級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
このクラスはスペイン語科目を履修した人が対象です。昨年度はオンライン授業でしたので、今年度の対面授業では教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを復習しながら、新たな気持ちでゆっくり学んでいく予定です。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第１回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力再発見！	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第２回	教科書第１課	アファベット、母音、子音
第３回	教科書第１課	音節の分け方、アクセントのルール
第４回	教科書第２課	名詞の性、名詞の数
第５回	教科書第２課	冠詞、形容詞
第６回	教科書第３課	主格人称代名詞、ser 動詞
第７回	教科書第３課	文の構造、指示語
第８回	教科書第４課	estar 動詞、所有形容詞
第９回	教科書第４課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第 10 回	教科書第５課	直説法現在形・規則動詞
第 11 回	教科書第５課	直説法現在形・規則動詞
第 12 回	教科書第６課	現在形不規則動詞１
第 13 回	教科書第６課	直接目的格人称代名詞
第 14 回	教科書第７課	現在形不規則動詞２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
昨年度のオンライン授業では NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用し、これまでにない大きな学習効果がありました。今年は対面授業を行いつつも、NHK の「旅するためのスペイン語」も教材として利用したいと思います。当スペイン語クラスの受講を希望する人は、４月の第１回目の放送（４月７日、午前０時）から視聴するように準備してください（可能であれば３月の前年度の番組から視聴するのもおすすめです）。

【テキスト（教科書）】
「エスピギータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（２０１７年）２３００円

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験１００％

【学生の意見等からの気づき】
昨年度のオンライン授業では NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用しつつ、独自の課題を出して調べ学習をしてもらいました。これまでの対面授業の時よりも積極的に、また主体的にスペイン語に取り組むケースが多く見受けられ、私自身びっくりしました。「英語は苦手で好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることで自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思います。

【Outline and objectives】
This is a Basic Spanish class for Global education.
Spanish is used widely in Latin America and English in not a common language.Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANd100LC

上級ドイツ語

高橋　完治

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実践的な言語使用の観点に立ってドイツ語の文法全般に対する理解を深め，さまざまな表現を学んで，多くの身近な場面に対応できるドイツ語運用能力を身につける．

【到達目標】
ドイツ語技能検定試験 4 級レベル以上の実力がある．会話やコラムの要点をつかみ，質問に答えられる．重要な表現を熟知し，身近な話題についてやりとりできる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
どのテーマも，写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める．ビデオを観て，これをテーマへの導きとする場合もある．この導入部の後，重要な表現を多角的に理解し，これをもとに，Dialog の構築，Audiotraining，Lesetext の読解，ひな形に沿って文章を書くなど，種々の課題をこなして，ドイツ語運用能力を鍛える．インタビューや情報交換など，ペア作業やグループ作業も多数織り交ぜる．提出された答案は添削し，コメントを付して返却する．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Vergangenes	過去の事柄を表現する
2	Krankheit (1)	医者にかかる時の表現を学ぶ
3	Krankheit (2)	病欠する旨の手紙を書く
4	Gesundheitstipps	「集中できない」「疲れやすい」など心身の問題とそれに対する助言を表現する
5	Gefühle (1)	満足や立腹など感情を表現する
6	Gefühle (2)	「何を楽しみにしている？」「何を恐れている？」など感情の対象を訊き合う
7	Personenbeschreibung	人物の外見を描写する
8	Komparation	いろいろな観点から事物を比較する
9	Infinitiv mit zu	やりたくない事や目的を表現する
10	Szenenbeschreibung (1)	関係代名詞を用いて，絵の内容や映画の一場面の内容を表現する
11	Szenenbeschreibung (2)	受動態を用いて，映画の内容を表現する
12	Wünsche	「金持ちになりたいものだ」など願望を述べる
13	Über Irreales sprechen	非現実を想定し，自分ならどう行動するかを述べる
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】自宅でも音声教材やビデオ教材に繰り返し接し，発音の質や聞き取り能力の向上に努める．

【テキスト（教科書）】
授業中に配布するプリント

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する．ドイツ語技能検定試験に合格した場合は加点する．

【学生の意見等からの気づき】
アットホームな雰囲気であったため，質問しやすかったようだ．

【Outline and objectives】
By honing students' grammar skills and teaching them useful expressions, this course aims at equipping them with German ability at an advanced level in order that they can make themselves understood and find out information in a variety of common situations.

LAN f 100LC

上級フランス語

元木　淳子

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語運用能力の総合的開発。

【到達目標】
フランス語運用 4 技能を総合的に開発する。
フランス・フランス語圏について認識を深める。
インターネットのフランス語サイトで情報を取得する。
フランス語検定資格取得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
検定試験問題を解く。
インターネットのフランス語サイトなどで、フランス・フランス語圏についての情報を取得して、発表し、議論する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーについて講評し、全体に対してフィードバックを行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業紹介 名詞・代名詞	受講者が関心を抱くフランス・フランス語圏の事象について語る。 フランス語の名詞・代名詞について整理する。
2	冠詞・前置詞	定冠詞・不定冠詞・部分冠詞・前置詞について整理する。
3	第 1 群規則動詞	第 1 群規則動詞直説法現在の活用についてまとめ、仏作する。
4	第 2 群規則動詞・不規則動詞	第 2 群規則動詞、主な不規則動詞の直説法現在形についてまとめ、仏作する
5	代名動詞	代名動詞の直説法現在の活用と用法についてまとめ、仏作する
6	比較の表現	比較級・最上級の表現を整理し、仏作する。
7	疑問の表現	疑問文のパターンを整理し、疑問代名詞、疑問副詞、疑問形容詞についてまとめ、仏作する。
8	過去の表現：複合過去形	過去分詞・直説法複合過去形についてまとめ、仏作する。
9	未来の表現	直説法単純未来形についてまとめ、仏作する
10	過去の表現：半過去形	直説法半過去についてまとめ、仏作する
11	ジェロンディフ	現在分詞・ジェロンディフについてまとめ、仏作する。
12	条件法	条件法現在形の活用と用法についてまとめ、仏作する。
13	接続法	接続法現在形の活用と用法についてまとめ、仏作する。 フランス・フランス語圏について調べ、フランス語の資料を読む。
14	まとめ	フランス・フランス語圏について調べ、フランス語で作文し、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
インターネットのフランス語サイトで、フランス・フランス語圏について調べます。

【テキスト（教科書）】
プリント配布

【参考書】
適宜指示します

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %
検定試験などへの取り組み 20 %
期末試験 39 %として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
フランス・フランス語圏についてのビデオ映像、映画、シャンソンなどに触れる機会を設けます

【Outline and objectives】
The purpose of this class is for students to improve reading and writing techniques in French.

LANc100LC

上級中国語

呉　暁林

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎知識を身につけている学生を対象とした中国語の授業です。読む・聞く・話すなど中国語の実践的運用能力の養成を目指します。

【到達目標】
中国語の読解能力および口頭表現能力の向上を目的とします。中国語で書かれた文章を読みこなすこと、また、内容について自分の意見が言えるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　既に中国語の基礎を習得していることを前提として授業を進めますが、3 年次に中国語を選択しなかった学生の履修も歓迎します。
この授業では激動する中国の今を最新の記事と共に学びます。厳選されたトピックスの読解を通じて自己表現力の向上を目標にします。
　原則として対面授業（分散登校を含む) を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性があります。
　提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のすすめかたについての説明を行う。
第 2 回	程永華大使より日本の若者へ贈る言葉	中国語のスピーチの表現と理解
第 3 回	二大「国民的料理」は今	中国料理と表現
第 4 回	AI が学校にやってきた	中国語の情報技術の表現
第 5 回	仕事に生きるか、人として生きるか	中国人の仕事観
第 6 回	宅配便で中国人の暮らしが一変	今風の生活をどう語るか
第 7 回	仮面家族がなぜ人気？	家族関係をどう語るか
第 8 回	呼び名に見る人間関係と社会の変化	社会生活の理解
第 9 回	茶葉古道の里――プーアル茶からコーヒー豆へ	話題のネタを作りましょう
第 10 回	都市こぼれ話	急速に変化している都市風景
第 11 回	中国マネーが日本の中小企業を救う	日中経済を理解しましょう
第 12 回	中国、総フィットネス時代へ	スポーツとその用語
第 13 回	北朝鮮へのノスタルジー・ツアー	国際関係の実態と表現
第 14 回	まとめとふりかえり	まとめとふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とします。教科書についている CD を聞くなど予習してさい。

【テキスト（教科書）】
時事中国語の教科書　2020 年度版　全民健康（CD+音声ダウンロード付）
三潴正道，陳祖蓓，古屋順子

【参考書】
『月刊聴く中国語』HSJ

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、改めて学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
時事情報を多く取り入れるようにします。

【Outline and objectives】
This course is offered to the students who have learned the basics of the Chinese language.　According to the students'level, it enhances vocabulary and grammar, and also cultivates skills to operate the Chinese language.

LANk100LC

上級朝鮮語

魏　聖銓

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：楽しく韓国語を学ぼう

【到達目標】
初級で学んだ文字・発音・文法などをしっかり再確認し、次のステップの発音変化の練習・文法を強化し、現地ですぐに使える会話ができるようにするのが目標です。
連体形と不規則変則が理解できるように学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる．それにともなう各回の授業計画の変更については，学習支援システムでその都度提示する．具体的なオンライン授業の日程や方法などを、学習支援システムで提示する．
提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
　ハングル 5 級から 4 級レベルの文法・単語・表現を学習しながら、日常の会話に活用できるような授業を展開していきます。読む・聞くのインプット学習と「文を書く」・「自分で思ったことを話す」アウトプット学習がうまくリンクできるように、ペアワーク、グループワークも多く取り入れて授業を行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	全体の授業のガイダンス	自己紹介 前期の復習、後期の授業について
2	外来語とアルファベット	表現：－（　） ／動詞語幹＋てください（　/　と（　）　の違い） 韓国の名所：水原　単語練習：外来語
3	アルファベットの表記について　／会話練習：	音読コーナー：新大久保とホットク 異文化紹介：韓国の匙と箸
4	慶州旅行　／ようだ、そうだ水量表現：（　）　。	間接話法の中での「依頼」表現：　/ 韓国の名所：慶州　／　単語練習：交通機関　／応用コーナー：建物とマップ
5	変則の学習	短文:アルバイト　／　異文化紹介：カルビとプルゴギ
6	ホワイトクリスマス 表現　（　）　／「-　+形容詞」	「-　+形容詞」表現：　/ 韓国の名所：安東　単語練習：スポーツ
7	韓国映画	会話練習：美味しいパン屋さん 美味しいパン屋へ行く行き方　／ 異文化紹介：韓国のデリバリー文化
8	総復習とおさらい	ハングル能力検定試験 5 級＆ 4 級について
9	ソウルタワーと東京タワー　/　原因・理由、事柄の順序	表現：　/　/　（し）たことがある/ない 韓国と日本の名所：ソウルタワー＆東京タワー　単語練習：果物
10	疑問代名詞と縮約形　変則	変則の学習 応用短文：道を教える　／異文化：韓国のアパート（マンション）
11	釜山で買い物　／(し) てもよい　/	表現：-　/-　,-　韓国の名所：釜山　単語練習：野菜
12	色、服装を表す表現について　／　変則	変則の学習 音読コーナー　応用短文：:私が好きな色　／　異文化紹介：韓服と着物
13	韓国語スピーチ大会　／－ている２　-	逆接表現　／韓国と日本のことわざ　／韓国の名所：仁川　単語練習：装身具、アクセサリー
14	まとめ。	まとめ。 韓国紙幣の人物　／　新幹線と富士山　／異文化紹介：　ソウル城郭

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの音声などで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】
『韓国と日本くらべて学ぶ中級韓国語』　魏 聖銓　朝日出版社

【参考書】
辞書は『朝鮮語辞典』（小学館）をはじめ、『コスモス朝和辞典』(白水社)、『韓日辞典』(民衆書林出版／三修社販売)・『ポータブル日韓・韓日辞典』(小学館)を勧めますが、電子辞書の方もお勧めします。

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する．具体的な方法と基準は，授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
楽しく、継続すれば、自分のものになる！
韓国の会話をより楽しもう！

【学生が準備すべき機器他】
赤色のペン

【Outline and objectives】
Advanced Korean
Students will increase their Korean reading comprehension ability with different forms of language, oral expression ability and their practical ability to deal with various situations.

LANc300LC

中国語中級リーディング

東　会娟

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３年生を対象とした中国語の授業です。既に中国語の基礎を習得していることを前提として授業を行います。中級レベルの文法事項を学習しながら、実践的な中国語コミュニケーション能力を身に付けます。

【到達目標】
実践的な中国語会話ができるのに加え、ある程度まとまった分量の文章を読むことができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期開講の「中国語中級コミュニケーションと文化」と通年で 1 冊の教科書を使用します。この授業では教科書の前半部分を使います。
課題へのフィードバックは基本的に次回の授業内で解答を提示する形で行います（質問も授業内で全体共有します）が、大きく修正が必要な場合や提出漏れがある場合は個別にメールで連絡することがあります。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方。
	第 1 課　大学生活	ポイント
第 2 回	第 1 課　大学生活	生詞
		課文
		ドリル
第 3 回	第 2 課 大学的作息時間	ポイント
第 4 回	第 2 課 大学的作息時間	生詞
		課文
		ドリル
第 5 回	第 3 課 早飯	ポイント
第 6 回	第 3 課 早飯	生詞
		課文
		ドリル
第 7 回	復習	これまでの復習
		中検対策
第 8 回	第 4 課 喝茶	ポイント
第 9 回	第 4 課 喝茶	生詞
		課文
		ドリル
第 10 回	第 5 課 飲食	ポイント
第 11 回	第 5 課 飲食	生詞
		課文
		ドリル
第 12 回	第 6 課 生活習慣	ポイント
第 13 回	第 6 課 生活習慣	生詞
		課文
		ドリル
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とします。】授業で習った文章をできるだけ多く声に出して練習するようにしてください。
課が終わるごとに課題を学習支援システムに掲示しますので、回答し提出してください。

【テキスト（教科書）】
『ことばと文化 “一挙両得” 中級中国語 』朝日出版社、2017 年

【参考書】
『中国語エッセイ 小点心～あっさり味の日中文化論 』NHK 出版、2005 年
『月刊聴く中国語』HSJ

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席＋小テスト）50 %、期末試験 50 %で合算して成績評価をします。中国語の各種検定試験の受験による加点があります。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ授業中に練習する機会を多く持ちたいと考えています。

【Outline and objectives】
This course is offered to the third graders who have learned the basics of the Chinese language. It deals with intermediate level grammatical issues, and also enhances practical Chinese communicational skills.

LANc300LC

中国語中級ライティング

呉　暁林

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が自分で表現する立場から中国語を捉え直し、今まで習ってきたさまざまな文型・語彙、表現を日常生活のいろんな場面を想定してアクティブに使う訓練を行います。

【到達目標】
学習者が中国語で日常的なメールや手紙のやり取りができるようになるとともに、自分の身近な話題を中国人に話すこともできるように目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　手本となる文章をベースに模倣・書き換え練習を通して、中国語の文章力を着実に習得します。文章能力の基礎となる口頭表現の能力を重視し、文体的には書き言葉よりも話し言葉のほうに重点を置きます。
中国人のコミュニケーションツールとしてのスマホア・プリケーション「微信」（WeChat）や LINE などを使用してグループトーク（情報のやり取り、作文など）を行ってみます。
　原則として対面授業（分散登校を含む) を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性があります。
　提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画と学習方法
2	自己紹介	学校生活
3	私の家庭	家族紹介
4	日本はこんな国！	日本の概況
5	インターネットと私	インタネットの利用状況
6	旅行	旅行見聞についての記述
7	私の趣味	趣味と日常生活
8	友達になる	会話文を取り入れて経緯を記述
9	食事会	食文化と表現
10	アルバイト	アルバイト先の紹介
11	冬休み	休みの予定
12	留学	将来の夢を語る
13	期末復習	文法と誤用例の確認
14	期末試験	試験時間 60 分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とします。】学生は基本的な中国語簡体字の読み書きを身につけ、教科書についている CD を授業前と後に聞いてみてください。中国語を使ってインターネットを利用してみてください。パソコンの中国語入力法を覚えてみてください。

【テキスト（教科書）】
劉頴・柴森・小沢正人著『2 冊目の中国語（講読クラス)』白水社 2013 年

【参考書】
池上貞子ほか著『新中国ってこんな国！ -日々是変化』
池上貞子ほか著『中国ってこんな国！ -素顔の漢流生活』
郭 春貴著 『誤用から学ぶ中国語』白帝社
相原茂著 『作文ルール 66　日中翻訳技法』朝日出版社

【成績評価の方法と基準】
春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
通常の場合は受講状況と作文宿題などの平常点は 50%、期末試験は 50 %

【学生の意見等からの気づき】
実験、課題など取り組まなければならないことが多い中で、効率的な学習を如何に工夫するのか、一緒に考えていきたい。ライティングはリーディングと連動して、読み方の練習や表現の習得をきちんとやってみてください。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンやスマートフォンを授業に持参すること。

【Outline and objectives】
This course aims at facilitating students in strengthening their language skills. Students will actively practice writing in various imagined daily scenarios using sentence patterns and vocabulary they have learned.

LANc300LC

中国語中級コミュニケーションと文化

東　会娟

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
３年生を対象とした中国語の授業です。既に中国語の基礎を習得していることを前提として授業を行います。中級レベルの文法事項を学習しながら、実践的な中国語コミュニケーション能力を身に付けます。

【到達目標】
実践的な中国語会話ができるのに加え、ある程度まとまった分量の文章を読むことができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期開講の「中国語中級リーディング」と通年で 1 冊の教科書を使用します。この授業では教科書の後半部分を使います。また語学だけでなく、その背景となる中国語圏の文化や社会について理解を深めるため、他の配付資料や映像資料を用いることもあります。
課題へのフィードバックは基本的に次回の授業内で解答を提示する形で行います（質問も授業内で全体共有します）が、大きく修正が必要な場合や提出漏れがある場合は個別にメールで連絡することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	春学期に学習した内容の復習
	第 7 課 交通	ポイント
第 2 回	第 7 課 交通	生詞
		課文
		ドリル
第 3 回	第 8 課 校園節	ポイント
第 4 回	第 8 課 校園節	生詞
		課文
		ドリル
第 5 回	第 9 課 体育	ポイント
第 6 回	第 9 課 体育	生詞
		課文
		ドリル
第 7 回	中検対策	中検対策
第 8 回	第 11 課 方言	ポイント
第 9 回	第 11 課 方言	生詞
		課文
		ドリル
第 10 回	第 13 課 過年	ポイント
第 11 回	第 13 課 過年	生詞
		課文
		ドリル
第 12 回	第 14 課 年軽人的婚事	ポイント
第 13 回	第 14 課 年軽人的婚事	生詞
		課文
		ドリル
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とします。】語学を身につけるには反復練習が重要です。授業で習った文章をできるだけ多く声に出して練習するようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ことばと文化 “一挙両得” 中級中国語』朝日出版社、2017 年

【参考書】
『中国語エッセイ 小点心～あっさり味の日中文化論 』NHK 出版、2005 年
『月刊聴く中国語』HSJ

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席＋小テスト）50 %、期末試験 50 %で合算で成績評価をします。
中国語の各種検定試験の受験による加点があります

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ授業中に練習する機会を多く持ちたいと考えています。

【Outline and objectives】
This course is offered to the third graders who have learned the basics of the Chinese language. It deals with intermediate level grammatical issues, and also enhances practical Chinese communicational skills.

LANc200LC

中国語中級

渡辺　浩司

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は基礎中国語を学習した学生を対象としています。教科書を利用し、「読む」・「話す」・「書く」ことを練習し、中国語の基礎力を固め、着実に中国語のレベルアップを図ります。

【到達目標】
(1) 正確な発音を身につけること、(2) 中国語の語順と基本的な構造をきちんと理解すること、(3) 基礎的な中国語を聞いて理解できること、(4) 日常的な話題について中国語で表現できること、を目標とします。
6 月後半に実施される中国検定試験で、準 4 級以上を取得できるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
少しまとまった文章に触れつつ、内容理解、発話練習、作文練習を行い、すでに学習してきた内容を定着させ、無理なく新しい内容を勉強します。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと発音復習（第一、二課）	授業計画 声調・単母音・複合母音 子音 (1)・第三声
第 2 回	発音復習（第三、四課）	子音 (2)・“不” の変調 鼻母音・児化音・“一” の変調
第 3 回	復習 1 ・あいさつ用語・教室用語	ピンイン表記上の注意点・数字（年月日・曜日）・確認テスト あいさつ用語、教室用語
第 4 回	第五課	“是” の用法・動詞述語文・形容詞述語文・構造助詞 “的”・疑問文
第 5 回	第五課	人称代詞・本文・練習
第 6 回	第六課	量詞・日時の語順・名詞述語文・前置詞 “⊠”・“在” の用法
第 7 回	第六課	指示代詞・本文・練習
第 8 回	第七課	助動詞 “会”・助詞 “了”・前置詞 “⊠”・助動詞 “想”・連動文
第 9 回	第七課	時刻・本文・練習
第 10 回	第八課	前置詞 “离”・前置詞 “从”“到”・助詞 “⊠”・“是～的” 構文・数量補語
第 11 回	第八課	回数・本文・練習
第 12 回	第九課	助動詞 “能”・助動詞 “可以”・助動詞 “要”・動詞の重ね型・方向補語
第 13 回	第九課	方向補語・本文・練習
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストについている CD を十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『すぐよめる中国語　改訂版』胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016 年。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、平常点 30 %で評価します。
中国語検定試験の受験者および合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。

【Outline and objectives】
This course focuses on pronunciation,listening,expression and composition practice in order to cultivate verbal expression and listening ability.

LANc200LC

中国語表現

渡辺　浩司

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は基礎中国語と中国語中級（前期）を学習した学生を対象とします。文章を読む・書くために必要な基本表現を身につけ、読解力と表現力の強化を図ります。

【到達目標】
中国語の文章表現を口（声に出して読める）、音（耳から聴きとれる）、手（漢字と単語を書ける）ようにマスターすることを目指します。
3 月に実施される中国語検定（4 級）の合格を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教材の文章を題材に、音読、リスニング、作文と翻訳の訓練を通して、基本的表現を習得します。また、必要に応じて中国語検定（4 級）対策も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。
小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと復習 2	授業計画 文法のまとめ・確認テスト
第 2 回	第 10 課	動態助詞 “了”・構造助詞 “得”・兼語文・“☒” の用法・疑問詞の用法
第 3 回	第 10 課	疑問詞・離合動詞・本文・練習
第 4 回	第 11 課	接続詞 “要是”・動態助詞 “了”・二重目的語・助詞 “着”・語気助詞 “吧”
第 5 回	第 11 課	方位詞・乗り物・本文・練習
第 6 回	第 12 課	“因☒～，所以…”・構造助詞 “地”・結果補語・“把” 構文・助詞 “着”
第 7 回	第 12 課	結果補語・本文・練習
第 8 回	第 13 課	前置詞 “比”・“A 没有 B ～”・“被” 構文・“一～，就…”・助動詞 “会”
第 9 回	第 13 課	病気・天候・本文・練習
第 10 回	第 14 課	“快要～了”・“一点儿都 (/也)” +否定文・二つの “了” の併用・お金の言い方・可能補語
第 11 回	第 14 課	可能補語・通貨・本文・練習
第 12 回	復習 3	文法のまとめ・確認テスト
第 13 回	第 10 課からの応用練習	第 10 課～第 14 課の文法や単語を利用した作文
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・学習時間は、各 2 時間を標準とします。教科書付録の CD を活用して，授業で学んだ教科書各課の新出単語や会話文、短文などの音読の反復練習をしてみましょう。NHK で放送される「テレビで中国語」や中国語のドラマ・映画を見てみましょう。中国語語学関連の携帯アプリも使ってみましょう。

【テキスト（教科書）】
『すぐよめる中国語　改訂版』胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016 年。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、平常点 30 %で評価します。
中国語検定試験の受験者および合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。

【Outline and objectives】
This course will focus on Chinese pronunciation,how to read pronunciation notation,reading and writing kanji(simplified letters),and provide practice applying basic vocabulary,grammar and conversation patterns.

LANe100LC

ビジネス英語

早舩　由紀見

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本や世界の企業について書かれた英文テキストを読解し、ビジネス関連の用語や企業について学ぶ。リーディングが中心となるが、テキストから得た知識を基に、企業のことや自分の考えを英文にまとめる練習も行う。

【到達目標】
ビジネスの世界では何が行われているのかを知り、その世界で必要な英語は何かを理解すること、そしてそれを使うことができるようになるためにはどのような勉強が必要であるかを知ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
日本や海外の企業のビジネスの現場についての長文を読み、内容を理解する。その中でビジネス英語の基本を習得する。
次に、その企業について得た知識を英文にまとめていく。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1. Zara's Recipe for Success	· About Zara · Vocabulary · Reading · What do you think?
第 2 回	Unit 2. Airbnb's Challenge and New Direction	· About airbnb · Vocabulary · Reading · What do you think?
第 3 回	Unit 3. Augmented Reality Ecosystem in Facebook	· About Facebook · Vocabulary · Reading · What do you think?
第 4 回	Unit 4. Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One Step Closer	· About Adidas · Vocabulary · Reading · What do you think?
第 5 回	Unit 5. At Toyota, the Automation Is Human-Powered	· About Toyota · Vocabulary · Reading · What do you think?
第 6 回	Unit 6. How Starbucks Became a Successful Worldwide Brand	· About Starbucks · Vocabulary · Reading · What do you think?
第 7 回	Unit 7. McDonald's Modern Marketing Methods	· About McDonald · Vocabulary · Reading · What do you think?
第 8 回	Unit 8. How TED Evolves and Where It Wants to Go Next	· About TED · Vocabulary · Reading · What do you think?
第 9 回	Unit 9. Why Amazon Is the World's Most Innovative Company	· About Amazon · Vocabulary · Reading · What do you think?
第 10 回	Unit 10. Sony Comes Back from the Brink	· About Sony · Vocabulary · Reading · What do you think?
第 11 回	Unit 11. IKEA's New Business Move for Millennials	· About IKEA · Vocabulary · Reading · What do you think?
第 12 回	Unit 12. How Google Has Changed the World	· About Google · Vocabulary · Reading · What do you think?
第 13 回	まとめ (1)	· Companies · Vocabulary · What do you think?
第 14 回	まとめ (2)	· Companies · Vocabulary · Reading

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】リーディングの予習。Vocabulary の意味と発音。

【テキスト（教科書）】
「Challenges of Global enterprises」
Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada, Angus McGregor 著（金星堂）

【参考書】
各企業の英語ウェブサイト。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度： 30%
授業内演習： 30%
期末試験 ： 40%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意向をよく聞いて、授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii を使用して課題提出等を行っていただきます。

【Outline and objectives】
This course focuses on improving the English reading skills through reading various texts regarding Japan and overseas companies. Students also learn to write their opinions and knowledge.

LANe100LC

英語資格試験準備講座

北原　久嗣

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、文法と読解に焦点をあて、TOEIC テスト・リーディングのスコアアップを目指す準備講座です。

【到達目標】
なぜその答えになるのかという根拠を理解し、解き方を説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式に加え、ディスカッションを行います。学生の積極的な参加を期待します。また、授業内テストを適宜行い、テキスト・配布資料に対する学生の理解度を確認します。フィードバックは、授業内、学習支援システム、メール（hisatsugu.kitahara.87@hosei.ac.jp）で行う予定です。授業形態は対面授業（状況によってはハイブリッド型、オンデマンド型）を予定しています。詳しくは授業開始時に指示しますが、毎週課題に取り組み、その総合点を成績評価の基準にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	Unit1 品詞 Unit2 動詞の形①時制	小テスト・文法確認・ディスカッション
第 3 回	Unit3 動詞の形②能動態・受動態と分詞 Unit4 動詞の③その他いろいろ	小テスト・文法確認・ディスカッション
第 4 回	Unit5 前置詞と接続詞 Unit6 代名詞と関係詞	小テスト・文法確認・ディスカッション
第 5 回	Unit7 比較と加算・不加算名詞 Unit8 長文穴埋め問題(Part6)	小テスト・文法確認・ディスカッション
第 6 回	Let's Review!	文法・語法編
第 7 回	Unit1 Advertisements	小テスト・内容把握・ディスカッション
第 8 回	Unit2 Letters, E-mails, & Text message chains	小テスト・内容把握・ディスカッション
第 9 回	Unit3 Notices, Instructions, & Announcements	小テスト・内容把握・ディスカッション
第 10 回	Unit4 Articles & Web pages	小テスト・内容把握・ディスカッション
第 11 回	Unit5 Double Passages	小テスト・内容把握・ディスカッション
第 12 回	Unit6 Triple Passages	小テスト・内容把握・ディスカッション
第 13 回	Let's Review	読解編
第 14 回	理解度の確認・まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキスト・配布資料の予習と復習は不可欠です。

【テキスト（教科書）】
Atsuko Nishitani ・James G. Wong 著 Effective Approaches to Grammar and Reading on the TOEIC Test 朝日出版社 1,600 円＋税 978-4-255-15615-6

【参考書】
中村駿夫著『発音記号の正しい読み方』SHORYUDO 291 円＋税 978-4-399-03099-2
その他、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加と毎週の課題への取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
毎週の課題への取り組みを重視します。

【その他の重要事項】
授業計画は予定であり変更されることもあります。

【Outline and objectives】
This course is designed to help students prepare for the reading section of the TOEIC Test, focusing on grammar and comprehension.

BLS100LC

生命機能学基礎実験　I

金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、常重　アントニオ、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物をあつかう基礎的な実験を自らの手で実践することで，生命現象を実感し，理解を深める．

【到達目標】
生命科学における基礎的な実験方法の原理およびデータの意味を理解し，それを文章にまとめる能力を身につける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP1

【授業の進め方と方法】
「生命機能学基礎演習Ｉ」とリンクして，行った実験方法の原理やその長所短所などを理解したうえで結果を解析し，レポートにまとめる．レポートは学期末に講評を行ってフィードバックする．
　今年度は基本的に対面で行うが，状況によってはオンラインで行う可能性もある．いずれの授業方法にするかについては，学習支援システムで提示する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス− 1	担当の紹介, 実験・演習・の日程, FB の実践優先ユニークカリキュラム, 学習支援システムの利用法、新入生アンケート（Web）, 生物学の学習について, FB の理念と目的について, 理念・目的アンケート（Web）
第 2 回	ガイダンス− 2	自然科学の文章, レポートの書き方, 英語の学習について, 実験を安全に行うために, 実験器具の取り扱い, 実験ノートの取り方
第 3 回	汎用器具を用いた定量法・微量の定量法	器具の材質，定量に使用する汎用器具の説明, 微量定量機器の原理と取り扱い.（グループ１）
第 4 回	汎用器具を用いた定量法・微量の定量法	器具の材質，定量に使用する汎用器具の説明, 微量定量機器の原理と取り扱い.（グループ２）
第 5 回	モル濃度	モル濃度の計算と試薬の調製
第 6 回	溶液の希釈	希釈率の計算と希釈シリーズの調製
第 7 回	液体培地の作製	液体培地の解説と調製
第 8 回	固体培地の作製	固体培地の解説と調製
第 9 回	植菌，シングルコロニー	無菌操作の解説，シングルコロニーの単離
第 10 回	分光光度計	分光光度計の原理の解説と溶液の吸光度の測定
第 11 回	pH メーター	pH メーターの原理の解説と緩衝液の調製
第 12 回	明視野顕微鏡	明視野顕微鏡の原理の解説と細胞の観察
第 13 回	位相差顕微鏡	位相差顕微鏡の原理の解説と細胞の観察
第 14 回	アチーブメントテスト	これまでの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】
授業中に指示する内容について，参考書や原著論文等で復習し，理解を深める．

【テキスト（教科書）】
実習の目的・背景・材料と方法・課題などを記載したテキストを配付する．

【参考書】
各回の担当教員が適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞　レポート提出の有無と，提出されたレポートの内容、およびアチーブメントテストの結果に基づいて評価する (100%)．なお、対面での試験が困難となった場合はレポート評価のみとする．
＜評価基準＞　実験の原理および実験結果の意味の理解度を基準とする．

【学生の意見等からの気づき】
TA による指導に班ごとのばらつきが生じないよう，事前の打ち合わせを綿密に行うことにした．

【学生が準備すべき機器他】
指示された回には貸与パソコンを準備すること．
必ず白衣を着用すること．
資料配布，課題提出、連絡等には学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
.

【Outline and objectives】
The aim of this practical course is to provide freshman level students with basic experimental skills for Bioscience.

LANe100LC

生命機能学基礎英語　I

金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、常重　アントニオ、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命科学の世界では英語が共通語である．新しい発見はすべて英語で報告されるため，生命科学を学ぶには科学英語の能力向上が必須である。著名な生物学の教科書を読解することで科学を英語で理解する能力を身につけることを目標とする．

【到達目標】
英文テキストを詳細に読解し，その科学的内容を理解する能力を身につけることを目標にする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP1

【授業の進め方と方法】
履修生をグループに分け、少人数で講義を実施する．教員はテキストの内容を適宜補足する説明を行い，学生は各自が音読・翻訳・図の説明を行う．学生の説明とそれに関連する事項についてその場でディスカッションする．オンラインの場合はメール・Hoppii などで質問を受け付け，回答を同様にメール・Hoppii を通してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英語のテキストの配布、講義方針の説明.
第 2 回	英文テキストの講読-1	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 3 回	英文テキストの講読-2	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 4 回	英文テキストの講読-3	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 5 回	英文テキストの講読-4	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 6 回	英文テキストの講読-5	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 7 回	英文テキストの講読-6	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 8 回	英文テキストの講読-7	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 9 回	英文テキストの講読-8	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 10 回	英文テキストの講読-9	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 11 回	英文テキストの講読-10	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 12 回	英文テキストの講読-11	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 13 回	英文テキストの講読-12	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 14 回	アチーブメントテスト	これまでの復習と習熟度の検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準としする】
必ず予習（音読、翻訳、説明）をする．また，分子生物学 I・II，生物化学 I・II，細胞生物学 I・II，生物物理学 I・II の内容とも関連するので，読解にあたって注意すること．

【テキスト（教科書）】
英語教科書「BIOLOGY 6th Edition」の第３章”Water and The Fitness of The Environment”，第６章”An Introduction to Metabolism”，第８章”Membrane Structure and Function"，第１７章”From Gene to Protein"をテキストとする．テキストについてはガイダンス時に改めて説明する．

【参考書】
適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞平常点（取り組みやレポート提出など）を 30 %，アチーブメントテストの成績を 70 %として評価する．ただし，一定以上の平常点がない場合，成績評価対象外となる．
＜評価基準＞英語による生命科学の基本的な原理の理解度を基準とする．

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は Zoom を利用した質問時間を設けた．今年度も要望があれば実施する．

【学生が準備すべき機器他】
資料配布，課題提出，連絡等には学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
授業の各回の前に，テキスト（図の説明も含む）の音読と翻訳の予習を必ず行うこと．その過程で，テキスト中の科学的原理等について理解が不足していることに気づいた場合は，日本語教材などで学習しておくこと．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide freshman level students with Academic English for Bioscience.

LANe200LC

生命機能学基礎英語　ＩＩ

金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、常重　アントニオ、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命科学の世界では英語が共通語である．新しい発見はすべて英語で報告されるため，生命科学を学ぶには科学英語の能力向上が必須である。著名な生物学の教科書を読解することで科学を英語で理解する能力を身につけることを目標とする．

【到達目標】
英文テキストを詳細に読解し，その科学的内容を理解する能力を身につけることを目標にする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP1

【授業の進め方と方法】
履修生をグループに分け、少人数で講義を実施する．教員はテキストの内容を適宜補足する説明を行い，学生は各自が音読・翻訳・図の説明を行う．学生の説明とそれに関連する事項についてその場でディスカッションする．オンラインの場合はメール・Hoppii などで質問を受け付け，回答を同様にメール・Hoppii を通してフィードバックする。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英語のテキストの配布、講義方針の説明.
第 2 回	英文テキストの講読-1	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 3 回	英文テキストの講読-2	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 4 回	英文テキストの講読-3	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 5 回	英文テキストの講読-4	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 6 回	英文テキストの講読-5	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 7 回	英文テキストの講読-6	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 8 回	英文テキストの講読-7	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 9 回	英文テキストの講読-8	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 10 回	英文テキストの講読-9	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 11 回	英文テキストの講読-10	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 12 回	英文テキストの講読-11	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 13 回	英文テキストの講読-12	テキストの当該章の音読，翻訳，図を交えて内容の説明.
第 14 回	授業アンケート	アンケートとディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】
必ず予習（音読、翻訳、説明）をする．また，分子生物学 I・II，生物化学 I・II，細胞生物学 I・II，生物物理学 I・II の内容とも関連するので，読解にあたって注意すること．

【テキスト（教科書）】
英語教科書「BIOLOGY 6th Edition」の第３章”Water and The Fitness of The Environment”，第６章”An Introduction to Metabolism”，第８章”Membrane Structure and Function"，第１７章”From Gene to Protein"をテキストとする．テキストについてはガイダンス時に改めて説明する．

【参考書】
適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞平常点と提出されたレポートの内容により評価する(100%)．ただし，一定以上の平常点がない場合，成績評価対象外となる．
＜評価基準＞英語による生命科学の基本的な原理の理解度を基準とする．

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は Zoom を利用した質問時間を設けた．今年度も要望があれば実施する．

【学生が準備すべき機器他】
資料配布，課題提出，連絡等には学習支援システムを利用する．

【その他の重要事項】
授業の各回の前に，テキスト（図の説明も含む）の音読と翻訳の予習を必ず行うこと．その過程で，テキスト中の科学的原理等について理解が不足していることに気づいた場合は，日本語教材などで学習しておくこと．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide sophomore level students with Academic English for Bioscience.

BLS200LC

生命機能学基礎実験　ＩＩ

金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、常重　アントニオ、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物をあつかう基礎的な実験を自らの手で実践することで，生命現象を実感し，理解を深める．生命機能学基礎実験Ｉよりも発展的な内容の実験を行う．

【到達目標】
生命科学におけるタンパク質科学，ゲノム科学，細胞生物学の実験方法とその原理を理解し，手技を習得するとともに，結果の意味を理解し，それを文章にまとめる能力を身につける．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP1

【授業の進め方と方法】
「生命機能学基礎演習 II」とリンクして，行った実験方法の原理やその長所短所などを理解したうえで結果を解析し，レポートにまとめる．レポートは学期末に講評を行ってフィードバックする．
　今年度は基本的に対面で行うが，状況によってはオンラインで行う可能性もある．いずれの授業方法にするかについては，学習支援システムで提示する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	スタッフ・TA の紹介，実験・演習・英語の日程・班分け，FB の実践優先ユニークカリキュラム，研究室配属アンケートの説明, 実験を安全に行うために, 事前学習（テスト）
第 2 回	ゲノム科学基礎実験−１	細菌ゲノム DNA の調製
第 3 回	ゲノム科学基礎実験−２	DNA 断片の解析
第 4 回	ゲノム科学基礎実験−３	形質転換・遺伝的相補/データ解析基礎演習
第 5 回	ゲノム科学基礎実験−３	データ解析基礎演習/形質転換・遺伝的相補
第 6 回	タンパク質科学基礎実験− １	蛋白質の精製と定量/研究室紹介１
第 7 回	タンパク質科学基礎実験− １	研究室紹介１/酵素タンパク質の定量
第 8 回	タンパク質科学基礎実験− １	タンパク質の精製と定量/研究室紹介２
第 9 回	タンパク質科学基礎実験− ２	研究室紹介２/タンパク質の精製と定量
第 10 回	タンパク質科学基礎実験− ３	酵素活性の測定
第 11 回	細胞生物学基礎実験−１	接着性細胞の継代培養
第 12 回	細胞生物学基礎実験−２	光合成関連遺伝子欠損変異株を用いた細胞と蛋白質の解析
第 13 回	総合演習	各研究室を見学、およびテーマに対する調査およびレポート作成
第 14 回	アチーブメントテスト（授業外）	これまでの復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】
授業中に指示する内容について，参考書や原著論文等で復習し，理解を深める．

【テキスト（教科書）】
実習の目的・背景・材料と方法・課題などを記載したテキストを配付する．

【参考書】
各回の担当教員が適宜指示する．

【成績評価の方法と基準】
＜評価方法＞　レポート提出の有無と，提出されたレポートの内容に基づいて評価する．な お、対面での試験が困難となった場合はレポート評価のみとする．
＜評価基準＞　実験の原理および実験結果の意味の理解度を基準とする．

【学生の意見等からの気づき】
TA による指導に班ごとのばらつきが生じないよう，事前の打ち合わせを綿密に行うことにした．

【学生が準備すべき機器他】
指示された回には貸与パソコンを準備すること．
必ず白衣を着用すること．
資料配布，課題提出、連絡等には学習支援システムを利用する．

【Outline and objectives】
The aim of this practical course is to provide sophomore level students with basic experimental skills for Bioscience.

BLS300LC

生命機能学英語　I

金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「生命機能学研究 I」「生命機能学演習 I」の履修とともに，実験実証を基盤とする生命科学研究を自立的に実施する能力を養う．配属研究室で与えられた課題について，自ら実験を行い，得られた結果を正しく解析し，研究成果をまとめる．そのために必要な最先端生命科学の情報を得るため，英文学術論文等を読解する能力を身につける．

【到達目標】
各自の課題について行った研究の成果をまとめて第三者に論理的に説明できること；そのために，研究課題の意義を正確に理解すること；得られた結果を正しく解釈できること；最先端の英語学術論文を正確に読解できること；を目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP1

【授業の進め方と方法】
配属研究室の教員の指導の下に，各自に与えられた課題について，その内容と意義を正確に理解し，関連する英語学術論文を読解し，研究を遂行する．理解が不足している点や学生の質問については，教員と随時ディスカッションすることでフィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	課題研究を中心とした授業の進め方や目標の設定等.
第 2 回	生命機能学英語− 1	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 3 回	生命機能学英語− 2	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 4 回	生命機能学英語− 3	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 5 回	生命機能学英語− 4	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 6 回	生命機能学英語− 5	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 7 回	生命機能学英語− 6	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 8 回	生命機能学英語− 7	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 9 回	生命機能学英語− 8	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 10 回	生命機能学英語− 9	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 11 回	生命機能学英語− １０	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 12 回	生命機能学英語− １１	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 13 回	生命機能学英語− １２	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 14 回	講評	これまでの理解度に対する評価および新たな目標の設定.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】
実験遂行上必要な内容について，原著論文や参考書等で情報収集し，理解を深める．
必要に応じ，研究討論などのために配当時間外での取り組みが必要である．

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない．

【参考書】
課題に応じて適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
研究への継続的な取り組み，実験に関する計画立案・実施・結果取得の状況，結果の解釈と考察の内容を総合的に評価する (100%).

【学生の意見等からの気づき】
履修した学生から，研究室における実験には時間がかかるが，研究の面白さが分かって充実していたという声があったため，配属研究室の説明会で，より多くの学生に履修を勧めることにした．

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンは常時持参する．
その他に必要な情報機器および施設については，配属研究室の指導教員が指示する．

【その他の重要事項】
＜本科目のカリキュラム上の位置づけと履修の心構え＞
本科目は配属研究室で行われる少人数教育の一環で「生命機能学研究 I」「生命機能学演習 I」とリンクする．4 年次開講の「生命機能学研究・演習・英語 II」および「生命機能学研究・演習・英語 III」へつながる科目である．最先端の研究を実行するものであるため，能動的な姿勢で履修することが必要である．
＜研究室配属について＞
7 月初旬に各研究室の説明会を開催する．その後，配属希望研究室の調査を行い，それをもとに配属研究室を決定する．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide junior level students with Academic English for Bioscience.

LANe400LC

生命機能学英語　ＩＩ

金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「生命機能学研究 II」「生命機能学演習 II」の履修とともに，実験実証を基盤とする生命科学研究を自立的に実施する能力を養う．配属研究室で与えられた課題について，自ら実験を行い，得られた結果を正しく解析し，研究成果をまとめる．そのために必要な最先端生命科学の情報を得るため，英文学術論文等を読解する能力を身につける．

【到達目標】
各自の課題について行った研究の成果をまとめて第三者に論理的に説明できること；そのために，研究課題の意義を正確に理解すること；得られた結果を正しく解釈できること；最先端の英語学術論文を正確に読解できること；を目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP1

【授業の進め方と方法】
配属研究室の教員の指導の下に，各自に与えられた課題について，その内容と意義を正確に理解し，関連する英語学術論文を読解し，研究を遂行する．理解が不足している点や学生の質問については，教員と随時ディスカッションすることでフィードバックする．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	課題研究を中心とした授業の進め方や目標の設定等.
第 2 回	生命機能学英語− 1	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 3 回	生命機能学英語− 2	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 4 回	生命機能学英語− 3	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 5 回	生命機能学英語− 4	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 6 回	生命機能学英語− 5	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 7 回	生命機能学英語− 6	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 8 回	生命機能学英語− 7	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 9 回	生命機能学英語− 8	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 10 回	生命機能学英語− 9	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 11 回	生命機能学英語− １０	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 12 回	生命機能学英語− １１	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 13 回	生命機能学英語− １２	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 14 回	講評	これまでの理解度に対する評価および新たな目標の設定.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】
実験遂行上必要な内容について，原著論文や参考書等で情報収集し，理解を深める．
必要に応じ，研究討論などのために配当時間外での取り組みが必要である．

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない．

【参考書】
課題に応じて適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
研究への継続的な取り組み，実験に関する計画立案・実施・結果取得の状況，結果の解釈と考察の内容を総合的に評価する (100%).

【学生の意見等からの気づき】
履修した学生から，研究室における実験には時間がかかるが，研究の面白さが分かって充実していたという声があったため，配属研究室の説明会で，より多くの学生に履修を勧めることにした．

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンは常時持参する．
その他に必要な情報機器および施設については，配属先の指導教員が指示する．

【その他の重要事項】
＜本科目のカリキュラム上の位置づけと履修の心構え＞
本科目は配属研究室で行われる少人数教育の一環で「生命機能学研究 II」「生命機能学演習 II」とリンクする．「生命機能学研究・演習・英語 III」へつながる科目である．最先端の研究を実行するものであるため，能動的な姿勢で履修することが必要である．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide senior level students with Academic English for Bioscience.

LANe400LC

生命機能学英語　ＩＩＩ

金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「生命機能学研究 III」「生命機能学演習 III」の履修とともに，実験実証を基盤とする生命科学研究を自立的に実施する能力を養う．配属研究室で与えられた課題について，自ら実験を行い，得られた結果を正しく解析し，研究成果をまとめる．そのために必要な最先端生命科学の情報を得るため，英文学術論文等を読解する能力を身につける．

【到達目標】
各自の課題について行った研究の成果をまとめて第三者に論理的に説明できること；そのために，研究課題の意義を正確に理解すること；得られた結果を正しく解釈できること；最先端の英語学術論文を正確に読解できること；を目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP1

【授業の進め方と方法】
配属研究室の教員の指導の下に，各自に与えられた課題について，その内容と意義を正確に理解し，関連する英語学術論文を読解し，研究を遂行する．理解が不足している点や学生の質問については，教員と随時ディスカッションすることでフィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	課題研究を中心とした授業の進め方や目標の設定等.
第 2 回	生命機能学英語− 1	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 3 回	生命機能学英語− 2	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 4 回	生命機能学英語− 3	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 5 回	生命機能学英語− 4	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 6 回	生命機能学英語− 5	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 7 回	生命機能学英語− 6	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 8 回	生命機能学英語− 7	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 9 回	生命機能学英語− 8	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 10 回	生命機能学英語− 9	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 11 回	生命機能学英語− １０	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 12 回	生命機能学英語− １１	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 13 回	生命機能学英語− １２	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表.（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）.
第 14 回	講評	これまでの理解度に対する評価および新たな目標の設定.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】
実験遂行上必要な内容について，原著論文や参考書等で情報収集し，理解を深める．
必要に応じ，研究討論などのために配当時間外での取り組みが必要である．

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない．

【参考書】
課題に応じて適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
研究への継続的な取り組み，実験に関する計画立案・実施・結果取得の状況，結果の解釈と考察の内容を総合的に評価する (100%).

【学生の意見等からの気づき】
履修した学生から，研究室における実験には時間がかかるが，研究の面白さが分かって充実していたという声があったため，配属研究室の説明会で，より多くの学生に履修を勧めることにした．

【学生が準備すべき機器他】
貸与パソコンは常時持参する．
その他に必要な情報機器および施設については，配属研究室の指導教員が指示する．

【その他の重要事項】
＜本科目のカリキュラム上の位置づけと履修の心構え＞
本科目は配属研究室で行われる少人数教育の一環で「生命機能学研究 III」「生命機能学演習 III」とリンクする．最先端の研究を実行するものであるため，能動的な姿勢で履修することが必要である．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide senior level students with Academic English for Bioscience.

BSP100LC

線形代数学演習 I

佐藤　巌

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい.
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題される.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房

【参考書】
適宜、紹介する.

【成績評価の方法と基準】
【期末試験は、対面試験が可能な場合のみ，工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】
成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に、判断して評価する。
レポート提出及び成果 (20%)，期末試験の成績 (80%) として、成績を付ける。
なお，初回の授業で課題の提出の仕方について、説明する.

【学生の意見等からの気づき】
教科書の予習、復習、また、講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

線形代数学演習 I

佐藤　巖

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている． 授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通し、前回の 授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい. 授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題される.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房

【参考書】
適宜、紹介する.

【成績評価の方法と基準】
【期末試験は、対面試験が可能な場合のみ，機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一 試験として行う。】 成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に、判断 して評価する。 レポート提出及び成果 (20%)，期末試験の成績 (80%) として、成績 を付ける。 なお，初回の授業で課題の提出の仕方について、説明する.

【学生の意見等からの気づき】
教科書の予習、復習、また、講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

線形代数学演習 I

間下　克哉

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい．
授業１回ごとに小テストを行い授業内容の理解度を確認する．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
とくに必要としないと思うが、必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを，
期末試験の成績 (100%) により評価する．
初回の授業で課題の提出ルールを説明する．

期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う．

コロナ禍による授業形態の変更によって成績評価の方法を変更する可能性がある．

【学生の意見等からの気づき】
毎回、十分に復習を行い、小テストによって理解度の確認を行うことが有効である．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

線形代数学演習 I

間下　克哉

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う．
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい．
授業１回ごとに小テストを行い授業内容の理解度を確認する．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
とくに必要としないと思うが、必要に応じて紹介する．

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを，
期末試験の成績 (100%) により評価する．
初回の授業で課題の提出ルールを説明する．

期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う．

コロナ禍による授業形態の変更によって成績評価の方法を変更する可能性がある．

【学生の意見等からの気づき】
毎回、十分に復習を行い、小テストによって理解度の確認を行うことが有効である．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

線形代数学演習 I

三橋　秀生

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
2）　行基本変形によって連立 1 次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．
オンラインでの開講となった場合の、オンライン授業の方法や各回の授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する．
成績は，レポート提出、授業内試験、期末試験等の成績を総合的に判断して評価する．
平常点を２０％、期末試験の点を８０％として成績をつける．
※　期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う．
オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

【学生が準備すべき機器他】
初回時に貸与ノート PC を持参すること．
その他は適宜，指示する．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて
配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。
その他の重要事項は適宜、指示します。

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

線形代数学演習 I

三橋　秀生

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ．
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する．
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する．

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける．
2）　行基本変形によって連立 1 次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する．
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．
オンラインでの開講となった場合の、オンライン授業の方法や各回の授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する．
成績は，レポート提出、授業内試験、期末試験等の成績を総合的に判断して評価する．
平常点を２０％、期末試験の点を８０％として成績をつける．
※　期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う．
オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

【学生が準備すべき機器他】
初回時に貸与ノート PC を持参すること．
その他は適宜，指示する．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて
配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。
その他の重要事項は適宜、指示します。

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

線形代数学演習 I

大野　修一

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている.
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい.
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと.
不明な点等はどんどん質問してください.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
初回の授業で紹介する.

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを，
毎回の演習及び中間テスト (40%)，期末試験の成績 (60%)
により評価する.
初回の授業で紹介する.

【学生の意見等からの気づき】
今年も「分かりやすい」授業をします.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

神谷　亮

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ.
1）　ベクトルと行列の計算方法を修得し，連立１次方程式の解法への応用を理解する.
2）　正則行列や階数などの概念を知り，正則行列であることの同値条件を理解する.

【到達目標】
1）　行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける.
2）　行基本変形によって連立１次方程式が解けること，逆行列が求められることの理由を十分に理解する.
3）　正則行列と連立方程式の解法，行列の階数の理論等との関連を理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う.
受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル， ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式， 平面の方程式， 連立１次方程式
3	行列	行列の定義，行列の和およびスカラー倍，転置行列，対称行列，交代行列
4	行列の積	行列の積の定義， 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列，正則行列，正則行列の性質
6	連立１次方程式（１）	連立１次方程式の解法， 行列を用いた連立１次方程式の解法
7	逆行列	逆行列， 連立１次方程式と逆行列
8	連立１次方程式（２）	連立１次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換，行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質，基本変形と行列式，積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件，クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい.
授業内容の理解を助けるため，毎回課題が出題されるので，これに取り組むこと.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」　裳華房　2200 円＋税

【参考書】
講義資料内で適宜紹介する.

【成績評価の方法と基準】
行列の計算，連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを，
毎回の課題の提出及び成果 (30%)，期末試験の成績 (70%)
により評価する.
初回の授業で課題の提出ルールを説明する.

【学生の意見等からの気づき】
取り組む演習問題のレベル・量をある程度学生自身がコントロールできるように多様な演習問題を作成・提示する.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.
1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

BSP100LC

微分積分学演習 I

清田　正夫

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ．

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に、１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第１章、第２章、第４章 4.1 節〜 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算，逆三角関数や双曲線関数の理解，テイラーの定理の利用，多変数関数の極値の問題の解法等について，十分な能力を身につけたかを期末試験や演習で判断する．原則として毎授業時間に復習確認のクイズを行う．成績は期末試験の成績（９０％）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（１０％）として加味して総合的に評価する．
※　期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う．

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する場合が多く、「知っている」として学習を怠る傾向があり、これがつまづきの原因となることを忘れないよう．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学演習 I

清田　正夫

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ．

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
基本的に、１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第１章、第２章、第４章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算，逆三角関数や双曲線関数の理解，テイラーの定理の利用，多変数関数の極値の問題の解法等について，十分な能力を身につけたかを期末試験や演習で判断する．原則として毎授業時間に復習確認のクイズを行う．成績は期末試験の成績（９０％）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（１０％）として加味して総合的に評価する．
※　期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う．

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する場合が多く、「知っている」として学習を怠る傾向があり、これがつまづきの原因となることを忘れないよう．

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学演習 I

森田　純

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節〜 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する。
成績は期末試験の成績 (60%)、提出課題（4 0%）として総合的に評価する.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学演習 I

森田　純

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節〜 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する。
成績は期末試験の成績 (60%)、提出課題（4 0%）として総合的に評価する.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学演習 I

塚田　和美

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である. 春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節〜 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する。
期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。
成績は期末試験の成績 (100%) に小テストや演習の成績を加味して総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題演習とその解説を効果的に実施する。
板書を効果的に行い、学生がより効率的に理解できるよう工夫する。

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学演習 I

陸名　雄一

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ．

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節〜 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する．

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する．成績は期末試験の成績 (100%) をもとに決定するが、提出課題の成績・受講態度も判断材料とする．課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である．
※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科・電気電子工学科・応用情報工学科で統一試験として行う．

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる．
問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う．

【その他の重要事項】
通知・資料提供の手段として「学習支援システム」を使用する。確認を怠った場合に生じる不利益については、一切関知しない。担当教員への連絡方法については、当科目の「講義ガイダンス（第 1 回授業にて実施）」にて指定した方法のみ有効である。

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学演習 I

大野　修一

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節〜 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する。
成績は期末試験の成績 (60%)、毎回の演習, 中間テスト（4 0%）として総合的に評価する. 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【学生の意見等からの気づき】
高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる.
問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には,「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

神谷　亮

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる，微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ.

【到達目標】
極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を組み合わせて行う.
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数, 2 変数のテイラーの定理, 2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい.

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房 2300 円+税
（第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節〜 4.4 節を学ぶ）

【参考書】
講義資料内で適宜、指示する.

【成績評価の方法と基準】
微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する。
成績は期末試験の成績 (70%)、提出課題（30%）として総合的に評価する． 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である.

【学生の意見等からの気づき】
取り組む演習問題のレベル・量をある程度学生自身がコントロールできるように多様な演習問題を作成・提示する.

【その他の重要事項】
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること.

【Outline and objectives】
Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

BSP100LC

入門数学

大野　修一

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
微分積分学（及び）演習Ｉをフォローする講義・演習です．そのために高校数学の復習から始め，上述講義の進度に合わせて演習，解説を行います．

【到達目標】
高校で習う微分法の復習から始め，逆三角関数や陰関数の理解をし，極限値や導関数，偏導関数などの計算能力を高めることを目標とします．さらにそれを用いて工学に応用するための基礎を勉強します．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
演習を中心として解説授業を行います．具体的な例を豊富に扱い具体的な計算を行います．自ら積極的に問題を解くことが要求されます．授業後半は「演習」を行い，その解答を確認します．当日課題の「フィードバック」として利用してください．春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	当科目の概要を説明します．
2	三角関数（積和公式等）	三角関数の復習および演習を行います．
3	数列の極限	数列の極限の難しさを観察し，演習を行います．
4	指数関数・対数関数・逆三角関数	指数関数，対数関数，逆三角関数を解説します．
5	関数の極限	導関数の定義，三角関数・指数関数の導関数の計算を行います．
6	微分法	極値，平均値の定理，ロピタルの定理を解説します．
7	初等関数の微分（計算演習）	様々な関数の計算演習です．
8	微分法の応用（増減表）	微分がどういった場面で必要とされるかを解説します．
9	微分法の応用（曲線の凹凸，極値の判定）	具体的な例をあげ，計算演習をします．
10	偏微分	偏微分係数，偏導関数の解説です．
11	偏微分	偏微分法の演習です．
12	偏微分の応用	接線の方程式，接平面の方程式を具体的に計算します．
13	偏微分の応用２	曲面の極大値，極小値を求める練習をします．
14	総合演習	これまで習った事項の総合演習です．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。】基本的に，１回の授業は教科書の１つの節が対応するように構成されている．授業を受ける前に，教科書の対応する部分に目を通すこと，前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である．

【テキスト（教科書）】
礒島・桂・間下・安田共著 「コア講義 微分積分」 裳華房

【参考書】
初歩からの入門数学　吉村善一・足立俊明著，数理工学社

【成績評価の方法と基準】
授業目標の到達度を，毎回行う演習点と中間テスト（40 %），期末試験（60 %）で評価する．なお，オンライン授業の期間延長等により成績評価の方法や基準が変更される場合があります．

【学生の意見等からの気づき】
「質問の時間が十分取ってある」－＞ 質問から授業が始まります。利用してください。「もっと演習問題を解きたかった」－＞ 黒板の大きさによりますが、心掛けます。
授業内の演習に積極的に取り組むことが単位取得のための良い方法である．

【その他の重要事項】
同時に微分積分学（及び）演習Ｉを履修すること．
オンライン授業実施時には，「学習支援システム」の「お知らせ」にて
配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので，毎回必ずチェックすること．

【Outline and objectives】
The main object is to support the sutudent could understand fundamental properties of Calculus.

BSP100LC

入門物理学

湯口　秀敏

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学は自然科学や工学の基礎である。この授業では力学を中心に物理現象へのアプローチの仕方を実際に体験し、自ら考え、作業することを通じて物理を身に着ける力を養う。

【到達目標】
・力の理解（つり合い、力のベクトル性、作用反作用の法則）。
・運動方程式を典型的な例（等加速度直線運動、等速円運動、単振動）に適用し使いこなせるようにする。
・運動量と力積、運動量保存則の理解。
・仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存則について概念を理解し、基礎的な問題に適用できるようにする。
・熱力学、波動、電気について基本的な内容のいくつかについて理解を深める。上記の諸項目についてその概念を取り囲む背景を踏まえてその数学的記述（グラフ化、数式化）ができるようにする。微積分など数学的な手法は必要に応じて使い、高校から大学への移行が自然に行われるように進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
あらかじめ学習する内容は配布する予定である。授業では内容に沿った実験、実習を行う。中心となるのは相互作用型演示実験講義 (ILDs) である。学習内容をもとに実験結果を個人、そしてグループで討論し予想した上で実験結果を確認する。さらにグループで問題に取り組み理解を深めた上で確認テストにより理解度を確認する。次の講義では確認テストの結果をもとに補足を行う。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、 力とそのつり合いⅠ	ガイダンス。ナサゲーム。グループ作り。 力の表現。 力のつり合い。
2	力とそのつり合いⅡ 作用反作用	力のつり合い（ベクトル性）。 作用・反作用。 バネの性質とバネを含むつり合い。 摩擦力。浮力。
3	運動方程式Ⅰ：等加速度運動	等加速度運動（位置、速度、加速度の関係）。 一定の力がはたらく場合の運動。
4	運動方程式Ⅱ：重力	重力のもとでの運動。 2 物体の運動。
5	運動方程式Ⅲ 等速円運動	等速円運動の速度と加速度、向心力。 第一宇宙速度、月の運動、人工衛星の運動など。
6	運動方程式Ⅳ：単振動	単振動（復元力による運動）位置、速度、加速度、力の関係。周期（質量とバネ定数）。 複数の力がはたらく場合の単振動。
7	運動量と力積	運動量と力積。 運動量保存法則。
8	仕事とエネルギー	仕事の定義と計算。仕事の原理。エネルギーの概念。 仕事とエネルギーの関係。運動エネルギーと位置エネルギー。
9	力学的エネルギー保存則	力学的エネルギー保存則の考え方とその適用。 第二宇宙速度。 力学的エネルギーが保存しない場合。
10	熱と熱平衡。 熱力学第一法則	温度。熱平衡。 熱力学第一法則。
11	波動（波の表現、干渉）	波の基本。干渉（定常波、音の干渉、光の干渉）。
12	電気回路Ⅰ電位と電流 オームの法則。 電力	電場と電位。オームの法則。 電力の供給。
13	電気回路Ⅱ：コンデンサーを含む回路。	コンデンサーとコンデンサーを含む回路。
14	電流と磁場、電磁誘導	電流が磁場から受ける力。ローレンツ力。 発電機。電池とモーターと豆電球。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】準備では授業計画に示されたテーマについて教科書に目を通す、復習では授業中に行った問題演習を見直し理解が浅い部分を集中的に学習する。また、4 回程度課題が出る。これにかかる時間は最低 2 時間を想定している。

【テキスト（教科書）】
高校物理基礎、物理の教科書（数研出版　物理基礎、物理）。持っていない場合は生協等で購入。

【参考書】
物理学　小出昭一郎著　裳華房

【成績評価の方法と基準】
試験（40 %）、毎時間ごとの振り返り、確認テスト（30 %）、課題 (20 %) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はオンラインによる授業の中で演示実験を見せた。予想をして実験を行うことによって理解を深めることができたように感じた。また、波の干渉のところでは課題として無料アプリ（PHET）による実習を出した。繰り返しできることでかなり理解を深めることができた感触がある。今回は波以外も検討しており課題の中に加える予定である。

【学生が準備すべき機器他】
電卓、ストップウォッチ (スマホなど電卓、ストップウォッチの機能を持つものがあればそれでよい。)

【Outline and objectives】
Physics is the basis of natural science and engineering. This lesson is mainly focused on equation of motion which is one of the most important contents in Physics. The concepts of work and energy are the second contents of learning. Basic concepts of thermodynamics, waves, and electricity will be learned at the last part.
The main purpose of this lesson is bridging the gap between high school way of learning and university way.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

高橋　正則

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

【到達目標】
スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態（実技）：　この授業は主に体育館またはグランド等の体育施設でゴール型ゲームを中心とした実技を行ないます。毎回の授業では、授業目標を確認し、主に安全性や受講生の運動量を考慮して基礎から応用に至る授業を展開します。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、継続した身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ディスクゴルフの基礎	フライングディスクの特徴を理解し、基本的な投げ方を習得する。また目標への正確な投法を目指したディスクゴルフを行う。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）、競技特性とルールの理解（30%）、技術の習得（10%）により総合的に評価します。なお、オンデマンド型授業に変更した場合には、成績評価の方法と基準も変更し、具体的内容は学習支援システムに提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容は、新型コロナウィルス感染症の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

【その他の重要事項】
受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定する場合があります。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

高橋　正則

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

【到達目標】
スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態（実技）：　この授業は主に体育館またはグランド等の体育施設でゴール型ゲームを中心とした実技を行ないます。毎回の授業では、授業目標を確認し、主に安全性や受講生の運動量を考慮して基礎から応用に至る授業を展開します。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、および継続した身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ディスクゴルフの基礎	フライングディスクの特徴を理解し、基本的な投げ方を習得する。また目標への正確な投法を目指したディスクゴルフを行う。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）、競技特性とルールの理解（30 %）、技術の習得（10 %）により総合的に評価します。なお、オンデマンド型授業に変更した場合には、成績評価の方法と基準も変更し、具体的内容は学習支援システムに提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容は、新型コロナウィルス感染症の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

【その他の重要事項】
受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定する場合があります。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習 I

竹内　洋輔

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実習を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつ、うまく使えるようになる
3. 他者を良く理解し、リーダーシップやコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目で学科を問わず履修できる。
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には密接した環境を回避するために、初回のガイダンスにて授業ごとに体育施設の使用人数制限に合わせ抽選を行い、履修者を決定する。
基本的に対面での授業を実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。但し、新型コロナウィルス感染症の状況に基づく大学の指針により、授業の実施方法がオンラインに変更されたり、これに伴う授業計画が変更になることがある。
授業に関わる連絡事項については、授業支援システム（hoppii）を通して告知する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。
第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回目以降は、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、ゴール型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。
最終回の授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、そしてスポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。春学期の授業は, 原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明　*希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
3	アルティメット (フリスビー)	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
4	アルティメット (フリスビー)	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
5	サッカー	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	サッカー	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
8	バドミントン	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
9	ニュースポーツ (ゴール型スポーツ)	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
10	ニュースポーツ (ゴール型スポーツ)	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
11	バスケットボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
12	バスケットボール	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
13	バレーボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
14	総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業は東館体育館および、緑町グラウンドにて行います。普段の生活から自分自身の体調の維持・管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業に臨んでください。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践してください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解・リアクションシート (個人カード) の内容・授業内レポート等提出物（30%）、技術の習得度 (10%) とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染症による影響により、授業の実施方法がオンラインに変更されたり、これに伴う授業計画が変更になることがある。
授業に関する連絡は授業支援システム (hoppii) を利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。
授業の実施方法がオンラインになった場合には、成績評価の方法に関して変更し、授業支援システムで知らせる。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、体育実技にふさわしい服装で参加してください。
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
授業時にはスポーツウェアとスポーツシューズを着用してください。
授業の進行具合や教場、天候等の理由により、授業の内容および、行う場所が変更になる場合があります。授業前には必ず掲示板にて授業が行われる場所を確認すること。
授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】
This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習 I

竹内　洋輔

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実習を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつ、うまく使えるようになる
3. 他者を良く理解し、リーダーシップやコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目で学科を問わず履修できる。
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には密接した環境を回避するために、初回のガイダンスにて授業ごとに体育施設の使用人数制限に合わせ抽選を行い、履修者を決定する。
基本的に対面での授業を実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。但し、新型コロナウィルス感染症の状況に基づく大学の指針により、授業の実施方法がオンラインに変更されたり、これに伴う授業計画が変更になることがある。
授業に関わる連絡事項については、授業支援システム（hoppii）を通して告知する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。
第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回目以降は、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、ゴール型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。
最終回の授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、そしてスポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。春学期の授業は, 原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明　*希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
3	アルティメット (フリスビー)	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
4	アルティメット (フリスビー)	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
5	サッカー	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	サッカー	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
8	バドミントン	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
9	ニュースポーツ (ゴール型スポーツ)	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
10	ニュースポーツ (ゴール型スポーツ)	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
11	バスケットボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
12	バスケットボール	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
13	バレーボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
14	総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業は東館体育館および、緑町グラウンドにて行います。普段の生活から自分自身の体調の維持・管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業に臨んでください。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践してください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解・リアクションシート (個人カード) の内容・授業内レポート等提出物（30%）、技術の習得度 (10%) とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染症による影響により、授業の実施方法がオンラインに変更されたり、これに伴う授業計画が変更になることがある。
授業に関する連絡は授業支援システム (hoppii) を利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。
授業の実施方法がオンラインになった場合には、成績評価の方法に関して変更し、授業支援システムで知らせる。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、体育実技にふさわしい服装で参加してください。
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
授業時にはスポーツウェアとスポーツシューズを着用してください。
授業の進行具合や教場、天候等の理由により、授業の内容および、行う場所が変更になる場合があります。授業前には必ず掲示板にて授業が行われる場所を確認すること。
授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】
This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習 I

植村　直己

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。
主にゴール型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。
また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】
①ゴール型スポーツ種目の基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修者を決定します。第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋内ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
但し、新型コロナウィルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。春学期の授業は, 原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 4 回	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
第 5 回	アルティメット	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 6 回	アルティメット	ファイングディスク基礎、ゲーム
第 7 回	ソフトバレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 8 回	バスケットボール	競技特性、ルールの理解、ゲーム
第 9 回	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 10 回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 12 回	バレーボール	基本的技術の習得、、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	総括	これまでの授業を振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解度（30 %）、技術の習得度（10 %）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
但し、春学期がオンラインでの開講となる場合には、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】
初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills by themselves and their relationships with others and learn the fundamentals for maintaining and promoting mental and physical health throughout our life from both practical skills and lecture.
Through sports events focusing mainly on indoor net type ball games, by learning the importance of acquiring basic skills and communication, we will acquire the method of health promotion from basic and comprehensive points.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

高橋　正則

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

【到達目標】
スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態（実技）：　この授業は主に体育館またはグランド等の体育施設でゴール型ゲームを中心とした実技を行ないます。毎回の授業では、授業目標を確認し、主に安全性や受講生の運動量を考慮して基礎から応用に至る授業を展開します。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ディスクゴルフの基礎	フライングディスクの特徴を理解し、基本的な投げ方を習得する。また目標への正確な投法を目指したディスクゴルフを行う。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）、競技特性とルールの理解（30 %）、技術の習得（10 %）により総合的に評価します。なお、オンデマンド型授業に変更した場合には、成績評価の方法と基準も変更し、具体的内容は学習支援システムに提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容は、新型コロナウィルス感染症の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

【その他の重要事項】
受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定する場合があります。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

高橋　正則

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

【到達目標】
スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態（実技）：　この授業は主に体育館またはグランド等の体育施設でゴール型ゲームを中心とした実技を行ないます。毎回の授業では、授業目標を確認し、主に安全性や受講生の運動量を考慮して基礎から応用に至る授業を展開します。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ディスクゴルフの基礎	フライングディスクの特徴を理解し、基本的な投げ方を習得する。また目標への正確な投法を目指したディスクゴルフを行う。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60 %）、競技特性とルールの理解（30 %）、技術の習得（10 %）により総合的に評価します。なお、オンデマンド型授業に変更した場合には、成績評価の方法と基準も変更し、具体的内容は学習支援システムに提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容は、新型コロナウィルス感染症の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

【その他の重要事項】
受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定する場合があります。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習 I

竹内　洋輔

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実習を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつ、うまく使えるようになる
3. 他者を良く理解し、リーダーシップやコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目で学科を問わず履修できる。
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には密接した環境を回避するために、初回のガイダンスにて授業ごとに体育施設の使用人数制限に合わせ抽選を行い、履修者を決定する。
基本的に対面での授業を実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。但し、新型コロナウィルス感染症の状況に基づく大学の指針により、授業の実施方法がオンラインに変更されたり、これに伴う授業計画が変更になることがある。
授業に関わる連絡事項については、授業支援システム（hoppii）を通して告知する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。
第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回目以降は、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、ゴール型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。
最終回の授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、そしてスポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明　*希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
3	アルティメット (フリスビー)	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
4	アルティメット (フリスビー)	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
5	サッカー	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	サッカー	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
8	バドミントン	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
9	ニュースポーツ (ゴール型スポーツ)	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
10	ニュースポーツ (ゴール型スポーツ)	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
11	バスケットボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
12	バスケットボール	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
13	バレーボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
14	総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業は東館体育館および、緑町グラウンドにて行います。普段の生活から自分自身の体調の維持・管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業に臨んでください。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践してください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解・リアクションシート (個人カード) の内容・授業内レポート等提出物（30%）、技術の習得度 (10%) とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染症による影響により、授業の実施方法がオンラインに変更されたり、これに伴う授業計画が変更になることがある。
授業に関する連絡は授業支援システム (hoppii) を利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。
授業の実施方法がオンラインになった場合には、成績評価の方法に関して変更し、授業支援システムで知らせる。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、体育実技にふさわしい服装で参加してください。
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
授業時にはスポーツウェアとスポーツシューズを着用してください。
授業の進行具合や教場、天候等の理由により、授業の内容および、行う場所が変更になる場合があります。授業前には必ず掲示板にて授業が行われる場所を確認すること。
授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】
This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習 I

竹内　洋輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実習を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつ、うまく使えるようになる
3. 他者を良く理解し、リーダーシップやコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目で学科を問わず履修できる。
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には密接した環境を回避するために、初回のガイダンスにて授業ごとに体育施設の使用人数制限に合わせ抽選を行い、履修者を決定する。
基本的に対面での授業を実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。但し、新型コロナウィルス感染症の状況に基づく大学の指針により、授業の実施方法がオンラインに変更されたり、これに伴う授業計画が変更になることがある。
授業に関わる連絡事項については、授業支援システム（hoppii）を通して告知する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。
第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回目以降は、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、ゴール型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。
最終回の授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、そしてスポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明　*希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
3	アルティメット (フリスビー)	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
4	アルティメット (フリスビー)	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
5	サッカー	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	サッカー	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
8	バドミントン	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
9	ニュースポーツ (ゴール型スポーツ)	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
10	ニュースポーツ (ゴール型スポーツ)	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
11	バスケットボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
12	バスケットボール	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
13	バレーボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
14	総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業は東館体育館および、緑町グラウンドにて行います。普段の生活から自分自身の体調の維持・管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業に臨んでください。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践してください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解・リアクションシート (個人カード) の内容・授業内レポート等提出物（30%）、技術の習得度 (10%) とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染症による影響により、授業の実施方法がオンラインに変更されたり、これに伴う授業計画が変更になることがある。
授業に関する連絡は授業支援システム (hoppii) を利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。
授業の実施方法がオンラインになった場合には、成績評価の方法に関して変更し、授業支援システムで知らせる。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、体育実技にふさわしい服装で参加してください。
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
授業時にはスポーツウェアとスポーツシューズを着用してください。
授業の進行具合や教場、天候等の理由により、授業の内容および、行う場所が変更になる場合があります。授業前には必ず掲示板にて授業が行われる場所を確認すること。
授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline and objectives】
This course will conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習 I

植村　直己

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。
主にゴール型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。
また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】
①ゴール型スポーツ種目の基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修者を決定します。第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋内ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
但し、新型コロナウィルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 4 回	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
第 5 回	アルティメット	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 6 回	アルティメット	ファイングディスク基礎、ゲーム
第 7 回	ソフトバレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 8 回	バスケットボール	競技特性、ルールの理解、ゲーム
第 9 回	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 10 回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 12 回	バレーボール	基本的技術の習得、、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	総括	これまでの授業を振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解度（30 %）、技術の習得度（10 %）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
但し、春学期がオンラインでの開講となる場合には、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】
初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills by themselves and their relationships with others and learn the fundamentals for maintaining and promoting mental and physical health throughout our life from both practical skills and lecture.
Through sports events focusing mainly on indoor net type ball games, by learning the importance of acquiring basic skills and communication, we will acquire the method of health promotion from basic and comprehensive points.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光　興二

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。
担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光　興二

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。
担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光　興二

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。
担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光　興二

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。
担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光　興二

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。
担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光　興二

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。
担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光　興二

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。
担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光　興二

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。
担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光　興二

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。
担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光　興二

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。
担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智　英輔

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

植田　央

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智　英輔

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

高田　佑輔

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を，自分自身や他者との関わりによって理解し，生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し，からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し，うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し，かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修者を決定します。第 2 回は体力測定を実施し，第 3 回目以降は，各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では，屋内ネット型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて，準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。授業の最終回では，これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説，スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
なお，新型コロナウイルスの感染状況に伴い，オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は，学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には，Zoom を活用した同時双方向配信でストレッチやトレーニングなどの実習を行い，課題やレポートを求めます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要，目的，到達目標，履修上の注意と成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
第 3 回	ソフトバレーボール（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第 4 回	バレーボール（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 5 回	バレーボール（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 6 回	バドミントン（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 7 回	バドミントン（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 8 回	バスケットボール（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第 9 回	卓球（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 10 回	卓球（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 11 回	テニス（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 12 回	テニス（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第 14 回	授業のまとめと解説	これまでの授業の振り返り，体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・実技形式の授業のため，心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として，各競技の基本的なルールを調べる。
・復習として，授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・リーダーシップ，積極性，態度などの平常点（60%），競技特性やルールの理解度（30%），技術の習得度（10%）とします。
・【個人カード】を重視し，総合的に評価します。
・臨機応変に柔軟かつ積極的に対応する姿勢や，学生間で協力する姿勢を高く評価します。
ただし，オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は，成績評価の方法と基準も変更します。具体的には，授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
シューズ（屋内，屋外）を含めて，スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。

【その他の重要事項】
・履修を希望する学生が多数の場合は，初回のガイダンス時に抽選をします。
・競技レベルや性別は問いません。
・安全面を考慮し，アクセサリー類は外して臨んでください。
・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
・担当教員は，日本バスケットボール協会公認 C 級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

【Outline and objectives】
This course deals with the sports and physical activities. It also enhances the development of students' skill in a communication with others.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智　英輔

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智　英輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

植田　央

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智　英輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

高田　佑輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を，自分自身や他者との関わりによって理解し，生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し，からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し，うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し，かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修者を決定します。第 2 回は体力測定を実施し，第 3 回目以降は，各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では，屋内ネット型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて，準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。授業の最終回では，これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説，スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
なお，新型コロナウイルスの感染状況に伴い，オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は，学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には，Zoom を活用した同時双方向配信でストレッチやトレーニングなどの実習を行い，課題やレポートを求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要，目的，到達目標，履修上の注意と成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
第 3 回	ソフトバレーボール（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第 4 回	バレーボール（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 5 回	バレーボール（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 6 回	バドミントン（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 7 回	バドミントン（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 8 回	バスケットボール（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第 9 回	卓球（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 10 回	卓球（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 11 回	テニス（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 12 回	テニス（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第 14 回	授業のまとめと解説	これまでの授業の振り返り，体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・実技形式の授業のため，心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として，各競技の基本的なルールを調べる。
・復習として，授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・リーダーシップ，積極性，態度などの平常点（60%），競技特性やルールの理解度（30%），技術の習得度（10%）とします。
・【個人カード】を重視し，総合的に評価します。
・臨機応変に柔軟かつ積極的に対応する姿勢や，学生間で協力する姿勢を高く評価します。
ただし，オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は，成績評価の方法と基準も変更します。具体的には，授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
シューズ（屋内，屋外）を含めて，スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。

【その他の重要事項】
・履修を希望する学生が多数の場合は，初回のガイダンス時に抽選をします。
・競技レベルや性別は問いません。
・安全面を考慮し，アクセサリー類は外して臨んでください。
・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
・担当教員は，日本バスケットボール協会公認 C 級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

【Outline and objectives】
This course deals with the sports and physical activities. It also enhances the development of students' skill in a communication with others.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智　英輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植田　央

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	ルールを理解、ゲーム
4	テニス	競技特性、ゲーム
5	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
6	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

越智　英輔

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
5	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
6	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、ゲーム
7	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
11	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
12	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
13	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村　直己

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。
主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。
また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】
①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修者を決定します。第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
但し、新型コロナウィルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。春学期の授業は, 原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	テニス	基本ストロークのグリップ、スウィング法
第 4 回	テニス	基礎技術練習
第 5 回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第 6 回	テニス	ダブルスゲーム
第 7 回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 8 回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 9 回	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 10 回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 12 回	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解度（30 %）、技術の習得度（10 %）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
但し、春学期がオンラインでの開講となる場合には、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】
初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills by themselves and their relationships with others and learn the fundamentals for maintaining and promoting mental and physical health throughout our life from both practical skills and lecture.
Through sports events focusing mainly on outdoor net type ball games, you lean the basic skills acquisition and the importance of communication, so you will learn how to improve your health from basic and comprehensive points.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村　直己

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。
主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。
また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】
①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修者を決定します。第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
但し、新型コロナウィルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。春学期の授業は, 原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	テニス	基本ストロークのグリップ、スウィング法
第 4 回	テニス	基礎技術練習
第 5 回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第 6 回	テニス	ダブルスゲーム
第 7 回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 8 回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 9 回	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 10 回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 12 回	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解度（30 %）、技術の習得度（10 %）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
但し、春学期がオンラインでの開講となる場合には、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】
初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills by themselves and their relationships with others and learn the fundamentals for maintaining and promoting mental and physical health throughout our life from both practical skills and lecture.
Through sports events focusing mainly on outdoor net type ball games, you lean the basic skills acquisition and the importance of communication, so you will learn how to improve your health from basic and comprehensive points.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

高田　佑輔

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を，自分自身や他者との関わりによって理解し，生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し，からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し，うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し，かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修者を決定します。第 2 回は体力測定を実施し，第 3 回目以降は，各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では，屋外ネット型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて，準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。授業の最終回では，これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説，スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
なお，新型コロナウイルスの感染状況に伴い，オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は，学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には，Zoom を活用した同時双方向配信でストレッチやトレーニングなどの実習を行い，課題やレポートを求めます。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要，目的，到達目標，履修上の注意と成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
第 3 回	テニス（導入）	ルールや競技特性の理解，ゲーム
第 4 回	テニス（基本技術）	基本技術の習得，ゲーム
第 5 回	テニス（応用技術）	応用的技術の理解，ゲーム
第 6 回	テニス（発展）	これまでの練習やゲームを通じてさらなる技術の発展を考える
第 7 回	バスケットボール（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 8 回	バスケットボール（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 9 回	卓球（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 10 回	卓球（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 11 回	バレーボール（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 12 回	バレーボール（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第 14 回	授業のまとめと解説	これまでの授業の振り返り，体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・実技形式の授業のため，心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として，各競技のルールを調べる。
・復習として，授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・リーダーシップ，積極性，態度などの平常点（60%），競技特性やルールの理解度（30%），技術の習得度（10%）とします。
・【個人カード】を重視し，総合的に評価します。
・臨機応変に柔軟かつ積極的に対応する姿勢や，学生間で協力する姿勢を高く評価します。
ただし，オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は，成績評価の方法と基準も変更します。具体的には，授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
シューズ（屋内，屋外）を含めて，スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。

【その他の重要事項】
・履修を希望する学生が多数の場合は，初回のガイダンス時に抽選をします。
・競技レベルや性別は問いません。
・安全面を考慮し，アクセサリー類は外して臨んでください。
・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
・担当教員は，日本バスケットボール協会公認 C 級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

【Outline and objectives】
This course deals with the sports and physical activities. It also enhances the development of students' skill in a communication with others.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植田　央

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	ルールを理解、ゲーム
4	テニス	競技特性、ゲーム
5	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
6	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。ただし、新型コロナウィルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

街　勝憲

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。
なお、新型コロナウィルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
5	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
6	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、ゲーム
7	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
9	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
10	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
11	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
12	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
13	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
日頃から自分自身の体調管理につとめてください。
各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】
履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。
競技レベルや性別を問いません。
シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村　直己

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。
主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。
また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】
①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修者を決定します。第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
但し、新型コロナウィルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	テニス	基本ストロークのグリップ、スウィング法
第 4 回	テニス	基礎技術練習
第 5 回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第 6 回	テニス	ダブルスゲーム
第 7 回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 8 回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 9 回	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 10 回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 12 回	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解度（30 %）、技術の習得度（10 %）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
但し、春学期がオンラインでの開講となる場合には、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】
初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills by themselves and their relationships with others and learn the fundamentals for maintaining and promoting mental and physical health throughout our life from both practical skills and lecture.
Through sports events focusing mainly on outdoor net type ball games, you lean the basic skills acquisition and the importance of communication, so you will learn how to improve your health from basic and comprehensive points.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村　直己

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。
主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。
また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】
①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修者を決定します。第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
但し、新型コロナウィルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	テニス	基本ストロークのグリップ、スウィング法
第 4 回	テニス	基礎技術練習
第 5 回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第 6 回	テニス	ダブルスゲーム
第 7 回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 8 回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 9 回	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 10 回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 12 回	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解度（30 %）、技術の習得度（10 %）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
但し、春学期がオンラインでの開講となる場合には、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】
初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills by themselves and their relationships with others and learn the fundamentals for maintaining and promoting mental and physical health throughout our life from both practical skills and lecture.
Through sports events focusing mainly on outdoor net type ball games, you lean the basic skills acquisition and the importance of communication, so you will learn how to improve your health from basic and comprehensive points.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

高田　佑輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツ・身体運動の意義や重要性を，自分自身や他者との関わりによって理解し，生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】
1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し，からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し，うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し，かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で履修者を決定します。第 2 回は体力測定を実施し，第 3 回目以降は，各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では，屋内ネット型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて，準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。授業の最終回では，これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説，スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。
なお，新型コロナウイルスの感染状況に伴い，オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は，学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には，Zoom を活用した同時双方向配信でストレッチやトレーニングなどの実習を行い，課題やレポートを求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要，目的，到達目標，履修上の注意と成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数，体脂肪率，長座体前屈，握力などの測定
第 3 回	テニス（導入）	ルールや競技特性の理解，ゲーム
第 4 回	テニス（基本技術）	基本技術の習得，ゲーム
第 5 回	テニス（応用技術）	応用的技術の理解，ゲーム
第 6 回	テニス（発展）	これまでの練習やゲームを通じてさらなる技術の発展を考える
第 7 回	バスケットボール（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 8 回	バスケットボール（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 9 回	卓球（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 10 回	卓球（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 11 回	バレーボール（導入）	競技特性とルールの理解，ゲーム
第 12 回	バレーボール（基本技術）	基本的技術の習得，ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ（基本技術）	競技特性とルールの理解，基本的技術の習得，ゲーム
第 14 回	授業のまとめと解説	これまでの授業の振り返り，体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・実技形式の授業のため，心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として，各競技のルールを調べる。
・復習として，授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】
必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・リーダーシップ，積極性，態度などの平常点（60%），競技特性やルールの理解度（30%），技術の習得度（10%）とします。
・【個人カード】を重視し，総合的に評価します。
・臨機応変に柔軟かつ積極的に対応する姿勢や，学生間で協力する姿勢を高く評価します。
ただし，オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は，成績評価の方法と基準も変更します。具体的には，授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
シューズ（屋内，屋外）を含めて，スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。

【その他の重要事項】
・履修を希望する学生が多数の場合は，初回のガイダンス時に抽選をします。
・競技レベルや性別は問いません。
・安全面を考慮し，アクセサリー類は外して臨んでください。
・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
・担当教員は，日本バスケットボール協会公認 C 級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

【Outline and objectives】
This course deals with the sports and physical activities. It also enhances the development of students' skill in a communication with others.

HSS100LC

スポーツ健康科学講義 I

街　勝憲

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において、「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには、適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では、運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ、適切な運動やその他の身体活動を効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

【到達目標】
講義を通して、学生生活さらには今後の社会人生活において、健康を獲得・維持するために必要となる知識を身に付けることができる。また、身に付けた知識を日常生活で実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回の授業で個人の考え・意見をまとめたリアクションペーパーを課し，これを評価の一部にします。授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行います。
なお，新型コロナウイルスの感染状況に伴い，オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は，学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	総論	オリエンテーション
2	ライフスタイルと健康の科学 1	食生活、アルコール、喫煙
3	ライフスタイルと健康の科学 2	休養、睡眠
4	ライフスタイルと健康の科学 3	運動とその他の身体活動
5	生活習慣病の科学 1	肥満の発症メカニズムとその予防・改善方法
6	生活習慣病の科学 2	糖尿病、脂質異常症の発症メカニズムとその予防・改善方法
7	生活習慣病の科学 3	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムとその予防・改善方法
8	生活習慣病の科学 4	骨粗鬆症の発症メカニズムとその予防・改善方法
9	加齢と健康の科学	サルコペニア、栄養摂取
10	健康増進のための運動の科学 1	筋力トレーニング
11	健康増進のための運動の科学 2	持久性トレーニング
12	安全に運動を行うための方法 1	熱中症、低体温症、スポーツ外傷
13	安全に運動を行うための方法 2	低酸素、高酸素
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で使用するパワーポイントのスライドを用いて授業内容の復習を十分にすること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。必要に応じて授業支援システムを通じ、または授業中に資料を配付する。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参画度（60 %）とレポートや試験など（40%）によって，授業の理解度，意欲，関心，態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーの内容や，発言など授業への取り組み方で評価します。ただし，オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は，成績評価の方法と基準も変更します。具体的には，授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため、受講者は初回の授業には必ず出席すること

【Outline and objectives】
Exercise, diet and rest including sleep are clitical components to receive and maintain helath in modern life. In this class, you will learn about the influenece of exercise, diet and rest on health through scientific evidences. Therefore, the purpose of this class is to understand the effective and safe methods to adopt the healthy life-style.

HSS100LC

スポーツ健康科学講義Ⅰ

街　勝憲

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において、「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには、適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では、運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ、適切な運動やその他の身体活動を効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

【到達目標】
講義を通して、学生生活さらには今後の社会人生活において、健康を獲得・維持するために必要となる知識を身に付けることができる。また、身に付けた知識を日常生活で実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回の授業で個人の考え・意見をまとめたリアクションペーパーを課し，これを評価の一部にします。授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行います。
なお，新型コロナウイルスの感染状況に伴い，オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は，学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	総論	オリエンテーション
2	ライフスタイルと健康の科学 1	食生活、アルコール、喫煙
3	ライフスタイルと健康の科学 2	休養、睡眠
4	ライフスタイルと健康の科学 3	運動とその他の身体活動
5	生活習慣病の科学 1	肥満の発症メカニズムとその予防・改善方法
6	生活習慣病の科学 2	糖尿病、脂質異常症の発症メカニズムとその予防・改善方法
7	生活習慣病の科学 3	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムとその予防・改善方法
8	生活習慣病の科学 4	骨粗鬆症の発症メカニズムとその予防・改善方法
9	加齢と健康の科学	サルコペニア、栄養摂取
10	健康増進のための運動の科学 1	筋力トレーニング
11	健康増進のための運動の科学 2	持久性トレーニング
12	安全に運動を行うための方法 1	熱中症、低体温症、スポーツ外傷
13	安全に運動を行うための方法 2	低酸素、高酸素
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で使用するパワーポイントのスライドを用いて授業内容の復習を十分にすること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。必要に応じて授業支援システムを通じ、または授業中に資料を配付する。

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参画度（60 %）とレポートや試験など（40%）によって，授業の理解度，意欲，関心，態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーの内容や，発言など授業への取り組み方で評価します。ただし，オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は，成績評価の方法と基準も変更します。具体的には，授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため、受講者は初回の授業には必ず出席すること。

【Outline and objectives】
Exercise, diet and rest including sleep are clitical components to receive and maintain helath in modern life. In this class, you will learn about the influenece of exercise, diet and rest on health through scientific evidences. Therefore, the purpose of this class is to understand the effective and safe methods to adopt the healthy life-style.

HSS100LC

スポーツ健康科学講義Ⅱ

高田　佑輔

開講時期：**春学期授業**/Spring

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において，「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには，適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では，運動やトレーニングが健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ，適切な運動やトレーニングを効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

【到達目標】
・健康を獲得および維持するために必要となる運動やトレーニングの基礎知識を身につけることができる。
・身につけた知識を単なる知識として留めるだけではなく，日常生活での実践につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回の授業で個人の考え・意見をまとめたリアクションペーパーを課し，これを評価の一部にします。授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行います。
なお，新型コロナウイルスの感染状況に伴い，オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は，学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には，Zoom を活用して同時双方向で授業を配信します。春学期の授業は，原則としてオンラインで行う。 詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の進め方（ルール），評価方法や履修上の注意点などを説明します
第 2 回	スポーツと体育の定義	言葉の語源や定義および世界の中等教育段階のスポーツの状況を説明します
第 3 回	健康とは何か？	日常的に使われる「健康」や日本の健康づくりの取り組みについて説明します
第 4 回	体力の概念	体力の概念と，行動体力と防衛体力について説明します
第 5 回	骨格筋の働き	骨格筋の構造と筋線維の特性について説明します
第 6 回	トレーニングの理論	トレーニングの原理・原則と誤ったダイエット法について説明します
第 7 回	トレーニング 1	筋力トレーニングについて説明します
第 8 回	トレーニング 2	持久力のトレーニングについて説明します
第 9 回	トレーニング 3	柔軟性のトレーニングと敏捷性のトレーニングについて説明します
第 10 回	発育発達と運動	トレーニングを最適化するための栄養や発育・発達と運動との関係を説明します
第 11 回	スポーツの実践のために	様々な環境下で行う運動の注意や水分補給について説明します
第 12 回	生涯スポーツ	世界の生涯スポーツの現状とニュースポーツについて説明します
第 13 回	古代オリンピックと近代オリンピック	古代オリンピックのはじまりと終焉，そして近代オリンピックの復興と合わせてドーピング問題について説明します
第 14 回	試験および解説	本授業の試験を行い，その後解説をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・準備学習として，授業のトピックスについて一週間の新聞記事から調べる。
・復習として，授業で使用する資料を用いて知識の定着を図る。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず，毎回資料を配付します。

【参考書】
特に指定せず，必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参画度（60 %）と期末試験（40%）によって，授業の理解度，意欲，関心，態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーの内容や，発言など授業への取り組み方で評価します。
ただし，オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は，成績評価の方法と基準も変更します。具体的には，授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題の提出は，学習支援システムを通じて行うこともあります。

【その他の重要事項】
・授業の妨げになる言動や，授業に関係のない携帯電話など電子機器類の使用には厳しく対処します。
・実技科目の「スポーツ健康科学実習」と合わせて，運動や健康への関心を高めてください。
・担当教員は日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かした授業を展開します。

【Outline and objectives】
In modern society, it is necessary to incorporate appropriate exercise, nutrition and rest in daily life for healthy and abundance. This class learn the effects of exercise and training on health based on scientific knowledge. The purpose of this class is to acquire an understanding of appropriate exercise and training in daily life.

HSS100LC

スポーツ健康科学講義Ⅱ

高田　佑輔

開講時期：**秋学期授業/Fall**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会において，「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには，適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では，運動やトレーニングが健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ，適切な運動やトレーニングを効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

【到達目標】
・健康を獲得および維持するために必要となる運動やトレーニングの基礎知識を身につけることができる。
・身につけた知識を単なる知識として留めるだけではなく，日常生活での実践につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回の授業で個人の考え・意見をまとめたリアクションペーパーを課し，これを評価の一部にします。授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行います。
なお，新型コロナウイルスの感染状況に伴い，オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は，学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には，Zoom を活用して同時双方向で授業を配信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の進め方（ルール），評価方法や履修上の注意点などを説明します
第 2 回	スポーツと体育の定義	言葉の語源や定義および世界の中等教育段階のスポーツの状況を説明します
第 3 回	健康とは何か？	日常的に使われる「健康」や日本の健康づくりの取り組みについて説明します
第 4 回	体力の概念	体力の概念と，行動体力と防衛体力について説明します
第 5 回	骨格筋の働き	骨格筋の構造と筋線維の特性について説明します
第 6 回	トレーニングの理論	トレーニングの原理・原則と誤ったダイエット法について説明します
第 7 回	トレーニング 1	筋力トレーニングについて説明します
第 8 回	トレーニング 2	持久力のトレーニングについて説明します
第 9 回	トレーニング 3	柔軟性のトレーニングと敏捷性のトレーニングについて説明します
第 10 回	発育発達と運動	トレーニングを最適化するための栄養や発育・発達と運動との関係を説明します
第 11 回	スポーツの実践のために	様々な環境下で行う運動の注意や水分補給について説明します
第 12 回	生涯スポーツ	世界の生涯スポーツの現状とニュースポーツについて説明します
第 13 回	古代オリンピックと近代オリンピック	古代オリンピックのはじまりと終焉，そして近代オリンピックの復興と合わせてドーピング問題について説明します
第 14 回	試験および解説	本授業の試験を行い，その後解説をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・準備学習として，授業のトピックスについて一週間の新聞記事から調べる。
・復習として，授業で使用する資料を用いて知識の定着を図る。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず，毎回資料を配付します。

【参考書】
特に指定せず，必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
積極的な授業参画度（60 %）と期末試験（40%）によって，授業の理解度，意欲，関心，態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーの内容や，発言など授業への取り組み方で評価します。
ただし，オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は，成績評価の方法と基準も変更します。具体的には，授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】
受講学生の意見を考慮し，改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題の提出は，学習支援システムを通じて行うこともあります。

【その他の重要事項】
・授業の妨げになる言動や，授業に関係のない携帯電話など電子機器類の使用には厳しく対処します。
・実技科目の「スポーツ健康科学実習」と合わせて，運動や健康への関心を高めてください。
・担当教員は日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し，その経験を生かした授業を展開します。

【Outline and objectives】
In modern society, it is necessary to incorporate appropriate exercise, nutrition and rest in daily life for healthy and abundance. This class learn the effects of exercise and training on health based on scientific knowledge. The purpose of this class is to acquire an understanding of appropriate exercise and training in daily life.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

L　アイヴアニック

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】
Students will learn to write compositions of several well-argued and structured paragraphs on topics of interest to them and of significance in the modern world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
PLEASE READ EVERYTHING THAT FOLLOWS. Academic vocabulary, appropriate grammatical structures, and building informative and persuasive paragraphs according to models reflecting good English writing will take up the bulk of the time in and out of class. Students will work in pairs or small groups in class to edit their writing. Every paper will be returned to students within a week of receipt. The instructor will make general comments about the strengths and weaknesses of each first draft and give specific hints for correcting English errors. The second draft will be the one that is graded according to the point system outlined in the Grading section below with final comments and corrections. NEW INFORMATION! If this class is conducted online because of the coronavirus emergency, changes from the original syllabus for each class session will be posted on the Learning Management System (LMS)before each class session. Students should check the Annoucement and Assignment links on the "Hoppii page" before the course begins and regularly thereafter..

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course Outline and requirements; Identifying the most common errors students make writing English and learning how to correct them	Correction symbol handout and "Pleasures of the Mountains" paragraph.
2	Review of common errors; Topic #1: Fitness routines	Class: Unit 1 Writing Model, Writing Skill & Vocabulary exercises; HW: Unit 1 Grammar exercises
3	Topic #1: Fitness routines	Class: Unit 1 Grammar, Collaborative Writing exercises; HW: Comp. #1 1st draft
4	Topic #1: Fitness routines	Class: Peer and instructor editing of Comp. #1; HW: Comp. #1 final draft
5	Topic #2: Career choices	Class: Collect Comp. #1 final draft; Unit 4 Writing Model, Writing Skill & Vocabulary exercises; HW: Unit 4 Grammar exercises
6	Topic #2: Career choices	Class: Unit 4 Grammar, Collaborative Writing exercises; HW: Comp. #2 1st draft
7	Topic #2: Career choices	Class: Class: Peer and instructor editing of Comp. #2; HW: Comp. #2 final draft
8	Topic #3: Business FAQ page	Class: Collect Comp. #2 final draft; Unit 5 Writing Model, Writing Skill & Vocabulary exercises; HW: Unit 5 Grammar exercises
9	Topic #3: Business FAQ page	Class: Unit 5 Grammar, Collaborative Writing exercises; HW: Comp. #3 1st draft
10	Topic #3: Business FAQ page	Class: Peer and instructor editing of Comp. #3; HW: Comp. #3 final draft
11	Topic #4: Earthquakes	Class: Collect Comp. #3 final draft; Unit 7 Writing Model, Writing Skills & Vocabulary exercises; HW: Unit 7 Grammar exercises
12	Topic #4: Earthquakes	Class: Unit 7 Grammar, Collaborative Writing exercises; HW: Comp. #4 1st draft
13	Topic #4: Earthquakes	Class: Peer and instructor editing of Comp. #4; HW: Comp. #4 final draft
14	Vocabulary and grammar review	Class: Collect Comp. #4 final draft; review exercises

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Each week students will be expected to do homework, usually writing either a first or final draft of a required paper. There will also be some exercises assigned in the textbook in preparation for writing.

【テキスト（教科書）】
Burns, Walton: Inside Writing: The Academic Word List in Context, INTRO, New York and London: Oxford University Press, 2014. ISBN 978-0-19-460106-1

【参考書】
Good electronic English-English dictionary

【成績評価の方法と基準】
Each of the four edited and revised final drafts students submit will be evaluated on the basis of content (0-15 points) and expression (0-15 points), for a maximum of 120 points total (60%). Class participation and pair/group work will be evaluated each week and overall for a total of 80 points (40%). Students are expected to submit papers in class on time. If a student is absent from a class in which a paper is to be submitted, that paper must be submitted by the next class. Papers submitted more than one week late will lose 5 points for every additional week of lateness. NEW INFORMATION: 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。If this class is moved online, the grading policy for this class will be modified and papers will be submitted via the LMS system. More specific information will be posted on the learning management system. In principle, the guidelines above will be followed BUT there may be fewer papers to submit.

【学生の意見等からの気づき】
Everything went well last year.

【学生が準備すべき機器他】
Students should bring their textbook and lined A4 size paper. They may type their assignments or write them carefully and legibly by hand at home.

【その他の重要事項】
There will be no final exam. Students who do not turn in two or more of the four required final drafts by the last day of class will earn a D or E for the course, regardless of the quality of their performance in class or on the one or two final drafts they do submit.

【Outline and objectives】
This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

BLS100LC

フロンティアバイオサイエンス入門

金子　智行、川岸　郁朗、佐藤　勉、曽和　義幸、廣野　雅文、水澤　直樹、山本　兼由、西川　正俊、今村　大輔、矢野　幸子、伊藤　賢太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命機能学科では，「ゲノム機能」「蛋白質機能」「細胞機能」の３つのコースに分けて，生命科学教育・研究を行っている．本授業では，各コースの教員が展開している最先端の研究について，研究の背景および内容を１年生にもわかりやすく紹介する．

【到達目標】
各教員がどのような研究をしており，その研究を行うにはどのような学習が必要であるかを理解し，2 年次以上の研究室配属（課題研究）に向けての準備を行うことが目標である．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP1

【授業の進め方と方法】
生命機能学科の各教員が行っている研究について，1 年生にも理解できるよう，背景を丁寧に説明し，最先端の研究内容を噛み砕いて講義する．毎回，ごく簡単な課題を提出し，その結果は学期末に講評を行ってフィードバックする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究室配属システムの説明，各研究室の簡単な紹介
第 2 回	ゲノム分野-1	ゲノム分野の研究室における研究の紹介
第 3 回	ゲノム分野-2	ゲノム分野の研究室における研究の紹介
第 4 回	ゲノム分野-3	ゲノム分野の研究室における研究の紹介
第 5 回	ゲノム分野-4	ゲノム分野の研究室における研究の紹介
第 6 回	蛋白質分野-1	蛋白質分野の研究室における研究の紹介
第 7 回	蛋白質分野-2	蛋白質分野の研究室における研究の紹介
第 8 回	蛋白質分野-3	蛋白質分野の研究室における研究の紹介
第 9 回	細胞分野-1	細胞分野の研究室における研究の紹介
第 10 回	細胞分野-2	細胞分野の研究室における研究の紹介
第 11 回	細胞分野-3	細胞分野の研究室における研究の紹介
第 12 回	細胞分野-4	細胞分野の研究室における研究の紹介
第 13 回	応用数学分野	応用数学分野の研究室における研究の紹介
第 14 回	総合演習	外部講師による講演

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】
授業中に指示する内容について，参考書や原著論文等で復習し，理解を深める．

【テキスト（教科書）】
教科書は用いない．必要に応じて資料を配付する．

【参考書】
各回の担当教員が適宜紹介する．

【成績評価の方法と基準】
授業に取り組む姿勢（授業内容に関連した質問を含む）とレポート提出による授業内容の理解度と考察力をもとに総合的に評価する(100%).

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生からの「教員の研究内容について知りたい」との要望に応えるために開設した科目である．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to introduce freshman level students with the foundations of Frontier Bioscience.

法政大学
HOSEI University